

栃木県埋蔵文化財調査報告第 369 集

北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡

—農地整備事業（経営体育成型）小貝川沿岸2期地区における埋蔵文化財発掘調査—

第 2 分冊

2014. 3

栃木県教育委員会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

きたのうちにせき すけごろうちにせき ほしのみやいせき
北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡

—農地整備事業（経営体育成型）小貝川沿岸2期地区における埋蔵文化財発掘調査—

第2分冊

2014.3

栃木県教育委員会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

総目次

第1分冊	序 例言 凡例	
	第Ⅰ章 調査の経緯	
	第1節 調査に至る経緯	
	第2節 調査の方法	
	第3節 東北地方太平洋沖地震に伴う地殻変動による位置の変化について	
	第Ⅱ章 遺跡の環境	
	第1節 地理的環境	第2節 歴史的環境
	第Ⅲ章 北ノ内遺跡の調査	
	第1節 調査区の概要	第4節 奈良・平安時代の遺構と遺物
	第2節 縄文時代の遺構と遺物	第5節 各時代の土坑と出土遺物
	第3節 古墳時代の遺構と遺物	
	第Ⅳ章 北ノ内遺跡の2次調査	
	第1節 調査区の概要	第3節 奈良・平安時代の遺構と遺物
	第2節 古墳時代の遺構と遺物	第4節 各時代の土坑と出土遺物
第2分冊	第Ⅴ章 助五郎内遺跡の調査	
	第1節 調査区の概要	第3節 奈良・平安時代の遺構と遺物
	第2節 古墳時代の遺構と遺物	第4節 各時代の土坑と出土遺物
	第Ⅵ章 星ノ宮遺跡の調査	
	第1節 調査区の概要	
	第2節 南調査区の遺構と遺物	
	第1項 古墳時代から奈良・平安時代の遺構と遺物	第2項 中世・近世の遺構と遺物
	第3節 北調査区の遺構と遺物	
	第1項 縄文時代の遺構と遺物	第3項 中世・近世の遺構と遺物
	第2項 古墳時代から奈良・平安時代の遺構と遺物	
	第Ⅶ章 自然科学分析	
	I. 星ノ宮遺跡出土木製品の年代と樹種	II. 北ノ内遺跡出土貝類の種類
	第Ⅷ章 総括	
	第1節 出土遺物の変遷	
	第2節 遺構の変遷	
	第3節 北ノ内遺跡の建物群	
	第4節 小貝川上流域における集落の動向と平安時代の開発	
	第5節 北ノ内遺跡出土の須恵器にみられる獣足跡	

第2分冊 目次

第V章 助五郎内遺跡の調査

第1節 調査区の概要	1
第2節 古墳時代の遺構と遺物	5
竪穴建物跡と出土遺物	5
第3節 奈良・平安時代の遺構と遺物	47
第1項 竪穴建物跡と出土遺物	47
第2項 竪立柱建物跡と出土遺物	107
第4節 各時代の土坑と出土遺物	112

第VI章 星ノ宮遺跡の調査

第1節 調査区の概要	115
第2節 南調査区の遺構と遺物	121
第1項 古墳時代から奈良・平安時代の遺構と遺物	121
第2項 中世・近世の遺構と遺物	131
第3節 北調査区の遺構と遺物	154
第1項 縄文時代の遺構と遺物	154
第2項 古墳時代から奈良・平安時代の遺構と遺物	163
第3項 中世・近世の遺構と遺物	165

第VII章 自然科学分析

I. 星ノ宮遺跡出土木製品の年代と樹種	263
II. 北ノ内遺跡出土具類の種類	265

第VIII章 総括

第1節 出土遺物の変遷	269
第1項 北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡における古墳・奈良・平安時代の遺物の変遷	269
第2項 星ノ宮遺跡における中世・近世の遺物の変遷	279
第2節 遺構の変遷	284
第1項 北ノ内遺跡における遺構の変遷	284
第2項 北ノ内遺跡(2次調査)における遺構の変遷	291
第3項 助五郎内遺跡における遺構の変遷	297
第4項 星ノ宮遺跡における遺構の変遷	303
第3節 北ノ内遺跡の建物群	311
第1項 竪立柱建物群	311
第2項 四面廂建物SB-7	315
第3項 竪屋SI-20	322
第4節 小貝川上流域における集落の動向と平安時代の開発	323
第1項 小貝川上流域における集落の動向	323
第2項 北ノ内遺跡と国司入部	325
第3項 北ノ内遺跡の性格	325
第4項 芳賀郡における北ノ内遺跡の位置	326
第5節 北ノ内遺跡出土の須恵器にみられる獣足跡	329

挿図目次

助五郎内遺跡

第 1 図	助五郎内遺跡の基本順序模式図 (グリップD17.66付近)	1	第 58 図	助五郎内遺跡 SI-8 出土遺物	58
第 2 図	助五郎内遺跡 調査区位置図 (S = 1/2,000)	2	第 59 図	助五郎内遺跡 SI-9 実測図	60
第 3 図	助五郎内遺跡 全体図 (S = 1/500)	3	第 60 図	助五郎内遺跡 SI-9 出土遺物	61
第 4 図	助五郎内遺跡 SI-1 実測図	6	第 61 図	助五郎内遺跡 SI-9 出土鉄製品	62
第 5 図	助五郎内遺跡 SI-1 カマド実測図	7	第 62 図	助五郎内遺跡 SI-10・40 実測図	65
第 6 図	助五郎内遺跡 SI-1 出土遺物 (1)	7	第 63 図	助五郎内遺跡 SI-10・40 出土遺物	65
第 7 図	助五郎内遺跡 SI-1 出土遺物 (2)	8	第 64 図	助五郎内遺跡 SI-11 実測図	66
第 8 図	助五郎内遺跡 SI-3 実測図	10	第 65 図	助五郎内遺跡 SI-14 実測図	67
第 9 図	助五郎内遺跡 SI-3 出土遺物	11	第 66 図	助五郎内遺跡 SI-15・16 実測図	68
第 10 図	助五郎内遺跡 SI-12 実測図	12	第 67 図	助五郎内遺跡 SI-16 カマド実測図	69
第 11 図	助五郎内遺跡 SI-12 出土遺物	13	第 68 図	助五郎内遺跡 SI-16 出土遺物	69
第 12 図	助五郎内遺跡 SI-13 実測図	14	第 69 図	助五郎内遺跡 SI-17 実測図	70
第 13 図	助五郎内遺跡 SI-13 出土遺物	15	第 70 図	助五郎内遺跡 SI-17 カマド実測図	71
第 14 図	助五郎内遺跡 SI-18 実測図	17	第 71 図	助五郎内遺跡 SI-17 出土遺物	71
第 15 図	助五郎内遺跡 SI-18 出土遺物	18	第 72 図	助五郎内遺跡 SI-17 出土鉄製品	72
第 16 図	助五郎内遺跡 SI-19・41 実測図	20	第 73 図	助五郎内遺跡 SI-21 実測図	73
第 17 図	助五郎内遺跡 SI-19 カマド実測図	21	第 74 図	助五郎内遺跡 SI-21 出土遺物	74
第 18 図	助五郎内遺跡 SI-19 出土遺物	21	第 75 図	助五郎内遺跡 SI-22 実測図	75
第 19 図	助五郎内遺跡 SI-41 出土遺物	21	第 76 図	助五郎内遺跡 SI-24 実測図	77
第 20 図	助五郎内遺跡 SI-20 実測図	23	第 77 図	助五郎内遺跡 SI-24 出土遺物	77
第 21 図	助五郎内遺跡 SI-20 カマド実測図	24	第 78 図	助五郎内遺跡 SI-25 実測図	78
第 22 図	助五郎内遺跡 SI-20 出土遺物	24	第 79 図	助五郎内遺跡 SI-25 出土遺物	78
第 23 図	助五郎内遺跡 SI-23 カマド実測図	27	第 80 図	助五郎内遺跡 SI-26 実測図	79
第 24 図	助五郎内遺跡 SI-23 出土遺物	27	第 81 図	助五郎内遺跡 SI-26 出土遺物	79
第 25 図	助五郎内遺跡 SI-27 実測図	28	第 82 図	助五郎内遺跡 SI-31 実測図	80
第 26 図	助五郎内遺跡 SI-27 カマド実測図	29	第 83 図	助五郎内遺跡 SI-31 出土遺物	81
第 27 図	助五郎内遺跡 SI-27 出土遺物	29	第 84 図	助五郎内遺跡 SI-31 出土鉄製品	81
第 28 図	助五郎内遺跡 SI-28 実測図	30	第 85 図	助五郎内遺跡 SI-32 実測図	82
第 29 図	助五郎内遺跡 SI-28 出土遺物	30	第 86 図	助五郎内遺跡 SI-33 実測図	82
第 30 図	助五郎内遺跡 SI-29・50 実測図	32	第 87 図	助五郎内遺跡 SI-34 実測図	83
第 31 図	助五郎内遺跡 SI-29 カマド実測図	33	第 88 図	助五郎内遺跡 SI-34 出土遺物	83
第 32 図	助五郎内遺跡 SI-29 出土遺物	33	第 89 図	助五郎内遺跡 SI-200 実測図	84
第 33 図	助五郎内遺跡 SI-50 出土遺物	34	第 90 図	助五郎内遺跡 SI-201 実測図	84
第 34 図	助五郎内遺跡 SI-30 実測図	36	第 91 図	助五郎内遺跡 SI-202 実測図	85
第 35 図	助五郎内遺跡 SI-30 カマド実測図	37	第 92 図	助五郎内遺跡 SI-202 出土遺物	86
第 36 図	助五郎内遺跡 SI-30 出土遺物	37	第 93 図	助五郎内遺跡 SI-204 実測図	88
第 37 図	助五郎内遺跡 SI-207 実測図	39	第 94 図	助五郎内遺跡 SI-204 出土遺物 (1)	89
第 38 図	助五郎内遺跡 SI-207 出土遺物	40	第 95 図	助五郎内遺跡 SI-204 出土遺物 (2)	90
第 39 図	助五郎内遺跡 SI-211 実測図	41	第 96 図	助五郎内遺跡 SI-204 出土鉄製品	91
第 40 図	助五郎内遺跡 SI-211 出土遺物	41	第 97 図	助五郎内遺跡 SI-205 実測図	94
第 41 図	助五郎内遺跡 SI-212 実測図	42	第 98 図	助五郎内遺跡 SI-205 出土遺物	95
第 42 図	助五郎内遺跡 SI-212 出土遺物	42	第 99 図	助五郎内遺跡 SI-206 実測図	96
第 43 図	助五郎内遺跡 SI-213 実測図	44	第 100 図	助五郎内遺跡 SI-206 カマド実測図	97
第 44 図	助五郎内遺跡 SI-213 カマド実測図	45	第 101 図	助五郎内遺跡 SI-206 出土遺物	97
第 45 図	助五郎内遺跡 SI-213 出土遺物	45	第 102 図	助五郎内遺跡 SI-208 実測図	98
第 46 図	助五郎内遺跡 SI-2 実測図	47	第 103 図	助五郎内遺跡 SI-208 出土遺物	99
第 47 図	助五郎内遺跡 SI-2 出土遺物	47	第 104 図	助五郎内遺跡 SI-209 実測図	100
第 48 図	助五郎内遺跡 SI-4 実測図	48	第 105 図	助五郎内遺跡 SI-209 出土遺物・出土鉄製品	101
第 49 図	助五郎内遺跡 SI-4 出土鉄製品	49	第 106 図	助五郎内遺跡 SI-210 実測図	102
第 50 図	助五郎内遺跡 SI-4 カマド実測図	50	第 107 図	助五郎内遺跡 SI-210 出土遺物	103
第 51 図	助五郎内遺跡 SI-4 出土遺物	51	第 108 図	助五郎内遺跡 SI-214 実測図	104
第 52 図	助五郎内遺跡 SI-6 実測図	53	第 109 図	助五郎内遺跡 SI-214 カマド実測図	105
第 53 図	助五郎内遺跡 SI-6 出土遺物	53	第 110 図	助五郎内遺跡 SI-214 出土遺物	105
第 54 図	助五郎内遺跡 SI-7 実測図	54	第 111 図	助五郎内遺跡 SB-5 実測図	108
第 55 図	助五郎内遺跡 SI-7 出土遺物	56	第 112 図	助五郎内遺跡 SB-35 実測図	109
第 56 図	助五郎内遺跡 SI-8 実測図	57	第 113 図	助五郎内遺跡 SB-36 実測図	110
第 57 図	助五郎内遺跡 SI-8 カマド実測図	58	第 114 図	助五郎内遺跡 SB-38 実測図	111
			第 115 図	助五郎内遺跡 土坑出土遺物	112

星ノ宮遺跡

第118図 星ノ宮道跡の基本順序模式図 (グリッド19・22付近)	115	第176図 星ノ宮道跡北調査区	SB-411 実測図	196
第119図 星ノ宮道跡 調査区位置図(S=1/2,000)	116	第177図 星ノ宮道跡北調査区	SB-412 実測図	197
第120図 星ノ宮道跡南調査区 全体図(S=1/500)	117	第178図 星ノ宮道跡北調査区	SB-414 実測図	198
第121図 星ノ宮道跡北調査区 全体図(S=1/500)	119	第179図 星ノ宮道跡北調査区	SB-415 実測図	199
第122図 星ノ宮道跡南調査区 SI-6 実測図	121	第180図 星ノ宮道跡北調査区	SB-416 実測図	201
第123図 星ノ宮道跡南調査区 SI-6 出土遺物	122	第181図 星ノ宮道跡北調査区	SB-417 実測図	203
第124図 星ノ宮道跡南調査区 SI-6 出土鉄製品	123	第182図 星ノ宮道跡北調査区	SB-418 実測図	204
第125図 星ノ宮道跡南調査区 SI-20 実測図	125	第183図 星ノ宮道跡北調査区	SB-419 実測図	205
第126図 星ノ宮道跡南調査区 SI-20 遺物出土状況	126	第184図 星ノ宮道跡北調査区	SB-420 実測図	207
第127図 星ノ宮道跡南調査区 SI-20 出土遺物(1)	127	第185図 星ノ宮道跡北調査区	SB-421 実測図	209
第128図 星ノ宮道跡南調査区 SI-20 出土遺物(2)	128	第186図 星ノ宮道跡北調査区	SB-422 実測図	210
第129図 星ノ宮道跡南調査区 SB-5 実測図	133	第187図 星ノ宮道跡北調査区	SB-423 実測図	211
第130図 星ノ宮道跡南調査区 SB-16 実測図	134	第188図 星ノ宮道跡北調査区	SB-425 実測図	212
第131図 星ノ宮道跡南調査区 SB-17 実測図	135	第189図 星ノ宮道跡北調査区	SB-426 実測図	213
第132図 星ノ宮道跡南調査区 SB-21 実測図	135	第190図 星ノ宮道跡北調査区	SB-427 実測図	215
第133図 星ノ宮道跡南調査区 SB-22 実測図	136	第191図 星ノ宮道跡北調査区	SB 出土遺物	216
第134図 星ノ宮道跡南調査区 SB-23 実測図	137	第192図 星ノ宮道跡北調査区	SB 出土鉄製品	217
第135図 星ノ宮道跡南調査区 SB-24 実測図	138	第193図 星ノ宮道跡北調査区	SA-30 実測図	218
第136図 星ノ宮道跡南調査区 SB-25 実測図	138	第194図 星ノ宮道跡北調査区	SA-408 実測図	219
第137図 星ノ宮道跡南調査区 SB 出土遺物	139	第195図 星ノ宮道跡北調査区	SA-410 実測図	220
第138図 星ノ宮道跡南調査区 SE 実測図	142	第196図 星ノ宮道跡北調査区	SA-413 実測図	221
第139図 星ノ宮道跡南調査区 SE-3 出土遺物	143	第197図 星ノ宮道跡北調査区	SA-424 実測図	222
第140図 星ノ宮道跡南調査区 SE-29 出土遺物(1)	144	第198図 星ノ宮道跡北調査区	SE 実測図(1)	226
第141図 星ノ宮道跡南調査区 SE-29 出土遺物(2)	145	第199図 星ノ宮道跡北調査区	SE 実測図(2)	227
第142図 星ノ宮道跡南調査区 SE-29 出土遺物(3)	146	第200図 星ノ宮道跡北調査区	SE 出土遺物	228
第143図 星ノ宮道跡南調査区 SE-53 出土遺物	148	第201図 星ノ宮道跡北調査区	SE-115 出土木製品	230
第144図 星ノ宮道跡南調査区 SD-30 実測図	149	第202図 星ノ宮道跡北調査区	方形穴実測図	233
第145図 星ノ宮道跡南調査区 SD-30 出土遺物	150	第203図 星ノ宮道跡北調査区	SD-1 実測図	234
第146図 星ノ宮道跡南調査区 方形穴実測図	151	第204図 星ノ宮道跡北調査区	SD-2 実測図	235
第147図 星ノ宮道跡南調査区 SK-50 出土遺物	151	第205図 星ノ宮道跡北調査区	SD-450 実測図	236
第148図 星ノ宮道跡南調査区 土坑実測図(1)	152	第206図 星ノ宮道跡北調査区	溝跡出土遺物	237
第149図 星ノ宮道跡南調査区 土坑実測図(2)	153	第207図 星ノ宮道跡北調査区	SD-450 出土鉄製品	237
第150図 星ノ宮道跡北調査区 SI-65 実測図	154	第208図 星ノ宮道跡北調査区	SK 実測図(1)	239
第151図 星ノ宮道跡北調査区 SI-65 出土石器	156	第209図 星ノ宮道跡北調査区	SK 実測図(2)	240
第152図 星ノ宮道跡北調査区 SI-65 出土石器位置図	157	第210図 星ノ宮道跡北調査区	SK 実測図(3)	241
第153図 星ノ宮道跡北調査区 SI-65 出土石器位置図	158	第211図 星ノ宮道跡北調査区	SK 実測図(4)	242
第154図 星ノ宮道跡北調査区 SI-65 出土石器(1)	160	第212図 星ノ宮道跡北調査区	SK 実測図(5)	243
第155図 星ノ宮道跡北調査区 SI-65 出土石器(2)	161	第213図 星ノ宮道跡北調査区	SK 実測図(6)	244
第156図 星ノ宮道跡北調査区 SI-65 出土石器(3)	162	第214図 星ノ宮道跡北調査区	SK 実測図(7)	245
第157図 星ノ宮道跡北調査区 SI-66 実測図	163	第215図 星ノ宮道跡北調査区	SK 実測図(8)	246
第158図 星ノ宮道跡北調査区 SI-66 出土遺物	164	第216図 星ノ宮道跡北調査区	SK 実測図(9)	247
第159図 星ノ宮道跡北調査区 SB-9 実測図	174	第217図 星ノ宮道跡北調査区	SK 実測図(10)	248
第160図 星ノ宮道跡北調査区 SB-10 実測図	175	第218図 星ノ宮道跡北調査区	SK 実測図(11)	249
第161図 星ノ宮道跡北調査区 SB-11 実測図	176	第219図 星ノ宮道跡北調査区	Ph 実測図(1)	250
第162図 星ノ宮道跡北調査区 SB-12 実測図	177	第220図 星ノ宮道跡北調査区	Ph 実測図(2)	251
第163図 星ノ宮道跡北調査区 SB-13 実測図	178	第221図 星ノ宮道跡北調査区	Ph 実測図(3)	252
第164図 星ノ宮道跡北調査区 SB-14 実測図	180	第222図 星ノ宮道跡北調査区	Ph 実測図(4)	253
第165図 星ノ宮道跡北調査区 SB-36 実測図	181	第223図 星ノ宮道跡北調査区	Ph 実測図(5)	254
第166図 星ノ宮道跡北調査区 SB-37 実測図	182	第224図 星ノ宮道跡北調査区	Ph 実測図(6)	255
第167図 星ノ宮道跡北調査区 SB-400 実測図	183	第225図 星ノ宮道跡北調査区	SK 実測図(7)	256
第168図 星ノ宮道跡北調査区 SB-401 実測図	184	第226図 星ノ宮道跡北調査区	Ph 実測図(8)	257
第169図 星ノ宮道跡北調査区 SB-402 実測図	186	第227図 星ノ宮道跡北調査区	Ph 実測図(9)	258
第170図 星ノ宮道跡北調査区 SB-403 実測図	188	第228図 星ノ宮道跡北調査区	Ph 実測図(10)	259
第171図 星ノ宮道跡北調査区 SB-404 実測図	189	第229図 星ノ宮道跡北調査区	Ph 実測図(11)	260
第172図 星ノ宮道跡北調査区 SB-405 実測図	191	第230図 星ノ宮道跡北調査区	SK・Ph 出土遺物	261
第173図 星ノ宮道跡北調査区 SB-406 実測図	193	第231図 星ノ宮道跡北調査区	SK-116 出土鉄製品	261
第174図 星ノ宮道跡北調査区 SB-407 実測図	194	第232図 星ノ宮道跡北調査区	表層・グリッド出土遺物	262
第175図 星ノ宮道跡北調査区 SB-409 実測図	195	第233図 星ノ宮道跡北調査区	表層・グリッド出土鉄製品	262

総 括

第 234 図	北ノ内道跡・助五郎内道跡・星ノ宮道跡における古墳・奈良・平安時代の遺物の変遷 (1) ……	272	第 259 図	助五郎内道跡における遺構の変遷 (奈良時代) ……	301
第 235 図	北ノ内道跡・助五郎内道跡・星ノ宮道跡における古墳・奈良・平安時代の遺物の変遷 (2) ……	273	第 260 図	助五郎内道跡における遺構の変遷 (平安時代) ……	302
第 236 図	北ノ内道跡・助五郎内道跡・星ノ宮道跡における古墳・奈良・平安時代の遺物の変遷 (3) ……	274	第 261 図	星ノ宮道跡 区画位置図 ……	303
第 237 図	北ノ内道跡・助五郎内道跡・星ノ宮道跡における古墳・奈良・平安時代の遺物の変遷 (4) ……	275	第 262 図	星ノ宮道跡南調査区 区画 1 ……	303
第 238 図	北ノ内道跡・助五郎内道跡・星ノ宮道跡における古墳・奈良・平安時代の遺物の変遷 (5) ……	276	第 263 図	星ノ宮道跡南調査区 区画 2 ……	304
第 239 図	北ノ内道跡・助五郎内道跡・星ノ宮道跡における古墳・奈良・平安時代の遺物の変遷 (6) ……	277	第 264 図	星ノ宮道跡北調査区 区画 1 ……	304
第 240 図	土師質土器類 分類図 ……	279	第 265 図	星ノ宮道跡北調査区 区画 2 ……	305
第 241 図	つくば市上野古屋敷遺跡出土土師質土器類跡 ……	281	第 266 図	星ノ宮道跡北調査区 区画 3 ……	306
第 242 図	星ノ宮道跡における中世・近世の遺物の変遷 (1) ……	282	第 267 図	星ノ宮道跡における中世・近世の遺構の変遷 (1) ……	308
第 243 図	星ノ宮道跡における中世・近世の遺物の変遷 (2) ……	283	第 268 図	北ノ内道跡における中世・近世の遺構の変遷 (2) ……	309
第 244 図	北ノ内道跡時期別遺構数 ……	285	第 269 図	北ノ内道跡 (2 次調査) における遺構の変遷 (平安時代) ……	312
第 245 図	北ノ内道跡における遺構の変遷 (古墳時代後期) ……	286	第 270 図	菅原 D7 期の代表的な石造道跡 ……	313
第 246 図	北ノ内道跡における遺構の変遷 (古墳時代終末期) ……	287	第 271 図	北ノ内道跡 (2 次調査) SB-7 実測図 ……	315
第 247 図	北ノ内道跡における遺構の変遷 (奈良時代) ……	288	第 272 図	四面南建物跡平面形式別棟敷割合 ……	316
第 248 図	北ノ内道跡における遺構の変遷 (平安時代 1) ……	289	第 273 図	四面南建物跡平面積比較 ……	316
第 249 図	北ノ内道跡における遺構の変遷 (平安時代 2) ……	290	第 274 図	上神土・茂原宮道跡 SB-91 実測図 ……	318
第 250 図	北ノ内道跡 (2 次調査) 掘立柱建物跡の変遷 ……	291	第 275 図	上神土・茂原宮道跡道構配置図 (S=1/3,000) ……	319
第 251 図	北ノ内道跡 (2 次調査) 時期別遺構数 ……	293	第 276 図	長者ヶ平道跡 SB-5 実測図 ……	320
第 252 図	北ノ内道跡 (2 次調査) における遺構の変遷 (古墳時代後期) ……	294	第 277 図	長者ヶ平道跡 全体図 (S=1/3,000) ……	320
第 253 図	北ノ内道跡 (2 次調査) における遺構の変遷 (奈良時代～平安時代) ……	295	第 278 図	堀越道跡 第 100 号掘立柱建物跡実測図 ……	321
第 254 図	北ノ内道跡 (2 次調査) における遺構の変遷 (平安時代) ……	296	第 279 図	堀越道跡 (10 世紀前半) 全体図 (S=1/2,500) ……	321
第 255 図	北ノ内道跡 (2 次調査) における遺構の変遷 (9 世紀後半) ……	296	第 280 図	北ノ内道跡 (2 次調査) SI-20・SK-65 出土遺物 ……	322
第 256 図	助五郎内道跡 時期別遺構数 ……	297	第 281 図	小貝川流域における平安時代の道跡 ……	324
第 257 図	助五郎内道跡における遺構の変遷 (古墳時代後期) ……	299	第 282 図	寺平道跡 全体図 (S=1/1,600) ……	326
第 258 図	助五郎内道跡における遺構の変遷 (古墳時代終末期) ……	300	第 283 図	芳賀郡における北ノ内道跡の位置 ……	327
			第 284 図	北ノ内道跡出土の須恵器にみられる厭足跡 ……	329
			第 285 図	厭足様式図 ……	329
			第 286 図	厭足跡の確認された道跡 ……	330
			第 287 図	厭足跡の類型 (1) ……	331
			第 288 図	厭足跡の類型 (2) ……	332
			第 289 図	埋葬されたイヌ 縄文時代後期 (宮城県田村町) ……	333
			第 290 図	絵巻に描かれたネコ 平安時代 (『鳥部職録』甲巻) ……	333
			第 291 図	『和漢三才図会』のタヌキ ……	334
			第 292 図	狸形の泥人形 ……	334

表 目 次

助五郎内道跡

第 1 表	助五郎内道跡 SI-1 出土遺物観察表 ……	9	第 18 表	助五郎内道跡 SI-213 出土遺物観察表 ……	46
第 2 表	助五郎内道跡 SI-3 出土遺物観察表 ……	11	第 19 表	助五郎内道跡 SI-2 出土遺物観察表 ……	48
第 3 表	助五郎内道跡 SI-12 出土遺物観察表 ……	13	第 20 表	助五郎内道跡 SI-4 出土遺物観察表 ……	51
第 4 表	助五郎内道跡 SI-13 出土遺物観察表 ……	15	第 21 表	助五郎内道跡 SI-4 出土鉄製品観察表 ……	52
第 5 表	助五郎内道跡 SI-18 出土遺物観察表 ……	19	第 22 表	助五郎内道跡 SI-6 出土遺物観察表 ……	54
第 6 表	助五郎内道跡 SI-19 出土遺物観察表 ……	22	第 23 表	助五郎内道跡 SI-7 出土遺物観察表 ……	56
第 7 表	助五郎内道跡 SI-41 出土遺物観察表 ……	22	第 24 表	助五郎内道跡 SI-8 出土遺物観察表 ……	59
第 8 表	助五郎内道跡 SI-20 出土遺物観察表 ……	25	第 25 表	助五郎内道跡 SI-9 出土遺物観察表 ……	63
第 9 表	助五郎内道跡 SI-23 出土遺物観察表 ……	27	第 26 表	助五郎内道跡 SI-9 出土鉄製品観察表 ……	63
第 10 表	助五郎内道跡 SI-27 出土遺物観察表 ……	29	第 27 表	助五郎内道跡 SI-10・40 出土遺物観察表 ……	65
第 11 表	助五郎内道跡 SI-28 出土遺物観察表 ……	30	第 28 表	助五郎内道跡 SI-16 出土遺物観察表 ……	69
第 12 表	助五郎内道跡 SI-29 出土遺物観察表 ……	34	第 29 表	助五郎内道跡 SI-17 出土遺物観察表 ……	72
第 13 表	助五郎内道跡 SI-50 出土遺物観察表 ……	35	第 30 表	助五郎内道跡 SI-17 出土鉄製品観察表 ……	72
第 14 表	助五郎内道跡 SI-30 出土遺物観察表 ……	38	第 31 表	助五郎内道跡 SI-21 出土遺物観察表 ……	74
第 15 表	助五郎内道跡 SI-207 出土遺物観察表 ……	40	第 32 表	助五郎内道跡 SI-24 出土遺物観察表 ……	77
第 16 表	助五郎内道跡 SI-211 出土遺物観察表 ……	41	第 33 表	助五郎内道跡 SI-25 出土遺物観察表 ……	78
第 17 表	助五郎内道跡 SI-212 出土遺物観察表 ……	43	第 34 表	助五郎内道跡 SI-26 出土遺物観察表 ……	79

第 35 表	助五郎内遺跡	SI-31 出土遺物観察表	81	第 42 表	助五郎内遺跡	SI-206 出土遺物観察表	97
第 36 表	助五郎内遺跡	SI-31 出土鉄製品観察表	81	第 43 表	助五郎内遺跡	SI-208 出土遺物観察表	99
第 37 表	助五郎内遺跡	SI-34 出土遺物観察表	83	第 44 表	助五郎内遺跡	SI-209 出土遺物観察表	101
第 38 表	助五郎内遺跡	SI-202 出土遺物観察表	86	第 45 表	助五郎内遺跡	SI-209 出土鉄製品観察表	101
第 39 表	助五郎内遺跡	SI-204 出土遺物観察表	91	第 46 表	助五郎内遺跡	SI-210 出土遺物観察表	103
第 40 表	助五郎内遺跡	SI-204 出土鉄製品観察表	93	第 47 表	助五郎内遺跡	SI-214 出土遺物観察表	106
第 41 表	助五郎内遺跡	SI-205 出土遺物観察表	95	第 48 表	助五郎内遺跡	土坑出土遺物観察表	112

星ノ宮遺跡

第 49 表	星ノ宮遺跡南調査区	SI-6 出土遺物観察表	123	第 60 表	星ノ宮遺跡北調査区	SB 出土遺物観察表	217
第 50 表	星ノ宮遺跡南調査区	SI-6 出土鉄製品観察表	124	第 61 表	星ノ宮遺跡北調査区	SB 出土鉄製品観察表	217
第 51 表	星ノ宮遺跡南調査区	SI-20 出土遺物観察表	129	第 62 表	星ノ宮遺跡北調査区	SE 出土遺物観察表	229
第 52 表	星ノ宮遺跡南調査区	SB 出土遺物観察表	139	第 63 表	星ノ宮遺跡北調査区	SE-115 出土木製品観察表	230
第 53 表	星ノ宮遺跡南調査区	SE-3 出土遺物観察表	143	第 64 表	星ノ宮遺跡北調査区	溝跡出土遺物観察表	237
第 54 表	星ノ宮遺跡南調査区	SE-29 出土遺物観察表	147	第 65 表	星ノ宮遺跡北調査区	SD-450 出土鉄製品観察表	237
第 55 表	星ノ宮遺跡南調査区	SE-53 出土遺物観察表	148	第 66 表	星ノ宮遺跡北調査区	SK・Pr 出土遺物観察表	261
第 56 表	星ノ宮遺跡南調査区	SD-30 出土遺物観察表	150	第 67 表	星ノ宮遺跡北調査区	SK-116 出土鉄製品観察表	261
第 57 表	星ノ宮遺跡南調査区	SK-50 出土遺物観察表	151	第 68 表	星ノ宮遺跡北調査区	表採・グリッド 出土遺物観察表	262
第 58 表	星ノ宮遺跡北調査区	SI-65・SK-150 出土石器観察表	159	第 69 表	星ノ宮遺跡北調査区	表採・グリッド 出土鉄製品観察表	262
第 59 表	星ノ宮遺跡北調査区	SI-66 出土遺物観察表	164				

総 括

第 70 表	北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡における 遺構の時期区分	278	第 75 表	星ノ宮遺跡 遺構時期一覧	307
第 71 表	星ノ宮遺跡 遺構時期一覧	281	第 76 表	北ノ内遺跡掘立柱建物跡の規模	314
第 72 表	北ノ内遺跡 遺構時期一覧	284	第 77 表	郡新・居宅・集落遺跡における掘立柱建物跡の規模	314
第 73 表	北ノ内遺跡（2次調査） 遺構時期一覧	292	第 78 表	東日本における四面圍建物	317
第 74 表	助五郎内遺跡 遺構時期一覧	297	第 79 表	小貝川沿岸における平安時代遺跡の建物数	323
			第 80 表	獣足跡の種類一覧表	332

図版目次

助五郎内遺跡

図版一	助五郎内遺跡 航空写真 遺跡遠景（南から） 遺跡全景（南から）	SI-20 P5 周辺遺物出土状況（東から） SI-23 完掘（南から） SI-23 遺物出土状況（南から）	図版五	助五郎内遺跡 古墳時代の遺構 SI-27 完掘（北西から） SI-27 カマド完掘（南西から） SI-28 完掘（南東から） SI-28 カマド完掘（南から） SI-28 遺物出土状況（南西から） SI-29 完掘（南から） SI-30・31 完掘（西から） SI-30 完掘（南西から）
図版二	助五郎内遺跡 航空写真 古墳時代の遺構 西区全景 東区全景 SI-1・29 完掘（北西から） SI-1 完掘（西から） SI-1 カマド完掘（西から） SI-1 P2 周辺遺物出土状況（南西から）	図版六	助五郎内遺跡 古墳時代の遺構 SI-30 カマド完掘（南西から） SI-207 完掘（南から） SI-207 カマド完掘（南から） SI-207 遺物出土状況（南西から） SI-211 完掘（南東から） SI-211 カマド完掘（南から） SI-211 P1 白色粘土出土状況（南から） SI-212 完掘（南から）	
図版三	助五郎内遺跡 古墳時代の遺構 SI-1 カマド周辺遺物出土状況（西から） SI-1 P5 完掘（南西から） SI-12 完掘（南から） SI-12 カマド完掘（南東から） SI-12 遺物出土状況（東から） SI-13 完掘（南から） SI-18 完掘（南から） SI-18 P3 周辺遺物出土状況（南西から）	図版七	助五郎内遺跡 古墳時代の遺構 奈良・平安時代の遺構 SI-212 カマド周辺遺物出土状況（南西から） SI-213 完掘（南東から） SI-213 カマド完掘（南から）	
図版四	助五郎内遺跡 古墳時代の遺構 SI-19 完掘（南から） SI-19 カマド完掘（南から） SI-41 完掘（南から） SI-20 完掘（南から） SI-20 カマド完掘（南から）			

	SI-213 炭化材出土状況 (南から)		SI-201 検出状況 (南から)
	SI-2・3 完掘 (南から)		SI-202 完掘 (南から)
	SI-4 完掘 (南西から)		SI-202 カマド完掘 (南から)
	SI-4 カマド完掘 (南西から)		SI-202 カマド周辺遺物出土状況 (南東から)
	SI-4 炭化材出土状況 (南西から)		SI-204～206 完掘 (南東から)
図版八	助五郎内遺跡 奈良・平安時代の遺構		SI-204 完掘 (南から)
	SI-6 完掘 (西から)		SI-204 カマド完掘 (南から)
	SI-6 北カマド完掘 (南から)	図版一四	助五郎内遺跡 奈良・平安時代の遺構
	SI-6 東カマド完掘 (西から)		SI-204 北東隅周辺遺物出土状況 (南西から)
	SI-7 完掘 (南から)		SI-204 紡錘車形土製品出土状況 (北から)
	SI-7 カマド完掘 (南から)		SI-205 完掘 (南から)
	SI-7 南壁遺物出土状況 (北東から)		SI-205 カマド完掘 (南から)
	SI-8 完掘 (南から)		SI-206 完掘 (南から)
	SI-8 カマド完掘 (南から)		SI-208 完掘 (西から)
図版九	助五郎内遺跡 奈良・平安時代の遺構		SI-208 北カマド完掘 (南から)
	SI-9 完掘 (南西から)		SI-208 東カマド完掘 (西から)
	SI-9 北カマド完掘 (南から)	図版一五	助五郎内遺跡 奈良・平安時代の遺構 基本順序
	SI-9 東カマド完掘 (西から)		SI-209 完掘 (南から)
	SI-10・40 完掘 (東から)		SI-209 カマド完掘 (南から)
	SI-11 完掘 (南から)		SI-210 完掘 (西から)
	SI-11 カマド完掘 (南から)		SI-210 カマド完掘 (西から)
	SI-14 完掘 (南から)		SI-214 完掘 (南から)
	SI-14 カマド完掘 (南から)		SI-214 カマド周辺遺物出土状況 (南西から)
図版一〇	助五郎内遺跡 奈良・平安時代の遺構		SB-5 完掘 (南から)
	SI-14 遺物出土状況 (北から)		検出面以下の基本順序 グリッド 19.65 付近 (北から)
	SI-15 炭化材出土状況 (南から)	図版一六	助五郎内遺跡 古墳時代の遺物
	SI-16 完掘 (南から)		SI-1 SI-12
	SI-16 カマド完掘 (南から)		SI-13
	SI-16 炭化材出土状況 (南から)	図版一七	助五郎内遺跡 古墳時代の遺物
	SI-17 完掘 (南から)		SI-13 SI-18
	SI-17 拡張前後面検出状況 (南から)		SI-19 SI-20
	SI-17 南壁遺物出土状況 (西から)		SI-27 SI-29
図版一一	助五郎内遺跡 奈良・平安時代の遺構	図版一八	助五郎内遺跡 古墳時代の遺物
	SI-21 完掘 (南から)		SI-23 SI-30
	SI-21 カマド完掘 (南から)		SI-50 SI-207
	SI-21 P1 周辺遺物出土状況 (南から)		SI-212
	SI-22・23 完掘 (南から)	図版一九	助五郎内遺跡 古墳時代の遺物 奈良・平安時代の遺物
	SI-22 完掘 (南から)		SI-213 SI-2
	SI-22 カマド完掘 (南から)		SI-4 SI-6
	SI-24 完掘 (南から)		SI-7
	SI-25 検出状況 (南西から)	図版二〇	助五郎内遺跡 奈良・平安時代の遺物
図版一二	助五郎内遺跡 奈良・平安時代の遺構		SI-8 SI-9
	SI-26 検出状況 (南から)		SI-9 鉄製品 SI-10・40
	SI-31 完掘 (南から)		SI-17 鉄製品
	SI-31 拡張前後面検出状況 (南から)	図版二一	助五郎内遺跡 奈良・平安時代の遺物
	SI-31 カマド完掘 (南から)		SI-17 SI-21
	SI-32 検出状況 (南から)		SI-31 鉄製品 SI-204
	SI-33 完掘 (北西から)		SI-208 SI-210
	SI-34 完掘 (北から)	図版二二	助五郎内遺跡 奈良・平安時代の遺物 鉄製品
	SI-200 完掘 (南から)		SI-214 SI-4 鉄製品
図版一三	助五郎内遺跡 奈良・平安時代の遺構		SI-9 鉄製品 SI-204 鉄製品
	SI-200 カマド検出状況 (南から)		SI-209 鉄製品

星ノ宮遺跡

図版二三	星ノ宮遺跡 航空写真	図版二四	星ノ宮遺跡 航空写真
	遺跡遠景 (南西から)		遺跡周辺の景観 (南西を望む)
	遺跡近景 (北東から)		遺跡周辺の景観 (西を望む)

- 図版二五 星ノ宮遺跡 航空写真
遺跡周辺の景観（東を望む）
遺跡周辺の景観（北東を望む）
- 図版二六 星ノ宮遺跡 南調査区の遺構
SI-6 完掘（西から）
SI-6 カマド遺物出土状況（北西から）
SI-6 貯蔵穴遺物出土状況（北西から）
SI-20 完掘（南から）
SI-20 遺物出土状況（北から）
SI-20 遺物出土状況（西から）
SB-5 完掘（東から）
SB-17 完掘（西から）
- 図版二七 星ノ宮遺跡 南調査区の遺構
SB-21～24 完掘（東から）
SB-22 完掘（東から）
SE-29 遺物出土状況（南から）
SE-29 遺物出土状況（北から）
SE-29 セクション（南から）
SE-53 完掘（南から）
SD-30 遺物出土状況（南西から）
SK-18 完掘（西から）
- 図版二八 星ノ宮遺跡 北調査区の遺構
SI-65 完掘（東から）
SB-9・10・12・36 完掘（東から）
SB-13・14 完掘（西から）
SB-13・14 完掘（南から）
SB-36 P4 遺物出土状況（北から）
SB-36 P8 遺物出土状況（南から）
SB-401 P11 古瀬戸人子出土状況（南から）
SB-404・405、SA-408 完掘（東から）
- 図版二九 星ノ宮遺跡 北調査区の遺構
SB-400～405 など 完掘（南東から）
SB-409 P4 遺物出土状況（東から）
SB-411 完掘（北から）
SB-412・414～423、SA-413 完掘（北から）
SB-412・414～417、SA-413 完掘（北西から）
- 図版三〇 星ノ宮遺跡 北調査区の遺構
SB-414 完掘（北から）
SB-416 P4 遺物出土状況（南から）
SB-418 完掘（東から）
SB-421・422 完掘（北から）
SB-423 完掘（東から）
SB-425～427 完掘（北から）
SE-28 完掘（西から）
SE-80 完掘（南から）
- 図版三一 星ノ宮遺跡 北調査区の遺構
SE-82 完掘（南から）
SE-83 完掘（南から）
SE-90 完掘（南から）
SE-95 完掘（南から）
SE-98、SK-97 完掘（東から）
SE-115 セクション（南から）
SE-177 完掘（南から）
SE-201 完掘（南から）
- 図版三二 星ノ宮遺跡 北調査区の遺構
SE-234 遺物出土状況（北東から）
SE-260 完掘（南から）
SK-21 完掘（東から）
SK-22 完掘（西から）
SK-23・170・171 完掘（南から）
SK-60 完掘（南から）
SK-116・117 完掘（東から）
SK-154 完掘（南から）
- 図版三三 星ノ宮遺跡 北調査区の遺構
SK-158 完掘（南から）
SK-164・166・167 完掘（南東から）
SK-226～228 完掘（西から）
SK-256 完掘（東から）
SK-266・267 完掘（南から）
SK-285 完掘（南から）
SK-305 完掘（東から）
SK-382 完掘（南から）
- 図版三四 星ノ宮遺跡 南調査区の遺物
SI-6 SI-20
- 図版三五 星ノ宮遺跡 南調査区の遺物
SI-20
- 図版三六 星ノ宮遺跡 南調査区の遺物
SI-20 SB-21
SB-22 SB-24
SE-3 SE-29
- 図版三七 星ノ宮遺跡 南調査区の遺物
SE-29 SE-53
SD-30
- 図版三八 星ノ宮遺跡 北調査区の遺物
SI-65 土器 SI-65 石器
- 図版三九 星ノ宮遺跡 北調査区の遺物
SI-65 石器 SI-66
SB-12 SB-36
- 図版四〇 星ノ宮遺跡 北調査区の遺物
SB-401 SB-404
SB-409 SB-416
SE-28 SE-95
SE-115 SD-2
- 図版四一 星ノ宮遺跡 北調査区の遺物 鉄製品
SD-450 SK-256
SK-226 P369
その他の出土遺物 南調査区 SI-6 鉄製品
北調査区 SB-36 鉄製品 北調査区 SB-403 鉄製品
北調査区 SD-450 鉄製品 北調査区 SK-116 鉄製品
北調査区 表採 鉄製品
- 図版四二 星ノ宮遺跡 出土遺物
星ノ宮遺跡出土土師質土器皿
星ノ宮遺跡出土陶磁器

第V章 助五郎内遺跡の調査

第1節 調査区の概要（第1～3図）

助五郎内遺跡は、小貝川左岸の八満山地从ら緩やかに続く丘陵端に位置する。調査区は約75m離れて東区と西区に分かれ、西区西側は河岸段丘崖で、比交差約1.5mで小貝川の河床となる。東区南側には小貝川から屈曲して入り込んだ小枝谷の先端があり、調査区は南側へと傾斜している。西区から北へ約45m、東区から南へ約150mに小貝川からの小枝谷が入り込みおよそ200×180mの範囲が安定して利用できる範囲とみられる。この範囲は北東に向かって標高が高くなり、調査区は西及び南の端に位置する。また西区では調査区南部と中央部の東西方向の谷埋土上で、東区では調査区西部と北部の谷埋土上で遺構が検出されており、小貝川の枝谷が複雑に入り組んでいる様子がうかがえる。調査前の状況は水田および畑地であり、田面の標高は西区で約101.0m、東区で104.3～105.2mである。付近の小貝川河床の標高は約97.3mである。調査区の面積は4,700㎡である。

遺構検出面の標高は西区で約100.4～100.8m、東区で約104.2～105.0mである。田面からの深さは西区で約0.2～0.6m、東区で約0.2～0.6mである。谷埋土の黒色土上では検出が難しく、検出面が下がる傾向にある。また基本層序にみる通り一帯には整地土層がみられ、標高の高い部分は遺構が削平されている可能性がある。調査区内の基本層序は、①暗褐色～黒褐色土（耕土・床土）10～15cm、②暗黄褐色土～黒色土（整地土）21～45cm、③暗灰褐色土（整地・耕作土）25cm、④黒色土（谷埋土）6～20cm、⑤褐色土（地山）となる。④層もしくは⑤層上面が遺構検出面となるが、⑤層上面には部分的に今市軽石層が確認されている。

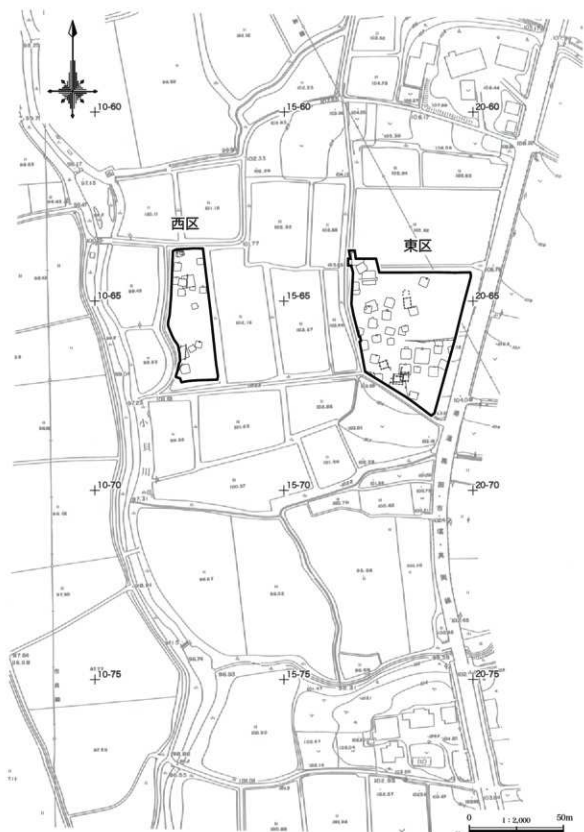
調査の結果、竪穴建物跡52軒、掘立柱建物跡4棟、土坑27基が確認された。

時代別では、古墳時代の竪穴建物跡20軒、掘立柱建物跡3棟、奈良・平安時代の竪穴建物跡22軒、掘立柱建物跡1棟、時期不明の竪穴建物跡10軒である。

出土遺物は、土師器、須恵器、鉄製品、土製品等である。



第1図 助五郎内遺跡の基本層序模式図（グリッド17-66付近）



第2図 助五郎内遺跡 調査区位置図 (S = 1/2,000)



第3図 助五郎内遺跡 全体図 (S = 1/500)

第2節 古墳時代の遺構と遺物

竪穴建物跡と出土遺物

SI-1 (第4～7図、第1表、図版二・三・一六)

東調査区北西部の17-64グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡SI-29と重複し北西コーナーを壊されている。中央よりやや南に攪乱が走っているため、カマドと東壁・西壁の一部が切られている。

平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約7.32m、東西約7.20mで、面積は約52.7㎡である。主軸の振れはN-2°-Wである。

埋土は黒色～黒褐色土で、焼土粒やロームブロックを含む層がみられ、人為堆積とみられる。

残存する壁の高さは、東壁51.1cm、西壁37.4cm、南壁49.1cm、北壁84.3cmで、外傾して立ち上がる。床は、掘方を暗橙褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約4.0～16.0cmを測る。床面は平坦で、カマド前面よりも西壁・南壁・北東コーナー付近で硬化面が形成されている。北壁を除き壁際溝を確認し、幅12.0～32.0cm、深さ12.0cmを測る。

柱穴は、主柱穴P1～4と梯子穴P7を確認した。規模はP1：59.0×53.0cm、深さ75.0cm。P2：51.0×42.0cm、深さ29.0cm。P3：36.0×27.0cm、深さ60.0cm。P4：50.0×37.0cm、深さ57.0cmである。梯子穴P7は南壁中央に確認された。47.0×45.0cm、深さは27.0cmである。

貯蔵穴P5・6を北東および南東コーナーに確認した。P5は120.0×90.0cm、深さ70.0cmで、深さがある。P6は83.0×65.0cm、深さ38.0cmで断面逆台形を呈する。

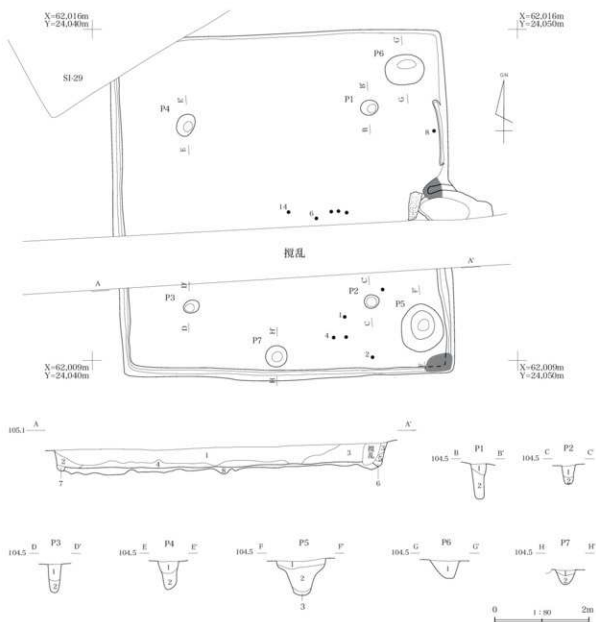
カマドは東壁中央に構築され、黄白色粘土によって構築された袖が残存する。攪乱により南半分が破壊されている。袖は幅40.0cm、長さ30.0cm、高さ約18.0cmである。カマド掘方は深さ14.0cm、東壁への突出は96.0cmである。カマド構築材として利用されたと思われる自然礫がみられ、掘方埋土上面はよく焼けて赤化している。

遺物出土状況は、カマド前面から南東部コーナー付近で集中して出土している。また南東コーナーに黄白色粘土がみられた。

出土遺物は、土師器環83点3,212g、土師器甕355点9,271g、土師器甕4点55g、土師器碗10点203g、須恵器環1点2g、支脚2点499g、石製模造品（有孔方板）1点7g、総量456点13,249gと中近世陶磁器1点3g、自然礫9gが出土した。

土師器環は体部外面に稜をもち、口縁の直立するもの、内傾するもの、外傾するもの、外反するもの、半球形のもの、内彎口縁のものがある。また多くが内面漆仕上げ処理を施す。1～5は底部外面にヘラ記号を施す。いずれも2～3本の直線が交差するヘラ記号である。15は頁岩製の石製模造品である。有孔方板であるが、剣形とも考えられる。

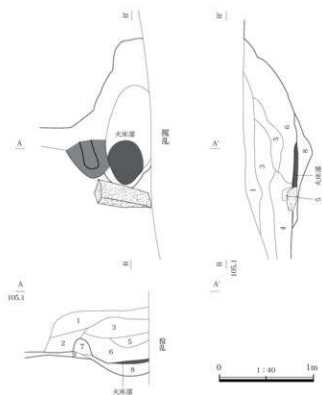
建物跡の時期は6世紀末～7世紀初頭である。



SI-1 土層説明

1 黒褐色土	今市バミス控少量、七本板バミス控微量混入。しりなし。	P4	1 黒褐色土	ロームブロック(1~5cm大)・ローム粒少量混入。しりなし。
2 黒色土	今市バミス控微量混入。3分の混入・粘質土。しりなし。		2 暗黄褐色土	ロームブロック(1~5cm大)・ローム粒中量多量混入。しりなし。
3 黒褐色土	地土ブロック(1~3cm大)・今市バミスブロック(1~3cm大)中量多量混入。しりなし。			
4 黒褐色土	ローム粒・今市バミス控中量多量、ロームブロック(1~10cm大)少量混入。しりなし。			
5 暗黄褐色土	ロームブロック・今市バミス控少量混入。しりなし。	P5	1 黒色土	ローム粒・今市バミス控・七本板バミス控微量混入。しりなし。
6 暗黄褐色土	ロームブロック・今市バミス控少量混入。しりなし。(壁際溝)		2 黒褐色土	ロームブロック(1~5cm大)・ローム粒・今市バミス控微量混入。しりなし。
7 黒褐色土	ローム粒・今市バミス控少量混入。しりなし。(壁際溝)		3 黒褐色土	ロームブロック(5cm大)中量多量混入。しりなし。
8 暗黄褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1~20cm大)中量多量混入。しりなしあり。(基礎)			
P1・2		P6	1 黒褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1~10cm大)中量多量混入。しりなしあり。
1 黒褐色土	ローム粒少量。今市バミス控微量混入。しりなし。			
2 暗黄褐色土	ロームブロック(1~5cm大)・ローム粒中量多量混入。しりなし。	P7	1 黒褐色土	黒色土ブロック・今市バミスブロック(1~3cm大)少量、七本板バミス控微量混入。しりなし。
P3		2 褐色土		ロームブロック(1cm大)・今市バミスブロック(1cm大)中量多量混入。しりなし。
1 黒褐色土	ロームブロック(1~5cm大)・ローム粒少量混入。しりなし。			
2 暗黄褐色土	ロームブロック(1~5cm大)・ローム粒中量多量混入。しりなし。			

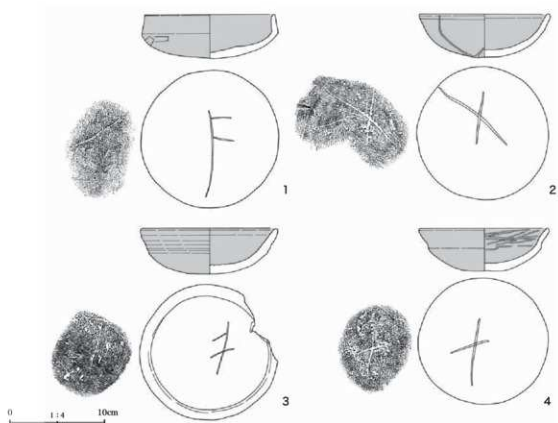
第4図 助五郎内遺跡 SI-1実測図



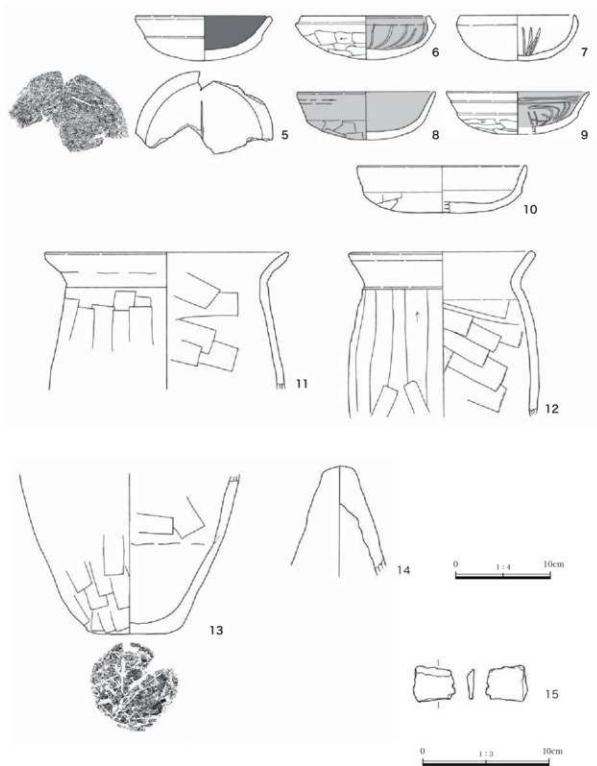
第5図 助五郎内遺跡 SI-1カマド実測図

SI-1カマド 土層説明

- 1 黒褐色土 今市バミス粒少量、七本松バミス粒微量混入。しまりなし。
- 2 暗褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック少量混入。しまりなし。
- 3 暗褐色土 焼土粒・今市バミス粒やや多量、黄白色粘土ブロック(1~3cm大)少量混入。しまりあり
- 4 暗褐色土 焼土粒・今市バミス粒少量混入。しまりあり
- 5 黄白色土 黄白色粘土ブロック・焼土ブロック(1~10cm大)少量混入。しまりあり。(カマド天井崩落土)
- 6 赤褐色土 焼土ブロック(1~3cm大)主体。灰・炭化物少量混入。しまりあり。(カマド天井内壁崩落土)
- 7 黄白色土 黄白色粘土主体、黒色土少量混入。しまりあり。(カマド壁)
- 8 黒色土 きめの細かい粘質土主体。焼土ブロック・今市バミスブロック(1~3cm大)少量混入。しまりなし。(カマド側方埋土)
- 9 暗褐色土 ロームブロック(1~20cm大)・今市バミスブロック(1~20cm大)やや多量混入。しまりあり。(墓床)



第6図 助五郎内遺跡 SI-1出土遺物 (1)



第7図 助五郎内遺跡 SI-1 出土物 (2)

第1表 助五郎内遺跡 SI-1 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 坏	口径: 13.6 底径: 一 器高: 4.6 重量: 285.0g	ガラス光沢 黒色粒、微 砂粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部粗いヘラミガキある も調整不明瞭 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部粗いヘラケズリ	内: 褐色 外: にぶい褐色 ・良	ほぼ完形	内外面漆仕上げ処理。 底部外面にヘラ記号。	内面剝離顕 著
2	土師器 坏	口径: 13.6 底径: 一 器高: 4.6 重量: 251.0g	微砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラミガキあるも調 整不明瞭 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部調整不明瞭なるもヘ ラケズリ	内: 褐~浅黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	完形	内外面漆仕上げ処理。 底部外面にヘラ記号。	内外面剝離 顕著
3	土師器 坏	口径: 13.9 底径: 一 器高: 4.9 重量: 351.0g	微砂粒、砂 粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部粗いヘラミガキある も調整不明瞭 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内: 褐色 外: 灰黄褐色 ・良	口縁部 1/6 欠損	内外面漆仕上げ処理。 底部外面にヘラ記号。	内面剝離顕 著
4	土師器 坏	口径: 13.4 底径: 5.0 器高: 4.5 重量: 238.0g	透明粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体~底 部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	完形	内外面漆仕上げ処理。 底部外面にヘラ記号。	内外面剝離 顕著
5	土師器 坏	口径: (14.4) 底径: 一 器高: (4.7)	黒色粒、微 砂粒、砂粒 小礫	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部調整不明瞭 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内: 黒色 外: オリーブ黒色 ・良	口縁部 1/4	内面黒色処理。底部 外面にヘラ記号。	覆土 内面剝離顕 著
6	土師器 坏	口径: (13.5) 底径: 一 器高: 4.6	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部放射状ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体部 横位・底部一定方向ヘラ ケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄色 ・良	1/2	内面漆仕上げ処理。	
7	土師器 坏	口径: (12.0) 底径: 一 器高: 4.8	微砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部放射状ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部調整不明瞭なるもヘ ラケズリ	内: 黒色 外: 黒褐色 ・良	1/4		覆土 外面剝離顕 著
8	土師器 坏	口径: 14.4 底径: 一 器高: 5.1 重量: 302.0g	ガラス光沢 黒色粒少量、 微砂粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ナデミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部不定方向ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: 浅黄色 ・良	ほぼ完形	口縁部外面に積み上 げ直を僅かに残す。 内外面漆仕上げ処理。	覆土 内外面剝離 顕著
9	土師器 坏	口径: (15.0) 底径: 一 器高: (4.5)	砂粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラミガキ 底部不定 方向ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内: 灰褐色 外: にぶい褐色 ・良	1/3	内面漆仕上げ処理。	覆土
10	土師器 坏	口径: (17.4) 底径: (6.0) 器高: 5.0	微砂粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ナデあるも調整不明瞭 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内: にぶい黄色 外: 明黄褐色 ・良	口縁部 1/6 底部 1/3		覆土 内面剝離顕 著
11	土師器 甕	口径: (25.2) 底径: 一 器高: (14.5)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 縦位ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい赤褐色 ・良	口縁部 1/8 胴部 上半 1/4	口縁部に僅かに歪みあり。 口縁部外面に積み上 げ直を残す。	覆土 外面剝離 顕著
12	土師器 甕	口径: 18.8 底径: 一 器高: (17.6)	透明粒、砂 粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内: 灰黄褐色 外: 明黄褐~褐色 ・良	口縁~胴 部 上半の み		
13	土師器 甕	口径: 一 底径: 9.0 器高: (17.5)	ガラス光沢黒 色粒、透明粒、 砂粒、小礫	内: 胴~底部ヘラナデ 外: 胴部斜・縦位ヘラケズ リ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい赤褐色 ・良	胴部 下半 1/2	全体に僅かに歪みあり。 胴部内面に積み上げ直を 残す。底部木炭あり。	覆土
14	土製品 支脚	口径: 一 底径: 一 器高: (11.3) 重量: 379.0g	微砂粒・砂 粒・小礫多 量	内: 体部ナデ・指頭圧痕 外: 体部ナデ	内: 褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	先端部 のみ		覆土
15	石製品 有孔方板	長軸: (3.3) 短軸: (2.3) 厚さ: 0.5 重量: 7.0g	頁岩		外: 浅黄色	不明	刺か。孔の直径 3.0mm。	覆土

SI-3 (第8・9図、第2表、図版七)

東調査区北西部の16-65グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-2と重複し、北壁を壊されている。

平面形は、やや歪みのある方形を呈する。規模は南北約2.94m、東西残存約3.67mで、面積は約10.8㎡である。主軸の振れはN-4°-Eである。

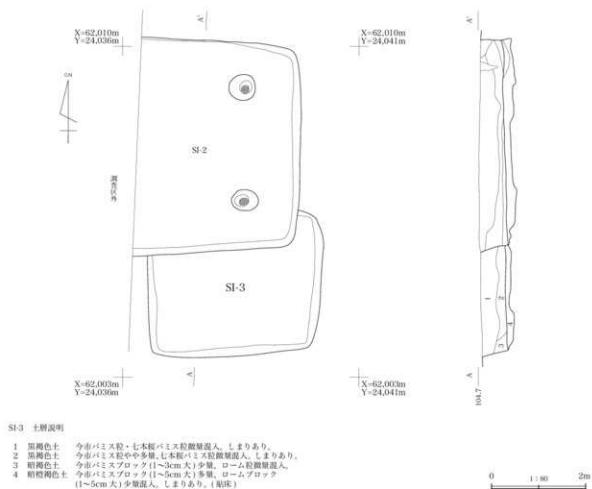
埋土は黒褐色土で、自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁54.4cm、西壁29.6cm、南壁57.4cmで外傾して立ち上がる。

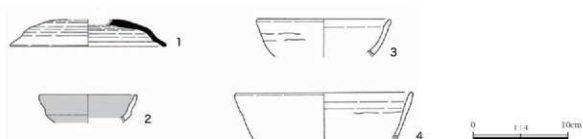
床は、掘方を暗橙褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約6.0～16.0cmを測る。カマド、柱穴、梯子穴は確認できなかった。

出土遺物は、土師器環14点113g、土師器甕98点2,938g、土師器鉢1点28g、須恵器坏蓋1点57g、須恵器環1点6g、須恵器甕1点83g、総重量116点3,225gが出土した。

建物跡の時期は7世紀中葉～後葉である。



第8図 助五郎内遺跡 SI-3実測図



第9図 助五郎内遺跡 SI-3出土遺物

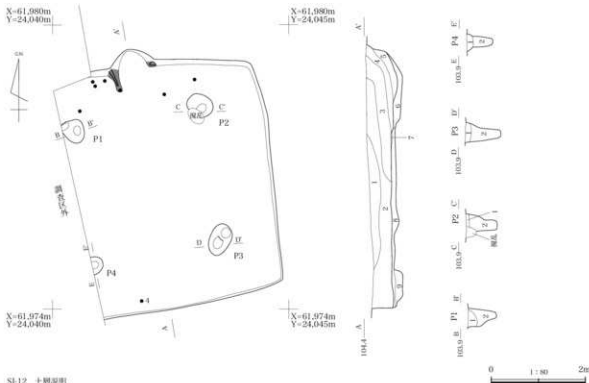
第2表 助五郎内遺跡 SI-3出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 环蓋	胴径：— 口径：(16.4) 器高：(2.8)	微砂粒、砂 粒	内：天井～裾部ロクロナ デ 外：天井部回転ヘラケズ リ、体～裾部ロクロナ デ	内：灰色 外：灰色 ・良	口縁部 1/6	内面に僅かに返りをも つ。	
2	土師器 杯	口径：(10.0) 底径：— 器高：(3.0)	緻密	内：口縁部ヨコナデ、体 ～底部ナデ 外：口縁部ヨコナデ、体 ～底部ヘラケズリ	内：にぶい黄褐色 外：にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/6	内外面磨仕上げ処理。	
3	土師器 杯	口径：(13.6) 底径：— 器高：(4.0)	微砂粒	内：口縁～体部ヨコナデ 外：口縁部ヨコナデ	内：黒褐色 外：灰黄色 ・良	口縁部 1/10	体部外面に積み上げ痕 を残す。	小片
4	土師器 鉢	口径：(18.6) 底径：— 器高：(4.9)	微砂粒	内：口縁部ヨコナデ 外：口縁部ヨコナデ	内：にぶい黄褐色 外：にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/10	体部内面に積み上げ痕 を残す。	小片

SI-12 (第10・11図、第3表、図版三・一六)

東調査区西部の17-66グリッドに位置する。西部は調査区外のため未調査である。

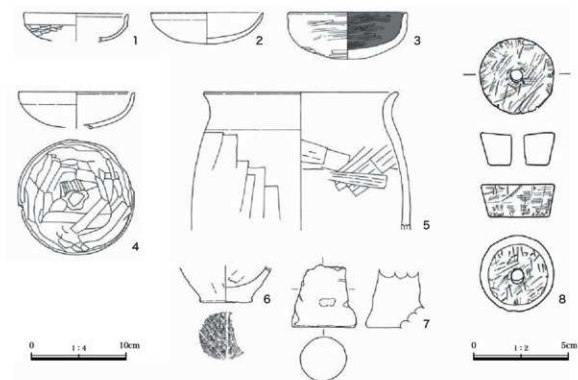
平面形は、方形を呈するものと思われる。規模は確認できた範囲で南北約5.25m、東西約4.13mで、面積は約21.7㎡である。主軸の振れはN-10°-Wである。埋土は暗褐色～黒褐色で、自然堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁56.1cm、南壁51.5cm、北壁54.0cmで垂直に近く立ち上がる。床は、掘方を暗橙褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約6.0～24.0cmを測る。壁際溝は確認されていない。主柱穴P1～4を確認した。規模はP1:50.0×50.0cm、深さ60.0cm、P2:77.0×27.0cm、深さ67.0cm、P3:55.0×18.0cm、深さ75.0cm、P4:35.0×残存10.0cm、深さ55.0cmである。カマドは北壁中央に構築され、僅かに袖が残存していた。袖は幅6.0～16.0cm、長さ6.0～36.0cmで、両袖間の幅は約80.0cmである。カマド掘方は深さ18.0cmで、北壁への突出は36.0cm。出土遺物は、土師器環10点402g、土師器瘻45点2,727g、土師器碗5点55g、須恵器環1点16g、須恵器瘻3点102g、支脚1点250g、石製品(紡錘車)1点46g、総重量66点3,598gが出土した。1・4は口縁部内面に沈線をもつ。建物跡の時期は7世紀中葉である。



SI-12 土層説明

1 暗褐色土	今市バミス段や多量、七木阪バミス段層混入。しまりあり。	P1	1 黒褐色土	ロームブロック(1~3cm大)・ローム粒少量混入。しまりなし。
2 黒褐色土	今市バミスブロック・七木阪バミスブロック(3cm大)、今市バミス段・七木阪バミス段や多量。黒色土ブロック(3~10cm大)少量混入。しまりなし。	2 暗褐色土	ロームブロック(1~10cm大)・ローム粒や多量混入。しまりなし。	
3 褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1~5cm大)多量、焼土ブロック・焼土粒少量混入。	P2	1 黒褐色土	ロームブロック(1~3cm大)・今市バミスブロック(1~3cm大)少量混入。しまりあり。
4 灰褐色土	白色粘土ブロック(1~5cm大)や多量、焼土ブロック(1~5cm大)・焼土粒少量混入。しまりあり。	2 暗褐色土	ロームブロック(1~10cm大)・ローム粒や多量混入。しまりなし。	
5 灰黒色土	灰主体。焼土ブロック(1~3cm大)・焼土粒少量混入。しまりなし。(灰及びカマド内壁跡跡土)	P3・P4	1 黒褐色土	ロームブロック(1~3cm大)・ローム粒少量混入。しまりなし。
6 灰黒色土	白色粘土ブロック・今市バミスブロック(1~5cm大)。口の面が(灰色土)少量混入。しまりなし。(カマド掘方埋土)	2 暗褐色土	ロームブロック(1~10cm大)・ローム粒や多量混入。しまりなし。	
7 灰白色土	白色粘土主体。ロームブロック・今市バミスブロック(1cm大)少量混入。しまりあり。			
8 暗橙褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1~10cm大)主体。黒色土少量混入。しまりあり。(貼床)			
9 黒褐色土	ロームブロック・今市バミス・焼土ブロック(1~5cm大)・きの細かい褐色土少量混入。しまりなし。			

第10図 助五郎内遺跡 SI-12実測図



第11図 助五部内遺跡 SI-12 出土遺物

第3表 助五部内遺跡 SI-12 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 坏	口径:(10.8) 底径:— 器高:(3.0)	磁部	内:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラナデ後ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内:黒褐色 外:浅黄褐色 ・良	口縁部 1/5	小形で器厚は薄い。口 縁部内面に沈線。	覆土
2	土師器 坏	口径:11.8 底径:— 器高:3.3	微砂粒少量	内:調整不明なるも口縁 部~底部ヘラミガキ 外:調整不明なるも口縁 部ヨコナデ、体~底部ヘ ラケズリ後ナデ	内:赤褐色 外:にぶい赤褐色 ・良	口縁部 3/4 体~底部 完存		覆土 器表剥落
3	土師器 坏	口径:(12.3) 底径:— 器高:4.9	砂粒多量、 ガラス光沢 黒色粒少量	内:口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体部 ナデ後ヘラミガキ、底部 ヘラケズリ	内:黒色 外:にぶい黄褐色 ・良	1/4	内面黒色処理。	覆土
4	土師器 坏	口径:12.1 底径:— 器高:3.9 重量:140.0g	黒色粒、微 砂粒	内:口縁~底部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部布ナデ後ヘラケズリ	内:褐色 外:褐色 ・良	ほぼ完形	底部中央に穿孔あり。 口縁部内面に沈線。	
5	土師器 甕	口径:(20.0) 底径:— 器高:(14.6)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部 横・縦位ヘラケズリ後ヘラ ナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 縦位ヘラケズリ後ヘラナデ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁~胴 部上半 1/5	胴部内面に積み上げ痕 を残す。	
6	土師器 甕	口径:— 底径:(5.2) 器高:—	黒色粒・砂 粒多量、小 礫少量	内:胴~底部ヘラナデ 外:胴部ヘラナデ	内:黒色 外:黒褐色 ・良	底部 4/5	底部木炭痕あり。	覆土
7	土製品 支脚	口径:— 底径:6.4 器高:(6.6) 重量:250.0g	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	外:指頭正痕	外:にぶい黄褐色 ・良	上半欠損		覆土
8	石製品 紡錘車	上径:3.9 下径:3.1 厚さ:1.7 重量:46.0g	粘板岩か		外:黒褐色	完存		覆土

SI-13 (第12・13図、第4表、図版三・一六・一七)

東調査区中央の17.65グリッドに位置する。南に奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-14が近接する。

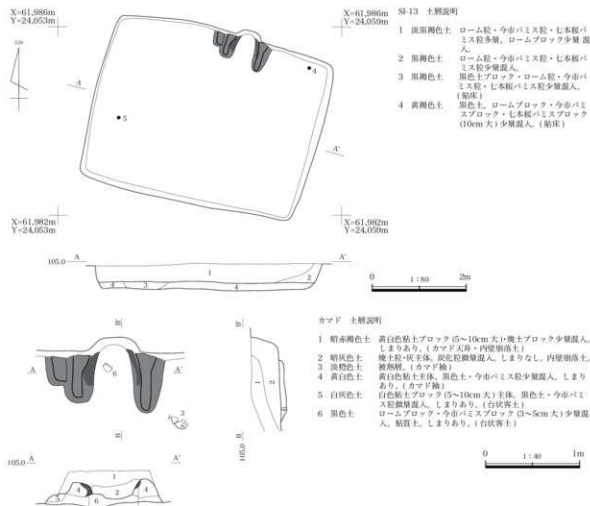
平面形は、やや東西の長い方形を呈する。規模は南北約3.83m、東西約4.90mで、面積は約18.8㎡である。主軸の振れはN-16°-Eである。

埋土は粘土ブロック・焼土・炭化物を含み、人為堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁37.4cm、西壁34.0cm、南壁40.0cm、北壁31.1cmで、外傾して立ち上がる。床は、掘方を黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約12.0～18.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認できなかった。

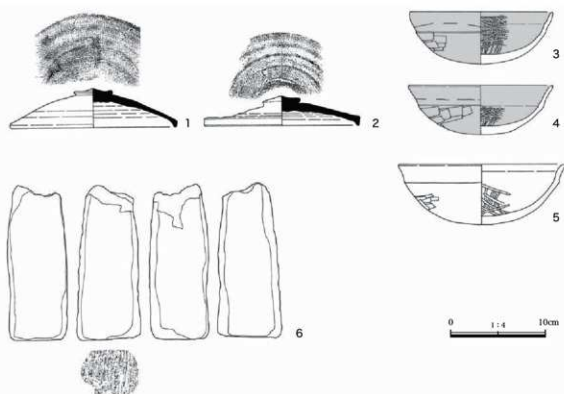
カマドは北壁中央に構築され、黄白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅30.0～32.0cm、長さ48.0～55.0cm、高さ約14.0～19.0cmで、両袖間の幅は約70.0cmである。掘方は掘らず、台状に客土した上に袖を構築している。北壁への突出は14.0cmである。

遺物出土状況は、土師器環が床に近い位置で出土している。

出土遺物は、土師器環14点740g、土師器甕45点804g、須恵器環蓋2点520g、支脚1点794g、総量62点2,858gが出土した。1・2の須恵器環蓋は8世紀代で、土師器環と大きく差があるが、出土状況から土師器環が建物跡に伴う遺物と判断する。建物跡の時期は6世紀後葉である。



第12図 助五郎内遺跡 SI-13実測図



第13図 助五郎内遺跡 SI-13 出土遺物

第4表 助五郎内遺跡 SI-13 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 环蓋	幅径: 3.8 口径: 17.2 器高: 4.2 重量: 260.0g	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、微砂 粒、砂粒、 小礫	内: 天井～裾部ロクロナ デ 外: 体部～裾部ロクロ ナデ、天井部回転ヘラケズ リ、揃み貼付後ロクロナ デ	内: 褐色 外: 灰オリーブ色 ・やや不良	口縁部 3/4 天井部完 存	外面に観利なヘラ記号、 天井部に2方所。	
2	須恵器 环蓋	幅径: 3.9 口径: 16.3 器高: 3.1 重量: 289.0g	砂粒、小礫	内: 天井～裾部ロクロナ デ 外: 体部～裾部ロクロナ デ、天井部回転ヘラケズ リ、揃み貼付後ロクロナ デ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁部 3/4 天井部完 存	全体に歪みあり。外面 にヘラ記号あり。	
3	土師器 环	口径: 15.0 底径: - 器高: 5.5 重量: 270.0g	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、微砂 粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体～底部不定方 向の粗いヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、調整 不明瞭なるも体～底部ヘ ラケズリ	内: 黒褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁部一 部欠損	内外面漆仕上げ処理。 外面剥落	
4	土師器 环	口径: (15.0) 底径: - 器高: 5.2	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体～ 底部不定方向の粗いヘラ ミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体～ 底部ヘラケズリ	内: にぶい褐色 外: にぶい褐色 ・良	1/2	内面漆仕上げ処理。	
5	土師器 环	口径: (17.4) 底径: - 器高: 6.3	黒色粒・微 砂粒・小礫 少量	内: 口縁部ヨコナデ、体～ 底部粗いヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体部 下端～底部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい褐色 ・良	1/2	やや大形。	
6	土製品 支脚	口径: - 底径: - 器高: (16.4) 重量: 794.0g	透明粒、砂 粒、小礫	外: ナデ・ヘラナデ	外: にぶい黄褐色 ・良	一部欠損		

SI-18 (第14・15図、第5表、図版三・一七)

東調査区中央の18-66グリッドに位置する。東側に古墳時代に属す大型の竪穴建物跡SI-20が、南側にもSI-19が近接する。覆乱により北壁中央を破壊され、カマド煙道部が失われている。

平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約5.55m、東西約5.50mで、面積は約31.0㎡である。主軸の振れはN-2°-Eである。埋土は暗褐色・黒褐色を呈し、自然堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁22.7cm、西壁15.2cm、南壁22.0cm、北壁17.4cmで、外傾して立ち上がる。床は、掘方を暗褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約6.0～14.0cmを測る。壁際溝は確認されていない。

柱穴は、主柱穴P1～4を確認した。規模はP1:37.0×37.0cm、深さ45.0cm、P2:40.0×39.0cm、深さ42.0cm、P3:33.0×25.0cm、深さ57.0cm、P4:37.0×36.0cm、深さ55.0cmである。P3・4で柱痕跡が確認された。

カマドは北壁やや西寄りに構築され、ロームを掘り残して形成し、部分的に灰白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅48.0～58.0cm、長さ68.0～70.0cm、高さ約20.0cmで、両袖間の幅は約70.0cmである。カマド掘方は深さ11.0cm、覆乱により北壁への突出部分は確認できなかった。

遺物出土状況は、カマド付近だけでなく、建物南半からも多く出土している。土師器環54点838g、土師器高環2点895g、土師器甕245点7.138g、土師器甕1点1.792g、土師器鉢3点125g、土師器手捏ね土器2点19g、土製紡錘車1点31g、総量308点10.838gと自然礫2.500gが出土した。土師器環は、口縁部が内傾するもの、外傾するものがある。いずれも小型・扁平化が進んでいる。土師器高環は長脚のものと短脚のものがある。短脚のものは、環部の開きが弱く器高がやや高い。9は口縁部に最大径をもつ無底式の甕だが、長胴化せずミガキがみられない。10はハケ目のある土師器甕。14は高環形のミニチュア土器、15はコップ形のミニチュア土器である。建物跡の時期は7世紀前葉である。

SI-19 (第16～18図、第6表、図版四・一七)

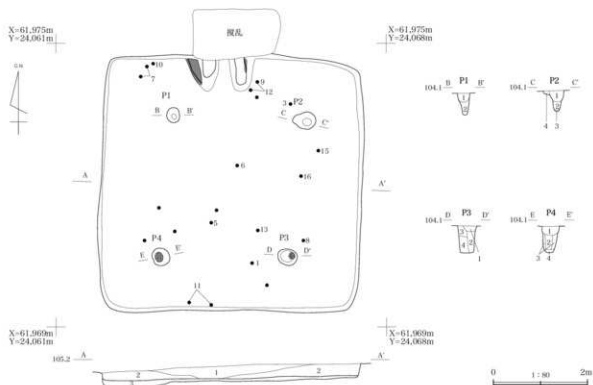
東調査区南部の18-66グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡SI-41と重複しており、建て替えによるものか。また奈良・平安時代の掘立柱建物跡SB-36と重複し、SB-36が新しい。古墳時代の竪穴建物跡SI-18・20が近接する。

平面形は、方形を呈する。規模は南北約5.70m、東西約6.15mで、面積は約35.1㎡である。主軸の振れはN-5°-Eである。埋土は黒褐色を呈する単層である。残存する壁の高さは、東壁20.0cm、西壁23.2cm、南壁3.9cm、北壁23.4cmで、外傾して立ち上がる。床は、掘方を暗褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約6.0～10.0cmを測る。南壁で壁際溝を確認し、幅は18.0～44.0cmである。

柱穴は、主柱穴P1～4と梯子穴P6を確認した。規模はP1:30.0×27.0cm、深さ65.0cm、P2:35.0×20.0cm、深さ61.0cm、P3:32.0×24.0cm、深さ52.0cm、P4:32.0×31.0cm、深さ74.0cmである。梯子穴P6は南壁中央の壁に寄った位置で確認された。36.0×12.0cm、深さ25.0cmである。貯蔵穴P5を確認した。平面方形を呈し、62.0×55.0cm、深さは30.0cmで、底面は平坦である。

カマドは北壁中央に構築され、白色粘土で構築された両袖が残存しており、床には火床面が形成されている。袖は幅30.0～32.0cm、長さ46.0～50.0cm、高さ約22.0～34.0cmで、両袖間の幅は約70.0cmである。掘方は深さ12.0cmで、北壁への突出は46.0cmである。

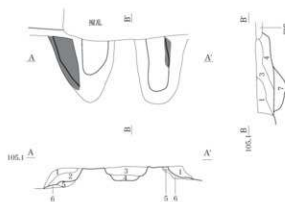
出土遺物は、土師器環2点390g、土師器甕16点1.535g、総量18点1.925gが出土した。建物跡の時期は6世紀末～7世紀初頭か。



SI-18 土層説明

- 1 暗褐色土 今市バミス粒少量、七本椀バミス粒微量混入。しまりあり。
 2 黒褐色土 今市バミス粒多量、黒色土ブロック(1~5cm大)、ロームブロック・今市バミスブロック(1~3cm大)少量、炭化物微量混入。しまりなし。
 3 暗褐色土 今市バミスブロック(1~20cm大)多量、ロームブロック(1~20cm大)・黒色土少量混入。しまりあり。(船床)
- P1
 1 黒褐色土 ロームブロック(1~3cm大)・今市バミス粒・七本椀バミス粒少量混入。しまりあり。
 2 暗褐色土 ロームブロック(1~10cm大)主体。今市バミス粒少量混入。しまりあり。ロームブロックはよく崩れ引き締まる。
- P2
 1 暗褐色土 ロームブロック(1~3cm大)・今市バミス粒・七本椀バミス粒少量混入。しまりあり。
 2 暗褐色土 ロームブロック(1~10cm大)主体。今市バミス粒少量混入。しまりあり。ロームブロックはよく崩れ引き締まる。
 3 明黄褐色土 白色粘土ブロック・ロームブロック(1~3cm大)少量、黒色土ブロック(1~3cm大)微量混入。しまりあり。
- 4 暗褐色土 今市バミスブロック(1~20cm大)多量、ロームブロック(1~20cm大)・黒色土少量混入。しまりあり。

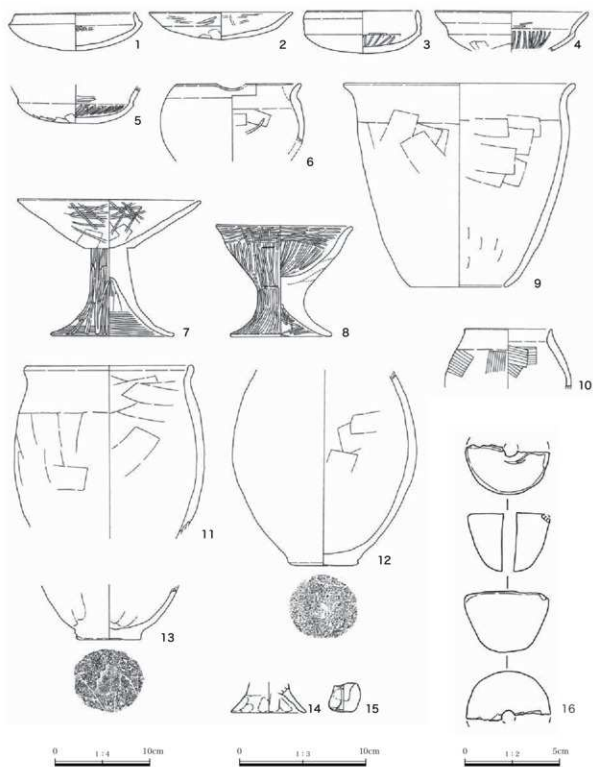
- P3
 1 暗褐色土 今市バミス粒少量、七本椀バミス粒微量混入。しまりなし。(SI-18 2層と同一。柱取後埋土)。
 2 黒褐色土 ロームブロック(1~3cm大)・今市バミス粒少量混入。しまりなし。(柱取跡)
 3 暗黄褐色土 ローム主体、黒色土ブロック(1~10cm大)・今市バミス粒微量混入。しまりあり。(柱取方埋土)
 4 暗黄褐色土 ローム主体。今市バミス粒微量混入。しまりあり。(柱取方埋土)
- P4
 1 暗褐色土 今市バミス粒少量、七本椀バミス粒微量混入。しまりなし。(SI-18 2層と同一。柱取後埋土)。
 2 黒褐色土 ロームブロック(1~3cm大)・今市バミス粒少量混入。しまりなし。(柱取跡)
 3 暗黄褐色土 ローム主体、黒色土ブロック(1~10cm大)・今市バミス粒微量混入。しまりあり。(柱取方埋土)
 4 明黄褐色土 白色粘土ブロック・ロームブロック(1~3cm大)少量、黒色土ブロック(1~3cm大)微量混入。しまりあり。



カマド 土層説明

- 1 黒褐色土 白色粘土ブロック(1~3cm大)、今市バミスブロック(1~5cm大)・今市バミス粒少量混入。しまりあり。
 2 暗灰白色土 (白色粘土主体、黒色土ブロック(1~3cm大)少量、焼土粒・今市バミス粒微量混入。しまりあり。(焼崩底土))
 3 灰褐色土 ロームブロック(1~5cm大)、白色粘土ブロック・焼土ブロック(1~3cm大)、今市バミス粒少量混入。しまりあり。(カマド天井・内壁崩落土)
 4 褐色土 焼土ブロック・今市バミスブロック(1cm大)、今市バミス粒少量混入。しまりあり。
 5 灰白色土 白色粘土主体、焼土粒微量混入。しまりあり。(カマド袖)
 6 灰黒色土 今市バミスブロック(1~3cm大)、今市バミス粒少量混入。灰黒色土はキメの細かい粘土。しまりなし。(カマド袖)
 7 暗黄褐色土 ロームブロック(1~10cm大)主体、黒色土ブロック・今市バミスブロック(3cm大)、今市バミス粒少量混入。しまりあり。(カマド風方埋土)

第14図 助五郎内遺跡 SI-18 実測図



第15図 助五郎内遺跡 SI-18 出土遺物

第5表 助五郎内遺跡 SI-18 出土遺物観察表

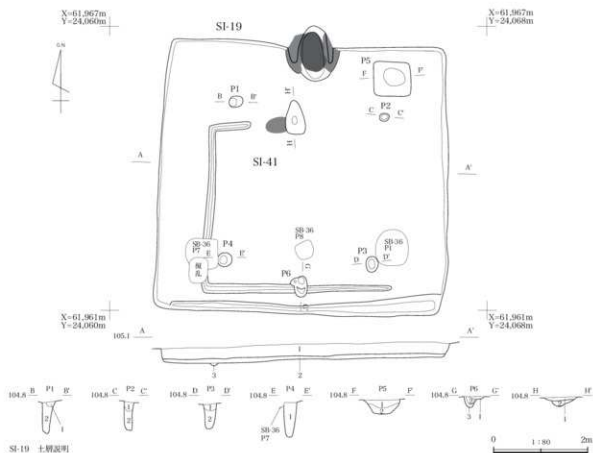
No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径:(12.6) 底径:— 器高:4.0	透明粒、微 砂粒、砂粒	内:調整不明瞭なるも口縁 部ヨコナデ、体~底部ヘ ラミガキ 外:調整不明瞭なるも口縁 部ヨコナデ、体~底部ヘ ラケズリ	内:褐色 外:褐色 ・良	口縁部 1/6 体~底部 完存		器表剥落顕 著
2	土師器 環	口径:(15.0) 底径:— 器高:2.9	砂粒少量、 小礫微量	内:調整不明瞭なるも口縁 部ヨコナデ後ヘラミガキ、 体部ヘラミガキ 外:調整不明瞭なるも口縁 部ヨコナデ後ヘラミガキ、 体部ヘラケズリ後ナデ	内:褐色 外:褐色 ・良	1/2		器表剥落顕 著
3	土師器 環	口径:11.6 底径:— 器高:4.5	黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラナデ後放射状の 粗いヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ後ナデ	内:にぶい赤褐色 外:褐色 ・良	一部欠損		
4	土師器 環	口径:(16.0) 底径:— 器高:(4.2)	微砂粒多量、 砂粒少量、 黒色粒微量	内:口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体部放射状ヘラ ミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体部 ヘラケズリ	内:赤褐色 外:赤褐色 ・良	1/2		カマド
5	土師器 環	口径:— 底径:— 器高:(4.0)	砂粒少量、 雲母微量	内:口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部放射状 ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部粗いヘラケズリ	内:赤褐色 外:赤褐色 ・良	1/4		
6	土師器 鉢	口径:(13.1) 底径:— 器高:(6.5)	黒色粒、砂 粒	内:口縁部ヨコナデ、体部 ヘラナデ後粗いヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体部 ナデ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/8		小片
7	土師器 高環	口径:19.2 底径:(14.6) 器高:14.4	砂粒、小礫	内:環部ヘラナデ後ヘラミ ガキ、脚部ヨコナデ後脚 部粗いヘラミガキ 外:環部ヘラナデ後ヘラミ ガキ、脚部ヘラミガキ	内:褐色 外:褐色 ・良	環部2/3 脚部完存 頸部1/4		カマド
8	土師器 高環	口径:14.2 底径:(10.3) 器高:11.8 重量:584.0g	黒色粒、透 明粒	内:口縁部縦位・体部内面放 射状ヘラミガキ、脚部不定 方向ヘラミガキ 外:体~脚部粗いヘラミガキ	内:暗赤褐色 外:暗赤褐色 ・良	ほぼ完形		
9	土師器 甌	口径:24.2 底径:(10.0) 器高:21.6	透明粒・砂 粒、小礫多 量	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ、一部ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・やや不良	胴部下平 ~ 底部2/3 欠損	無底式。	
10	土師器 甕	口径:(9.0) 底径:— 器高:(6.2)	黒色粒、透 明粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ、胴部 刷毛目様ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 刷毛目様ヘラケズリ後ナデ	内:黒褐色 外:暗赤褐色 ・やや不良	口縁部 1/4	小形。口縁は直立気味 に立つ。	小片
11	土師器 甕	口径:(17.4) 底径:— 器高:(18.3)	黒色粒、透 明粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ	内:灰黄褐色 外:褐色 ・良	口縁部一 部 胴部1/4	最大径を胴中部にもつ。	
12	土師器 甕	口径:— 底径:7.2 器高:(20.6)	透明粒、砂 粒、小礫	内:胴~底部ヘラナデ 外:胴部不明瞭なるもヘラ ナデ、底部ナデ	内:にぶい黄褐色 外:黒褐色 ・やや不良	胴部1/4 底部完存	胴部やや球形。底部 外面やや凸状をなす。	
13	土師器 甕	口径: 底径:6.6 器高:—	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、小礫	内:胴部ナデ 外:胴部ナデ	内:にぶい黄褐色 外:黄褐色 ・良	底部完存	底部木葉痕あり。	
14	土師器 ミニチュ ア土器	口径:— 底径:(5.8) 器高:(2.3)	黒色粒・透 明粒微量	内:ナデ 外:指頭王痕・ナデ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	1/5		
15	土師器 ミニチュ ア土器	口径:1.8 底径:2.1 器高:2.3 重量:11.0g	砂粒少量	内:ナデ 外:指頭王痕・ナデ	内:暗赤褐色 外:暗赤褐色 ・良	完形		
16	土製品 紡錘車	上径:4.3 下径:— 厚さ:3.1 孔径:0.7 重量:31.0g	黒色粒、砂 粒	内:人念なヘラミガキ	外:にぶい黄褐色 ・良	1/2		

SI-41 (第16・19図、第7表、図版四)

調査区南東部の18-66グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡SI-19と重複し、本建物跡は残存した壁際溝によってかろうじて平面規模を確認できた。SI-19は本建物跡の建て替えであろうか。また、掘立柱建物跡SB-36が重複し、SB-36が新しい。

確認できたのは壁際溝の一部とカマドの掘方のみである。壁際溝は、一部SB-36によって切られているが、北西～南部にかけて残存しており、幅は6.0～20.0cm、深さは8.0cmである。建物の平面規模は、東西約4.00×南北約3.54m、面積約14.2㎡程度と推定される。カマド掘方は深さ12.0cm、若干の粘土の残存を確認した。

出土土物は、壁際溝埋土およびカマド掘方埋土から土師器裏4点144gが出土した。建物跡の時期は、SI-19に先行する6世紀中葉～後葉か。



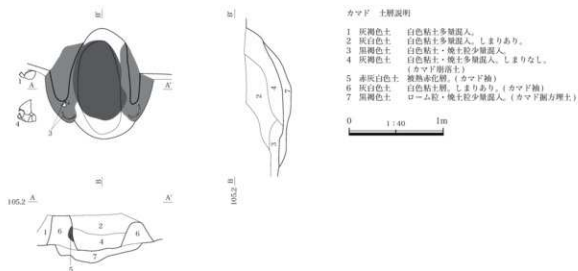
SI-19 土壁説明

- | | |
|-------------|--|
| 1 黒褐色土 | 今市バミス粒・七本坂バミス粒少量、今市バミスブロック(1~5cm大)少量混入。しりりあり。 |
| 2 暗褐色土 | 今市バミスブロック・七本坂バミスブロック(1~20cm大)やや多量混入。しりりあり。(船床) |
| 3 黒褐色土 | ルームブロック・今市バミスブロック(1~3cm大)少量混入。しりりなし。(SI-41壁際溝) |
| P1・P2・P3・P5 | |
| 1 黒褐色土 | 今市バミス粒少量、七本坂バミス粒微量混入。しりりなし。 |
| 2 暗黄褐色土 | ルームブロック・今市バミスブロック(1~3cm大)やや多量混入。しりりなし。 |
| P4 | |
| 1 暗黄褐色土 | ルームブロック・今市バミスブロック(1~3cm大)やや多量混入。しりりなし。 |

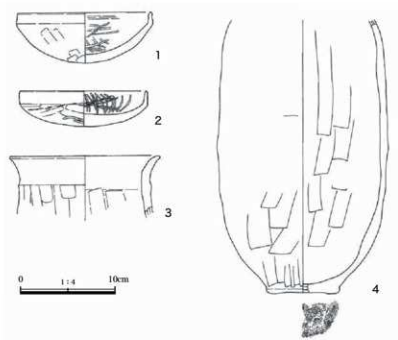
- | | |
|--------|--|
| P6 | |
| 1 黒褐色土 | ルーム粒・今市バミス粒少量混入。しりりあり。 |
| 2 暗褐色土 | 今市バミス粒の少量、ルームブロック・今市バミスブロック(1cm大)少量混入。(柱頭跡) |
| 3 褐色土 | ルーム粒・今市バミス粒やや多量、ルームブロック・今市バミスブロック(1~3cm大)少量混入。しりりあり。 |

- | | |
|---------------|--|
| SI-41 カマド(H1) | |
| 1 黒褐色土 | 白色粘土ブロック・今市バミスブロック(1~3cm大)少量混入。しりりあり。(SI-19船床) |
| 2 暗褐色土 | ルームブロック・粘土ブロック・今市バミスブロック(1~3cm大)、焼土粒やや多量混入。しりりなし。(カマド掘方埋土) |

第16図 助五郎内遺跡 SI-19・41 実測図



第17図 助五郎内遺跡 SI-19カマド実測図



第18図 助五郎内遺跡 SI-19出土遺物



第19図 助五郎内遺跡 SI-41出土遺物

第6表 助五郎内遺跡 SI-19 出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径:(14.0) 底径:— 器高:5.4	ガラス光沢 黒色粒、微 砂粒	内:口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部ヘラミ ガキ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ後ナデ	内:黒褐色 外:黒色 ・良	1/3		カマド
2	土師器 環	口径:13.2 底径:— 器高:3.8 重量:248.0g	黒色粒多量、 砂粒少量	内:口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部ヘラナ デ後ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ナデ後ヘラミガキ	内:にぶい褐色 外:にぶい褐色 ・良	ほぼ完形	口縁部内面に漆付着。	
3	土師器 甕	口径:(15.6) 底径:— 器高:(6.5)	黒色粒・透 明粒・砂粒・ 小礫微量	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/2		カマド
4	土師器 甕	口径:— 底径:(6.8) 器高:(29.0)	透明粒、砂 粒、小礫	内:胴部縦位ヘラケズリ様 ヘラナデ 外:胴部縦位ヘラケズリ後 ヘラナデ、底部ナデ	内:褐色 外:暗褐色 ・良	胴~底部 1/2	長めの胴部。凸状の底 部。	カマド

第7表 助五郎内遺跡 SI-41 出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 甕	口径:(20.6) 底径:— 器高:(5.8)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ・ヘラナデ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/5		カマド

SI-20 (第20～22図、第8表、図版四・一七)

東調査区南部の18-66グリッドに位置する。当遺跡で最大規模の竪穴建物跡である。同じく古墳時代の竪穴建物跡SI-18・19が近接する。

平面形は、歪みのある方形を呈する。規模は南北約8.30m、東西約8.05mで、面積は約66.8㎡である。主軸の振れはN-5°・Eである。

埋土は暗褐色土の単層である。

残存する壁の高さは、東壁21.0cm、西壁11.1cm、南壁14.1cm、北壁18.0cmで、外傾して立ち上がる。

床は、掘方を主に橙褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約6.0～16.0cmを測る。壁際溝は確認されていない。

柱穴は、支柱穴P1～4と、不明ビットP6を確認した。規模はP1:73.0×70.0cm、深さ80.0cm、P2:56.0×52.0cm、深さ94.0cm、P3:75.0×74.0cm、深さ105.0cm、P4:63.0×40.0cm、深さ105.0cmである。4本全ての柱穴で柱痕跡が確認された。

貯蔵穴P5は北東コーナーで確認され、116.0×85.0cm、深さ72.0cm、底面は平坦である。

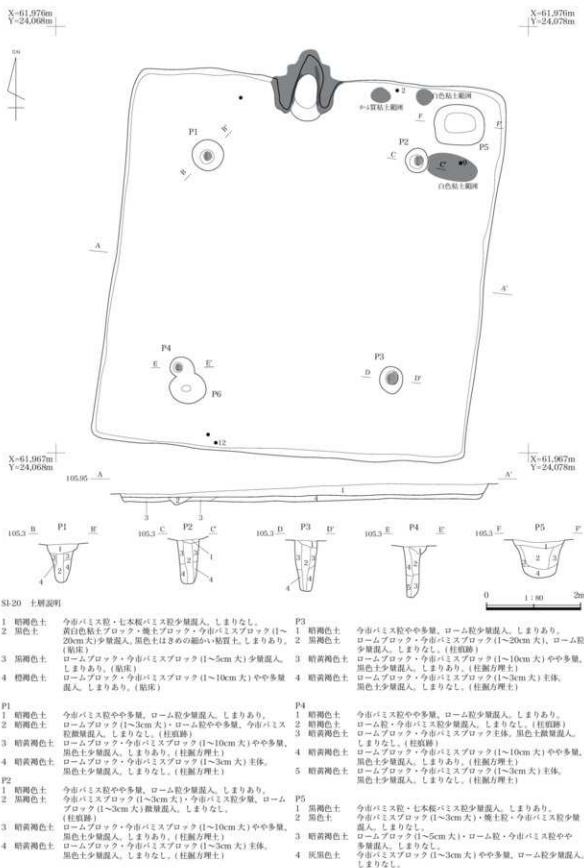
カマドは北壁やや西寄りに構築され、白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅34.0～40.0cm、長さ63.0～68.0cm、高さ約16.0～20.0cmで、両袖間の幅は約79.0cmである。袖内側は被熱赤化がみられる。カマド掘方は深さ10.0cmで、北壁への突出は56.0cmである。

北西コーナーに、白色粘土が確認されている。

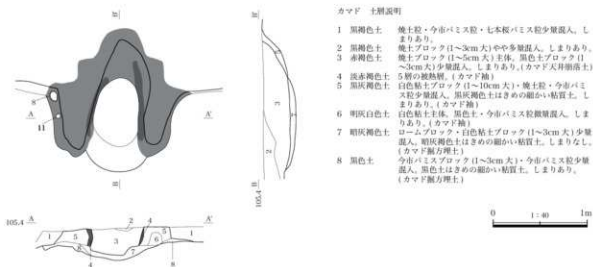
出土遺物は、土師器環11点765g、土師器甕128点3,586g、土師器鉢4点133g、須恵器環1点21g、縄量144点4,505gと自然礫3,543gが出土した。

土師器環は口縁が外傾するもの、外反するもの、半球形のもの、内彎口縁のものがみられる。

建物跡の時期は6世紀後葉である。



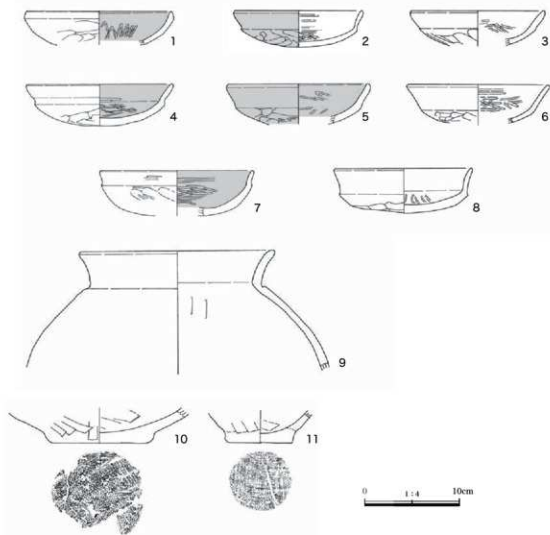
第20図 助五郎内遺跡 SI-20 実測図



カマド 土層説明

- 1 黒褐色土 焼土粒・今市パミス粒・七本板パミス粒少量混入。し
まりあり。
- 2 黒褐色土 焼土ブロック(1~3cm大)やや多量混入。しまりあり。
- 3 赤褐色土 焼土ブロック(1~5cm大)主体。黒色土ブロック(1
~3cm大)少量混入。しまりあり。(カマド大井筋落土)
- 4 灰赤褐色土 5層の焼土層。(カマド軸)
- 5 黒灰褐色土 白色粘土ブロック(1~10cm大)・焼土粒・今市パミ
ス粒少量混入。黒灰褐色土はきめの細かい粘質土。し
まりあり。(カマド軸)
- 6 明灰白色土 白色粘土主体。黒色土・今市パミス粒微量混入。しま
りあり。(カマド軸)
- 7 暗灰褐色土 ロームブロック・白色粘土ブロック(1~3cm大)少量
混入。暗灰褐色土はきめの細かい粘質土。しまりなし。
(カマド風方埋土)
- 8 黒色土 今市パミスブロック(1~3cm大)・今市パミス粒少量
混入。黒色土はきめの細かい粘質土。しまりあり。
(カマド風方埋土)

第21図 助五郎内遺跡 SI-20カマド実測図



第22図 助五郎内遺跡 SI-20出土遺物

第8表 助五郎内遺跡 SI-20 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径:(15.2) 底径:— 器高:(3.6)	黒色粒、微 砂粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ後、 体部ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、 体部ヘラケズリ後粗い放射 状ヘラミガキ	内:黒褐色 外:黒褐色 ・良	口縁部 1/4	漆仕上げ処理。	P5 1・2層
2	土師器 環	口径:13.4 底径:— 器高:3.9	黒色粒・砂 粒多量	内:口縁部ヨコナデ後ヘ ラミガキ、体部ヘラミ ガキ 外:口縁部ヨコナデ、 体部ヘラケズリ後ナデ、 底部ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:黒褐色 ・良	口縁部 4/3 体部 底部 完存	外面漆仕上げ処理。	
3	土師器 環	口径:(13.8) 底径:— 器高:(3.7)	ガラス光沢 黒色粒・微 砂粒多量	内:口縁部ヨコナデ後ヘ ラミガキ、体部ヘラミガ キ 外:口縁部ヨコナデ、 体部ヘラケズリ	内:黄灰色 外:黄灰色 ・良	1/6		覆土
4	土師器 環	口径:(15.2) 底径:— 器高:4.5	黒色粒、透 明粒、微砂 粒、砂粒、	内:口縁部ヨコナデ、 体部ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、 体部ヘラケズリ	内:黒褐色 外:褐色 ・良	口縁部 1/7	漆仕上げ処理。	P5 3・4層
5	土師器 環	口径:(14.6) 底径:— 器高:(4.2)	黒色粒、透 明粒、微砂 粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ後ヘ ラミガキ、体部粗いヘラ ミガキ 外:口縁部ヨコナデ後ヘ ラミガキ、体部ヘラケズ リ後粗いヘラミガキ	内:黒褐色 外:黒褐色 ・良	口縁部 1/4	内外面漆仕上げ処理。	覆土
6	土師器 環	口径:(14.7) 底径:— 器高:(4.0)	透明粒・砂 粒少量小礫 微量	内:口縁部ヨコナデ後ヘ ラミガキ、体部ヘラミガ キ 外:口縁部ヨコナデ、 体部ヘラケズリ	内:浅黄褐色 外:浅黄褐色 ・良	1/4		覆土
7	土師器 環	口径:(16.0) 底径:— 器高:(4.7)	黒色粒、透 明粒、微砂 粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ後ヘ ラミガキ、体部ヘラミガ キ 外:口縁部ヨコナデ後ヘ ラミガキ、体部ナデ	内:黒色 外:黒色 ・良	口縁部 1/6	漆仕上げ処理。	P6 掘方理 土
8	土師器 環	口径:14.4 底径:— 器高:4.7	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、微砂 粒	内:口縁部ヨコナデ、 体部ナデ後ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、 体部ナデ後ヘラケズリ	内:明黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	3/4		カマド
9	土師器 甕	口径:20.2 底径:— 器高:(12.5)	黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内:調整不明瞭なるも口 縁部ヨコナデ 外:調整不明瞭なるも口 縁部ヨコナデ	内:褐色 外:明褐色 ・良	口縁部 4/5 胴部 一部	球形状の胴部で最大径 は胴中位にもつ、口縁 は短く僅かに外反す る。	P5 3・4層 器表剥落顕 著
10	土師器 甕	口径:— 底径:9.8 器高:(3.7)	砂粒・小礫 多量、黒色 粒少量	内:胴部ヘラナデ 外:胴部ヘラケズリ	内:明赤褐色 外:黒色 ・良	底部3/4		P5 1・2層
11	土師器 甕	口径:— 底径:6.6 器高:(3.5)	透明粒・砂 粒多量、小 礫微量	内:胴部ヘラナデ 外:胴部ヘラナデ、底部 ヘラケズリ	内:赤褐色 外:赤褐色 ・良	底部完 存		カマド

SI-23 (第23・24図、第9表、図版四・一一・一八)

東調査区中央の18-66グリッドに位置する。北部は田面形成のため削平されており、南部は奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-22に壊されている。

平面形は、方形を呈する。規模は確認された範囲で南北約3.50m、東西約4.10mで、面積は約14.35㎡である。主軸の振れはN-9°-W。

埋土は褐色・黒褐色を呈する2層に別けられ、ロームブロックを多く含むことから人為堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁20.3cm、西壁33.4cm、北壁19.9cmで、外傾して立ち上がる。

床は、掘方を暗黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約8.0～12.0cmを測る。カマド、柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されなかった。

出土遺物は、土師器環1点355g、土師器高環1点197g、土師器甕33点2,020g、土製模造品1点9g、総量36点2,581gが出土した。

2は短脚の土師器高環、4は棒状の土製模造品と考えられる。

建物跡の時期は、6世紀末～7世紀初頭である。

SI-27 (第25～27図、第10表、図版五・一七)

東調査区南部の17-67グリッドに位置する。当遺跡で最大規模の竪穴建物跡であるが、遺存状態が悪く情報量が少ない。南西部は調査区外のため未調査である。掘立柱建物跡SB-36・38と重複しており、本建物跡が古い。東側に奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-26が近接している。

平面形は、方形を呈する。規模は南北約8.85m、東西約7.95mで、面積は約70.4㎡である。主軸の振れはN-5°-Wである。

埋土は僅かで、暗褐色を呈する。西壁側は削平され壁が検出できていない。

残存する壁の高さは、東壁13.6cm、西壁4.0cm、北壁6.8cmで、外傾して立ち上がる。

床は、掘方を暗橙褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約2.0～12.0cmを測る。壁際溝は確認されなかった。

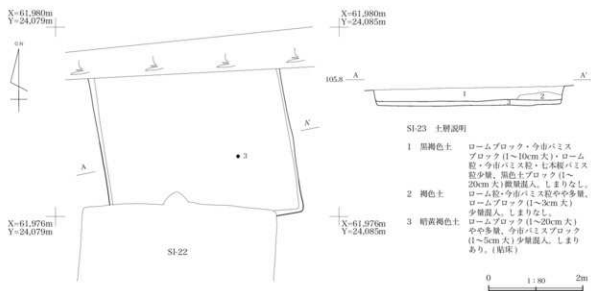
柱穴は、主柱穴P1～3を確認した。規模はP1:36.0×36.0cm、深さ76.0cm。P2:45.0×43.0cm、深さ90.0cm。P3:50.0×48.0cm、深さ100.0cmである。P1・3で柱痕跡が確認された。

南東コーナーに貯蔵穴P4を確認した。106.0×85.0cm、深さ48.0cmで、底面は平坦である。

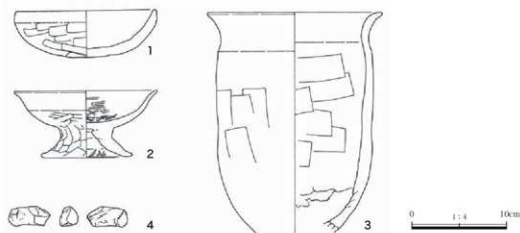
カマドは東壁やや北寄りに構築され、白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅20.0～20.0cm、長さ64.0～70.0cm、高さ約8.0～14.0cmで、両袖間の幅は約68.0cmである。カマド掘方は深さ4.0cmで、東壁への突出は20.0cm。

出土遺物は、土師器環15点164g、土師器甕56点497g、土師器鉢2点69g、須恵器環1点8g、石製品(砥石)1点203g、総量75点941gが出土した。

建物跡の時期は6世紀後葉か。



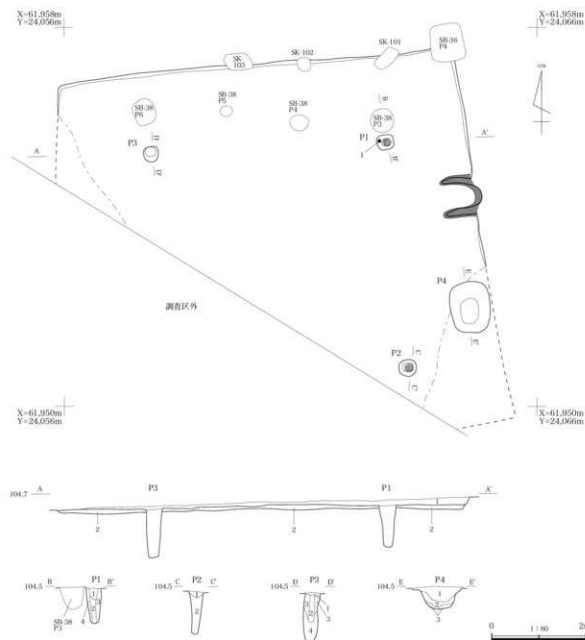
第23図 助五郎内遺跡 SI-23 カマド実測図



第24図 助五郎内遺跡 SI-23 出土遺物

第9表 助五郎内遺跡 SI-23 出土遺物観察表

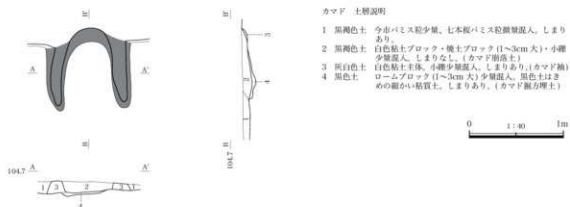
No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	現存率	特徴	備考
1	土師器 坏	口径:(14.5) 底径:一 器高:4.9 重量:335.0g	黒色粒・微 砂粒・砂粒・ 小礫	内:口縁部ヨコナデ。体~ 底部調整不明瞭 外:口縁部ヨコナデ。体~ 底部ヘラケズリ	内:褐灰色 外:暗灰黄色 ・良	ほぼ完形		覆土 器表剥落顕 著
2	土師器 高坏	口径:(14.2) 底径:9.2 器高:(7.2)	黒色粒・微 明砂多量。 微砂粒・砂 粒・小礫少 量	内:口縁部ヨコナデ後粗い ヘラミガキ。体部粗いヘラ ミガキ。脚~裾部ヨコナデ 外:口縁部ヨコナデ。体部 ヘラケズリ後ヘラナデツ ケ。脚部ヘラケズリ後ヘラ ナデツケ。裾部ヨコナデ	内:にふい・橙色 外:にふい・橙色 ・良	坏部 1/10 脚~裾部 完存		覆土
3	土師器 甕	口径:(17.8) 底径:一 器高:(23.3)	透明粒・砂 粒・小礫	内:口縁部ヨコナデ。脚部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ。脚部 縦位ヘラケズリ	内:にふい・黄褐色 外:にふい・黄褐色 ・良	底部欠損 口縁~脚 部下半 5/12		
4	土製模造 品	長さ:(4.4) 幅:2.1 重量:9.5g	透明粒・微 砂粒微量		外:橙色 ・良	不明		覆土



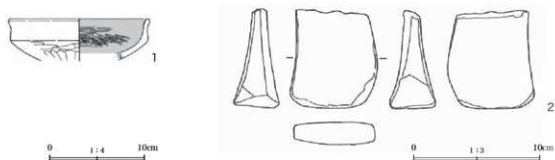
SI-27 土層説明

- | | | | | |
|--|---|--|--|---|
| <p>P3</p> <p>1 暗褐色土 今市バミス段や多量、ロームブロック・今市バミスブロック (1~10cm 大) 少量混入。しまりなし。</p> <p>2 暗褐色土 今市バミスブロック (1~10cm 大) やや多量、黒色土ブロック・ロームブロック (1~10cm 大) 少量混入。しまりあり。(船床)</p> | <p>P1</p> <p>1 暗褐色土 焼土段・今市バミス段少量混入。しまりなし。(柱痕跡)</p> <p>2 暗褐色土 焼土段・今市バミス段少量混入。しまりなし。(柱痕跡)</p> <p>3 黄褐色土 ロームブロック (1~20cm 大)・ローム段や多量混入。しまりあり。(柱痕跡)</p> <p>4 黄褐色土 ロームブロック (1~20cm 大)・ローム段や多量、今市バミスブロック (1~3cm 大) 少量混入。しまりあり。(柱痕跡)</p> | <p>P2</p> <p>1 暗褐色土 焼土段・今市バミス段少量混入。しまりなし。</p> <p>2 暗褐色土 ローム主体、黒色土・今市バミス段・七本板バミス段少量混入。しまりあり。</p> | <p>P3</p> <p>1 暗褐色土 焼土段・今市バミス段少量混入。しまりなし。</p> <p>2 暗褐色土 ロームブロック (1~3cm 大)・ローム段少量混入。しまりなし。</p> <p>3 黄褐色土 ロームブロック (1~20cm 大)・ローム段や多量混入。しまりあり。(柱痕跡)</p> <p>4 暗褐色土 ローム主体、黒色土・今市バミス段・七本板バミス段少量混入。しまりあり。(柱痕跡)</p> | <p>P4</p> <p>1 黒褐色土 今市バミス段少量、七本板バミス段少量混入。しまりあり。</p> <p>2 褐色土 ロームブロック (1~3cm 大)・今市バミス段少量混入。しまりなし。</p> <p>3 黄褐色土 ローム主体、黒色土・今市バミス段少量混入。しまりなし。</p> |
|--|---|--|--|---|

第 25 図 助五郎内遺跡 SI-27 実測図



第26図 助五郎内遺跡 SI-27カマダ実測図



第27図 助五郎内遺跡 SI-27出土遺物

第10表 助五郎内遺跡 SI-27 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径:(14.6) 底径:— 器高:(4.4)	黒色粒、透 明粒、微砂 粒	内:口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体部ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体 部ヘラケズリ	内:黒色 外:黄褐色 ・良	口縁部 1/4	漆仕上げ処理。	
2	石製品 砥石	長軸:(7.8) 短軸:(4.2) 厚さ:3.7 重量:203.0g	泥岩		外:灰白色	不明	上部欠損。	覆土

SI-28 (第28・29図、第11表、図版五)

東調査区南西部の17-66グリッドに位置する。南西コーナー部は調査区外のため未調査である。

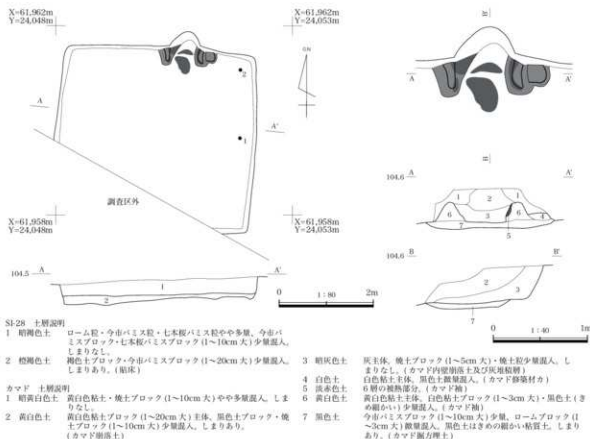
平面形は、やや東西に長い方形を呈する。規模は南北約4.20m、東西残存約3.80mで、面積は約16.0㎡である。主軸の振れはN-1°-Eである。

埋土は暗褐色土で、ローム粒を多量に含むことから人為堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁36.5cm、西壁24.0cm、南壁25.8cm、北壁37.6cmで、外傾して立ち上がる。床は、橙褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約6.0～20.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認できなかった。

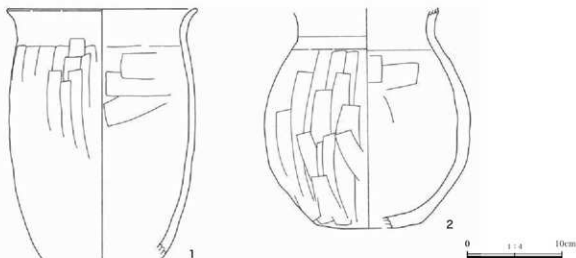
カマドは北壁やや東寄りに構築されている。白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅28.0～48.0cm、長さ30.0cm、高さ約18.0～20.0cmで、両袖間の幅は約70.0cmである。袖内面とカマド底面には被熱赤化が確認できる。掘方は深さ10.0cmで、北壁への突出は30.0cmである。

出土遺物は、土師器環1点5g、土師器甕4点1.771g、総量5点1.776gが出土した。図化できたのは土師器甕2点で、2は胴部下位に最大径があり若干古い。建物跡の時期は6世紀後葉～7世紀前葉であろう。

第V章 助五郎内遺跡の調査



第28図 助五郎内遺跡 SI-28 実測図



第29図 助五郎内遺跡 SI-28 出土遺物

第11表 助五郎内遺跡 SI-28 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 甕	口径:(19.8) 底径:一 器高:(26.4)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部 横位ナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 縦位ヘラケズリ	内:にぶい・橙色 外:灰褐色	口縁~胴 部 1/4	やや長い胴部。	
2	土師器 甕	口径:一 底径:(10.8) 器高:(23.3)	黒色粒・透 明粒多量、 微明粒、砂 粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 縦位ヘラケズリ	内:明灰黄色 外:にぶい・黄褐色~オ リーブ黒色	胴~底部 1/3	小形。底部は平底で、 胴部中に最大径をも つ球形状。	

SI-29 (第30～32図、第12表、図版五・一七)

東調査区北西部の16-64グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡SI-1・50と重複し、新旧関係はSI-1 < SI-29 < SI-50である。

平面形は、やや歪みのある方形を呈する。規模は南北約2.24m、東西約5.06mで、面積は約11.3㎡である。主軸の振れはN-28°-Wである。

埋土は黒色を呈する単層である。

残存する壁の高さは南壁46.0cm、西壁38.0cmで、外傾して立ち上がる。

床は、掘方を黒色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約4.0～20.0cmを測る。北壁の一部に壁際溝が確認され、幅24.0cm、深さ12.0cmである。

柱穴は、主柱穴P1～4を確認した。規模はP1:24.0×24.0cm、P2:28.0×24.0cm、P3:30.0×24.0cm、P4:26.0×22.0cmである。

貯蔵穴P5を南東コーナーで確認した。不整形で66.0×66.0cmである。

カマドは東壁南寄りに構築され、両袖が残存していた。袖は幅18.0～20.0cm、長さ30.0～44.0cmで、両袖間の幅は約70.0cmである。カマド掘方は確認できなかった。北壁への突出は26.0cm。

出土遺物は、土師器環14点394g、土師器甕66点4,010g、土師器手捏ね土器2点226g、須恵器環蓋2点158g、須恵器環4点179g、支脚3点676g、総量91点5,643gが出土した。

土師器環は、口縁が外傾するもの、半球形のもの、半球形で口縁内面に沈線をもつものがある。須恵器環蓋は8世紀代で、土師器環と時期差がある。本建物跡と重複するSI-50でも古代の須恵器が出土しており、検出できていない遺構が存在する可能性がある。

建物跡の時期は、土師器環の特徴や遺構の新旧関係から7世紀中葉である。

SI-50 (第30・33図、第13表、図版一八)

東調査区北西部の16-64グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡SI-1・50と重複し、新旧関係はSI-1 < SI-29 < SI-50である。

平面形は、やや歪んだ方形を呈する。規模は南北約6.80m、東西約6.24mで、面積は約42.4㎡である。主軸の振れはN-2°-Wである。

埋土は黒褐色を呈する。

残存する壁の高さは南壁で24.0cmである。

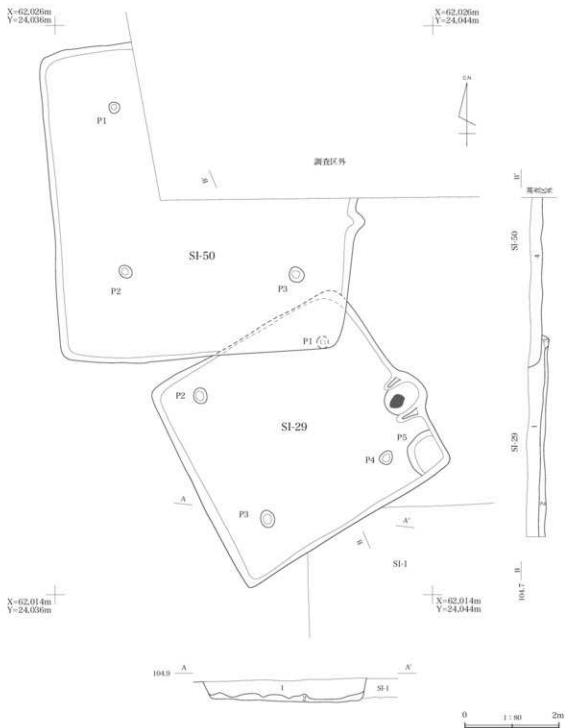
床は、掘方底面を床面とし、やや凹凸がある。壁際溝は確認されなかった。

柱穴は、主柱穴P1～3を確認した。規模はP1:22.0×20.0cm、P2:24.0×22.0cm、P3:26.0×24.0cmである。

カマドは東壁中央に煙道部らしき突出が認められる。東壁への突出は20.0cmである。

出土遺物は、土師器環5点51g、土師器甕62点2,881g、須恵器環2点268g、不明石製品1点1,867g、総量70点5,067gが出土した。須恵器環は8世紀代で、土師器甕と時期差がある。本建物跡と重複するSI-29でも古代の須恵器が出土しており、検出できていない遺構が存在する可能性がある。

建物跡の時期は、土師器甕の特徴や遺構の新旧関係から7世紀前葉～中葉か。



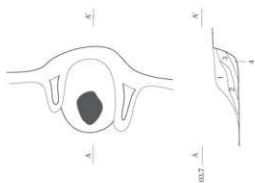
SI-29 土層説明

- 1 黒色土 今市バミス粒・七本椀バミス粒少量混入。しまりなし。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック(1~20cm大)少量。黒色土ブロック(1~20cm大)微量混入。しまりあり。(粘床)
- 3 黒褐色土 ローム粒・今市バミス粒少量混入。しまりなし。(壁際清浄土)

SI-50 土層説明

- 4 黒褐色土 ローム粒・今市バミス粒少量混入。しまりあり。

第30図 助五郎内遺跡 SI-29・50実測図

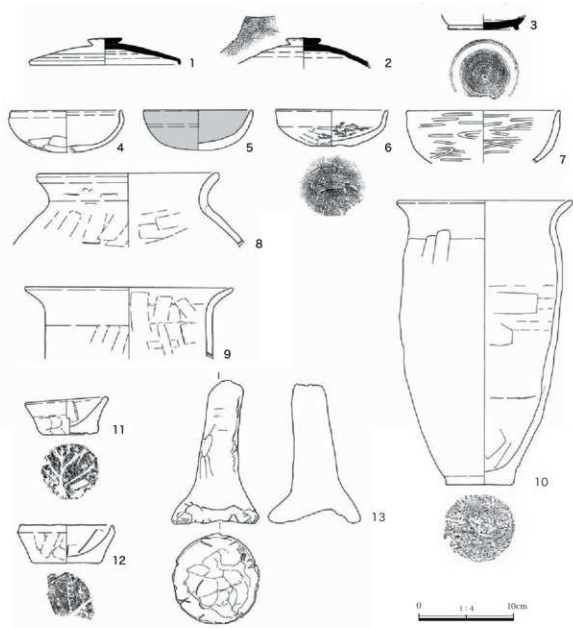


カマド 土質説明

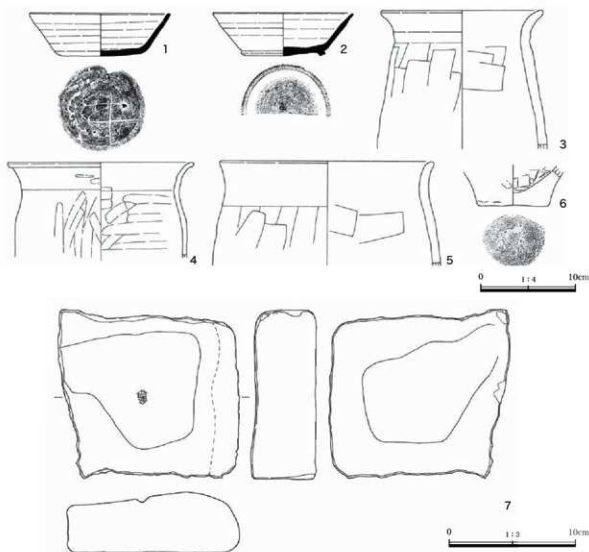
- 1 黒色土 今市バミス粒・七木板バミス粒少量混入。しまりなし。
- 2 期灰白色土 白色粘土ブロック(1~3cm大)・焼土粒・炭化粒少量混入。しまりなし。(カマド崩落土)
- 3 期赤褐色土 焼土粒や多量。灰少量混入。しまりなし。(カマド崩落土)
- 4 赤褐色土 焼土ブロック(1~3cm大)や多量。灰・炭化粒少量混入。しまりなし。(カマド内壁崩落土)



第31図 助五部内遺跡 SI-29カマド実測図



第32図 助五部内遺跡 SI-29出土遺物



第33図 助五郎内遺跡 SI-50 出土遺物

第12表 助五郎内遺跡 SI-29 出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏蓋	楕径: 3.6 口径: (15.7) 器高: 2.8	砂粒多量、 小礫微量	内: 天井～胎部ロクロナデ 外: 体～胎部ロクロナデ、 天井部回転ヘラケズリ、 揃み貼付後ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/3 揃み完存		
2	須恵器 坏蓋	楕径: 3.6 口径: — 器高: (3.8)	微砂粒・砂 粒多量	内: 天井～胎部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、天井 部回転ヘラケズリ、揃み 貼付後ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	体部 1/6 揃み 3/5	天井部外面ヘラ記号あり。	
3	須恵器 高台坏	口径: — 底径: (7.3) 器高: (1.6)	黒色粒、微 砂粒	内: 底部ロクロナデ 外: 底部回転ヘラケズリ、 後貼付高台後ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	底部 3/4		
4	土師器 坏	口径: (11.6) 底径: — 器高: (4.4)	微砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体～ 底部ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体部 上半ナデ、体部下半～底 部ヘラケズリ	内: にぶい褐色 外: にぶい褐色 ・良	1/5	器厚は薄く、口内面に に凹面を作る。	
5	土師器 坏	口径: (11.4) 底径: — 器高: 4.3	黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内: 口縁部ヨコナデ、体～ 底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体～ 底部調整不明整	内: にぶい黄褐色 外: 浅黄褐色 ・良	1/4	内外面塗仕上げ処理か、 器表剥落顕 著	

6	土師器 坏	口径:(11.6) 底径:(4.7) 器高:3.9	砂粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、体~ 底部粗いヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部粗いヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	底部 5/12		覆土
7	土師器 坏	口径:16.0 底径:— 器高:(5.3)	黒色粒、微 砂粒	内:口縁~体部横位ヘラミ ガキ 外:口縁部ヨコナデ後横位 ヘラミガキ、体部ヘラケ ズリ後横位ヘラミガキ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	1/8		小片
8	土師器 甕	口径:(18.8) 底径:— 器高:(7.9)	黒色粒、砂 粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部 横位ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 斜位ヘラナデ	内:灰黄褐色 外:灰黄褐色 ・良	口縁部 1/2 胴部一部		
9	土師器 甕	口径:(21.8) 底径:— 器高:(7.6)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部 横位後縦位ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 縦位ヘラケズリ後ナデ	内:にぶい黄褐色 外:黄褐色 ・良	口縁部 1/5		小片
10	土師器 甕	口径:18.0 底径:6.6 器高:30.0	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部 不定方向のヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 定方向ヘラナデ、底部ヘ ラケズリ様ヘラナデ	内:褐色 外:褐色 ・良	口縁部 2/3 胴部 4/5 底部完存	口縁部はゆるやかに外 反する。外面底部中央 に黒炭痕を僅かに残す。	
11	土師器 手柄ね	口径:8.4 底径:5.7 器高:4.0 重量:145.0g	黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内:口縁部ヘラヨコナデ、 体~底部ヘラケズリ様ヘ ラナデツケ 外:口縁部ヘラヨコナデ、 体~底部ナデ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	ほぼ完形	全体に歪みあり。底部 木炭痕あり。	
12	土師器 手柄ね	口径:(9.6) 底径:(7.0) 器高:(4.1)	黒色粒、透 明粒、砂粒	内:口縁部ナデ、体~底部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、体部 指頭汗痕、粗いナデ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	1/4	口縁部は短く尖る。底部 木炭痕あり。	
13	土製品 支脚	口径:— 底径:8.5 器高:15.1 重量:544.0g	砂粒・小礫 多量、透明 粒	内:ナデ・指頭汗痕	外:黄褐~にぶい黄 褐色 ・良	ほぼ完形	安定性のある変形・異 形な円錐台状の粘土塊	

第13表 助五郎内遺跡 SI-50 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏	口径:14.8 底径:8.3 器高:4.5 重量:179.0g	微砂粒、砂 粒、小礫	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部割軸ヘラ切り後 ナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	ほぼ完形 口縁部一 部欠損	底部外面ヘラ記号あり。	
2	須恵器 高台坏	口径:(14.8) 底径:8.0 器高:4.5	砂粒多量、 小礫少量	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部割軸ヘラケズリ、 後戻付高台後ナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁部 1/8 体部 1/4 底部 1/2		
3	土師器 甕	口径:(18.6) 底径:— 器高:(14.7)	ガラス光沢 黒色粒・透 明粒・砂粒、 小礫多量	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 縦位ヘラケズリ	内:灰褐色 外:にぶい褐色 ・良	口縁部 1/6 胴部一部		小片
4	土師器 甕	口径:(19.4) 底径:— 器高:(10.2)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、微砂 粒、砂粒、 小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ・ヘラナデ	内:褐色 外:褐色 ・良	口縁部一 部 胴~胴 上半部 1/12		小片
5	土師器 甕	口径:(22.6) 底径:— 器高:(11.4)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、外面 ヘラケズリ	内:明赤褐色 外:褐色 ・良	口縁部 1/12		小片
6	土師器 甕	口径:— 底径:7.2 器高:(4.3)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内:底部ヘラナデ 外:底部ナデ	内:明赤褐色 外:にぶい褐色 ・良	底部 3/4	底部は平底で小さく凸 状。	
7	石製品	長軸:13.5 短軸:— 厚さ:5.2 重量:1,867.0g	流紋岩質溶 結凝灰岩		外:にぶい黄色	不明	表裏面ともに中央部円 滑。表面中央に凹みあ り。	

SI-30 (第34～36図、第14表、図版五・六・一八)

東調査区西部の17-65グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-31と重複し、南東コーナーを壊されている。

平面形は、やや歪みのある方形を呈する。規模は南北約5.64m、東西約5.60mで、面積は約31.6㎡である。主軸の振れはN-20°-Eである。

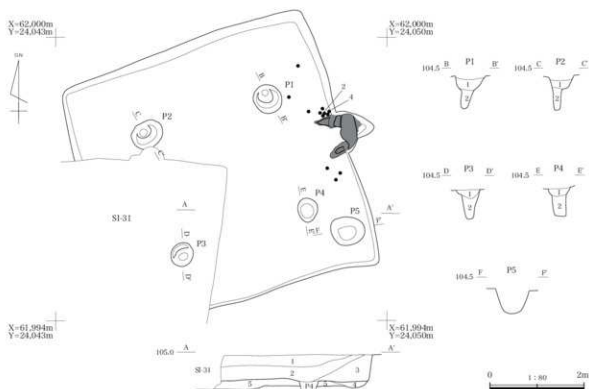
埋土は暗褐色～黒褐色を呈し、自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁54.4cm、西壁38.4cm、南壁33.9cm、北壁47.7cmで、外傾して立ち上がる。床は、掘方を主に橙褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約8.0～20.0cmを測る。壁際溝は確認されていない。

柱穴は、主柱穴P1～4を確認した。規模はP1:57.0×56.0cm、深さ62.0cm。P2:85.0×70.0cm、深さ62.0cm。P3:48.0×46.0cm、深さ65.0cm。P4:48.0×42.0cm、深さ58.0cmである。

貯蔵穴P5を南東コーナーで確認した。規模は72.0×61.0cm、深さ52.0cmである。

カマドは東壁中央に構築され、暗黄白色粘土で構築された両袖と天井の一部が残存していた。袖は幅20.0cm、長さ32.0～40.0cm、高さ約16.0～34.0cmで、両袖間の幅は約78.0cmである。天井部分は煙道



SI-30 土質説明

1 暗褐色土	今市バミス粒少量、七本板バミス粒微量混入。しりりなし。	P1・P3	1 黒褐色土	ローム粒・今市バミス粒中や多量、ロームブロック(1～5cm大)少量混入。しりりなし。
2 黒褐色土	今市バミス粒の中多量、焼土ブロック・今市バミスブロック(1～3cm大)微量混入。しりりなし。	2 暗黄褐色土	2 暗黄褐色土	ロームブロック(1～5cm大)主体。今市バミスブロック(1～5cm大)少量、黒色土微量混入。しりりなし。
3 黒褐色土	今市バミス粒・七本板バミス粒少量、黄白色粘土ブロック(1～3cm大)・焼土粒微量混入。しりりあり。	P2	1 黒褐色土	ローム粒・今市バミス粒中や多量、ロームブロック(1～5cm大)少量混入。しりりなし。
4 暗褐色土	今市バミスブロック(3cm大)・ローム粒・今市バミス粒少量・七本板バミス粒中や多量、ロームブロック(3cm大)少量混入。しりりあり。	2 黒灰色土	2 黒灰色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1～3cm大)中や多量、黒色土少量混入。しりりなし。
5 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(3～10cm大)主体。	P4	1 暗褐色土	焼土粒・今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しりりなし。
	今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しりりあり。(貼床)	2 暗黄褐色土	2 暗黄褐色土	ロームブロック(1～5cm大)主体。今市バミスブロック(1～5cm大)少量、黒色土微量混入。しりりなし。

第34図 助五郎内遺跡 SI-30 実測図

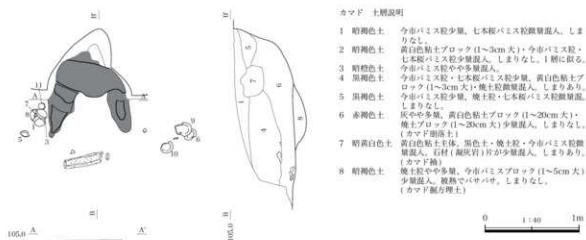
側 35.0cm ほどが元位置を保っていた。煙道の直径は 35.0cm ほどである。またカマド前面には天井部を用いたと思われる板状に加工した礫が出土している。カマド掘方は深さ 13.0cm、東壁への突出は 68.0cm である。

遺物出土状況は、カマド埋土および周辺から土師器環が多く出土している。

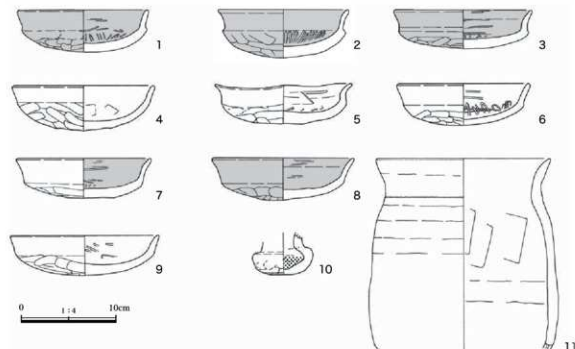
出土遺物は、土師器環 15 点 2,389g、土師器甕 48 点 3,902g、土師器壺 1 点 110g、須恵器甕 1 点 19g、総量 65 点 6,420g が出土した。

土師器環は、口縁が外傾するものと外反するものがある。10 は小型の甕で、外面は部分的に赤色顔料の付着がみられ、底部内面は全体に赤色顔料の付着がみられる。顔料入れとして用いられたものか。

建物跡の時期は 6 世紀後葉である。



第 35 図 助五部内遺跡 SI-30 カマド実測図



第 36 図 助五部内遺跡 SI-30 出土遺物

第14表 助五郎内遺跡 S1-30 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径: 13.6 底径: — 器高: 4.5 重量: 285.0g	微砂粒、砂粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ後体部上半ナデ	内: 橙色 外: にぶい黄褐色・良	完形	内外面漆仕上げ処理か。	カマド
2	土師器 環	口径: 13.6 底径: — 器高: 5.1 重量: 315.0g	黒色粒、透明粒、微砂粒、砂粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ、体～底部放射状ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色・良	口縁部一部欠損	内外面漆仕上げ処理。	カマド
3	土師器 環	口径: 14.4 底径: — 器高: 4.1 重量: 317.0g	透明粒、微砂粒、砂粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体～底部粗い放射状ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色・良	ほぼ完形 口縁部1/3欠損	内外面漆仕上げ処理。	カマド内
4	土師器 環	口径: (14.6) 底径: — 器高: 4.8	黒色粒、透明粒、砂粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ、体～底部調整不明瞭なるもナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	内: にぶい黄色 外: にぶい黄色・良	口縁部1/6 底部1/2		カマド 内面剥落
5	土師器 環	口径: 14.2 底径: — 器高: 4.3 重量: 274.0g	黒色粒、透明粒、砂粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラナデ後粗いヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	内: 淡黄色 外: 淡黄色・良	ほぼ完形	全体に歪みあり。	カマド内
6	土師器 環	口径: 13.6 底径: — 器高: 4.5 重量: 248.0g	黒色粒、微砂粒、砂粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	内: 浅黄褐色 外: 浅黄褐色・良	完形		カマド
7	土師器 環	口径: 14.2 底径: — 器高: 4.1 重量: 274.0g	黒色粒、透明粒、微砂粒、砂粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラミガキあるも調整不明瞭 外: 口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: 浅黄褐色・良	ほぼ完形 口縁部1/8欠損	漆仕上げ処理か。	カマド内 体～底部内面 面剥落 顕著
8	土師器 環	口径: 14.8 底径: — 器高: 4.4 重量: 314.0g	黒色粒、透明粒、微砂粒、砂粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラミガキあるも調整不明瞭 外: 口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	内: にぶい橙～黒褐色 外: 橙～浅黄褐色・良	完形	内外面漆仕上げ処理。	カマド 内面剥落
9	土師器 環	口径: (15.5) 底径: — 器高: 4.2	黒色粒、透明粒、微砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラミガキあるも調整不明瞭 外: 口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: 黄褐色・良	1/3		カマド 内面剥落
10	土師器 小壺	口径: — 底径: — 器高: (4.5) 重量: 110.0g	砂粒・小礫多量	内: 頸部ヨコナデ、体部ナデ 外: 頸部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色・良	口縁部欠損 体～底部完存	内外面赤色。外面の一部と底部内面に赤色顔料が付着。顔料入れか。	カマド
11	土師器 甕	口径: 18.0 底径: — 器高: (20.2)	黒色粒、透明粒、雲母、砂粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部ナデ	内: 橙色 外: 橙～にぶい褐色・良	胴部下半～底部欠損	中・下位に積み上げ直が残る。口縁～胴部上・中位に積み上げ直が残る。	カマド内 器表剥落顕著

SI-207 (第37・38図、第15表、図版六・一八)

西調査区北部の12-64グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-206と重複し、北西コーナーを切られている。

平面形は、東西に長い長方形を呈する。規模は南北約2.15m、東西約3.14mで、面積は約6.8㎡である。主軸の振れはN-2°-Wである。

埋土は褐色を呈する単層である。

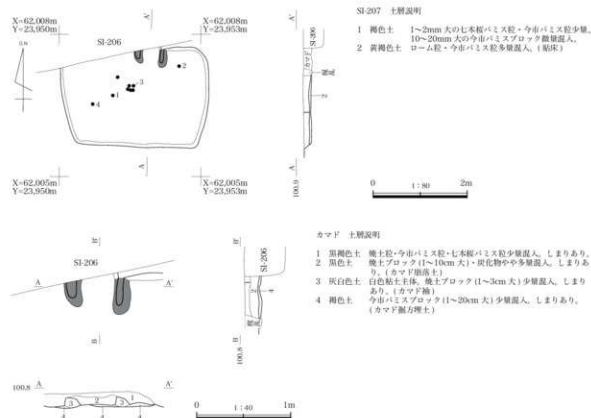
残存する壁の高さは、東壁114.0cm、西壁10.0cm、南壁12.3cm、北壁12.3cmで、外傾して立ち上がる。床は、掘方を黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約2.0～6.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認できなかった。

カマドは北壁やや東寄りに構築され、白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅18.0cm、長さ30.0～34.0cm、高さ約10.0cmで、両袖間の幅は約44.0cmである。カマド掘方は深さ4.0cmで、北壁への突出は24.0cmである。

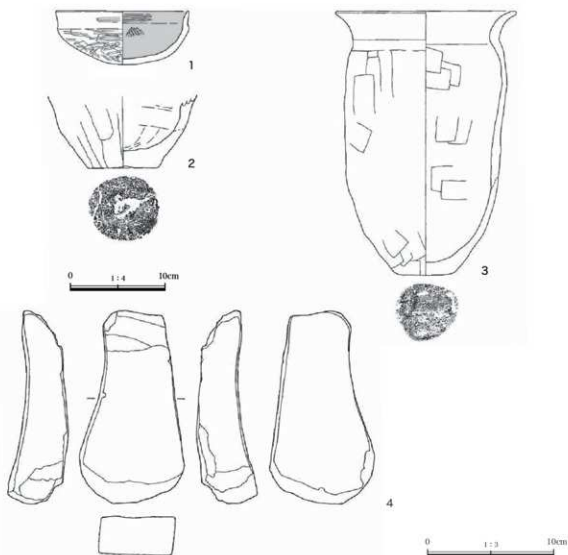
遺物出土状況は、建物中央西寄りからまとまって出土している。

出土遺物は、土師器環20点373g、土師器甕20点2,571g、石製品(砥石)1点700g、総量41点3,644gが出土した。

建物跡の時期は6世紀末～7世紀初頭である。



第37図 助五部内遺跡 SI-207 実測図



第 38 図 助五郎内遺跡 SI-207 出土遺物

第 15 表 助五郎内遺跡 SI-207 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 坏	口径: 14.0 底径: — 器高: 5.7 重量: 300.0g	透明粒、微 砂粒、砂粒、 小礫	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部ヘラミ ガキあるも調整不明瞭 外: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部ヘラケ ズリ後粗いヘラミガキ	内: 黄褐色 外: 浅黄色 ・良	ほぼ完形	漆仕上げ処理。	内面剥落顕 著
2	土師器 甕	口径: — 底径: 7.2 器高: (7.6)	黒色粒、透 明粒、微砂 粒、小礫	内: 胴部ナデ、底部筋ナデ か 外: 胴部ヘラケズリ、底部 ナデ	内: 黒色 外: 暗灰黄色 ・良	底部ほぼ 完存		
3	土師器 甕	口径: (18.6) 底径: 6.0 器高: 28.0	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内: 口縁部ヨコナデ、胴~ 底部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴~ 底部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: 黒褐色 ・良	口縁部 1/4 胴~底部 ほぼ完存		覆土
4	石製品 砥石	長軸: 15.4 短軸: 5.0 厚さ: 3.0 重量: 700.0g	粘板岩		外: 灰黄色	不明		

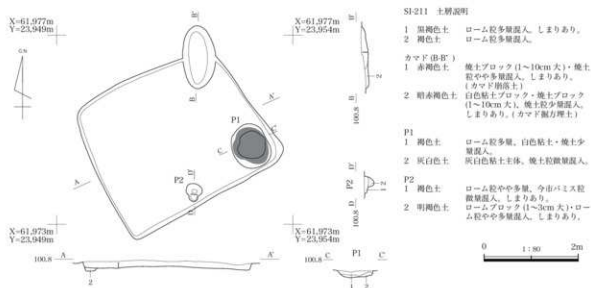
SI-211 (第39・40図、第16表、図版六)

西調査区南部の12-66グリッドに位置する。東に古墳時代の竪穴建物跡SI-212が近接している。

平面形は、やや東西に長い方形を呈する。規模は南北約3.10m、東西約3.55mで、面積は約11.0㎡である。主軸の振れはN-29°-Wである。

埋土は黒褐色土の単層である。残存する壁の高さは、東壁10.9cm、西壁12.1cm、南壁12.2cm、北壁9.0cmで、外傾して立ち上がる。床はロームを床面とする。南壁中央で梯子穴P2を確認した。40.0×20.0cm、深さ21.0cmである。南東コーナーに不明ピットP1を確認した。98.0×85.0cm、深さ13.0cmで、白色粘土が確認された。カマドは北東コーナーに痕跡が残る。掘方の深さ6.0cm、北壁への突出は68.0cmである。

出土遺物は、土師器環1点175g、土師器甕13点126g、土師器壺1点80g、総量15点381gと自然礫51gが出土した。建物跡の時期は7世紀前葉である。



第39図 助五部内遺跡 SI-211 実測図



第40図 助五部内遺跡 SI-211 出土遺物

第16表 助五部内遺跡 SI-211 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径: 12.4 底径: 一 器高: 4.5	黒色粒、透明黒 色粒、微砂粒、 砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体一 底部ナデ後ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体一 底部ヘラケズリ	内: にふい黄褐色 外: 浅黄褐色 ・良	3/4	底部外面ヘラ記号あり。	甕土 器表剥落
2	土師器 壺	口径: (10.0) 底径: 一 器高: (7.1)	ガラス光沢黒 色粒、透明黒 色粒、微砂粒、砂粒	内: 口縁～体部ヘラナデ 外: 口縁部ヘラナデ、体部 ヘラケズリ	内: にふい黄褐色 外: にふい黄褐色 ・良	口縁～体 部 1/5		
3	土師器 甕	口径: (13.6) 底径: 一 器高: (4.1)	黒色粒、微砂 粒、砂粒、小 礫	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、胴部ナデ後ヘラ ミガキ 外: 口縁部ヨコナデ	内: にふい黄褐色 外: にふい黄褐色 ・良	口縁部 1/6		

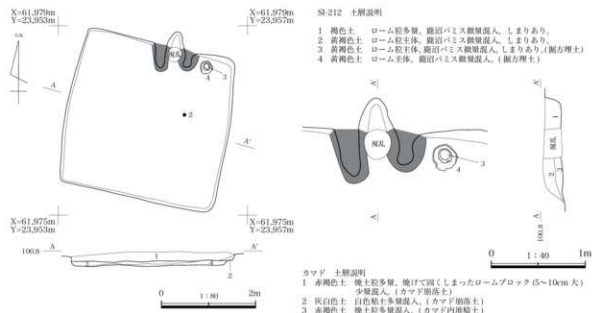
SI-212 (第41・42図、第17表、図版六・七・一八)

西調査区南部の12-66グリッドに位置する。南西に古墳時代の竪穴建物跡SI-211が近接している。

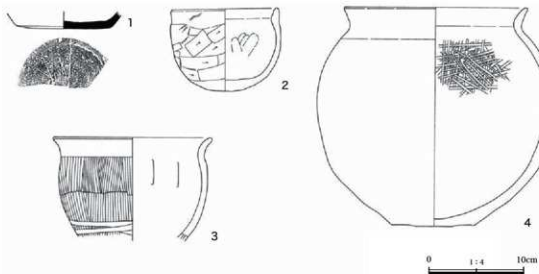
平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約3.49m、東西約3.31mで、面積は約11.6㎡である。主軸の振れはN-13°-Eである。

埋土は褐色・黄褐色を呈し、ローム粒を多量に含むことから人為堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁15.6cm、西壁12.6cm、南壁14.7cm、北壁14.0cmで、垂直に近く立ち上がる。床は、掘方を黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約4.0～12.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認できなかった。

カマドは北壁やや東寄りに構築され、白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅32.0～40.0cm、長さ36.0～50.0cm、両袖間の幅は約52.0cmである。北壁への突出は38.0cmである。遺物出土状況は、3



第41図 助五郎内遺跡 SI-212実測図



第42図 助五郎内遺跡 SI-212出土遺物

第17表 助五郎内遺跡 SI-212 出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環	口径: - 底径: (10.0) 器高: (1.8)	透明胎、微砂 粒、小礫	内: 体部~底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底部 回轉ヘラ切り後ナデか	内: にふい・黄褐色 外: にふい・黄褐色 ・良	底部 1/3	底部外面ヘラ記号あり。	
2	土師器 鉢	口径: 11.0 底径: - 器高: 8.7 重量: 361.0g	透明胎、微砂 粒、砂粒、小 礫	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内: にふい・黄褐色 外: にふい・黄褐色 ・良	完形		
3	土師器 鉢	口径: 16.4 底径: - 器高: (11.0)	砂粒、微砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体部 ナデか 外: 口縁部ヨコナデ、体部(ヘ ラの木面でハケのような) ヘラケズリ様ヘラナデ、体 部下端横位ヘラケズリ	内: 淡黄色 外: 淡黄色 ・良	底部欠損		
4	土師器 甕	口径: (19.0) 底径: 8.0 器高: 23.2	透明胎、微砂 粒、砂粒、小 礫	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ後不定方向の丁 事なヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ後不定方向の 丁事なヘラミガキ	内: にふい・黄褐色 外: にふい・黄褐色 ・良	2/3	球形状の胴部。	

の土師器鉢と4の甕が、カマド脇から入子状に出土し、2は建物中央から出土している。

出土遺物は、土師器環2点8g、土師器甕7点1,806g、須恵器環1点66g、須恵器鉢2点972g、総量12点2,852gが出土した。1の須恵器環は8世紀代で土師器と時期差があるが、出土状況より土師器の時期が建物跡の時期と認められる。2は内斜口縁の特徴が残る塊形環、4は球胴状の甕で内外面にヘラミガキする。建物跡の時期は6世紀代であろう。

SI-213 (第43~45図、第18表、図版七・一九)

西調査区南部の12-66グリッドに位置する。西部は調査区外のため未調査である。東に古墳時代の竪穴建物跡SI-211・212が位置している。北東コーナー部から南壁中央にかけて攪乱を受けている。

平面形は、方形を呈する。規模は南北約6.55m、東西残存約4.90mで、面積は約32.0㎡である。主軸の振れはN23°Wである。

埋土は炭化物を多量に含む褐色土で、人為堆積と思われる。

床は、ロームを床面とし、建物中央に硬化面が形成されている。また埋土2層中には炭化物だけでなく炭化材が含まれ、北東コーナーから中央にかけて分布している。

残存する壁の高さは、東壁62.9cm、南壁51.5cm、北壁51.0cmで、外傾して立ち上がる。

柱穴は、主柱穴P1・2・5と梯子穴P3を確認した。規模はP1:48.0×44.0cm、深さ66.1cm、P2:残存30.0×37.0cm、深さ71.7cm、P5:39.0×37.0cm、深さ59.4cmである。P1・5で柱痕跡が確認された。梯子穴P3は南壁中央の壁に寄った位置で確認された。53.0×42.0cm、深さは33.9cmである。

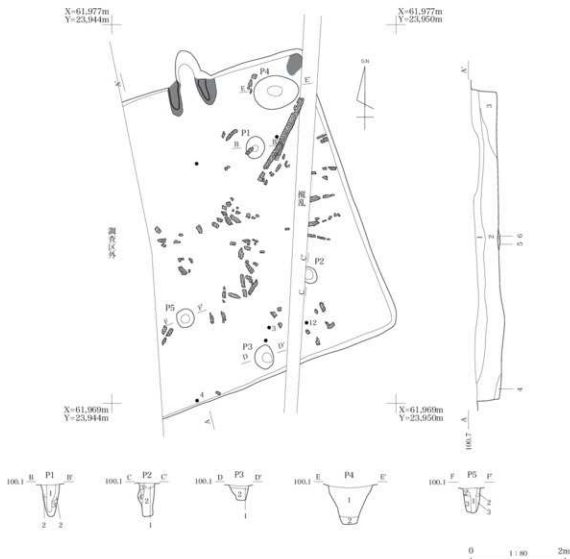
貯蔵穴P4は北東コーナーで確認し、97.0×72.0cm、深さ83.6cmで、底面は平坦である。

カマドは北壁中央に構築され、灰白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅24.0~38.0cm、長さ52.0~60.0cm、高さ約28.0cmで、両袖間の幅は約68.0cmである。カマド掘方は深さ12.0cmで、北壁への突出は70.0cm。

出土遺物は、土師器環15点991g、土師器甕106点4,389g、土師器鉢1点18g、須恵器環蓋3点80g、須恵器環1点16g、須恵器甕1点80g、総量127点5,574gと縄文式土器1点20g、自然礫3,888gが出土した。

土師器環は口縁が直立するもの、外傾するもの、半球形のものがある。1の須恵器環蓋は口径が大きく8世紀代で土師器環と時期差があるが、出土状況から土師器環の時期が建物跡の時期と判断する。

建物跡の時期は7世紀中葉か。



SI-213 土層説明

- 1 褐色土 炭化物・今市バミス粒・七本椀バミス粒少量混入。
- 2 褐色土 炭化物多量、今市バミス粒・七本椀バミス粒やや多量混入。
- 3 褐色土 焼土ブロック・ローム粒・今市バミス粒・七本椀バミス粒やや多量、褐色土層御高土及び直人土少量混入。しりなし。
- 4 灰白色土 灰白色粘土ブロック(1~10cm大)主体、ロームブロック(1~5cm大)少量混入。しりあり。
- 5 黄褐色土 ローム主体、七本椀バミス粒少量混入。
- 6 橙土 今市バミス主体。

P1

- 1 暗褐色土 今市バミスブロック・七本椀バミスブロック(1~5cm大)、今市バミス粒・七本椀バミス粒やや多量。しりなし。(柱頭跡)
- 2 橙褐色土 今市バミスブロック・七本椀バミスブロック(1~10cm大)、今市バミス粒・七本椀バミス粒やや多量。(柱頭方埋土)
- 3 暗黄白色土 今市バミスブロック・七本椀バミスブロック(1~10cm大)、今市バミス粒・七本椀バミス粒やや多量。しりなし。(柱頭方埋土)

P2

- 1 黒褐色土 ローム粒少量、炭化粒・今市バミス粒少量混入。しりなし。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(1~10cm大)・ローム粒・炭化粒少量混入。(柱頭跡)
- 3 明黄白色土 ローム主体、今市バミス粒、七本椀バミスブロック(1cm大)、七本椀バミス粒少量混入。しりあり。(柱頭方埋土)
- 4 暗黄白色土 ローム主体、七本椀バミスブロック(1~5cm大)、七本椀バミス粒少量混入。しりあり。(柱頭方埋土)

P3

- 1 黒褐色土 ローム粒少量、炭化粒・今市バミス粒少量混入。しりなし。
- 2 暗褐色土 ロームブロックやや多量、今市バミス粒少量混入。

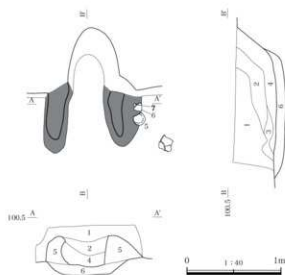
P4

- 1 暗褐色土 今市バミスブロック・七本椀バミスブロック(1~3cm大)、今市バミス粒・七本椀バミス粒やや多量。しりなし。
- 2 暗灰色土 灰色粘土主体、今市バミスブロック(1~3cm大)少量混入。しりあり。

P5

- 1 黒褐色土 炭化粒・今市バミス粒少量混入。しりなし。(柱頭跡)
- 2 橙褐色土 今市バミスブロック(1~10cm大)やや多量混入。しりあり。(柱頭方埋土)
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック(1~20cm大)やや多量混入。しりあり。(柱頭方埋土)

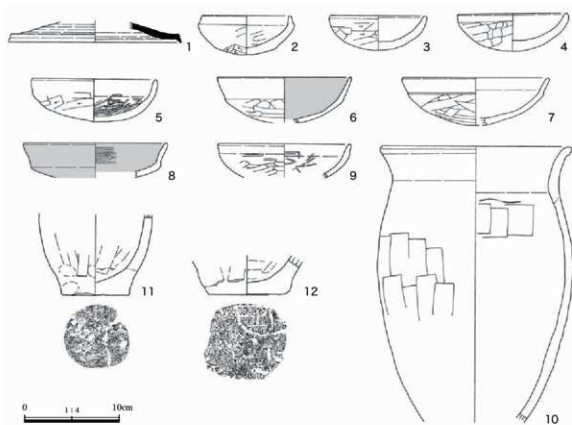
第43図 助五郎内遺跡 SI-213 実測図



カマド 土質説明

- 1 褐色土 灰化物多量、今市パミス粒・七本塚パミス粒やや多量混入。
- 2 朝灰褐色土 灰白色粘土ブロック(1~30cm大)やや多量、焼土ブロック・今市パミスブロック(1cm大)少量混入。
- 3 灰白色土 灰白色粘土ブロック(1~30cm大)主体、今市パミス粒・七本塚パミス粒微量混入。灰白色粘土は焼熱により赤色化。しりりあり。(カマド崩落土)
- 4 灰黑色土 灰主体、七本塚パミス粒微量混入。灰には5層の流土混じる。しりりなし。(灰相崩落)
- 5 灰白色土 灰白色粘土主体、きめ細かい黒色土少量混入。今市パミス粒・七本塚パミス粒微量混入。しりりあり。(カマド輪)
- 6 灰黑色土 灰白色粘土ブロック(1~3cm大)、今市パミス粒・七本塚パミス粒少量混入。しりりあり。(カマド崩落土)

第44図 助五郎内遺跡 SI-213カマド実測図



第45図 助五郎内遺跡 SI-213出土遺物

第18表 助五郎内遺跡 SI-213 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須臾器 環蓋	口径:(18.2) 底径:— 器高:(2.1)	黒色粒、微 砂粒、小礫	内:体~胴部口コナデ 外:体~胴部口コナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	胴部 1/12		甌土 小片
2	土師器 環	口径:9.2 底径:— 器高:4.1	黒色粒、透 明粒、微砂 粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体部 ナデ、底部ヘラケズリ	内:褐色 外:にぶい褐色 ・良	口縁部 1/2 体~底部 ほぼ完存		甌土
3	土師器 環	口径:10.0 底径:— 器高:3.6 重量:159.0g	透明粒、雲 母、微砂粒	内:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内:黒褐色 外:灰黄褐色 ・良	ほぼ完形		
4	土師器 環	口径:11.4 底径:— 器高:4.2 重量:207.0g	ガラス光沢 黒色粒、微 砂粒、砂粒、 小礫	内:口縁部ヨコナデ、体~ 底部調整不明瞭ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	ほぼ完形		内面剥落顕 著
5	土師器 環	口径:13.0 底径:— 器高:4.5	透明粒、微 砂粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ナデ後ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:暗灰色 ・良	2/3		
6	土師器 環	口径:(14.0) 底径:— 器高:(4.8)	黒色粒、微 砂粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/6	漆仕上げ処理か。	カマド
7	土師器 環	口径:(15.4) 底径:— 器高:(5.0)	微砂粒、砂 粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/5		カマド
8	土師器 環	口径:(15.0) 底径:— 器高:(3.7)	黒色粒、微 砂粒、砂粒	内:調整不明瞭なるも口縁 部ヨコナデ後ヘラミガキ、 体~底部ナデ後ヘラミガ キ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内:暗灰黄色 外:暗灰黄色 ・良	口縁部 1/5	内外面漆仕上げ処理。	甌土 器表剥落顕 著、小片
9	土師器 環	口径:(13.8) 底径:— 器高:(3.6)	黒色粒、透 明粒、微砂 粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ナデ後粗いヘラミガ キ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内:浅黄褐色 外:褐色 ・良	口縁~体 部1/6		甌土 小片
10	土師器 甕	口径:(19.6) 底径:— 器高:(29.2)	ガラス光沢 黒色粒、微 砂粒、砂粒、 小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内:褐色 外:褐色 ・良	口縁部 5/8 胴部1/3 底部欠損		甌土
11	土師器 甕	口径:— 底径:7.0 器高:(8.4)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、微砂 粒、砂粒、 小礫	内:胴部ヘラナデ、底部ナ デ 外:胴部ヘラケズリ・指頭 圧痕、底部ヘラケズリ	内:灰褐色 外:灰褐色 ・良	胴部下手 1/7 底部完存		甌土
12	土師器 甕	口径:— 底径:8.4 器高:(4.2)	砂粒・小礫 多量、ガラ ス光沢黒色 粒・透明粒 少量	内:胴~底部ナデ 外:胴部ヘラナデ、底部ナ デ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	底部完存		

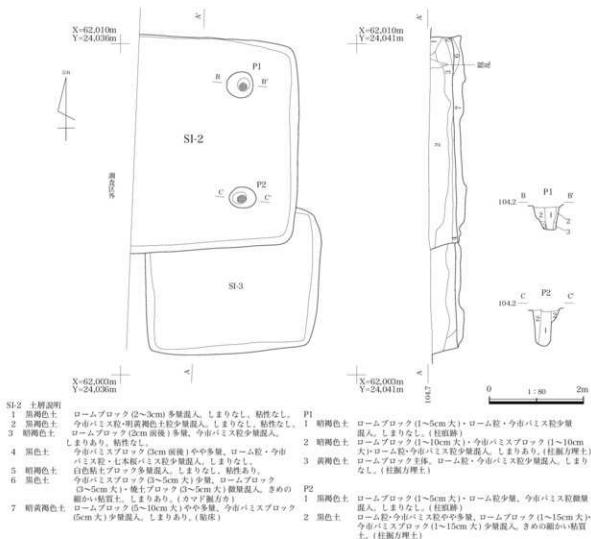
第3節 奈良・平安時代の遺構と遺物

第1項 竪穴建物跡と出土遺物

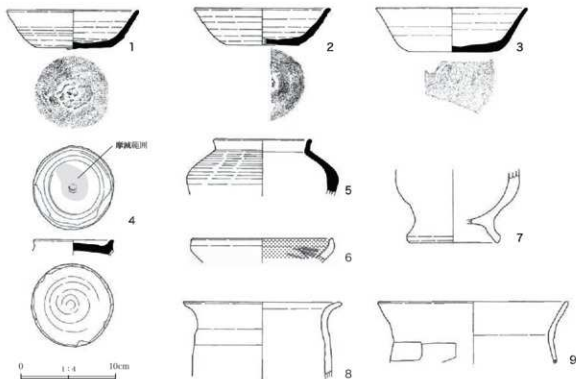
SI-2 (第46・47図、第19表、図版七・一九)

東調査区北西部の16-65グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡SI-3と重複し、本建物跡が新しい。

平面形は、方形を呈する。規模は南北約4.60m、東西残存約3.45mで、面積は約15.9㎡である。主軸の振れはN-1°-Eである。埋土は黒褐色・暗褐色・黒色を呈する5層に別けられ自然堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁49.3cm、南壁7.4cm、北壁39.6cmで、外傾して立ち上がる。床は、掘方を暗黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約2.0～20.0cmを測る。壁間溝は確認されなかった。柱穴は、主柱穴P1・2を確認した。規模はP1:63.0×58.0cm、深さ49.0cm。P2:47.0×44.0cm、深さ80.0cmである。P1・2とも柱痕跡が確認された。出土遺物は、土師器杯26点201g、土師器甕189点5,388g、須恵器杯蓋1点13g、須恵器杯20点972g、須恵器甕20点848g、須恵器壺1点90g、総量257点7,512gと自然礫64gが出土した。須恵器杯は、益子原東2号竪穴階で、8世紀第3四半期である。4は転用瓦である。



第46図 助五郎内遺跡 SI-2 実測図



第47図 助五郎内遺跡 SI-2出土遺物

第19表 助五郎内遺跡 SI-2出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環	口径: 13.7 底径: 8.0 器高: 4.2	微砂粒、砂 粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切りの まま	内: 黒褐色 外: オリーブ黒色 ・良	口縁部 2/3 体~底部 完存		
2	須恵器 環	口径: (14.3) 底径: (7.4) 器高: 3.9	微砂粒、砂 粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 周縁ナデ	内: 黒褐色 外: 黒褐色 ・良	口縁部 1/6 底部 1/2	底部外面にヘラ記号。	覆土
3	須恵器 環	口径: (15.8) 底径: (9.6) 器高: 4.7	黒色粒・砂 粒・小礫少 量	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り	内: にぶい黄色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁~体 部 1/5 底部 1/3	底部外面にヘラ記号。	覆土 外面剥落
4	須恵器 高台環 転用碗	口径: - 底径: 8.4 器高: (1.6)	白色粒	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	内: 灰色 外: ロクロナデ ・良	底部ほぼ 完存、高 台 1/2	体部を意図的に打ち欠 く。底部外面は若干摩 滅しており、転用碗と 思われる。	覆土
5	須恵器 短頸直 鉢	口径: (10.0) 底径: - 器高: (5.9)	微砂粒、砂 粒、小礫	内: 口縁~肩部ロクロナデ 外: 口縁~肩部ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁部 1/6 肩部 1/3		覆土
6	土師器 環	口径: (14.8) 底径: - 器高: (2.6)	微砂粒	内: 口縁~体部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体部 ヘラケズリ後ヘラミガキ あるも調整不明瞭	内: 赤褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/12	内面赤彩。	覆土 小片
7	土師器 台付甕	口径: - 底径: 9.2 器高: (7.7)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 胴部ヘラナデツケ、高 台部ヨコナデ 外: 胴部調整不明瞭なるも ヘラナデ、高台部ヨコナデ	内: 褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	胴部下平 1/2 高台部 3/4		覆土
8	土師器 甕	口径: (16.4) 底径: - 器高: (8.3)	砂粒、小礫	内: 口縁~胴部ヨコナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ後ナデツケ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/8		覆土
9	土師器 甕	口径: (19.8) 底径: - 器高: (6.6)	微砂粒・砂 粒多量	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内: 灰褐色 外: 褐色 ・良	口縁部 1/6		覆土 武蔵炭

SI-4 (第48～51図、第20・21表、図版七・一九・二二)

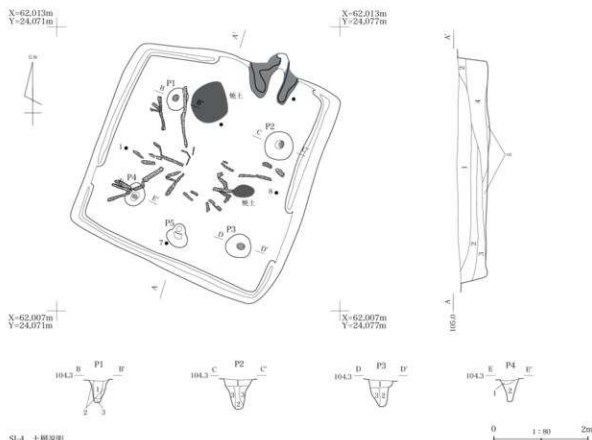
東調査区北東部の18-64グリッドに位置する。当遺跡において最も丘陵側に位置する建物跡である。

平面形は、やや歪んだ方形を呈する。規模は南北約4.90m、東西約4.65mで、面積は約22.8㎡である。主軸の振れはN-21°-Eである。

埋土は1～3層は自然堆積と思われる。5層は焼土・炭化物層で、炭化材も多数含む。炭化材は建物中央から西部にかけて多く分布する。4層も焼土を多く含む層で、カマド崩落土を含む。これらのことから焼失住居の可能性が考えられる。

床は、掘方底面のロームを床面とする。

残存する壁の高さは、東壁58.7cm、西壁72.4cm、南壁56.0cm、北壁48.6cmで、外傾して立ち上がる。壁際溝を東壁と西壁の一部を除き確認した。幅20.0～44.0cm、高さ4.0cmを測る。



SI-4 土層説明

1 暗褐色土	今市バミス粒・七本桜バミス粒微量混入。しまりあり。	P2	1 暗褐色土	ロームブロック・白色粘土ブロック・今市バミスブロック(1～5cm大)少量混入。しまりあり。
2 暗褐色土	今市バミス粒・七本桜バミス粒少量混入。きめの細かい粘質土。しまりあり。	2 暗赤褐色土	2 暗赤褐色土	ロームブロック(1～3cm大)少量混入。しまりあり。(柱礎跡埋土)
3 黒色土	今市バミス粒・七本桜バミス粒微量混入。きめの細かい粘質土。しまりなし。	3 暗褐色土	3 暗褐色土	白色粘土ブロック(1～3cm大)、今市バミス粒少量混入。しまりなし。(柱礎方埋土)
4 暗灰色土	白色粘土ブロック・灰白色粘土ブロック・焼土ブロック(3～5cm大)少量混入。しまりなし。(埋設)	P3	1 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック少量混入。しまりなし。
5 暗赤褐色土	焼土ブロック・焼土粒・炭化物主体。(焼失土用粘質)	2 暗褐色土	2 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック少量混入。しまりなし。(柱礎跡)
P1	1 黒色土	1 黒色土	1 黒色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1～3cm大)少量混入。しまりあり。(柱礎方埋土)
2 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1～3cm大)少量混入。しまりあり。(柱礎方埋土)	2 暗褐色土	2 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1～3cm大)少量混入。しまりあり。(柱礎方埋土)
3 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1～3cm大)少量混入。きめの細かい粘質土。しまりあり。	P4	1 暗褐色土	七本桜バミスブロック(1～3cm大)少量混入。しまりなし。
		2 黒色土	2 黒色土	ローム粒・今市バミス粒微量混入。しまりなし。

第48図 助五郎内遺跡 SI-4実測図

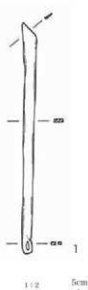
柱穴は、主柱穴P1～4と梯子穴P5を確認した。規模はP1：54.0×53.0cm、深さ48.0cm。P2：60.0×60.0cm、深さ63.0cm。P3：55.0×50.0cm、深さ56.0cm。P4：52.0×40.0cm、深さ45.0cmである。P1～3で柱痕跡が確認された。梯子穴P5は南壁中央の壁に寄った位置で確認された。50.0×45.0cm、深さは30.0cmである。

カマドは北壁東寄りに構築され、黄白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅24.0～40.0cm、長さ52.0～58.0cm、高さ24.0～30.0cmで、両袖間の幅は約46.0cmである。カマド掘方は深さ26.0cmで、北壁への突出は40.0cmである。

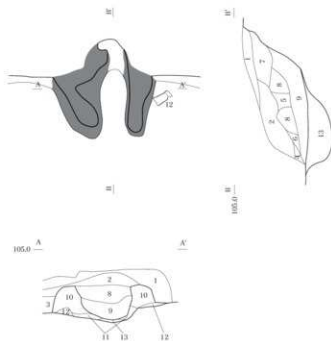
出土遺物は、土師器環9点294g、土師器甕107点8.956g、須恵器環蓋2点163g、須恵器環8点279g、須恵器甕7点473g、須恵器鉢1点334g、須恵器盤1点14g、鉄製品(キサゲ状工具)1点6g、総量135点10.513gと自然礫64gが出土した。

須恵器環は、益子原東4～2号窯段階で、8世紀前半である。6の須恵器鉢は、底部外面に竹管状の工具による刺突がみられる。キサゲ状工具は上端に斜めの刃が付き、下端は環状を呈する。

建物跡の時期は、8世紀前半である。



第49図 助五郎内遺跡 Si-4出土鉄製品

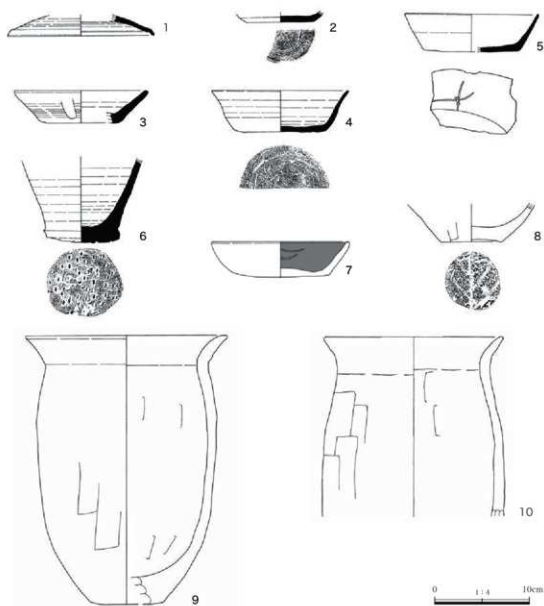


カマド 土質説明

- 1 黒褐色土
黄白色粘土ブロック・焼土ブロック・炭化物少量混入。しまりあり。
- 2 黒色土
黒色土ブロック・焼土ブロック(3～5cm大)少量混入。きめが粗い。しまりあり。
- 3 黒色土
黄白色粘土ブロック・焼土ブロック(1cm)少量混入。粘質土。しまりなし。
- 4 暗褐色土
焼土ブロック・炭化材や多量混入。しまりあり。きめが粗い。
- 5 暗黄白色土
黄白色粘土主体。黒色土・焼土混入り込む。しまりあり。(指付けの範囲外)
- 6 暗赤色土
黄白色粘土被焼層。しまりあり。
- 7 暗黄白色土
黄白色粘土ブロック・焼土ブロック(1～20cm大)少量混入。しまりあり。
(カマド天井崩落土)
- 8 黄白色土
黄白色粘土主体。黒色土少量混入り込む。しまりあり。(カマド天井崩落土)
- 9 赤褐色土
焼土主体層。炭・炭化物少量混入。
(カマド天井内壁崩落土)
- 10 黄白色土
黄白色粘土主体。白色粘土ブロック(3～5cm大)少量混入。(カマド跡)
- 11 暗黄白色土
黄白色粘土主体。黒色土・焼土ブロック(1cm大)少量混入。しまりなし。(カマド掘方埋土)
- 12 黒色土
今右ハミスブロック(1～3cm大)少量混入。きめの細かい粘質土。
- 13 黒褐色土
ロームブロック(1～3cm大)・白色粘土(1～3cm大)・今右ハミスブロック(1～3cm大)少量混入。きめの細かい粘質土。
(カマド掘方埋土)



第50図 助五郎内遺跡 Si-4カマド実測図



第 51 図 助五郎内遺跡 SI-4 出土遺物

第 20 表 助五郎内遺跡 SI-4 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技 法	色調・焼成	残存率	特 徴	備 考
1	須恵器 坏蓋	口径: 一 (15.4) 器高: (2.2)	砂粒、小礫	内: 天井～裾部ロクロナデ 外: 天井部回転ヘラケズリ、体～裾部ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/3	歪みあり。	覆土
2	須恵器 坏	口径: 一 底径: (7.0) 器高: 一	微砂粒、砂粒	内: 底部ロクロナデ 外: 底部回転ヘラケズリ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	底部 1/4	断面セピア色。底部外面にヘラ記号。	覆土
3	須恵器 坏	口径: (13.8) 底径: (7.0) 器高: 3.5	微砂粒	内: 口縁～体部ロクロナデ 外: 口縁～底部ロクロナデ、体部縦位ナデ	内: 黄灰色 外: 灰白色 ・良	口縁部 1/9		覆土
4	須恵器 坏	口径: (14.4) 底径: (9.0) 器高: 4.3	微砂粒・砂粒・小礫 やや多量	内: 口縁～底部ロクロナデ 外: 口縁～体部ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/2		覆土

5	須恵器 坏	口径:(14.0) 底径:(10.0) 器高: 4.0	微砂粒、砂 粒	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	1/3	体部外面にヘラ記号。	覆土
6	須恵器 埴鉢	口径: 一 底径: 7.5 器高: 一	砂粒、小礫	内:体~底部ロクロナデ 外:体部ロクロナデ、底部 ヘラケズリ後、竹管・平 截竹管刺突	内:灰色 外:灰色 ・良	体部下半 ~底部の み	断面セピア色。	覆土
7	土師器 坏	口径: 14.3 底径: 10.0 器高: 3.7	微砂粒	内:口縁~底部ヘラミガキ 外:口縁~体部調整不明 敷、底部ナデ	内:黒色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁部 5/6 底部ほぼ 完存	内面黒色処理。	外面剥落顕 著
8	土師器 甕	口径: 一 底径: 6.4 器高: (4.0)	砂粒・小礫 多量	内:胴~底部ナデ 外:胴部ヘラケズリ	内:にぶい褐色 外:にぶい褐色 ・良	底部完存	底部木葉痕あり。	
9	土師器 甕	口径:(21.2) 底径:(7.6) 器高: 28.3	ガラス光沢 黒色粒・透 明粒・微砂 粒・砂粒多 量	内:口縁部ヨコナデ、胴部 横位ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 縦位ヘラケズリ	内:暗灰黄色 外:黒褐色 ・良	口縁部 1/6 胴~底部 1/2		覆土
10	土師器 甕	口径:(18.6) 底径: 一 器高:(19.0)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部 横位ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 縦位ヘラケズリ	内:にぶい褐色 外:灰黄褐色 ・良	口縁部 1/3 胴部上半 1/4		カマド

第21表 助五郎内遺跡 SI-4 出土鉄製品観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	キリケ状 工具	長さ: 12.3 厚さ: 0.2 重量: 6.04g	先端を端内とする。下端は丸みを帯び、長軸幅 4mm、短軸幅 2mm の 孔を穿つ。	完存	

SI-6 (第 52・53 図、第 22 表、図版八・一九)

東調査区北部の 17-64・17-65 グリッドに位置する。南側に同じく奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-8 が位置する。

平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約 4.93m、東西約 4.85m で、面積は約 24.0 m² である。主軸の振れは N-18° - E である。

埋土は黒褐色・暗褐色を呈する 2 層に別けられる。

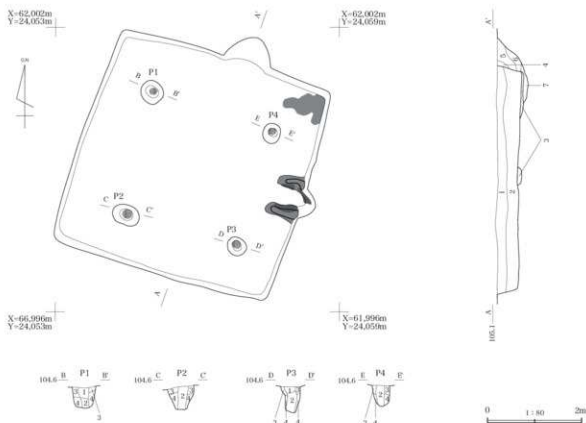
残存する壁の高さは、東壁 47.8cm、西壁 50.0cm、南壁 48.9cm、北壁 46.5cm で外傾して立ち上がる。

床は、大部分貼床を施さずロームを床面とする。壁際溝は確認されていない。

柱穴は、支柱穴 P1 ~ 4 を確認した。規模は P1: 50.0×47.0cm、深さ 48.0cm。P2: 60.0×42.0cm、深さ 49.0cm。P3: 53.0×40.0cm、深さ 56.0cm。P4: 58.0×51.0cm、深さ 46.0cm である。4 本全ての柱穴で柱痕跡が確認された。

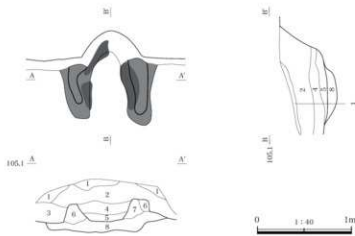
カマドは北壁中央と東壁中央に構築されている。北カマドは旧カマドで袖は確認できなかった。掘方の深さ 6.0cm、北壁への突出 30.0cm である。東カマドは、白黄色粘土で構築された両袖が残存しており、内側には被熱した痕跡もみられる。袖幅 26.0 ~ 30.0cm、長さ 50.0 ~ 60.0cm、高さ約 18.0 ~ 20.0cm で、両袖間の幅は約 62.0cm である。掘方は深さ 16.0cm で、東壁への突出は 27.0cm である。

出土遺物は、土師器坏 13 点 136g、土師器甕 136 点 2,302g、土師器埴 6 点 47g、須恵器坏蓋 1 点 7g、須恵器坏 12 点 98g、総量 168 点 2,590g が出土した。図化していないが、土師器甕頸部の破片外面に靱状圧痕がみられる。建物跡の時期は、8 世紀第 2 ~ 3 四半期か。



SI-6 土層説明

- | | | |
|---------|--|---|
| 1 黒褐色土 | 今市バミス粒・七本板バミス粒微量混入。しりりあり。 | P1~P4 |
| 2 暗褐色土 | 七本板バミス粒微量混入。しりりなし。 | 1 暗褐色土 |
| 3 暗褐色土 | ロームブロック・今市バミスブロック(1~20cm大)少量混入。 | 2 暗褐色土 |
| 4 黒褐色土 | ローム粒やや多量。今市バミス粒微量混入。しりりあり。 | (柱頭跡) |
| 5 暗赤褐色土 | 白色粘土ブロック・焼土ブロック(1~3cm大)やや多量混入。しりりあり。(カマド) | 3 黒褐色土 |
| 6 灰褐色土 | 灰土体・焼土粒・炭化粒少量混入。しりりなし。(カマド押通内面陥土) | 4 暗褐色土 |
| 7 暗灰褐色土 | 白色粘土ブロック・白黄色粘土ブロック(1~5cm大)やや多量混入。しりりあり。(カマド面方埋土) | ローム粒・焼土粒・白色粘土粒少量混入。しりりなし。 |
| | | ロームブロック主体。粘質性黒土少量混入。しりりなし。 |
| | | 1~3cm大のロームブロック・今市バミスブロック少量混入。しりりあり。(柱頭方埋土) |
| | | 1~5cm大のロームブロック多量。今市バミスブロック・今市バミス粒少量混入。しりりあり。(柱頭方埋土) |



カマド 土層説明

- | | |
|---------|--|
| 1 黒褐色土 | 今市バミス粒・七本板バミス粒微量混入。しりりあり。 |
| 2 暗褐色土 | 白黄色粘土ブロック(1~20cm大)やや多量。焼土粒・炭化粒少量混入。しりりあり。カマド天井面陥土。 |
| 3 暗褐色土 | 白色粘土ブロック(1~5cm大)・今市バミスブロック(1~5cm大)・ローム粒・焼土粒少量混入。しりりなし。 |
| 4 暗灰褐色土 | 白色粘土ブロック・焼土ブロック(5cm大)少量混入。しりりあり。(天井内面陥土) |
| 5 灰褐色土 | 灰土体。ローム粒・焼土粒少量混入。しりりなし。(押通内陥土) |
| 6 白黄色土 | 白黄色粘土土体。焼土ブロック少量混入。しりりあり。(カマド) |
| 7 暗灰褐色土 | 6層被熱層(カマド跡) |
| 8 黒土 | ロームブロック・今市バミスブロック(1~3cm大)少量混入。粘質性黒土。しりりあり。(カマド面方埋土) |

第52図 助五郎内道跡 SI-6 実測図



第53図 助五郎内遺跡 SI-6出土遺物

第22表 助五郎内遺跡 SI-6出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 高台杯	口径:(13.0) 底径:— 器高:(4.1)	砂粒、小礫	内:口縁~底部ロクロナ デ 外:口縁~体部ロクロナ デ	内:灰色 外:暗オリーブ灰 色 ・良	口縁部 1/12		甌土 小片
2	土師器 杯	口径:(15.6) 底径:— 器高:6.1	微砂粒	内:口縁~体部丁寧なヘ ラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体 部粗いヘラミガキ	内:黒色 外:にじみ黄橙色 ・良	口縁部 1/12	内面黒色処理。	甌土

SI-7 (第54・55図、第23表、図版八・一九)

東調査区北部の18-65グリッドに位置する。奈良・平安時代の掘立柱建物跡SB-5と重複し、SB-5が新しい。平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約4.60m、東西約4.60mで、面積は約21.1㎡である。主軸の振れはN-15°-Wである。

埋土は黒褐色・黒色を呈する3層に別けられる。

残存する壁の高さは、東壁48.5cm、西壁29.9cm、南壁25.5cm、北壁26.8cmで、外傾して立ち上がる。

床は、掘方を暗黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約4.0～24.0cmを測る。壁際溝は確認されなかった。

柱穴は、支柱穴P1～4を確認した。規模はP1:75.0×60.0cm、深さ62.0cm、P2:55.0×38.0cm、深さ65.0cm、P3:65.0×60.0cm、深さ70.0cm、P4:38.0×33.0cm、深さ65.0cmである。4本全ての柱穴で柱痕跡が確認された。

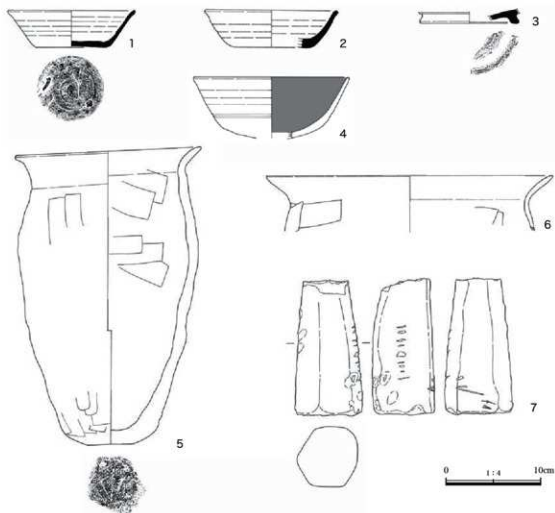
カマドは北壁東寄りに構築されている。黄褐色粘土で構築された両袖が残存しており、内壁はよく焼けて被熱赤化がみられる。袖は幅30.0cm、長さ70.0～74.0cm、高さ約30.0～36.0cmで、両袖間の幅は約86.0cmである。掘方は深さ8.0cmで、北壁への突出は16.0cmである。土師器甕が袖内に埋め込まれた状態で確認された。

出土遺物は、土師器杯9点221g、土師器甕83点5.487g、須恵器杯蓋1点5g、須恵器杯12点224g、須恵器甕15点351g、支脚1点758g、総量121点7.046gが出土した。

須恵器杯は、益子谷津入窯段階、8世紀第4四半期か。



第54図 助五内内道跡 S1-7実測図



第55図 助五郎内遺跡 SI-7出土遺物

第23表 助五郎内遺跡 SI-7出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏	口径: (13.0) 底径: 7.6 器高: 3.9	砂粒	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁~体部 1/6 底部完存	底部外面にヘラ記号「×」	覆土
2	須恵器 坏	口径: (13.8) 底径: (7.8) 器高: 4.0	微砂粒、砂粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ、底部周縁ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/6		覆土
3	須恵器 高台坏	口径: — 底径: (10.2) 器高: (1.2)	微砂粒、砂粒	内: 底部ロクロナデ 外: 底部回転ヘラケズリ後、後貼付高台後ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	底部 1/6		覆土
4	土師器 坏	口径: (16.4) 底径: — 器高: (6.5)	微砂粒	内: 口縁~体部調整不明瞭なるもヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、底部調整不明瞭なるもヘラケズリ	内: 黒色 外: 褐色 ・良	口縁部 1/8	内面黒色処理。	覆土
5	土師器 甕	口径: 19.4 底径: 4.0 器高: 31.1	ガラス光沢 黒色粒・透明粒・砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ・ナデ	内: 明赤褐色 外: 赤褐色 ・良	口縁部一部欠損	平底だが周縁が丸くやや凸状。底部木炭痕あり。	カマド 袖口
6	土師器 甕	口径: (30.2) 底径: — 器高: (5.8)	ガラス光沢 黒色粒・微砂粒・砂粒 多量	内: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	内: にぶい赤褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁部破片	歪みあり。	覆土 武蔵炭、小片
7	土製品 支脚	口径: — 底径: 6.8 器高: (14.2) 重量: 757.0g	砂粒・小礫 多量	内: 調整不明瞭	外: にぶい黄褐色 ・良	先端部欠損		覆土

SI-8 (第56～58図、第24表、図版八・二〇)

東調査区中央部の17-65グリッドに位置する。北側に奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-6が位置する。

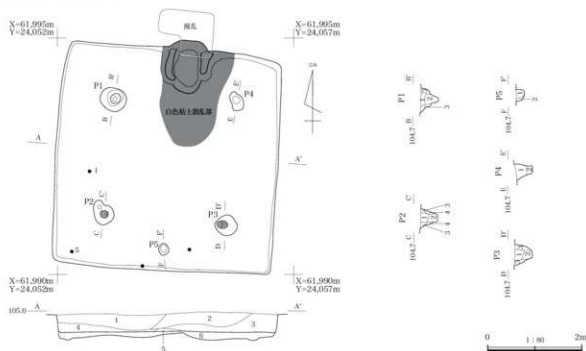
平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約4.80m、東西約4.70mで、面積は約22.6㎡である。主軸の振れはN-6°-Eである。

埋土は黒褐色・褐色の4層に別けられ、自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁37.5cm、西壁38.6cm、南壁31.2cm、北壁44.7cmで、外傾して立ち上がる。

床は、掘方を暗褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約4.0～18.0cmを測る。壁間溝は確認されていない。

柱穴は、主柱穴P1～4と梯子穴P5を確認した。規模はP1：57.0×55.0cm、深さ37.0cm。P2：56.0×46.0cm、深さ36.0cm。P3：70.0×43.0cm、深さ36.0cm。P4：45.0×26.0cm、深さ42.0cmである。P2・3には柱痕跡が確認できる。梯子穴P5は南壁中央の壁に寄った位置で確認された。38.0×22.0cm、深さは19.0cmである。



SI-8 土層説明

1 黒褐色土	今市バミス粒・七本椀バミス粒微量混入。粘質土。しまりなし。	P2・P5	1 黒色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1～3cm大)、ローム粒微量混入。しまりなし。(柱痕跡)	
2 暗褐色土	今市バミス粒・七本椀バミス粒やや多量。黒色土・今市バミスブロック・七本椀バミスブロック(3cm大)少量混入。しまりあり。		2 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(5cm大)少量混入。しまりなし。(柱痕跡)	
3 褐色土	今市バミス粒・七本椀バミス粒やや多量。ロームブロック・今市バミスブロック・七本椀バミスブロック(1～5cm大)少量混入。しまりあり。		3 暗褐色土	ロームブロック(5cm大)・今市バミスブロック(5cm大)少量混入。しまりあり。(柱痕跡)	
4 褐色土	今市バミスブロック・七本椀バミスブロック(1～3cm大)、今市バミス粒・七本椀バミス粒少量混入。粘質土。しまりなし。ロームブロック(5cm大)・灰色粘土・焼土粒少量混入。しまりなし。		4 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(5cm大)主体。粘質黒色土少量混入。しまりあり。(柱痕跡)	
5 暗褐色土	ロームブロック(1～20cm大)・今市バミスブロック(1～20cm大)少量混入。しまりあり。(掘方埋土)		P3	1 黒色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1～3cm大)、ローム粒微量混入。しまりなし。(柱痕跡)
6 暗褐色土	ロームブロック(1～3cm大)主体。今市バミスブロック(1～3cm大)少量混入。しまりなし。		2 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(5cm大)少量混入。しまりなし。(柱痕跡)	
			3 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(5cm大)主体。粘質黒色土少量混入。しまりあり。(柱痕跡)	
P1			P4		
1 黒褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1～3cm大)少量混入。粘質土。しまりなし。		1 黒色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1～3cm大)、ローム粒微量混入。しまりなし。	
2 暗褐色土	ロームブロック(1～3cm大)主体。今市バミスブロック(1～3cm大)少量混入。しまりなし。		2 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(5cm大)少量混入。しまりなし。	
3 暗褐色土	ロームブロック(5cm大)・今市バミスブロック(5cm大)主体。黒色土少量混入。しまりあり。(柱痕跡)				

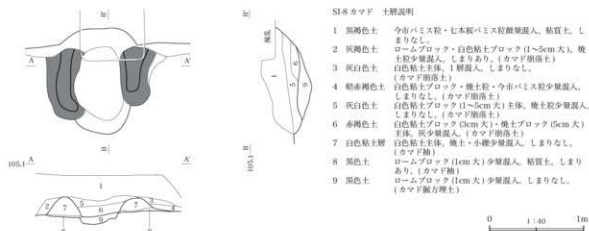
第56図 助五郎内遺跡 SI-8実測図

カマドは北壁中央に構築され、白色粘土で構築された両袖が残存している。袖は幅 28.0～30.0cm、長さ 50.0～64.0cm、高さ約 14.0～22.0cm で、両袖間の幅は約 60.0cm である。掘方は深さ 14.0cm で、北壁への突出は 16.0cm である。また崩落したカマド構築材である白色粘土が、カマド前面に散乱していた。

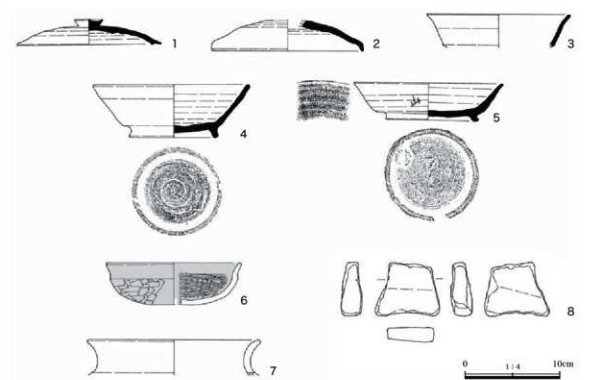
遺物出土状況は、南半から多く出土している。

出土遺物は、土師器環 33 点 360g、土師器甕 310 点 5,086g、須恵器環蓋 9 点 1,417g、須恵器環 5 点 455g、須恵器甕 1 点 15g、石製品（砥石）1 点 43g、総量 359 点 7,376g と自然礫 68g が出土した。

1 は返りのある須恵器環蓋で 7 世紀末。4・5 は須恵器高台環で益子原東 1・3 号～2 号築段階、8 世紀第 2～3 四半期。6 は口縁の外傾する土師器環で 7 世紀前葉。遺物にかなり時期差が認められるが、出土状態が明確であること、建物跡の特徴から須恵器高台環の時期をとり、建物跡の時期は 8 世紀第 2～3 四半期とする。



第 57 図 助五郎内遺跡 SI-8カマド実測図



第 58 図 助五郎内遺跡 SI-8 出土遺物

第24表 助五内内道跡 SI-8出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環蓋	桶径: 3.0 口径:(15.0) 器高: 2.7	雲母、微砂 粒、砂粒、 小礫	内: 天井~裾部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、天井 部回転ヘラケズリ、桶み 貼付後ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	桶み完存 天井~裾 部 1/6	返り蓋。	南覆土
2	須恵器 環蓋	桶径: - 口径:(15.8) 器高:(3.3)	砂粒、小礫	内: 天井~裾部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、天井 部回転ヘラケズリ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	天井~裾 部 1/4		南覆土
3	須恵器 環	口径:(15.0) 底径: - 器高:(3.6)	砂粒	内: 口縁~体部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ	内: 灰白色 外: 灰白色 ・良	口縁~体 部 1/6	内面に赤色顔料付着。	南覆土
4	須恵器 高台環	口径:(16.0) 底径: 8.8 器高: 5.6	砂粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラケズリ、 後貼付高台後ナデ	内: 淡黄色 外: 淡黄色 ・不良	口縁~体 部 1/4 底部完存		覆土・南覆 土
5	須恵器 高台環	口径: 15.6 底径: 9.5 器高: 3.9	黒色粒、小 礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラケズリ、 後貼付高台後ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁部一 部欠損	歪み大きい。内面中央 平滑面あり。高台内面 窪体付着。体部外面へ ラ記号「山」。	南覆土
6	土師器 環	口径:(14.0) 底径: - 器高: 4.4	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部粗い放射状横位へ ラミガサ 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部不方向ヘラケズリ	内: 灰黒褐色 外: 黒褐色 ・良	1/3	内外面塗仕上げ処理。	南覆土
7	土師器 甕	口径:(18.0) 底径: - 器高:(3.7)	ガラス光沢 黒色粒・透 明粒少量	内: 口縁部ヨコナデ 外: 口縁部ヨコナデ	内: 浅黄色 外: 浅黄色 ・良	口縁部 1/6		北覆土 小片
8	石製品 砥石	長軸: 6.0 短軸:(3.4) 厚さ: 1.7 重量: 43.0g	粒子細かい 砂岩		外: 黒褐色	不明	指形の上部分が欠損した ものか。	南覆土

SI-9 (第59~61図、第25・26表、図版九・二〇・二二)

東調査区西部の17.65グリッドに位置する。周囲には古墳時代の竪穴建物跡SI-12・13・30、奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-8・10・11・14・31が位置する。

平面形は、やや南北の長い方形を呈する。規模は南北約4.90m、東西約4.70mで、面積は約23.0㎡である。主軸の振れはN-3°Eである。

埋土は黒色・黒灰褐色を呈する5層に別けられ自然堆積と思われる。4層は壁際溝埋土である。

残存する壁の高さは、東壁64.0cm、西壁58.0cm、南壁64.9cm、北壁59.9cmで、垂直に近く立ち上がる。床は、掘方を褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約8.0~18.0cmを測る。西壁に壁際溝を確認した。幅12.0~38.0cm、深さ12.0cmである。柱穴、梯子穴は確認できなかった。

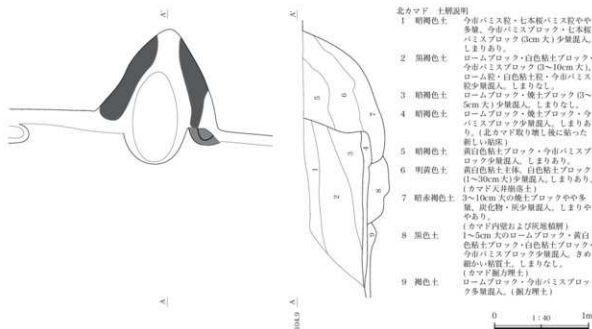
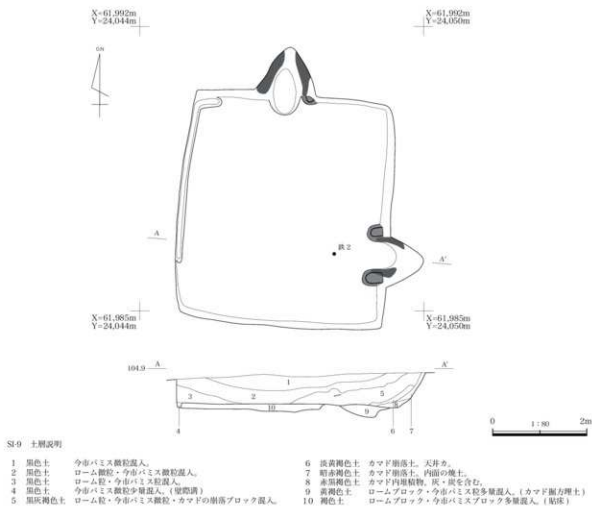
カマドは北壁中央と東壁中央に構築されている。北カマドは旧カマドで煙道部がよく焼けて赤化している。僅かに残存する袖は幅34.0cm、長さ8.0cmで、掘方は深さ22.0cm、北壁への突出98.0cmである。東カマドは袖の幅24.0~32.0cm、長さ24.0~32.0cm、両袖間の幅は約50.0cmである。掘方は深さ24.0cm、東壁への突出は80.0cmである。煙道部はよく焼けて赤化している。

出土遺物は、土師器環11点80g、土師器甕154点3.306g、須恵器環蓋2点77g、須恵器環39点1,024g、須恵器甕4点950g、支脚1点94g、瓦1点149g、総量212点5,680gが出土した。

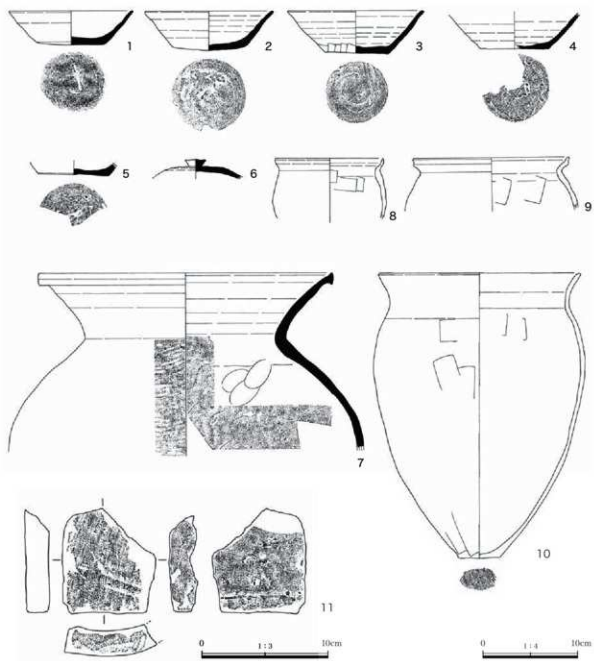
須恵器は、益子滝ノ入・倉見沢~脇屋1・2号窯段階で、9世紀中葉~後葉である。11は平瓦である。

鉄製品は長刀子、簾、棒状製品が出土している。

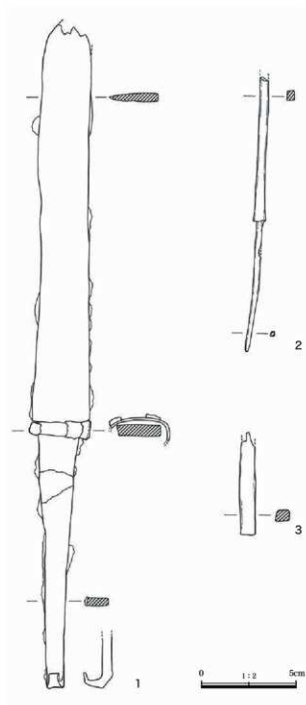
建物跡の時期は、9世紀中葉~後葉である。



第59図 助五郎内遺跡 SI-9実測図



第60図 助五郎内遺跡 S1-9出土遺物



第 61 図 助五郎内遺跡 SI-9 出土鉄製品

第25表 助五郎内遺跡 SI-9 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏	口径: (13.0) 底径: 7.0 器高: 3.6	砂粒。小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後ヘラケズリ後ヘラナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁~体部 1/4 底部完存	底部外面にヘラ記号「二」。	覆土
2	須恵器 坏	口径: 13.6 底径: 7.6 器高: 4.2	砂粒・小礫 やや多量	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後ヘラナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁~体部 1/2 底部完存		覆土
3	須恵器 坏	口径: (14.2) 底径: 6.6 器高: 4.5	ガラス光沢 黒色粒、微砂粒	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、体部下端手持ヘラケズリ、底部回転ヘラ切り後ヘラケズリ	内: 褐色 外: 褐色 ・良	口縁~体部 1/3 底部完存		貼床
4	須恵器 坏	口径: - 底径: 7.0 器高: (3.9)	微砂粒。小礫	内: 体~底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ	内: 暗青灰色 外: 暗青灰色 ・良	体部 1/6 底部 3/4	底部外面にヘラ記号。	覆土
5	須恵器 坏	口径: - 底径: (7.4) 器高: (1.4)	微砂粒・小礫 少量	内: 底部ロクロナデ 外: 底部回転ヘラ切り後ヘラケズリ後ヘラナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	底部 1/4	底部外面にヘラ記号。	覆土
6	須恵器 坏蓋	口径: 2.2 底径: - 器高: (2.1)	微砂粒・小礫 やや多量	内: 天井~体部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、天井部回転ヘラケズリ、組み貼付後ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	胴部全損	内面自然軸付着。	覆土
7	須恵器 甕	口径: (31.0) 底径: - 器高: (19.8)	微砂粒。砂粒。小礫	内: 口縁部ロクロナデ、胴部無文当て具直 外: 口縁部ロクロナデ、胴部平行タタキ	内: 灰色 外: 褐色 ・良	口縁部 1/6 胴部 1/5	内外面自然軸付着。断面セピア色。	覆土
8	土師器 甕	口径: 11.4 底径: - 器高: (6.3)	雲母多量、微砂粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ・ナデあるも調整不明瞭	内: 浅黄褐色 外: にぶい褐色 ・良	胴部下半 欠損		外面剥落
9	土師器 甕	口径: (16.4) 底径: - 器高: (5.6)	雲母、微砂粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部ナデ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/4	小形。口唇端部外面に凹面を作る。	
10	土師器 甕	口径: (19.8) 底径: (4.2) 器高: 28.3	黒色粒・微砂粒多量、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	内: 明褐色 外: 褐色 ・良	口縁部 1/6 底部 3/4		東カマド床面 武蔵甕
11	瓦	厚さ: 1.9 重量: 149.0g	微砂粒。小礫	内: 凹面布目直 外: 凸面ナデ、側面・端部ヘラケズリ	内: 灰色 外: オリーブ灰色 ・良	不明		小片

第26表 助五郎内遺跡 SI-9 出土鉄製品観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	刀	長さ: (35.0) 厚さ: - 重量: 200.14g	先端部と茎部を欠く。刃部は角棒・平造である。区は両区で検測に3mm程度、刃側に4mm程度の段をもつ。柄縁の真金具が遺存している。	先端部・茎部欠損	覆土
2	鐙	長さ: (14.6) 厚さ: - 重量: 12.14g	茎端部はU字形に折り曲げられる。長頸鐙の鐙鉞と茎。断面は鐙鉞が長方形。茎との境は台状凹。	上半欠損	5層
3	棒状鉄製品	長さ: (5.4) 厚さ: 0.6 重量: 9.50g	短軸断面が長方形の棒状品。	身上半欠損	覆土

SI-10 (第62・63図、第27表、図版九・二〇)

東調査区西部の17-65グリッドに位置する。西側が調査区外のため未調査である。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-40と重複している。SI-40が新しい。

平面形は、東西に長い歪んだ方形を呈する。規模は南北約3.35m、東西残存約3.83mで、面積は約12.8㎡である。主軸の振れはN4°-Wである。

埋土は黒色を呈する単層である。6層は壁際溝埋土である。

残存する壁の高さは北壁で18.0cmである。

床は、ロームを床面とし、南に傾斜している東壁中央を除き壁際溝を確認した。幅12.0～24.0cm、深さは6.0cmを測る。

柱穴は、不明ビットP2を確認した。規模はP2:120.8×90.0cm、深さ57.0cmである。

不明ビットP1は建物床面と同じ面で埋土に白色粘土を貼っており、建物跡より古い土坑である。規模は34.0×34.0cm、深さ46.0cmである。

カマドは確認できなかったが、北壁中央が突出しており、カマドの痕跡とも考えられる。

出土遺物は、土師器環2点9g、土師器甕6点98g、総量8点107gが出土した。

調査時にSI-10と重複するSI-40を途中まで分離できず、図化できる遺物は一括取り上げ遺物のみである。

1は須恵器高台環、2は古墳時代の甕、3は土師器環、体部外面に墨書がみられる。

建物跡の時期は8世紀代である。

SI-40 (第62・63図、第27表、図版九・二〇)

調査区中央部の16-65グリッドに位置する。西側が調査区外のため未調査である。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-10と重複している。SI-40が新しい。

平面形は、方形を呈するものと思われる。規模は確認できた範囲で南北約2.50m、東西残存約0.8m、面積は約2.0㎡である。主軸の振れは不明である。

埋土は黒色・黒褐色を呈する2層に別けられ、白色粘土・焼土・ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

残存する壁の高さは、南壁で20.0cmで、外傾して立ち上がる。

床は、掘方を暗褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは6.0～16.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認できなかった。

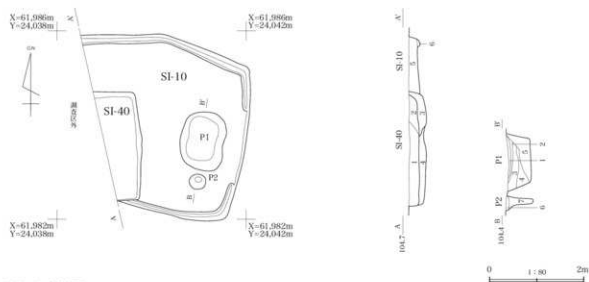
カマドは掘方の一部を確認した。深さは18.0cmである。

出土遺物は、土師器環6点63g、土師器甕27点565g、須恵器環2点19g、須恵器甕3点135g、須恵器甕1点171g、総量39点953gが出土した。

調査時にSI-10と重複するSI-40を途中まで分離できず、図化できる遺物は一括取り上げ遺物のみである。

1は須恵器高台環、2は古墳時代の甕、3は土師器環、体部外面に墨書がみられる。

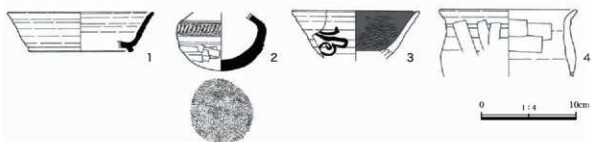
建物跡の時期は10世紀前半である。



SI-10・40 土層説明

- | | |
|---|--|
| <p>1 黒色土 白色粘土ブロック(1~5cm大)少量、ローム殻・今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しりりあり。(SI-40)</p> <p>2 黒褐色土 ロームブロック・焼土ブロック(1~3cm大)、ローム殻・焼土粒少量混入。しりりなし。(SI-40)</p> <p>3 暗赤褐色土 焼土粒やや多量混入。しりりなし。(SI-40のツツ断面方埋土上)</p> <p>4 暗褐色土 褐色土ブロック(1~10cm大)少量混入。しりりなし。(SI-40断面方埋土)</p> <p>5 黒色土 七本板バミス粒少量、今市バミス粒微量混入。しりりあり。(SI-10)</p> <p>6 黒褐色土 焼土粒・今市バミス粒微量混入。しりりなし。(SI-10壁際溝)</p> | <p>7 褐色土 今市バミスブロック・七本板バミスブロック(1~3cm大)少量混入。しりりあり。(船床)</p> <p>8 暗褐色土 今市バミス粒・七本板バミス粒やや多量、今市バミスブロック(1~5cm大)少量混入。しりりなし。(埋戻し土)</p> <p>9 黒褐色土 今市バミスブロック・七本板バミスブロック(1~5cm大)やや多量、今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しりりなし。(埋戻し土)</p> <p>10 暗褐色土 今市バミスブロック(1~5cm大)主体、ロームブロック・七本板バミスブロック(1~5cm大)少量混入。しりりなし。(埋戻し土)</p> |
|---|--|
- P1 1 黒褐色土 今市バミスブロックやや多量、褐色土ブロック・白色粘土ブロック・七本板バミスブロック(1~3cm大)少量混入。しりりあり。(船床)
- P2 1 暗褐色土 七本板バミス粒やや多量、今市バミス粒少量混入。しりりあり。
- 2 黒褐色土 今市バミスブロック(1~10cm大)・今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しりりあり。

第62図 助五郎内遺跡 SI-10・40実測図



第63図 助五郎内遺跡 SI-10・40出土遺物

第27表 助五郎内遺跡 SI-10・40出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ(cm)	胎土(石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 高台杯	口径:(15.2) 底径:(11.0) 器高:4.2	微砂粒少量	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、後胎付高台後ナデ	内:灰色土 外:灰色 ・良	1/15	外面自然釉付着。	小片
2	須恵器 器	口径:— 底径:— 器高:(6.1)	透明粒、微 砂粒、砂粒	内:胴~底部ロクロナデ 外:胴部上半へラケズリ 口仔皿、下半へラケズリ	内:灰色土 外:灰色 ・良	胴部1/3	底部外面にへラ記号。	
3	土師器 杯	口径:(13.2) 底径:— 器高:(5.0)	微砂粒	内:口縁~体部ヘラミ丹キ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:黒色土 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁~体 部1/8	口縁~体 部外面黒書あり。 内面黒色処理。	
4	土師器 甕	口径:(14.4) 底径:— 器高:(7.0)	ガラス光沢 微粒、透明 粒、砂粒、 小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内:黄褐色土 外:褐色 ・良	口縁部 1/7	小形。内外面に積み上 げ痕を僅かに残す。	小片

SI-11 (第64図、図版九)

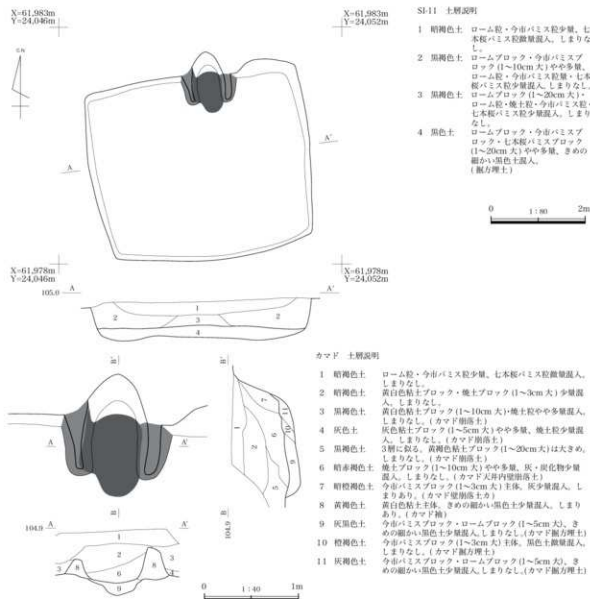
東調査区西部の17.65グリッドに位置する。

平面形は、やや歪んだ方形を呈する。規模は南北約4.00m、東西約4.70mで、面積は約18.8㎡である。主軸の振れはN-8°-Wである。

埋土は暗褐色・黒褐色を呈する3層に別けられ、人為堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁63.6cm、西壁41.0cm、南壁45.1cm、北壁41.6cmで外傾して立ち上がる。床は、掘方を灰色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約16.0～28.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認できなかった。

カマドは北壁ほぼ中央に構築されている。黄白色粘土で構築された両袖が残存しており、カマドの袖は幅30.0～32.0cm、長さ48.0～50.0cm、高さ約18.0～34.0cmで、両袖間の幅は約74.0cmである。掘方は深さ12.0cmで、北壁への突出は50.0cmである。

建物跡の時期は出土遺物がなく不明である。



第64図 助五郎内遺跡 SI-11実測図

SI-14 (第65図、図版九・一〇)

調査区東部の17-66グリッドに位置する。

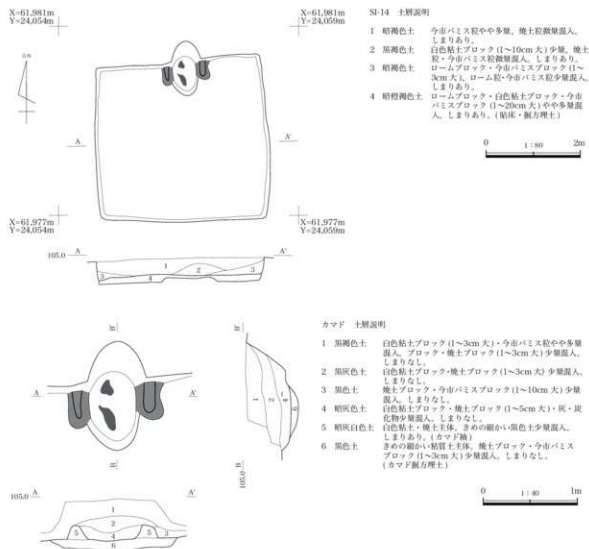
平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北残存約3.55m、東西約3.50mで、面積は約12.4㎡である。主軸の振れはN-3°-Wである。

埋土は暗褐色・黒褐色を呈する3層に別けられ、焼土粒や白色粘土ブロックを含むことから人為堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁32.7cm、西壁32.1cm、南壁29.4cm、北壁33.2cmで垂直に近く立ち上がる。床は、掘方を暗灰色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約4.0～16.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認できなかった。

カマドは北壁中央に構築され、白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅24.0～28.0cm、長さ38.0～40.0cm、高さ約14.0cmで、両袖間の幅は約80.0cmである。掘方は深さ12.0cmで、北壁への突出は40.0cmである。

建物跡の時期は出土遺物がなく不明である。



第65図 助五郎内遺跡 SI-14実測図

SI-15 (第66図、図版一〇)

調査区東部の18-65グリッドに位置する。北東部に奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-16が重複しており、北東部を大きくSI-16に切られている。

平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約3.70m、東西残存約3.65mで、面積は約13.5㎡である。主軸の振れはN-8°-Eである。

埋土は褐色土・黒褐色土の2層から成り、5層中には少量の炭化物と炭化材が含まれている。炭化材は床面から少し浮いた状態で、建物中央に集中している。

残存する壁の高さは、東壁16.8cm、西壁24.5cm、南壁21.5cm、北壁13.5cmで、垂直に近く立ち上がる。床は、ロームを床面とする。カマド、柱穴、梯子穴、壁際溝は確認できなかった。

出土遺物は、土師器裏2点38gと自然礫24gが出土した。

建物跡の時期は9世紀代か。

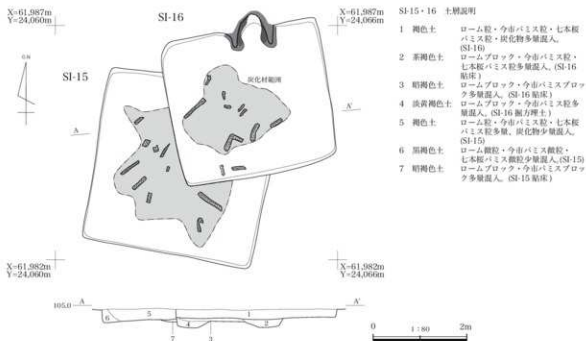
SI-16 (第66～68図、第28表、図版一〇)

調査区東部の18-65グリッドに位置する。南西部に奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-15が重複する。SI-16が新しい。

平面形は、方形を呈する。規模は南北約3.20m、東西約3.50mで、面積は約11.2㎡である。主軸の振れはN-10°-Wである。

埋土は茶褐色土の単層で、炭化物と炭化材を含む。炭化材は床面から少し浮いた状態で、建物中央に集中している。

残存する壁の高さは、東壁20.6cm、西壁20.1cm、南壁16.8cm、北壁21.0cmで外傾して立ち上がる。



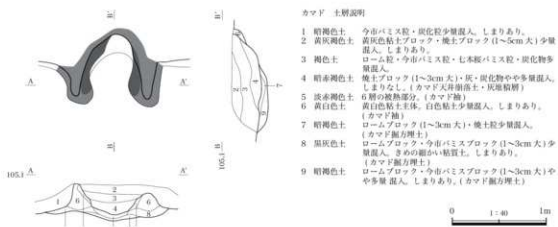
第66図 助五郎内遺跡 SI-15・16 実測図

床は、一部掘方を暗褐色土で埋め戻し、貼床の厚さは約 6.0～18.0cm を測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認できなかった。

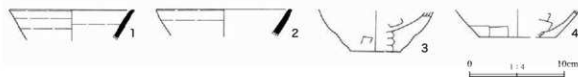
カマドは北壁中央に構築され、黄白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅 32.0～38.0cm、長さ 36.0～44.0cm、高さ約 19.0～28.0cm で、両袖間の幅は約 76.0cm である。掘方は深さ 11.0cm で、北壁への突出は 32.0cm である。

出土遺物は、土師器環 1 点 6g、土師器甕 11 点 227g、須恵器環 5 点 28g、須恵器甕 3 点 107g、総量 20 点 368g が出土した。

建物跡の時期は 9 世紀代か。



第 67 図 助五郎内遺跡 SI-16 カマド実測図



第 68 図 助五郎内遺跡 SI-16 出土遺物

第 28 表 助五郎内遺跡 SI-16 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環	口径:(14.0) 底径:— 器高:(3.2)	微砂粒	内:口縁～体部ロクロナ デ 外:口縁～体部ロクロナ デ	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁部 1/9		極めて小片
2	須恵器 環	口径:(14.0) 底径:— 器高:(2.8)	砂粒、小礫	内:口縁～体部ロクロナ デ 外:口縁～体部ロクロナ デ	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁部 1/17		カマド 極めて小片
3	土師器 甕	口径:— 底径:(5.2) 器高:(4.3)	黒色粒、透 明粒、砂粒	内:胴部ヘラナデ 外:胴～底部ナデ	内:黒色 外:灰黄褐色 ・不良	底部 1/5		覆土 小片
4	土師器 甕	口径:— 底径:(8.0) 器高:(2.9)	黒色粒・透 明粒・微砂 粒少量	内:胴部ヘラナデ 外:胴～底部ヘラケズリ	内:黄灰色 外:灰黄褐色 ・良	底部 1/5	薄い器厚。	カマド 小片

SI-17 (第69～72図、第29・30表、図版一〇・二〇・二一)

東調査区南西部の17-66グリッドに位置する。南東に掘立柱建物跡SB-35が近接する。

平面形は、やや歪んだ方形を呈する。規模は南北約4.55m、東西約4.55mで、面積は約21.0㎡である。主軸の振れはN-10°-Eである。

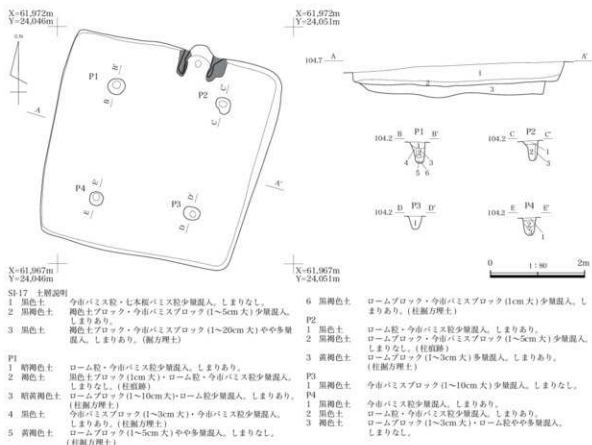
埋土は黒色・黒褐色を呈する2層に別けられる。

残存する壁の高さは、東壁42.8cm、西壁21.3cm、南壁20.7cm、北壁31.5cmで、外傾して立ち上がる。床は、掘方を黒色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約16.0～24.0cmを測る。壁間溝は確認されていない。

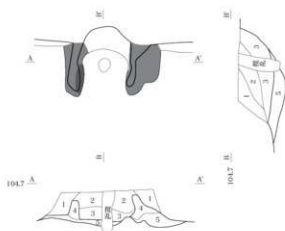
柱穴は、主柱穴P1～4を確認した。規模はP1：400×37.0cm、深さ46.0cm。P2：45.0×35.0cm、深さ43.0cm。P3：37.0×30.0cm、深さ28.0cm。P4：40.0×38.0cm、深さ37.0cmである。P1・2で柱痕跡を確認した。

カマドは北壁やや東寄りに構築され、ロームで構築された両袖が残存していた。袖は幅20.0～34.0cm、長さ48.0～52.0cm、高さ約20.0～26.0cmで、両袖間の幅は約58.0cmである。掘方は深さ16.0cmで、北壁への突出は18.0cmである。

出土遺物は、土師器片6点56g、土師器甕99点4.129g、土師器鉢1点114g、土師器碗8点170g、須恵器片蓋1点24g、須恵器環2点70g、須恵器甕7点320g、須恵器瓶1点256g、支脚3点1.277g、総量128点6.416gが出土した。須恵器環は8世紀前半であろう。鉄製品は鋸先が出土している。



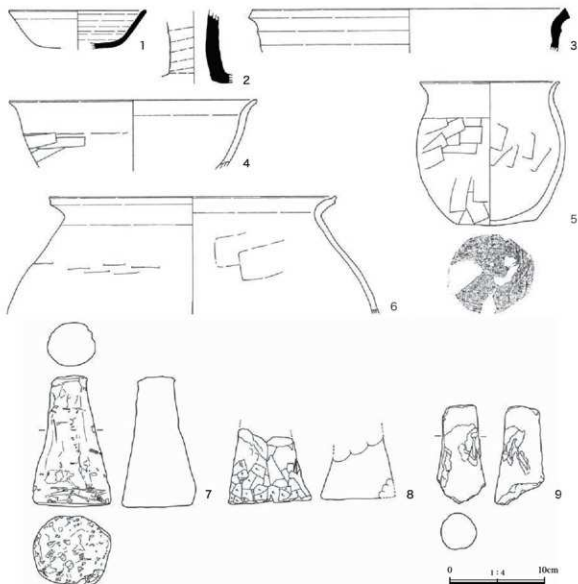
第69図 助五郎内遺跡 SI-17 実測図



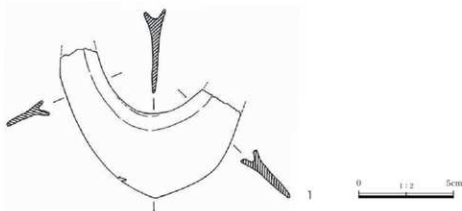
カマド 土質説明

- 1 黒色土 今市バミス粒・七本尻バミス粒少量混入。しまりなし。
- 2 暗赤褐色土 ロームブロック・焼土ブロック(1~5cm大)やや多量混入。しまりあり。
- 3 暗赤褐色土 褐色土ブロック(1~5cm大)やや多量。焼土粒・灰少量混入。しまりなし。(カマド式井内壁及び灰地層層)
- 4 黄褐色土 ローム主体。黒色土・焼土ブロック(1~5cm大)少量混入。しまりあり。(カマド輪)
- 5 黒色土 今市バミスブロック(1~5cm大)。今市バミス粒・七本尻バミス粒少量混入。きめの粗かい粘質土(黒色土)。しまりなし。(カマド裏方埋土)

第70図 助五郎内遺跡 SI-17カマド実測図



第71図 助五郎内遺跡 SI-17出土遺物



第72図 助五郎内遺跡 SI-17 出土鉄製品

第29表 助五郎内遺跡 SI-17 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環	口径:(14.4) 底径:(8.2) 器高: 4.0	微砂粒、砂 粒、小礫	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ナデ	内:暗青灰~にぶい 褐色 外:暗青灰~にぶい 褐色 ・良	1/4		覆土
2	須恵器 瓶	口径:— 底径:— 器高:(7.7)	砂粒・小礫 少量	内:頸部ロクロナデ 外:頸部ロクロナデ	内:黒色 外:灰オリーブ色 ・良	頸部完存		覆土
3	須恵器 鉢	口径:(33.0) 底径:— 器高:(4.4)	微砂粒	内:口縁部ロクロナデ 外:口縁部ロクロナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁部 1/12		覆土 小片
4	土師器 鉢	口径:(25.8) 底径:— 器高:(7.3)	微砂粒、砂 粒	内:口縁部ヨコナデ、体部 ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体部 ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:浅黄色 ・良	口縁部 1/7		覆土 小片
5	土師器 甕	口径:14.4 底径: 8.6 器高:15.3	透明粒、砂 粒	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 下半縦位・上半横・斜位、 底部一定方向ヘラケズリ	内:黒色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁部 3/4 胴部 4/5 底部 5/6	小形。	覆土
6	土師器 甕	口径:(30.2) 底径:— 器高:(12.4)	透明粒・雲 母多量、砂 粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部 丁寧なヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 丁寧なヘラナデ	内:にぶい橙色 外:褐色 ・良	口縁部 1/4	大形で薄い器厚。	覆土
7	土製品 支脚	上底: 5.0 下底: 8.0 器高:14.0 重量: 654.0g	透明粒、砂 粒、小礫	外:ナデ	外:にぶい黄褐色 ・良	完形	上1/3は焼熱赤化。表 面に凝状物質・指紋・ 菓脛等の痕跡を残す。	覆土
8	土製品 支脚	口径:— 底径: 8.7 器高:— 重量: 412.0g	透明粒、微 砂粒、砂粒、 小礫	外:ナデ・ヘラケズリ	外:にぶい黄褐色 ・良	上半欠損		覆土
9	土製品 支脚	口径:— 底径:— 器高:— 重量: 211.0g	透明粒、微 砂粒、砂粒、 小礫	外:ナデ	外:明褐色 ・良	下半欠損		覆土

第30表 助五郎内遺跡 SI-17 出土鉄製品観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	曲	長さ:(7.9) 厚さ:— 重量: 69.83g	U字形の蹄先刃部片。刃幅は4.5cmで、耳部の方向へ幅を狭くする。 断面はY字形だが、風呂敷着部の底面は僅かに平面が見られる。	刃部のみ	覆土

SI-21 (第73・74図、第31表、図版一一・二一)

東調査区南東部の18.66グリッドに位置する。北側に大型の竪穴建物跡SI-20が位置する。南東コーナーを削平により失われている。

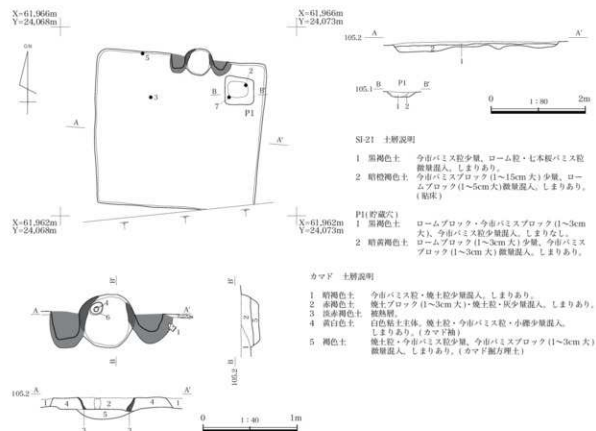
平面形は、方形を呈する。規模は南北約3.23m、東西約3.55mで、面積は約11.5㎡である。主軸の振れはN-5°-Eである。

埋土は僅かに黒褐色土を確認した。残存する壁の高さは、東壁5.7cm、西壁4.3cm、南壁2.9cm、北壁6.9cmで外傾して立ち上がる。床は、掘方を暗褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約2.0～12.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されていない。貯蔵穴P1を北東コーナーに確認した。平面方形で規模は61.0×57.0cm、深さ10.0cm、底面は平坦である。

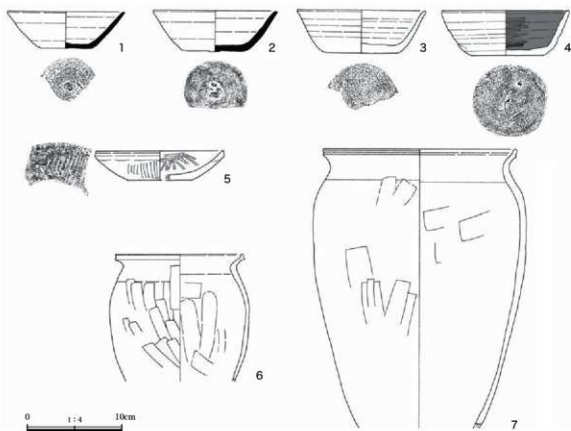
カマドは北壁やや東寄りに構築されている。白色粘土で構築された両袖が残存しており、内面がよく焼けて赤化している。袖は幅36.0～40.0cm、長さ28.0～32.0cm、高さ約12.0cmで、両袖間の幅は約90.0cmである。掘方は深さ10.0cm、北壁への突出は20.0cmである。

遺物出土状況は、カマド内から4の土師器環と6の土師器甕、貯蔵穴P1から2の須恵器環と7の土師器甕が出土している。

出土遺物は、土師器環3点301g、土師器甕13点1,374g、須恵器環2点155g、総量18点1,830gが出土した。須恵器環は、益子滝ノ入・倉見沢窯段階で、9世紀中葉である。4の土師器環は体部外面下端に回転ヘラケズリする。建物跡の時期は9世紀中葉である。



第73図 助五郎内遺跡 SI-21 実測図



第74図 助五郎内遺跡 SI-21 出土遺物

第31表 助五郎内遺跡 SI-21 出土遺物観察表

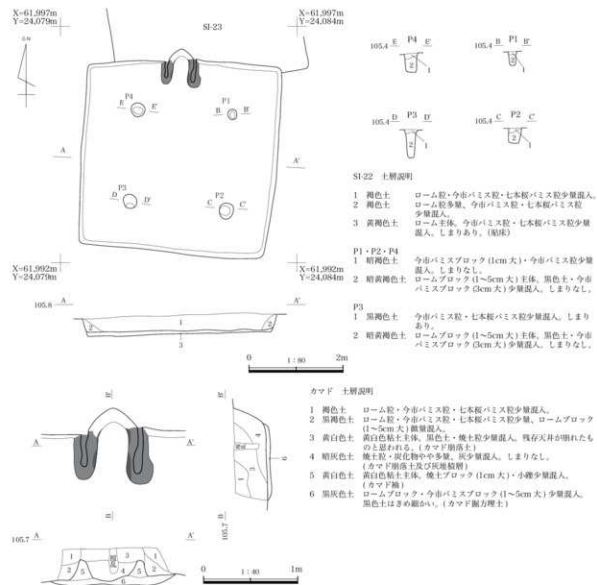
No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏	口径: (12.2) 底径: (5.4) 器高: 3.9	微砂粒、砂 粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ナデか	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/4		カマド内
2	須恵器 坏	口径: (12.8) 底径: (6.8) 器高: 4.4	砂粒多量、 小礫少量	内: 口縁~底部ロクロナ デ、口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後ナ デ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/2		
3	土師器 坏	口径: (13.4) 底径: (8.0) 器高: 4.5	透明粒・微 砂粒・砂粒 微量	内: 口縁~底部ロクロナ デ後ミガキ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 不定方向ヘラケズリ	内: 褐色 外: にぶい褐色 ・良	1/4	厚めの底部。	
4	土師器 坏	口径: 13.2 底径: 7.8 器高: 4.8	ガラス光沢 黒色粒、微 砂粒、砂粒、 小礫	内: 口縁~体部横位、底部 一定方向ヘラミガキ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、体部下端回転ヘラケ ズリ、底部回転ヘラ切り 後回転ヘラケズリ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁~体 部 2/3 底部完存	内面黒色処理あるも 2 次加熱にて一部変色。	カマド内・ カマド 2層
5	土師器 坏	口径: (13.4) 底径: (7.0) 器高: 3.1	砂粒多量	内: 口縁部ヨコナデ、体部 粗いヘラミガキ、底部ヘ ラナデ後粗いヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体部 ~底部ヘラケズリ	内: 明褐色 外: 明褐色 ・良	1/8	平底風の底部。	
6	土師器 甕	口径: 13.2 底径: — 器高: (13.5)	透明粒・砂 粒・小礫多 量、黒色粒 少量	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内: にぶい褐色 外: にぶい褐色 ・良	胴部下手 ~底部次 損	小形。器厚は薄い。	カマド内
7	土師器 甕	口径: (20.2) 底径: — 器高: (29.5)	透明粒、砂 粒、小礫	内: 調整不明瞭なるも口縁 部ヨコナデ、胴部ヘラナ デ 外: 調整不明瞭なるも口縁 部ヨコナデ、胴部ヘラケ ズリ後ヘラナデ	内: 赤褐色 外: にぶい赤褐色 ・良	1/3	器厚は薄い。やや長め の胴部で最大径は肩部 にもつ。口唇外面には 凹面を作る。	器表剥落顕 著

SI-22 (第75図、図版一)

東調査区東部の19-66グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡SI-23と重複する。平面形は、正方形を呈する。規模は南北約4.15m、東西約4.02mで、面積は約16.7㎡である。主軸の振れはN-6°-Eである。

埋土は褐色土で、自然堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁31.0cm、西壁26.0cm、南壁33.6cm、北壁33.4cmで、外傾して立ち上がる。床は、掘方を黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約2.0～10.0cmを測る。柱穴は、主柱穴P1～4を確認した。規模はP1:23.0×22.0cm、深さ30.0cm。P2:40.0×40.0cm、深さ32.0cm。P3:31.0×30.0cm、深さ60.0cm。P4:32.0×30.0cm、深さ40.0cmである。

カマドは北壁中央に構築されている。黄白色粘土で構築された両袖が残存し、内面は被熱赤化している。袖は幅22.0～30.0cm、長さ42.0～50.0cm、高さ約18.0～22.0cmで、両袖間の幅は約60.0cmである。掘方は深さ10.0cm、北壁への突出は24.0cmである。出土遺物は、土師器裏1点121gが出土した。建物跡の時期は遺物から判断できず不明である。



第75図 助五郎内遺跡 SI-22実測図

SI-24 (第76・77図、第32表、図版一一)

東調査区東部の18-66グリッドに位置する。削平により南半を失うが、主柱穴を確認することができた。北半は僅かな埋土と、掘方埋土のみ確認された。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-25が北東に近接する。

平面形は、方形を呈する。規模は確認された範囲で南北約5.10m、東西残存約2.53mで、面積は約13.0㎡である。主軸の振れはN-6°-Eである。

掘方を、黒褐色土・暗褐色土で埋め戻し貼床としている。

柱穴は、主柱穴P1～4を確認した。規模はP1：80.0×61.0cm、深さ45.0cm。P2：60.0×60.0cm、深さ46.0cm。P3：53.0×46.0cm、深さ30.0cm。P4：53.0×50.0cm、深さ30.0cmである。北東コーナーに貯蔵穴P5を確認した。規模は98.0×95.0cm、深さ26.0cmで、底面は段差がある。

カマドは北壁やや東寄りに構築されている。白色粘土で構築された両袖が残存し、袖は幅20.0～22.0cm、長さ26.0～34.0cm、高さ約6.0～12.0cmで、両袖間の幅は約74.0cmである。掘方は深さ10.0cmで、北壁への突出は12.0cmである。

出土遺物は、土師器裏1点51g、円筒形土製品1点45g、総量2点96gが出土した。円筒形土製品は古墳時代にみられる土製品だが、本建物跡に伴うものか不明確であるため、建物跡の時期は不明としておく。

SI-25 (第78・79図、第33表、図版一一)

東調査区東部の19-66グリッドに位置する。東部は調査区外のため未調査である。削平により、僅かな埋土と、掘方埋土のみ確認した。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-24が南西に近接する。

平面形は、東西の長い方形を呈する。規模は確認された範囲で南北残存約4.63m、東西残存約3.25mで、面積は約15.0㎡である。主軸の振れはN-31°-Eである。

掘方を、黒褐色土で埋め戻して貼床とする。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認できなかった。

カマドは北壁ほぼ中央に構築され、掘方のみ確認した。掘方は深さ10.0cmで、北壁への突出は18.0cmである。

出土遺物は、土師器環8点28g、土師器裏8点112g、須恵器環4点47g、総量20点187gが出土した。須恵器環は、益子滝ノ入・倉見沢窯段階で、9世紀中葉である。

SI-26 (第80・81図、第34表、図版一二)

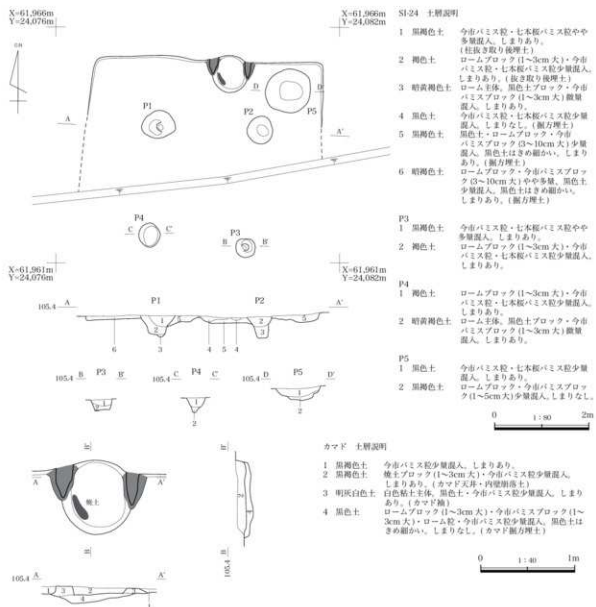
東調査区南部の18-67グリッドに位置する。削平により掘方埋土とカマドの痕跡のみ確認した。古墳時代の竪穴建物跡SI-27が西側に近接する。

平面形は、やや東西の長い歪んだ方形。規模は南北約4.60m、東西約3.73mで、面積は約17.1㎡である。主軸の振れはN-16°-Eである。

掘方を、暗褐色土で埋め戻して貼床としている。北東コーナーで床面を確認している。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されていない。

カマドは北壁東寄りに構築され、掘方のみ確認された。掘方は深さ6.0cmで、北壁への突出は18.0cmである。出土遺物は、土師器裏1点46g、須恵器壺1点134g、総量2点180gが出土した。

建物跡の時期は不明である。



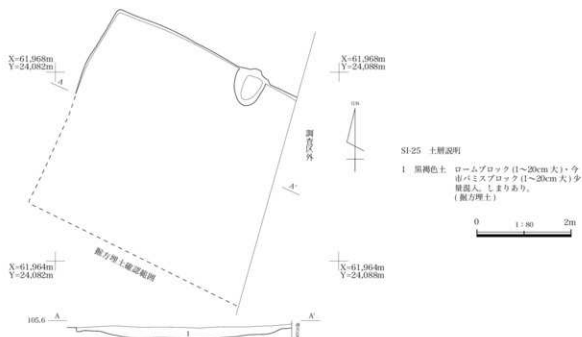
第76図 助五郎内遺跡 SI-24 実測図



第77図 助五郎内遺跡 SI-24 出土遺物

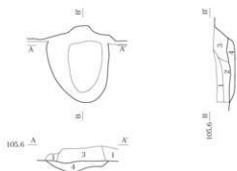
第32表 助五郎内遺跡 SI-24出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	円筒形 土製品	口径:(7.6) 底径:一 器高:(5.3)	透明粒、織 砂粒、砂粒	内:口縁~体部ナデ 外:口縁~体部ナデ	内:黒褐色 外:灰黄褐色 ・良	口縁部 1/8	口径が大きく跡のよ うな器形か。	



SI-25 土器説明

1 黒褐色土 ロームブロック(1~20cm大)・今市パミスブロック(1~20cm大)少量混入。しまりあり。
(飯方埋土)

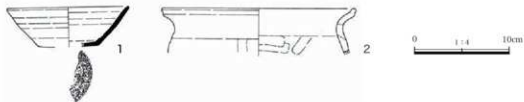


カマド 土器説明

1 暗褐色土 ロームブロック(1~3cm大)・ローム粒少量混入。しまりあり。
2 暗灰白色土 灰白色粘土ブロック(1~3cm大)少量混入。しまりあり。
(カマド崩壊土)
3 赤褐色土 焼土ブロック(1~3cm大)やや多量混入。(カマド内壁崩壊土)
4 黒褐色土 ロームブロック・今市パミスブロック(1~3cm大)やや多量、
灰白色土少量混入。紫色土はさきの混みあり。しまりあり。
(カマド飯方埋土)



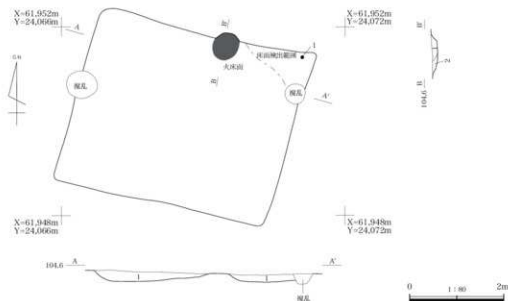
第 78 図 助五郎内遺跡 SI-25 実測図



第 79 図 助五郎内遺跡 SI-25 出土遺物

第 33 表 助五郎内遺跡 SI-25 出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技 法	色調・焼成	残存率	特 徴	備 考
1	須恵器 坏	口径:(12.6) 底径:(6.2) 器高:4.1	微砂粒・砂 粒少量	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ。底部切り離し不明	内:灰色 外:灰色 ・良	1/5		底部外面割 落
2	土師器 撰	口径:(20.0) 底径:一 器高:(4.7)	黒色粒・砂 粒・小礫多 量	内:口縁部ヨコナデ。胴部 ナデ 外:口縁部ヨコナデ。胴部 ナデ	内:明赤褐色 外:明赤褐色 ・良	口縁部 1/12		小片



SI-26 土層説明

1 期褐色土 ロームブロック (1~10cm 大)・今市パリスブロック (1~10cm 大) ややや多量混入。しまりあり。(掘方埋土)

カマド (B-F)

1 赤褐色土 焼土ブロック主体。炭化粒痕量混入。(火床)

2 暗褐色土 ロームブロック (1~10cm 大)・今市パリスブロック (1~10cm 大) ややや多量混入。しまりあり。(カマド掘方埋土)

第80図 助五部内遺跡 SI-26 実測図



第81図 助五部内遺跡 SI-26 出土遺物

第34表 助五部内遺跡 SI-26 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	氣忠器 短頸壺	口径：— 底径：— 器高：(9.5)	黒色微解粒、 透明粒、砂 粒	内：体部ロクロナデ 外：体部ロクロナデ	内：灰色 外：灰白色 ・良	体部上半 1/5		小片

SI-31 (第82～84図、第35・36表、図版五・一二・二一)

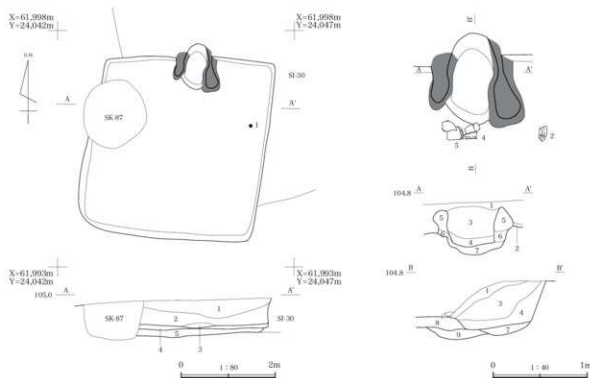
東調査区北西部の17.65グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡SI-30と重複し、本建物跡が新しい。またSK-87と重複し、西壁の一部を壊されている。

平面形は、やや歪んだ方形を呈する。規模は南北約3.94m、東西残存約3.83mで、面積は約15.0㎡である。主軸の振れはN-8°-Eである。

埋土は黒褐色～暗赤褐色を呈する3層に別けられ、焼土粒やローム粒を多く含むことから人為堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁54.0cmで、外傾して立ち上がる。床は2時期確認できた。新しい床は暗赤褐色土で、厚さは約6.0～10.0cmである。古い床は建物跡より一回り小さく、暗褐色土の貼床が確認された。厚さは4.0～20.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認できなかった。

カマドは北壁中央に構築され、黄白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅24.0～40.0cm、長さ40.0～66.0cm、高さ約28.0～38.0cmで、両袖間の幅は約80.0cmである。掘方は深さ12.0cmで、北壁への突出は30.0cmである。

出土遺物は、土師器環6点105g、土師器甕8点1.828g、須恵器環5点224g、鉄製品(刀子)1点39.70g、総量94点2.196gが出土した。須恵器環は、益子脇屋1・2号竪穴段階で、9世紀後葉である。



SI-31 土層説明

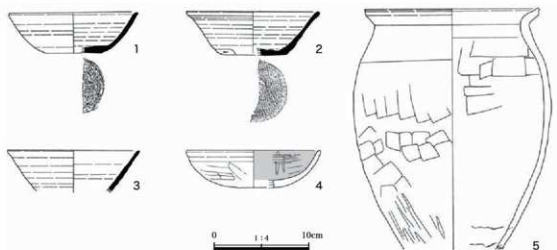
- 1 黒褐色土 焼土粒・今市バミス粒少量、ローム粒・七本坂バミス粒微量混入。しまりなし。
- 2 暗褐色土 今市バミス粒中少量、ローム粒・焼土粒・七本坂バミス粒微量混入。しまりなし。
- 3 暗赤褐色土 ロームブロック・黄白色粘土ブロック・焼土粒少量混入。
- 4 黒褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック・七本坂バミスブロック(1～3cm大)少量混入。きめの細かい粘質土。(新しい階床)
- 5 暗褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック(3～10cm大)主体。粘質の黒色土混入。しまりあり。(古い階床)

カマド 土層説明

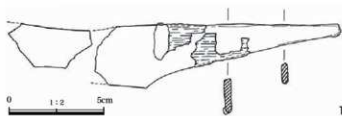
- 1 黒褐色土 黄白色粘土ブロック(3cm大)・ローム粒・今市バミス粒少量混入。しまりあり。

- 2 黒褐色土 ローム粒・今市バミス粒少量混入。しまりなし。
- 3 黄褐色土 黄白色粘土主体。白色粘土ブロック(3cm大)少量混入。しまりあり。
- 4 暗赤褐色土 焼土ブロック・灰主体。しまりなし。
- 5 黄白色土 黄白色粘土主体。焼土粒微量混入。しまりあり。(カマド袖)
- 6 赤灰色土 焼土粒・ロームブロック少量混入。きめの細かい粘質土。しまりあり。(カマド袖)
- 7 暗灰色土 焼土粒・ロームブロック少量混入。きめの細かい、焼粘若干受ける。しまりあり。(カマド掘方埋土)
- 8 黒褐色土 3～10cm大の今市バミス・ロームブロック少量混入。しまりあり。
- 9 黒褐色土 3cm大のロームブロック少量混入。しまりあり。(カマド掘方埋土)

第82図 助五郎内遺跡 SI-31 実測図



第83図 助五郎内遺跡 SI-31 出土遺物



第84図 助五郎内遺跡 SI-31 出土鉄製品

第35表 助五郎内遺跡 SI-31 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏	口径:(13.2) 底径:(6.0) 器高:4.3	微砂粒、砂 粒	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ 底部回転へら切り後ナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	1/2		
2	須恵器 坏	口径:(13.8) 底径:(7.2) 器高:4.6	微砂粒、砂 粒	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ 体部下端横位一段へらク ズリ、底部回転へら切り後 一定方向のへらケズリ	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁~体 部 1/3 底部 1/2		
3	須恵器 坏	口径:(13.8) 底径:— 器高:—	微砂粒、砂 粒	内:口縁~体部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:暗黄褐色 外:暗黄褐色 ・良	口縁~体 部 1/4		覆土
4	土師器 坏	口径:14.0 底径:— 器高:4.0	黒色粒、透 明粒、微砂 粒	内:口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体~底 部ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁~体 部 1/3	内面漆仕上げ処理。	
5	土師器 甕	口径:(18.4) 底径:— 器高:(25.5)	黒色粒・雲 母・微砂粒・ 砂粒多量	内:口縁部ヨコナデか、胴 部横位ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデか、胴 部上半ヘラナデ、下半縦 位ヘラミガキ	内:にぶい黄褐色 外:褐色 ・良	口縁部 1/2 胴部 5/12 底部欠損		覆土

第36表 助五郎内遺跡 SI-31 出土鉄製品観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	刀子	長さ:(17.5) 厚さ:— 重量:39.7g	刃部を欠く。区は刃側にあり、段を持たず先端部へ先細りする。茎部に木質が遺存する。	刃部欠損	

SI-32 (第 85 図、図版一二)

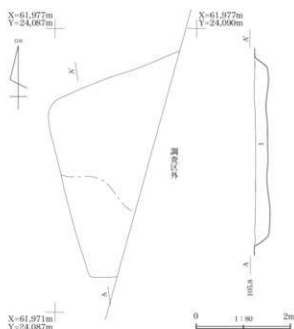
東調査区東部の 19-66 グリッドに位置する。北東～南にかけてのほとんどが調査区外のため未調査である。強く削平を受けており、掘方埋土のみ確認された。

平面形は、方形を呈する。規模は確認できた範囲で南北約 4.00m、東西残存約 2.84m で、面積は約 11.4 m² である。主軸の振れは N-12° -W である。

掘方埋土は暗褐色土で、残存する厚さ約 24.0～30.0cm を測る。

カマド、柱穴、梯子穴、壁際溝は確認できなかった。

出土遺物はなく建物跡の時期は不明である。



SI-32 土層説明

- 1 暗褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック (1～10cm 大) や不多量、褐色土ブロック (1～10cm 大) 散見。しりあり。(掘方埋土)

第 85 図 助五郎内遺跡 SI-32 実測図

SI-33 (第 86 図、図版一二)

東調査区中央部の 18-66 グリッドに位置する。ほとんどが田面形成のため削平されている。

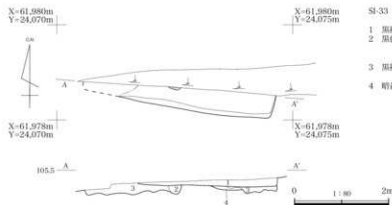
平面形は、方形を呈すると思われる。規模は確認された範囲で南北約 4.00m、東西約 0.50m、面積は約 2.0 m² である。主軸の振れは不明である。

埋土は黒褐色土層を僅かに確認した。

残存する壁の高さは、東壁 17.0cm、南壁 13.0cm である。

床は、掘方を主に黒褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約 4.0～8.0cm を測る。梯子穴とみられるピットを確認した。カマド、主柱穴、壁際溝は確認されなかった。

出土遺物はなく建物跡の時期は不明である。



SI-33 土層説明

- 1 黒褐色土 今市バミス段・七本塚バミス段少量混入、ロームブロック (1～3cm 大)・ローム粒・今市バミス段少量混入。しりなし。(梯子抜き取り後の埋土カ)
- 2 黒色土 ロームブロック・今市バミスブロック (1～10cm 大) 少量混入。しりあり。(築床)
- 3 黒褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック (5cm 大) 主体、黒色土少量混入。(貼床)

第 86 図 助五郎内遺跡 SI-33 実測図

SI-34 (第87・88図、第37表、図版一二)

東調査区西部の17-66グリッドに位置する。北東コーナー部を除く大部分が調査区外のため未調査である。

平面形は、方形を呈するものと思われる。規模は残存で南北約1.20m、東西残存約1.10m、面積は約1.3㎡である。主軸の振れはN-25°-Wである。

埋土は暗褐色・黒色・黒褐色を呈する3層に別けられ、自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁38.4cm、北壁31.7cmで、外傾して立ち上がる。

床は、ロームを床面とする。カマド、柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されなかった。

出土遺物は、土師器甕5点377gが出土したが、時期の特定には至らない。建物跡の時期は不明である。

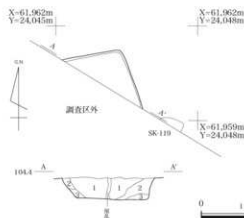
SI-200 (第89図、図版一二・一三)

西調査区北西部の12-63グリッドに位置する。多数の攪乱および土坑と重複している。

平面形は、やや歪んだ方形を呈する。規模は南北約3.75m、東西約3.56mで、面積は約13.3㎡である。主軸の振れはN-26°-Wである。

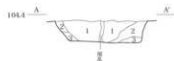
埋土は褐色土層を僅かに確認した。

残存する壁の高さは、東壁14.5cm、西壁10.5cm、南壁8.5cm、北壁1.6cmで、外傾して立ち上がる。

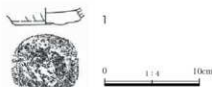


SI-34 土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒や多量、今市パミスブロック(1cm大)・今市パミス粒少量混入。しまりあり。
- 2 黒色土 黒色土ブロック(5~20cm大)主体、ロームブロック(1~3cm大)・今市パミスブロック(1~3cm大)少量混入。しまりあり。
- 3 黒褐色土 ロームブロック・今市パミスブロック(1~30cm大)・七本根パミスブロック(1~30cm大)少量混入。しまりなし。



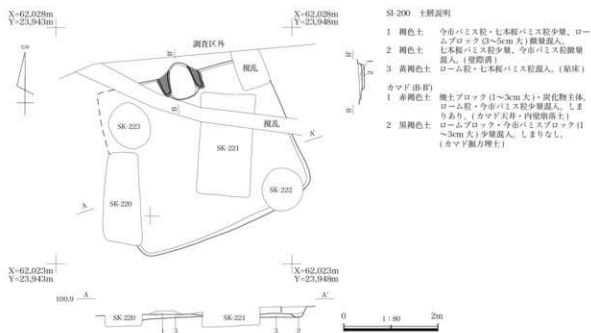
第87図 助五部内遺跡 SI-34実測図



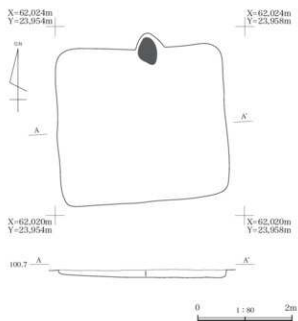
第88図 助五部内遺跡 SI-34出土遺物

第37表 助五部内遺跡 SI-34出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ(cm)	胎土(石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 甕	口径: 一 底径: 7.0 器高: (1.7)	黒色粒・透 明粒・微砂 粒多量	内: 底部ヘラケズリ 外: 底部ナデ	内: 黒褐色 外: 灰黄褐色 ・良	底部 3/4		覆土



第89図 助五郎内遺跡 SI-200 実測図



SI-201 土層説明

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック(1~10cm大)・ローム粒少量、今市パミスタ粒散見混入。しまりあり。(掘方埋土)

第90図 助五郎内遺跡 SI-201 実測図

床は、掘方を黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約2.0～12.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されなかった。

カマドは北壁中央に構築されている。両袖が残存しており、袖は幅16.0～20.0cm、長さ36.0cmで、両袖間の幅は約72.0cmである。掘方は深さ4.0cm、北壁への突出は24.0cmである。

出土遺物はなく、建物跡の時期は不明である。

SI-201 (第90図、図版一三)

西調査区北東部の12-64グリッドに位置する。削平により、掘方埋土のみ確認された。

平面形は、方形を呈する。規模は南北約3.55m、東西約3.23m、面積は約11.5㎡である。主軸の振れはN-5°-Wである。

掘方を暗黄褐色土で埋め戻して貼床とし、確認できた厚さは10.0～20.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されなかった。

カマドは北壁やや東寄りに痕跡が残り、焼土の堆積が確認されている。北壁への突出は36.0cmである。出土遺物はなく、建物跡の時期は不明である。

SI-202 (第91・92図、第38表、図版一三)

西調査区北西部の12-64グリッドに位置する。

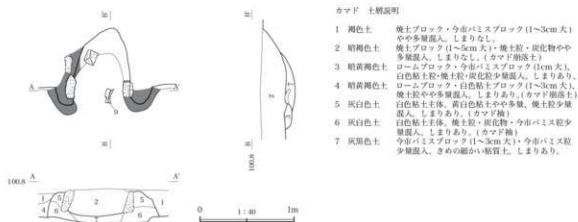
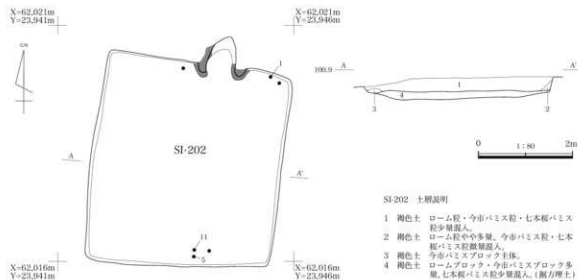
平面形は、歪んだ方形を呈する。規模は南北約4.36m、東西約4.10mで、面積は約17.9㎡である。主軸の振れはN-10°-Eである。

埋土は3層に別けられる。いずれも褐色を呈する。自然堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁28.8cm、西壁9.2cm、南壁22.3cm、北壁28.2cmで、外傾して立ち上がる。床は、掘方を褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約4.0～20.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認できなかった。

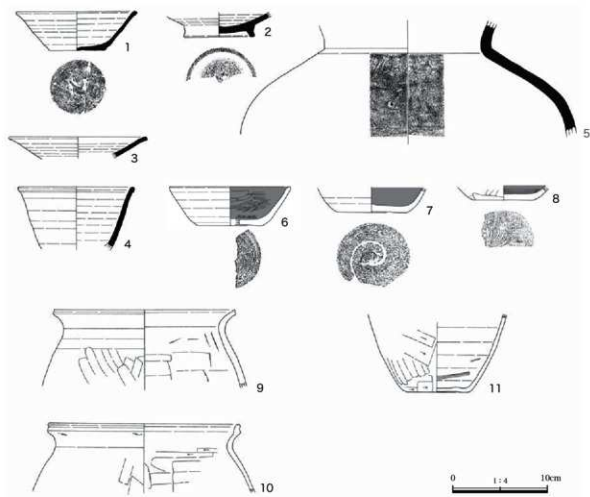
カマドは北壁やや東寄りに構築され、白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅20.0～28.0cm、長さ22.0～26.0cm、高さ約26.0～34.0cmで、両袖間の幅は約76.0cmである。北壁への突出は62.0cmである。

出土遺物は、土師器環11点230g、土師器甕105点1,595g、須恵器環15点363g、須恵器甕4点1,095g、須恵器鉢1点28g、須恵器皿1点41g、総量137点3,352gと自然礫12,000gが出土した。

須恵器は、環に加えて皿が出土している。益子脇屋1・2号窯段階で、9世紀後葉である。



第91図 助五郎内遺跡 SI-202実測図



第92図 助五郎内遺跡 SI-202 出土遺物

第38表 助五郎内遺跡 SI-202 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏	口径:(12.6) 底径: 6.0 器高: 4.1	黒色粒、微 砂粒、砂粒、 小礫	内: 口縁~底部ロクロナ デ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転へら切り	内: 灰オリーブ色 外: 灰オリーブ色 ・良	口縁~体 部 1/3 底部完存		
2	須恵器 皿	口径: 一 底径:(7.2) 器高:(2.5)	黒色粒、微 砂粒、砂粒、 小礫、白色 針状物質	内: 体~底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底 部回転へらケズリ、後貼 付高台後ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	体部一部 底部 1/2		
3	須恵器 皿	口径:(14.4) 底径: 一 器高:(2.2)	微砂粒、砂 粒、小礫	内: 口縁~体部ロクロナ デ 外: 口縁~体部ロクロナ デ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁~体 部 1/3		カマド
4	須恵器 捏鉢	口径:(12.0) 底径: 一 器高:(6.6)	砂粒、小礫	内: 口縁~体部ロクロナ デ 外: 口縁~体部ロクロナ デ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁~体 部 1/8		小片
5	須恵器 甕	口径: 一 底径: 一 器高:(12.4)	黒色粒、微 砂粒、砂粒、 小礫	内: 頸部ロクロナデ、胴 部無文当で貝痕 外: 頸部ロクロナデ、胴 部タタキ後ナデか	内: 暗青灰色 外: 灰色 ・良	頸~胴部 上半 1/4	断面セピア色。	

6	土師器 環	口径:(12.6) 底径:(6.6) 器高:4.1	微砂粒	内:口縁部ナデ後ヘラミガキ、 体~底部ヘラミガキ 外:口縁~体部ロクロナデ、 底部縁ヘラケズリ	内:黒色 外:褐色 ・良	1/5	内面黒色処理。	
7	土師器 環	口径:— 底径:(7.4) 器高:(2.7)	微砂粒	内:調整不明瞭なるも体~ 底部調整不明瞭なるもヘラ ミガキ 外:調整不明瞭なるも体部 ロクロナデ、底部縁ヘラ 切り後縁ヘラケズリか	内:黒色 外:にぶい黄褐色 ・良	体部一部 底部4/5	内面黒色処理。	器表割落顕著
8	土師器 環	口径:— 底径:(6.2) 器高:(1.3)	透明粒、微 砂粒	内:体~底部ヘラミガキ 外:体部ナデ、体部下端 手持ちヘラケズリ、底部 回転系切り後不定方向ヘ ラケズリ	内:褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	体部一部 底部1/4	内面黒色処理。	
9	土師器 甕	口径:(19.0) 底径:— 器高:(8.2)	黒色粒、微 砂粒、砂粒、 小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴 部横位ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴 部縦・斜位ヘラナデ	内:褐色 外:褐色 ・良	口縁部 1/4		カマド内
10	土師器 甕	口径:(20.0) 底径:— 器高:(7.2)	透明粒・雲 母・微砂粒 多量	内:口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラナデ	内:にぶい褐色 外:にぶい褐色 ・良	口縁部 1/5	口内外面に凹面を作る。	
11	土師器 甕	口径:— 底径:(6.4) 器高:(8.3)	透明粒、雲 母、微砂粒	内:胴~底部ヨコナデ 外:胴部ヘラケズリ後ヘ ラナデ、底部ヘラナデ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	胴部下半 1/4 底部1/2	器厚は薄い。	

SI-204 (第93~96図、第39・40表、図版一三・一四・二一・二二)

西調査区北部の12-64グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-205・206と重複し、当遺構が新しい。

平面形は、東西に長い方形を呈す。規模は南北約3.76m、東西約4.40mで、面積は約16.5㎡である。主軸の振れはN9°Eである。

埋土は褐色を呈する3層に別けられ、自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁42.9cm、西壁32.0cm、南壁32.1cm、北壁39.2cmで、垂直に近く立ち上がる。

床は、掘方を褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約6.0~20.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認できなかった。

カマドは北壁やや東寄りと東壁の南寄りに構築されている。北カマドは旧カマドで袖は残っていない。北壁への突出は60.0cmである。東カマドは突出部分が掘乱により壊されているが、白色粘土およびロームで構築された両袖が残存していた。袖の幅24.0~40.0cm、長さ8.0~12.0cm、高さ約8.0~24.0cmで、両袖間の幅は約96.0cmである。掘方は深さ16.0cm、東壁への突出は残存で6.0cm。

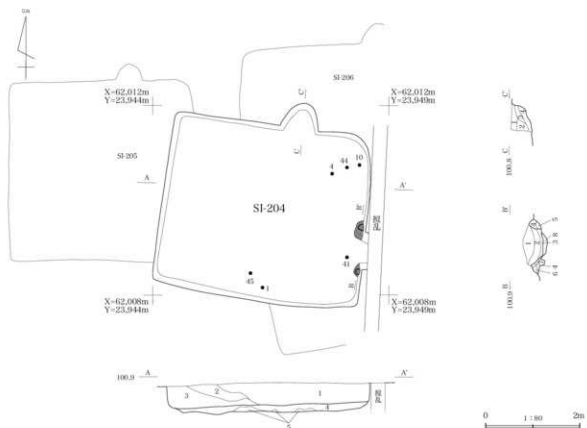
遺物出土状況は、建物東側を中心に、須恵器環が多量に出土している。

出土遺物は、土師器環28点555g、土師器甕106点1,460g、土師器碗1点14g、土師器手捏ね土器1点46g、須恵器環蓋4点426g、須恵器環169点3,574g、須恵器甕14点1,032g、須恵器壺1点8g、紡錘車形土製品1点464g、鉄製品(鎌)1点22g、総量326点7,601gと自然礫31gが出土した。

須恵器環は、古ヶ原入窯段階のものもみられるが、益子滝ノ入・倉見沢窯段階が主で、9世紀中葉である。

41は大型の紡錘車形土製品で、最大径11.0cm、厚さ3.4cm、重量464.0gである。直径1.3cmの孔は中心を外れている。

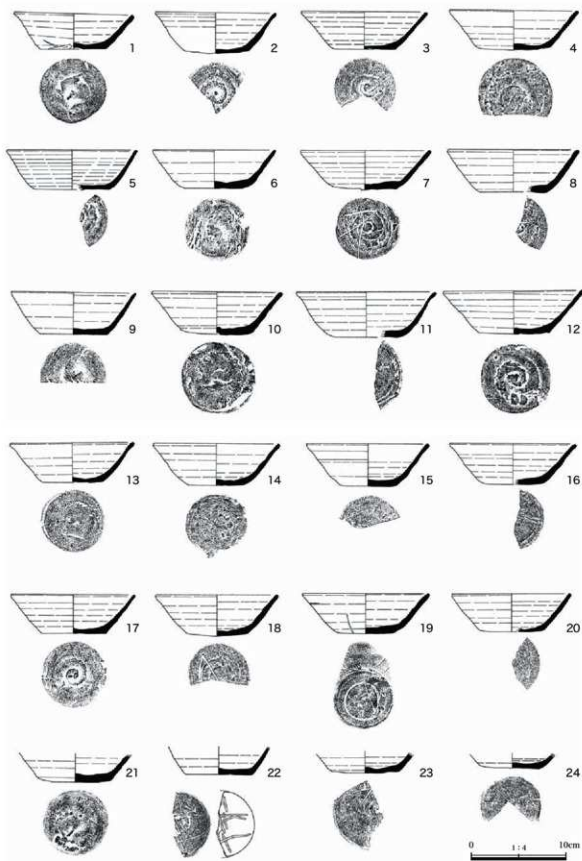
建物跡の時期は、9世紀中葉である。



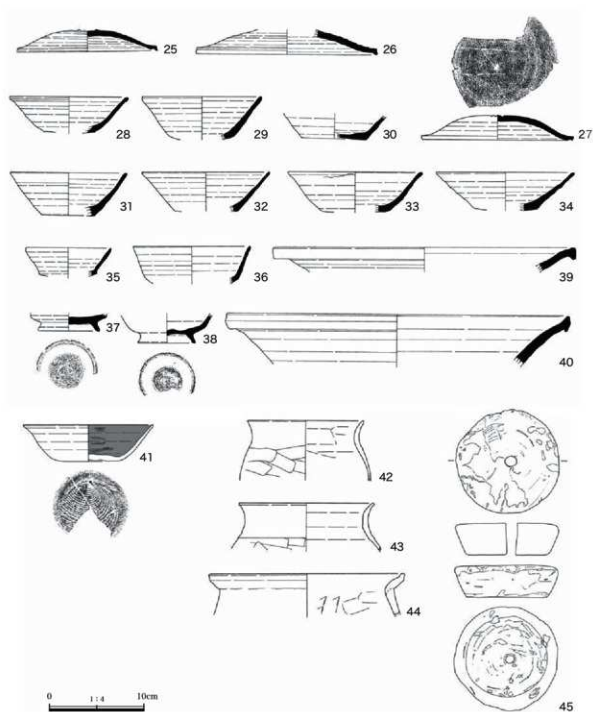
SI-204 土質説明

北カマド		東カマド	
1 褐色土	粘土粒・焼土粒少量、今市バミス粒・七本桜バミス粒微量混入。	1 暗黄褐色土	黄白色粘土ブロック(1~20cm大)・焼土ブロック(1~3cm大)・今市バミスブロック(1~3cm大)やや多量混入。しまりあり。(カマド天井面土)
2 褐色土	ローム粒・焼土粒多量混入。	2 暗赤褐色土	焼土ブロック(1~3cm大)やや多量、炭化物少量混入。しまりなし。
3 褐色土	ローム粒・今市バミス粒・七本桜バミス粒やや多量混入。	3 灰褐色土	灰主体、ローム粒・焼土粒少量混入。しまりなし。(灰厚粘層)
4 褐色土	粘土ブロック・ロームブロック・今市バミスブロック・ローム粒多量混入。(縦方埋土)	4 暗黄褐色土	ローム主体、黒色土ブロック・焼土ブロック(1~3cm大)少量混入。しまりあり。(カマド袖)
5 黄褐色土	ローム主体。(縦方埋土)	5 黄褐色土	白色粘土ブロック・今市バミスブロック(1~3cm大)少量混入。しまりあり。(カマド袖)
1 暗褐色土	今市バミス粒・七本桜バミス粒少量混入。しまりあり。	6 暗褐色土	白色粘土ブロック・今市バミスブロック(1~5cm大)少量混入。しまりあり。(カマド袖)
2 暗黄褐色土	暗黄白色粘土ブロック(1~20cm大)・白色粘土ブロック(1~5cm大)やや多量、焼土ブロック(1~3cm大)・焼土粒少量混入。しまりあり。(カマド面土)	7 黒褐色土	ロームブロック(1~3cm大)・ローム粒少量混入。(カマド縦方埋土)
3 暗赤褐色土	焼土ブロック(1~5cm大)やや多量、炭化物・炭少量混入。しまりなし。(カマド内壁面土)	8 灰黒色土	白色粘土ブロック(1cm大)・焼土ブロック(1cm大)少量混入。しまりなし。(カマド縦方埋土)
4 暗灰色土	炭化物・灰やや多量、焼土ブロック・白色粘土ブロック少量混入。しまりなし。(カマド内面埋土)		

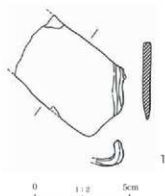
第 93 図 助五郎内遺跡 SI-204 実測図



第94図 助五郎内遺跡 SI-204出土遺物(1)



第95図 助五郎内遺跡 SI-204 出土遺物 (2)



第96図 助五郎内遺跡 SI-204出土鉄製品

第39表 助五郎内遺跡 SI-204出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏	口径: 12.4 底径: 6.4 器高: 3.8 重量: 140.0g	微砂粒、砂 粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	ほぼ完形	やや小形。	
2	須恵器 坏	口径: (12.6) 底径: (6.8) 器高: 4.4	砂粒	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ナデ	内: 浅黄色 外: 灰黄色 ・良	1/5		覆土
3	須恵器 坏	口径: 13.0 底径: 6.6 器高: 4.0	微砂粒、砂 粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り	内: 青灰色 外: 青灰色 ・良	口縁部 1/3 体部 1/2 底部 4/5		覆土
4	須恵器 坏	口径: 13.4 底径: 7.8 器高: 4.2	微砂粒、砂 粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ナデ	内: 灰白色 外: 浅黄色 ・良	口縁~体部 1/2 底部 2/3	口縁に歪みあり。	
5	須恵器 坏	口径: (13.6) 底径: (7.8) 器高: (4.2)	微砂粒、砂 粒	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ナデ	内: 暗オリーブ灰色 外: 灰色 ・良	口縁~体部 1/8 底部 1/4	底部外面ヘラ記号あり。	覆土
6	須恵器 坏	口径: (13.0) 底径: 6.6 器高: 4.0	微砂粒、砂 粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁部 1/4 底部完存		
7	須恵器 坏	口径: (13.6) 底径: 6.9 器高: 4.2	黒色粒、微 砂粒、砂粒、 小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁部 1/3 底部完存	底部外面ヘラ記号あり。	覆土
8	須恵器 坏	口径: (13.6) 底径: (7.0) 器高: 4.5	黒色粒、微 砂粒、砂粒	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁部 1/12		覆土
9	須恵器 坏	口径: (13.0) 底径: 7.0 器高: 4.4	微砂粒、砂 粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁部 1/2 底部 1/2	底部外面ヘラ記号あり。	
10	須恵器 坏	口径: (17.6) 底径: 7.6 器高: 4.5	微砂粒、砂 粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ナデ	内: 灰色 外: オリーブ黒色 ・良	口縁~体部 1/7 底部完存		
11	須恵器 坏	口径: (14.8) 底径: (6.8) 器高: 4.7	微砂粒、砂 粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ナデ	内: 浅黄色 外: 浅黄色 ・良	口縁~体部 1/5 底部 1/4		

第V章 助五郎内遺跡の調査

12	須恵器 坏	口径:(14.6) 底径: 7.4 器高: 4.5	微砂粒、砂 粒、小礫	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り	内:灰オリーブ色 外:灰オリーブ色 ・良	口縁部 1/5 底部完存		覆土
13	須恵器 坏	口径:(13.0) 底径: 6.4 器高: 4.2	微砂粒、砂 粒、小礫	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁部 1/2 底部完存		覆土
14	須恵器 坏	口径: 13.0 底径: 6.5 器高: 4.5 重量: 171.0g	微砂粒、小 礫	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ナデ	内:青灰色 外:青灰色 ・良	口縁部 5/6 体~底部 完存		
15	須恵器 坏	口径:(12.6) 底径:(6.2) 器高: 4.5	微砂粒、砂 粒、小礫	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 丁寧なナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁~体 部 1/6 底部 1/3		覆土
16	須恵器 坏	口径:(13.0) 底径:(6.6) 器高: 4.4	黒色粒、微 砂粒、砂粒、 小礫	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁部一 部 底部 5/12		
17	須恵器 坏	口径:(13.0) 底径: 7.0 器高: 4.1	微砂粒・砂 粒・小礫多 量	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁~体 部 1/3 底部完存		覆土
18	須恵器 坏	口径:(12.8) 底径: 6.4 器高: 4.4	微砂粒、砂 粒、小礫	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ、 底部回転ヘラ切り後ナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁~体 部 1/2 底部 3/5	底部外面へラ記号あり、 体部外面火漉痕か。	覆土
19	須恵器 坏	口径:(13.2) 底径: 6.0 器高: 4.3	微砂粒、砂 粒、小礫	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ナデ	内:灰色 外:灰オリーブ色 ・良	口縁部 1/4 底部完存	底部外面へラ記号、体 部中位まで到る。	覆土
20	須恵器 坏	口径:(12.4) 底径:(6.6) 器高: 4.0	微砂粒、砂 粒、小礫	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ナデか	内:灰色 外:灰色 ・良	1/4		
21	須恵器 坏	口径: - 底径:(7.0) 器高:(2.9)	黒色粒、微 砂粒、砂粒、 小礫	内:体~底部ロクロナデ 外:体部ロクロナデ、底部 回転ヘラ切り後ナデ	内:灰黄色 外:灰黄色 ・良	体部一部 底部完存		覆土
22	須恵器 坏	口径: - 底径:(7.0) 器高:(2.9)	微砂粒、砂 粒、小礫	内:体~底部ロクロナデ 外:体部ロクロナデ、底部 回転ヘラ切り後ナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	体部 1/4 底部 1/2	底部外面へラ記号あり。	
23	須恵器 坏	口径: - 底径:(7.4) 器高:(2.2)	微砂粒、砂 粒、小礫	内:体~底部ロクロナデ 外:体部ロクロナデ、底部 回転ヘラ切り後ナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	底部 1/4	底部外面へラ記号あり。	覆土
24	須恵器 坏	口径: - 底径: 6.2 器高:(1.6)	微砂粒、砂 粒	内:体~底部ロクロナデ 外:体部ロクロナデ、底部 回転ヘラ切り後ナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	底部 3/4	底部外面へラ記号あり。	覆土
25	須恵器 坏蓋	口径: - 口径: 14.8 器高:(2.3)	微砂粒、砂 粒、小礫	内:天井~根部ロクロナデ 外:天井部回転ヘラケズ リ、体~根部ロクロナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	4/6		覆土
26	須恵器 坏蓋	口径: - 口径:(19.0) 器高:(3.1)	微砂粒、砂 粒、小礫	内:天井~根部ロクロナデ 外:天井部回転ヘラケズ リ、体~根部ロクロナデ	内:暗赤褐色 外:暗紫灰~暗赤褐色 ・良	根部 1/5		覆土
27	須恵器 坏蓋	口径: - 口径:(15.8) 器高:(3.1)	微砂粒、砂 粒、小礫	内:天井~根部ロクロナデ 外:天井部回転ヘラケズ リ、体~根部ロクロナデ	内:青灰色 外:青灰色 ・良	根部 1/6 体部 1/3	天井部内面へラ記号あり。	覆土
28	須恵器 坏	口径:(12.4) 底径:(5.4) 器高: 3.8	微砂粒、小 礫	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁部 1/5		覆土 小片
29	須恵器 坏	口径:(12.4) 底径:(6.8) 器高:(4.5)	微砂粒、砂 粒、小礫	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ナデ	内:青灰色 外:青灰色 ・良	口縁~体 部 1/8		
30	須恵器 坏	口径: - 底径:(6.8) 器高:(2.5)	微砂粒、砂 粒	内:体~底部ロクロナデ 外:体部ロクロナデ、底部 回転ヘラ切り	内:灰色 外:灰色 ・良	底部 1/4	底部外面へラ記号あり。	覆土 小片

31	須臾器 坏	口径:(12.2) 底径:(5.6) 器高:4.5	微砂粒、砂 粒、小礫	内:口縁~底部ロクロナ デ、口縁~体部ロクロ ナデ、底部回転ヘラ切り後 ナデか	内:灰色 外:灰色 ・良	1/5		
32	須臾器 坏	口径:(13.4) 底径:(6.6) 器高:4.1	黒色粒、微 砂粒、砂粒、 小礫	内:口縁~体部ロクロナ デ、口縁~体部ロクロ ナデ、底部ヘラケズリ	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁部 1/4		
33	須臾器 坏	口径:(14.0) 底径:(6.5) 器高:4.2	黒色粒、微 砂粒、砂粒、 小礫	内:口縁~底部ロクロナ デ、口縁~体部ロクロ ナデ、底部回転ヘラ切り後 ナデ	内:灰オリーブ色 外:灰オリーブ色 ・良	口縁~体 部 1/4		覆土
34	須臾器 坏	口径:(14.6) 底径:(6.6) 器高:3.9	微砂粒、砂 粒、小礫	内:口縁~底部ロクロナ デ、口縁~体部ロクロ ナデ、底部回転ヘラ切り後 ナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁部 1/6 体~底部 1/4		覆土
35	須臾器 高台坏	口径:(8.8) 底径:— 器高:(2.5)	微砂粒、砂 粒	内:口縁~体部ロクロナ デ、口縁~体部ロクロナ デ	内:灰色 外:暗灰色 ・良	1/8		覆土 小片
36	須臾器 高台坏	口径:(12.2) 底径:— 器高:(3.9)	黒色粒、微 砂粒、砂粒	内:口縁~体部ロクロナ デ、口縁~体部ロクロナ デ	内:青灰色 外:暗青灰色 ・良	口縁~体 部 1/4		覆土
37	須臾器 高台坏	口径:— 底径:(6.4) 器高:(1.9)	微砂粒、砂 粒、小礫	内:底部ロクロナ デ、体部ロクロナ デ、底部 回転ヘラ切り、後胎付高 台後ナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	底部 1/2		覆土
38	須臾器 高台坏	口径:— 底径:(6.0) 器高:(3.1)	微砂粒、砂 粒、小礫	内:体~底部ロクロナ デ、体部ロクロナ デ、底部 回転ヘラ切り、後胎付高 台後ナデ	内:暗青灰色 外:青灰色 ・良	体部 1/4 底部 2/3		覆土
39	須臾器 甕	口径:(31.4) 底径:— 器高:(2.6)	微砂粒	内:口縁部ロクロナ デ、口縁部ロクロナ デ	内:にふい黄色 外:青黒色 ・良	口縁部 1/6		覆土 小片
40	須臾器 甕	口径:(38.6) 底径:— 器高:(5.5)	微砂粒、砂 粒	内:口縁部ロクロナ デ、口縁部ロクロナ デ	内:にふい黄色 外:灰色 ・良	口縁部 1/15	断面セピア色。	覆土 極小片
41	土師器 坏	口径:(13.6) 底径:6.0 器高:3.7	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、微砂 粒、砂粒	内:口縁~体部ロクロナ デ、後横穴ヘラミガキ 底部一定方向の細かいヘラミガキ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部回転糸切りのまま	内:橙~黒色 外:にふい黄褐色 ・良	3/4	内面黒色処理されるも 2次加熱により変色・ 消滅。	東カマド
42	土師器 甕	口径:(12.0) 底径:— 器高:(6.3)	黒色粒、透 明粒、雲母	内:口縁部ヨコナ デ、胴部 外:口縁部ヨコナ デ、胴部 ヘラケズリ	内:灰黄褐色 外:にふい褐色 ・良	口縁部 1/6	小形。薄い器厚。	覆土 小片
43	土師器 甕	口径:(14.0) 底径:(5.0) 器高:(5.0)	黒色粒、透 明粒、微砂 粒、小礫	内:口縁部ヨコナ デ、胴部 外:口縁部ヨコナ デ、胴部 ヘラケズリ	内:にふい赤褐色 外:にふい赤褐色 ・良	口縁部 1/5	小形。	覆土 小片
44	土師器 甕	口径:(20.4) 下面径:8.5 厚さ:3.4 孔径:09~13 重量:464.0g	黒色粒・透 明粒・雲母・ 砂粒・微砂 粒多量	内:口縁部ヨコナ デ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナ デ、胴部 ヘラナデ	内:褐色 外:暗褐色 ・良	口縁部 1/7	口縁部外面に凹面を作 る。	小片
45	紡錘車形 土製品	上面径:11.0 下面径:8.5 厚さ:3.4 孔径:09~13 重量:464.0g	微砂粒、砂 粒、小礫	外:成形不詳	外:橙~褐色 ・良	定形	断面形は遊台形様。孔の 位置は上・下面ともに中 心から若干ずれる。上・ 下面両部は丸みをもち、 使用によるものか。	器表剥落

第40表 助五郎内遺跡 SI-204出土鉄製品観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	鎌	長さ:(5.5) 厚さ:0.4 重量:22.87g	先端部を欠く。断面は角様である。棟側溝を1cmほど、ほぼ直角に折 り曲げることで基部としている。基部に木質が遺存している。	先端部欠損	カマド

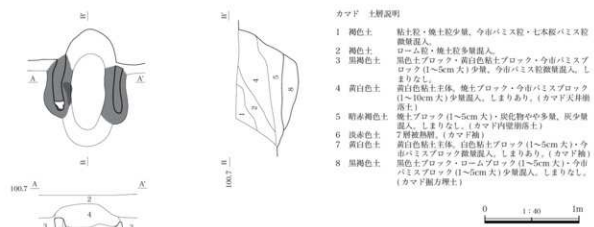
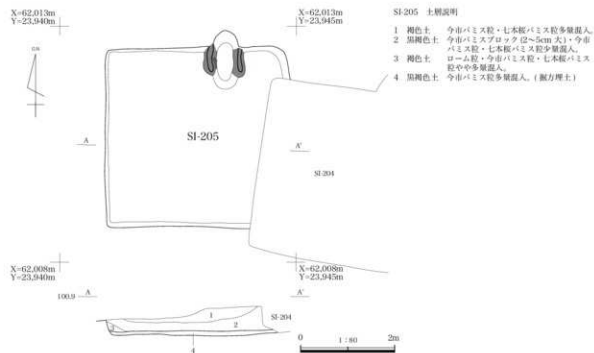
SI-205 (第97・98図、第41表、図版一三・一四)

西調査区北部の12.64グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-204と重複し、SI-204が新しい。平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約3.80m、東西約3.65mで、面積は約13.9㎡である。主軸の振れはN-1°-Wである。

埋土は褐色・黒褐色を呈する3層に別けられ、自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁8.0cm、西壁22.3cm、南壁27.5cm、北壁36.0cmで、外傾して立ち上がる。

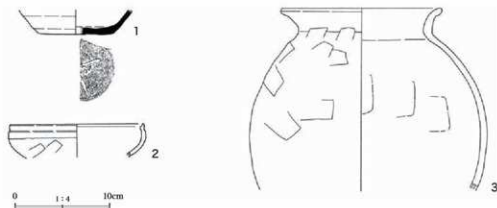
床は、掘方を黒褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約4.0～10.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認できなかった。



第97図 助五郎内遺跡 SI-205 実測図

カマドは北壁東寄り構築され、黄白色粘土で構築した袖が残存していた。袖は幅30.0cm、長さ50.0～52.0cm、高さ約22.0cmで、両袖間の幅は約62.0cmである。カマド掘方は深さ18.0cmで、北壁への突出は34.0cmである。

出土遺物は、土師器環1点15g、土師器甕5点1,190g、須恵器環1点30g、総量7点1,235gが出土した。須恵器環は、益子谷津入窯段階か。建物跡の時期は、出土遺物が少なく不明確であるが、須恵器環から8世紀第4四半期としておく。



第98図 助五郎内遺跡 SI-205 出土遺物

第41表 助五郎内遺跡 SI-205 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環	口径：— 底径：(7.8) 器高：(2.6)	微砂粒、砂 粒、小礫	内：体～底部ロクロナデ 外：体部ロクロナデ、底部 回転ヘラ切り後ナデ	内：青灰色 外：青灰色 ・良	体部一部 底部1/3	底部外面ヘラ記号あり。	覆土
2	土師器 環	口径(17.2) 底径：— 器高：(3.5)	黒色粒、透 明粒、微砂 粒	内：口縁部ヨコナデ、体部 ナデ 外：口縁部ヨコナデ、体部 ヘラケズリ	内：にぶい黄褐色 外：灰黄褐色 ・良	口縁部 1/7		覆土
3	土師器 甕	口径：16.6 底径：— 器高(17.3)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内：口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ後ナデ	内：灰黄色 外：浅黄色 ・良	口縁部 3/4 胴部 1/4	僅かに歪みあり。球胴 状。	覆土

SI-206 (第99～101図、第42表、図版一三・一四)

西調査区北部の12-64グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-204・207と重複し、新旧関係はSI-207 < SI-206 < SI-204である。

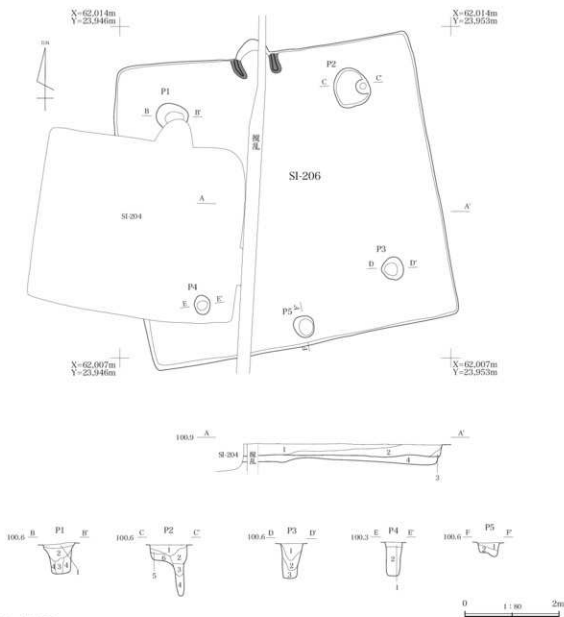
平面形は、やや歪んだ方形を呈する。規模は南北約6.46m、東西約6.16mで、面積は約39.8㎡である。主軸の振れはN-12°-Wである。

埋土は褐色・黄褐色を呈する3層に別けられ、自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁28.7cm、西壁20.0cm、南壁19.9cm、北壁32.1cmで、外傾して立ち上がる。

床は、掘方を黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約4.0～20.0cmを測る。

柱穴は、主柱穴P1～4と梯子穴P5を確認した。規模はP1：63.0×59.0cm、深さ62.0cm、P2：86.0×74.0cm、深さ105.0cm、P3：48.0×46.0cm、深さ73.0cm、P4：50.0×45.0cm、深さ69.0cmである。P1・2で柱痕跡を確認した。梯子穴P5は南壁中央の壁に寄った位置で確認された。規模は55.0×45.0cm、



SI-206 土層説明

- | | | | | |
|---------|--|--------|--------|------------------------------|
| 1 褐色土 | ローム粒少量、今市バミス粒・七本板バミス粒微量混入。(柱取後埋土) | P3 | 1 褐色土 | 今市バミス粒・七本板バミス粒やや多量、ローム粒少量混入。 |
| 2 黄褐色土 | ローム粒多量、今市バミス粒・七本板バミス粒微量混入。 | 2 黄褐色土 | 2 黄褐色土 | ローム粒多量、今市バミス粒微量混入。しまりなし。 |
| 3 黄褐色土 | ローム粒多量、今市バミス粒やや多量混入。(側方埋土) | 3 灰白色土 | 3 灰白色土 | 灰白色粘土多量、ローム粒少量混入。 |
| P1 | | P4 | | |
| 1 褐色土 | ローム粒多量、今市バミス粒・七本板バミス粒微量混入。(柱取後埋土) | 1 暗褐色土 | 1 暗褐色土 | 今市バミス粒少量、塊土粒微量混入。 |
| 2 褐色土 | ロームブロック・ローム粒多量、今市バミス粒・七本板バミス粒微量混入。(柱取後埋土) | 2 黄褐色土 | 2 黄褐色土 | 灰白色粘土・ローム粒・今市バミス粒多量混入。 |
| 3 黄褐色土 | ローム主体、今市バミス粒微量混入。(柱頭跡) | P5 | | |
| 4 黄褐色土 | ローム主体、今市バミス粒・七本板バミス粒微量混入。(柱側方埋土) | 1 暗褐色土 | 1 暗褐色土 | ローム粒・今市バミス粒多量混入。 |
| P2 | | 2 黄褐色土 | 2 黄褐色土 | ローム粒多量混入。 |
| 1 黄褐色土 | ローム粒・今市バミス粒やや多量混入。(柱取後埋土) | | | |
| 2 黄褐色土 | ロームブロック多量、今市バミス粒微量混入。(柱頭跡) | | | |
| 3 黄褐色土 | ローム粒多量混入。しまりなし。(柱頭跡) | | | |
| 4 灰白色土 | 黄白色粘土主体。(柱頭跡) | | | |
| 5 黄褐色土 | ロームブロック(2~3cm大)多量、今市バミス粒微量混入。(柱側方埋土) | | | |
| 6 暗黄褐色土 | 鐵屑バミス多量、ロームブロック(2~3cm大)少量、今市バミス粒微量混入。(柱側方埋土) | | | |

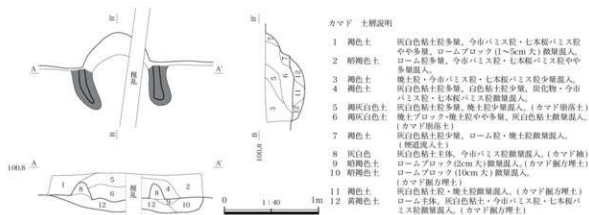
第99図 助五郎内遺跡 SI-206 実測図

深さは28.0cmである。

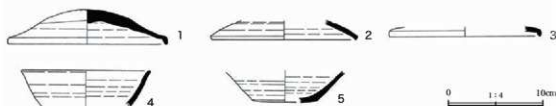
カマドは北壁中央に構築され、灰白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅22.0cm、長さ40.0～42.0cm、高さ約12.0～18.0cmで、両袖間の幅は約72.0cmである。掘方は深さ14.0cmで、北壁への突出は36.0cmである。

出土遺物は、土師器環4点49g、土師器甕43点1,797g、須恵器环蓋3点223g、須恵器环7点81g、須恵器甕1点160g、総量58点2,310gが出土した。須恵器は、益子古ヶ原入～滝ノ入・倉見沢窯段階で、9世紀前葉～中葉か。

建物跡の時期は9世紀前葉～中葉であろう。



第100図 助五郎内遺跡 SI-206カマド実測図



第101図 助五郎内遺跡 SI-206出土遺物

第42表 助五郎内遺跡 SI-206出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 环蓋	口径: 一 (16.6) 器高: 3.6	微砂粒、砂 粒、小漚	内: 天井～裾部ロクロナデ 外: 天井部回転ヘラケス リ、体～裾部ロクロナデ	内: 灰黄色 外: 灰黄色 ・良	口縁部 1/12	天井部指痕・頂直あり。	覆土
2	須恵器 环蓋	口径: 一 (15.0) 器高: (2.1)	黒色粒、微 砂粒	内: 体～裾部ロクロナデ 外: 体～裾部ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	体～裾部 1/12		覆土 小片
3	須恵器 环蓋	口径: 一 (15.8) 器高: (1.0)	黒色粒、微 砂粒	内: 体～裾部ロクロナデ 外: 体～裾部ロクロナデ	内: 灰白色 外: 灰色 ・良	裾部 1/12		覆土 小片
4	須恵器 环	口径: 一 (13.4) 底径: 一 器高: (3.9)	微砂粒、砂 粒	内: 口縁～体部ロクロナデ 外: 口縁～体部ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁部 1/9		覆土 小片
5	須恵器 环	口径: 一 底径: (6.9) 器高: (3.4)	砂粒、微砂 粒	内: 体～底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底部 切り離し不明瞭、回転ヘ ラ切り後ナデか	内: 灰色 外: 灰色 ・良	底部 1/5		覆土 小片

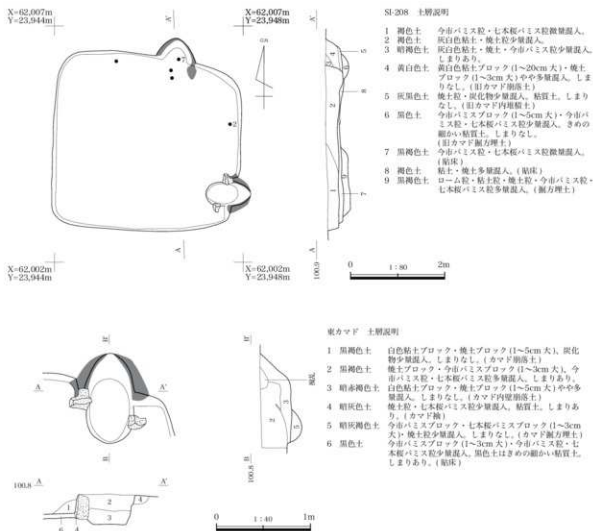
SI-208 (第102・103図、第43表、図版一四・二一)

西調査区北部の12.64グリッドに位置する。竪穴建物跡SI-204～207と近接している。本建物跡は谷理土の黒色土上に構築されている。

平面形は、やや歪んだ四角形を呈する。規模は南北約3.95m、東西約3.80mで、面積は約15.0㎡である。主軸の振れはN-2°-Eである。

埋土は褐色土で2層は焼土粒・白色粘土粒を含む。残存する壁の高さは、東壁23.6cm、西壁10.9cm、南壁19.0cm、北壁19.1cmで、外傾して立ち上がる。床は、掘方を黒褐色土および褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約2.0～6.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認できなかった。

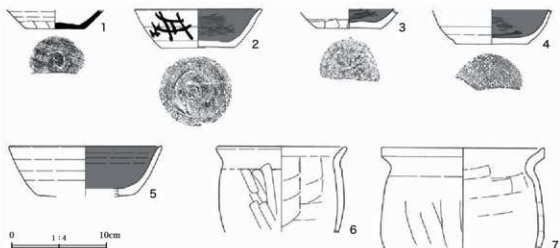
カマドは北壁中央と東壁南に構築されている。北カマドは旧カマドで袖は残っていないが、煙道部に貼り付けた粘土が残存している。掘方の深さは12.0cmで、北壁への突出は48.0cmである。東カマドは白色粘土で構築された袖が僅かに残存する。袖の幅16.0cm、長さ残16.0cm、高さ約10.0～28.0cmで、袖の構築材として使用された石が置かれていた。掘方は深さ12.0cm、東壁への突出は36.0cmである。



第102図 助五郎内遺跡 SI-208 実測図

出土遺物は、土師器環 22 点 433g、土師器甕 107 点 2,546g、須恵器環 7 点 73g、総量 136 点 3,052g が出土した。須恵器環は、益子胎屋 1・2 号窯段階。2 の土師器環は体部外面に墨書有する。

建物跡の時期は、9 世紀後葉である。



第 103 図 助五部内遺跡 SI-208 出土遺物

第 43 表 助五部内遺跡 SI-208 出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環	口径：— 底径：6.0 器高：(2.0)	微砂粒、砂粒、小礫	内：体～底部ロクロナデ 外：体部ロクロナデ、体部下端横位一段のヘラケズリ様ヘラナデ、底部回転ヘラ切り後ヘラナデ	内：灰色 外：灰色 ・良	底部 3/4	底部外面ヘラ記号あり。	覆土
2	土師器 環	口径：(13.0) 底径：7.6 器高：4.1	黒色粒、微砂粒、砂粒	内：口縁部～底部ヘラミガキ 外：口縁部～体部ロクロナデ、体部下端横位ヘラケズリ、底部回転ヘラ切り後回転ヘラケズリ	内：黒色 外：浅黄褐色 ・良	口縁～体部 1/4 底部完存	体部外面墨書あり。内面黒色処理。	
3	土師器 環	口径：— 底径：(6.8) 器高：(2.0)	透明粒、微砂粒、砂粒	内：体～底部ヘラミガキ 外：体部ロクロナデ、体部下端横位ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ	内：黒色 外：にぶい黄褐色 ・良	底部 1/4	内面黒色処理。	
4	土師器 環	口径：— 底径：(7.6) 器高：(3.7)	微砂粒、砂粒、小礫	内：体～底部細かいヘラミガキ 外：体部ロクロナデ、体部下端ヘラケズリ、底部回転ヘラ切り後回転ヘラケズリか	内：にぶい黄褐色 外：にぶい黄褐色 ・良	底部 5/12	内面黒色処理されるも 2 次加熱により変色・消滅か。	
5	土師器 環	口径：(16.0) 底径：(10.4) 器高：5.3	黒色粒、透明粒、微砂粒、砂粒	内：口縁～底部ヘラミガキ 外：口縁～体部ロクロナデ、体部下端横位ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ	内：黒色 外：にぶい黄褐色 ・良	1/3	大形。内面黒色処理。	
6	土師器 甕	口径：(13.4) 底径：— 器高：(9.0)	黒色粒、透明粒、微砂粒、砂粒、小礫	内：口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴部縦位ヘラケズリ	内：褐色 外：明褐色 ・良	口縁部 1/2	小形。	覆土
7	土師器 甕	口径：(17.2) 底径：— 器高：(10.6)	ガラス光沢 黒色粒、微砂粒、砂粒	内：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	内：明黄褐色 外：黄褐色 ・良	口縁部 5/12		北カマド内

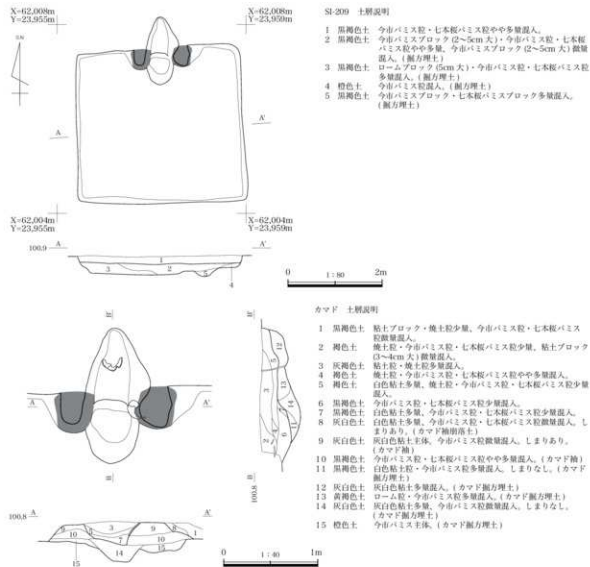
SI-209 (第104・105図、第44・45表、図版一五・二二)

西調査区北部の12.64グリッドに位置する。西側に竪穴建物跡SI-204～208が位置する。谷土工上に構築されている。

平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約3.58m、東西約3.31mで、面積は約11.8㎡である。主軸の振れはN5°-Wである。

埋土は1層で、黒褐色を呈する。残存する壁の高さは、東壁12.0cm、西壁16.5cm、南壁6.6cm、北壁15.9cmで、外傾して立ち上がる。床は、掘方を黒褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約8.0～26.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認できなかった。

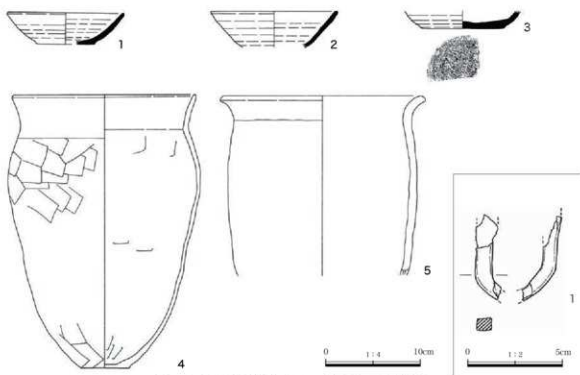
カマドは北壁中央に構築され、灰白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅46.0～70.0cm、長さ34.0～38.0cm、高さ約14.0～24.0cmで、両袖間の幅は約100.0cmである。掘方は深さ20.0cmで、北壁への突出は66.0cmである。煙道部ほどに土器器裏片が縦位に残存しており、出土状況からこの縦位のままカマドが機能していたと推定される。



第104図 助五郎内遺跡 SI-209実測図

出土遺物は、土師器環 2 点 3g、土師器甕 86 点 2,298g、須恵器環蓋 1 点 3g、須恵器環 11 点 135g、須恵器甕 2 点 63g、鉄製品（釘）1 点 5.48g、総量 103 点 2,507g と自然礫 118g が出土した。

須恵器環は 9 世紀代か。



第 105 図 助五郎内遺跡 SI-209 出土遺物・出土鉄製品

第 44 表 助五郎内遺跡 SI-209 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	甑土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環	口径：(1.2.2) 底径：(6.2) 器高：3.4	微砂粒、砂 粒	内：口縁～底部ロクロナデ 外：口縁～体部ロクロナ デ。底部切り離し不明	内：灰色 外：灰色 ・良	口縁部 1/8 底部 1/6	凸状の底部。	カマド
2	須恵器 環	口径：(1.3.2) 底径：— 器高：(3.8)	砂粒、微砂 粒、小礫	内：口縁～体部ロクロナデ 外：口縁～体部ロクロナデ	内：灰色 外：灰色 ・良	口縁部 1/4		カマド
3	須恵器 環	口径：— 底径：(8.4) 器高：(1.9)	微砂粒、砂 粒	内：体～底部ロクロナデ 外：体部ロクロナデ。底部 切り離し不明、後ナデ	内：灰色 外：灰色 ・良	底部 1/4	底部外面に光の角度に よってはっきり見える 火障痕あり。底部外面 へラ記号あり。	
4	土師器 甕	口径：(19.2) 底径：(5.2) 器高：29.0	微砂粒・砂 粒多量	内：口縁部ヨコナデ、胴～ 底部ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴～ 底部ヘラケズリ	内：褐色 外：灰黄褐色 ・良	1/7		カマド
5	土師器 甕	口径：(21.0) 底径：— 器高：(19.0)	雲母・砂粒 多量、小礫	内：口縁部ヨコナデ、胴部 調整不明瞭 外：口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ	内：赤褐色 外：赤褐色 ・不良	口縁～胴 部 1/9 底部欠損		カマド 内面剥落顕 著

第 45 表 助五郎内遺跡 SI-209 出土鉄製品観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	釘	長さ：(4.3) 厚さ：0.8 重量：5.48g	短軸断面が長方形。両端部を欠く。上部から下部へ幅を狭くしながら 緩やかに曲がる。	両端部欠損	カマド

SI-210 (第106・107図、第46表、図版一五・二一)

西調査区北部の12-65グリッドに位置する。北側に竪穴建物跡SI-204～209が位置する。谷埋土の黒色土上に構築されている。

平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約3.00m、東西約2.85mで、面積は約8.6㎡である。主軸の振れはN-79°-Eである。

埋土は黒褐色を呈する4層に別けられ一部に灰白色粘土を多量に含んだ人為堆積層がみられる。

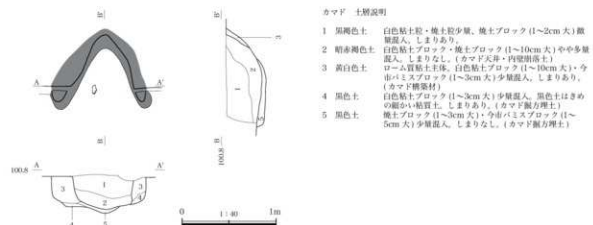
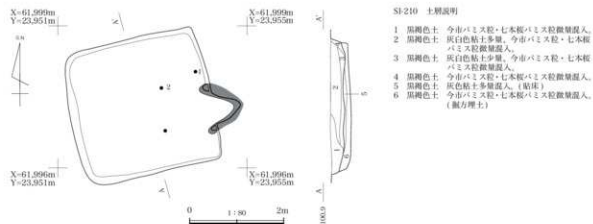
残存する壁の高さは、東壁28.2cm、西壁29.1cm、南壁29.8cm、北壁27.1cmで、外傾して立ち上がる。

床は、掘方を灰白色粘土を多量に含んだ黒褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約2.0～8.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認できなかった。

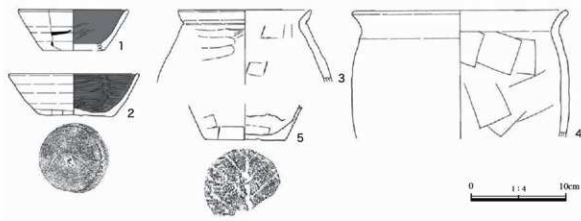
カマドは東壁やや南寄りに構築されて、白色粘土およびロームで構築された両袖が残存していた。袖は幅16.0～20.0cm、長さ16.0cm、高さ約14.0～28.0cmで、両袖間の幅は約90.0cmである。掘方は深さ8.0cmで、北壁への突出は56.0cmである。袖から連続して白色粘土を貼り付けて、煙道部を構築している。

出土遺物は、土師器環10点245g、土師器甕47点1.317g、須恵器環5点34g、須恵器甕3点50g、総量65点1.646gと縄文式土器1点12g、自然礫61gが出土した。

建物跡の時期は9世紀後葉である。



第106図 助五郎内遺跡 SI-210 実測図



第107図 助五郎内遺跡 SI-210 出土遺物

第46表 助五郎内遺跡 SI-210 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 坏	口径:(11.6) 底径:(6.4) 器高:4.3	微砂粒、砂 粒	内:口縁~体部ヘラミガキ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:黒色 外:黄褐色 ・良	口縁~体 部 1/5	体部外面黒書あり。内 面黒色処理。	
2	土師器 坏	口径:(13.6) 底径:7.5 器高:4.5	微砂粒、砂 粒	内:口縁部ロクロナデ後ヘ ラミガキ 体部ロクロナ デ後横位ヘラミガキ 底 部ロクロナデ後一定方向 のヘラミガキ 外:口縁~体部ロクロナ デ、体部下端横位手持ち ヘラズリ、底部回転ヘ ラ切り後回転ヘラズリ	内:黒色 外:黄褐色 ・良	口縁部 5/12 底部完存	内面黒色処理。	
3	土師器 甕	口径:(12.8) 底径:— 器高:(7.6)	透明粒、微 砂粒	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ	内:にぶい・橙色 外:にぶい・橙色 ・良	口縁部 1/5	覆土	
4	土師器 甕	口径:(22.4) 底径:— 器高:(13.4)	透明粒、砂 粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ	内:橙色 外:橙色 ・良	口縁部一 部 胴部上半 1/5	覆土 小片	
5	土師器 甕	口径:— 底径:(8.4) 器高:(3.8)	微砂粒、砂 粒	内:胴~底部ヘラナデ 外:胴部ヘラズリ	内:黒褐色 外:にぶい・黄褐色 ・良	底部 7/12	薄い底部。底部木炭痕 あり。	覆土

SI-214 (第108～110図、第47表、図版一五・二二)

西調査区南部の12-66グリッドに位置する。谷埋土の黒色土上に構築されている。北側に、古墳時代の竪穴建物跡 SI-211～213が位置する。

平面形は、歪んだ方形を呈する。規模は南北約5.05m、東西約4.70mで、面積は約23.7㎡である。主軸の振れはN-15°-Wである。

埋土は褐色・黒褐色を呈する5層に別けられ、自然堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁50.8cm、西壁37.7cm、南壁34.8cm、北壁33.1cmで、外傾して立ち上がる。床は、掘方を褐色土および黄褐色土で埋戻して貼床とし、貼床の厚さは約8.0～16.0cmを測る。建物中央から北東コーナーは掘方底面がロームに達しており、床面には硬化面が形成されている。壁際溝は確認していない。

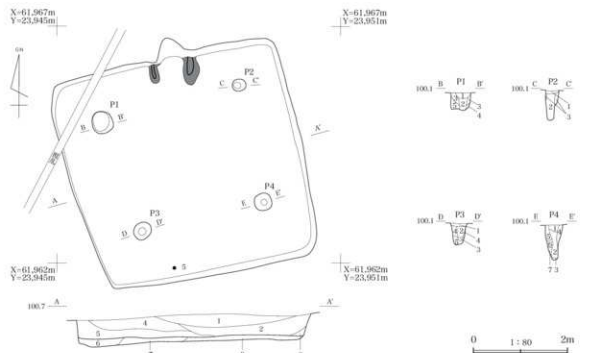
柱穴は、主柱穴P1～4を確認した。規模はP1:42.0×37.0cm、深さ40.0cm。P2:28.0×22.0cm、

深さ 60.0cm。P3：42.0×40.0cm、深さ 45.0cm。P4：45.0×40.0cm、深さ 75.0cm である。4 本全ての柱穴で柱痕跡を確認した。

カマドは北壁やや東寄りに構築され、黄白色粘土で構築された両袖が現存しており、袖は幅 20.0～34.0cm、長さ 38.0～60.0cm、高さ約 20.0～26.0cm で、両袖間の幅は約 76.0cm である。袖には構築材として土師器襷が左右に埋め込まれていた。掘方は深さ 10.0cm で、北壁への突出は 44.0cm である。

出土遺物は、土師器環 6 点 151g、土師器壺 28 点 4,337g、土師器壺 1 点 720g、須恵器環蓋 2 点 296g、須恵器環 4 点 172g、須恵器盤 1 点 144g、支脚 1 点 1,235g、総量 43 点 7,055g と自然礫 408g が出土した。

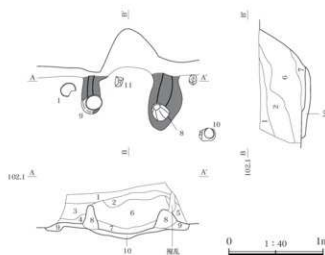
須恵器環蓋は、益子原東 1・3 号窯段階か、8 世紀第 2 四半期。3～6 の土師器は古墳時代の遺物で混入であろう。建物跡の時期は、8 世紀第 2 四半期である。



SI-214 土器説明

1 褐色土	今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。	P3	1 褐色土	ローム粒・七本板バミス粒少量混入。しりりあり。
2 褐色土	ローム粒やや多量。今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。	2 黒褐色土	2 黒褐色土	今市バミス粒・七本板バミス粒少量。ロームブロック(1～20cm 大)少量混入。しりりなし。(柱痕跡)
3 褐色土	今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。	3 黄褐色土	3 黄褐色土	黒色土ブロック・今市バミスブロック(1～3cm 大)少量混入。ブロックは上方向からの圧により潰れる。しりりあり。(柱痕跡)
4 褐色土	今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。	4 黄褐色土	4 黄褐色土	黒色土ブロック(1～3cm 大)少量混入。しりりあり。(柱痕跡)
5 黒褐色土	今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。ロームブロック(1cm 前後)。	5 暗黄褐色土	5 暗黄褐色土	ローム主体。七本板バミス粒少量混入。しりりあり。(柱痕跡)
6 褐色土	ローム粒少量混入。(掘方埋土)	6 灰白色土	6 灰白色土	ロームブロック(1～3cm 大)・白色粘土ブロック(1～5cm 大)・今市バミスブロック(1～3cm 大)やや多量混入。しりりあり。(柱痕跡)
7 黄褐色土	ロームブロック今市バミスブロック主体。七本板バミス粒少量混入。(掘方埋土)	7 暗褐色土	7 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1～3cm 大)やや多量混入。しりりあり。(柱痕跡)
8 黄褐色土	ローム主体。(掘方埋土)	8 暗褐色土	8 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1～3cm 大)やや多量混入。しりりあり。(柱痕跡)
P1		9 暗褐色土	9 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1～3cm 大)やや多量混入。しりりあり。(柱痕跡)
1 黒褐色土	今市バミスブロック(1cm 大)・今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しりりあり。	10 暗褐色土	10 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1～3cm 大)やや多量混入。しりりあり。(柱痕跡)
2 暗褐色土	今市バミスブロック(1～3cm 大)・今市バミス粒やや多量。白色粘土ブロック(1～3cm 大)少量。しりりなし。(柱痕跡)	11 暗褐色土	11 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1～3cm 大)やや多量混入。しりりあり。(柱痕跡)
3 暗褐色土	ロームブロック(1～3cm 大)・今市バミスブロック(1～3cm 大)やや多量混入。しりりあり。(柱痕跡)	12 暗褐色土	12 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1～3cm 大)やや多量混入。しりりあり。(柱痕跡)
4 暗褐色土	ロームブロック(1～3cm 大)・今市バミスブロック(1～3cm 大)やや多量混入。しりりあり。(柱痕跡)	13 暗褐色土	13 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1～3cm 大)やや多量混入。しりりあり。(柱痕跡)
5 暗褐色土	ロームブロック今市バミスブロック(1～10cm 大)主体。黒色土少量混入。しりりあり。(柱痕跡)	14 暗褐色土	14 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1～3cm 大)やや多量混入。しりりあり。(柱痕跡)
P2		15 暗褐色土	15 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1～3cm 大)やや多量混入。しりりあり。(柱痕跡)
1 暗褐色土	ローム粒・七本板バミス粒少量混入。しりりあり。	16 暗褐色土	16 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1～3cm 大)やや多量混入。しりりあり。(柱痕跡)
2 黒褐色土	今市バミス粒・七本板バミス粒少量。ロームブロック(1～20cm 大)少量混入。しりりなし。(柱痕跡)	17 暗褐色土	17 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック(1～3cm 大)やや多量混入。ブロックは上方向からの圧により潰れる。しりりあり。(柱痕跡)
3 暗黄褐色土	ローム主体。七本板バミス粒少量混入。しりりあり。(柱痕跡)			

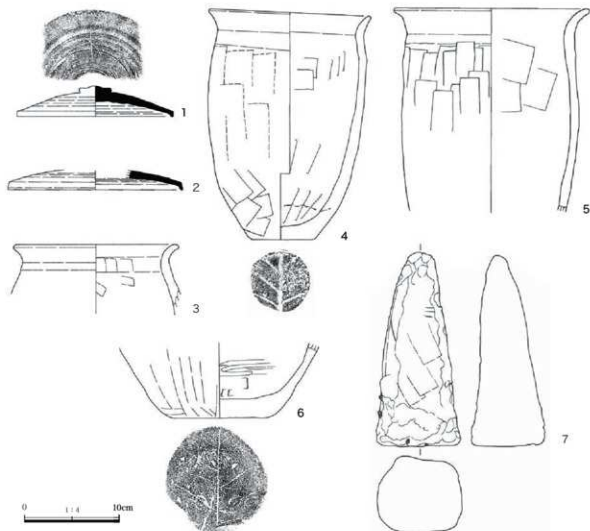
第 108 図 助五郎内遺跡 SI-214 実測図



カマド 土質説明

- 1 褐色土 今市パミス粒・七本椀パミス粒微量混入。
- 2 褐色土 ローム粒中多量。今市パミス粒・七本椀パミス粒微量混入。
- 3 褐色土 ローム粒多量混入。
- 4 暗褐色土 黄白色粘土ブロック(1~3cm大)・今市パミス粒・七本椀パミス粒少量。焼土ブロック(1~3cm大)・ロームブロック(1~5cm大)微量混入。しきりあり。
- 5 暗黄白色土 黄白色粘土ブロック(1~10cm大)の中多量。焼土ブロック(1~3cm大)・今市パミス粒・七本椀パミス粒少量混入。しきりあり。(カマド附添土)
- 6 灰赤褐色土 黄白色粘土ブロック(1~20cm大)・焼土ブロック(1~10cm大)主体。褐色土・今市パミス粒少量混入。しきりあり。(カマド天井及び内壁附添土) 灰主体。焼土ブロック(1~3cm大)少量混入。しきりなし。(灰地盤及び内壁附添土)
- 7 暗灰色土 黄白色粘土主体。黒色土ブロック(1~5cm大)・七本椀パミス粒微量混入。しきりあり。(カマド袖)
- 8 黄白色土 ロームブロック・今市パミスブロックの中多量混入。灰褐色土はきめの細かい粘質土。しきりあり。(カマド側方埋土)
- 9 灰黒色土 黄白色粘土主体。黒色土ブロック(1~5cm大)・七本椀パミス粒微量混入。しきりあり。(カマド袖)
- 10 黒褐色土 ロームブロック(1~3cm大)・ローム粒少量。焼土ブロック(1~3cm大)微量混入。黄褐色土はきめの細かい粘質土。しきりなし。(カマド側方埋土)

第109図 助五郎内遺跡 SI-214カマド実測図



第110図 助五郎内遺跡 SI-214出土遺物

第47表 助五郎内遺跡 SI-214 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏蓋	幅径: 3.2 口径: 16.2 器高: 3.2	砂粒、小礫	内: 天井～胴部ロクロナデ 外: 体～胴部ロクロナデ、 天井部回転ヘラケズリ、 桶み貼付後ロクロナデ	内: 灰白色 外: 灰白色 ・良	胴部 3/4 天井部完 存	外面ヘラ記号あり。	カマド内
2	須恵器 坏蓋	幅径: ー 口径: 18.2 器高: (2.1)	微砂粒、小 礫	内: 天井～胴部ロクロナデ 外: 天井部回転ヘラケズ リ、体～胴部ロクロナデ、 桶み貼付後ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	胴部 1/7		
3	土師器 甕	口径:(16.8) 底径: ー 器高: (7.5)	黒色粒、透 明粒、微砂 粒、砂粒、 小礫	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい褐色 ・良	口縁部 1/7		小片
4	土師器 甕	口径: 16.8 底径: 6.4 器高: 24.5	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内: 口縁部ヨコナデ、胴～ 底部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 上半縦位、下半斜位～不 定方向ヘラケズリ	内: にぶい黄橙～灰 黄褐色 外: 明～にぶい黄 褐色 ・良	口縁部 1/3 欠損	やや長めの胴部。底部 は平底で木葉痕をとど める。	カマド内
5	土師器 甕	口径: 20.2 底径: ー 器高: (21.4)	透明粒・微 砂粒・砂粒・ 小礫多量	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 縦位ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい褐色 ・良	口縁部一 部・胴下 半～底部 欠損		カマド内 器表剥落
6	土師器 甕	口径: ー 底径: 10.0 器高: (7.9)	黒色粒、透 明粒、微砂 粒、砂粒、 小礫	内: 胴～底部ナデ 外: 胴部ヘラナデ	内: 灰黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	底部完存	底部木葉痕あり。	カマド内
7	土製品 支脚	口径: ー 底径: 8.9 器高: 20.5 重量: 12380g	砂粒・小礫 多量、ガラ ス光沢黒色 粒・透明粒 少量	外: ヘラケズリ	外: にぶい黄色 ・良	完形	基本的には角錐台状で あると考えられるが、 頂付近で変形し、丸み をみせる。器表の上・ 下縁は剥落し不明瞭で あるが、中の四面に ヘラケズリ痕を認める。	カマド

第2項 掘立柱建物跡と出土遺物

建物の規模は、桁行総長、梁行総長、平面積（桁行総長×梁行総長）、平面指数（梁行総長÷桁行総長×100）で示した。平面指数が小さいほど桁行の大きい建物となり、官衙的要素の強い建物といえる（山中2007）。柱間は桁および梁行総長を柱間数で割ったものである。柱六掘方規模は、各柱六掘方の長辺と短辺の平均値をだし、すべての柱穴で平均したものである。深さは全ての柱六掘方の平均値である。柱あたりを実測図中に示した。

SB-5（第111図、図版一五）

東調査区北部の18-65グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-7と重複し、本建物跡が新しい。桁行3間、梁行2間の南北棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-6°-Wである。

規模は、桁行総長5.4m、梁行総長3.6m、平面積19.44㎡、平面指数66.66である。桁行柱間寸法は1.80m（6尺）、梁行柱間寸法は1.80m（6尺）である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は0.46m、深さ0.14mである。P2～4で柱痕跡が確認された。

出土遺物は、土師器環2点9g、土師器甕15点122g、須恵器環3点15g、総量20点146gが出土した。

重複して先行するSI-7が8世紀第2四半期であることから、本建物跡の時期は、9世紀代としておく。

SB-35（第112図）

東調査区南西部の17-66グリッドに位置する。北西側に奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-17が位置する。

桁行2間、梁行2間の側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-74°-Eである。

規模は、桁行総長3.9m、梁行総長3.6m、平面積14.04㎡、平面指数92.30である。桁行柱間寸法は1.80m（6尺）、梁行柱間寸法は1.95m（6.5尺）である。

柱穴の掘方形状は不整形、不整形で、掘方規模は0.60m、深さ0.09mである。柱痕跡は確認できなかった。

出土遺物はなく、建物跡の時期は不明であるが、建物の軸方位を同じくするSI-30と同様の6世紀代としておく。

SB-36（第113図）

東調査区南部の18-67グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-38、古墳時代の竪穴建物跡SI-19・27と重複する。SI-19・27より新しく、SB-38との新旧関係は不明である。

桁行2間、梁行2間の側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-25°-Eである。

規模は、桁行総長4.5m、梁行総長4.2m、平面積18.90㎡、平面指数93.33である。桁行柱間寸法は2.25m（7.5尺）、梁行柱間寸法は2.10m（7尺）である。

柱穴の掘方形状は方形、不整形で、掘方規模は0.62m、深さ0.18mである。柱痕跡は確認できなかった。

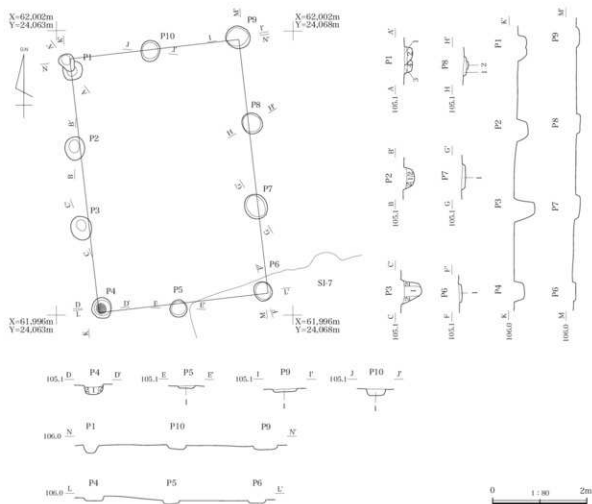
出土遺物は確認できなかったが、切り合い関係から、7世紀初頭以降である。

SB-38（第114図）

東調査区南部の18-67グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-36、古墳時代の竪穴建物跡SI-27と重複する。SB-36との新旧関係は不明であるが、SI-27より新しいことを検出面の切り合いで確認している。

桁行3間、梁行2間の東西棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-85°-Wである。

規模は、桁行総長5.1m、梁行総長4.2m、平面積21.42㎡、平面指数82.35である。桁行柱間寸法は1.70m



SB-5 土層説明・Pit 詳細表

P1	1 黒色土 焼土微粒少量混入。 2 黒色土 ローム微粒・今市バミス微粒少量混入。 3 黒色土 ローム微粒・今市バミス微粒少量混入。 4 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒多量混入。	P5	1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒混入。
P2	1 黒色土 黒色ブロック・ローム微粒・今市バミス微粒少量混入。(柱頭跡) 2 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒多量混入。(柱頭方埋土)	P6	1 黒色土 ロームブロック・ローム粒・今市バミス微粒混入。
P3	1 黒色土 黒色ブロック・ローム微粒・今市バミス微粒少量混入。(柱頭跡) 2 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒多量混入。(柱頭方埋土)	P7	1 黒色土 ロームブロック・ローム粒・今市バミス微粒混入。
P4	1 黒色土 ローム粒・今市バミス微粒混入。(柱頭跡) 2 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒多量混入。(柱頭方埋土)	P8	1 黒色土 今市バミス微粒混入。 2 黒色土 今市バミス微粒混入。
		P9	1 黒色土 今市バミス粒・焼土微粒・炭化物微粒少量混入。
		P10	1 黒色土 今市バミス粒・焼土微粒・炭化物微粒少量混入。

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	不整形	0.63	0.26	0.19	P6	円形	0.42	0.40	0.06
P2	円形	0.47	0.42	0.17	P7	楕円形	0.55	0.48	0.08
P3	楕円形	0.55	0.46	0.37	P8	円形	0.47	0.46	0.07
P4	円形	0.50	0.46	0.15	P9	円形	0.53	0.51	0.06
P5	円形	0.39	0.38	0.07	P10	円形	0.48	0.46	0.15

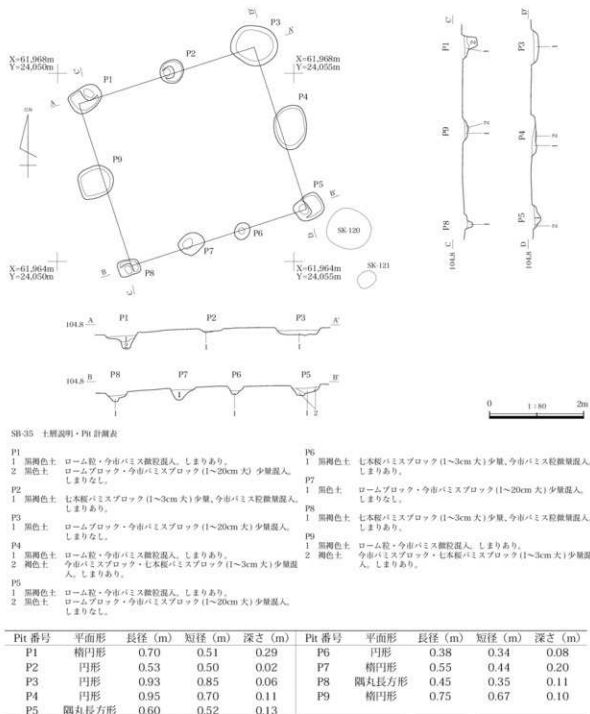
第 111 図 助五郎内遺跡 SB-5実測図

(5.6尺)、梁行柱間寸法は2.10m(7尺)である。

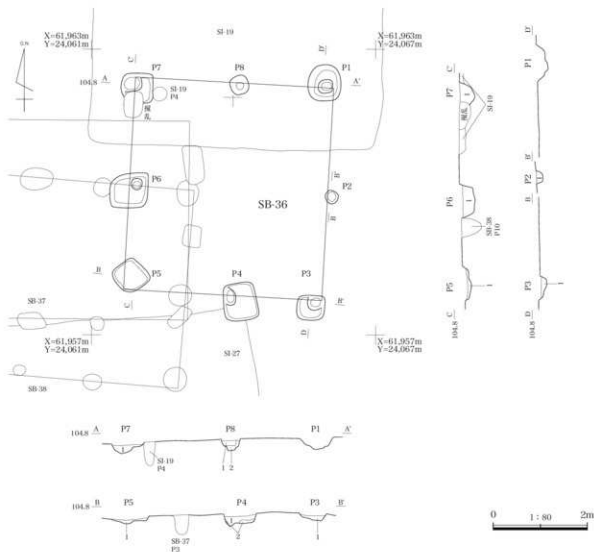
柱穴の掘方形状は円形もしくは楕円形で、掘方規模は0.46m、深さ0.32mである。P1～3・8・10で柱痕跡が確認された。出土遺物は確認できなかったが、新旧関係から、7世紀初頭以降である。

参考文献

山中敏史 2007 『地方豪族居宅の建物構造と空間的構成』『古代豪族居宅の構造と機能』奈良国立文化財研究所



第112図 助五郎内遺跡 SB-35実測図

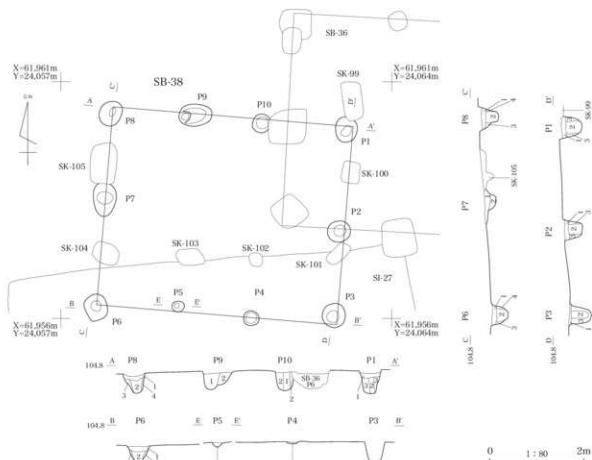


SB-36 土層説明・Pit 計測表

P2	1 黒色土	ローム殻・今市パミス粒少量混入。しまりなし。	P6	1 黒褐色土	ロームブロック・今市パミスブロック(1~5cm大)少量混入。しまりあり。
P3	1 黒褐色土	ロームブロック・今市パミスブロック(1~5cm大)少量混入。しまりあり。	P7	1 黒褐色土	ロームブロック・今市パミスブロック(1~5cm大)少量混入。しまりあり。
P4	1 黒色土	ロームブロック(1~3cm大)・今市パミスブロック少量混入。しまりなし。	P8	1 黒色土	ローム殻・今市パミス粒少量混入。しまりなし。(混入物)
	2 黒褐色土	ロームブロック・今市パミスブロック(1~5cm大)少量混入。しまりあり。		2 暗黄褐色土	ロームブロック(1~5cm大)やや多量混入。しまりあり。
P5	1 黒褐色土	ロームブロック・今市パミスブロック(1~5cm大)少量混入。しまりあり。			

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	楕円形	0.93	0.80	0.25	P5	不整形	0.74	0.67	0.08
P2	円形	0.27	0.25	0.10	P6	不整形	0.72	0.72	0.26
P3	方形	0.57	0.55	0.11	P7	不整形	0.71	0.57	0.20
P4	方形	0.80	0.72	0.22	P8	円形	0.42	0.40	0.21

第 113 図 助五郎内遺跡 SB-36 実測図



SB-38 上層説明・P9 計測表

- P1**
1 黒褐色土 ローム殻・今赤バニス殻少量混入。しりりあり。
2 黒色土 ローム殻・今赤バニス殻少量。ロームブロック(1~3cm大)・今赤バニスブロック(1~3cm大)少量混入。しりりなし。(柱痕跡)
3 黒褐色土 ロームブロック・今赤バニスブロック(1~3cm大)少量混入。しりりあり。(柱痕跡)
- P2**
1 黒褐色土 ローム殻・今赤バニス殻少量混入。しりりあり。
2 黒色土 ローム殻・今赤バニス殻少量。ロームブロック(1~3cm大)・今赤バニスブロック(1~3cm大)少量混入。しりりなし。(柱痕跡)
3 黒褐色土 ロームブロック(1~3cm大)やや多量。今赤バニスブロック(1~3cm大)少量混入。しりりあり。(柱痕跡)
- P3**
1 黒褐色土 焼土殻・今赤バニス殻・七本形バニス殻少量混入。しりりあり。(柱痕跡)
3 黒褐色土 ローム殻・今赤バニス殻・七本形バニス殻やや多量。ロームブロック(1~5cm大)少量混入。しりりあり。(柱痕跡)
- P4**
1 暗褐色土 ロームブロック(1~3cm大)・今赤バニスブロック(1~3cm大)少量混入。しりりあり。
2 黒色土
- P5**
1 褐色土 ロームブロック(1~3cm大)・今赤バニスブロック(1~3cm大)少量混入。しりりあり。
- P6**
1 黒褐色土 ローム殻・今赤バニス殻少量混入。しりりあり。
2 黒色土 ロームブロック(1~3cm大)・今赤バニスブロック(1~3cm大)少量混入。しりりなし。(柱痕跡)

- 3 黒褐色土 ロームブロック(1~3cm大)・今赤バニスブロック(1~3cm大)少量混入。しりりなし。(柱痕跡)
- 4 黄褐色土 ロームブロック(1~10cm大)やや多量。今赤バニスブロック(1~5cm大)少量混入。しりりあり。(柱痕跡)

- P7**
1 黒褐色土 ローム殻・今赤バニス殻少量混入。しりりあり。
2 黒色土 ロームブロック(1~3cm大)・今赤バニスブロック(1~3cm大)少量混入。しりりなし。

- P8**
1 黒褐色土 ローム殻・今赤バニス殻少量混入。しりりあり。
2 黒色土 ロームブロック(1~3cm大)・今赤バニスブロック(1~3cm大)少量混入。しりりなし。(柱痕跡)
3 黒褐色土 ロームブロック(1~3cm大)・今赤バニスブロック(1~3cm大)少量混入。しりりなし。(柱痕跡)
4 暗褐色土 今赤バニスブロック(1~5cm大)やや多量。ロームブロック(1~5cm大)少量混入。しりりあり。(柱痕跡)

- P9**
1 黒色土 ロームブロック(1~3cm大)・今赤バニスブロック(1~3cm大)少量混入。しりりなし。(柱痕跡)
2 黒褐色土 黒色土ブロック(1~10cm大)・褐色土ブロック(1~10cm大)・今赤バニスブロック(1~10cm大)やや多量混入。しりりなし。(柱痕跡)

- P10**
1 黒色土 ローム殻・今赤バニス殻少量。ロームブロック(1~3cm大)・今赤バニスブロック(1~3cm大)少量混入。しりりなし。(柱痕跡)
2 黄褐色土 ロームブロック(1~10cm大)やや多量。今赤バニスブロック(1~5cm大)少量混入。しりりあり。(柱痕跡)

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.53	0.47	0.44	P6	楕円形	0.55	0.49	0.36
P2	円形	0.50	0.48	0.39	P7	円形	0.53	0.46	0.24
P3	円形	0.53	0.50	0.46	P8	円形	0.55	0.50	0.38
P4	円形	0.32	0.31	0.11	P9	楕円形	0.73	0.47	0.35
P5	円形	0.22	0.22	0.11	P10	円形	0.41	0.41	0.36

第114図 助五郎内通跡 SB-38実測図

第4節 各時代の土坑と出土遺物

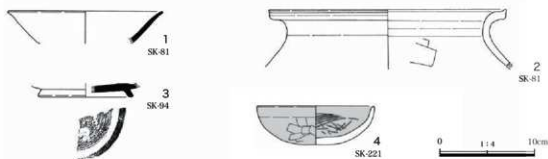
土坑は27基を確認した。明確に時期や性格を決定できるものが少ないため、本節でまとめて図示する。形態は円形もしくは方形を呈する。

東調査区北部にまとまっている円形の土坑SK-80～84は、平面形状・埋土に共通の特徴を有する。桶状のものを埋設したような埋土観察が得られ、共通の機能を有したものであろう。

長方形の土坑は、幅0.4～0.6m、長さ0.4～1.2m程度の規模で、中世遺跡にみられる長方形土坑に比して小規模である。

出土遺物は、SK-80で土師器環1点3g、土師器甕2点92g、SK-81で土師器環5点36g、土師器甕11点269g、須恵器環1点16g、SK-82で土師器環1点4g、土師器甕6点53g、SK-84で土師器甕3点31g、SK-87で土師器甕6点87g、須恵器蓋1点21g、SK-94で須恵器環1点28g、SK-98で土師器甕2点29g、SK-103で土師器甕1点13g、須恵器甕1点2g、SK-108で土師器甕2点20g、須恵器盤1点18g、SK-110で土師器環1点11g、土師器甕1点11g、須恵器環2点10g、SK-116で須恵器甕1点56g、SK-117で須恵器甕1点21g、SK-221で土師器環2点52gが出土している。

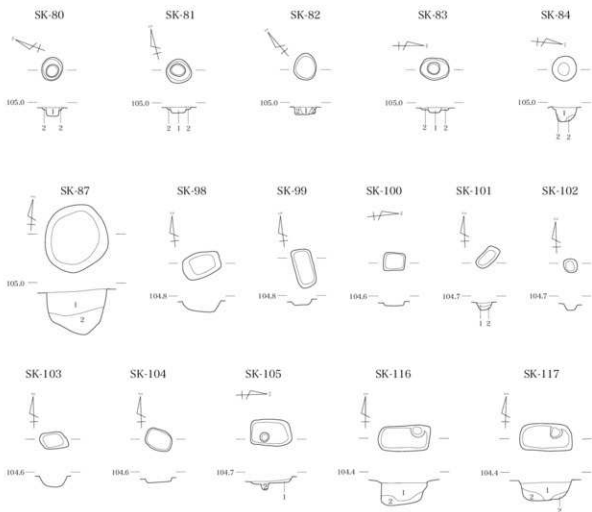
1はSK-81出土の須恵器環で、9世紀中葉以降であろう。2は同じくSK-81出土の土師器甕。3はSK-94出土の須恵器高台環で、8世紀後半であろう。4はSK-221出土の土師器環で、7世紀中葉頃か。



第115図 助五郎内遺跡 土坑出土遺物

第48表 助五郎内遺跡 土坑出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環	口径:(16.0) 底径:— 器高:(3.4)	微砂粒、砂 粒	内:口縁～体部ロクロナデ 外:口縁～体部ロクロナデ	内:橙色 外:橙色 ・不良か	口縁部 1/9		SK-81 小片
2	土師器 甕	口径:(25.0) 底径:— 器高:(6.3)	雲母・微砂 粒・砂粒多 量	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ	内:にぶい黄橙色 外:にぶい黄橙色 ・良	口縁部 1/15		SK-81 小片
3	須恵器 高台環	口径:— 底径:(9.6) 器高:(1.4)	微砂粒、砂 粒	内:底部ロクロナデ 外:底部回転ヘラケズリ 後、後貼付高台後ナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	底部 1/4		SK-94
4	土師器 環	口径:(12.0) 底径:— 器高: 4.1	黒色粒、微 砂粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体～底部ヘラミ ガキ 外:口縁部ヨコナデ、体～ 底部ヘラケズリ	内:にぶい黄橙色 外:浅黄色 ・良	1/4	内外面漆仕上げ処理。	SK-221



SK-80 土坑説明

- 1 黒褐色土 焼土微粒多量混入。
- 2 黒色土 七本板バミス微粒少量混入。

SK-81 土坑説明

- 1 黒褐色土 焼土微粒多量混入。
- 2 黒色土 七本板バミス微粒少量混入。

SK-82 土坑説明

- 1 黒褐色土 焼土微粒多量混入。
- 2 黒色土 七本板バミス微粒少量混入。

SK-83 土坑説明

- 1 黒褐色土 焼土微粒少量混入。
- 2 黒色土 今市バミス微粒・七本板バミス微粒少量混入。

SK-84 土坑説明

- 1 黒褐色土 今市バミス微粒・七本板バミス微粒少量混入。しまりあり。
- 2 黒色土 七本板バミス微粒少量混入。

SK-87 土坑説明

- 1 黒褐色土 ローム殻・今市バミス殻・七本板バミス殻少量混入。しまりあり。
- 2 暗褐色土 ローム殻や中多量、今市バミス殻・七本板バミス殻少量混入。しまりあり。

第116図 助五郎内遺跡 土坑実測図(1)

SK-101 土坑説明

- 1 黒色土 ローム殻・今市バミス殻微量混入。しまりあり。
- 2 黒褐色土 今市バミスブロック(1~5cm大)少量混入。しまりなし。

SK-105 土坑説明

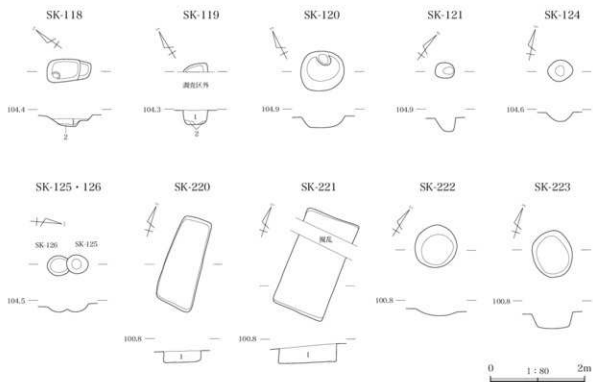
- 1 黒色土 ローム殻・今市バミス殻微量混入。しまりあり。
- 2 黒褐色土 今市バミスブロック(1~5cm大)少量混入。しまりなし。

SK-116 土坑説明

- 1 黒褐色土 1~20cm大のロームブロック・今市バミスブロック少量混入。しまりなし。
- 2 暗褐色土 1~20cm大の今市バミスブロック主体。1~20cm大のロームブロック・黒色土ブロック少量混入。しまりあり。

SK-117 土坑説明

- 1 黒褐色土 1~20cm大のロームブロック・今市バミスブロック少量混入。しまりなし。
- 2 暗褐色土 1~20cm大の今市バミスブロック主体。1~20cm大のロームブロック・黒色土ブロック少量混入。しまりあり。



SK-118 土層説明

- 1 黒褐色土 1~20cm 大のロームブロック・今市バミスブロック少量混入、しまりなし。
- 2 橙褐色土 1~20cm 大の今市バミスブロック主体、1~20cm 大のロームブロック・黒色土ブロック少量混入、しまりあり。

SK-119 土層説明

- 1 黒褐色土 1~20cm 大のロームブロック・今市バミスブロック少量混入、しまりなし。
- 2 橙褐色土 1~20cm 大の今市バミスブロック主体、1~20cm 大のロームブロック・黒色土ブロック少量混入、しまりあり。

SK-220 土層説明

- 1 褐色土 5~10mm 大のロームブロック、1~2mm 大の今市バミス粒・七本椀バミス粒少量混入。

SK-221 土層説明

- 1 褐色土 20~30mm 大のロームブロック、1mm 前後の七本椀バミス多量混入。

第117図 助五郎内遺跡 土坑実測図(2)

第VI章 星ノ宮遺跡の調査

第1節 調査区の概要 (第118～121図)

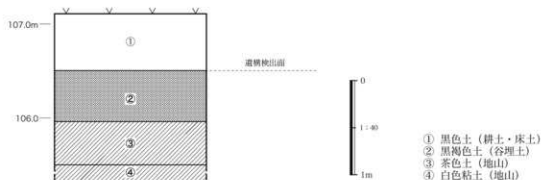
星ノ宮遺跡は、小貝川左岸の八満山地から緩やかに続く丘陵端に位置する。調査区は南区と北区に近接して分かれている。西に向かって緩やかに傾斜し調査区西側に小さな段丘崖があり、さらに西へ傾斜しながら約150mで下位の段丘崖に達し、比差約2mで小貝川の河床となる。調査区南側には小貝川の小枝谷が入り込み、調査区北側にも埋没しているが同じく小枝谷の痕跡がみられ、約200×200mの範囲が安定的に利用可能な範囲と考えられる。この範囲の先端に星ノ宮神社が鎮座していることになる。ただし、西側に続く緩斜面では試掘調査時に中世の遺物が確認されており、小貝川に近い下位段丘上に中世の遺構が存在する可能性が高い。また、遺構検出面では南区南部および北区の西半で谷を埋めた黒色土上で遺構が検出されており、浸食と堆積が繰り返された上に遺跡が立地していることがわかる。調査前の状況は水田及び畑地で、田面及び耕作面の標高は南区で約104.6～106.7m、北区で106.7～108.5mである。付近の小貝川河床の標高は約101.7mである。調査区の面積は南区と北区を合わせて11,100㎡である。

遺構検出面の標高は南区で約104.0～106.5m、北区で105.8～107.7mである。田面からの深さは南区で約0.2～0.6m、北区で約0.3～0.9mである。谷埋土の黒色土上では検出が難しく、検出面が下がる傾向にある。一帯には整地土層はみられないが、厚い耕作土層の直下が遺構検出面となっており、削平を受けている可能性がある。調査区内グリッド19-22付近の層序は、①黒色土(耕土・床土)60cm、②黒褐色土(谷埋土)0.55cm、③茶色土(地山)45cm、④白色粘土(地山)となる。調査区西部及び南部では③層上面が遺構検出面となり、調査区北東寄りでは③層がなく④層上面が遺構検出面となる。また②層谷埋土は強く締まっている。

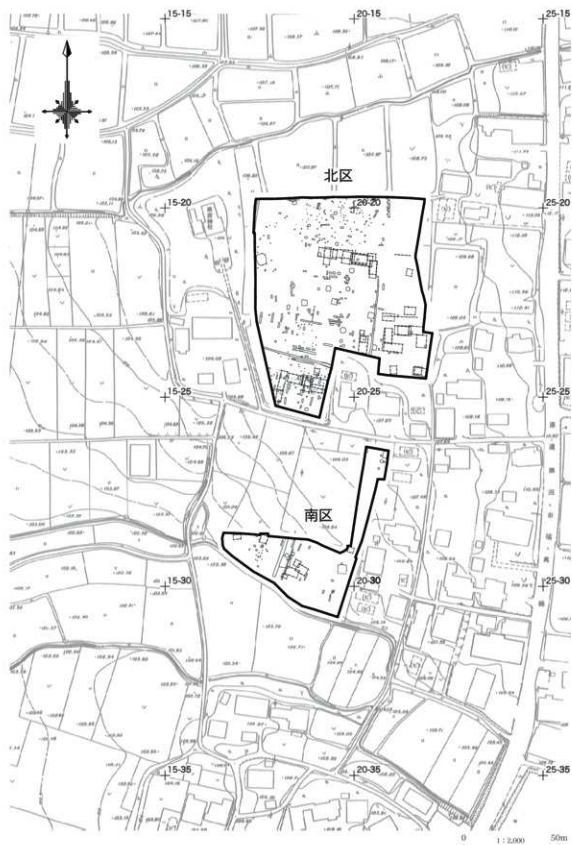
調査の結果、掘立柱建物跡40棟、竪穴建物跡3軒、掘立柱扉列跡5列、方形竪穴10基、井戸跡24基、溝跡4条、土坑462基が確認された。

時代別では、縄文時代の竪穴建物跡1軒、古墳～奈良・平安時代の竪穴建物跡2軒、中近世の掘立柱建物跡40棟、掘立柱扉列跡5列、方形竪穴10基、井戸跡24基、溝跡4条である。

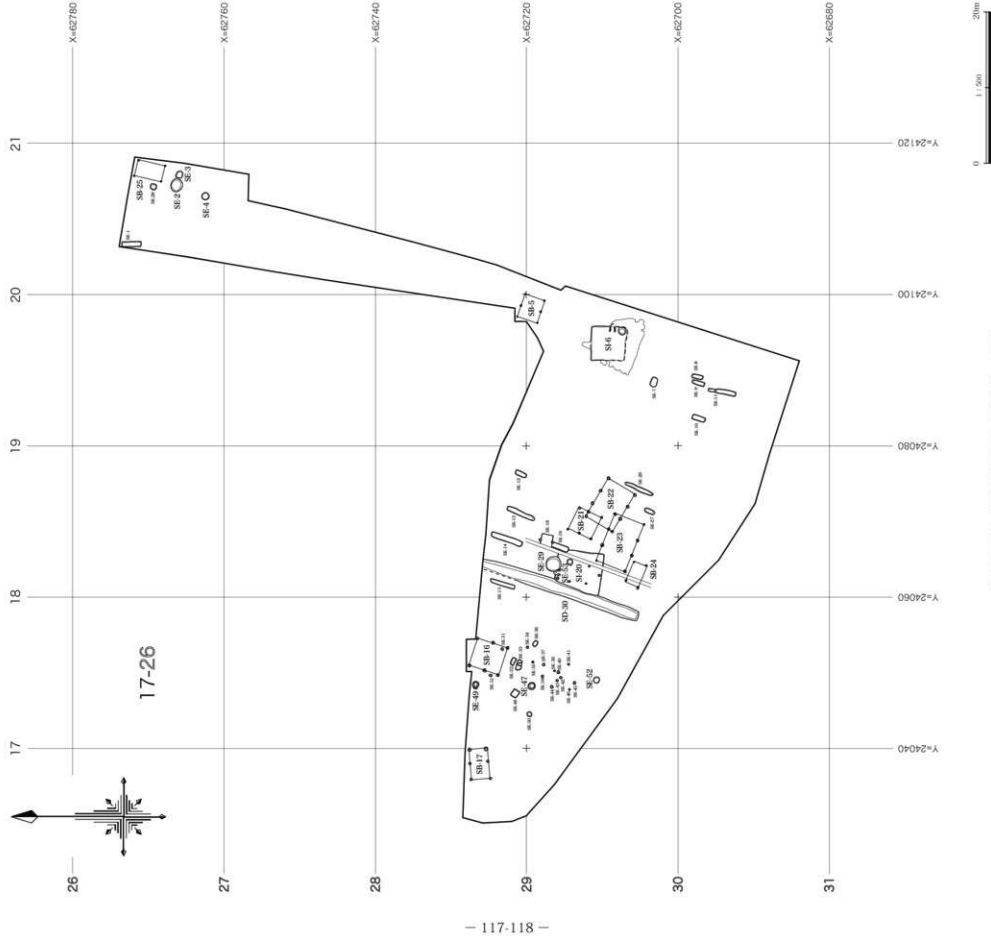
出土遺物は、縄文式土器、土師器、須恵器、土師質土器、陶磁器、鉄製品、石製品等である。



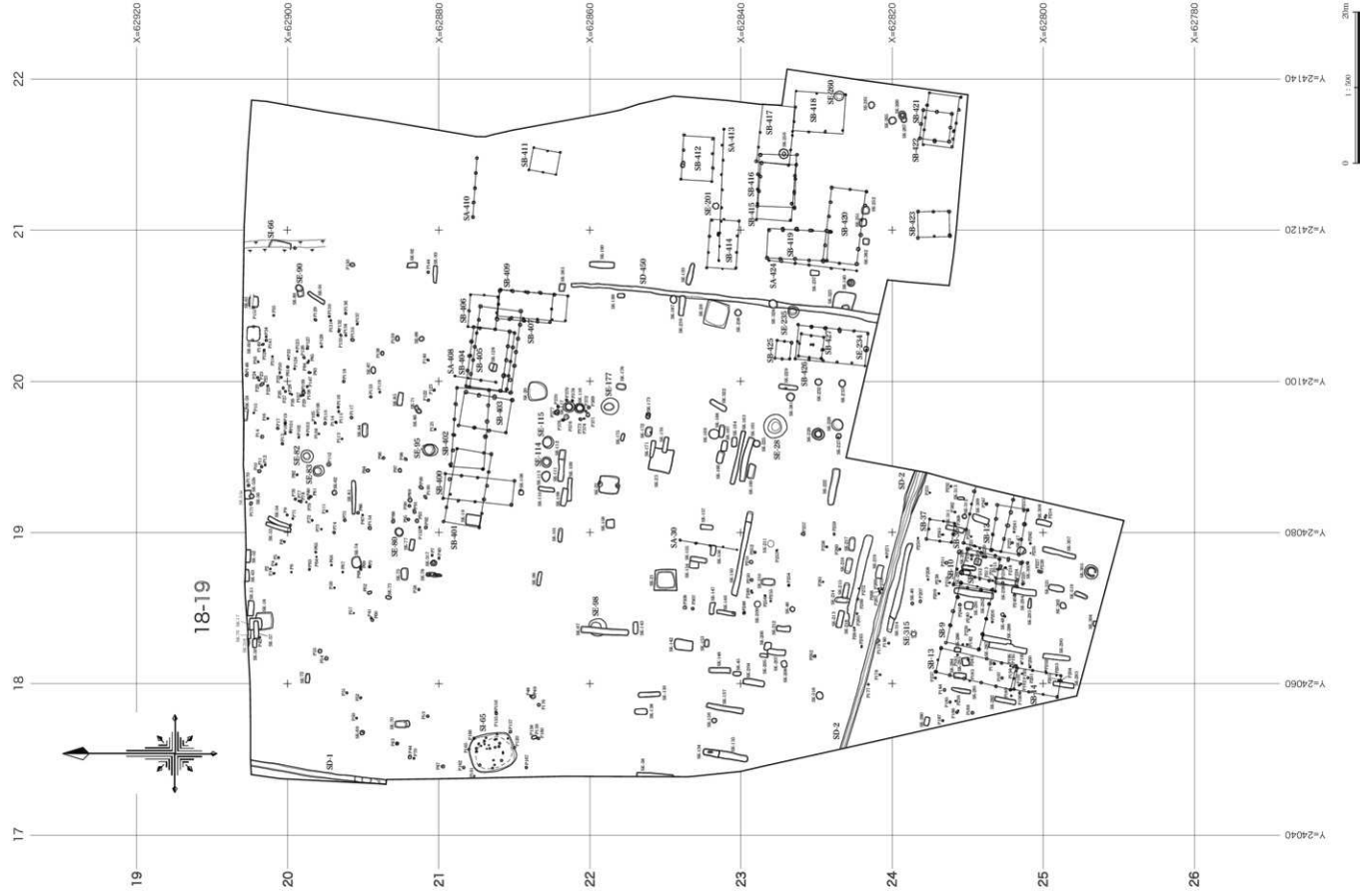
第118図 星ノ宮遺跡の基本層序模式図(グリッド19-22付近)



第119図 星ノ宮遺跡 調査区位置図 (S = 1/2,000)



第120図 屋/室通廊階平面図 全体図 (S = 1/500)



第121図 屋/宮澤路北側地区 全体図 (S = 1/500)

第2節 南調査区の遺構と遺物

第1項 古墳時代から奈良・平安時代の遺構と遺物

竪穴建物跡と出土遺物

SI-6 (第122～124図、第49・50表、図版二六・三四・四一)

調査区南東部の19-29グリッドに位置する。攪乱により南半を中心に大部分が失われている。

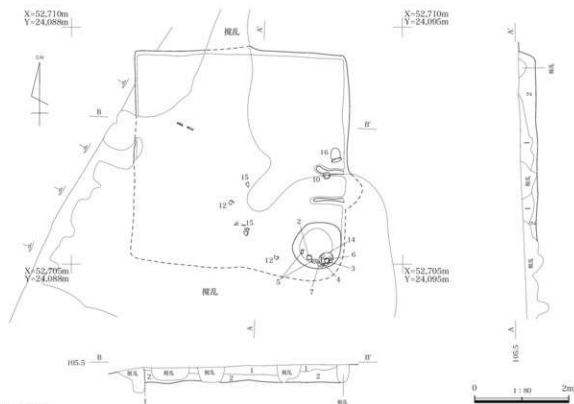
平面形は、方形を呈する。規模は南北約4.56m、東西約4.05m、面積は約18.5㎡である。主軸の振れはN-6°-Eである。

埋土は黒色・黒褐色を呈し、人為堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁32.2cm、西壁32.2cm、北壁34.4cmで、外傾して立ち上がる。床は、掘方底面を床面とし、平坦である。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されなかった。

南東コーナー部に貯蔵穴を確認した。平面規模は110.0×100.0cm、深さ32.0cmである。

カマドは東壁やや南寄りに構築され、両袖が残存している。袖は幅16.0～20.0cm、長さ64.0～68.0cm、両袖間の幅は約72.0cmである。東壁への突出は28.0cm。

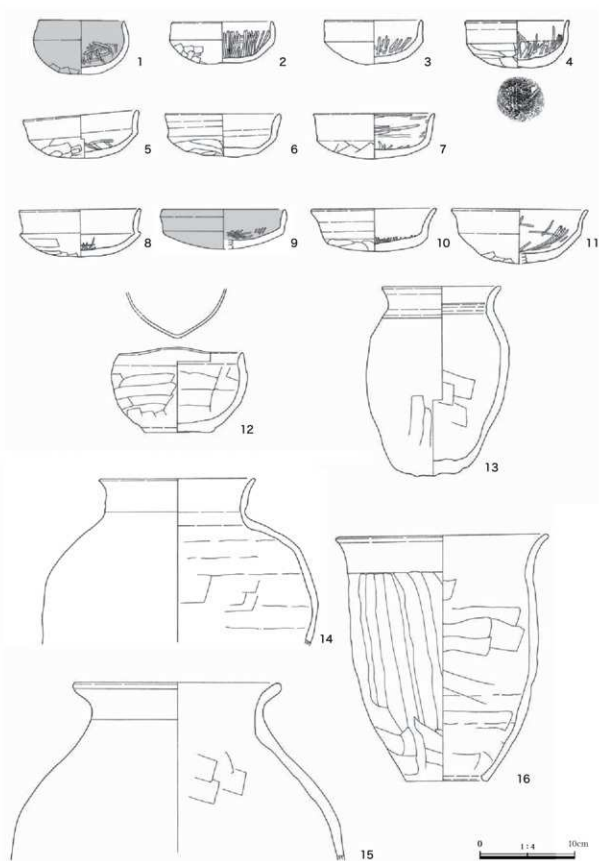
遺物出土状況は、カマド周辺と貯蔵穴から出土している。出土遺物は、土師器環11点2.004g、土師器壺3点2.109g、土師器甕1点1.945g、土師器鉢1点206g、鉄製品2点24.38g、総量18点6.288gと中近世陶磁器7点56gが出土した。建物跡の時期は、7世紀中葉である。



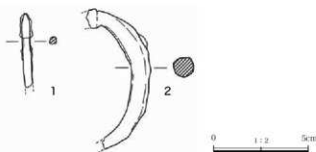
SI-6 土層説明

- 1 黒色土 ローム粒・少量軽石微粒少量混入。しまりあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒・炭化物粒・七本板軽石(5～10mm)・炭化物粒多量、ローム地混入。固い。しまりあり。(埋戻し)

第122図 星ノ宮遺跡南調査区 SI-6実測図



第123図 星ノ宮遺跡南調査区 SI-6 出土遺物



第124図 星ノ宮遺跡南調査区 SI-6 出土鉄製品

第49表 星ノ宮遺跡南調査区 SI-6 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径:(9.0) 底径:— 器高:5.7	黒色粒、微砂粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、体~底部 腹位不定方向ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体~底部 ヘラケズリ	内:黒褐~灰黄褐色 外:黒~灰黄褐色 ・良	1/2	内外面漆仕上げ処理。	覆土
2	土師器 環	口径:10.6 底径:— 器高:4.4 重量:156.0g	ガラス光沢黒色粒、透明粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ、体~底部 腹位不定方向ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体~底部 ヘラケズリ	内:浅黄褐色 外:褐灰色 ・良	ほぼ完形		
3	土師器 環	口径:10.2 底径:— 器高:4.6 重量:184.0g	ガラス光沢黒色粒、透明粒、砂粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、体~底部 腹位不定方向ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体~底部 ヘラケズリ	内:浅黄褐色 外:灰白~浅黄褐色 ・良	完形	やや小形。 底部中央付近木葉痕あり。	
4	土師器 環	口径:10.8 底径:— 器高:5.1 重量:202.0g	砂粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、体~底部 腹位不定方向ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体~底部 ヘラケズリ	内:灰黄色 外:浅黄褐色 ・良	完形	やや小形。 底部中央付近木葉痕あり。	
5	土師器 環	口径:12.0 底径:— 器高:5.0	微砂粒・砂粒 少量	内:口縁部ヨコナデ後粗い ヘラミガキ、体~底部ヘ ラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内:褐色 外:褐色 ・良	口縁部 1/8欠損		
6	土師器 環	口径:12.0 底径:— 器高:4.9 重量:222.0g	ガラス光沢黒色粒、透明粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内:褐色 外:浅黄褐色 ・良	ほぼ完形	僅かに歪みあり。	
7	土師器 環	口径:12.6 底径:— 器高:4.8 重量:226.0g	黒色粒、透明粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ後粗い 横位ヘラミガキ、体~底部 放射状線ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内:褐色 外:褐色 ・良	完形		
8	土師器 環	口径:(12.6) 底径:— 器高:5.0	ガラス光沢黒色粒、透明粒、砂粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内:にふい黄褐色 外:褐色 ・良	1/2		覆土
9	土師器 環	口径:(13.0) 底径:— 器高:(4.2)	黒色粒、透明粒、砂粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、体~ 底部不定方向ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内:暗赤褐色 外:にふい赤褐色 ・良	1/3	内外面漆仕上げ処理。	覆土
10	土師器 環	口径:13.0 底径:— 器高:4.5 重量:251.0g	黒色粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ後一部 ヘラミガキ、体~底部放 射状ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、 底部腹位ヘラケズリ	内:浅黄褐色 外:にふい褐色 ・良	ほぼ完形		
11	土師器 環	口径:(14.2) 底径:— 器高:5.7	ガラス光沢黒色粒、透明粒、砂粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、体~ 底部粗いヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリあるも調 整不明瞭	内:にふい褐色 外:にふい褐色 ・良	口縁部 1/3 体~底部 1/2		覆土
12	土師器 片口鉢	口径:(12.0) 底径:7.0 器高:8.2	微砂粒少量	内:口縁部ヨコナデ、体部 横位ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、体部 横位ヘラケズリ	内:にふい黄褐色 外:にふい黄褐色 ・良	口縁~体 部1/3 底部1/2		
13	土師器 甕	口径:(12.2) 底径:7.8 器高:21.0	透明粒、砂粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ・ヘラナデ	内:褐色 外:にふい黄褐色 ・不良	1/4		覆土
14	土師器 甕	口径:16.1 底径:— 器高:(17.5)	黒色粒、砂粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ	内:黄褐色 外:明褐色 ・良	胴部下 半欠損	小形、歪みあり。底部 は僅かに木葉痕あり、 丸みをもち不安定。 内面に積み上げ痕 を残す。	

15	土師器 甕	口径: 21.4 底径: — 器高: (18.7)	ガラス光沢黒 色粒、透明粒、 砂粒、小礫	内: 口縁部ココナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ココナデ、胴部 ヘラケズリ後ヘラナデ	内: 明赤褐色 外: 明赤褐色 ・良	口縁～胴 部上半 2/3	最大径を胴部中位にも つ。	器表不明磨 つ。
16	土師器 甕	口径: 21.6 底径: 8.5 器高: 26.1 重量: 1,957.0g	黒色粒、透明 粒、砂粒、小 礫	内: 口縁部ココナデ、胴部 横位ヘラナデ 外: 口縁部ココナデ、胴部 横位・下端斜位ヘラケズリ	内: に深い黄褐色 外: に深い黄褐色 ・良	完形	無底式。最大径を口縁 部にもつ。	

第50表 星ノ宮遺跡南調査区 SI-6 出土鉄製品観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	棒状鉄製 品	長さ: (3.9) 厚さ: 0.3 重量: 1.64g	短軸断面がやや丸みを帯びた方形。先端は尖る。下半を欠く。	下半部欠損	覆土
2	不明 鉄製品	長さ: — 厚さ: — 重量: 22.74g	両端部を欠く。弓なり状に反った形状。弓なり状の中心が最大幅となり、断面は歪な円形。上端は段をもって膨らむ。	両端部欠損	覆土

SI-20 (第125～128図、第51表、図版二六・三四～三六)

調査区南西部の18-29グリッドに位置する。北東部から南東部にかけて暗渠により削平されているほか、SD-30・SE-29・SK-19・SE-53・SB-23と重複する。SD-30により西部が、SE-29により北壁とカマドの一部が、SK-19により東壁北部がそれぞれ壊されている。

平面形は、方形を呈する。規模は確認された範囲で南北約6.40m、東西残存約4.84mで、面積は約31.0㎡である。主軸の振れはN-7°-Eである。

埋土は黒褐色・黒色を呈する3層に別けられ、自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁22.1cm、西壁33.3cm、南壁10.2cm、北壁22.4cmで、外積して立ち上がる。

床は、掘方底面を床面とし、平坦である。壁際溝は確認されていない。

柱穴は、主柱穴P1～4と梯子穴P5を確認した。規模はP1: 32.0×22.0cm、深さ43.0cm、P2: 25.0×残10.0cm、深さ37.0cm、P3: 26.0×20.0cm、深さ40.0cm、P4: 26.0×20.0cm、深さ42.0cmである。梯子穴P5は南壁中央の壁に寄った位置で確認された。28.0×28.0cm、深さは11.0cmである。

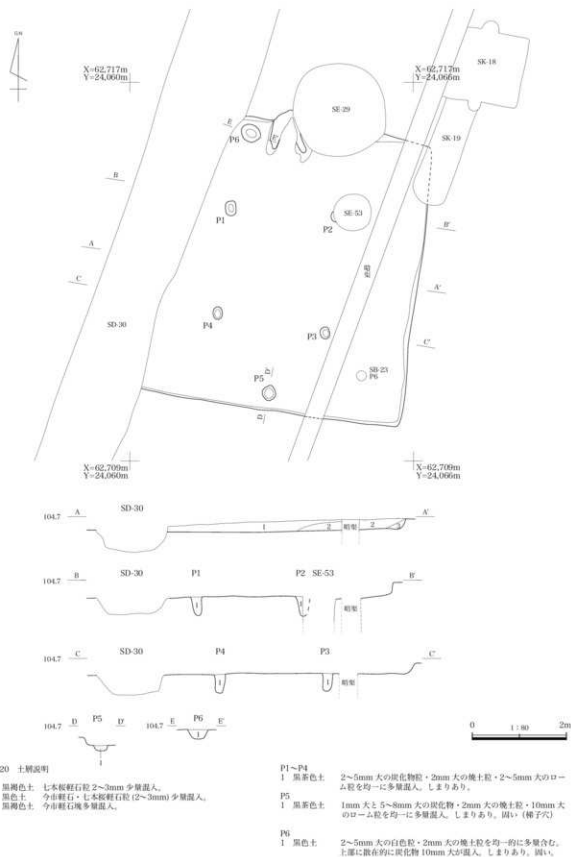
北西コーナーで貯蔵穴P6を確認した。規模は24.0×22.0cm、深さ20.0cmで、底面は平坦である。

カマドは北壁中央に構築され、両袖が残存するが、突出部～東の袖にかけて、SE-29により壊されている。袖は幅24.0～残32.0cm、長さ残28.0～72.0cm、両袖間の幅は約68.0cmである。北壁への突出は残存で28.0cmである。カマド脇から大型の土師器甕が2個体並んで出土したほか、カマド内外から土師器長胴甕が複数出土している。

床面から、特に東～南部の壁に沿うように集中して多量の炭化材が確認された。焼失住居と考えられる。また柱穴埋土は単層で炭化物粒と焼土粒を含むことから、柱抜き取り後に人為的に建物を焼失させていると考えられる。建物跡埋土には炭化物を含む層がみられないことから、柱をはじめとする材を選び出した後の小規模な焼失行為であろう。P1 検出面上面からは、土師器8個体、土師器短脚高環6個体がまとまって出土し、焼失行為に伴う祭祀によるものと考えられる。

出土遺物は、土師器環50点3.985g、土師器高環6点1.637g、土師器甕246点16.321g、土師器鉢1点700g、須恵器環2点2g、総量305点22.645gと中近世陶磁器8点103g、縄文式土器3点55g、自然礫88gが出土した。9の土師器環は、内面に赤色顔料がみられる。13～15はP1上面から出土した土師器短脚高環で、坏部内面赤彩か。16～18は同じくP1上面出土でこちらは内面黒色処理である。

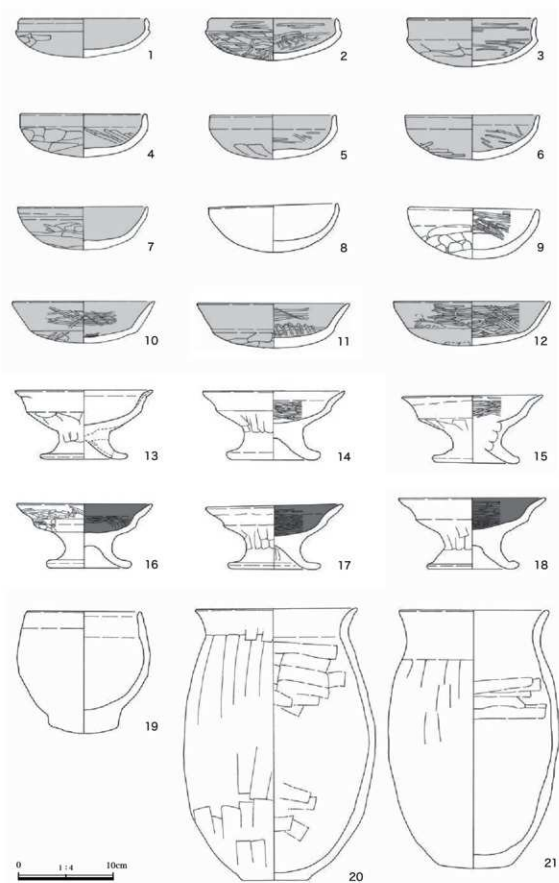
建物跡の時期は6世紀末～7世紀初頭である。



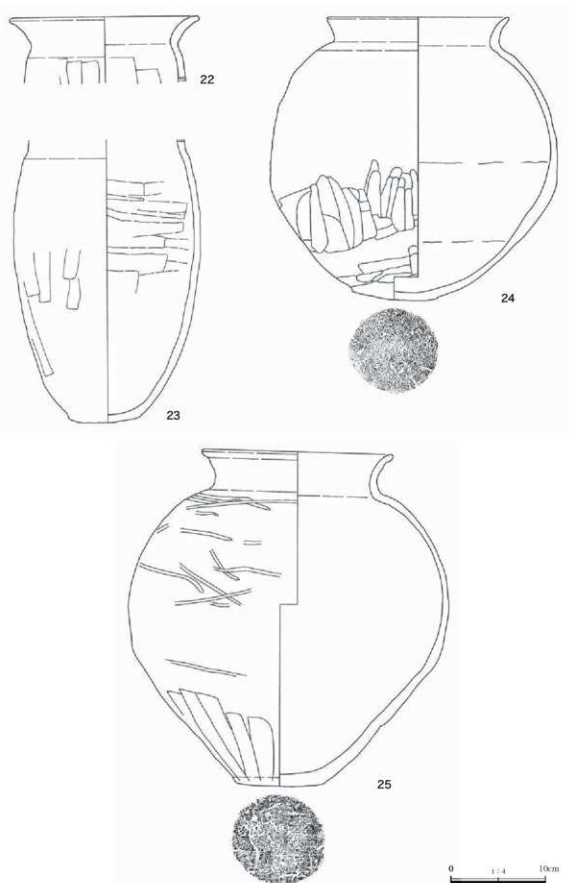
第 125 図 星ノ宮遺跡南調査区 SI-20 実測図



第126図 星ノ宮遺跡南調査区 SI-20 遺物出土状況



第127図 皇ノ宮遺跡南調査区 S1-20出土遺物(1)



第128図 星ノ宮遺跡南調査区 SI-20出土遺物(2)

第51表 星ノ宮遺跡南調査区 SI-20 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 杯	口径: 13.4 底径: 一 器高: 4.1 重量: 241.0g	微砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内: 黒褐色 外: にぶい褐色 ・良	ほぼ完形	内外面漆仕上げ処理。	
2	土師器 杯	口径: 13.4 底径: 一 器高: 4.7 重量: 254.0g	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、微砂 粒、霽	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部ナデ後 ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部ヘラケ ズリ後ヘラミガキ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁部一 部欠損	内外面漆仕上げ処理。	
3	土師器 杯	口径: 13.4 底径: 一 器高: 5.1 重量: 251.0g	黒色微粒、 微砂粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部ヘラミガ キ 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ後ヘラナデ	内: にぶい赤褐色 外: 灰褐色 ・良	口縁部 3/4 体~底部 一部欠損	内外面漆仕上げ処理。	SI-20 と SE-29 で遺 構間接合
4	土師器 杯	口径: 13.1 底径: 一 器高: 4.6 重量: 272.0g	黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色~黒 褐色 外: にぶい黄褐色~黒 褐色 ・良	完形	内外面漆仕上げ処理。	
5	土師器 杯	口径: (13.2) 底径: 一 器高: 4.7	ガラス光沢 黒色粒、微 砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ・ナデ	内: にぶい黄褐色 外: 灰黄褐色 ・良	口縁部 1/3 体~底部 4/5	内外面漆仕上げ処理。	
6	土師器 杯	口径: 14.0 底径: 一 器高: 4.7 重量: 277.0g	黒色微粒、 微砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヨコナデ後ヘラミガ キ 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内: 灰褐色 外: にぶい褐色 ・良	完形	内外面漆仕上げ処理。	
7	土師器 杯	口径: 13.6 底径: 一 器高: 4.7	黒色粒、微 砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ後ヘラナデ	内: 灰黄色 外: 灰黄色 ・良	口縁部 1/6 欠損	口縁部外面に積み上げ 痕を残す。内外面漆仕 上げ処理。	
8	土師器 杯	口径: 13.4 底径: 一 器高: 5.2	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁~底部ヘラミガキ あるも調整不明瞭 外: 口縁~底部ヘラケズリ	内: 浅黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁部一 部欠損		内面剥落
9	土師器 杯	口径: (13.6) 底径: 一 器高: 5.3	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部ヘラミ ガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内: 明黄褐色~褐色 外: 黄灰~にぶい黄 褐色 ・良	口縁部 1/2 底部完形	外面に積み上げ痕を残 す。口縁部に炭化物付 着。内面赤彩。	
10	土師器 杯	口径: 14.9 底径: 一 器高: 4.4 重量: 232.0g	微砂粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部ヘラミ ガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部ヘラケ ズリ後粗いヘラミガキ	内: 褐~黒褐色 外: にぶい褐色~暗 褐色 ・良	口縁一部 欠損	内外面漆仕上げ処理。	
11	土師器 杯	口径: 16.0 底径: 一 器高: 4.9 重量: 287.0g	ガラス光沢 黒色粒、微 砂粒	内: 口縁~底部ヨコナデ後 ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内: 褐色 外: 褐色 ・良	口縁部 1/5 欠損	内外面漆仕上げ処理。	
12	土師器 杯	口径: (16.4) 底径: 一 器高: 4.7	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部ヘラミ ガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部ヘラケ ズリあるも調整不明瞭	内: 灰黄褐色 外: 褐灰色 ・良	1/2	内外面漆仕上げ処理。	外面剥落
13	土師器 高環	口径: (14.3) 底径: (8.0) 器高: 7.3	黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 環部ヘラミガキあるも 調整不明瞭、脚部ヨコナ デ 外: 口縁部ヨコナデ、環部 下端~接合部ヘラナデ、脚 部ヨコナデ	内: にぶい褐色 外: にぶい褐色 ・良	脚部一部 欠損	内面赤彩。	器表面剥離
14	土師器 高環	口径: 14.8 底径: 9.0 器高: 7.3 重量: 411.0g	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体部 ヘラミガキ、脚部ヨコナ デ 外: 口縁部ヨコナデ、環部 下端~接合部ヘラナデ、脚 部ヨコナデ	内: にぶい褐色 外: にぶい褐色 ・良	ほぼ完形	環部内面赤彩か。	焼熱により 変色

第VI章 星ノ宮遺跡の調査

15	土師器 高坏	口径: 14.7 底径: 8.1 器高: 7.1	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体部ヘラミガキ、 脚部ヨコナデ 外: 口縁部ヨコナデ、環 部下半～接合部ヘラナデ、 脚部ヨコナデ	内: にぶい橙色 外: にぶい橙色 ・良	5/6	内面赤彩か。	SI 20 と SE 29 覆土 で道横間接 合 被熱により 変色
16	土師器 高坏	口径: (14.2) 底径: 8.3 器高: 6.8	雲母微量、 微砂粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ後粗い ヘラミガキ、接合部ナデ、 脚部ヨコナデ 外: 口縁部ヨコナデ後粗い ヘラミガキ、環部下半～ 接合部ナデ、脚部ヨコナ デ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	坏部 1/4 脚部完存	赤みあり。内面黒色処 理。	
17	土師器 高坏	口径: 14.3 底径: 9.8 器高: 6.9 重量: 363.0g	ガラス光沢 黒色粒多量、 透明粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体部ヘラミガキ、 脚部ヨコナデ 外: 口縁部ヨコナデ、接合 部ヘラケズリ・ヘラナデ、 脚部ヨコナデ	内: 黒へにぶい黄色 外: 黄褐色～黒色 ・良	ほぼ完形	坏部外面に積み上げ痕 を残す。内面黒色処理。 坏部外面に炭化物付着。	
18	土師器 高坏	口径: (15.4) 底径: 9.7 器高: 7.5	ガラス光沢 黒色粒多量、 透明粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体部ヘラミガキ、 脚部ヨコナデ 外: 口縁部ヨコナデ、環部 下端～接合部ヘラケズリ・ ヘラナデ、脚部ヨコナデ	内: 黒色 外: 黒褐色～黒色 ・良	口縁部 1/3 底部 2/3	内面黒色処理。	
19	土師器 鉢	口径: (12.0) 底径: 6.6 器高: 12.8	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ後ナデ	内: 黒褐色 外: 黒褐色 ・良	4/5	小形。底部は凸状で歪 みがあり不安定。	
20	土師器 甕	口径: 16.8 底径: (6.8) 器高: (28.7)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、礫	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴～ 底部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: 暗灰黄色 ・良	口縁部 1/3 底部 1/3		SI 20 と SE 29 覆土 で道横間接 合
21	土師器 甕	口径: (15.4) 底径: 7.0 器高: 27.1	黒色粒・透 明粒・砂粒・ 小礫多量	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ後ナデ	内: 暗褐色 外: 暗褐色 ・良	口縁部一 部 胴～底部 完存	最大径を胴部中位にも つ。	SI 20 と SE 29 覆土 で道横間接 合
22	土師器 甕	口径: (19.0) 底径: 一 器高: (6.9)	透明粒、砂 粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内: 棕色 外: 棕色 ・良	口縁部 1/6 胴部一部		
23	土師器 甕	口径: 一 底径: 6.8 器高: (30.0)	黒色粒・透 明粒・砂粒・ 小礫多量	内: 胴部横位ヘラナデ 外: 胴～底部縦位ヘラケズ リ	内: 灰黄褐色 外: 黒褐色 ・良	口縁部欠 損	底部ヘラケズリするも 不安定。	
24	土師器 甕	口径: (19.0) 底径: 9.0 器高: 30.0	ガラス光沢 黒色粒・透 明粒・砂粒・ 小礫多量	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 上半ナデ・下半～底部ヘ ラケズリ	内: 褐灰色 外: にぶい黄橙 ・良	4/5	最大径を胴部中位にも つ。底部は平底奥も不 安定。内面に積み上げ 痕を残す。	SI 20 と SE 29 で道 横間接合
25	土師器 甕	口径: (19.5) 底径: 9.2 器高: 35.2 重量: 4.6540g	透明粒・砂 粒・小礫多 量	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ後ナデ後一部 粗いヘラミガキ	内: にぶい黄橙色 外: にぶい黄橙色 ・良	口縁部・ 胴部一部 欠損 底部完存	平底。最大径を胴部中 位上半にもつ。	SI 20 と SE 29 で道 横間接合 外面付着物

第2項 中世・近世の遺構と遺物

1. 掘立柱建物跡と出土遺物

建物の規模は、桁行総長、梁行総長、平面積（桁行総長 × 梁行総長）、平面指数（梁行総長 ÷ 桁行総長 × 100）で示した。平面指数が小さいほど桁行の大きい建物となる。柱間は桁および梁行総長を柱間数で割ったものである。柱間寸法は1尺 = 0.3mで換算している。柱穴掘方規模は、各柱穴掘方の長辺と短辺の平均値をだし、すべての柱穴で平均したものの。深さは全ての柱穴掘方の平均値である。

SB-5（第129図、図版二六）

調査区東部の19-29グリッドに位置する。南側に古墳時代の竪穴建物跡SI-6が位置する。

桁行2間、梁行1間の東西棟、側柱建物跡である。また梁行が1間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-71°-Wである。

規模は、桁行総長3.0m、梁行総長2.7m、平面積8.10㎡、平面指数90.00である。桁行柱間寸法は1.50m（5尺）、梁行柱間寸法は2.70m（9尺）である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は0.23m、深さ0.22mである。柱痕跡は確認できなかった。

出土遺物はなく、建物跡の時期は15世紀中葉～後葉である。

SB-16（第130・137図、第52表）

調査区西部の17-28グリッドに位置する。東側に区画溝SD-30、西側に掘立柱建物跡SB-17が位置する。

桁行2間、梁行1間の南北棟、側柱建物跡である。また梁行が1間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-17°-Eである。

規模は、桁行総長4.2m、梁行総長3.9m、平面積16.38㎡、平面指数92.85である。桁行柱間寸法は2.10m（7尺）、梁行柱間寸法は3.90m（13尺）である。

柱穴の掘方形状は円形、方形で、掘方規模は0.39m、深さ0.37mである。P3、4、6から柱痕跡が確認された。

出土遺物は、土師質土器皿1点7gと土師器18点451gが出土した。1はP4から出土した土師質土器皿の底部で、回転糸切りである。

SB-17（第131図、図版二六）

調査区西部の16-28グリッドに位置する。東側に掘立柱建物SB-16が位置する。

桁行2間、梁行1間の東西棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-85°-Eである。

規模は、桁行総長3.9m、梁行総長2.4m、平面積9.36㎡、平面指数61.53である。桁行柱間寸法は1.95m（6.5尺）、梁行柱間寸法は2.40m（8尺）である。

柱穴の掘方形状は円形もしくは不整形で、掘方規模は0.37m、深さ0.41mである。

出土遺物は僅かで、内耳土鍋2点47gが出土したのみである。

SB-21（第132・137図、第52表、図版二七・三六）

調査区南部の18-29グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-22と重複するが新旧は不明である。

桁行2間、梁行1間の南北棟、側柱建物跡である。また梁行が1間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-25°-Eである。

規模は、桁行総長 3.3m、梁行総長 3.3m、平面積 10.89 m²、平面指数 100.00 である。桁行柱間寸法は 1.65m (5.5 尺)、梁行柱間寸法は 3.30m (11 尺) である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は 0.31m、深さ 0.36m である。

出土遺物僅かで、土師質土器皿 1 点 49g が出土した。2 は P1 出土の土師質土器皿で、底部外面をナデたのちへら記号を施す。15 世紀後半の所産と考えられる。

SB-22 (第 133・137 図、第 52 表、図版二七・三六)

調査区南部の 18-29 グリッドに位置する。掘立柱建物跡 SB-21・23 と重複するが新旧は不明である。

桁行 3 間、梁行 1 間の東西棟、側柱建物跡である。また梁行が 1 間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-59° -W である。

規模は、桁行総長 5.7m、梁行総長 4.2m、平面積 23.94 m²、平面指数 73.68 である。桁行柱間寸法は 1.90m (6.3 尺)、梁行柱間寸法は 4.20m (14 尺) である。

柱の掘方形状は円形もしくは不整形で、掘方規模は 0.40m、深さ 0.39m である。P3 で柱痕跡が確認された。

出土遺物は土師質土器皿 1 点 9g、内耳土鍋 1 点 14g、磁器碗 1 点 5g、総量 3 点 28g が出土した。3 は P8 出土の土師質土器皿の底部で回転糸切りである。4 は磁器染め付け碗で、筒碗であろう。18 世紀後半～19 世紀前半か。

SB-23 (第 134 図、図版二七)

調査区南部の 18-29 グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡 SI-20 と掘立柱建物跡 SB-22 と重複する。SB-22 との新旧関係は不明である。

桁行 3 間、梁行 1 間の東西棟、側柱建物跡である。また梁行が 1 間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-68° -W である。

規模は、桁行総長 6.6m、梁行総長 4.2m、平面積 27.72 m²、平面指数 63.63 である。桁行柱間寸法は 2.20m (7.3 尺)、梁行柱間寸法は 4.20m (14 尺) である。

柱の掘方形状は円形で、掘方規模は 0.37m、深さ 0.34m である。P1・3～5 で柱痕跡が確認された。

出土遺物は僅かで、内耳土器 1 点 5g が出土したのみである。

SB-24 (第 135・137 図、第 52 表、図版二七・三六)

調査区南部の 18-29 グリッドに位置する。SB-21・22・23 と近接する。

桁行 1 間、梁行 1 間の側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-68° -W である。

規模は、桁行総長 3.0m、梁行総長 1.8m、平面積 5.40 m²、平面指数 60.00 である。桁行柱間寸法は 3.00m (10 尺)、梁行柱間寸法は 1.80m (6 尺) である。

柱の掘方形状は円形もしくは楕円形で、掘方規模は 0.28m、深さ 0.19m である。

他の掘立柱建物跡と同様に梁間一間型建物の可能性もあり、その場合は南側調査区外に伸びる南北棟建物となる。

出土遺物は僅かで、磁器筒茶碗 1 点 1g が出土したのみである。5 は磁器染め付け碗で、18 世紀～19 世紀。

SB-25 (第 136 図)

調査区北部の 20-26 グリッドに位置する。SE-2・3・4 が近接する。

桁行1間、梁行1間の南北棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-13°Eである。

規模は、桁行総長3.6m、梁行総長2.1m、平面積7.56㎡、平面指数58.33である。桁行柱間寸法は3.60m

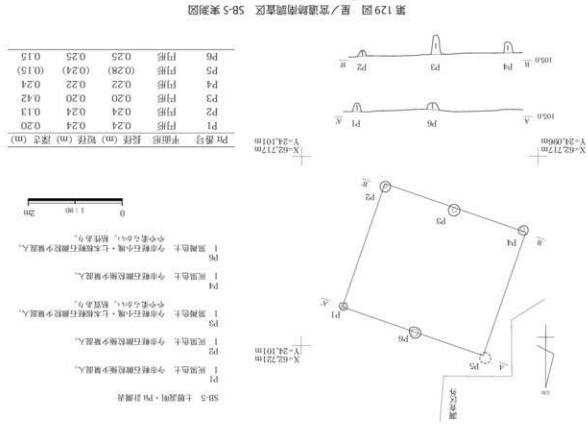
(1.2尺)、梁行柱間寸法は2.10m(7尺)である。

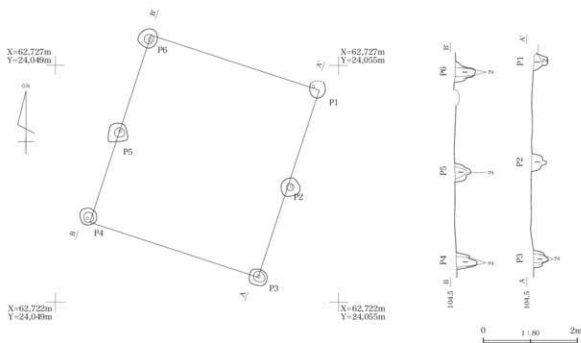
柱の掘方形状は円形で、掘方規模は0.22m、深さ0.25mである。

他の掘立柱建物跡と同様に梁間一間型建物の可能性もあり、その場合は東側調査区外に伸びる東西棟建物

となる。

遺物は確認できなかった。



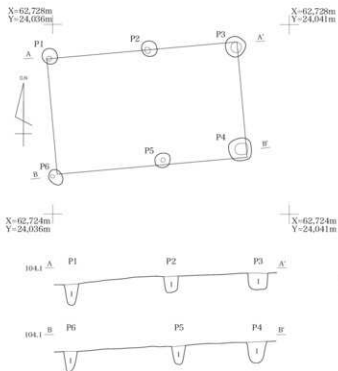


SB-16 土層説明・Pit 計測表

- | | |
|---|---|
| <p>P1
1 黒褐色土 今市軽石粒(5~10mm)多量, 七本板軽石微粒少量混入, やや柔らかい。
2 黄褐色土 今市軽石塊少量混入, 固い。</p> <p>P2
1 黒褐色土 今市軽石塊・今市軽石粒(5~10mm)・七本板軽石微粒少量混入, 固い。</p> <p>P3
1 黒褐色土 今市軽石塊(20mm前後)少量混入, やや柔らかい。(柱頭跡)
2 黒褐色土 今市軽石塊(20mm前後)・今市軽石粒(5~10mm)・七本板軽石微粒少量混入, やや柔らかい。(柱頭跡)</p> | <p>P4
1 黒褐色土 今市軽石塊(10~20mm)多量混入, やや柔らかい。(柱頭跡)
2 黒褐色土 今市軽石塊(20mm前後)・今市軽石粒(5~10mm)・七本板軽石微粒少量混入, やや柔らかい。(柱頭跡)</p> <p>P5
1 黒褐色土 今市軽石塊(20mm前後)少量混入, やや柔らかい。(柱頭跡)
2 黒褐色土 今市軽石塊(20mm前後)・今市軽石粒(5~10mm)・七本板軽石微粒少量混入, やや柔らかい。(柱頭跡)</p> <p>P6
1 黒褐色土 今市軽石塊(20mm前後)少量混入, やや柔らかい。(柱頭跡)
2 黒褐色土 今市軽石塊(20mm前後)・今市軽石粒(5~10mm)・七本板軽石微粒少量混入, やや柔らかい。(柱頭跡)</p> |
|---|---|

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.34	0.33	0.32	P4	円形	0.38	0.35	0.45
P2	円形	0.42	0.40	0.34	P5	円形	0.49	0.48	0.34
P3	円形	0.39	0.35	0.34	P6	円形	0.40	0.36	0.43

第 130 図 星ノ宮遺跡南調査区 SB-16 実測図



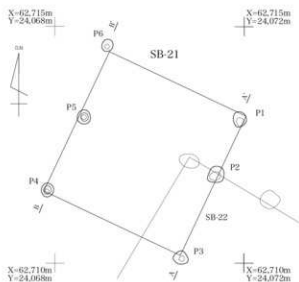
SB-17 土層説明・Pit 計測表

- P1
1 黒褐色土 ローム粒(5~10mm)・白色粘土粒(5~10mm)多量混入。柔らかい。(湧水あり)
- P2
1 黒褐色土 今市軽石粒・ローム粒(10mm)多量混入。柔らかい。粘性あり。
- P3
1 暗黄褐色土 今市軽石塊・ローム塊多量。白色粘土粒少量混入。粘性あり。柔らかい。(湧水あり)
- P4
1 暗黄褐色土 今市軽石塊・ローム塊多量。白色粘土粒少量混入。粘性あり。柔らかい。(湧水あり)
- P5
1 黒褐色土 今市軽石粒・ローム粒(10mm)多量混入。柔らかい。粘性あり。
- P6
1 暗黄褐色土 今市軽石塊・ローム塊多量。白色粘土粒少量混入。粘性あり。柔らかい。(湧水あり)



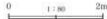
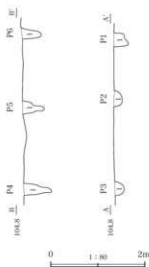
Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.35	0.31	0.36
P2	円形	0.35	0.32	0.46
P3	円形	0.48	0.45	0.35
P4	円形	0.49	0.48	0.46
P5	円形	0.36	0.30	0.42
P6	楕円形	0.36	0.26	0.45

第 131 図 星ノ宮遺跡南調査区 SB-17 実測図



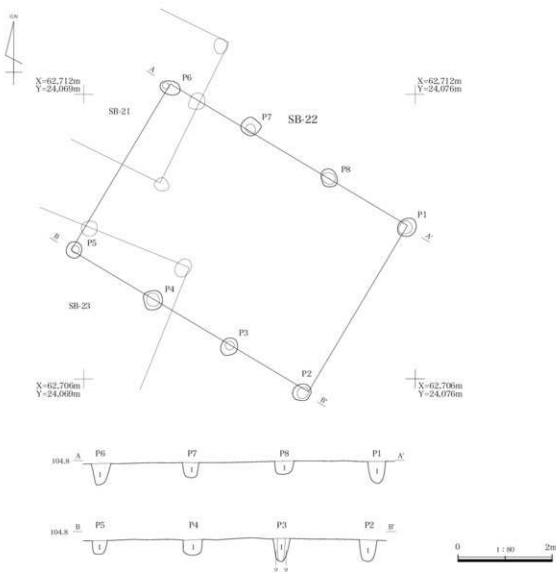
SB-21 土層説明・Pit 計測表

- P1
1 黒褐色土 今市軽石粒(5~10mm)多量混入。
- P2
1 黒褐色土 今市軽石塊(20~30mm)・今市軽石粒多量混入。七本桜軽石粒少量混入。
- P3
1 黒褐色土 今市軽石粒・七本桜軽石粒(5~10mm)多量混入。
- P4
1 黒色土 今市軽石微粒(2mm)少量混入。
- P5
1 黒色土 今市軽石微粒(2mm)少量混入。
- P6
1 黒褐色土 今市軽石粒(5~10mm)多量混入。



Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.32	0.29	0.32	P4	円形	0.30	0.28	0.60
P2	円形	0.40	0.36	0.18	P5	円形	0.30	0.29	0.45
P3	円形	0.36	0.30	0.21	P6	円形	0.28	0.26	0.42

第 132 図 星ノ宮遺跡南調査区 SB-21 実測図

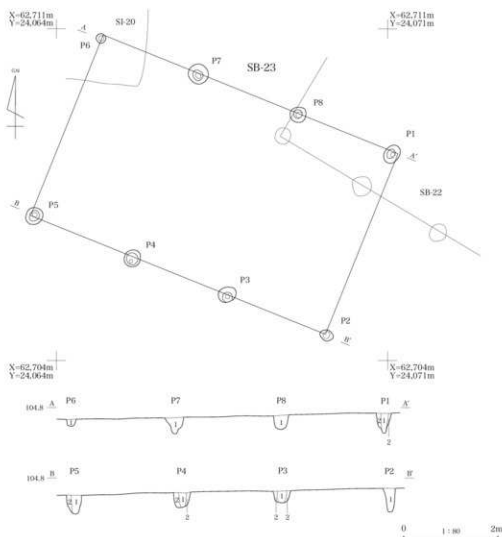


SB-22 土層説明・Pit 計測表

- | | |
|--|---|
| <p>P1
1 黒褐色土・今市軽石粒・七本桜軽石粒 (5~10mm) 多量混入。</p> <p>P2
1 黒褐色土・今市軽石粒・七本桜軽石粒 (5~10mm) 多量混入。</p> <p>P3
1 黒褐色土・今市軽石粒・今市軽石塊・今市軽石粒多量混入。(柱頭跡)
2 黒色土・今市軽石粒・七本桜軽石粒 (5~10mm) 多量混入。(柱頭方埋土)</p> <p>P4
1 黒褐色土・今市軽石粒・七本桜軽石粒 (5~10mm) 多量混入。</p> | <p>P5
1 黒色土・今市軽石粒・七本桜軽石粒 (2mm 以下) 少量混入。</p> <p>P6
1 黒色土・今市軽石粒・七本桜軽石粒 (2mm 以下) 少量混入。</p> <p>P7
1 黒色土・今市軽石粒・七本桜軽石粒 (2mm 以下) 少量混入。</p> <p>P8
1 黒色土・今市軽石粒・七本桜軽石粒 (2mm 以下) 少量混入。</p> |
|--|---|

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.45	0.39	0.47	P5	円形	0.47	0.45	0.30
P2	円形	0.40	0.36	0.46	P6	楕円形	0.45	0.40	0.45
P3	円形	0.40	0.38	0.50	P7	円形	0.39	0.38	0.33
P4	円形	0.43	0.43	0.32	P8	円形	0.40	0.37	0.29

第 133 図 星ノ宮遺跡南調査区 SB-22 実測図

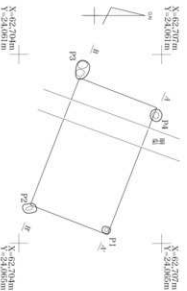


SB-23 土層説明・Pit 計測表

P1	黒褐色土 1 今赤軽石殻 (5~10mm) 少量混入。やや柔らかい。(柱状跡) 2 黒褐色土 今赤軽石殻 (20~30mm)・今赤軽石殻 (5~10mm) 多量、七本椀軽石殻極少量混入。(柱状方理土)	P5	黒褐色土 1 今赤軽石殻 (5~10mm) 少量混入。やや柔らかい。(柱状跡) 2 黒褐色土 今赤軽石殻 (20~30mm)・今赤軽石殻 (5~10mm) 多量、七本椀軽石殻少量混入。(柱状方理土)
P2	黒褐色土 1 今赤軽石殻 (5~10mm) 少量混入。やや柔らかい。	P6	黒褐色土 1 今赤軽石殻 (2mm) 少量混入。
P3	黒褐色土 1 今赤軽石殻 (5~10mm) 少量混入。やや柔らかい。(柱状跡) 2 黒褐色土 今赤軽石殻 (20~30mm)・今赤軽石殻 (5~10mm) 多量、七本椀軽石殻極少量混入。(柱状方理土)	P7	黒褐色土 1 今赤軽石殻 (20~30mm)・今赤軽石殻 (5~10mm) 多量、七本椀軽石殻少量混入。
P4	黒褐色土 1 今赤軽石殻 (5~10mm) 少量混入。やや柔らかい。(柱状跡) 2 黒褐色土 今赤軽石殻 (20~30mm)・今赤軽石殻 (5~10mm) 多量、七本椀軽石殻極少量混入。(柱状方理土)	P8	黒褐色土 1 今赤軽石殻 (20~30mm)・今赤軽石殻 (5~10mm) 多量、七本椀軽石殻少量混入。

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.43	0.28	0.44	P5	円形	0.37	0.33	0.40
P2	円形	0.40	0.32	0.51	P6	楕円形	0.45	0.30	0.15
P3	円形	0.41	0.35	0.25	P7	円形	0.38	0.38	0.35
P4	円形	0.46	0.40	0.32	P8	円形	0.40	0.34	0.30

第 134 図 星ノ宮遺跡南調査区 SB-23 実測図



SB-24 土橋塚南・P4を調査

- P1 黒褐色土 今由岐行塚少部遺人
 P2 黒褐色土 今由岐行塚少部遺人
 P3 黒褐色土 今由岐行塚少部遺人
 P4 黒褐色土 今由岐行塚少部遺人

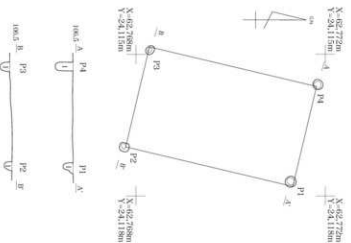


第135図 星ノ宮遺跡南調査区 SB-24実測図

Pt.番号	平面形	長さ (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.19	0.16	0.17
P2	楕円形	0.27	0.22	0.17
P3	楕円形	0.43	0.30	0.22
P4	円形	0.38	0.33	0.20

SB-25 土橋塚南・P4を調査

- P1 黒色土 20mm 大の黒色粒を稀少埋込人, しまりなし。
 P2 黒色土 20mm 大の赤色粒を稀少埋込人, しまりなし。
 P3 黒色土 20mm 大の赤色粒を稀少埋込人, しまりなし。
 P4 黒色土 20mm 大の赤色粒を稀少埋込人, しまりなし。



Pt.番号	平面形	長さ (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.24	0.23	0.22
P2	方形	0.20	0.19	0.18
P3	楕円形	0.22	0.18	0.22
P4	円形	0.26	0.26	0.40

第136図 星ノ宮遺跡南調査区 SB-25実測図



第137図 星ノ宮遺跡南調査区 SB出土遺物

第52表 星ノ宮遺跡南調査区 SB出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師質 土器皿	口径：— 底径：3.0 器高：(0.6)	ガラス光沢 黒色粒、微 砂粒	内：底部ロクロナデ 外：底部回転糸切り	内：褐色 外：黒褐色 ・良	底部のみ		SB-16 P4 甍土 外面剥落
2	土師質 土器皿	口径：(7.9) 底径：3.8 器高：2.6	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内：口縁～底部ロクロナデ 外：口縁～体部ロクロナ デ、底部回転糸切りか、 後ヘラナデ	内：褐灰色 外：褐灰色 ・良	口縁部 1/2 欠損 底部完存	内面スス付着。灯明具 として使用。底部外面 にヘラ記号。	SB-21 P1
3	土師質 土器皿	口径：— 底径：3.4 器高：(0.9)	砂粒、小礫	内：底部ロクロナデ 外：底部回転糸切り	内：にぶい褐色 外：明褐色 ・良	底部のみ		SB-22 P8
4	磁器 筒茶碗	口径：(7.0) 底径：— 器高：(4.2)	黒色微粒	内：口縁～体部ロクロナデ 外：口縁～体部ロクロナデ	内：灰白色 外：灰白色 ・良	口縁～体 部 1/12		SB-22 P6 18c 後半～ 19c 前半
5	磁器 筒茶碗	口径：— 底径：— 器高：(1.5)	黒色微粒	内：口縁部ロクロナデ 外：口縁部ロクロナデ	内：青灰～暗青灰色 外：灰白色 ・良	口縁部破 片	内外面施釉。	SB-24 P2 18c～19c

2. 井戸跡と出土遺物

井戸跡は8基が確認された。規模は検出面の径、底面の径、深さで表した。調査の都合・安全面の問題から完掘に至っていないものが3基ある。

SE-2 (第138図)

調査区北東部の20-26グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-25、SE-3・4が近接する。

規模は、検出面で1.80×1.55m、底面で1.40×1.20m、深さ1.08mである。下部は円筒状に、上部は鉢状に開く形状を呈する。

出土遺物は確認されていない。

SE-3 (第138・139図、第53表、図版三六)

調査区北東部の20-26グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-25、SE-2・4が近接する。

平面方形で、規模は検出面で1.06×0.85m、底面で1.00×0.76m、深さ1.10mである。四角柱状を呈し東壁が抉れている。

出土遺物は、土師質土器鉢1点1.263g、瓦質土器鉢1点207g、瀬戸美濃碗1点127g、瀬戸美濃皿1点16g、瀬戸美濃徳利1点95g、瀬戸掃鉢1点135g、磁器碗1点49g、不明陶磁器碗1点52g、石製品(白)1点1.944gのほか、須恵器甕1点72gが出土している。1は磁器碗でいわゆるくらわんか茶碗、18世紀である。2は柳茶碗と呼ばれる瀬戸美濃碗で、18世紀後葉～19世紀初頭である。5は瀬戸美濃徳利で、18世紀後葉～19世紀初頭であろう。7は土師質土器の鉢で、胎土には砂礫を多量に含み雲母がみられる。在地産と考えられる。体部はナデ調整で、口縁端部は丁寧に面を形成する。底部外面はケズリ調整して高台を貼り付ける。

SE-4 (第138図)

調査区北東部の20-26グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-25、SE-2・3が近接する。未完掘である。

規模は、検出面で1.00×0.96m、確認された深さは1.67mである。形状は円筒形を呈する。

出土遺物は確認されていない。

SE-29 (第138・140～142図、第54表、図版二七・三六・三七)

調査区中央部の18-29グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡SI-20と重複する。南東側に掘立柱建物SB-21～24が位置する。

規模は、検出面で1.96×1.95m、底面で1.70×1.52m、深さ0.97mである。形状は断面逆台形の近い浅い鉢形を呈する。遺物を含む層はいずれも白色粘土を含み人為堆積である。

出土遺物は、土師質土器皿6点285g、内耳土鍋69点10,186g、瀬戸美濃灯明皿1点37g、不明陶磁器碗1点206g、石製品(砥石)1点63gのほか、土師器環4点34g、土師器甕68点683g、縄文式土器2点270gが出土している。1～6はロクロ成形の土師質土器皿。口径と底径の差が大きく、1は大型である。7～10は内耳土鍋である。いずれも十分な深さをもち、体底部外面に煤が付着する。7・8・10は体部から口縁部にかけて大きく開きながら立ち上がる。一方9は体部は直に立ち上がり口縁部は大きく開く。15世紀代であろう。11は山茶碗である。胎土は精良で体部の立ち上がりに丸みをもつ。高台は断面三角形で、13世紀代の所産であろう。

SE-47 (第138図)

調査区西部の17-29グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-16、SE-49が近接する。未完掘である。規模は、検出面で0.97×0.96m、確認された深さは1.18mである。形状は円筒状を呈する。出土遺物は確認されていない。

SE-49 (第138図)

調査区西部の17-28グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-16、SE-47が近接する。規模は、検出面で1.02×0.82m、底面で0.52×0.38m、深さ0.83mである。小さく開く円筒状を呈する。出土遺物は確認されていない。

SE-52 (第138図)

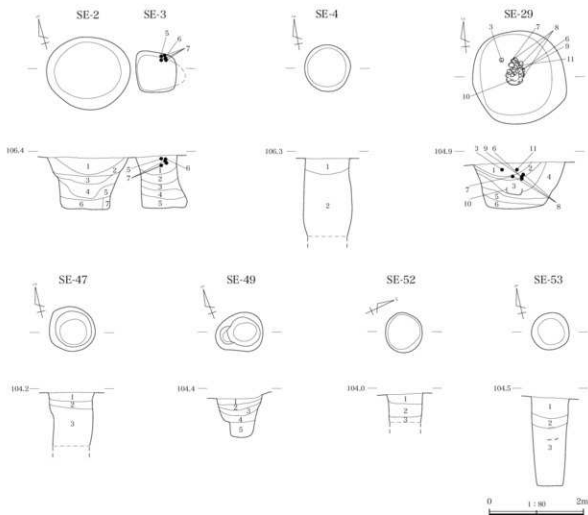
調査区西部の17-29グリッドに位置する。未完掘である。規模は、検出面で0.83×0.81m、確認された深さは0.62mである。形状は円筒形を呈する。出土遺物は確認されていない。

SE-53 (第138・143図、第55表、図版二七・三七)

調査区中央部の18-29グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡SI-20と重複する。南東側に掘立柱建物SB-21～24が位置する。

規模は、検出面で0.80×0.80m、底面で0.54×0.52m、深さ1.85mである。形状は円筒形を呈する。

出土遺物は、土師質土器皿2点89g、内耳土鍋35点3,432g、石製品(砥石)1点67g、自然礫712gが出土した。1・2はロクロ成形の土師質土器皿で、15世紀中葉～後葉であろう。3・4は内耳土鍋である。体部が丸みをもって立ち上がり口縁部が開くもので、15世紀代であろう。



SE-2 土層説明

- 1 黒色土 白色粘土塊・2mm大の赤色粒を少量混入。柔らかい、しまりなし。
- 2 黒色土 2~5mm大の白色粒を少量混入。柔らかい、しまりなし。
- 3 黒色土 1~2mm大の赤色粒を均一に少量混入。柔らかい、しまりなし。
- 4 黒色土 1~8mm大の白色粒・黄色粒・10mm大の白色粘土粒を散在的に少量混入。柔らかい、しまりなし。
- 5 暗赤黒色土 赤色土と黒色土が明瞭に堆積する。柔らかい、しまりなし。
- 6 黒色土 2mm大の白色粒を均一に少量混入。柔らかい、しまりなし。
- 7 黒色土 赤色粒を少量混入。柔らかい、しまりなし。

SE-3 土層説明

- 1 黒色土 5~8mm大の白色粘土粒少量混入。遺物を含む。柔らかい、しまりなし。
- 2 黒色土 2~5mm大の白色粘土粒・5~10mm大の赤色粒を均一に少量混入。柔らかい、しまりなし。
- 3 黒色土 2mm大の白色粘土粒・40mmの白色粘土塊を少量混入。柔らかい、しまりなし。
- 4 黒色土 1mm大の白色粘土粒・赤色粒を均一に少量混入。柔らかい、しまりなし。
- 5 黒色土 2mm大の白色粘土粒を少量混入。柔らかい、しまりなし。

SE-4 土層説明

- 1 黒色土 白色粘土粒(2~5mm)少量混入。柔らかい、しまりなし。
- 2 黒色土 白色粘土粒(2~10mm)少量混入。柔らかい、しまりなし。(埋戻し)

SE-29 土層説明

- 1 黒色土 白色土粒粒少量混入。固い、しまりあり。(埋戻し)
- 2 灰黒色土 白色粘土粒少量混入。しまりあり。(埋戻し)
- 3 黄白色土 白色粘土塊。硬質。しまりあり。粘性あり。(埋戻し)

- 4 黒色土 ローム微粒・白色粘土粒粒少量混入。粘性あり。(埋戻し)
- 5 黒褐色土 ローム微粒・白色粘土粒粒中や多量混入。粘性あり。
- 6 黄褐色土 ローム塊・白色塊粒少量混入。砂質。

SE-47 土層説明

- 1 黒色土 白色微粒少量混入。
- 2 黒褐色土 ローム粒・今半粒石粒・七本粒石粒少量混入。やや固い。
- 3 黒色土 白色粘土粒少量混入。柔らかい。(埋戻し)

SE-49 土層説明

- 1 黒色土 七本粒石粒少量混入。柔らかい。粘性あり。(自然埋没)
- 2 黒色土 七本粒石粒・白色粘土粒・砂粒少量混入。柔らかい。粘性あり。(自然埋没)
- 3 黒色土 ローム微粒少量混入。柔らかい。粘性あり。(自然埋没)
- 4 黒褐色土 ローム粒・今半粒石粒・七本粒石粒少量混入。しまりあり。(埋戻し)
- 5 黒色土 白色粘土粒少量混入。柔らかい。(埋戻し)

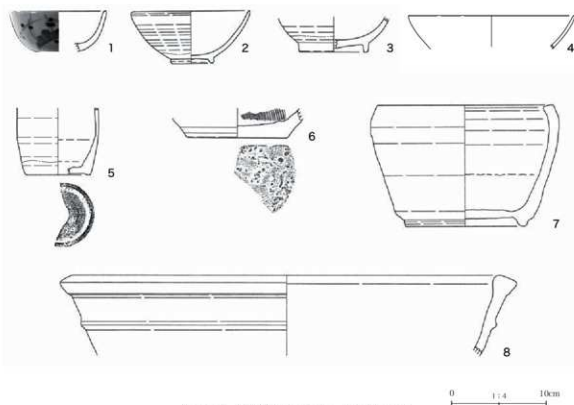
SE-52 土層説明

- 1 黒色土 白色粘土粒少量混入。
- 2 黒褐色土 ローム粒(10mm)・白色粒(10mm)少量混入。柔らかい。粘性あり。
- 3 黒褐色土 白色粘土塊・白色粘土粒少量混入。柔らかい。粘性あり。

SE-53 土層説明

- 1 黒色土 少量の白色粘土(5~8mm)を散在的に含む以外の混入物なし。しまりなし。
- 2 黒色土 5~10mm大のローム粒・5~8mm大の白色粘土粒を均一に少量混入。しまりなし。
- 3 黒色土 白色粘土一部解状に含む10~15mm大の白色粘土塊を散在的に混入。しまりなし。

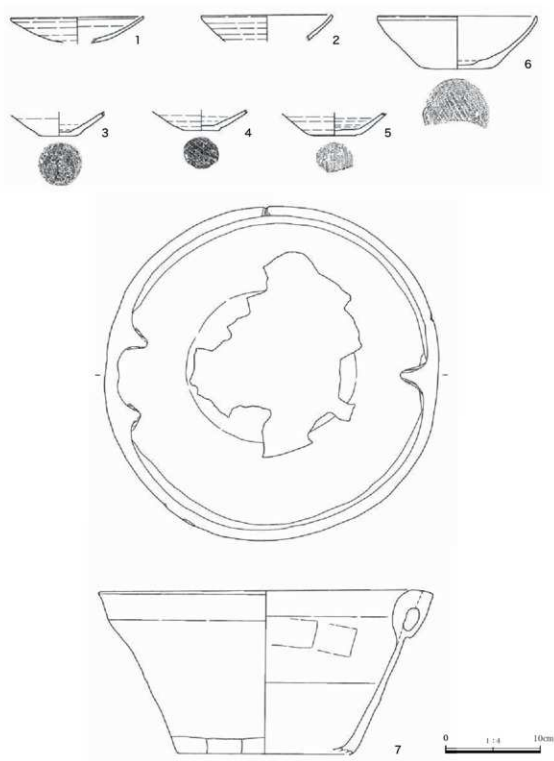
第138図 星ノ宮遺跡南調査区 SE実測図



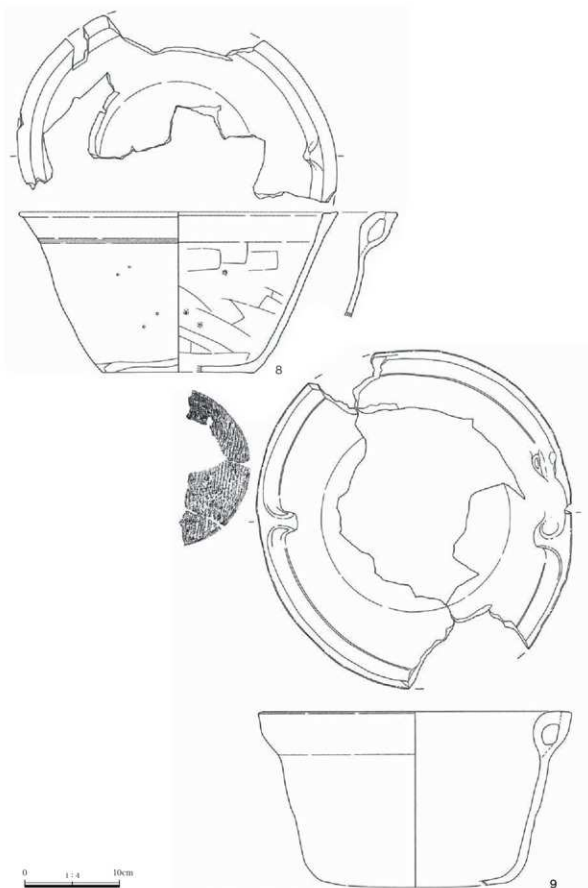
第139図 星ノ宮遺跡南調査区 SE-3 出土遺物

第53表 星ノ宮遺跡南調査区 SE-3 出土遺物観察表

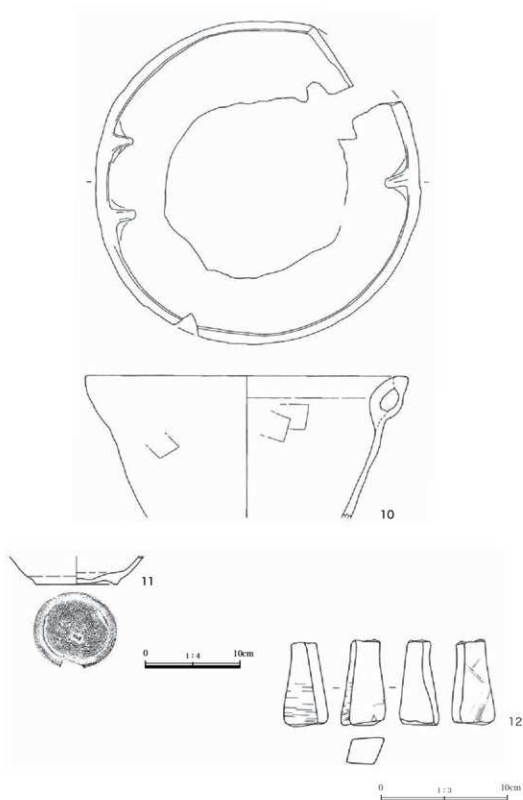
No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	磁器 碗	口径:(10.0) 底径:一 器高:(4.2)	黒色微粒	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:明青灰 外:明青灰 ・良	口縁~体 部 1/3	くらわんか碗。	一括 18c、阿佐見
2	瀬戸美濃 碗	口径:(13.0) 底径:4.2 器高:5.5	黒色微粒	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~底部ロクロナ デ、後貼付高台後ナデ	内:灰白色 外:灰白色 ・良	2/3	柳茶碗。	一括 惣第3段側 18c 後葉~ 19c 初頭
3	瀬戸美濃 碗	口径:(7.2) 底径:一 器高:(3.7)	黒色粒	内:体~底部ロクロナデ 外:体部ロクロナデ、底部 回転ヘラ切り、後貼付高 台後ナデ	内:にふい黄色 外:灰黄色 ・良	底部 1/4		一括 18c 後半~ 19c 初頭
4	瀬戸美濃 平碗	口径:(17.6) 底径:一 器高:一	黒色微粒	内:口縁~体部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:淡黄色 外:淡黄色 ・良	口縁部 1/10	内外面灰釉。	一括 小片
5	瀬戸美濃 徳利	口径:一 底径:6.6 器高:(7.1)	黒色微粒	内:胴~底部ロクロナデ 外:胴部ロクロナデ、底部 ケズリ出し	内:灰白色 外:灰オリーブ色 ・良	胴部下 半 1/3	外面灰釉。	惣第3段側 18c 後葉~ 19c 初頭
6	瀬戸 摺鉢	口径:一 底径:(10.4) 器高:(3.1)	小礫	内:体~底部節目 外:体部ロクロナデ、底部 糸切り離し	内:にふい赤褐色 外:にふい赤褐色 ・良	底部 1/6	内外面施釉。	
7	土師質 土器鉢	口径:18.6 底径:12.4 器高:12.8 重量:1,268.0g	透明礫・雲 母・小礫多 量	内:口縁~底部ヨコナデ 外:調整不明瞭	内:にふい黄褐色 外:褐色 ・良	口縁部 1/9 欠損	内面下 1/3 は使用に よる厚耗か。	外面剝離劇 著
8	瓦質 土器鉢	口径:(44.0) 底径:一 器高:(8.4)	ガラス光沢 黒色粒多量、 雲母、砂粒	内:口縁部ヨコナデ 外:口縁部ヨコナデ	内:黒色 外:黒色 ・良	口縁部 1/14		一括 極小片



第140図 星ノ宮遺跡南調査区 SE-29出土遺物(1)



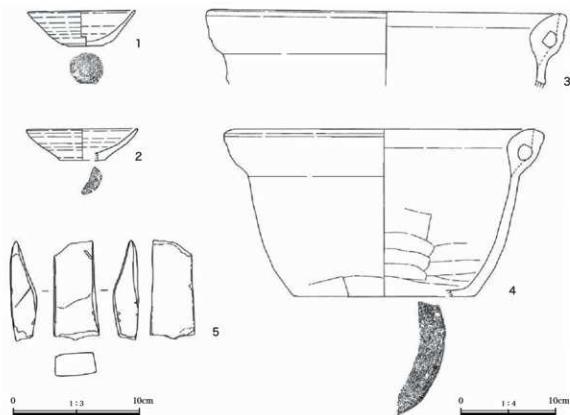
第141図 星ノ宮遺跡南調査区 SE-29出土遺物(2)



第142図 星ノ宮遺跡南調査区 SE-29出土物(3)

第54表 星ノ宮遺跡南調査区 SE-29 出土土物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師質 土器皿	口径:(13.9) 底径:— 器高:(2.7)	ガラス光沢 黒色粒、微 砂粒	内:口縁~体部ロクロナ デ 外:口縁~体部ロクロナ デ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁~体 部 1/10		覆土 No.2と同一 個体か、小 片
2	土師質 土器皿	口径:(13.8) 底径:— 器高:(2.2)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、微砂 粒	内:口縁~体部ロクロナ デ 外:口縁~体部ロクロナ デ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁~体 部 1/9		覆土 No.1と同一 個体か、小 片
3	土師質 土器皿	口径:— 底径:4.3 器高:(2.6)	黒色粒・透 明粒・砂粒、 小礫多量	内:調整不明瞭 外:体部ロクロナデ、底 部回転糸切り	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	底部完存	底部内面中央に凹面を 作る。	内面剥落
4	土師質 土器皿	口径:— 底径:3.8 器高:(2.2)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、微砂 粒、砂粒	内:体~底部ロクロナデ 外:体部ロクロナデ、底 部回転糸切り後板状圧痕	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	底部完存	底部内面中央に凹面を 作る。	覆土
5	土師質 土器皿	口径:— 底径:(4.4) 器高:(2.4)	黒色粒・透 明粒、微砂 粒少量	内:体~底部ロクロナデ 外:体部ロクロナデ、底 部回転糸切り後板状圧痕	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	底部 1/2 欠損		覆土
6	土師質 土器皿	口径:(16.6) 底径:6.8 器高:5.6	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内:口縁~底部ロクロナ デ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部糸切り後板状圧 痕	内:赤褐色 外:褐色 ・良	口縁~体 部 1/5 欠損	底部内面中央に凹面を 作る。	SE-29とSE- 53 3層で遺 構間接合
7	内耳土鍋	口径:35.4 底径:18.2 器高:17.4	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、体 ~底部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、調 整不明瞭なるも体部ヘラ ナデ、下端二段の横位ヘ ラケズリ様ヘラナデ、底 部板状圧痕	内:赤褐色 外:黒色 ・良	底部中央 欠損	内耳は一对二、体部外 面粘土積み上げ時の凹 凸面を明瞭に残す。	外面スス付 着
8	内耳土鍋	口径:(32.8) 底径:(16.2) 器高:17.1	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内:口縁部ヨコナデ、体 ~底部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、調 整不明瞭なるも体部ヘラ ナデ、下端二段の横位ヘ ラケズリ、底部板状圧痕・ 黒縁ヘラナデ	内:にぶい赤褐色 外:黒色 ・良	1/3	残存内耳2カ所。2穴 1対の補修小穴を体部 に4カ所確認。	外面スス付 着
9	内耳土鍋	口径:33.0 底径:19.5 器高:(18.3)	ガラス光沢 黒色粒・透 明粒・小礫 少量	内:口縁部ヨコナデ、底 部ナデ 外:調整不明瞭なるも指 頭圧痕	内:褐色 外:黒色 ・良	2/3	内耳は一对二、残存2 カ所、1カ所欠損。	SE-29とSE- 53 3層で遺 構間接合 外面スス付 着
10	内耳土鍋	口径:34.0 底径:— 器高:(15.0)	ガラス光沢 黒色粒・砂 粒多量	内:口縁部ヨコナデ、体 部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、調 整不明瞭なるも体部ヘラ ナデ	内:明赤褐色~黒褐色 外:黒色 ・良	底部欠損	内耳は一对二、体部外 面粘土積み上げ時の凹 凸面を明瞭に残す。	外面スス付 着
11	山茶碗	口径:— 底径:8.6 器高:(3.0)	微砂粒、砂 粒	内:体~底部ロクロナデ 外:体部ロクロナデ、底 部回転糸切り、後胎付高 台後ナデ	内:オリーブ灰色 外:灰白色 ・良	底部完存	山茶碗。底部内面中央 に凹面を作る。高台断 面は逆三角形状。内面 自然釉付着。	13c代
12	石製品 砥石	長軸:(6.8) 短軸:2.9 厚さ:2.1 重量:63.00g	砂岩		外:灰色	1/2	上端を欠損する推形。 側面4面とも砥面・擦 痕あり。	覆土



第143図 星ノ宮遺跡南調査区 SE-53 出土遺物

第55表 星ノ宮遺跡南調査区 SE-53 出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師質 上器皿	口径:(11.2) 底径: 3.6 器高: 3.7	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、小礫	内:口縁~底部ロクロナ デ 外:口縁~体部ロクロナ デ。底部回転糸切り	内:浅黄褐色 外:浅黄褐色 ・良	1/2		3層
2	土師質 上器皿	口径:(11.6) 底径:(4.8) 器高: 3.3	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、小礫	内:口縁~底部ロクロナ デ 外:口縁~体部ロクロナ デ。底部回転糸切り	内:にぶい赤褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	1/5		3層
3	内耳土師 上器皿	口径:(36.0) 底径: - 器高:(7.9)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、小礫	内:口縁~体部ナデ 外:調整不明瞭	内:灰褐色 外:黒色 ・良	口縁~体 部 1/4	残存内耳 2カ所。体部 外面粘土積み上げ時の 凹凸面を明瞭に残す。	3層 外面スス付 着
4	内耳土師 上器皿	口径:(31.6) 底径:(19.0) 器高:17.8	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、体 ~底部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、調 整不明瞭なるも体部ナデ、 下端ヘラケズリ様ヘラナ デツケ、底部ヘラケズリ 後ナデ	内:灰黄褐色 外:黒褐色 ・良	口縁部 1/12 体部 1/5 底部 1/4	残存内耳 1カ所。体部 外面粘土積み上げ時の 凹凸面は残らない。	3層 外面スス付 着
5	石製品 砥石	長軸:(8.0) 短軸: 3.0 厚さ: 2.0 重量: 67.0g	砂岩 粒子細かい が小礫を含 む		外:灰白色	下端欠損	下端を欠損する短冊 形。側面4面とも砥面・ 擦痕あり。	3層

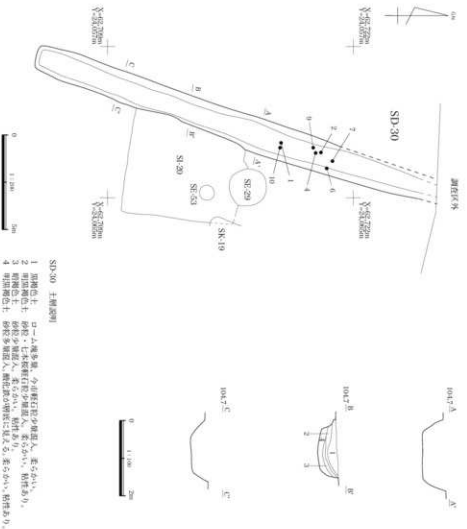
3. 溝跡と出土遺物

SD-30 (第144・145図、第56表、図版二七・三七)

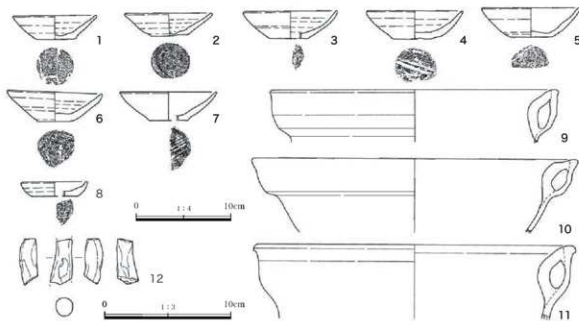
調査区中央部の18-28～17-29グリッドに位置する。

溝幅は、検出面で1.60m程度、溝底面で0.6～1.0m程度、深さ0.4～0.6m程度で、断面は逆台形を呈する。長さは22.0mにわたって確認され、調査区内で途切れる。先端は方形を呈する。

出土遺物は、埋土上層の黒褐色土から出土している。土師質土器皿17点514g、内耳土鍋95点2,350gのほか、土師器杯6点75g、土製模造品1点7gが出土した。1～8はロケ口成形の土師質土器皿である。1・2と3～7は法量に若干の差がみられ、前者が古い時期の特徴と考えられる。両者が共存するのは15世紀中葉～後葉か。8は小皿状を呈する。9～11は内耳土鍋である。体部から口縁部にかけて大きく開くタイズである。11は本遺構出土破片とSE-53・3層出土破片が接合しており、両遺構が同時期に埋没したことがうかがえる。内耳土鍋はいずれも上半のみで深さがわからないため時期の特定が難しいが、遺構間接合している井原SE-53から15世紀代の深い内耳土鍋が出土しており、本遺構出土の内耳土鍋も同時期の15世紀代であろう。



第144図 聖ノ宮遺跡南調査区 SD-30 発掘図



第 145 図 星ノ宮遺跡南調査区 SD-30 出土遺物

第 56 表 星ノ宮遺跡南調査区 SD-30 出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師質 土器皿	口径: 8.6 底径: 3.8 器高: 2.5 重量: 50.0g	微砂粒多量、 雲母少量	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、 底部回転系切り	内: 浅黄褐色 外: 浅黄褐色・ ・良	完形		
2	土師質 土器皿	口径: 8.9 底径: 3.9 器高: 2.4 重量: 47.0g	ガラス光沢 黒色粒、透明 粒、微砂粒	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、 底部回転系切り	内: 褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/4 底部完形		
3	土師質 土器皿	口径: 0.8 底径: (4.0) 器高: 3.0 重量: 79.0g	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁~底部ロクロナデ、 底部ナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、 底部回転系切り	内: にぶい黄褐色 外: 灰黄褐色 ・良		灯明具として使用か。	覆土 内面スス付着
4	土師質 土器皿	口径: 10.0 底径: 3.8 器高: 3.0	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、雲母、 砂粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ、 底部ナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、 底部回転系切り	内: 灰白色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁部~ 部欠損	底部外面にスノコ痕。	覆土
5	土師質 土器皿	口径: (10.2) 底径: (4.2) 器高: 3.1	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ、 底部ナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、 底部回転系切り	内: 灰白色 外: 灰白色 ・良	1/3		覆土
6	土師質 土器皿	口径: 9.7 底径: 3.7 器高: 3.1 重量: 85.0g	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ、 底部ナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、 底部回転系切り	内: 灰黄色 外: にぶい黄褐色 ・良	完形	底部外面にスノコ痕。	
7	土師質 土器皿	口径: 10.0 底径: (4.0) 器高: 3.1	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ、 底部ナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、 底部回転系切り	内: 灰黄褐色 外: 淡黄色 ・良	1/2	底部外面にスノコ痕。	
8	土師質 土器皿	口径: (6.8) 底径: (4.8) 器高: 1.5	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁~底部ロクロナデ、 底部ナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、 底部回転系切り	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	1/5		一括
9	内耳土師 土器	口径: (30.0) 底径: (34.0) 器高: (5.5)	雲母・小礫 多量	内: 口縁部ヨコナデ 外: 口縁部ヨコナデ	内: にぶい赤褐色 外: 褐灰色 ・良	1/5	残存内耳1カ所。	小片
10	内耳土師 土器	口径: (34.0) 底径: (7.7) 器高: (7.7)	透明粒・雲 母・砂粒・ 小礫多量	内: 口縁~体部ヘラナデ 外: 口縁~体部ナデ	内: にぶい褐色 外: 黒褐色 ・良	1/5	残存内耳2カ所。	小片
11	内耳土師 土器	口径: (33.0) 底径: (7.8) 器高: (7.8)	ガラス光沢 黒色粒多量、 透明粒	内: 口縁~体部ナデ 外: 口縁~体部ナデ	内: にぶい赤褐色 外: 黒褐色 ・良	1/5	残存内耳2カ所。	SD-30とSE- 53 3層で遺 構間接合 小片
12	土製 模造品	長さ: 3.7 幅: 1.8	白色粒、透 明粒、金雲 母	指頭圧痕	褐色			

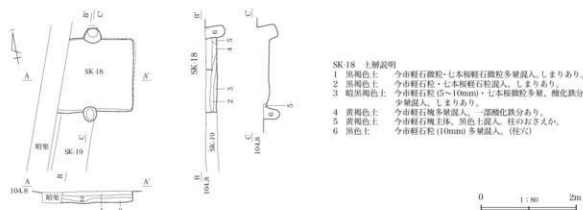
4. 方形竪穴

SK-18 (第146図、図版二七)

調査区中央部の18-29グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-21～24、井戸跡SE-29・53が近接する。長方形の土坑SK-19と重複し本遺構が新しい。

規模は、確認できた範囲で1.65×1.45m、深さ0.27mで、北壁と南壁中央にピットをもつ。ピットは遺構内側に内傾している。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦で、中央部に硬化面が形成されている。

出土遺物は土師器環5点18g、土師器甕15点138gが出土しているが、いずれも混入であろう。



第146図 星ノ宮遺跡南調査区 方形竪穴実測図

5. 土坑と出土遺物

形状は長方形、円形のものがあり、長方形16基、円形16基、合計32基を確認した。

長方形の土坑は栃木県内の中世遺跡では普遍的にみられ、副葬品とみられる遺物を出土し墓坑と判断される場合もあるが、本調査区では墓坑を含め機能を推定するに至るものはみられない。幅は0.6～0.9m程度で、長さは1.2～2.0mの小規模、4.0m程度の中規模のものがみられる。深さは0.2m以下の浅いものがほとんどである。長辺の示す軸方向は南北もしくは東西方向に限られる。調査区中央部と南東部に分布する。

円形のもの直径0.2m～0.4m程度、深さ0.15～0.4m程度であるが、柱痕跡状の埋土がみられるものがあり、確認できていない掘立柱建物跡の柱穴の可能性がある。

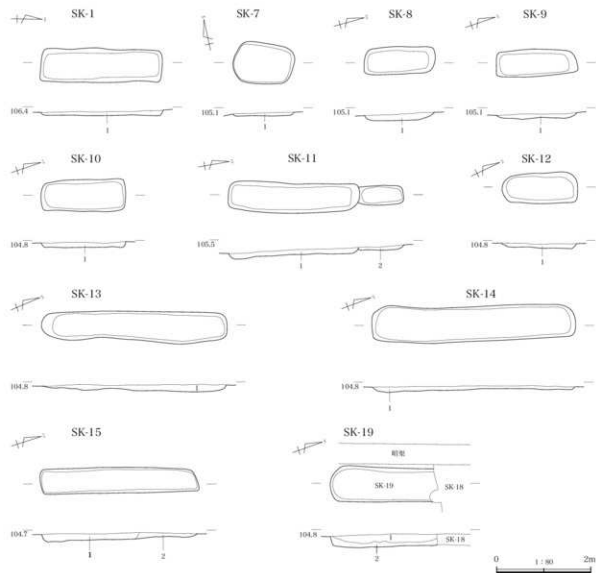
1は直径0.7m、深さ0.1mの円形土坑SK-50から出土したロクロ成形土師質土器皿である。15世紀末～16世紀前半か。



第147図 星ノ宮遺跡南調査区 SK-50出土遺物

第57表 星ノ宮遺跡南調査区 SK-50出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師質 土器皿	口径:(10.8) 底径:(5.0) 器高:3.0	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、小礫	内:口縁～底部クロナデ 外:口縁～体部クロナ デ、底部回転車切り後板 状圧痕か	内:灰白色 外:灰白色 ・良	1/4		



SK-1 土層説明

1 黒色土 今市軽石散粒・七本板軽石散粒少量混入。柔らかい、しまりなし。

SK-7 土層説明

1 黒色土 今市軽石散粒・七本板軽石散粒少量混入。柔らかい。

SK-8 土層説明

1 黒色土 七本板軽石散粒少量混入。柔らかい、しまりなし。

SK-9 土層説明

1 黒色土 七本板軽石散粒少量混入。柔らかい、しまりなし。

SK-10 土層説明

1 黒色土 七本板軽石散粒少量混入。柔らかい、しまりなし。

SK-11 土層説明

1 黒色土 今市軽石散粒・七本板軽石散粒以外の混入物なし。柔らかい、しまりなし。

2 黒色土 今市軽石散粒極少量混入。柔らかい、しまりなし。

SK-12 土層説明

1 黒色土 今市軽石塊・七本板軽石散少量混入。柔らかい。

SK-13 土層説明

1 黒色土 今市軽石散粒・七本板軽石散粒多量混入。固い、しまりあり。

SK-14 土層説明

1 黒褐色土 今市軽石粒(10mm)・七本板軽石散粒少量混入(5mm以下)多量混入。固い、しまりあり。

SK-15 土層説明

1 黒褐色土 今市軽石粒(10mm大)・七本板軽石散粒多量混入。固い、しまりあり。

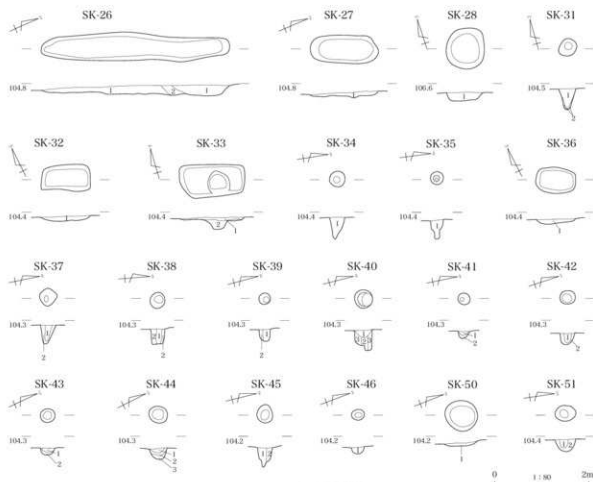
2 黒色土 七本板軽石散粒少量混入。やや柔らかい。

SK-19 土層説明

1 黒褐色土 今市軽石塊多量混入。しまりあり。

2 暗褐色土 今市軽石散・白色粘土少量混入。しまりあり。

第148図 星ノ宮遺跡南調査区 土坑実測図(1)



SK-26 土層説明

- 1 黒色土 今市軽石粒・七本松軽石粒少量混入。固い。
- 2 黒褐色土 今市軽石塊多量混入。固い。

SK-27 土層説明

- 1 黒色土 今市軽石粒少量混入。柔らかい。

SK-28 土層説明

- 1 黒色土 今市軽石粒(3~5mm)・七本松軽石粒(2~3mm)混入。固い。土量あり。

SK-31 土層説明

- 1 黒色土 ローム粒少量混入。柔らかい。
- 2 黄褐色土 ローム塊多量混入。柔らかい。

SK-32 土層説明

- 1 黒褐色土 今市軽石粒・七本松軽石粒多量混入。柔らかい。

SK-33 土層説明

- 1 黒色土 ローム粒少量混入。柔らかい。
- 2 黄褐色土 ローム塊・今市軽石粒多量混入。柔らかい。

SK-34 土層説明

- 1 黄褐色土 ローム塊・今市軽石粒多量混入。柔らかい。

SK-35 土層説明

- 1 黄褐色土 ローム塊・今市軽石粒多量混入。柔らかい。

SK-36 土層説明

- 1 黄褐色土 ローム塊・今市軽石粒多量混入。柔らかい。

SK-37 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒・今市軽石粒多量混入。柔らかい。
- 2 黄褐色土 ローム塊・今市軽石粒多量混入。柔らかい。

SK-38 土層説明

- 1 黒色土 ローム粒・ローム粒少量混入。柔らかい。(柱頭跡)
- 2 黄褐色土 ローム粒・白色粘土粒(10mm)多量混入。柔らかい。(柱頭方理土)

SK-39 土層説明

- 1 黒色土 ローム粒少量混入。柔らかい。
- 2 灰黄褐色土 白色粘土塊(20mm)多量混入。柔らかい。

SK-40 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム塊・白色粘土粒少量混入。
- 2 黒褐色土 ローム粒(10mm前後)多量混入。柔らかい。
- 3 黄褐色土 ローム塊多量。ローム粒少量混入。

SK-41 土層説明

- 1 黒色土 ローム粒少量混入。柔らかい。
- 2 黄褐色土 ローム塊主体に白色粘土粒少量混入。

SK-42 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒(10mm前後)多量混入。柔らかい。
- 2 黒褐色土 ローム塊・白色粘土粒少量混入。

SK-43 土層説明

- 1 黒色土 ローム粒少量混入。柔らかい。
- 2 黄褐色土 ローム塊多量。ローム粒少量混入。

SK-44 土層説明

- 1 黒色土 ローム粒少量混入。柔らかい。
- 2 黄褐色土 ローム塊・ローム粒少量混入。柔らかい。
- 3 黒色土 ローム塊少量混入。

SK-45 土層説明

- 1 黒色土 ローム粒少量混入。柔らかい。(柱頭跡)
- 2 黒褐色土 ローム塊多量混入。柔らかい。

SK-46 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム塊多量混入。柔らかい。

SK-50 土層説明

- 1 黒色土 ローム粒少量混入。柔らかい。

SK-51 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒多量混入。
- 2 黄褐色土 ローム塊・ローム粒多量混入。柔らかい。粘性あり。

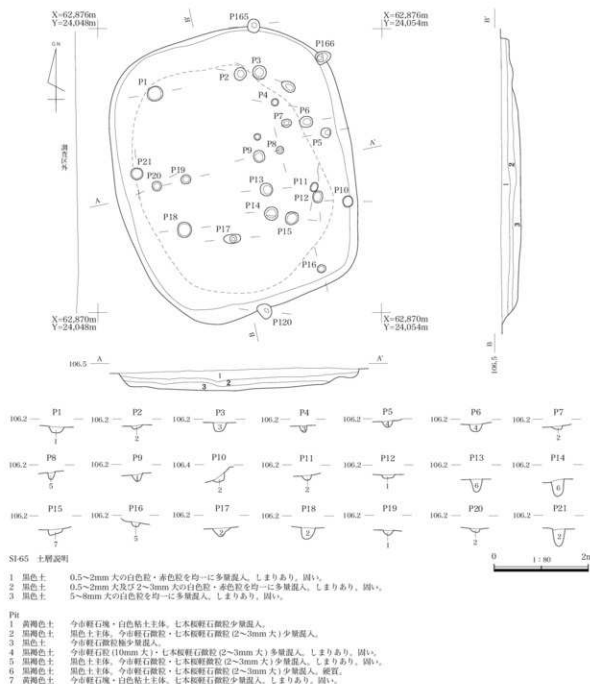
第149図 星ノ宮遺跡南調査区 土坑実測図(2)

第3節 北調査区の遺構と遺物

第1項 縄文時代の遺構と遺物

竪穴建物跡と出土遺物

星ノ宮遺跡北調査区より発見された縄文時代の遺構は、僅かに SI-65 とした竪穴住居跡 1軒である。当該時代にかかわる遺物に関しては、遺跡内に包含層が存在しないことから、中世以降に比定される土坑 SK-150 に混在した頁岩製の大型な削器以外、当該住居跡内出土遺物がすべてである。



第150図 星ノ宮遺跡北調査区 SI-65実測図

SI-65 (第150～156図、第58表、図版二八・三八・三九)

本住居跡は、北調査区内西端の17-22グリッド内に位置する。近接地には掘立柱建物跡や長方形土坑等、北調査区の中世以降の集落を構成する主要な遺構はほとんど無く、若干の空白地を置いて小さなピットが幾つか掘り込まれる程度である。

住居跡は隅丸長方形で、長軸5.9m、短軸5.1mを測り、主軸方向は西側に約30°傾く。確認面からの深さは壁際で20～27cm、波線で示した範囲内は緩く皿状に窪むため、中央部付近ではやや深い40cmほどである。覆土は均一な黒色を示すが、混入物の違いにより1～3層に区分することが可能である。堆積状況は住居跡の断面形状に沿って、幾分レンズ状を呈すもののほぼ水平堆積といえる。

壁は今市軽石層の上面に堆積し、七本稜軽石を含む黒色土中から掘り込まれるため、範囲や形状について不鮮明な箇所がある。そのような中で、北壁ではほぼ直線的、それ以外では大きく外傾して立ち上がる状況を捉えることができた。床面は中央部周辺が緩く窪む波線内がローム面直上、それ以外では橙色の今市軽石層内に構築される。覆土が黒色であることから床面との区別は明瞭で、全体的に硬化した状態がうかがえる。

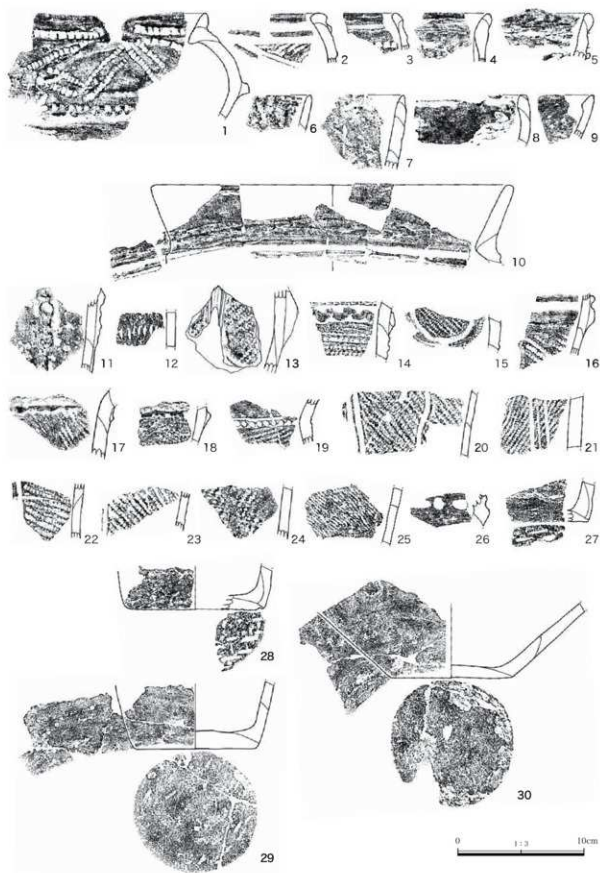
床面上からは、21個を数える径15～30cmの円形のピットが確認されており、この何れかが主柱穴及び補助柱穴として機能したと考えられる。主柱穴については、基本的に床面からの深さや位置関係により決定されるが、最も掘り込みの深いP14やP21でも18cm程度であり、その機能を成し得ていない。現段階では、主柱穴及び補助柱穴の区分、さらに上層構造を含め不明とせざるを得ない。なお、壁上に位置するP120・P165及びP166は、後世に掘り込まれたものであることが、覆土の切り合いより判明している。

炉跡は不明である。本住居跡については、出土土器から中期中葉に所属することは間違いなく、その場合県下においては石皿いを伴わない地床が一般的である。当住居跡の床面については、中央部付近がローム面直上に、それ以外は橙色の今市軽石層内に構築されていることは既に述べた。焼土と同色を示す今市軽石層が炉跡の存在を妨げなくさせることも時折あるが、やはり炉の痕跡を示すものは発見されていない。

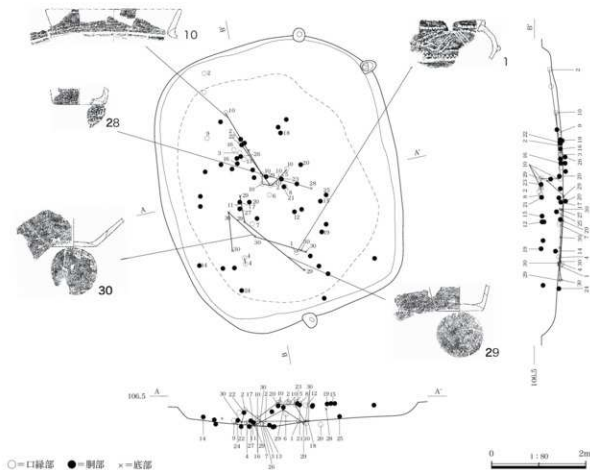
出土遺物は土器と石器とを区別し、実測図作成遺物を中心に出土位置図をそれぞれ掲載している。土器については中央部付近に密集する傾向がうかがえ、レベル的に確認面付近出土と床面付近出土とに明確に区分できる。この出土状態を住居廃絶後の時間的経過として捉えられることが多いが、大型な口縁部の10は、上下双方の出土土器の接合資料であり、極めて短期間内に埋没したことが理解される。石器については住居跡内全体より粗密無く出土し、その大多数は床面上もしくはこれに近い3及び2層中からの出土である。

出土遺物には土器と石器があるが、双方とも意外に少ない。土器は出土位置図に示したとおり、ドットにて取り上げたものが55点、これ以外の小片が19点あり、総計74点、総重量2,766gである。実測図として掲載したものは30点で、その内1～10は口縁部片、11～19・26は口縁直下から頸部周辺、20～25は胴部片、27～30は底部を含むその周辺とした。相対的に大型片が少なく、口縁部や底部にかかわる器形状の一部がうかがえるものは僅か5点に過ぎない。なお、26については時期が異なるため、掲載順位を胴部片の次に置いている。

口縁部の1～10では、有文のものが意外に少ない。1は口縁が大きく内湾した後に、口唇が「く」字状に外反する。口縁部文様は頂部に結節沈線が施された隆帯によって区画され、内部に平行する2本のやや幅広い結節沈線により鋸歯状の文様が描かれる。「く」字状に外反した口縁部外面は、「X」字状に隆帯が対峙し、やはりこれにも結節沈線が伴う。中期前半の大本系の特徴を示す。2は隆帯とこれに沿う沈線により、渦巻き文が描かれる典型的な加曾利E1式土器。3・5は同一個体と思われ、共に口唇直下の隆帯が剥落する。5の下端に渦巻きの一部が残る、2では区画内に列点文が充填される。4・6～9は無文で、6・7は器面



第151図 星ノ宮遺跡北調査区 SI-65出土土器



第152図 星ノ宮遺跡北調査区 SI-65 出土土器位置図

整形が粗い。8・9は小型の鉢であろう。10は無文の口縁部が直線的に外傾する大型の甕形土器であろうか。頸部には複数の沈線が廻り、口縁と区画する。6点の接合あり、口径28.6cmを測る。

口縁直下から頸部周辺の11～19・26では、施文文様の特徴から型式を把握することが容易である。11・12・13は阿玉台式の範疇で、11は指頭圧痕が伴う断面三角形の隆帯が垂下する。12には横位の連続する爪形文、13は山形状の把手から隆帯が垂下し、地文に縄文を施す。これら3点の胎土中には金雲母が入る。14は断面三角形の隆帯上部に波状隆帯、下部に半截竹管による平行結節沈線文が多段に施される。15は縄文を地紋とし、結節沈線が沿う隆帯により文様が描かれる。共に大木8a式系の特徴であろう。

隆帯もしくは沈線によって口縁部を区画する16～19は、沈線文が垂下する20～23の胴部文様と一体を成すものである。26は隆帯上に幅広い沈線を施した後期初頭の頸部片である。

27～30の底部周辺では、27・28の底面に網代痕が残る。痕跡から竹を材料として編まれたものであろうか。29は底径9.8cmの深鉢形土器で、5点の接合からなる。内面に煤の付着がある。30は底径10.0cmの浅鉢形土器、はやり5点の接合からなる。内面の研磨が著しく、使用に伴う剥落も認められる。

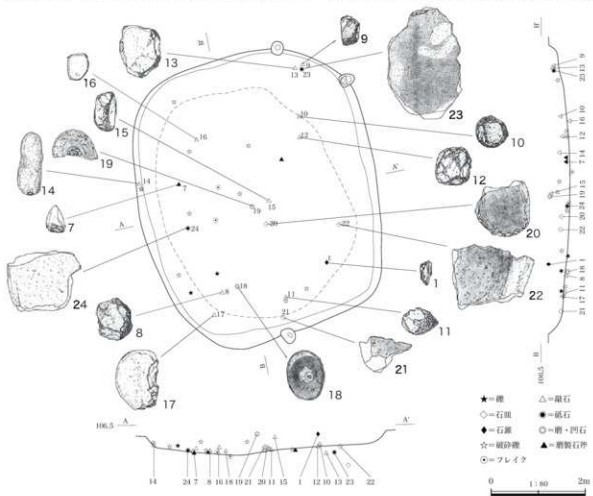
石器は24点を掲載しており、内訳をみると剥片石器系では石錐1と削器4、礫核石器系では磨製石斧2、敲石10、磨石・凹石2、石皿3、砥石2である。これら24点の石器を含め、住居跡内より出土したそのほかのフレイク、礫及び破砕礫等の総計は59点にのぼり、重量は16,223gである。土器の出土量と同様に、住居跡1軒を完掘しているものの、数量的には僅少である。また、重量の面では大型品の石皿及び砥石5点

の総重量が 10 kg を超過し、これを差し引いた 1 点当たりの平均重量は 108 g 程度となることから、小型品が大半であることがうかがえる。石器以外では破砕礫が 15 点と最も多く、石材は石器石材に関係するチャート及び安山岩が多くを占める。このことから、チャートや頁岩、メノウといったフレイクが破砕礫に次いで多いことも納得できよう。

さて、掲載した石器については一覧表にて詳細に述べており、ここでは様相について簡単に述べることにする。1～5 は剥片を素材としたもので、1 はやや分厚い横長剥片を素材とし、先端を中心に剥離を施して鏃とする。2～5 は削器としたが、3～5 の 3 点には側縁の一部に僅かな加工が見られるほかに、鋭利な縁辺部に使用痕が存在することから削器の範疇とした。2 は剥離が中央部までおよび、断面は均整の取れたレンズ状を呈す。当初は尖頭器の再加工品とも判断されたが、器体中央部から上方に向かって徐々に尖る断面形状を示しており、素材形状を僅かに加工していることが分かる。

6・7 は磨製石斧の一部であろう。7 は刃部付近が残るため磨製石斧として間違いないが、6 は石棒の可能性も否定できない。しかし、中期の石棒については大型品が多く、また研磨も密着性に欠けることから本例についても磨製石斧と判断している。7 の刃部には過度の使用に伴う剥離が見られ、刃部再生に伴う研磨も行われている。しかし、最終的な使用方法は、先端に残る敲打痕が敲石のな利用を示している。

8～17 は敲石で、最も出土点数が多い。8～12 は円礫の側縁部や、垂角礫の角張った側辺部に無数の敲打痕があり、また 10 には研磨に伴う擦痕も確認できる。13 は石英素材の角礫であるため、石核としての利



第 153 図 星ノ宮遺跡北調査区 SI-65 出土石器位置図

用であったが、各部の尖頭箇所を敲石として使用している。14・15は棒状礫の先端及びその周辺や側面を、16は方形状の小型扁平礫の周縁に敲打痕が残る。17は礫器の様相を呈しているものの、側縁の剥離は交互剥離と認識されない。また、器体下方の剥離は敲打の際に生じたものであり、さらに末端部分には連続的な敲打による潰れが残るなど、敲石としての特徴がうかがえる。8～12及び15に残る敲打痕は、極めて振幅が狭い連続的な加撃であり、対象物は磨製石斧・石棒及び石皿などの研磨整形を基本とするその前段階の器体整形とすることができる。中でも、敲打痕が著しい8～11の使用石材は、剥片石器に多用される頁岩やチャートが利用されており、その特性を理解する必要がある。

18・19は磨石・凹石としての利用のほか、18の側縁にはやはり敲打痕がある。双方の表裏面の中央部には凹が1つ穿たれ、全体に研磨痕が認められる。特に18に残る研磨痕は顕著で、扁平な断面形状から過度の使用があったと考えられる。

20～22は縁の存在や研磨整形の状況から石皿に、23・24については中々判断が難しいが、断面形状や研磨面の状況から砥石と判断した。後者には自然面が残ることや、縁が存在しない等も理由の一つである。

25は北調査区において、SI-65以外で出土した唯一の遺物である。中世以降に掘り込まれたSK-150出土の削器で、打面部に礫面のある大型で肥厚な剥片を素材として下端部に加工を施す。良質な頁岩を用いる。

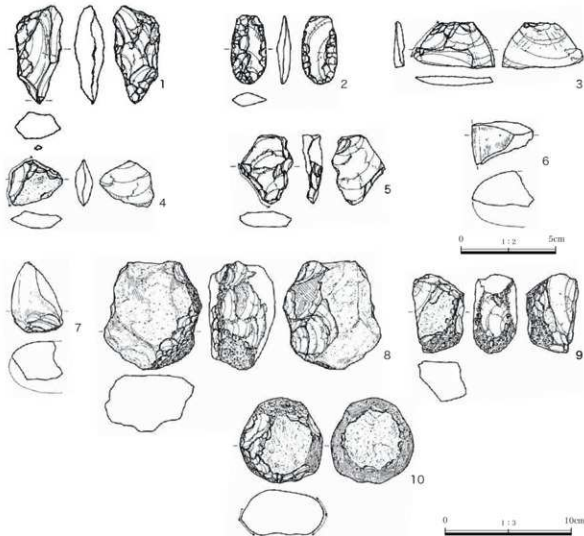
本住居跡の所属時期については、出土土器の検証を以て判断せねばならないが、量的に少ないばかりか小片が多い。内容は中期前半から後期初頭までの土器が散見できるが、その中心は加曾利E1式であろうか。

第58表 星ノ宮遺跡北調査区 SI-65・SK-150 出土石器観察表

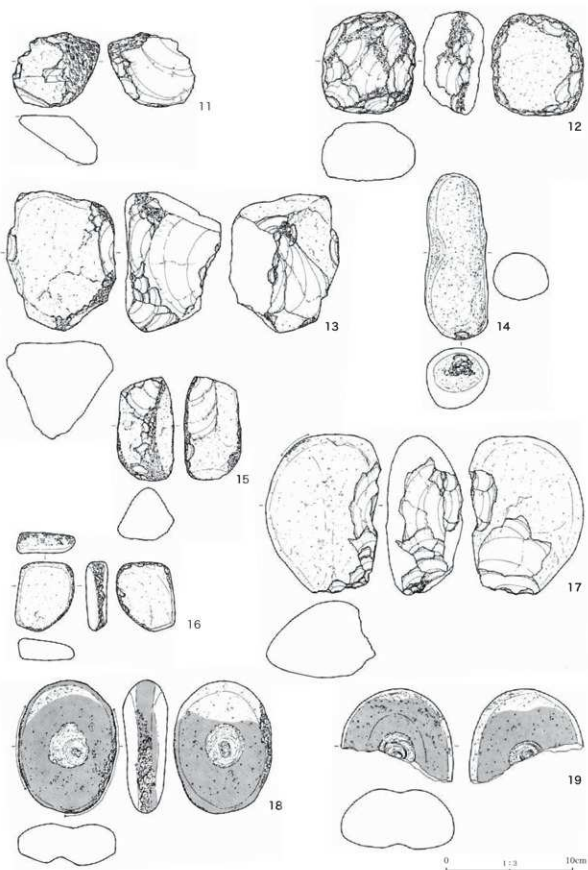
寸法:cm, 重量:g

No	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	特徴
1	石鎌	5.20	2.50	1.60	17.0	チャート	横長で肥厚な剥片を縦方向で使用し、両側縁の加工を施すと共にその先端に刃部を作出す。素材は非常に堅い。タール状の付着物あり。
2	削器	3.70	1.90	0.70	4.67	メノウ	横長剥片を素材に用い、左側縁の打面部は縁面を除去される。微細な加工により薄く、また左右対称に仕上げられる。
3	削器	2.50	4.30	0.50	5.14	泥岩	薄く鋭利に左側縁を刃部として使用する。
4	削器	2.50	2.90	1.00	4.07	流紋岩	打面部を除去し、全体を貝殻縁に仕上げられる。上半の鋭利な縁面に使用痕あり。
5	削器	3.7	2.80	1.10	9.82	チャート	やや肥厚な縦長剥片の下部に加工を施して刃部とする。表面は被熱によるハジケとも思える。
6	磨製石斧	2.40	3.20	1.90	15.48	砂岩	磨製石斧の一部と思われる。器面は丁寧に研磨される。
7	磨製石斧	5.80	4.00	3.10	73.0	緑色凝灰岩	大型な磨製石斧の刃部の一部が残る。器体の研磨痕は十分に観察できない。刃部は使用による欠損後も敲石的な使用により、縁線が潰れる。
8	敲石	8.80	7.70	5.20	368.0	頁岩	拳大の亜角礫の右側縁部分を敲打面として使用する。非常に細かな敲打痕が残ることから、対象物について考える必要がある。表裏面の縁線には微かな研磨痕が見られる。石核としての使用も考えられるが、磨理の多さにより度差が。
9	敲石	6.30	4.10	3.50	103.0	チャート	素材は亜角礫に近く、全体の約1/2を欠損する。側縁の角張った縁線部分を敲打面として使用し、下部には研磨痕も見られる。緻密な敲打痕から高位の使用頻度がうかがわれ、被熱はこれによるものであろう。
10	敲石	6.80	6.50	3.70	223.0	チャート	素材はおそらく亜角礫に近い。敲石としての極端な使用により周縁が凹形状となり、その多くには研磨痕が見られる。
11	敲石	5.70	7.00	3.70	137.0	チャート	素材は拳大の亜角礫。右側縁から器体中央にかけて大きな敲打面を残す。敲打痕は微細で緻密。敲打により器体が破損下と思われる。素材そのものは石材として不透明。
12	敲石	8.20	7.40	4.80	428.0	安山岩	素材は拳大の円礫。両縁には敲打に伴う比較的大きな剥離が多く、それらが切り合う縁線部分に微細な敲打痕あり。
13	敲石 (石核)	11.20	8.50	7.70	783.0	石英	断面三角形の礫で、側面を除き礫面を大きく残す。当初は石核利用としての礫面調整が行われたが、石質不良のため尖った箇所を敲石として使用する。
14	敲石	13.30	5.00	4.90	408.0	礫岩	断面楕円形の棒状礫の上下両端を敲打面として使用する。表面は被熱により黒色に変化。
15	敲石	8.40	4.50	4.20	176.0	安山岩	断面三角形の棒状礫を使用。三方の縁線部分を敲打面として使用する。表面上部の大いなる剥離後も縁線は連続して使用。

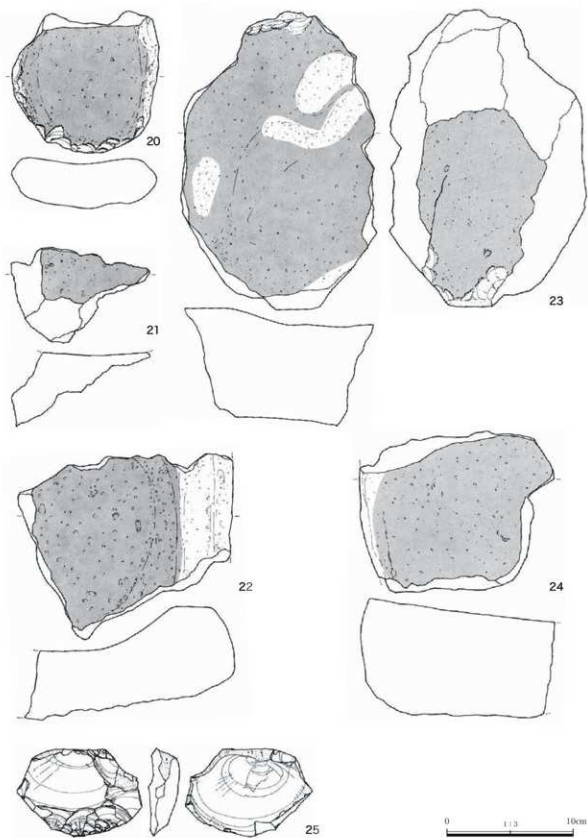
16	敲石	5.60	4.70	1.70	71.0	砂岩	小型な敲石。上面及び右側縁に微細な敲打痕あり。
17	敲石	12.50	9.00	6.00	922.0	安山岩	比較的大型な円礫を用い、右側面と下端に大きな割離が入る。下端は敲打に伴うものと考えられ、割離の後縁には敲打による潰れが認められる。
18	磨・凹石	10.50	7.80	3.60	356.0	安山岩	表裏面の中央に凹を有し、両面を磨石、両側縁を敲石としても使用する。断面形状から、磨石としての使用頻度が高いことがうかがわれる。
19	磨・凹石	7.50	8.80	4.80	314.0	安山岩	約1/2を欠損。表裏面の中央に凹を有し、さらに両面を磨石として使用する。被熱により灰白色に変化していることに加え、煤の付着も認められる。
20	石皿	11.40	11.50	4.00	712.0	安山岩	上半部を欠損する小型な石皿。下端に強形整形のための割離を加える。研磨面はほぼ全体におよぶ。
21	石皿	7.40	11.10	5.60	332.0	安山岩	石皿の一部が残る。使用面は十分に研磨され、被熱による変色がかえらる。
22	石皿	14.70	17.10	8.60	1777.0	安山岩	大型石皿の1/8程度が残存か。縁が明確に作出され、内面の研磨整形も著しい。裏面における凹等は見当たらない。
23	砥石	23.60	15.30	9.10	4450.0	安山岩	周縁を大きく欠損する。残存する表裏面には縦く波打つような研磨が認められ、表面では研磨されない箇所も存在する。上端には礫面と整形痕があり、形状的に石皿というよりは砥石と考えられる。被熱による赤褐色化や煤の付着がある。
24	砥石	13.00	15.50	9.10	3100.0	安山岩	左側縁を除き欠損する。表面には顕著な研磨痕が残る。断面形状から判断して砥石と思われる。
25	刮器	6.90	9.90	2.50	135.0	頁岩	大型で厚みのある刮片。下端に割離が集中する。上端に自然面があることから、原礫を遺跡内に持ち込んで割離か。



第154図 星ノ宮遺跡北調査区 SI-65出土石器(1)



第155図 里ノ宮遺跡北調査区 SI-65出土石器(2)



第156図 星ノ宮遺跡北調査区 SI-65出土石器(3)

第2項 古墳時代から奈良・平安時代の遺構と遺物

竪穴建物跡と出土遺物

SI-66 (第157・158図、第59表、図版三九)

調査区北東部の20・20グリッドに位置する。田面形成による削平のため、大部分が壊されている。

平面形は、方形を呈するとみられる。規模は残存で南北約1.50m、東西約0.7m、面積は約1.1㎡である。

主軸の振れはN-13°-Eである。

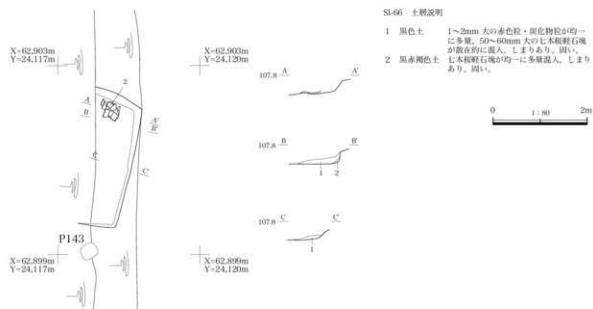
埋土は黒色・黒赤褐色を呈する2層に別けられ、人為堆積である。

壁の高さは東壁22.0cmである。

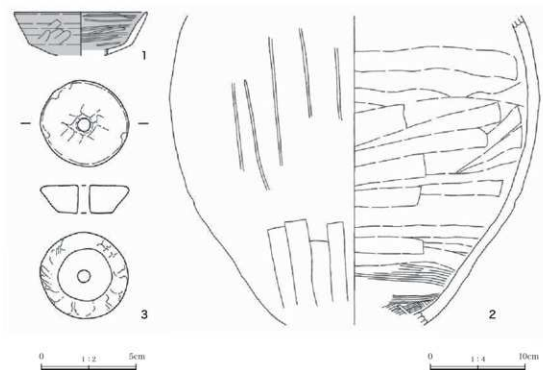
床は、掘方底面を床面としている。カマド、柱穴、梯子穴、壁際溝は確認できなかった。

出土遺物は、土師器杯1点34g、土師器甕4点2,182g、石製品(紡錘車)1点43g、総量5点2,216gと中世陶磁器1点97g、自然礫43gが出土した。

建物跡の時期は、6世紀末～7世紀初頭か。



第157図 星ノ宮遺跡北調査区 SI-66 実測図



第158図 星ノ宮遺跡北調査区 SI-66出土遺物

第59表 星ノ宮遺跡北調査区 SI-66 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技 法	色調・焼成	残存率	特 徴	備 考
1	土師器 環	口径:(14.0) 底径: — 器高:(4.6)	ガラス光沢 黒色粒 砂粒	内:口縁部ヨコナデ後ヘ ラミガキ、体~底部ヘラ ミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体 ~底部ヘラケズリ	内:褐灰色 外:灰黄褐色 ・良	1/6	内面漆仕上げ処理。	覆土
2	土師器 甕	口径: — 底径: — 器高:(32.7)	ガラス光沢 黒色粒・砂 粒・小礫多 量、透明粒 少量	内:胴部下半ハケメ風ナ デ 外:胴部ヘラケズリ後ナ デ、下半粗いヘラミガキ	内:浅黄褐色 外:にふい黄褐色 ・良	胴部 1/3	最大径は胴部中位か。	覆土
3	石製品 紡錘車	上径: 4.7 下径: 2.9 厚さ: 1.5 孔径: 0.3~0.8 重量: 43.0g	粘板岩か		外:暗緑灰色	完形	表面には工具痕を残すも滑らかに仕上げられる。	

第3項 中世・近世の遺構と遺物

1. 掘立柱建物跡と出土遺物

建物の規模は、桁行総長、梁行総長、平面積（桁行総長 × 梁行総長）、平面指数（梁行総長 ÷ 桁行総長 × 100）で示した。平面指数が小さいほど桁行の大きい建物となる。柱間は桁および梁行総長を柱間数で割ったものである。柱穴掘方規模は、各柱穴掘方の長辺と短辺の平均値をだし、すべての柱穴で平均したものの。深さは全ての柱穴掘方の平均値である。

SB-9（第159図、図版二八）

調査区南西部の18-24グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-10と重複するが、新旧関係は不明である。また、掘立柱建物跡SB-11・12・13・14・36・37と共にL字型の規則的な配置をとる。

桁行4間、梁行2間の東西棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-75°-Wである。

規模は、桁行総長8.1m、梁行総長4.5m、平面積36.45㎡、平面指数55.55である。桁行柱間寸法は2.02m（6.75尺）、梁行柱間寸法は2.25m（7.5尺）である。

柱穴の掘方形状は円形で、妻側柱列中央のP2・8が小型である。掘方規模は0.37m、深さ0.51mで、P2・8を除いた掘方規模は0.41m、深さ0.54m、P2・8の掘方規模は0.21m、深さ0.38mである。P1・3～6・10で柱痕跡が確認された。

出土遺物は確認されていない。

SB-10（第160図、図版二八）

調査区南西部の18-24グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-9・11と重複するが新旧関係は不明である。また、掘立柱建物跡SB-9・11・12・13・14・36・37と共にL字型の規則的な配置をとる。

桁行3間、梁行2間の南北棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-9°-Eである。

規模は、桁行総長5.7m、梁行総長4.2m、平面積23.94㎡、平面指数73.68である。桁行柱間寸法は1.90m（6.33尺）、梁行柱間寸法は2.1m（7尺）である。

柱穴の掘方形状は円形もしくは楕円形で、掘方規模は0.36m、深さ0.44mである。P2・4・8から柱痕跡が確認された。

出土遺物は確認されていない。

SB-11（第161図）

調査区南西部の18-24グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-10と重複するが新旧関係は不明である。掘立柱建物跡SB-9・12・13・14・36・37と共にL字型の規則的な配置をとる。

桁行4間、梁行1間の南北棟、側柱建物跡である。また梁行が1間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-14°-Eである。

規模は、桁行総長7.5m、梁行総長3.3m、平面積24.75㎡、平面指数44.0である。桁行柱間寸法は1.87m（6.25尺）、梁行柱間寸法は3.3m（11尺）である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は0.34m、深さ0.46mである。P6・7から柱痕跡が確認された。

出土遺物は確認されていない。

SB-12 (第 162・191 図、第 60 表、図版二八・三九)

調査区南西部の 19-24 グリッドに位置する。掘立柱建物跡 SB-36 と重複するが新旧関係は不明である。掘立柱建物跡 SB-9・10・11・13・14・36・37 と共に L 字型の規則的な配置をとる。

桁行 3 間、梁行 1 間の東西棟、側柱建物跡である。また梁行が 1 間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-80° -W である。

規模は、桁行総長 6.0m、梁行総長 3.9m、平面積 23.40 m²、平面指数 65.00 である。桁行柱間寸法は 2.00m (6.66 尺)、梁行柱間寸法は 3.9m (13 尺) である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は 0.40m、深さ 0.51m である。

出土遺物は僅かで、瀬戸美濃天目茶碗 1 点 15g と自然礫 1,044g が出土したのみである。1 は瀬戸美濃天目茶碗で、やや厚みのある体部から S 字状に口縁が外反する。大衆第 4 段階、16 世紀末から 17 世紀初頭であろう。

SB-13 (第 163 図、図版二八)

調査区南西部の 17-24 グリッドに位置する。掘立柱建物跡 SB-9・10・11・12・14・36・37 と共に L 字型の規則的な配置をとる。

桁行 5 間、梁行 2 間の南北棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-15° -E である。

規模は、桁行総長 10.2m、梁行総長 3.3m、平面積 33.66 m²、平面指数 32.35 である。桁行柱間寸法は 2.04m (6.8 尺)、梁行柱間寸法は 1.65m (5.5 尺) である。

柱穴の掘方形状は円形もしくは方形で、掘方規模は 0.35m、深さ 0.39m である。P1～3・6・11 で柱痕跡が確認された。

出土遺物は確認されていない。

SB-14 (第 164 図、図版二八)

調査区南西部の 17-24 グリッドに位置する。掘立柱建物跡 SB-9・10・11・12・13・36・37 と共に L 字型の規則的な配置をとる。

桁行 3 間、梁行 1 間の南北棟、側柱建物跡である。また梁行が 1 間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-10° -E である。

規模は、桁行総長 6.0m、梁行総長 3.0m、平面積 18.00 m²、平面指数 50.00 である。桁行柱間寸法は 2.00m (6.66 尺)、梁行柱間寸法は 3.0m (10 尺) である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は 0.30m、深さ 0.40m である。

出土遺物は確認されていない。

SB-36 (第 165・191・192 図、第 60・61 表、図版二八・三九・四一)

調査区南西部の 19-24 グリッドに位置する。東側が調査区外のため未調査で、伸びる可能性がある。掘立柱建物跡 SB-12 と重複するが新旧関係は不明である。掘立柱建物跡 SB-9・10・11・12・13・14・37 と共に L 字型の規則的な配置をとる。

桁行 4 間以上、梁行 2 間の東西棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-77° -W である。

規模は、桁行総長 6.0m、梁行総長 3.0m、平面積 18.00 m²、平面指数 50.00 である。桁行柱間寸法は 2.00m (6.66 尺)、梁行柱間寸法は 3.0m (10 尺) である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は0.30m、深さ0.40mである。P2～5・8で柱痕跡が確認された。

出土遺物は、土師質土器皿1点61g、内耳土鍋1点10g、土師質埴鉢1点255g、石造物五輪塔水輪1点6.550g、鉄製品(刀子)1点18.26g、総量4点6.876gが出土した。2はP8出土の土師質土器皿で、底部は高台状に作る。16世紀代であろう。3はP4出土の土師質埴鉢である。体部は内湾して立ち上がり、口縁はくびれを作って外反する。体部外面下半はナデで仕上げる。胎土には小礫と雲母を含む。卸目は6条一単位とし、密ではない。外面下半と内面上部2/3ほどに煤が付着している。同様の土師質埴鉢は茨城県つくば市上野古屋敷遺跡等で出土しており、16世紀代と考えられている。常陸産か。4はP2出土の五輪塔水輪である。

SB-37 (第166図)

調査区南西部の19-24グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-9・10・11・12・13・14・36と共にL字型の規則的な配置をとる。

桁行2間、梁行2間の南北棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-7°-Eである。

規模は、桁行総長3.3m、梁行総長2.7m、平面積8.91㎡、平面指数81.81である。桁行柱間寸法は1.65m(5.5尺)、梁行柱間寸法は1.35m(4.5尺)である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は0.30m、深さ0.22mである。

出土遺物は確認されていない。

SB-400 (第167図、図版二九)

調査区中央部の19-21グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-401と重複するが新旧関係は不明である。掘立柱建物跡SB-401・402・403・404・405・406・407・409と共に規則的な配置をとる。

桁行4間、梁行1間の南北棟、側柱建物跡である。また梁行が1間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-7°-Eである。

規模は、桁行総長9.3m、梁行総長3.3m、平面積30.69㎡、平面指数35.48である。桁行柱間寸法は2.32m(7.75尺)、梁行柱間寸法は3.3m(11尺)である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は0.33m、深さ0.33mである。柱痕跡は確認できなかった。

出土遺物は確認されていない。

SB-401 (第168・191・192図、第60・61表、図版二八・二九・四〇)

調査区中央部の19-21グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-400・402と重複し、SB-400とは新旧関係不明、SB-402よりも新しい。掘立柱建物跡SB-400・402・403・404・405・406・407・409と共に規則的な配置をとる。

桁行5間、梁行1間の東西棟、側柱建物跡である。また梁行が1間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-80°-Wである。

規模は、桁行総長9.9m、梁行総長4.8m、平面積47.52㎡、平面指数48.48である。桁行柱間寸法は1.98m(6.6尺)、梁行柱間寸法は4.80m(16尺)である。

柱穴の掘方形状は円形もしくは楕円形で、掘方規模は0.35m、深さ0.32mである。P2・8で柱痕跡が確認された。

遺物は、P11から5の古瀬戸人子1点25gが出土した。口径5.6cm、底径3.6cm、器高1.7cm、底部外面を不定方向にヘラケズリし、口縁部がヨコナデする。注ぎ口を1カ所付け、口縁端部の全周に軸が付着する。

内面に付着物はみられない。片口形の入子はほぼ古瀬戸前期様式に限られ、12世紀末～13世紀代の年代が与えられる。鉄2はP11から出土した煙管雁首で、火皿の大きさ・脂反しの湾曲の小ささから18世紀後半～19世紀前半であろう。

SB-402 (第169図、図版二九)

調査区中央部の19-21グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-401・403と重複する。SB-401よりも古く、SB-403との新旧関係は不明である。掘立柱建物跡SB-400・401・403・404・405・406・407・409と共に規則的な配置をとる。

桁行5間、梁行1間の東西棟、側柱建物跡である。また梁行が1間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-86°-Wである。

規模は、桁行総長10.5m、梁行総長4.5m、平面積47.25㎡、平面指数42.85である。桁行柱間寸法は2.10m(7尺)、梁行柱間寸法は4.50m(15尺)である。

柱穴の掘方形状は円形もしくは楕円形で、掘方規模は0.41m、深さ0.48mである。P4で柱痕跡が確認された。出土遺物は確認されていない。

SB-403 (第170・192図、第61表、図版二九・四一)

調査区中央部の19-21グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-402と重複するが新旧関係は不明である。掘立柱建物跡SB-400・401・402・404・405・406・407・409と共に規則的な配置をとる。

桁行3間、梁行1間の南北棟、側柱建物跡である。また梁行が1間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-11°-Eである。

規模は、桁行総長6.3m、梁行総長4.5m、平面積28.35㎡、平面指数71.42である。桁行柱間寸法は2.10m(7尺)、梁行柱間寸法は4.50m(15尺)である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は0.44m、深さ0.40mである。P5で柱痕跡が確認された。

出土遺物は、内耳土銅5点52gが出土した。鉄3はP7から出土した煙管雁首で、火皿補強帯・脂反しの湾曲から17世紀後半～18世紀前半であろう。

SB-404 (第171・191図、第60表、図版二八・二九・四〇)

調査区中央～東部の19-21・20-21グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-402・405・406、掘立柱崩跡SA-408と重複し新旧関係は不明である。掘立柱建物跡SB-400・401・402・403・405・406・407・409と共に規則的な配置をとる。

桁行4間、梁行1間の東西棟、側柱建物跡である。P11～15は廂にしては出が小さすぎ、建物跡に伴う掘立柱崩跡とも考えられる。また梁行が1間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-80°-Wである。

規模は、桁行総長7.8m、梁行総長4.8m、平面積37.44㎡、平面指数61.53である。桁行柱間寸法は1.95m(6.5尺)、梁行柱間寸法は4.80m(16尺)である。

柱穴の掘方形状は円形もしくは不整形で、掘方規模は0.43m、深さ0.55mである。P11～15の掘方形状は円形で、掘方規模は0.38m、深さ0.46mである。

出土遺物は、内耳土銅3点71g、砥石1点107g、総量4点178gと縄文式土器1点15gが出土した。

SB-405 (第172図、図版二八・二九)

調査区中央～東部の20-21グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-402・404・406・407・409と重複し新旧関係は不明である。掘立柱建物跡SB-400・401・402・403・404・406・407・409と共に規則的な配置をとる。

桁行6間、梁行1間の東西棟、側柱建物跡である。また梁行が1間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-83°-Wである。

規模は、桁行総長10.8m、梁行総長5.4m、平面積58.32㎡、平面指数50.00である。桁行柱間寸法は1.80m(6尺)、梁行柱間寸法は5.40m(18尺)である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は0.42m、深さ0.49mである。

出土遺物は確認されていない。

SB-406 (第173図、図版二九)

調査区東部の20-21グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-404・405・407・409と重複するが新旧関係は不明である。掘立柱建物跡SB-400・401・402・403・404・405・407・409と共に規則的な配置をとる。

桁行2間、梁行2間の東西棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-85°-Wである。

規模は、桁行総長4.2m、梁行総長3.6m、平面積15.12㎡、平面指数85.72である。桁行柱間寸法は2.10m(7尺)、梁行柱間寸法は1.80m(6尺)である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は0.30m、深さ0.32mである。

出土遺物は確認されていない。

SB-407 (第174図、図版二九)

調査区東部の20-21グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-405・406・409と重複し、SB-409が新しい。P1・2・4・5はSB-409によって壊されている。掘立柱建物跡SB-400・401・402・403・404・405・406・409と共に規則的な配置をとる。

桁行4間、梁行2間の南北棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-5°-Eである。

規模は、桁行総長7.2m、梁行総長3.9m、平面積28.08㎡、平面指数54.16である。桁行柱間寸法は1.80m(6尺)、梁行柱間寸法は1.95m(6.5尺)である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は0.31m、深さ0.27mである。

出土遺物は確認されていない。

SB-409 (第175・191図、第60表、図版二九・四〇)

調査区東部の20-21グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-405・406・407と重複する。SB-407より本遺構が新しい。掘立柱建物跡SB-400・401・402・403・404・405・406・407と共に規則的な配置をとる。

桁行5間、梁行1間の南北棟、側柱建物跡である。また梁行が1間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-5°-Eである。

規模は、桁行総長9.0m、梁行総長3.3m、平面積29.70㎡、平面指数36.66である。桁行柱間寸法は1.80m(6尺)、梁行柱間寸法は3.30m(11尺)である。

柱穴の掘方形状は円形もしくは楕円形で、掘方規模は0.33m、深さ0.32mである。

出土遺物は遺物は、P4から瀬戸美濃碗1点50g、伊万里碗1点68g、総量2点118gと自然礫387gが出

土している。7は無文の磁器碗で17世紀か。8は瀬戸美濃丸碗。

SB-411 (第176図、図版二九)

調査区東部の21-21グリッドに位置する。北側に掘立柱崩跡SA-410が位置するが、建物跡はなく単独で存在する。

桁行2間、梁行1間の南北棟、側柱建物跡である。また梁行が1間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-10°-Eである。

規模は、桁行総長3.6m、梁行総長3.0m、平面積10.80㎡、平面指数83.33である。桁行柱間寸法は1.80m(6尺)、梁行柱間寸法は3.00m(10尺)である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は0.23m、深さ0.12mである。

出土遺物は確認されていない。

SB-412 (第177図、図版二九)

調査区南東部の21-22グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-414・415・416・417・418・419・420・421・422・423・425・426・427と共に規則的な配置をとる。

桁行3間、梁行1間の東西棟、側柱建物跡である。また梁行が1間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-85°-Wである。

規模は、桁行総長6.0m、梁行総長3.9m、平面積23.40㎡、平面指数65.00である。桁行柱間寸法は2.00m(6.66尺)、梁行柱間寸法は3.90m(13尺)である。

柱穴の掘方形状は円形もしくは不整形で、掘方規模は0.30m、深さ0.16mである。

出土遺物は確認されていない。

SB-414 (第178図、図版二九・三〇)

調査区南東部の20-22グリッドに位置する。掘立柱崩跡SA-413と重複するが新旧は不明である。掘立柱建物跡SB-412・415・416・417・418・419・420・421・422・423・425・426・427と共に規則的な配置をとる。

桁行3間、梁行2間の東西棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-85°-Wである。

規模は、桁行総長6.3m、梁行総長3.9m、平面積24.57㎡、平面指数61.90である。桁行柱間寸法は2.10m(7尺)、梁行柱間寸法は1.95m(6.5尺)である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は0.28m、深さ0.34mである。

出土遺物は確認されていない。

SB-415 (第179図、図版二九)

調査区南東部の21-23グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-416・417と重複し、SB-416より本建物跡が古い。掘立柱建物跡SB-412・414・416・417・418・419・420・421・422・423・425・426・427と共に規則的な配置をとる。

桁行4間、梁行1間の東西棟、側柱建物跡である。また梁行が1間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-85°-Wである。

規模は、桁行総長7.5m、梁行総長4.5m、平面積33.75㎡、平面指数60.00である。桁行柱間寸法は1.87m

(6.25 尺)、梁行柱間寸法は 4.50m (15 尺) である。

柱穴の掘方形状は円形もしくは楕円形で、掘方規模は 0.36m、深さ 0.33m である。

出土遺物は確認されていない。

SB-416 (第 180・191 図、第 60 表、図版二九・三〇・四〇)

調査区南東部の 21-23 グリッドに位置する。掘立柱建物跡 SB-415・417 と重複し、SB-415 より新しい。掘立柱建物跡 SB-412・414・415・417・418・419・420・421・422・423・425・426・427 と共に規則的な配置をとる。

桁行 3 間、梁行 1 間の東西棟、側柱建物跡である。また梁行が 1 間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-87°-W である。

規模は、桁行総長 6.9m、梁行総長 4.8m、平面積 33.12 m²、平面指数 69.56 である。桁行柱間寸法は 2.30m (7.66 尺)、梁行柱間寸法は 4.80m (16 尺) である。

柱穴の掘方形状は円形もしくは楕円形で、掘方規模は 0.38m、深さ 0.45m である。

出土遺物は、9 の土師質土器皿 1 点 98g が出土した。口縁部に僅かに炭化物の付着がみられ、灯明皿として使用したものと思われる。15 世紀末～16 世紀前半の所産であろう。

SB-417 (第 181 図、図版二九)

調査区南東部の 21-23 グリッドに位置する。掘立柱建物跡 SB-415・416・418 と重複するが新旧関係は不明である。掘立柱建物跡 SB-412・414・415・416・418・419・420・421・422・423・425・426・427 と共に規則的な配置をとる。

桁行 4 間、梁行 1 間の東西棟、側柱建物跡である。また梁行が 1 間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-83°-W である。

規模は、桁行総長 7.8m、梁行総長 4.2m、平面積 32.76 m²、平面指数 53.84 である。桁行柱間寸法は 1.95m (6.5 尺)、梁行柱間寸法は 4.20m (14 尺) である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は 0.28m、深さ 0.27m である。

出土遺物は確認されていない。

SB-418 (第 182 図、図版二九・三〇)

調査区南東部の 21-23 グリッドに位置する。掘立柱建物跡 SB-417・SE-260 と重複するが新旧関係は不明である。SB-412・414・415・416・417・419・420・421・422・423・425・426・427 と共に規則的な配置をとる。

桁行 3 間、梁行 1 間の南北棟、側柱建物跡である。また梁行が 1 間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-5°-E である。

規模は、桁行総長 6.6m、梁行総長 5.4m、平面積 35.64 m²、平面指数 81.81 である。桁行柱間寸法は 2.20m (7.33 尺)、梁行柱間寸法は 5.40m (18 尺) である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は 0.24m、深さ 0.12m である。P2・6 で柱痕跡が確認された。

出土遺物は確認されていない。

SB-419 (第 183 図、図版二九)

調査区南東部の 20-23 グリッドに位置する。掘立柱建物跡 SB-420、掘立柱崩跡 SA-424 と重複する。新旧関係は SB-419 < SB-420・SA-424 である。SB-412・414・415・416・417・418・420・421・422・423・425・426・427 と共に規則的な配置をとる。

桁行 4 間、梁行 1 間の南北棟、側柱建物跡である。また梁行が 1 間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-3° -E である。

規模は、桁行総長 8.1m、梁行総長 3.9m、平面積 31.59 m²、平面指数 48.14 である。桁行柱間寸法は 2.02m (6.75 尺)、梁行柱間寸法は 3.90m (13 尺) である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は 0.37m、深さ 0.33m である。P4 で柱痕跡が確認された。

出土遺物は、内耳土鍋 3 点 92g が出土した。

SB-420 (第 184 図、図版二九)

調査区南東部の 20-23 グリッドに位置する。掘立柱建物跡 SB-419 と重複し、本建物跡が新しい。SB-412・414・415・416・417・418・419・421・422・423・425・426・427 と共に規則的な配置をとる。

桁行 5 間、梁行 2 間の東西棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-85° -W である。

規模は、桁行総長 9.6m、梁行総長 4.5m、平面積 43.20 m²、平面指数 46.87 である。桁行柱間寸法は 1.92m (6.4 尺)、梁行柱間寸法は 2.25m (7.5 尺) である。

柱穴の掘方形状は円形もしくは楕円形で、掘方規模は 0.38m、深さ 0.41m である。両妻柱列中央の P2・9 は柱穴規模がやや小さい。P6・10・11 で柱痕跡が確認された。

出土遺物は、土師質土器皿 1 点 8g と自然礫 8g が出土した。

SB-421 (第 185 図、図版二九・三〇)

調査区南東隅の 21-24 グリッドに位置する。掘立柱建物跡 SB-422 と重複するが新旧関係は不明である。SB-412・414・415・416・417・418・419・420・422・423・425・426・427 と共に規則的な配置をとる。

桁行 2 間、梁行 2 間の側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-7° -E である。

規模は、桁行総長 3.9m、梁行総長 3.9m、平面積 15.21 m²、平面指数 100.00 である。桁行柱間寸法は 1.95m (6.5 尺)、梁行柱間寸法は 1.95m (6.5 尺) である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は 0.41m、深さ 0.28m である。

出土遺物は、瀬戸美濃碗 1 点 4g と縄文式土器 10 点 161g が出土した。

SB-422 (第 186 図、図版二九・三〇)

調査区南東隅の 21-24 グリッドに位置する。掘立柱建物跡 SB-421 と重複するが新旧関係は不明である。SB-412・414・415・416・417・418・419・420・421・423・425・426・427 と共に規則的な配置をとる。

桁行 4 間、梁行 1 間の東西棟、側柱建物跡である。また梁行が 1 間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-82° -W である。

規模は、桁行総長 6.9m、梁行総長 4.2m、平面積 28.98 m²、平面指数 60.86 である。桁行柱間寸法は 1.72m (5.75 尺)、梁行柱間寸法は 4.20m (14 尺) である。

柱穴の掘方形状は円形もしくは楕円形で、掘方規模は 0.30m、深さ 0.26m である。

出土遺物は確認されていない。

SB-423 (第187図、図版二九・三〇)

調査区南東部の20・24・21・24グリッドに位置する。SB-412・414・415・416・417・418・419・420・421・422・425・426・427と共に規則的な配置をとる。

桁行2間、梁行1間の南北棟、側柱建物跡である。また梁行が1間で長大な梁間一間型建物である。桁行の示す軸方向は、N-1°-Wである。

規模は、桁行総長4.2m、梁行総長3.3m、平面積13.86㎡、平面指数78.57である。桁行柱間寸法は2.10m(7尺)、梁行柱間寸法は3.30m(11尺)である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は0.37m、深さ0.44mである。

出土遺物は確認されていない。

SB-425 (第188図、図版三〇)

調査区南東部の20・23グリッドに位置する。SB-412・414・415・416・417・418・419・420・421・422・423・426・427と共に規則的な配置をとる。

桁行2間、梁行1間の南北棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-7°-Eである。

規模は、桁行総長2.1m、梁行総長2.4m、平面積5.04㎡、平面指数87.50である。桁行柱間寸法は1.05m(3.5尺)、梁行柱間寸法は2.40m(8尺)である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は0.31m、深さ0.46mである。

出土遺物は確認されていない。

SB-426 (第189図、図版三〇)

調査区南東部の20・23グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-427、SE-234と重複し、SE-234より新しい。SB-412・414・415・416・417・418・419・420・421・422・423・425・427と共に規則的な配置をとる。

桁行5間、梁行2間の南北棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-6°-Eである。

規模は、桁行総長9.3m、梁行総長4.5m、平面積41.85㎡、平面指数48.38である。桁行柱間寸法は1.86m(6.2尺)、梁行柱間寸法は2.25m(7.5尺)である。

柱穴の掘方形状は円形もしくは楕円形で、掘方規模は0.32m、深さ0.42mである。P2・3・11・12で柱痕跡が確認された。

出土遺物は確認されていない。

SB-427 (第190図、図版三〇)

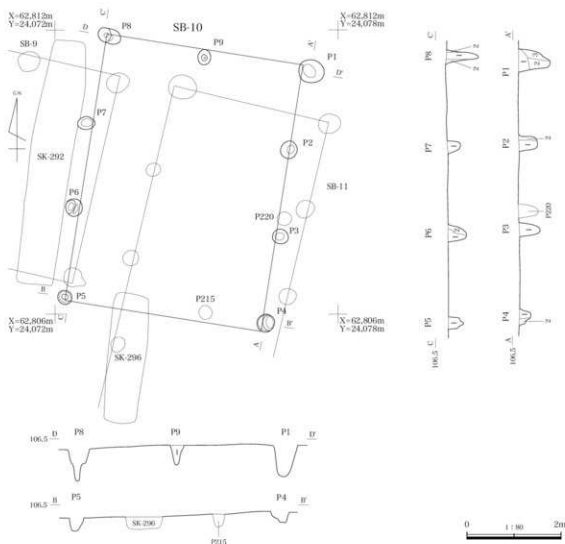
調査区南東部の20・23グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-426と重複するが新旧関係は不明である。SB-412・414・415・416・417・418・419・420・421・422・423・425・426と共に規則的な配置をとる。

桁行2間、梁行2間の側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-7°-Eである。

規模は、桁行総長3.0m、梁行総長3.0m、平面積9.00㎡、平面指数100.00である。桁行柱間寸法は1.50m(5尺)、梁行柱間寸法は1.50m(5尺)である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は0.27m、深さ0.28mである。

出土遺物は確認されていない。



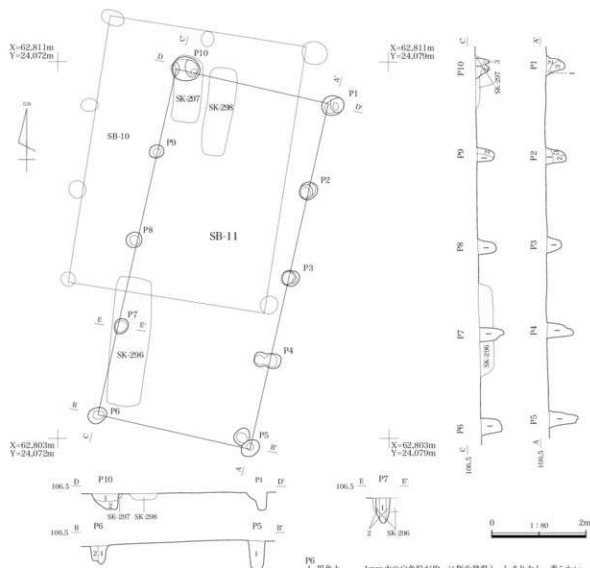
SB-10 土層説明・計測表

- P1**
 1 黒色土 黒色土純層。(柱状穴埋土)
 2 黒色土 0.5~1mm 大の今市軽石粒が均一に少量混入。しまりなし。
 3 黒色土 1~5mm 大の今市軽石粒が均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状埋方土)
- P2**
 1 黒色土 黒色土純層。(柱状穴埋土)
 2 黒色土 0.5~1mm 大の今市軽石粒が均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状埋方土)
- P3**
 1 黒色土 黒色土純層。
- P4**
 1 黒色土 黒色土純層。(柱状穴埋土)
 2 黒色土 0.5~1mm 大の今市軽石粒が均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状埋方土)

- P5**
 1 黒色土 黒色土純層。
- P6**
 1 黒色土 黒色土純層。(柱状穴埋土)
 2 黒色土 0.5~1mm 大の今市軽石粒が均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状埋方土)
- P7**
 1 黒色土 黒色土純層。
- P8**
 1 黒色土 黒色土純層。(柱状埋)
 2 黒色土 0.5~1mm 大の今市軽石粒が均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状埋方土)
- P9**
 1 黒色土 黒色土純層。

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.57	0.55	0.67	P6	円形	0.39	0.37	0.52
P2	円形	0.38	0.37	0.40	P7	円形	0.37	0.25	0.30
P3	円形	0.35	0.31	0.47	P8	楕円形	0.48	0.30	0.65
P4	円形	0.37	0.36	0.23	P9	円形	0.31	0.26	0.42
P5	円形	0.30	0.30	0.29					

第160図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-10 実測図



SB-11 土層説明・Pit 計画表

- P1**
 1 黒色土 1mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。
 (柱状穴埋土)
 2 黒色土 1mm 大の赤色粒は均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。
 (柱状穴埋土)
 3 黄茶褐色土 1~2mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。
 (柱状穴埋土)
- P2**
 1 黒色土 2~8mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。
 (柱状穴埋土)
 2 黒色土 1mm 大の白色粒が均一に極少量混入。しまりなし。柔らかい。
 (柱状穴埋土)
 3 黒色土 5mm 大の七本総塊が散在的に少量混入。しまりあり。柔らかい。
 (柱状穴埋土)
- P3**
 1 黒色土 2~8mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。
- P4**
 1 黒色土 2~8mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。
- P5**
 1 黒色土 2~8mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。

- P6**
 1 黒色土 1mm 大の白色粒が均一に極少量混入。しまりなし。柔らかい。
 (柱状穴埋土)
 2 黒色土 5mm 大の七本総塊が散在的に少量混入。しまりあり。柔らかい。
 (柱状穴埋土)

- P7**
 1 黒色土 1mm 大の白色粒が均一に極少量混入。しまりなし。柔らかい。
 (柱状穴埋土)
 2 黒色土 5mm 大の七本総塊が散在的に少量混入。しまりあり。柔らかい。
 (柱状穴埋土)

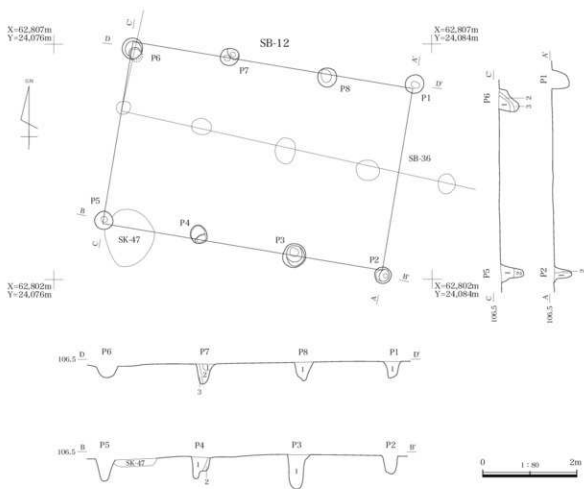
- P8**
 1 黒色土 2~8mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。

- P9**
 1 黒色土 1mm 大の白色粒が均一に極少量混入。しまりなし。柔らかい。
 (柱状穴埋土)
 2 黒色土 5mm 大の七本総塊が散在的に少量混入。しまりあり。柔らかい。
 (柱状穴埋土)

- P10**
 1 黒色土 2~8mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。
 (柱状穴埋土)
 2 黒色土 1mm 大の白色粒が均一に極少量混入。しまりなし。柔らかい。
 (柱状穴埋土)
 3 黒色土 5mm 大の七本総塊が散在的に少量混入。しまりあり。柔らかい。
 (柱状穴埋土)

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.46	0.41	0.43	P6	円形	0.40	0.32	0.44
P2	円形	0.41	0.37	0.50	P7	円形	0.35	0.30	0.55
P3	円形	0.36	0.35	0.41	P8	円形	0.35	0.34	0.50
P4	不整形	0.56	0.25	0.53	P9	円形	0.31	0.30	0.38
P5	円形	0.40	0.32	0.59	P10	円形	0.61	0.49	0.31

第 161 図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-11 実測図



SB-12 土層説明・Pn計測表

P1

1 黒色土 黒色土純層。

P2

1 黒色土 黒色土純層。(柱穴取穴埋土)

2 黒色土 1~2mm大の今市軽石が散在的に少量混入。しまりなし。柔らかい。(柱穴埋土)

P3

1 黒色土 黒色土純層。

P4

1 黒色土 0.5~1mm大の今市軽石が均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。(柱穴取穴埋土)

2 黒色土 1~2mm大の今市軽石が散在的に少量混入。しまりなし。柔らかい。(柱穴埋土)

P5

1 黒色土 0.5~1mm大の今市軽石が均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。

2 黒色土 黒色土純層。

P6

1 黒色土 1mm大の今市軽石が均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。

2 黒色土 1.5~10mm大の今市軽石が均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。

3 黒色土 0.5~1mm大の今市軽石が均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。

P7

1 黒色土 黒色土純層。(柱穴取穴埋土)

2 黒色土 1~2mm大の今市軽石が散在的に少量混入。しまりなし。柔らかい。(柱穴取穴埋土)

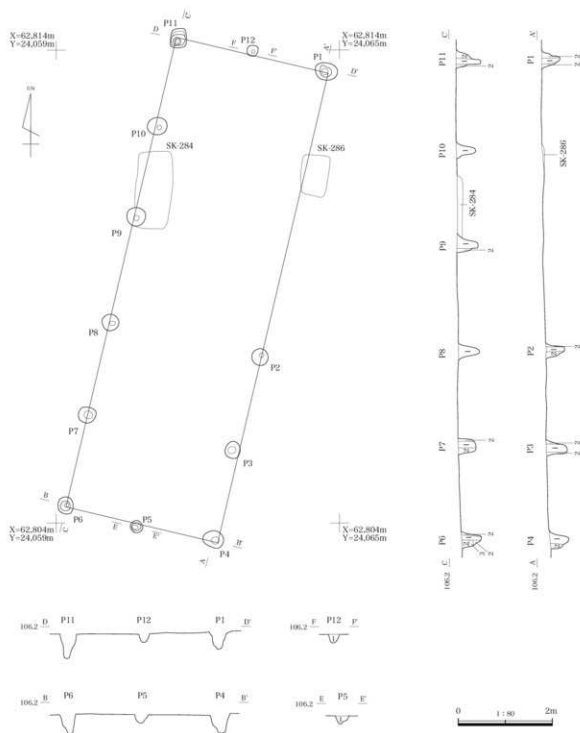
3 黒色土 1mm大の今市軽石が極少量混入。しまり無し。柔らかい。(柱穴埋土)

P8

1 黒色土 黒色土純層。

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.40	0.39	0.40	P5	円形	0.39	0.37	0.49
P2	円形	0.35	0.35	0.40	P6	円形	0.45	0.43	0.49
P3	円形	0.51	0.49	0.85	P7	円形	0.38	0.36	0.48
P4	円形	0.40	0.35	0.52	P8	円形	0.41	0.41	0.52

第162図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-12実測図

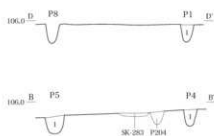
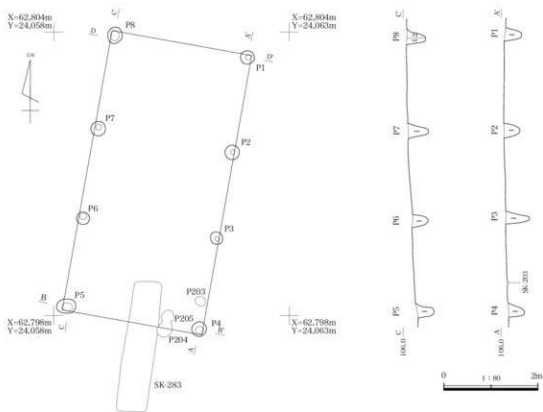


第 163 図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-13 実測図

SB-13 土器説明・Pt 計測表

P1	1 黒色土	黒色土純質。不純物を含まない、やや粘質。しまりなし。柔らかい。(柱状跡)
	2 黒色土	0.5~1mm 大の七本椀・今市軽石粒が散在に少量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状方理土)
P2	1 黒色土	黒色土純質。不純物を含まない、やや粘質。しまりなし。柔らかい。(柱状跡)
	2 黒色土	0.5~1mm 大の七本椀・今市軽石粒が散在に少量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状方理土)
P3	1 黒色土	黒色土純質。不純物を含まない、やや粘質。しまりなし。柔らかい。(柱状跡)
	2 黒色土	0.5~1mm 大の七本椀・今市軽石粒が散在に少量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状方理土)
P4	1 黒色土	黒色土純質。不純物を含まない、やや粘質。しまりなし。柔らかい。(柱状跡)
	2 黒色土	0.5~1mm 大の七本椀・今市軽石粒が散在に少量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状方理土)
P5	1 黒茶色土	0.5~1mm 大の七本椀軽石粒が均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。
P6	1 黒色土	黒色土純質。不純物を含まない、やや粘質。しまりなし。柔らかい。(柱状跡)
	2 黒色土	0.5~1mm 大の七本椀・今市軽石粒が散在に少量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状方理土)
P7	3 黒赤褐色土	黒色土中に今市軽石塊が混入。しまりなし。柔らかい。(柱状方理土)
P7	1 黒色土	黒色土純質。不純物を含まない、やや粘質。しまりなし。柔らかい。(柱状跡)
	2 黒色土	0.5~1mm 大の七本椀・今市軽石粒が散在に少量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状方理土)
P8	1 黒色土	2~5mm 大の七本椀・今市軽石粒が均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。
P9	1 黒色土	黒色土純質。不純物を含まない、やや粘質。しまりなし。柔らかい。(柱状跡)
	2 黒色土	0.5~1mm 大の七本椀・今市軽石粒が散在に少量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状方理土)
P10	1 黒色土	2~5mm 大の七本椀・今市軽石粒が均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。
P11	1 黒色土	黒色土純質。不純物を含まない、やや粘質。しまりなし。柔らかい。(柱状跡)
	2 黒色土	0.5~1mm 大の七本椀・今市軽石粒が散在に少量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状方理土)
P12	1 黒茶色土	0.5~1mm 大の七本椀軽石粒が均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。

Pt 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pt 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.48	0.38	0.40	P7	円形	0.35	0.33	0.40
P2	円形	0.36	0.35	0.38	P8	円形	0.37	0.36	0.42
P3	円形	0.35	0.33	0.50	P9	円形	0.39	0.38	0.47
P4	円形	0.45	0.35	0.41	P10	円形	0.42	0.36	0.43
P5	円形	0.26	0.25	0.19	P11	方形	0.40	0.35	0.56
P6	円形	0.35	0.33	0.33	P12	円形	0.24	0.22	0.21

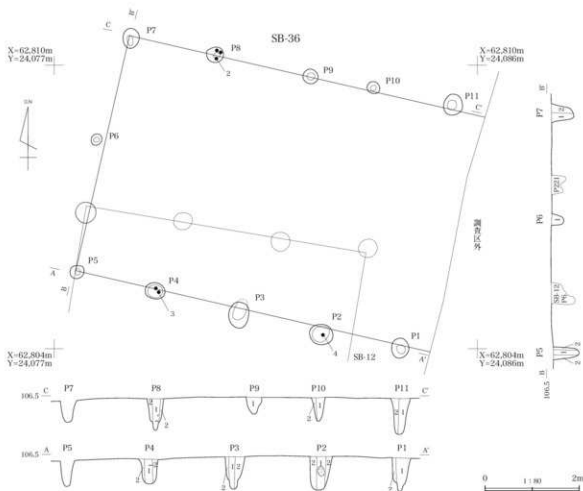


SB-14 土層説明・Pit 計測表

- P1
1 黒褐色土 今市軽石微粒が少量混入。柔らかい。
- P2
1 黒褐色土 今市軽石微粒が少量混入。柔らかい。
- P3
1 黒褐色土 今市軽石微粒が少量混入。柔らかい。
- P4
1 黒褐色土 今市軽石微粒が少量混入。柔らかい。
- P5
1 黒褐色土 今市軽石微粒が少量混入。柔らかい。
- P6
1 黒褐色土 今市軽石微粒が少量混入。柔らかい。
- P7
1 黒褐色土 今市軽石微粒が少量混入。柔らかい。
- P8
1 黒褐色土 今市軽石粒が少量混入。柔らかい。(柱取穴埋土)
2 黒褐色土 今市軽石塊が多量。七本板軽石微粒が少量混入。柔らかい。(柱取方埋土)

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.28	0.28	0.36	P5	楕円形	0.37	0.29	0.36
P2	円形	0.31	0.30	0.34	P6	円形	0.28	0.26	0.44
P3	円形	0.26	0.26	0.50	P7	円形	0.32	0.32	0.51
P4	円形	0.32	0.30	0.36	P8	円形	0.36	0.31	0.46

第 164 図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-14 実測図



SB-36 土層説明・Pit 計測表

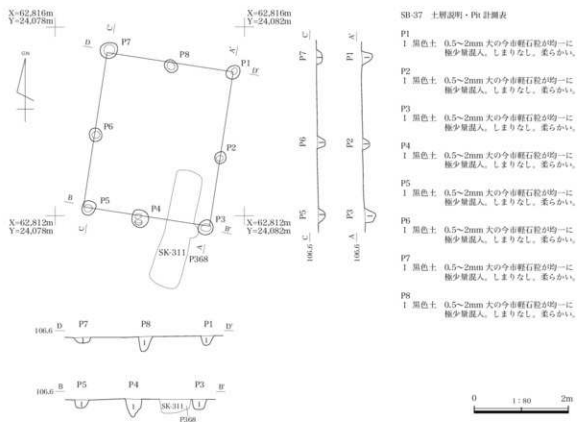
- P1**
1 黒色土 黒色土純層。(柱状取穴埋土)
2 黒色土 1~5mm 大の今市軽石粒が散在的に多量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状方埋土)
- P2**
1 黒色土 黒色土純層。(柱状跡)
2 黒色土 1~5mm 大の今市軽石粒が散在的に多量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状方埋土)
- P3**
1 黒色土 70mm 大の今市軽石塊が散在的に多量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状跡)
2 黒色土 1~5mm 大の今市軽石粒が散在的に多量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状方埋土)
- P4**
1 黒色土 黒色土純層。(柱状跡)
2 黒色土 1~5mm 大の今市軽石粒が散在的に多量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状方埋土)
- P5**
1 黒色土 黒色土純層。(柱状跡)
2 黒色土 1~5mm 大の今市軽石粒が散在的に多量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状方埋土)

- P6**
1 黒色土 黒色土純層。
- P7**
1 黒色土 黒色土純層。(柱状取穴埋土)
2 黒色土 1~5mm 大の今市軽石粒が散在的に多量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状方埋土)
- P8**
1 黒色土 黒色土純層。(柱状跡)
2 黒色土 1~5mm 大の今市軽石粒が散在的に多量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状方埋土)
- P9**
1 黒茶色土 2mm 大の今市軽石粒が散在的に少量混入。しまりなし。柔らかい。
- P10**
1 黒色土 1~5mm 大の今市軽石粒が散在的に多量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状取穴埋土)
2 黒茶色土 2mm 大の今市軽石粒が散在的に少量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状方埋土)
- P11**
1 黒色土 黒色土純層。(柱状取穴埋土)
2 黒色土 1~5mm 大の今市軽石粒が散在的に多量混入。しまりなし。柔らかい。(柱状方埋土)

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.44	0.37	0.66	P7	円形	0.40	0.34	0.49
P2	円形	0.50	0.45	0.56	P8	円形	0.37	0.32	(0.55)
P3	円形	0.54	0.42	0.59	P9	円形	0.33	0.31	0.30
P4	円形	0.42	0.35	0.55	P10	円形	0.27	0.25	0.45
P5	円形	0.26	0.26	0.57	P11	円形	0.43	0.40	0.75
P6	円形	0.23	0.22	0.24					

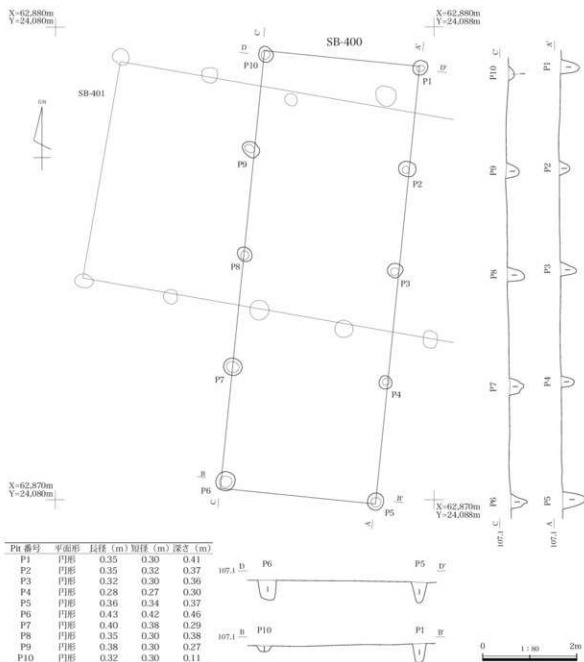
第 165 図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-36 実測図

第VI章 星ノ宮遺跡の調査



Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.30	0.25	0.23	P5	円形	0.31	0.27	0.13
P2	円形	0.26	0.25	0.19	P6	円形	0.29	0.25	0.19
P3	円形	0.32	0.32	0.24	P7	円形	0.35	0.35	0.11
P4	円形	0.35	0.33	0.36	P8	円形	0.30	0.25	0.38

第 166 図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-37 実測図



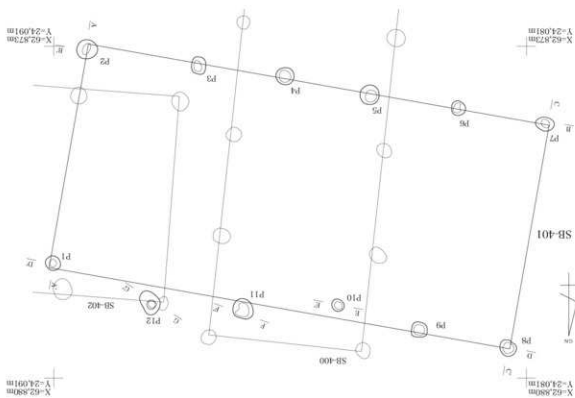
SB-400 土層説明・Pt 計測表

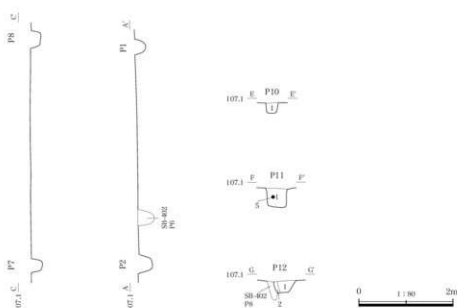
P1	黒色土	2mm 前後大の七本板軽石散粒が極少量混入。柔らかい。	P6	黒色土	3mm 大の今巾軽石散粒が少量混入。柔らかい。
P2	黒色土	2mm 前後大の七本板軽石散粒が極少量混入。柔らかい。	P7	黒色土	3mm 大の今巾軽石散粒が少量混入。柔らかい。
P3	黒色土	5mm 大の今巾軽石散粒が極少量混入。柔らかい。	P8	黒色土	3mm 大の今巾軽石散粒が少量混入。柔らかい。
P4	黒色土	2mm 大の今巾軽石散粒が極少量混入。柔らかい。	P9	黒色土	2mm 前後大の七本板軽石散粒が極少量混入。柔らかい。
P5	黒褐色土	2mm 大の七本板軽石散粒、10~20mm 大の今巾軽石散粒が少量混入。柔らかい。	P10	黒色土	2mm 前後大の七本板軽石散粒が極少量混入。柔らかい。

第167図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-400 実測図

第 168 图 雁/京道路北侧草区 SB-401 测线图

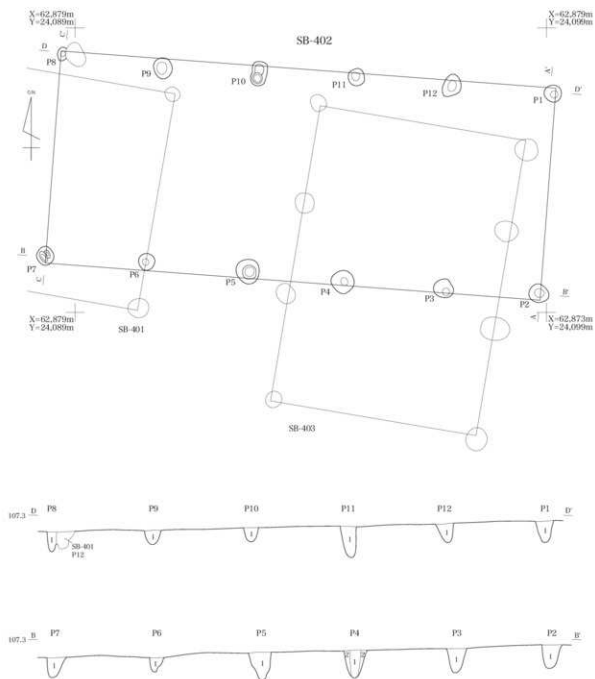
Pt 号	平面形	直径 (m)	加径 (m)	深径 (m)	Pt 号	平面形	直径 (m)	加径 (m)	深径 (m)
P1	円形	0.34	0.34	0.25	P7	楕円形	0.40	0.30	0.25
P2	円形	0.43	0.43	0.42	P8	円形	0.35	0.35	0.23
P3	円形	0.37	0.30	0.44	P9	円形	0.33	0.32	0.17
P4	円形	0.38	0.36	0.29	P10	円形	0.26	0.26	0.26
P5	円形	0.43	0.41	0.45	P11	円形	0.45	0.43	0.43
P6	円形	0.30	0.30	0.29	P12	円形	0.60	0.38	0.43



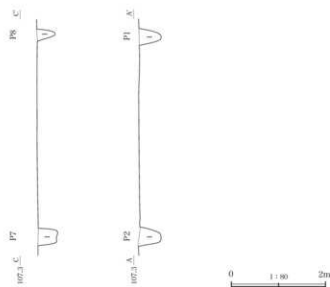


SB-401 土層説明・Pit計画表

P7	1 黒色土: 黒色土純層, 柔らかい。	P7	1 黒褐色土: 2~5mm 大の今市軽石微粒・七本板軽石微粒が少量混入, 柔らかい。(柱状穴埋土)
P8	1 黒色土: 2~3mm 大の今市軽石微粒少量混入, 柔らかい。(柱状跡)	2 黒褐色土: 20~30mm 大の今市軽石塊は少量混入, やや強い。(柱状埋土)	2 黒褐色土: 今市軽石塊, 今市軽石粒が少量混入, 柔らかい。(柱状埋土)
P9	1 黒色土: 2~3mm 大の今市軽石微粒少量混入, 柔らかい。	2 黄褐色土: 20~30mm 大の今市軽石塊は少量混入, やや強い。(柱状埋土)	P8
P10	1 黒色土: 2~3mm 大の今市軽石微粒少量混入, 柔らかい。(柱状穴埋土)	2 黄褐色土: 20~30mm 大の今市軽石塊は少量混入, やや強い。(柱状埋土)	1 黒色土: 今市軽石微粒が少量混入, 柔らかい。(柱状跡)
P11	1 黒色土: 5~10mm 大の今市軽石粒が少量混入, 柔らかい。(柱状穴埋土)	2 黒褐色土: 20~30mm 大の今市軽石塊が少量混入, 柔らかい。(柱状埋土)	2 黒色土: 30mm 大の今市軽石粒・七本板軽石粒が少量混入, やや強い。(柱状埋土)
P12	1 黒色土: 2~5mm 大の七本板軽石粒が少量混入, 柔らかい。	2 黄褐色土: 10mm 前後の今市軽石粒が少量混入, 弱い。	P9
			1 黒色土: 2~5mm 大の七本板軽石粒が少量混入, 柔らかい。
			P10
			1 黒色土: 2~5mm 大の七本板軽石粒が少量混入, 柔らかい。
			P11
			1 黒色土: 2mm 大の今市軽石粒・七本板軽石粒が少量混入, 柔らかい。
			P12
			1 黒色土: 2~3mm 大の今市軽石微粒・七本板軽石微粒が少量混入, 柔らかい。
			2 黄褐色土: 10mm 前後の今市軽石粒が少量混入, 弱い。



第169図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-402 実測図

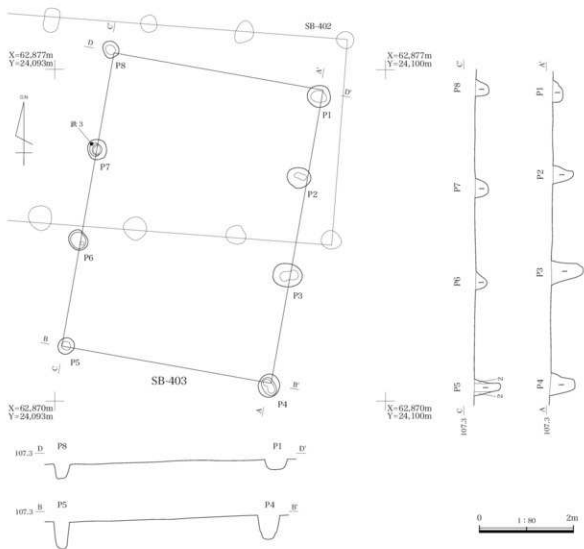


SB-402 土坑説明・Pit 計測表

- P1
1 黒色土 10～20mm 大の今市軽石粒、5mm 大の七本板軽石微粒が少量混入。柔らかい。
- P2
1 黒色土 20mm 大の今市軽石粒が少量混入。柔らかい。
- P3
1 黒色土 10～20mm 大の今市軽石粒、5mm 大の七本板軽石微粒が少量混入。柔らかい。
- P4
1 黒色土 今市軽石微粒が少量混入。柔らかい。(柱遺跡)
2 黒色土 10～15mm 大の今市軽石粒が多量混入。やや固い。(柱遺跡上)
- P5
1 黒色土 今市軽石微粒が極少量混入。柔らかい。
- P6
1 黒色土 今市軽石微粒が極少量混入。柔らかい。

- P7
1 黒色土 今市軽石微粒が極少量混入。柔らかい。
- P8
1 黒色土 今市軽石微粒が極少量混入。柔らかい。
- P9
1 黒色土 今市軽石微粒が極少量混入。柔らかい。
- P10
1 黒色土 5mm 大の今市軽石粒・七本板軽石微粒が少量混入。柔らかい。
- P11
1 黒色土 今市軽石微粒が極少量混入。柔らかい。
- P12
1 黒色土 5～10mm 大の今市軽石粒・七本板軽石粒が多量混入。やや固い。

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.37	0.35	0.48	P7	円形	0.40	0.38	0.41
P2	円形	0.43	0.40	0.47	P8	円形	0.30	(0.20)	0.45
P3	円形	0.40	0.40	0.50	P9	円形	0.45	0.42	0.33
P4	円形	0.50	0.49	0.60	P10	楕円形	0.50	0.31	0.48
P5	円形	0.52	0.50	0.66	P11	円形	0.38	0.35	0.66
P6	円形	0.35	0.34	0.33	P12	楕円形	0.48	0.35	0.42

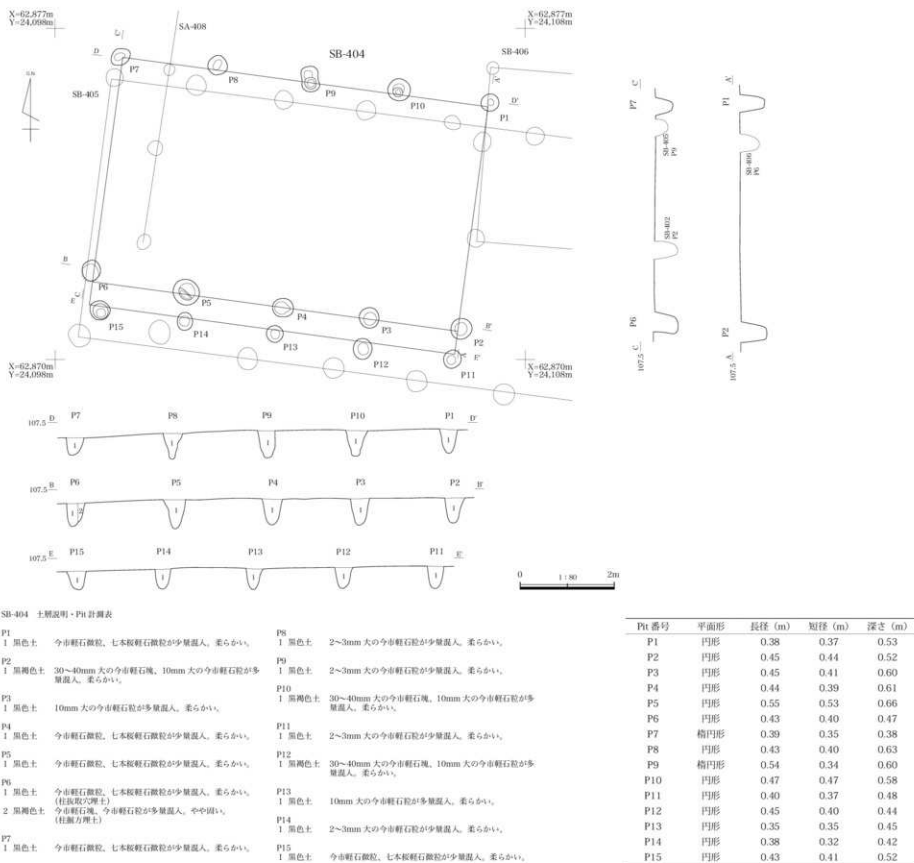


SB-403 土質説明・Pit 計測表

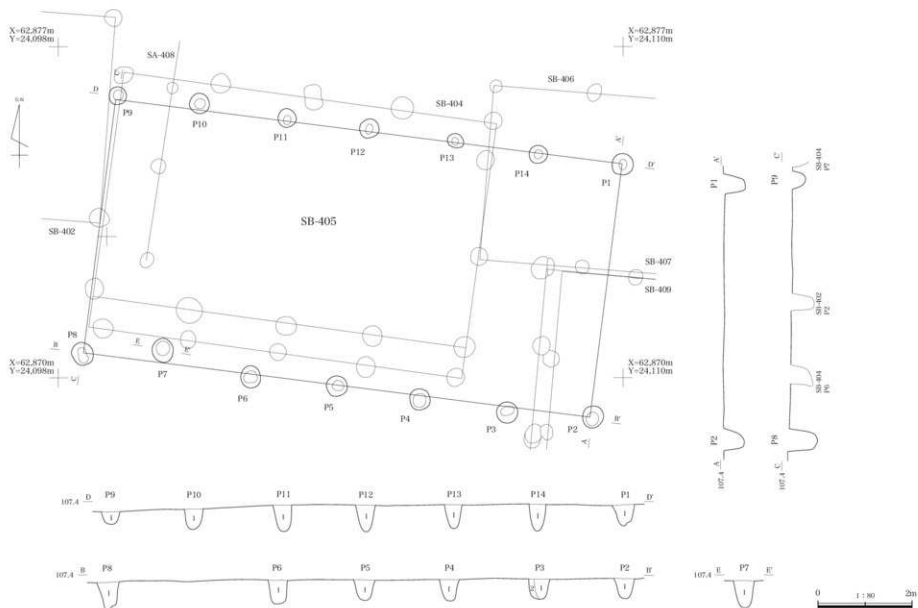
- | | | | |
|----|--|---|--|
| P1 | 1 黒色土 5~10mm 大の今市軽石粒が少量混入。柔らかい。 | 2 黒褐色土 20~30mm 大の今市軽石塊、5~10mm 大の今市軽石粒、七本板軽石微粒が多量混入。やや固い。(柱側方埋土) | |
| P2 | 1 黒色土 今市軽石粒。七本板軽石粒が多量混入。柔らかい。 | P6 | 1 黒褐色土 20~30mm 大の今市軽石塊、5~10mm 大の今市軽石粒、七本板軽石微粒が多量混入。柔らかい。 |
| P3 | 1 黒褐色土 20~30mm 大の今市軽石塊、5~10mm 大の今市軽石粒、七本板軽石微粒が多量混入。柔らかい。 | P7 | 1 黒褐色土 20~30mm 大の今市軽石塊、5~10mm 大の今市軽石粒、七本板軽石微粒が多量混入。柔らかい。 |
| P4 | 1 黒色土 今市軽石粒。七本板軽石粒が多量混入。柔らかい。 | P8 | 1 黒褐色土 20~30mm 大の今市軽石塊、5~10mm 大の今市軽石粒、七本板軽石微粒が多量混入。柔らかい。 |
| P5 | 1 黒色土 2~3mm 大の七本板微粒が極少量混入。柔らかい。(柱直下) | | |

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.58	0.48	0.21	P5	円形	0.35	0.34	0.60
P2	円形	0.50	0.45	0.41	P6	円形	0.45	0.37	0.25
P3	円形	0.62	0.50	0.65	P7	円形	0.43	0.40	0.33
P4	円形	0.50	0.47	0.52	P8	円形	0.35	0.35	0.29

第 170 図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-403 実測図



第171図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-404 実測図



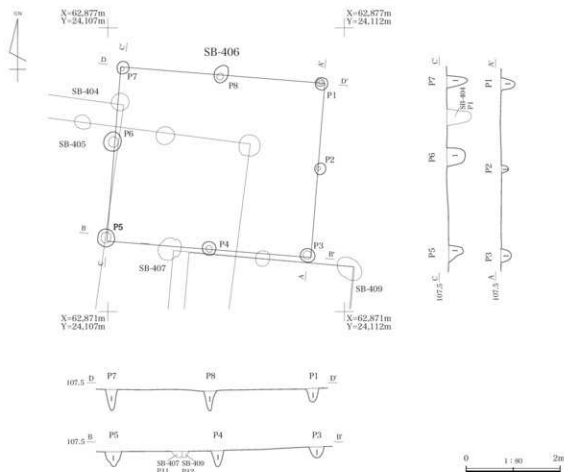
SB-405 土構説明・P坑計測表

- P1
1 黒色土 10~20mm大の今半軽石散粒が少量混入。柔らかい。
- P2
1 黒色土 2~5mm大の今半軽石散粒が少量混入。柔らかい。
- P3
1 黒色土 2mm大の今半軽石散粒が極少量混入。柔らかい。(柱抜穴埋土)
2 黒色土 今半軽石塊。今半軽石散粒が少量混入。やや固い。(柱抜埋土)
- P4
1 黒色土 2mm大の今半軽石散粒が少量混入。柔らかい。
- P5
1 黒色土 2mm大の今半軽石散粒が極少量混入。柔らかい。
- P6
1 黒色土 2mm大の今半軽石散粒が極少量混入。柔らかい。
- P7
1 黒色土 2mm大の今半軽石散粒が極少量混入。柔らかい。

- P8
1 黒色土 2~5mm大の今半軽石散粒が少量混入。柔らかい。
- P9
1 黒色土 2~5mm大の今半軽石散粒が少量混入。柔らかい。
- P10
1 黒色土 2~5mm大の今半軽石散粒が少量混入。柔らかい。
- P11
1 黒色土 10~20mm大の今半軽石散粒、2~5mm大の今半軽石散粒が少量混入。柔らかい。
- P12
1 黒色土 2~5mm大の今半軽石散粒が少量混入。柔らかい。
- P13
1 黒色土 2~5mm大の今半軽石散粒が少量混入。柔らかい。
- P14
1 黒色土 2~5mm大の今半軽石散粒が少量混入。柔らかい。

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.46	0.42	0.45
P2	円形	0.49	0.45	0.43
P3	円形	0.45	0.45	0.52
P4	円形	0.45	0.45	0.45
P5	円形	0.45	0.43	0.49
P6	円形	0.48	0.42	0.49
P7	円形	0.48	0.45	0.57
P8	円形	0.48	0.45	0.62
P9	円形	0.38	0.35	0.26
P10	円形	0.45	0.44	0.41
P11	円形	0.40	0.38	0.58
P12	円形	0.43	0.41	0.57
P13	円形	0.33	0.30	0.52
P14	円形	0.38	0.36	0.54

第172図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-405 実測図

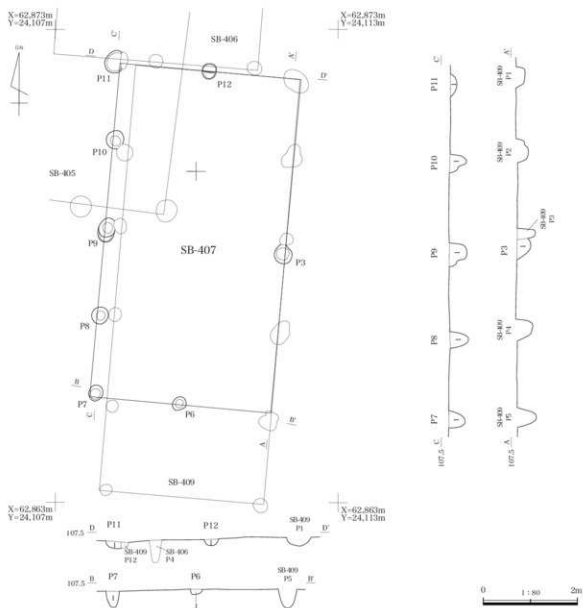


SB-406 土層説明・Pit 計測表

P1	I	黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。	P5	I	黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。
P2	I	黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。	P6	I	黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。
P3	I	黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。	P7	I	黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。
P4	I	黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。	P8	I	黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.26	0.26	0.34	P5	円形	0.38	0.35	0.33
P2	円形	0.25	0.24	0.20	P6	円形	0.40	0.37	0.39
P3	円形	0.30	0.30	0.23	P7	円形	0.26	0.25	0.46
P4	円形	0.30	0.28	0.47	P8	楕円形	0.37	0.29	0.20

第173図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-406 実測図

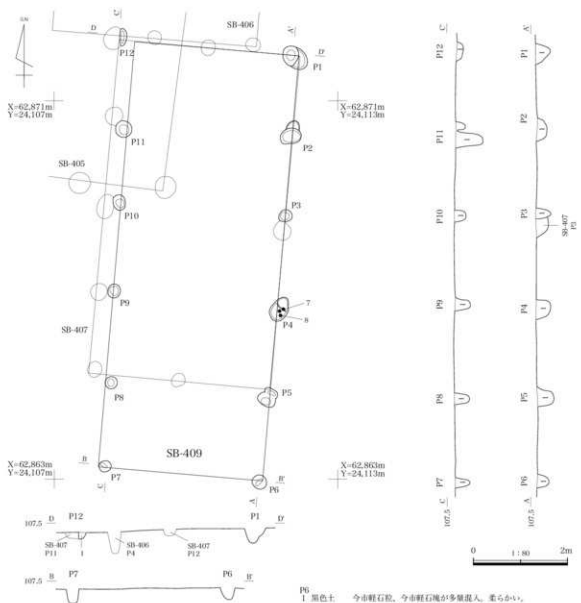


SB-407 土層説明・Pit 計測表

P3 1	黒色土	5~7mm 大の今市軽石粒が多量混入。柔らかい。	P9 1	黒褐色土	5~7mm 大の今市軽石粒が多量、30~40mm 大の今市軽石塊がやや多量混入。柔らかい。
P6 1	黒色土	今市軽石粒数が少量混入。柔らかい。	P10 1	黒褐色土	5~7mm 大の今市軽石粒が多量、30~40mm 大の今市軽石塊がやや多量混入。柔らかい。
P7 1	黒褐色土	5~7mm 大の今市軽石粒が多量、30~40mm 大の今市軽石塊がやや多量混入。柔らかい。	P11 1	黒色土	七本椀軽石粒数が極少量混入。柔らかい。
P8 1	黒褐色土	5~7mm 大の今市軽石粒が多量、30~40mm 大の今市軽石塊がやや多量混入。柔らかい。	P12 1	黒褐色土	5~7mm 大の今市軽石粒が多量、30~40mm 大の今市軽石塊がやや多量混入。柔らかい。

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P3	円形	0.65	0.15	0.41	P9	円形	0.50	(0.35)	0.41
P6	円形	0.30	0.29	0.10	P10	円形	0.40	(0.35)	0.37
P7	円形	0.35	0.29	0.35	P11	円形	0.50	(0.40)	0.15
P8	円形	0.36	0.35	0.41	P12	円形	0.33	0.30	0.15

第 174 図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-407 実測図

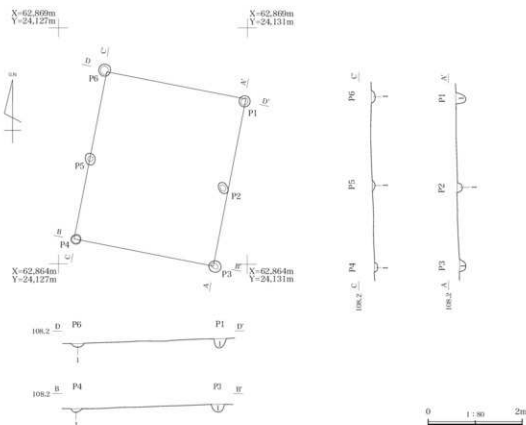


SB-409 土器説明・Pit 計測表

- P1
I 黒褐色土 5~7mm 大の今市軽石粒が多量、30~40mm 大の今市軽石塊がやや多量混入。柔らかい。
- P2
I 黒褐色土 5~7mm 大の今市軽石粒が多量、30~40mm 大の今市軽石塊がやや多量混入。柔らかい。
- P3
I 黒色土 今市軽石粒が少量混入。柔らかい。
- P4
I 黒色土 今市軽石粒が少量混入。柔らかい。
- P5
I 黒色土 5~7mm 大の今市軽石粒が多量混入。柔らかい。
- P6
I 黒色土 今市軽石粒、今市軽石塊が多量混入。柔らかい。
- P7
I 黒色土 20~40mm 大の今市軽石塊、10mm 大の今市軽石粒が少量混入。柔らかい。
- P8
I 黒色土 10mm 大の今市軽石粒が少量混入。柔らかい。
- P9
I 黒色土 10mm 大の今市軽石粒が少量混入。柔らかい。
- P10
I 黒色土 20~40mm 大の今市軽石塊、10mm 大の今市軽石粒が少量混入。柔らかい。
- P11
I 黒褐色土 20~40mm 大の今市軽石塊が多量、10mm 大の今市軽石粒が多量混入。柔らかい。
- P12
I 黒色土 今市軽石粒、七本板軽石粒が少量混入。やや固い。

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	楕円形	0.60	0.42	0.18	P7	円形	0.25	0.24	0.32
P2	円形	0.53	0.30	0.23	P8	円形	0.26	0.25	0.32
P3	円形	0.65	0.15	0.41	P9	円形	0.29	0.25	0.38
P4	楕円形	0.53	0.35	0.45	P10	円形	0.30	(0.25)	0.24
P5	円形	0.30	(0.15)	0.35	P11	円形	0.35	0.35	0.60
P6	円形	0.32	0.30	0.25	P12	楕円形	0.38	(0.15)	0.13

第175図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-409 実測図

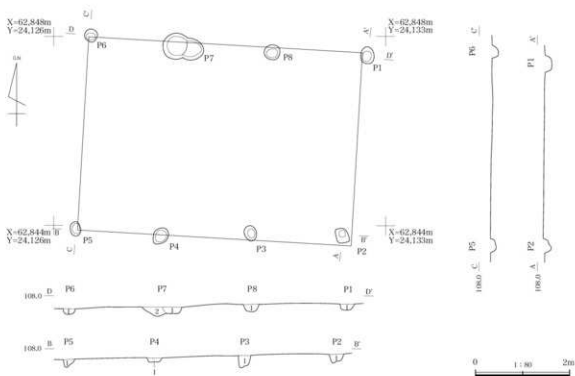


SB-411 土層説明・Pit 計測表

- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| P1
1 黒色土。今市軽石微粒が極少量混入。柔らかい。 | P4
1 黒色土。今市軽石微粒がやや多量混入。柔らかい。 |
| P2
1 黒色土。今市軽石微粒が極少量混入。柔らかい。 | P5
1 黒色土。今市軽石微粒が極少量混入。柔らかい。 |
| P3
1 黒色土。今市軽石微粒が極少量混入。柔らかい。 | P6
1 黒色土。今市軽石微粒が極少量混入。柔らかい。 |

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.25	0.24	0.20	P4	円形	0.22	0.20	0.10
P2	円形	0.25	0.20	0.10	P5	円形	0.24	0.21	0.08
P3	円形	0.25	0.25	0.15	P6	円形	0.25	0.25	0.10

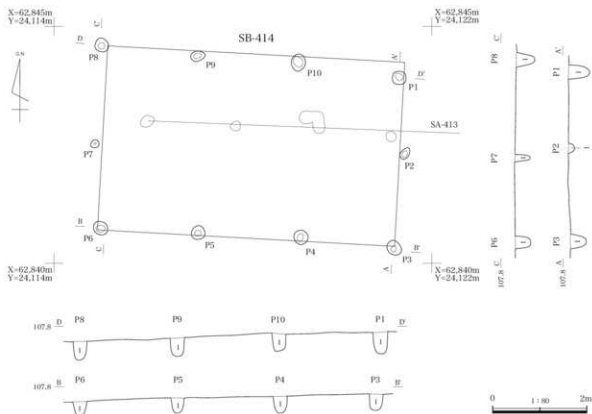
第 176 図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-411 実測図



Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.35	0.28	0.14	P5	円形	0.40	0.22	0.17
P2	方形	0.31	0.25	0.20	P6	円形	0.26	0.26	0.12
P3	円形	0.33	0.25	0.24	P7	円形	0.87	0.43	0.20
P4	円形	0.36	0.30	0.10	P8	円形	0.33	0.31	0.17

第177図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-412 実測図

第VI章 星ノ宮遺跡の調査

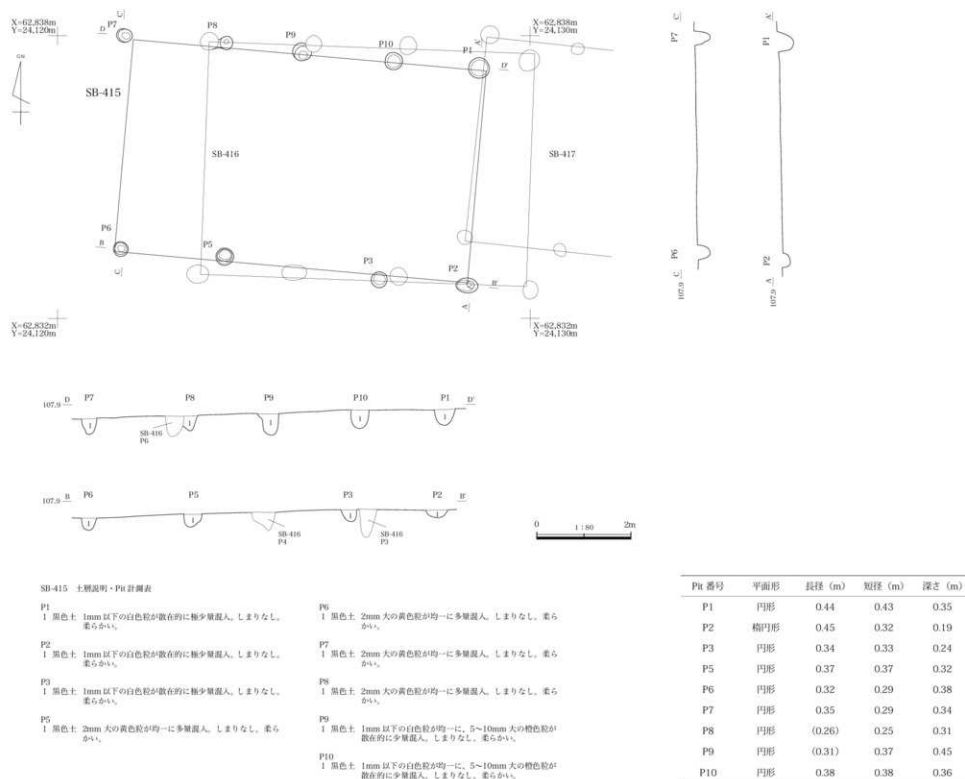


SB-414 土器説明・Pit 計測表

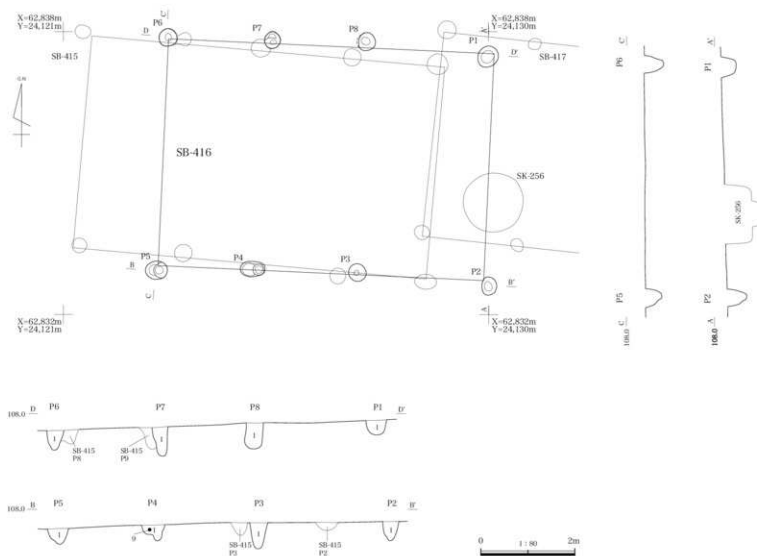
P1 I 黒色土 七本板軽石散粒が少量混入。柔らかい。	P6 I 黒褐色土 5~10mm 大の今市軽石粒。七本板軽石散粒が少量混入。柔らかい。
P2 I 黒色土 七本板軽石散粒が極少量混入。柔らかい。	P7 I 黒褐色土 今市軽石散粒。七本板軽石散粒が少量混入。柔らかい。
P3 I 黒色土 5~10mm 大の今市軽石粒が少量混入。柔らかい。	P8 I 黒色土 5~10mm 大の今市軽石粒が少量混入。柔らかい。
P4 I 黒色土 5~10mm 大の今市軽石粒が少量混入。柔らかい。	P9 I 黒色土 5~10mm 大の今市軽石粒が少量混入。柔らかい。
P5 I 黒色土 5~10mm 大の今市軽石粒。七本板軽石散粒が少量混入。柔らかい。	P10 I 黒色土 5~10mm 大の今市軽石粒。七本板軽石散粒が少量混入。柔らかい。

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	方形	0.30	0.28	0.46	P6	円形	0.31	0.30	0.33
P2	楕円形	0.26	0.18	0.15	P7	円形	0.18	0.17	0.33
P3	円形	0.33	0.30	0.32	P8	円形	0.32	0.30	0.40
P4	円形	0.30	0.30	0.35	P9	楕円形	0.30	0.24	0.39
P5	円形	0.30	0.30	0.31	P10	円形	0.38	0.30	0.38

第178図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-414 実測図



第179図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-415 実測図

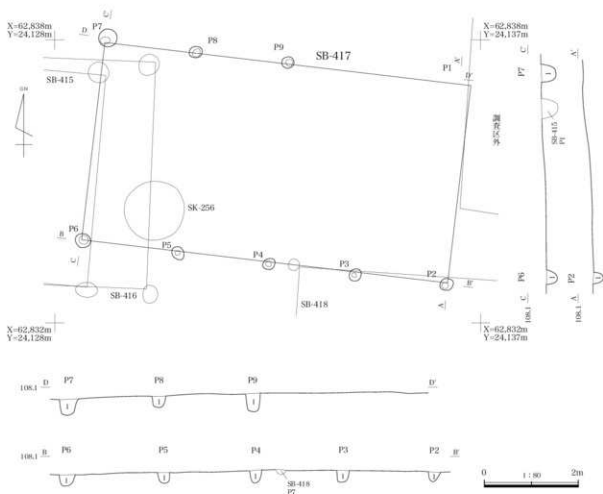


SB-416 土坑説明・Pit計測表

P1 I 黒色土 今非軽石散粒、七本桜軽石散粒極少量混入。柔らかい。	P5 I 黒色土 今非軽石散粒、七本桜軽石散粒極少量混入。柔らかい。
P2 I 黒色土 20~30mm 大の今非軽石塊、今非軽石散粒が少量混入。柔らかい。	P6 I 黒色土 今非軽石散粒、七本桜軽石散粒極少量混入。柔らかい。
P3 I 黒色土 5~10mm 大の今非軽石散粒が少量混入。柔らかい。	P7 I 黒色土 今非軽石散粒、七本桜軽石散粒極少量混入。柔らかい。
P4 I 黒色土 今非軽石散粒が少量混入。柔らかい。	P8 I 黒色土 今非軽石散粒、2~5mm 大の七本桜軽石散粒が少量混入。柔らかい。

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.45	0.42	0.33	P5	円形	0.45	0.40	0.36
P2	楕円形	0.38	0.31	0.42	P6	円形	0.45	0.40	0.40
P3	円形	0.37	0.35	0.58	P7	円形	0.32	0.32	0.60
P4	楕円形	0.48	0.32	0.36	P8	円形	0.37	0.37	0.63

第180図 皇ノ宮遺跡北調査区 SB-416 実測図

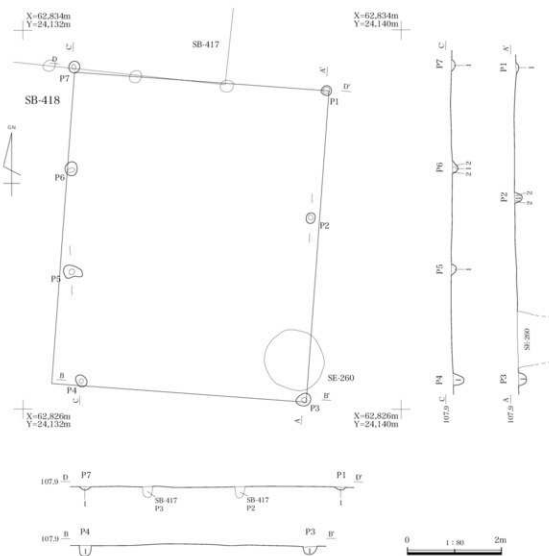


SB-417 土解説明

- P2
1 黒色土 1~2mm 大の今市軽石粒が散在的に極少量混入。しまりなし、柔らかい。
- P3
1 黒色土 1~2mm 大の今市軽石粒が散在的に極少量混入。しまりなし、柔らかい。
- P4
1 黒色土 2~5mm 大の七本椀軽石粒が散在的に極少量混入。しまりなし、柔らかい。
- P5
1 黒色土 2~5mm 大の七本椀軽石粒が散在的に極少量混入。しまりなし、柔らかい。
- P6
1 黒色土 1mm 大の今市軽石粒が極少量混入。柔らかい。
- P7
1 黒色土 5~10mm 大の今市軽石粒・七本椀軽石粒の混合土が少量混入。柔らかい。
- P8
1 黒色土 30mm 大の今市軽石塊が極少量混入。柔らかい。
- P9
1 黒色土 今市軽石粒粒が少量混入。柔らかい。

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	—	—	—	—	P7	円形	0.40	0.38	0.34
P2	円形	0.26	0.26	0.21	P8	円形	0.26	0.26	0.24
P3	円形	0.26	0.24	0.25	P9	円形	0.26	0.25	0.38
P4	円形	0.25	0.25	0.28	P10	—	—	—	—
P5	円形	0.30	0.24	0.21					

第181図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-417 実測図

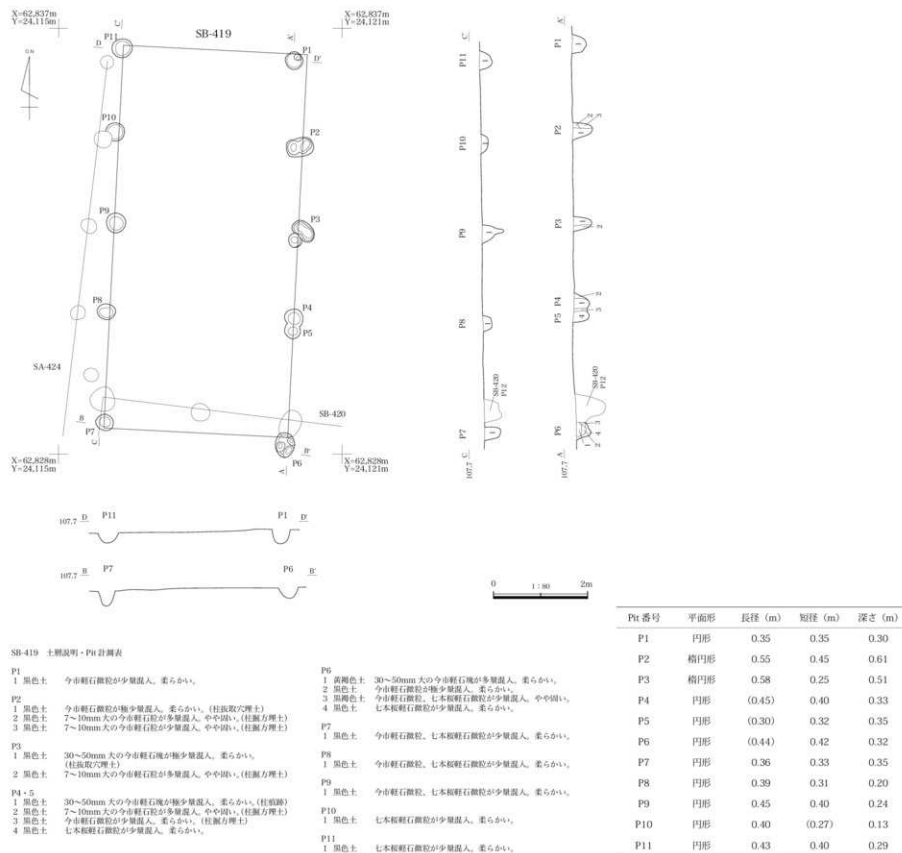


SB-418 土質説明・Pit 計測表

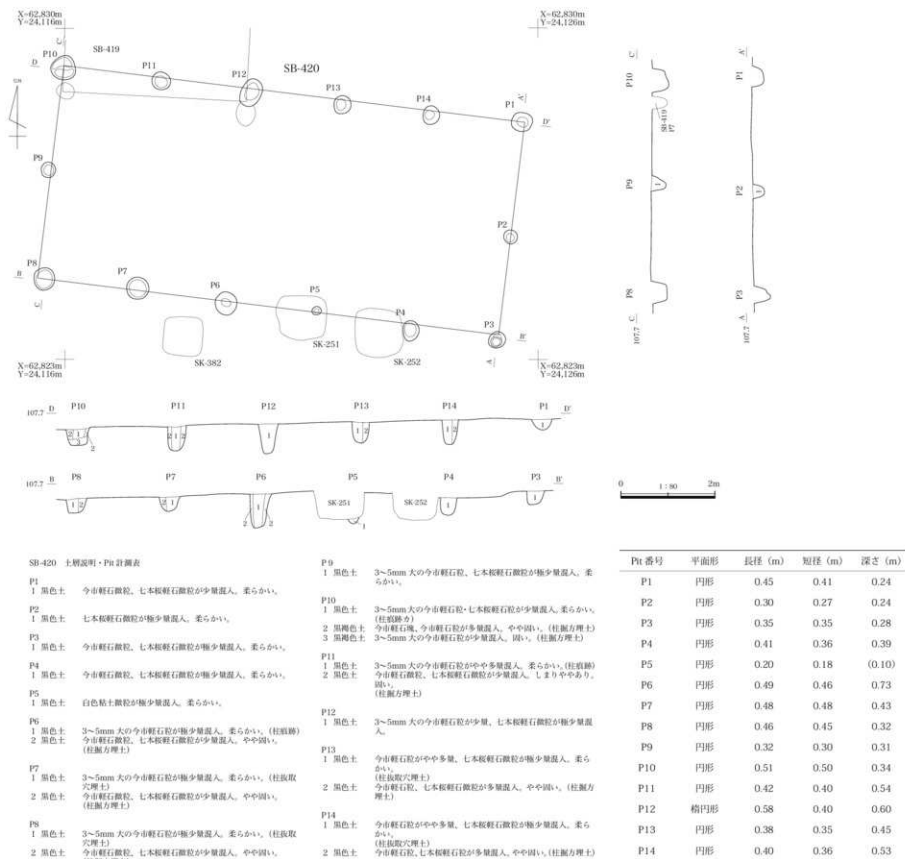
- | | |
|--|---|
| <p>P1
1 黒色土 2~8mm 大の今半粒石粒が極少量混入。しまりなし。柔らかい。</p> <p>P2
1 黒色土 黒色土純粋。(柱頭跡)
2 黒色土 2mm 大の今半粒石粒が少量混入。しまりなし。柔らかい。(柱頭方埋土)</p> <p>P3
1 黒色土 5mm 大の今半粒石粒が均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。</p> | <p>P4
1 黒色土 黒色土純粋。しまりなし。柔らかい。</p> <p>P5
1 黒色土 1mm 大の七本粒石粒が均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。</p> <p>P6
1 黒色土 黒色土純粋。しまりなし。柔らかい。(柱頭跡)
2 黒色土 1mm 大の今半粒石粒が極少量混入。しまりなし。柔らかい。(柱頭方埋土)</p> <p>P7
1 黒色土 2~5mm 大の今半粒石粒が極少量混入。柔らかい。</p> |
|--|---|

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.22	0.21	0.06	P5	不整形	0.39	0.19	0.11
P2	円形	0.22	0.18	0.16	P6	円形	0.30	0.26	0.10
P3	円形	0.32	0.26	0.15	P7	円形	0.24	0.22	0.09
P4	円形	0.26	0.20	0.22					

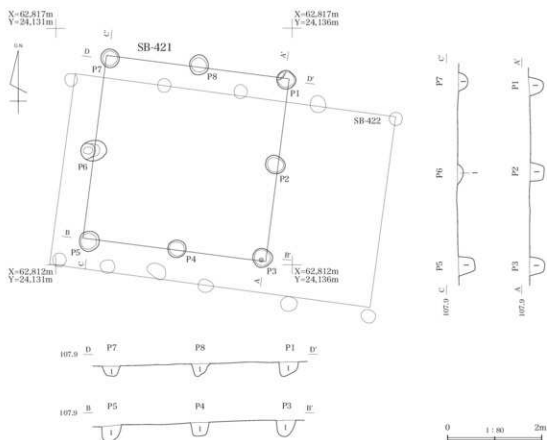
第 182 図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-418 実測図



第183図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-419 実測図



第184図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-420 実測図

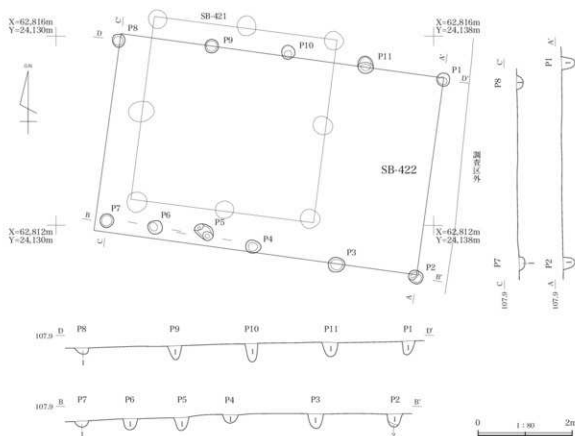


SB-421 土層説明・Pit 計測表

P1	1 黒色土 5~10mm 大の今市軽石粒が少量混入。柔らかい。	P5	1 黒色土 今市軽石微粒が極少量混入。柔らかい。
P2	1 黒色土 今市軽石塊、今市軽石粒が少量混入。柔らかい。	P6	1 黒色土 今市軽石塊、今市軽石粒が少量混入。柔らかい。
P3	1 黒色土 5~10mm 大の今市軽石粒が少量混入。柔らかい。	P7	1 黒色土 5~10mm 大の今市軽石粒が少量混入。柔らかい。
P4	1 黒色土 今市軽石微粒が極少量混入。柔らかい。	P8	1 黒色土 5~10mm 大の今市軽石粒が少量混入。柔らかい。

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.40	0.39	0.32	P5	円形	0.48	0.45	0.32
P2	円形	0.42	0.38	0.31	P6	円形	0.53	0.43	0.21
P3	円形	0.41	0.41	0.35	P7	円形	0.40	0.39	0.20
P4	円形	0.37	0.37	0.30	P8	円形	0.42	0.40	0.28

第185図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-421 実測図

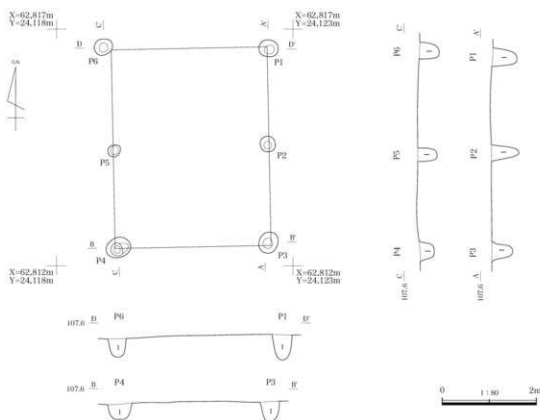


SB-422 土層説明・Pn計測表

P1	1	黒周色土	3~5mm大の今市軽石殻、今市軽石殻殻が多量混入、柔らかい。	P6	1	黒色土	今市軽石殻殻が少量混入、柔らかい。
P2	1	黒色土	3~5mm大の今市軽石殻が少量混入、柔らかい。	P7	1	黒色土	今市軽石殻殻が少量混入、柔らかい。
	2	黒周色土	3~5mm大の今市軽石殻、今市軽石殻殻が多量混入、柔らかい。	P8	1	黒褐色土	3~5mm大の今市軽石殻、今市軽石殻殻が多量混入、柔らかい。
P3	1	黒色土	今市軽石殻殻が少量混入、柔らかい。	P9	1	黒色土	今市軽石殻殻が少量混入、柔らかい。
P4	1	黒色土	今市軽石殻殻が少量混入、柔らかい。	P10	1	黒色土	今市軽石殻殻が少量混入、柔らかい。
P5	1	黒色土	今市軽石殻殻が少量混入、柔らかい。	P11	1	黒色土	3~5mm大の今市軽石殻が少量混入、柔らかい。

Pn 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pn 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.29	0.27	0.30	P7	円形	0.30	0.30	0.14
P2	円形	0.31	0.29	0.28	P8	円形	0.26	0.26	0.13
P3	円形	0.33	0.31	0.30	P9	円形	0.29	0.28	0.29
P4	円形	0.30	0.28	0.21	P10	円形	0.30	0.29	0.39
P5	楕円形	0.42	0.30	0.30	P11	円形	0.34	0.34	0.28
P6	円形	0.30	0.30	0.28					

第 186 図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-422 実測図

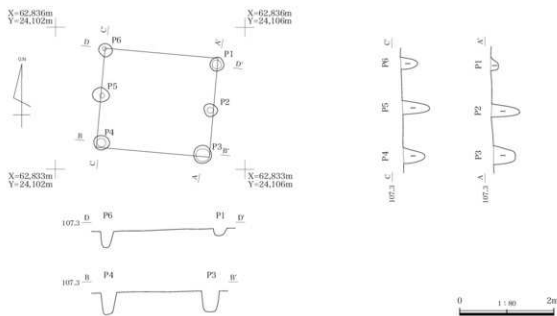


SB-423 土層説明・Pit 計測表

P1 I	黒色土 30~40mm 大の今市軽石殻、5~10mm 大の今市軽石殻が少量混入。柔らかい。	P4 I	黒色土 今市軽石殻が多量、5~10mm 大の今市軽石殻が少量混入。柔らかい。
P2 I	黒色土 今市軽石殻が多量、5~10mm 大の今市軽石殻が少量混入。柔らかい。	P5 I	黒色土 30~40mm 大の今市軽石殻、5~10mm 大の今市軽石殻が少量混入。柔らかい。
P3 I	黒色土 今市軽石殻が多量、5~10mm 大の今市軽石殻が少量混入。柔らかい。	P6 I	黒色土 2~3mm 大の今市軽石殻・七本椀軽石殻が少量混入。柔らかい。

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.38	0.38	0.51	P4	円形	0.50	0.44	0.33
P2	円形	0.35	0.31	0.60	P5	円形	0.26	0.24	0.40
P3	円形	0.46	0.40	0.45	P6	円形	0.40	0.33	0.40

第187図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-423 実測図

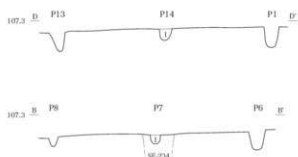
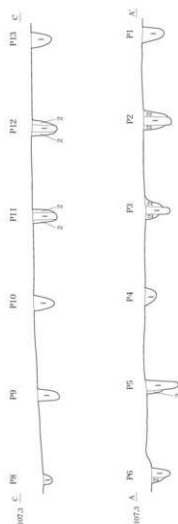
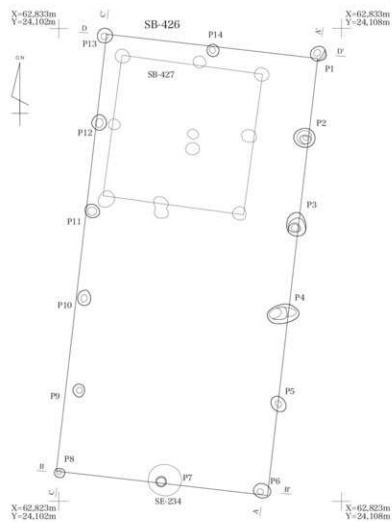


SB-425 土層説明・Pit 計測表

- | | | | | | |
|----|---|-------------------------------------|----|---|-------------------------------------|
| P1 | I | 黒色土 七本板軽石微粒が極少量混入。柔らかい。 | P4 | I | 黒色土 10mm 大の今市軽石粒。七本板軽石微粒が少量混入。柔らかい。 |
| P2 | I | 黒色土 今市軽石微粒、七本板軽石微粒は少量混入。柔らかい。 | P5 | I | 黒色土 七本板軽石微粒が極少量混入。柔らかい。 |
| P3 | I | 黒色土 10mm 大の今市軽石粒、七本板軽石微粒が少量混入。柔らかい。 | P6 | I | 黒色土 七本板軽石微粒が極少量混入。柔らかい。 |

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.30	0.28	0.15	P4	円形	0.32	0.32	0.48
P2	円形	0.29	0.26	0.67	P5	円形	0.35	0.30	0.60
P3	円形	0.38	0.38	0.46	P6	円形	0.29	0.26	0.46

第 188 図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-425 実測図

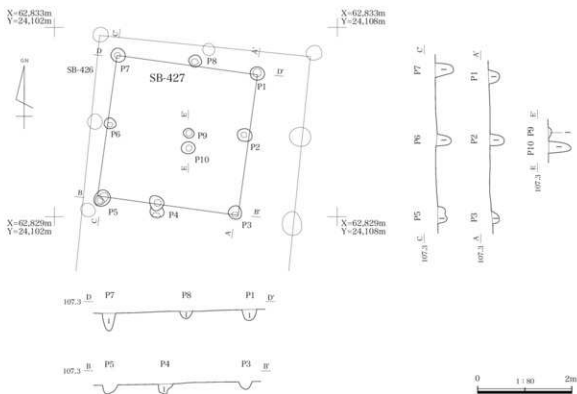


SB-426 土解説明・Pit計測表

- P1
1 黒色土 今半軒石礎跡が極少量混入。柔らかい。
- P2 東側柱礎第2柱
1 黒色土 今半軒石礎跡が極少量混入。柔らかい。(柱敷層土)
2 黒褐色土 10~20mm 大の今半軒石礎跡が少量混入。やや固い。(柱敷層土)
- P3
1 黒色土 今半軒石礎跡が極少量混入。柔らかい。(柱敷層土)
2 黒褐色土 10~20mm 大の今半軒石礎跡が少量混入。やや固い。(柱敷層土)
- P4 東側柱礎第4柱
1 黒色土 今半軒石礎跡が極少量混入。柔らかい。
2 黒褐色土 10~15mm 大の今半軒石礎跡が少量混入。やや固い。(柱敷層土)
- P5
1 黒色土 今半軒石礎跡が極少量混入。柔らかい。(柱敷層土)
2 黒褐色土 10~15mm 大の今半軒石礎跡が少量混入。やや固い。(柱敷層土)
- P6
1 黒色土 今半軒石礎跡が極少量混入。柔らかい。(柱敷層土)
2 黒褐色土 10~15mm 大の今半軒石礎跡が少量混入。やや固い。(柱敷層土)
- P7
1 黒色土 白色粘土層跡が多量。今半軒石礎跡が少量混入。柔らかい。
- P8
1 黒色土 今半軒石礎跡が極少量混入。柔らかい。
- P9
1 黒色土 今半軒石礎跡が極少量混入。柔らかい。
- P10
1 黒色土 10~20mm 大の今半軒石礎跡が少量混入。柔らかい。
- P11
1 黒色土 今半軒石礎跡が極少量混入。柔らかい。(柱敷層土)
2 黒褐色土 10~20mm 大の今半軒石礎跡が少量混入。やや固い。(柱敷層土)
- P12
1 黒色土 今半軒石礎跡が極少量混入。柔らかい。(柱敷層土)
2 黒褐色土 10~20mm 大の今半軒石礎跡が少量混入。やや固い。(柱敷層土)
- P13
1 黒色土 今半軒石礎跡が極少量混入。柔らかい。
- P14
1 黒色土 今半軒石礎跡が極少量混入。柔らかい。

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.34	0.32	0.45
P2	円形	0.45	0.41	0.61
P3	円形	0.49	0.40	0.44
P4	楕円形	0.68	0.40	0.40
P5	円形	0.35	0.26	0.57
P6	円形	0.35	0.30	0.42
P7	円形	0.20	0.20	0.19
P8	円形	0.22	0.20	0.20
P9	円形	0.25	0.25	0.46
P10	円形	0.31	0.28	0.48
P11	円形	0.30	0.28	0.52
P12	円形	0.32	0.30	0.52
P13	円形	0.33	0.32	0.42
P14	円形	0.26	0.26	0.32

第189図 皇ノ宮遺跡北調査区 SB-426 実測図

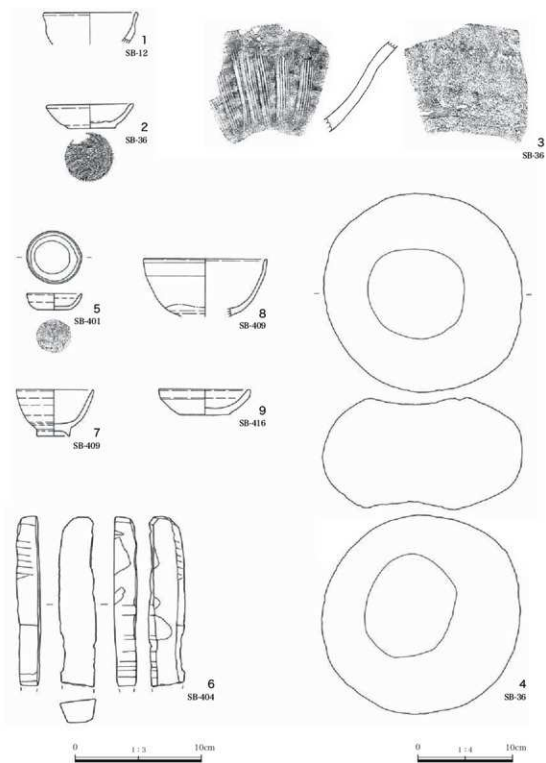


SB-427 土層説明・Pit計測表

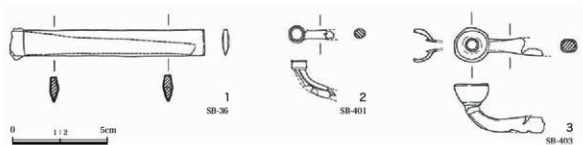
P1	1 黒色土 七本板軽石散粒が極少量混入。柔らかい。	P6	1 黒色土 七本板軽石散粒が極少量混入。柔らかい。
P2	1 黒色土 七本板軽石散粒が極少量混入。柔らかい。	P7	1 黒色土 20mm 大の今市軽石散粒が極少量混入。柔らかい。
P3	1 黒色土 七本板軽石散粒が極少量混入。柔らかい。	P8	1 黒色土 七本板軽石散粒が極少量混入。柔らかい。
P4	1 黒色土 10mm 大の今市軽石散粒、七本板軽石散粒が極少量混入。柔らかい。	P9	1 黒色土 七本板軽石散粒が極少量混入。柔らかい。
P5	1 黒色土 20mm 大の今市軽石散粒が極少量混入。柔らかい。	P10	1 黒色土 今市軽石散粒、七本板軽石散粒が極少量混入。柔らかい。

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.30	0.30	0.33	P6	円形	0.24	0.23	0.27
P2	円形	0.29	0.26	0.38	P7	円形	0.30	0.28	0.39
P3	円形	0.29	0.26	0.14	P8	円形	0.28	0.27	0.18
P4	円形	0.45	0.22	0.38	P9	円形	0.22	0.20	0.08
P5	楕円形	0.35	0.30	0.20	P10	円形	0.28	0.26	0.50

第190図 星ノ宮遺跡北調査区 SB-427 実測図



第191図 星ノ宮遺跡北調査区 SB出土遺物



第192図 星ノ宮遺跡北調査区 SB出土鉄製品

第60表 星ノ宮遺跡北調査区 SB出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	瀬戸美濃 天目茶碗	口径: (9.7) 底径: 一 器高: (3.3)	砂粒	内: 口縁部ロクロナデ 外: 口縁部ロクロナデ	内: にぶい赤褐色 外: にぶい赤褐色 ・良	口縁部破 片	内外面施釉。	SB-12 P5 小片 大塚部4段 階16c末~ 17c初
2	土師質 土器皿	口径: 8.8 底径: 5.0 器高: 2.5	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~底部ロクロナ デ、底部回転糸切り	内: 褐色 外: 褐色 ・良	口縁部 3/4 底部完存		SB-36 P8
3	土師質 鉢鉢	口径: 一 底径: 一 器高: (11.5)	ガラス光沢 黒色粒・雲 母	内: 体部叩目 外: 調整不明瞭	内: 灰色 外: オリーブ黒色 ・良	体部破片	叩目6条一単位。	SB-36 P4
4	石造物 五輪塔 水輪	直径: 21.0 高さ: 11.5 重量: 6.5500g	(火成岩)		外: 黒色	完形		SB-36 P2
5	古瀬戸 人子	口径: 5.6 底径: 3.6 器高: 1.7 重量: 25.0g	緻密	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部ヘラズリ	内: 灰白色 外: 灰白色 ・良	完形	片口。口縁部に釉付着。	SB-401 P11 古瀬戸前期 様式 12c末~ 13c代
6	石製品 砥石	長軸: 13.5 短軸: 2.9 厚さ: 1.7 重量: 107.0g	砂岩 粒子細かい が小礫を含 む		外: 灰白色	完形	短冊形。紙面1面のみ。	SB-404 P7
7	磁器 碗	口径: 8.1 底径: 3.3 器高: 4.9	緻密	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、後貼付高台後ナデ	内: 灰白色 外: 灰白色 ・良	1/2	内外面施釉。	SB-409 17c
8	瀬戸美濃 碗	口径: (12.8) 底径: 一 器高: 一	緻密	内: 口縁~体部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ	内: 暗赤褐色 外: 褐色 ・良	1/9	内外面施釉。掛分。	SB-409
9	土師質 土器皿	口径: 9.6 底径: 5.1 器高: 2.7 重量: 98.0g	ガラス光沢 黒色粒・雲 母・砂粒・ 小礫少量	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転糸切り	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	ほぼ完形	体部内面~口唇端部僅 かにスス状の付着物が あり、灯明具として使 用か。	SB-416 P4

第61表 星ノ宮遺跡北調査区 SB出土鉄製品観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	刀子小柄	長さ: 9.4 厚さ: 0.7 重量: 18.26g	一部割れあり。短軸断面は上部に幅4cm程度の平坦面をもち、側面V 字形。小柄内に刀子基部が遺存している。両側面中央の聴らみは刀子 基部の錆ぶくれの影響と思われる。	完存	SB-36 P8
2	煙管	長さ: (2.4) 厚さ: 一 重量: 1.23g	煙管の雁首部分。船返しの下半部は欠損。火眼は筒状で、口唇部は僅 かに外側へ突出する。		SB-401 P11
3	煙管	長さ: (4.7) 厚さ: 一 重量: 4.91g	煙管の雁首部分。船返しの湾曲は小さい。		SB-403 P7

2. 掘立柱崩跡と出土遺物

崩の規模は、総長と柱間で示した。柱間は総長を柱間数で割ったものである。柱穴掘方規模は、各柱穴掘方の長辺と短辺の平均値をだし、全ての柱穴で平均したものを、深さは全ての柱穴掘方の平均値である。

SA-30 (第 193 図)

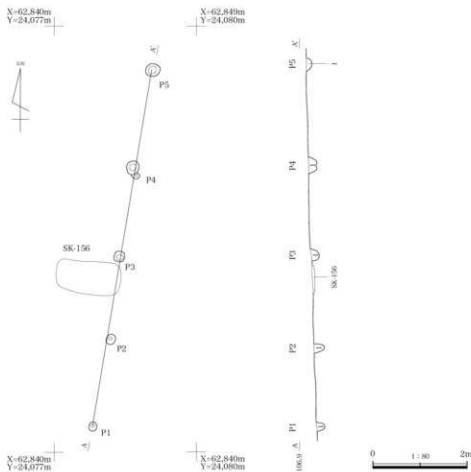
調査区南西部の 18-22 グリッドに位置する。周囲に建物跡はみられない。方形竪穴 SK-21 が近接する。

4 間、南北方向の掘立柱崩跡である。柱列の示す軸方向は、 $N-10^{\circ}-E$ である。

規模は、総長 7.6m、柱間寸法は 1.90m (6.33 尺) である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は 0.24m、深さ 0.16m である。

出土遺物は確認されていない。



SA-30 土層説明・Pit 計測表

P1・2・3・5

1 黒色土、七本板石微粒が極少量混入、柔らかい。

P4

1 黒色土、今市板石微粒・七本板石微粒が極少量混入、柔らかい。

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.20	0.16	0.18	P4	円形	0.40	0.25	0.18
P2	円形	0.22	0.20	0.22	P5	円形	0.28	0.27	0.10
P3	方形	0.22	0.22	0.15					

第 193 図 星ノ宮遺跡北調査区 SA-30 実測図

SA-408 (第194図、図版二八・二九)

調査区北部の20-21グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-404・405と重複するが新旧関係は不明である。

3間、南北方向の掘立柱崩跡である。柱列の示す軸方向は、 $N-9^{\circ}-E$ である。

規模は、総長5.5m、柱間寸法は1.83m(6.11尺)である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は0.27m、深さ0.34mである。

出土遺物は確認されていない。

SA-410 (第195図)

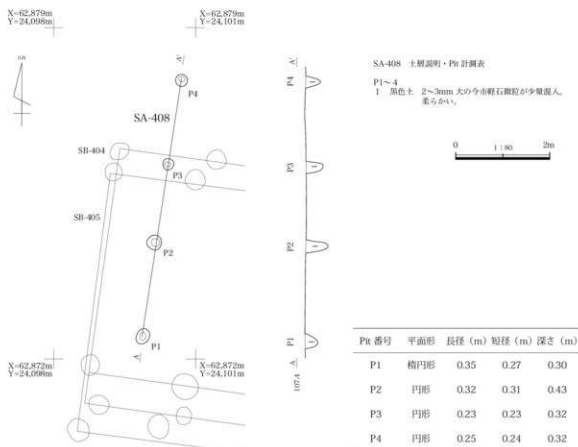
調査区北東部の21-21グリッドに位置する。南側に掘立柱建物跡SB-411が近接する。

4間、東西方向の掘立柱崩跡である。柱列の示す軸方向は、 $N-86^{\circ}-W$ である。

規模は、総長7.8m、柱間寸法は1.95m(6.50尺)である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は0.37m、深さ0.35mである。

出土遺物は確認されていない。



第194図 星ノ宮遺跡北調査区 SA-408 実測図

SA-413 (第196図、図版二九)

調査区南西部の21-22グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-414と重複するが新旧関係は不明である。

9間、東西方向の掘立柱跡である。柱列の示す軸方向は、 $N-87^{\circ}-W$ である。

規模は、総長17.4m、柱間寸法は1.93m(6.44尺)である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は0.26m、深さ0.22mである。

出土遺物は確認されていない。

SA-424 (第197図)

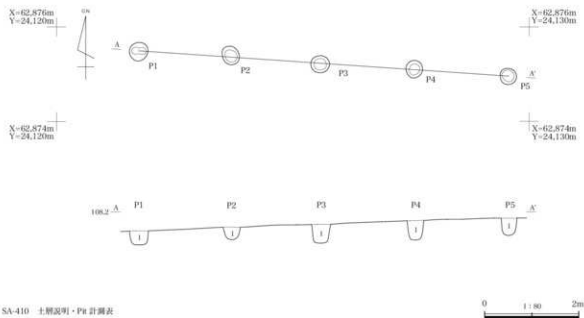
調査区南西部の20-23グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-419と重複し本遺構が新しい。

6間、南北方向の掘立柱跡である。柱列の示す軸方向は、 $N-7^{\circ}-E$ である。

規模は、総長11.7m、柱間寸法は1.67m(5.56尺)である。

柱穴の掘方形状は円形で、掘方規模は0.29m、深さ0.21mである。

出土遺物は確認されていない。



SA-410 土質説明・Pit計測表

P1・2・3

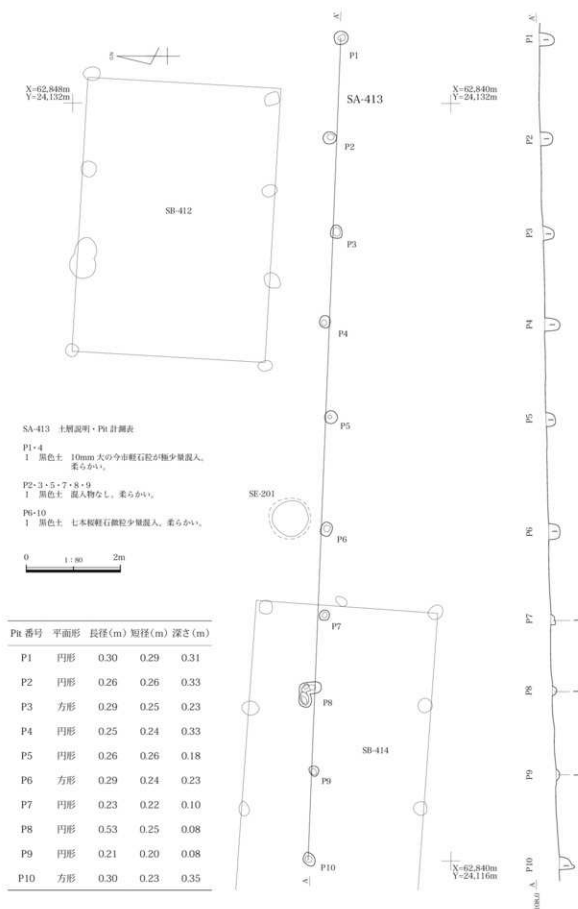
I 黒色土 今市軽石段、今市軽石段が少量混入、柔らかい。

P4・5

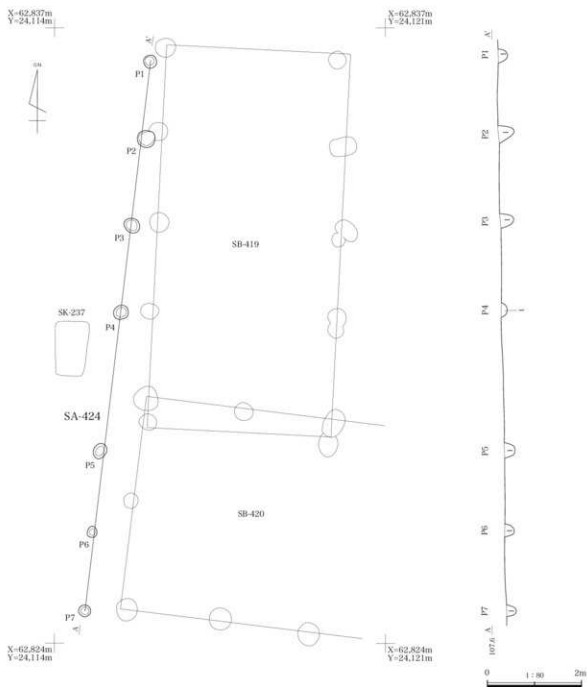
I 黒色土 30mm大の今市軽石塊、10mm大の今市軽石段が少量混入、柔らかい。

Pit番号	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	Pit番号	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
P1	円形	0.40	0.40	0.30	P4	円形	0.38	0.34	0.42
P2	円形	0.41	0.34	0.26	P5	円形	0.36	0.35	0.37
P3	円形	0.40	0.38	0.40					

第195図 星ノ宮遺跡北調査区 SA-410実測図



第196図 星ノ宮遺跡北調査区 SA-413 実測図



SA-424 土質説明・Pit 計測表

- P1・2
1 黒色土 七本板軽石微粒が極少量混入。柔らかい。
- P3・7
1 黒色土 今市軽石微粒が極少量混入。柔らかい。
- P4・5・6
1 黒色土 今市軽石微粒、七本板軽石微粒が少量混入。柔らかい。

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.30	0.27	0.15
P2	円形	0.37	(0.30)	0.29
P3	円形	0.35	0.30	0.28
P4	円形	0.35	0.32	0.10
P5	円形	0.34	0.25	0.24
P6	円形	0.23	0.20	0.22
P7	円形	0.25	0.25	0.20

第 197 図 星ノ宮遺跡北調査区 SA-424 実測図

3. 井戸跡と出土遺物

井戸跡は16基が確認された。規模は検出面の径、底面の径、深さで表した。調査の都合・安全面の問題から完掘に至っていないものが11基ある。

SE-28 (第198・200図、第62表、図版三〇・四〇)

調査区中央部の19-23グリッドに位置する。東側に掘立柱建物群がみられるが、これに伴うものとするには位置が適さない。

規模は、検出面で3.10×3.07m、底面で1.16×1.16m、深さ1.96mである。下部は円筒状に、上部は大きく鉢状に開く形状を呈する。

出土遺物は、1の石製品(砥石)1点44gのほか、土師器裏4点235g、自然礫664gが出土した。

SE-80 (第198図、図版三〇)

調査区北部の18-20グリッドに位置する。南東方向に掘立柱建物跡群とこれに伴う井戸がみられるが、本遺構もこれらの建物跡群に伴うものか。未完掘である。

規模は、検出面で1.18×1.06m、確認された深さ1.34mである。形状は円筒形を呈す。出土遺物は確認されていない。

SE-82 (第198図、図版三一)

調査区北部の19-20グリッドに位置する。井戸跡SE-83が隣接する。付近に建物跡は確認されていないがピットが多数確認されており、認識できていない掘立柱建物跡が存在する可能性も考え得る。未完掘である。

規模は、検出面で1.64×1.63m、確認された深さ1.75mである。上部は階段状に開き、下部は円筒形を呈すると思われる。出土遺物は縄文式土器55gが出土した。

SE-83 (第198図、図版三一)

調査区北部の19-20グリッドに位置する。井戸跡SE-82が隣接する。付近に建物跡は確認されていないがピットが多数確認されており、認識できていない掘立柱建物跡が存在する可能性も考え得る。未完掘である。

規模は、検出面で1.48×1.38m、確認された深さ1.84mである。上部が僅かに開く円筒形を呈する。出土遺物は確認されていない。

SE-90 (第198図、図版三一)

調査区北東部の19-20グリッドに位置する。付近に建物跡は確認されていないがピットが多数確認されており、認識できていない掘立柱建物跡が存在する可能性も考え得る。ピット群の反対側には井戸跡SE-82・83が位置する。未完掘である。

規模は、検出面で1.00×0.84m、確認された深さ1.31mである。形状は円筒状で、下部がすぼまる形状を呈する。出土遺物は確認されていない。

SE-95 (第198・200図、第62表、図版三一・四〇)

調査区北部の19-20グリッドに位置する。南側に掘立柱建物跡群が位置し、これに伴うものと考えられる。未完掘である。

規模は、検出面で2.00×1.53m、確認された深さ1.00mである。形状は壁が崩壊しているが上部が鉢形

に開く形状を呈するものと思われる。

出土遺物は、内耳土鍋 18 点 994g、瓦質土器火鉢 1 点 116g、瓦質土器釜 1 点 138g、古瀬戸小天目茶碗 1 点 25g、瀬戸播鉢 2 点 462g、瀬戸美濃小天目茶碗 1 点 34g、瀬戸美濃灰軸平碗 1 点 31g、磁器碗 1 点 2g、陶磁器碗 1 点 26g、総量 27 点 1,828g と自然礫 13,405g が出土した。2・3 は鉄軸の小天目茶碗で古瀬戸後期、14 世紀後半～15 世紀前半か。4 は灰軸平碗で、古瀬戸後期 1～2 期、14 世紀後半から 15 世紀初頭である。5 は瓦質土器の火鉢。6 は瓦質土器の釜。7 は瀬戸播鉢で、底部内面も鉚目を施し古瀬戸後期以降である。

以上の出土遺物から、井戸跡の時期は 14 世紀後半～15 世紀前半であろう。

SE-98 (第 198 図、図版三一)

調査区北中央部の 18-22 グリッドに位置する。付近に建物跡は確認されていない。未完掘である。

規模は、検出面で 2.32×2.30m、確認された深さ 1.40m である。上部は鉢形に大きく開き、下部は細い筒状を呈する。

出土遺物は、陶磁器甕 1 点 89g と自然礫 10,000 g が出土した。

SE-114 (第 198 図)

調査区中央部の 19-21 グリッドに位置する。北側に掘立柱建物群が位置し、これに伴うものと考えられる。また井戸跡 SE-115 が隣接する。

規模は、検出面で 1.36×1.30m、底面で 0.84×0.78m、深さ 2.58m である。形状は円筒状で、上部がやや開く。出土遺物は確認されていない。

SE-115 (第 199～201 図、第 62・63 表、図版三一・四〇)

調査区北中央の 19-21 グリッドに位置する。北側に掘立柱建物群が位置し、これに伴うものと考えられる。また井戸跡 SE-114 が隣接する。

規模は、検出面で 1.60×1.45m、底面で 1.18×1.10m、深さ 2.75m である。形状は円筒状で、上部がややふくらむ。埋土 3 層は白色粘土で埋め戻されており、これは当遺跡地山にみられるものと同一のものである。隣接する SE-114 を掘削した際の排土か。

出土遺物は、常滑片口鉢 1 点 279g、常滑甕 2 点 77g、石製品(砥石) 1 点 68g、木製品(折敷底板) 1 点のほか、土師器甕 1 点 71g が出土している。9 は常滑片口鉢で、よく使用されて内面は平滑である。常滑 8 型式、14 世紀後半である。木製品(不明板材)は、9・10 とほぼ同一の高さで出土している。分析の結果樹種はモミである(第 VII 章 1 参照)。また放射性炭素年代測定の結果、13 世紀末～14 世紀初頭の年代が得られた。これらのことから井戸跡の時期は、14 世紀後半といえる。

SE-177 (第 199 図、図版三一)

調査区北中央部の 19-22 グリッドに位置する。北側に掘立柱建物群が位置し、これに伴うものと考えられる。また井戸跡 SE-114・115 が近接する。

規模は、検出面で 2.30×2.16m、底面で 1.32×0.96m、深さ 2.55m である。上部は鉢形に開き、下部は細い筒状を呈する。出土遺物は確認されていない。

SE-201 (第 199 図、図版三一)

調査区北南西部の 21-22 グリッドに位置する。掘立柱建物群の中に位置し、これに伴うものと考えられる。

未完掘である。

規模は、検出面で0.78×0.75m、確認された深さ1.15mである。形状は円筒形を呈する。埋土1～3層は、黄白色粘土を多量に含んでおり人為的に埋め戻されている。出土遺物は確認されていない。

SE-234（第199・200図、第62表、図版三二）

調査区北南西部の20-23グリッドに位置する。掘立柱建物群の中に位置し、これに伴うものと考えられる。掘立柱建物跡SB-427と重複し、SB-427が新しい。未完掘である。

規模は、検出面で0.71×0.68m、確認された深さ1.20mである。形状は円筒形を呈する。埋土1層には、白色粘土を多量に含んでおり人為的に埋め戻されている。

出土遺物は、内耳土鍋1点254g、瓦質土器鉢1点69gが出土している。12は浅い内耳土鍋である。器高/口径は1/6で、土鍋から焙烙への過渡期の所産である。体部から口縁部は丸みをもって開くが、体部下端で僅かに段を有し、指頭圧痕がみられる。胎土に多量の金雲母片を含む。破片のため内耳は確認できていない。17世紀前葉頃に位置づけられる。

SE-235（第199・200図、第62表）

調査区北南西部の20-23グリッドに位置する。掘立柱建物群の中に位置し、これに伴うものと考えられる。溝跡SD-450と重複し、本遺構が古い。

規模は、検出面で1.56×1.44m、底面で0.8×0.64m、深さ1.84mである。上部は鉢形に開き下部でふくらむ形状を呈する。埋土1・2層には、白色粘土を多量に含んでおり人為的に埋め戻されている。

出土遺物は、13の常滑片口鉢1点164gが出土している。体部外面下端をヘラケズリし、底部内面はよく使用され平滑である。常滑5～6型式、13世紀代である。

SE-260（第199図、図版三二）

調査区北南西部の21-23グリッドに位置する。掘立柱建物群の中に位置し、これに伴うものと考えられる。掘立柱建物跡SB-418と重複するが、新旧関係は不明である。SE-261が近接する。未完掘である。

規模は、検出面で1.27×1.24m、確認された深さ1.50mである。形状は円筒形を呈する。埋土には、白色粘土を多く含んでおり人為的に埋め戻されている。出土遺物は確認されていない。

SE-261（第199・200図、第62表）

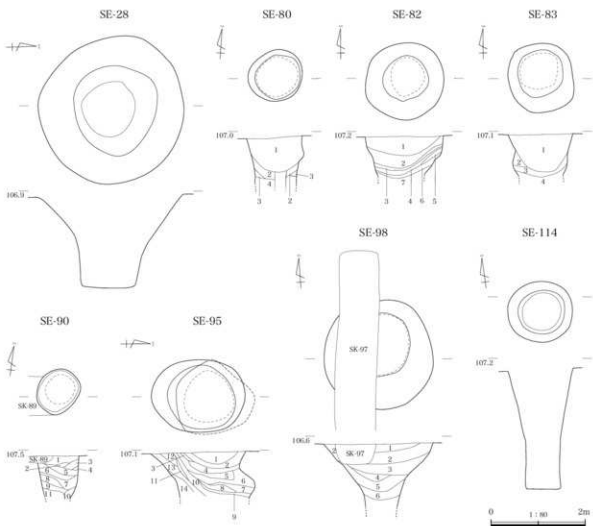
調査区北南西部の21-23グリッドに位置する。掘立柱建物群の中に位置し、これに伴うものと考えられる。掘立柱建物跡SB-416・417と重複するが、新旧関係は不明である。SE-260が近接する。

規模は、検出面で0.83×0.72m、底面で1.02×0.92m、深さ1.81mである。形状は下ぶくれの円筒形を呈する。

出土遺物は、土師質土器鉢1点33gのほか、土師器環1点3g、須恵器甕1点35gが出土した。14は土師質土器鉢で、鉦目は9条一単位で、内面はよく使用されている。同様な鉢は当遺跡SB-36でも出土している。16世紀代と考えられる。

SE-315（第199図）

調査区北南東部の18-24グリッドに位置する。掘立柱建物群の北側に位置し、これに伴うものと考えられる。未完掘である。規模は、検出面で0.61×0.60m、確認された深さ1.21mである。形状は円筒形を呈する。出土遺物は確認されていない。



SE-80 土層説明

- 1 黒色土 2~3mm 大の黄色粒を均一に少量混入。しまりあり、固い。
- 2 黒色土 純黒色土。しまりあり、固い。
- 3 暗赤褐色土 10mm 大の今半粒石塊を均一に少量混入。しまりあり、固い。
- 4 黒色土 2~5mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。

SE-82 土層説明

- 1 黒色土 5mm 大の白色粒・赤色粒が散在的に極少量混入。しまりあり、固い。
- 2 黒色土 5mm 大の白色粒・赤色粒・茶色土を極少量混入。しまりあり、固い。
- 3 黒色土 1~2mm 大の赤色粒を均一に少量混入。しまりあり、固い。
- 4 黒色土 5mm 大の茶色土を均一に少量混入。しまりあり、固い。
- 5 黒色土 七本板軽石塊を少量混入。しまりあり、固い。
- 6 黒色土 1~2mm 大の黄褐色土を均一に少量混入。しまりあり、固い。
- 7 黒色土 5mm 大の黄褐色土を均一に少量混入。しまりあり、固い。

SE-83 土層説明

- 1 黒色土 2mm 大の白色粒が散在的に極少量混入。しまりあり、固い。
- 2 黒色土 純黒色土。しまりあり、柔らかい。
- 3 黒色土 茶色土を均一に少量混入。しまりあり、柔らかい。
- 4 黒色土 5mm 大の茶色土を均一に少量混入。しまりあり、柔らかい。

SE-90 土層説明

- 1 黒色土 0.5~1mm 大の白色粒を均一に少量混入。しまりあり、固い。
- 2 黒色土 1mm 大の七本板軽石塊を均一に少量混入。しまりあり、固い。
- 3 黒色土 2mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。
- 4 黄褐色土 七本板軽石塊を少量混入。しまりあり、固い。
- 5 黒色土 5~10mm 大の赤色粒を均一に少量混入。しまりあり、固い。
- 6 黒色土 今半粒石塊が散在的に少量混入。しまりあり、固い。
- 7 黄白褐色土 赤色粒・七本板軽石塊の混合土に黒色土を混入。しまりあり、固い、粘性あり。
- 8 黒色土 白色粘土が散在的に少量混入。しまりあり、固い。
- 9 黒色土 1~2mm 大の黄色粒を均一に混入。しまりあり、固い。
- 10 黒色土 赤色粒・七本板軽石塊を少量混入。しまりあり、固い。
- 11 黒色土 黄色粒を少量混入。しまりあり、固い。

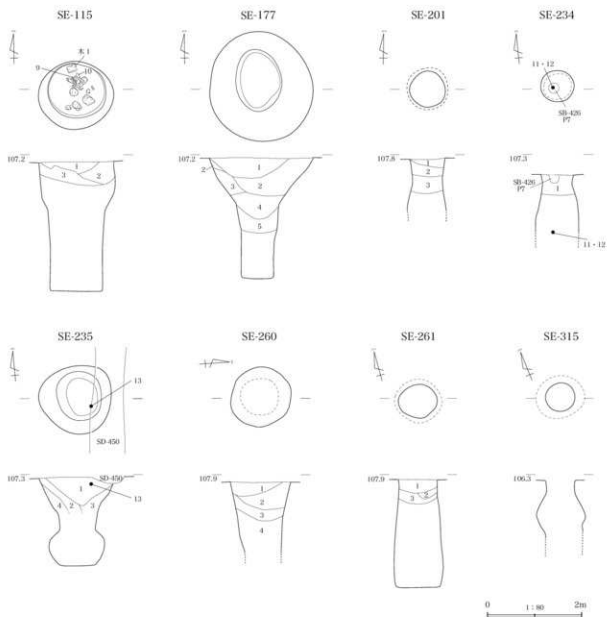
SE-95 土層説明

- 1 黒色土 1~5mm 大の赤色粒を均一に少量混入。しまりあり、固い。
- 2 黒色土 5~10mm 大の今半粒石塊を均一に少量混入。しまりあり、固い。
- 3 黒色土 10mm 大の黄色粘土粒を少量混入。しまりあり、固い。
- 4 黒色土 10mm 大の七本板軽石塊を少量混入。しまりあり、固い。
- 5 黒色土 10~20mm 大の黄色粘土塊多量。2mm 大の黄色粒が少量散在的に混入。しまりあり、固い。
- 6 黒色土 5mm 大の赤色粒が散在的に極少量混入。しまりあり、柔らかい。
- 7 黒色土 純黒色土。しまりあり、固い。
- 8 黒色土 5~8mm 大の黄色粘土粒を均一に少量混入。しまりあり、固い。
- 9 黒色土 2mm 大の白色粒を均一に少量混入。しまりあり、固い。
- 10 黒色土 10~20mm 大の黄色塊を均一に少量混入。しまりあり、固い。
- 11 黒色土 2mm 大の黄色粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。
- 12 黄褐色土 黄色粘土・4：黒色土6の混合土。しまりあり、固い。
- 13 黒色土 5mm 大の白色粘土粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。
- 14 灰黄褐色土 黄色粘土・4：白色粘土4：黒色土2の混合土。しまりあり、固い。

SE-98 土層説明

- 1 黒色土 5mm 大の赤色粒を均一に極少量混入。部分的に5~80mm 大の白色粘土を混入。しまりなし、柔らかい。
- 2 黒色土 2mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまりなし、柔らかい。
- 3 黒色土 5mm 大の今半粒石塊を均一に多量。5mm 大の七本板軽石塊が散在的に極少量混入。しまりなし、柔らかい。
- 4 黒色土 5mm 大の今半粒石塊が散在的に少量混入。白色粘土を糊状に混入。しまりなし、柔らかい。
- 5 赤黒褐色土 1mm 大の今半粒石塊を糊状に混入。5mm 大の七本板軽石塊を均一に少量混入。しまりなし、柔らかい。
- 6 黒色土 5mm 大の白色粘土土を均一に少量混入。しまりなし、柔らかい。

第198図 星ノ宮遺跡北調査区 SE実測図(1)



SE-115 土層説明

- 1 黒色土 40~50mm 大の白色粘土塊・10mm 前後の白色粘土粒・白色粘土微粒を多量混入。やや固い。(埋め戻し)
- 2 黒色土 白色粘土微粒を少量混入。柔らかい。
- 3 白色粘土 白色粘土塊。(埋め戻し)

SE-177 土層説明

- 1 黒色土 1mm 大の白色粒・赤色粒を均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。
- 2 黒色土 1mm 大の白色粒が散在的に極少量混入。しまりあり。柔らかい。
- 3 黒色土 2~5mm 大の黄色土粒を均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。
- 4 黒色土 5~10mm 大の黄色土粒が散在的に少量混入。しまりあり。柔らかい。
- 5 黒色土 5~10mm 大の赤色粒を均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。

SE-201 土層説明

- 1 黒褐色土 10~20mm 大の黄白色土粒・黄白色土微粒を多量。今市軽石微粒を少量混入。柔らかい。(埋め戻し)
- 2 黒色土 10~20mm 大の黄白色土粒・黄白色土微粒を少量混入。柔らかい。(埋め戻し)
- 3 黒褐色土 10~20mm 大の黄白色土粒・黄白色土微粒を多量。今市軽石微粒を少量混入。柔らかい。(埋め戻し)

SE-234 土層説明

- 1 黒褐色土 10~20mm 大の白色粘土粒・白色粘土微粒を多量混入。柔らかい。(埋め戻し)

SE-235 土層説明

- 1 白灰黒色土 20~50mm 大の白色粘土塊・5~15mm 大の白色粘土粒を多量混入。粘性あり。
- 2 白黒褐色土 20~50mm 大の白色粘土塊を極少量。5~15mm 大の白色粘土粒を多量混入。柔らかい。粘性あり。(埋め戻し)
- 3 黒色土 七本軽石微粒を少量混入。柔らかい。粘性あり。
- 4 黒色土 今市軽石微粒を少量混入。柔らかい。粘性あり。

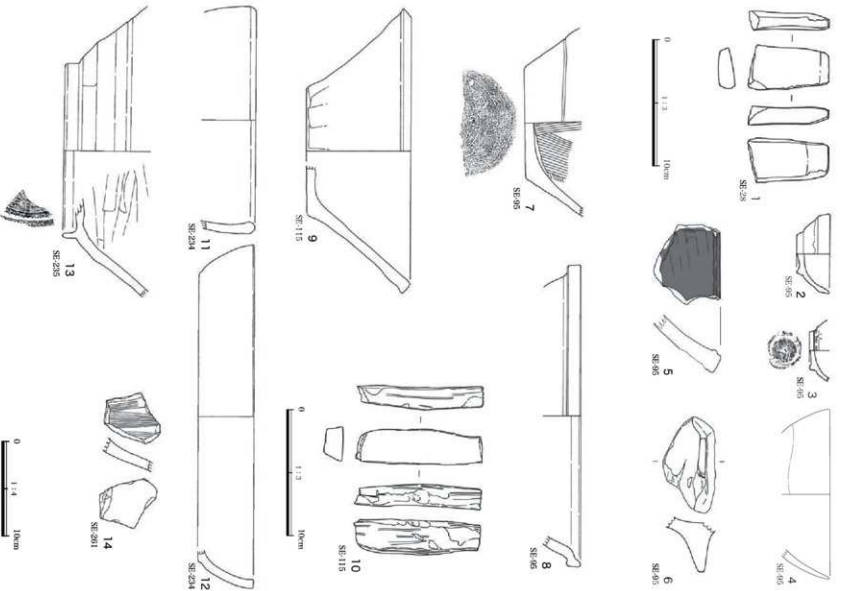
SE-260 土層説明

- 1 黄黒褐色土 50~70mm 大の黄白色粘土塊・黄白色粘土塊・黄白色粘土微塊。30~40mm 大の今市軽石塊・今市軽石塊・今市軽石微塊を多量混入。やや柔らかい。粘性あり。(埋め戻し)
- 2 黒褐色土 黄白色粘土粒・今市軽石粒・黄白色粘土微粒・今市軽石微粒を少量混入。やや固い。(埋め戻し)
- 3 黄黒褐色土 50~70mm 大の黄白色粘土塊・黄白色粘土塊・黄白色粘土微塊。30~40mm 大の今市軽石塊・今市軽石塊・今市軽石微塊を多量混入。やや柔らかい。粘性あり。(埋め戻し)
- 4 黒褐色土 黄白色粘土粒・今市軽石粒・黄白色粘土微粒・今市軽石微粒を少量混入。やや固い。(埋め戻し)

SE-261 土層説明

- 1 黒灰色土 暗灰色粘土 8:黒色土 2 の混合土。しまりなし。柔らかい。
- 2 黒色土 2~6mm 大のローム粒を多量混入。しまりなし。柔らかい。
- 3 黒色土 5mm 大の白色粘土土粒を均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。

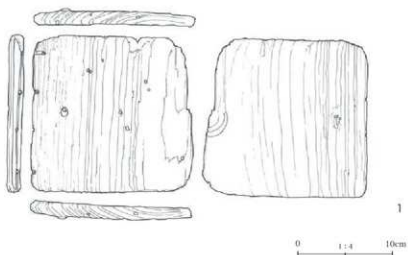
第199図 星ノ宮遺跡北調査区 SE実測図(2)



第 200 図 尾ノ宮遺跡北調査区 SE 出土遺物

第62表 星ノ宮遺跡北調査区 SE出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	石製品 砥石	長軸: (6.5) 短軸: 3.3 厚さ: 1.8 重量: 44.0g	流紋岩質凝 灰岩		外: 灰黄褐色	下端欠損	下端を欠損する短冊形。 表裏面、側面の3面が 砥面。	SE-28
2	古瀬戸 小天目茶 碗	口径: (8.0) 底径: (3.9) 器高: 3.5	砂粒	内: 体~底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、後 貼付高台後ナデ	内: 黒褐色 外: 黒褐色 ・良	1/5	内外面鉄軸。	SE-95 古瀬戸後期、 14c後半~ 15c前半か
3	古瀬戸 小天目茶 碗	口径: — 底径: 4.0 器高: (2.1)	砂粒	内: 体~底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、後 貼付高台後ナデ	内: 黒色 外: 灰褐色 ・良	底部完存	内面鉄軸。	SE-95 古瀬戸後期、 14c後半~ 15c前半か
4	瀬戸美濃 灰軸平盤	口径: (18.0) 底径: — 器高: (1.8)	砂粒	内: 口縁~体部ロクロナ デ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、下半ヘラケズリ	内: にぶい黄色 外: 灰黄色 ・良	口縁~体 部破片	内外面灰軸。	SE-95 古瀬戸後期 I~II期、 14c後半~ 15c初頭
5	瓦質土器 火鉢	口径: — 底径: — 器高: (7.1)	黒色ガラス 質粒、白色 粒、砂質	内: ヨコ方向ナデ 外: ヨコ方向ヘラケズリ	内: 灰色 外: 黒色 ・	口縁部	内面全体に炭化物が付 着する。口縁部内面端 部から外面に向かって 孔が2方所穿たれてい る。補修孔か。破断面 には炭化物が付着して おり、補修後も使用さ れている。	SE-95
6	瓦質土器 釜	口径: — 底径: — 器高: (5.2)	雲母多量、 砂粒	内: 体部ナデ 外: 取手部ナデ	内: 暗青灰色 外: 暗青灰色 ・良	取手部の み		SE-95 15cか
7	瀬戸 搦鉢	口径: — 底径: 11.4 器高: (6.0)	砂粒多量	内: 卸目 外: 体部下端回転ヘラ ズリ様ヘラナデ、底部回 転ヘラケズリ	内: 暗赤褐色~にぶ い黄褐色 外: 暗赤褐色 ・良	体部下半 ~底部 1/2	卸目16条一単位。底 部内面にも施される。	SE-95 古瀬戸後期 IV期 (15c中 頃~) 以降 もしくはは大 瀬I~II期 (15c末~ 16c前半) か
8	瀬戸 搦鉢	口径: (31.6) 底径: — 器高: (3.9)	砂粒、小礫	内: 口縁部ロクロナデ 外: 口縁部ロクロナデ	内: 黒褐色 外: 黒褐色 ・良	口縁部 1/12		SE-95
9	常滑片口 鉢	口径: (28.0) 底径: (13.4) 器高: 11.0	砂粒・小礫 多量	内: 口縁部ヨコナデ、体 部ヘラナデ後ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体 部ヘラケズリ	内: 赤褐色 外: 褐色 ・良	口縁部 1/4 底部 1/8	内面平滑。	SE-115 片口鉢II類 常滑8型式、 14c後半
10	石製品 砥石	長軸: (10.2) 短軸: 2.8 厚さ: 1.7 重量: 68.0g	流紋岩質凝 灰岩		外: 黄褐色	下端欠損	下端を欠損する短冊形。 1面のみが砥面。	SE-115
11	瓦質土器 鉢	口径: (22.8) 底径: — 器高: (5.7)	黒色粒・透 明粒・雲母 微量	内: 口縁部ヨコナデ 外: 口縁部ヨコナデ	内: 黒褐色 外: 褐灰色 ・良	口縁部 1/8		SE-234
12	内耳土器	口径: (36.0) 底径: (30.5) 器高: 6.0	透明粒・雲 母多量、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ 外: 底部ヨコナデ、底部 ケズリ	内: 暗褐色 外: 黒褐色 ・良	口縁~体 部部 1/6		SE-234 体部・底部 外面スス付 着
13	常滑 片口鉢	口径: — 底径: (18.0) 器高: (9.1)	砂粒	内: 胴~底部ヘラナデ 外: 胴部ヘラケズリナデ、 下端横位ヘラケズリ、後 貼付高台後ナデ	内: 黄灰色 外: 黄灰色 ・良	胴~底部 1/8	底部内面平滑。	SE-235 常滑5~6 型式、13c 代
14	土師質 土器 搦鉢	口径: — 底径: — 器高: (5.6)	砂粒多量	内: 卸目 外: 胴部ヘラナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	胴部破片	卸目9条一単位。	SE-261



第 201 図 星ノ宮遺跡北調査区 SE-115 出土木製品

第 63 表 星ノ宮遺跡北調査区 SE-115 出土木製品観察表

No.	品種 器形	大きさ (cm)	樹種	特徴
1	不明 板材	縦 : 15.5 横 : 17.2 厚 : 1.5	ヒメ	側面に釘を打ち込む穴がみられ、木製の釘が一部遺存している。側板を固定するための構造か、箱形木製品の底板か。放射性炭素年代測定の結果、13世紀末～14世紀初頭の年代が得られた。

4. 方形竪穴と出土遺物

方形竪穴は9基を確認した。SK-22・60は対面の両壁中央にピットをもつ。床面はSK-17で中央が低くなるほかは平坦で、埋設物や火床部も確認されていない。また出入口施設も確認されていない。出土遺物は混入した縄文式土器や土師器のほかは皆無で、時期決定には至らない。

SK-17 (第202図)

調査区北西部の18-19グリッドに位置する。方形竪穴SK-18、土坑SK-57と重複し、新旧関係はSK-18<SK-17<SK-57である。付近に建物跡は位置しないが、東側にやや離れてピット群と井戸跡SE-82・83が位置する。

規模は、1.70×1.55m、深さ0.12mで、やや南北に長い方形を呈する。主軸の示す軸方向はN-1°-Wである。壁は外傾し、床面は中央が低くなる。

出土遺物は確認されていない。

SK-18 (第202図)

調査区北西部の18-19グリッドに位置する。方形竪穴SK-17、土坑SK-57と重複し、新旧関係はSK-18<SK-17<SK-57である。付近に建物跡は位置しないが、やや離れた東側にピット群と井戸跡SE-82・83が位置する。

規模は、2.35×2.25m、深さ0.25mで、ほぼ正方形を呈する。主軸の示す軸方向はN-10°-Wである。壁は外傾し、床面は平坦である。

出土遺物は、縄文式土器1点27g、土師器環1点9gが出土している。

SK-21 (第202図、図版三二)

調査区中央部の18-22グリッドに位置する。付近に建物跡は位置しないが、北東方向に掘立柱建物群が位置し、その南側に本遺構を含む井戸跡・方形竪穴等の遺構が位置している。

規模は、2.85×2.80m、深さ0.12mで、ほぼ正方形を呈する。主軸の示す軸方向はN-1°-Eである。壁は外傾し、床面は凹凸が多く壁に近い部分で低くなる。

出土遺物は、縄文式土器1点8gが出土している。

SK-22 (第202図、図版三二)

調査区中央部の19-21グリッドに位置する。北側に掘立柱建物群が位置し、その南側に本遺構を含む井戸跡・方形竪穴等の遺構が位置している。

規模は、2.85×2.40m、深さ0.25mで、ほぼ正方形を呈する。主軸の示す軸方向はN-10°-Eである。壁は外傾し、床面は平坦で東壁および西壁中央にピットをもつ。ピットの深さは床面から0.22m、0.26mである。

出土遺物は確認されていない。

SK-23 (第202図、図版三二)

調査区中央部の19-22グリッドに位置する。北側に掘立柱建物群が位置し、その南側に本遺構を含む井戸跡・方形竪穴等の遺構が位置している。

規模は、3.03×2.96m、深さ0.31mで、ほぼ正方形を呈する。主軸の示す軸方向はN-13°-Eである。壁は外傾し、床面は平坦である。

出土遺物は確認されていない。

SK-26 (第202図)

調査区中央部の20-22グリッドに位置する。東側に掘立柱建物群が位置する。

規模は、3.85×3.30m、深さ0.33mで、やや東西に長い方形を呈する。主軸の示す軸方向はN-13°-Eである。壁は外傾し、床面は平坦である。

出土遺物は、土師器杯7点33gが出土している。

SK-60 (第202図、図版三二)

調査区北東部の20-19グリッドに位置する。付近に建物跡は位置しないが、西側にピット群と井戸跡SE-82・83・90が位置する。方形竪穴SK-61が近接する。

規模は、1.90×1.68m、深さ0.50mで、やや東西に長い方形を呈する。主軸の示す軸方向はN-2°-Eである。壁は内傾し、床面は平坦である。東壁および西壁中央にピットをもち、ピットの深さは床面から0.20m、0.30mである。

出土遺物は確認されていない。

SK-61 (第202図)

調査区北東部の20-19グリッドに位置する。付近に建物跡は位置しないが、西側にピット群と井戸跡SE-82・83・90が位置する。方形竪穴SK-60が近接する。

規模は、1.46×1.30m、深さ0.10mで、やや東西に長い方形を呈する。主軸の示す軸方向はN-5°-Eである。壁は外傾し、床面は平坦である。

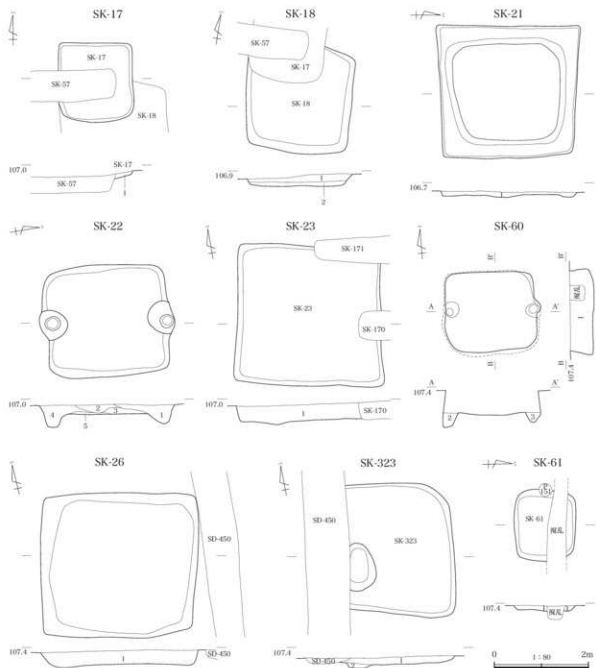
出土遺物は確認されていない。

SK-323 (第202図)

調査区南東部の20-23グリッドに位置する。掘立柱建物群の中に位置する。溝跡SD-450と重複し、SD-450が新しい。

規模は、確認できた範囲で2.65×2.17m、深さ0.23mで、方形を呈すると思われる。主軸の示す軸方向はN-20°-Eである。壁は外傾し、床面は平坦である。

出土遺物は確認されていない。



SK-17 土層説明

1 黒色土 2mm 大の白色砂・5~8mm 大の炭化物粒を均一に多量混入。し
まりあり、固い。

SK-18 土層説明

1 黒色土 2mm 大の白色砂・5~8mm 大の炭化物粒を均一に多量混入。し
まりあり、固い。

2 黒色土 6~10cm 大の七本板釘石塊・5~10mm 大の今市軽石粒を均一に
多量混入。しまりあり、固い。

SK-21 土層説明

1 黒褐色土 七本板釘石粒・2~3mm 大の今市軽石粒を少量混入。やや固い。

SK-22 土層説明

1 黒褐色土 今市軽石粒・七本板釘石粒を少量混入。柔らかい。

2 黒褐色土 40~50mm 大の今市軽石塊を少量混入。やや固い。

3 黒褐色土 10~30mm 大の今市軽石塊を少量混入。

4 黒褐色土 今市軽石粒を少量混入。柔らかい。

5 黒褐色土 七本板釘石粒・今市軽石粒を少量混入。やや固い。

SK-23 土層説明

1 黒褐色土 今市軽石塊・七本板釘石粒を少量混入。柔らかい。

SK-26 土層説明

1 黒褐色土 40~50mm 大の今市軽石塊・1~2mm 大の今市軽石粒を少量混入。

SK-60 土層説明

1 黒褐色土 今市軽石塊・七本板釘石粒を少量混入。

2 黒色土 50mm 大の七本板釘石塊を均一に多量混入。しまりあり、固い。

3 黒色土 10~20mm 大の七本板釘石塊を均一に多量混入。しまりあり、固い。

SK-61 土層説明

1 黒褐色土 今市軽石塊・七本板釘石粒を少量混入。

SK-323 土層説明

1 黒色土 七本板釘石粒を少量混入。

2 黒色土 30~50mm 大の今市軽石塊・七本板釘石粒を少量混入。

第202図 星ノ宮遺跡北調査区 方形竪穴実測図

5. 溝跡と出土遺物

SD-1 (第203図)

調査区北西部の17-19～17-20グリッドに位置する。

溝幅は、検出面で0.75～0.90m程度、深さ0.3m程度で、長さ18.2mにわたって確認された。

出土遺物は、縄文式土器17点217gが出土した。

SD-2 (第204・206図、第64表、図版四〇)

調査区南西部の17-23～19-24グリッドに位置する。溝跡の南側には掘立柱建物跡群が位置し、これらの建物跡と強い関係にあるものと思われる。本溝跡の北側には建物跡は検出されず、方形竅穴、長方形土坑、ピット等が確認されている。

溝幅は、検出面で0.75～1.70m程度、深さ0.42m程度で、断面は逆台形を呈する。長さ38.0mが確認された。

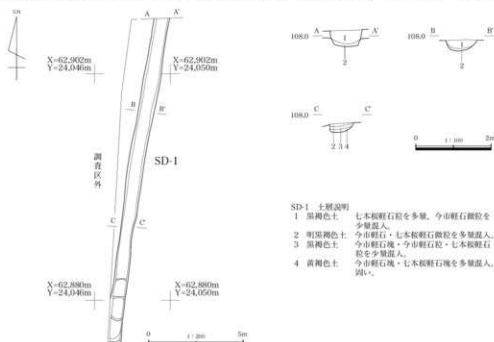
出土遺物は、土師質土器皿1点7g、常滑甕2点154g、石製品(砥石)1点46gのほか、縄文式土器1点15g、土師器甕5点555g、須恵器環2点35g、自然礫305gが出土した。

SD-450 (第205・206・207図、第64・65表、図版四一)

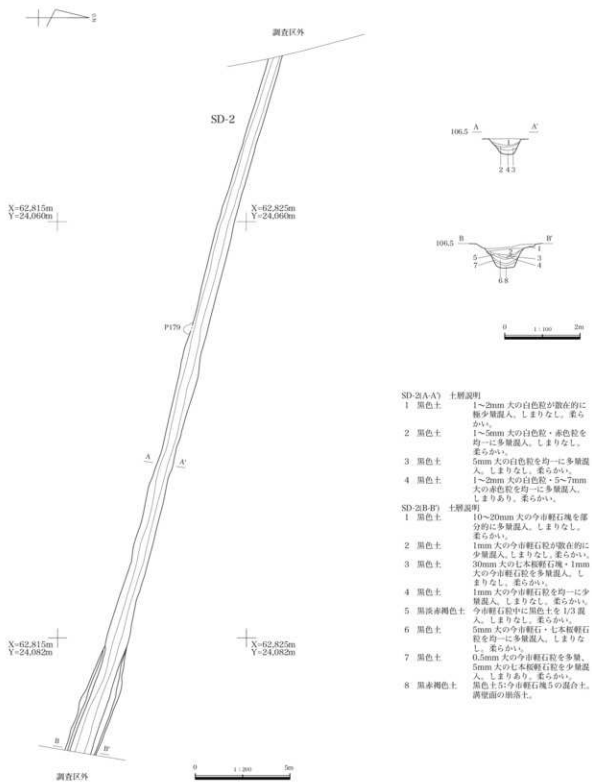
調査区東部の20-21～20-23グリッドに位置する。本溝跡の東西にわたって掘立柱建物跡群が位置するが、本溝跡と同時期に存在したのではなく、本溝跡の方が新しいと考えられる。これは建物跡群に伴うと思われるSE-235を本溝跡が切っていることから確認できる。

溝幅は、検出面で0.60～1.20m程度、深さ0.20m程度で、長さ61.0mが確認された。

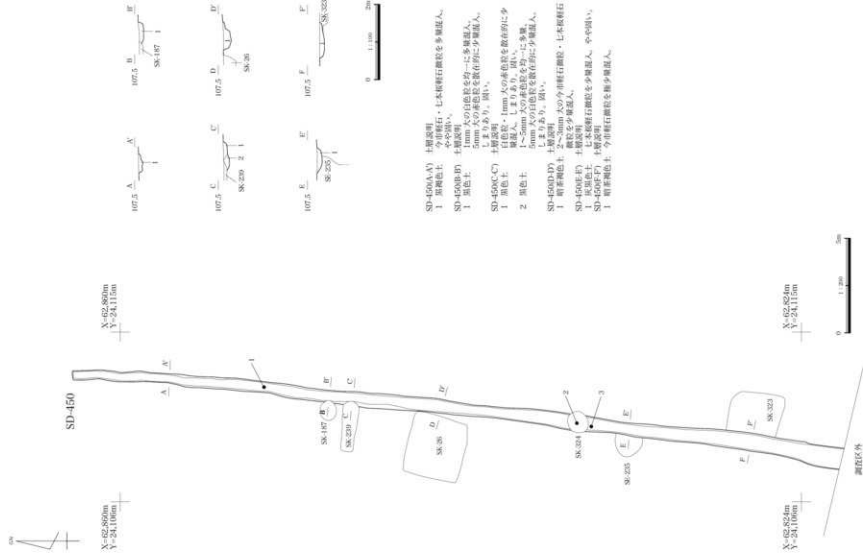
出土遺物は、内耳土鍋6点185g、瀬戸美濃碗1点3g、瀬戸美濃志野皿1点17g、常滑片口1点65g、そのほか陶磁器1点20g、石製品(砥石)1点39gのほか、縄文式土器4点165g、土師器環1点7g、土師器甕2点91g、自然礫529gが出土した。1は瀬戸美濃丸皿、2は瀬戸美濃碗である。16世紀後半～17世紀前半か。



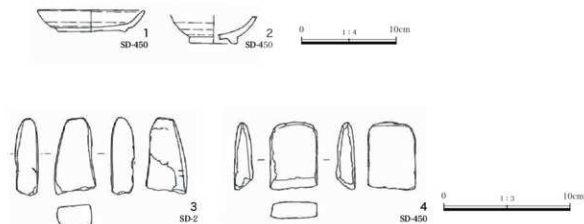
第203図 星ノ宮遺跡北調査区 SD-1実測図



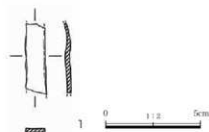
第204図 星ノ宮遺跡北調査区 SD-2実測図



第 205 図 星ノ宮遺跡北調査区 SD-450 実測図



第206図 星ノ宮遺跡北調査区 溝跡出土遺物



第207図 星ノ宮遺跡北調査区 SD-450 出土鉄製品

第64表 星ノ宮遺跡北調査区 溝跡出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	瀬戸美濃 丸皿	口径:(11.2) 底径:(8.2) 器高:2.3	黒色微粒	内:体~底部口クロナデ 外:体部口クロナデ、後 胎付高台後ナデ	内:灰白色 外:灰白色 ・良	1/5	内外面施軸。底部外面 重ね焼き胎土目跡あ り。	SD-450 17c
2	瀬戸美濃 碗	口径:— 底径:(4.8) 器高:(2.9)	黒色微粒	内:体~底部口クロナデ 外:体部口クロナデ、後 胎付高台後ナデ	内:灰白色 外:灰白色 ・良	体~底 部 1/6	内外面施軸。	SD-450 17c か
3	石製品 砥石	長軸:(6.2) 短軸:3.3 厚さ:1.8 重量:46.0g	凝灰岩		外:淡黄色	下端欠 損	下端を欠損する短冊 形。側面4面とも砥面・ 擦痕あり。	SD-2
4	石製品 砥石	長軸:(5.3) 短軸:3.8 厚さ:1.3 重量:39.0g	砂岩か		外:灰黄色	下端欠 損	下端を欠損する短冊 形。表面2面と先端部 が砥面。	SD-450

第65表 星ノ宮遺跡北調査区 SD-450 出土鉄製品観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	不明 鉄製品	長さ:(3.6) 厚さ:0.2 重量:2.3g	厚さ2mmの薄い板状破片。長軸断面は上半が僅かに反り、反りから 上は厚みが薄くなる。短軸断面は横長の長方形。	両端部欠損	

6. 土坑と出土遺物

形状は長方形、方形、円形、小規模なピット状のものがあり、長方形 107 基、方形 11 基、円形 44 基、小規模なピット状のもの 268 基、合計 430 基を確認した。小規模なピット状のものは「P」とした。明確に時期を決定できるものは僅かである。

長方形の土坑は栃木県内の中世遺跡では普遍的にみられ、副葬品とみられる遺物を出土し墓坑と判断される場合もあるが、本調査区では墓坑を含め機能を推定するに至るものはみられない。幅は 0.6～0.9m 程度で、長さは 1.2～2.0m の小規模、4.0～6.0m の中規模、10.0～12.0m の大規模のものがみられる。深さは 0.2m 以下の浅いものがほとんどである。長辺の示す軸方向は南北もしくは東西方向に限られる。調査区中央から南西部にかけて多く分布し、中央部では井戸跡や方形竪穴より新しく南西部では掘立柱建物跡群より古い。

方形の土坑は方形竪穴よりも規模が小さく、一辺 1.0～1.2m 程度、深さ 0.2～0.6m 程度である。遺構底面は平坦で、ピットや火床等もたない。掘立柱建物跡群の付近に位置するが、南東部では掘立柱建物跡 SB-420 と重複し、土坑の方が新しい。

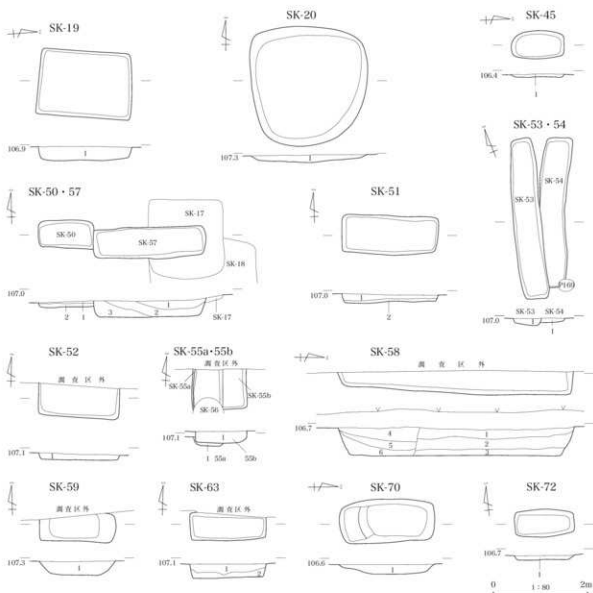
円形のもの遺構底面に段差や円形の掘り込みをもつものがみられ、桶等の構造物が埋め込まれ機能していた可能性がある。直径 1.0m ほどの小型のものと、直径 1.5m 以上の大型のものがある。深さは 0.2～0.3m 程度であるが、遺構底面に段を有する SK-256・266 は 0.7m、1.0m の深さを有する。方形土坑と同様に掘立柱建物跡群の付近に位置する。

方形および円形の土坑で 1.0m 以上の深さのあるものについては近世墓掘方の可能性も考えられるが、本調査区ではそれと認定できるものは確認されていない。

小規模なピット状のものは調査区北部、調査区南西部に多く分布する。このうち調査区北部に集中するものは、掘立柱建物を構成する可能性もある。直径 0.25～0.4m 程度、深さ 0.1～0.5m 程度である。調査区中央部の SK-116・117 周囲にみられるものは、SK-116・117 に伴い上屋を形成するものか。

土坑からの出土遺物のうち図示できるものは僅かである。1 は円形で底面に段を有する SK-256 出土の磁器小鉢で、19 世紀前半頃か。3 は P369 出土の焙烙である。器高/口径は 1/6 未満で、体部は丸みをもって開くが下半に指頭圧痕がみられる。体部外面に煤が付着する。胎土に金雲母を多量に含む。破片のため内耳は確認できない。17 世紀中葉頃か。

そのほか SK-56 で縄文式土器 1 点 5g、SK-84 で土師器甕 1 点 21g、須恵器甕 1 点 14g、SK-101 で土師質土器皿 1 点 9g、縄文式土器 1 点 11g、SK-106 で常滑甕 1 点 134g、自然礫 6.681g、SK-111 で内耳土鍋 1 点 21g、SK-116 で磁器碗 1 点 1g、SK-117 で土師器環 1 点 5g、土師器甕 1 点 27g、SK-146 で自然礫 133g、SK-150 で土師器甕 1 点 10g、縄文石器 1 点 134g、SK-160 で瀬戸美濃碗 1 点 17g、SK-161 で瀬戸美濃碗 1 点 38g、SK-163 で陶磁器甕 1 点 32g、土師器環 1 点 3g、土師器甕 2 点 17g、SK-169 で土師器環 1 点 6g、土師器甕 1 点 17g、自然礫 84g、SK-204 で土師器甕 1 点 24g、SK-207 で土師器甕 1 点 7g、縄文式土器 1 点 74g、SK-214 で縄文式土器 1 点 36g、SK-222 で内耳土鍋 1 点 19g、SK-226 で石製品(砥石) 1 点 65g、SK-229 で常滑甕 1 点 37g、SK-251 で瀬戸美濃碗 1 点 2g、瀬戸美濃柄付き片口 1 点 12g、陶磁器壺 1 点 42g、土師器環 1 点 2g、SK-256 で磁器碗 1 点 5g、SK-284 で土師器甕 1 点 18g、SK-292 で土師器環 3 点 12g、SK-299 で土師器環 1 点 17g、SK-312 で自然礫 302g、SK-314 で土師器甕 1 点 7g、SK-382 で瀬戸掃鉢 1 点 11g、土師器甕 3 点 24g、P112 で土師器甕 1 点 6g、P187 で自然礫 454g、P233 で土師質土器皿 1 点 8g、P369 で内耳土鍋 1 点 947g、P377 で内耳土鍋 5 点 27g、瀬戸美濃碗 1 点 7g、縄文式土器 1 点 26g が出土した。



SK-19 土層説明

1 黒褐色土 4~6cm 大の今市軽石塊・10~15mm 大の七本板軽石殻を多量混入、やや固い。

SK-20 土層説明

1 黒褐色土 1mm 大の七本板軽石殻粒を極少量混入、やや固い。

SK-45 土層説明

1 黒褐色土 0.5mm 大の白色粒を均一に極少量混入、しまりなし、柔らかい。

SK-50 土層説明

1 黒色土 1mm 大の白色粒を均一に極少量混入、しまりあり、固い。
2 黒色土 1~5mm 大の白色粒・2mm 大の赤色粒を均一に多量混入、しまりあり、固い。

SK-57 土層説明

1 黒色土 25~30mm 大の七本板軽石塊・1~2mm 大の白色粒・6~9mm 大の赤色粒を均一に少量混入、しまりあり、固い。
2 黒色土 2mm 大の赤色粒・5~7mm 大の白色粒を均一に多量混入、しまりあり、固い。
3 黒色土 30~40mm 大の七本板軽石塊・50~60mm 大の今市軽石塊・1~2mm 大の白色粒・10mm 大の赤色粒を均一に多量混入、しまりあり、固い。

SK-51 土層説明

1 黒色土 1mm 大の白色粒が散在的に少量混入、しまりあり、固い。
2 黒色土 1mm 大の赤色粒が散在的に極少量混入、しまりあり、固い。

SK-52 土層説明

1 黒色土 0.5~1mm 大の白色粒を均一に少量混入、しまりあり、固い。

SK-53 土層説明

1 黒色土 2~8mm 大の七本板軽石殻を均一に多量混入、しまりあり、固い。
SK-54 土層説明
1 黒色土 2mm 大の七本板軽石殻・5mm 大の今市軽石殻が散在的に少量混入、しまりあり、固い。

SK-55a 土層説明

1 黒色土 5mm 大の赤色粒を均一に多量混入、しまりあり、固い。

SK-55b 土層説明

1 黒色土 2mm 大の赤色粒・5mm 大の白色粒を少量混入、しまりあり、固い。

SK-58 土層説明

1 黒色土 1~2mm 大の七本板軽石殻を均一に多量混入、しまりなし、柔らかい。
2 黒色土 1mm 大の今市軽石殻・七本板軽石殻を均一に多量混入、しまりなし、柔らかい。
3 黒色土 2mm 大の七本板軽石殻を含む黒色土、しまりなし、柔らかい。
4 黒色土 1~2mm 大の七本板軽石殻・5~6mm 大の今市軽石殻を均一に多量混入、しまりなし、柔らかい。
5 黒色土 5mm 大の七本板軽石殻を均一に極少量混入、しまりなし、柔らかい。
6 黒色土 1~8mm 大の七本板軽石殻を散在的に少量混入、しまりなし、柔らかい。

SK-59 土層説明

1 黒褐色土 今市軽石塊・今市軽石殻・七本板軽石殻を多量混入、しまりあり。

SK-63 土層説明

1 黒色土 1~2mm 大の白色粒・10~15mm 大の赤褐色色粒を均一に多量混入、しまりあり、固い。

SK-70 土層説明

2 黒色土 1~2mm 大の白色粒を均一に極少量混入、しまりあり、固い。

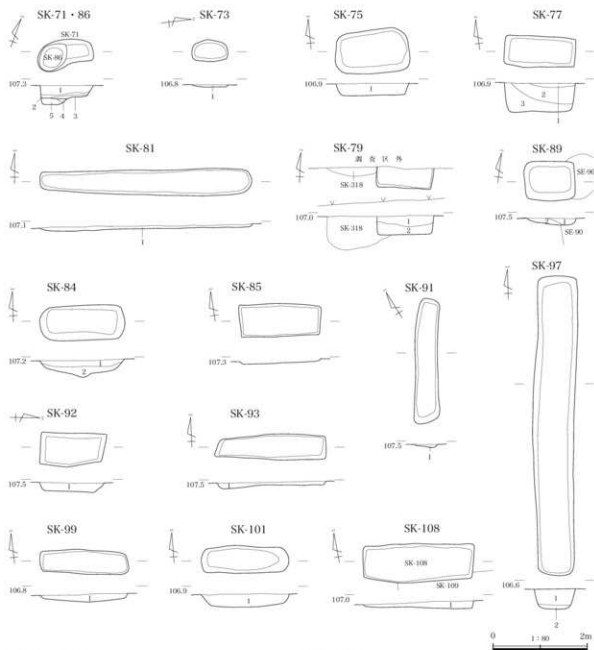
SK-72 土層説明

1 黒色土 1~2mm 大の白色粒を散在的に少量混入、しまりあり、固い。

SK-72 土層説明

1 黒色土 1mm 大の白色粒を均一に少量混入、しまりあり、固い。

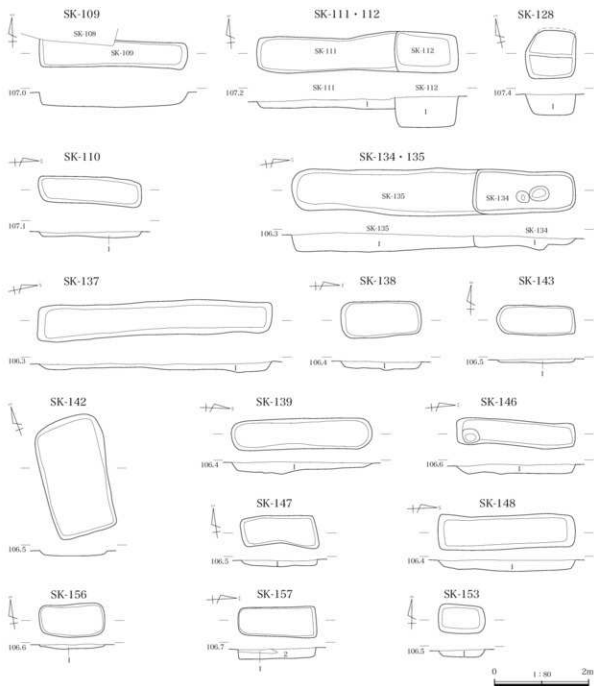
第 208 図 星ノ宮遺跡北調査区 SK 実測図 (1)



- SK-71・86 土層説明
 1 黒色土 0.5mm 大の白色粒が散在的に極少量混入。しまりあり。固い。(SK-71)
 2 黒色土 七本板軽石粒を均一に多量混入。しまりあり。固い。(SK-71)
 3 黒色土 2mm 大の七本板軽石粒を極少量混入。しまりあり。固い。(SK-71)
 4 黒色土 茶色土を少量混入。しまりあり。固い。(SK-86)
 5 黄茶黒色土 七本板軽石を均一に多量混入。しまりあり。固い。(SK-86)
- SK-73 土層説明
 1 黒色土 0.5mm 大の白色粒を均一に極少量混入。しまりなし。柔らかい。
- SK-75 土層説明
 1 黒色土 1~2mm 大の白色粒を均一に少量混入。しまりあり。固い。
- SK-77 土層説明
 1 黒色土 今市軽石塊を均一に多量混入。しまりあり。固い。
 2 黒色土 5~7mm 大の赤色粒を均一に少量混入。しまりあり。固い。
 3 黒色土 5~10mm 大の七本板軽石粒を均一に多量混入。しまりあり。固い。
- SK-79 土層説明
 1 黒色土 1~2mm 大の白色粒・2mm 大の赤色粒を均一に少量混入。しまりあり。固い。
 2 黒色土 1~2mm 大の白色粒・2mm 大の赤色粒を均一に少量・5~7mm 大の黄色粒を散在的に混入。しまりあり。固い。
- SK-81 土層説明
 1 黒色土 1mm 大の白色粒を均一に少量混入。しまりあり。固い。

- SK-84 土層説明
 1 黒色土 今市軽石塊が散在的に少量混入。しまりあり。固い。
 2 黒色土 5mm 大の七本板軽石粒を均一に少量混入。しまりあり。固い。
- SK-89 土層説明
 1 黒色土 5~7mm 大の白色粒・赤色粒が散在的に極少量混入。しまりあり。固い。
 2 黒色土 5~10mm 大の赤色粒を均一に多量混入。しまりあり。固い。
- SK-91 土層説明
 1 灰黒褐色土 今市軽石粒を微量混入。
- SK-92 土層説明
 1 原褐色土 今市軽石・七本板軽石粒を多量混入。固い。
 SK-93 土層説明
 1 灰黒褐色土 今市軽石・七本板軽石粒を微量混入。
- SK-97 土層説明
 1 黒色土 50mm 大の白色粘土塊を混入。5~8mm 大の今市軽石粒・10mm 大の白色粘土粒を均一に混入。しまりなし。柔らかい。1mm 大の今市軽石が層状に堆積。しまりなし。柔らかい。
 2 赤褐色土
- SK-99 土層説明
 1 原褐色土 純黒色土。柔らかい。
- SK-101 土層説明
 1 黒色土 今市軽石粒を少量混入。柔らかい。
- SK-108 土層説明
 1 黒色土 2mm 大の白色粒を散在的に少量混入。しまりあり。柔らかい。

第209図 星ノ宮遺跡北調査区 SK実測図(2)



SK-110 土塼説明

1 黒色土 純黒色土。しまりあり。柔らかい。

SK-111 土塼説明

1 黒色土 今市軽石・七本桜軽石澱粒を極少量混入。柔らかい。

SK-112 土塼説明

1 黄褐色土 30~40mm 大の今市軽石塊・10mm 前後の今市軽石粒を多量混入。柔らかい。

SK-128 土塼説明

1 黒褐色土 10~20mm 大の今市軽石・今市軽石澱粒を多量混入。七本桜軽石澱粒を少量混入。柔らかい。

SK-134 土塼説明

1 黒色土 今市軽石澱粒を極少量混入。柔らかい。

SK-137 土塼説明

1 黒色土 今市軽石・七本桜軽石を少量、20mm 前後の七本桜軽石粒を極少量混入。柔らかい。

SK-138 土塼説明

1 黒色土 七本桜軽石を少量混入。柔らかい。

SK-139 土塼説明

1 黒色土 七本桜軽石粒を少量混入。柔らかい。

SK-143 土塼説明

1 黒褐色土 今市軽石澱粒を少量混入。柔らかい。

SK-145 土塼説明

1 黒色土 七本桜軽石塊・今市軽石澱粒・七本桜軽石澱粒を少量混入。柔らかい。

SK-147 土塼説明

1 黒褐色土 七本桜軽石澱粒を少量混入。柔らかい。

SK-148 土塼説明

1 黒褐色土 七本桜軽石塊を多量混入。今市軽石・七本桜軽石澱粒を少量混入。柔らかい。

SK-153 土塼説明

1 黒褐色土 今市軽石澱粒を少量混入。柔らかい。

SK-156 土塼説明

1 黒褐色土 今市軽石澱粒を少量混入。柔らかい。

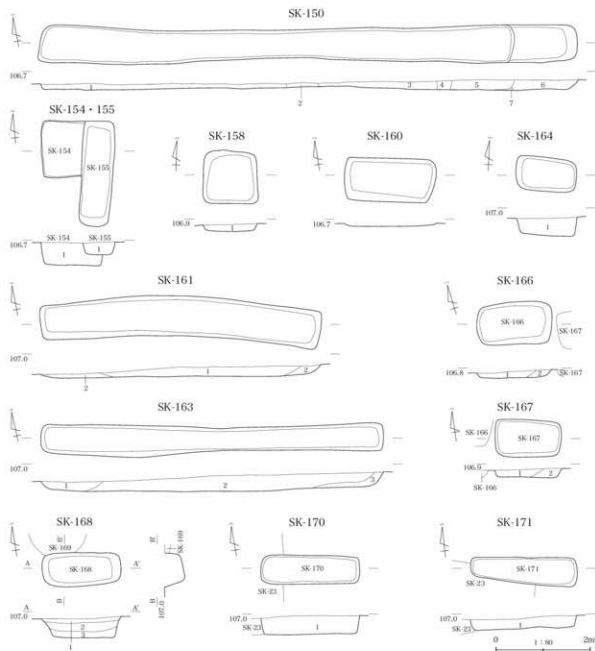
SK-157 土塼説明

1 黄褐色土 今市軽石塊・七本桜軽石を多量混入。柔らかい。

SK-158 土塼説明

2 黒褐色土 今市軽石澱粒を少量混入。柔らかい。

第210図 星ノ宮遺跡北調査区 SK実測図(3)



SK-150 土層説明

- 1 黒色土 今市軽石塊・七本板軽石微粒を少量混入。
- 2 黒色土 今市軽石塊・七本板軽石微粒を少量混入。
- 3 黒褐色土 今市軽石塊・七本板軽石塊・今市軽石粒・七本板軽石粒を多量混入。柔らかい。
- 4 黒褐色土 今市軽石塊を多量混入。七本板軽石微粒を少量混入。
- 5 黒褐色土 今市軽石塊を多量混入。七本板軽石粒を少量混入。柔らかい。
- 6 黒褐色土 今市軽石粒を多量混入。七本板軽石微粒を少量混入。柔らかい。
- 7 黒褐色土 今市軽石粒を少量混入。柔らかい。

SK-154 土層説明

- 1 黒褐色土 今市軽石塊・今市軽石粒を多量。七本板軽石微粒を少量混入。柔らかい。

SK-155 土層説明

- 1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石塊を多量混入。

SK-158 土層説明

- 1 黒褐色土 七本板軽石微粒を極少量混入。柔らかい。

SK-161 土層説明

- 1 黒色土 10~15mm 大の今市軽石塊・8~10mm 大の七本板軽石塊を均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。
- 2 黒色土 1~5mm 大の黄色粒を散在的に少量混入。しまりあり。柔らかい。

SK-163 土層説明

- 1 黒色土 今市軽石を帯状に多量混入。しまりあり。柔らかい。
- 2 黒色土 2~5mm 大の赤色粒・5mm 大の黄色粒を均一に多量混入。若干炭化物含む。しまりあり。柔らかい。
- 3 黒色土 純黒色土。しまりあり。柔らかい。

SK-164 土層説明

- 1 黒褐色土 5~7mm 大の七本板軽石・今市軽石・七本板軽石微粒を少量混入。柔らかい。

SK-166 土層説明

- 1 黒褐色土 七本板軽石塊を多量混入。柔らかい。
- 2 黒褐色土 七本板軽石微粒を少量混入。柔らかい。

SK-167 土層説明

- 1 黒褐色土 七本板軽石を多量。今市軽石粒を少量混入。柔らかい。
- 2 黒褐色土 七本板軽石微粒を少量混入。柔らかい。

SK-168 土層説明

- 1 黄褐色土 今市軽石粒・七本板軽石微粒を多量混入。柔らかい。
- 2 黒褐色土 今市軽石粒を少量混入。柔らかい。
- 3 暗黄褐色土 今市軽石粒・七本板軽石微粒を少量混入。柔らかい。

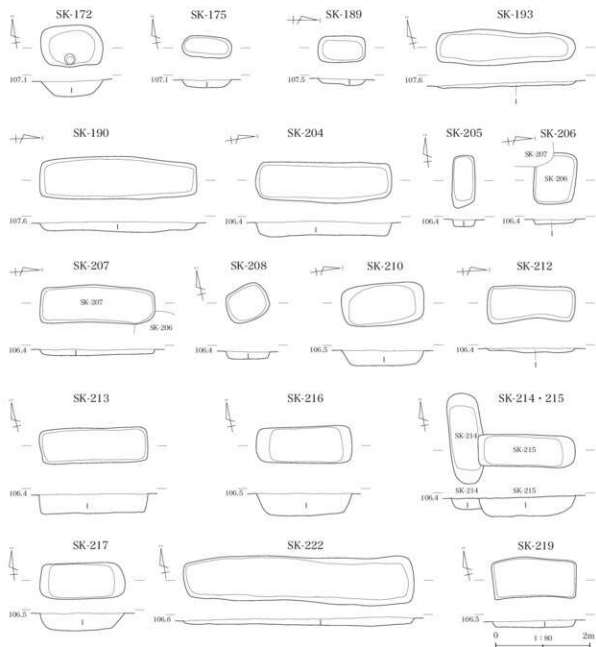
SK-170 土層説明

- 1 黄褐色土 40~70mm 大の今市軽石塊・10mm 前後の七本板軽石粒を多量混入。柔らかい。

SK-171 土層説明

- 1 黒褐色土 20mm 前後の今市軽石塊・5mm 前後の七本板軽石粒を少量混入。柔らかい。

第 211 図 星ノ宮遺跡北調査区 SK 実測図 (4)



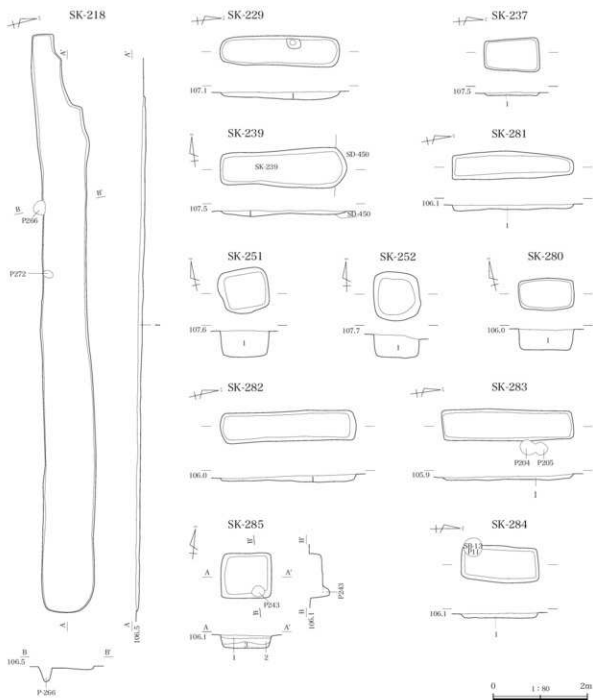
SK-172 土層説明

- 1 黒褐色土、今市軽石径・5~10mm 大の七本板軽石粒を少量混入。柔らかい。
 SK-175 土層説明
 1 黒褐色土 1~2mm 大の今市軽石粒を少量混入。柔らかい。
 SK-189 土層説明
 1 黒色土、今市軽石・5~10mm 大の七本板軽石粒を少量混入。柔らかい。
 SK-190 土層説明
 1 黒色土 50~60mm 大の今市軽石塊を少量、今市軽石・七本板軽石粒を極少量混入。柔らかい。
 SK-193 土層説明
 1 黒色土 2~3mm 大の七本板軽石粒を少量混入。柔らかい。
 SK-204 土層説明
 1 黒色土 50~60mm 大の七本板軽石塊少量、1~5mm 大の七本板軽石粒を均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。
 SK-205 土層説明
 1 黒褐色土、七本板軽石粒を極少量混入。柔らかい。
 SK-206 土層説明
 1 黒色土、今市軽石・七本板軽石粒を極少量混入。柔らかい。
 SK-208 土層説明
 1 黒色土、褐色塊・七本板軽石粒を少量混入。柔らかい。

SK-210 土層説明

- 1 黒色土 0.5~2mm 大の今市軽石粒を均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。
 SK-212 土層説明
 1 黒褐色土、今市軽石粒を極少量混入。柔らかい。
 SK-213 土層説明
 1 黒色土 20~60mm 大の七本板軽石塊を多量混入。しまりなし。柔らかい。
 SK-214 土層説明
 1 黒色土 20mm 大の七本板軽石塊を少量混入。しまりなし。柔らかい。
 SK-215 土層説明
 1 黒色土 50~60mm 大の今市軽石塊・2~10mm 大の今市軽石粒を均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。
 SK-216 土層説明
 1 黒色土 2~8mm 大の今市軽石粒を均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。
 SK-217 土層説明
 1 黒色土 100~150mm 大の七本板軽石・今市軽石塊を均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。
 SK-219 土層説明
 1 黒色土 七本板軽石粒を少量混入。柔らかい。
 SK-222 土層説明
 1 黒色土 30~40mm 大の今市軽石塊・15~20mm 大の七本板軽石粒を少量混入。柔らかい。

第212図 皇ノ宮遺跡北調査区 SK実測図(5)



SK-218 土層説明

1 黒色土 2~3mm 大の七本板軽石粒を少量混入。しまりなし。柔らかい。

SK-229 土層説明

1 黒色土 純黒色土。しまりなし。柔らかい。

SK-237 土層説明

1 黒色土 2~3mm 大の七本板軽石粒を極少量混入。柔らかい。

SK-239 土層説明

1 黒色土 1mm 大の白色殻・赤色殻を均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。

SK-251 土層説明

1 黒色土 40~50mm 大の今市軽石塊・2~5mm 大の七本板軽石粒が散在的に多量混入。しまりなし。柔らかい。

SK-252 土層説明

1 黒褐色土 40~60mm 大の今市軽石塊・今市軽石粒・七本板軽石粒を多量混入。柔らかい。

SK-280 土層説明

1 黒褐色土 七本板軽石塊・今市軽石粒を多量、七本板軽石粒を少量混入。柔らかい。

SK-281 土層説明

1 黒色土 七本板軽石粒を少量混入。柔らかい。

SK-282 土層説明

1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石粒を少量混入。やや固い。

SK-283 土層説明

1 黒色土 今市軽石粒を少量混入。柔らかい。

SK-284 土層説明

1 黒色土 今市軽石・七本板軽石粒を少量混入。柔らかい。

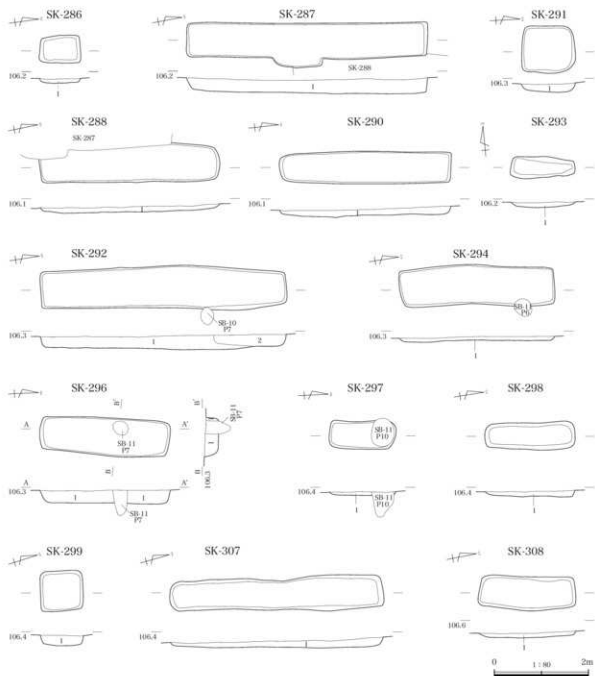
SK-285 土層説明

1 黄褐色土 今市軽石塊・今市軽石粒を多量、七本板軽石粒を少量混入。柔らかい。

2 黒褐色土 今市軽石粒・七本板軽石粒を少量混入。やや固い。

3 黄褐色土 今市軽石粒を多量、七本板軽石粒を少量混入。柔らかい。

第 213 図 星ノ宮遺跡北調査区 SK 実測図 (6)



SK-286 土層説明

1 黒褐色土 七本桜石粒を多量、今市軽石粒を少量混入。柔らかい。

SK-287 土層説明

1 黒褐色土 今市軽石塊・今市軽石粒を多量、七本桜石粒を少量混入。柔らかい。

SK-288 土層説明

1 黒褐色土 今市軽石塊・七本桜石粒を少量混入。柔らかい。

SK-290 土層説明

1 黒褐色土 今市軽石・七本桜石粒を混入。柔らかい。

SK-292 土層説明

1 黒色土 20~40mm 大の七本桜石塊・今市軽石・七本桜石粒を少量混入。柔らかい。

SK-296 土層説明

1 黒色土 5mm 大の七本桜石粒を均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。

2 黒色土 20~60mm 大の七本桜石塊を均一に少量混入。2~3mm 大の七本桜石粒を混入。しまりなし。柔らかい。

SK-293 土層説明

1 灰黒色土 今市軽石粒を極少量混入。柔らかい。

SK-294 土層説明

1 黒色土 2mm 大の今市軽石粒を極少量混入。しまりなし。柔らかい。

SK-295 土層説明

1 黒褐色土 七本桜石塊・七本桜石粒・今市軽石粒を多量混入。柔らかい。

SK-297 土層説明

1 黒色土 1mm 大の七本桜石粒を均一に極少量混入。しまりなし。柔らかい。

SK-298 土層説明

1 黒色土 1~5mm 大の七本桜石粒を均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。

SK-299 土層説明

1 黒色土 50mm 大の今市軽石塊を極少量混入。1~2mm 大の七本桜石粒・10~15mm 大の七本桜石粒を均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。

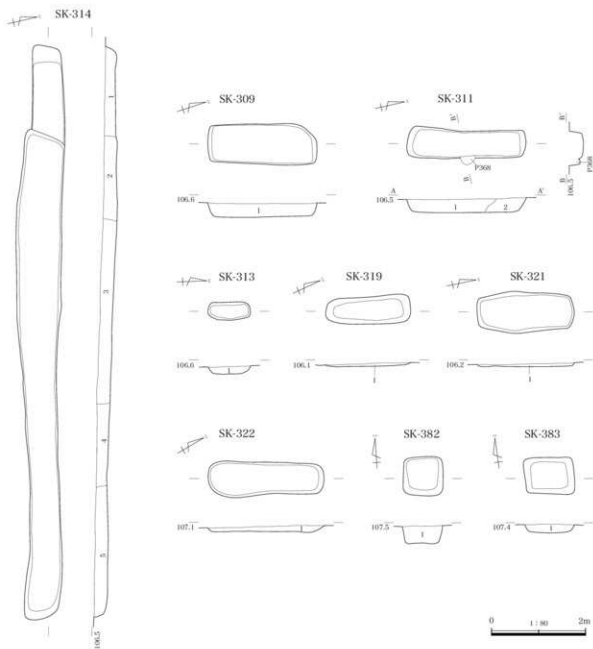
SK-307 土層説明

1 黒色土 5~12mm 大の今市軽石・七本桜石粒を少量混入。しまりなし。柔らかい。

SK-308 土層説明

1 茶黒色土 0.5~1mm 大の今市軽石粒を均一に極少量混入。しまりなし。柔らかい。

第214図 星ノ宮遺跡北調査区 SK実測図(7)



SK-309 土層説明

1 黒色土 1~5mm 及び 10~20mm 大の今市軽石粒を均一に多量混入。し
まりなし。柔らかい。

SK-311 土層説明

1 黒色土 5~10mm 大の今市軽石・七本桜軽石粒を均一に多量混入。しま
りなし。柔らかい。
2 黒色土 5mm 大の今市軽石粒を散在的に極少量混入。しまりなし。柔らか
い。

SK-313 土層説明

1 黒色土 105mm 大の七本桜軽石塊・2~3mm 大の今市軽石粒を均一に
多量混入。しまりなし。柔らかい。

SK-319 土層説明

1 黒色土 1~2mm 大の七本桜軽石粒・0.5mm 大の今市軽石粒を均一に
多量混入。しまりなし。柔らかい。

SK-321 土層説明

1 黒色土 150mm 大の今市軽石塊を少量混入。しまりなし。柔らかい。

SK-314 土層説明

1 黒色土 30mm 大の七本桜軽石塊・1~3mm 大の今市軽石粒を均一に少量
混入。しまりなし。柔らかい。

SK-322 土層説明

1 黒色土 1mm 大の白色粒を均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。

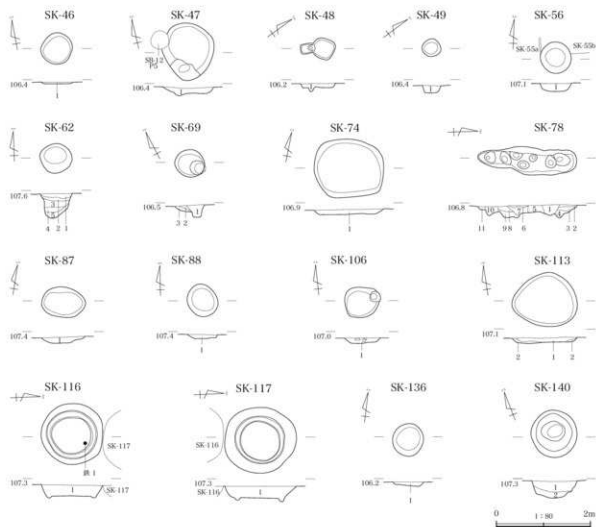
SK-382 土層説明

1 黒色土 40~50mm 大の今市軽石塊・2~5mm 大の七本桜軽石粒を均一に
少量混入。しまりなし。柔らかい。

SK-383 土層説明

1 黒褐色土 20~40mm 大の今市軽石塊・今市軽石粒・七本桜軽石粒を多量
混入。やや固い。

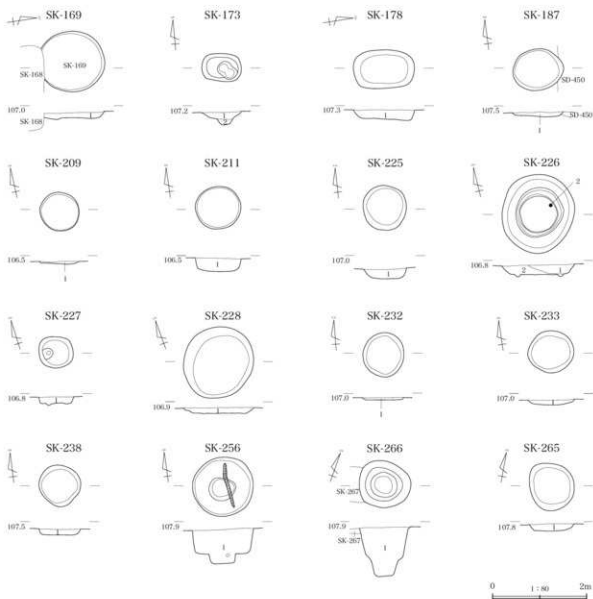
第 215 図 星ノ宮遺跡北調査区 SK 実測図 (8)



- SK-46 土層説明
1 黒色土 今市軽石微粒を少量混入。柔らかい。
- SK-47 土層説明
1 黒色土 1~2mm 大の七本桜軽石殻を均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。
- SK-48 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒を少量混入。やや固い。
2 黒褐色土 2mm 大の赤色殻を均一に少量混入。しまりあり。固い。
- SK-49 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒を少量混入。やや固い。
- SK-56 土層説明
1 黒色土 1~2mm 大の赤色殻・2mm 大の白色殻を少量混入。しまりあり。固い。
- SK-62 土層説明
1 黒色土 1~5mm 大の今市軽石・七本桜軽石殻が散在的に少量混入。しまりあり。固い。
2 黒赤褐色土 30mm 大の七本桜軽石殻・1~2mm 大の七本桜軽石殻を均一に多量混入。しまりあり。固い。
3 黒色土 2mm 大の七本桜軽石殻が散在的に極少量混入。しまりあり。固い。
4 黒色土 5~7mm 大の七本桜軽石殻を均一に少量混入。しまりあり。固い。
5 黒色土 1~5mm 大の七本桜軽石殻を均一に少量混入。しまりあり。固い。
- SK-69 土層説明
1 黒色土 1~2mm 大の白色殻を散在的に少量混入。しまりあり。固い。
2 茶褐色土 今市軽石殻を均一に多量混入。しまりあり。固い。
3 黒色土 2mm 大の赤色殻を均一に少量混入。しまりあり。固い。
- SK-74 土層説明
1 黒色土 1~2mm 大の白色土・極少量の七本桜軽石殻を混入。しまりあり。固い。

- SK-78 土層説明
1 黒色土 1mm 大の白色殻が散在的に極少量混入。しまりあり。固い。
2 黒色土 2mm 大の赤色殻・白色殻を均一に少量混入。しまりあり。固い。
3 黒褐色土 七本桜軽石殻を均一に多量混入。しまりあり。固い。
4 黒赤褐色土 茶色土を多量混入。しまりあり。固い。
5 黒色土 0.5~1mm 大の赤色殻を均一に少量混入。しまりあり。固い。
6 黒色土 2mm 大の赤色殻を均一に少量混入。しまりあり。固い。
7 黒赤褐色土 七本桜軽石殻を均一に多量混入。しまりあり。固い。
8 黒色土 1mm 大の赤色殻を均一に少量混入。しまりあり。固い。
9 黒色土 5mm 大の赤色殻を均一に少量混入。しまりあり。固い。
10 黒色土 純黒色土を均一に少量混入。しまりあり。固い。
11 黒色土 1mm 大の白色殻を均一に少量混入。しまりあり。固い。
- SK-87 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒を少量混入。固い。
- SK-88 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石殻を多量、七本桜軽石微粒を少量混入。
- SK-106 土層説明
1 黒色土 2mm 前後の今市軽石微粒を極少量混入。柔らかい。
- SK-113 土層説明
1 黒色土 七本桜軽石微粒を極少量混入。柔らかい。
2 黒褐色土 1mm 前後の七本桜軽石微粒を極少量混入。やや固い。
- SK-116 土層説明
1 黒褐色土 10mm 前後の今市軽石殻を少量混入。柔らかい。
- SK-117 土層説明
1 黒褐色土 20~30mm 大の今市軽石殻・10mm 前後の今市軽石殻を少量混入。柔らかい。
- SK-136 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石殻・七本桜軽石殻を少量混入。しまりあり。
- SK-140 土層説明
1 黒色土 10~20mm 大の今市軽石殻・5mm 前後の七本桜軽石殻を多量混入。柔らかい。
2 黒褐色土 30~50mm 大の今市軽石殻・10~15mm 大の今市軽石殻を少量混入。2~3mm 大の七本桜軽石殻を少量混入。柔らかい。

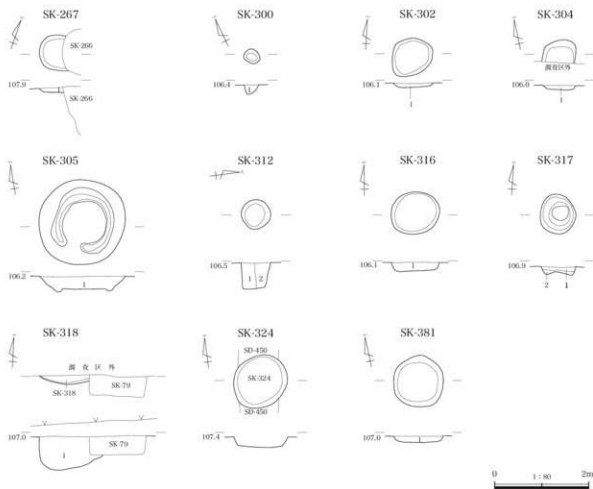
第 216 図 星ノ宮遺跡北調査区 SK 実測図 (9)



- SK-169 土層説明
1 黒色土 2~3mm 大の白色粒を散在的に少量混入。しまりあり。柔らかい。
SK-173 土層説明
1 黒褐色土 七本板硝石微粒を極少量混入。柔らかい。
2 黄褐色土 今市軽石・七本板硝石微粒を多量混入。固い。
SK-178 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・1~2mm 大の七本板硝石微粒を少量混入。柔らかい。
SK-187 土層説明
1 黒色土 1mm 大の白色粒を均一に多量、5mm 大の赤色粒を少量混入。しまりあり。固い。
SK-209 土層説明
1 黒色土 1mm 大の今市軽石微粒を少量混入。柔らかい。
SK-211 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板硝石微粒を多量混入。柔らかい。
SK-225 土層説明
1 黒褐色土 5~10mm 大の今市軽石・七本板硝石微粒を少量混入。柔らかい。
SK-226 土層説明
1 黒色土 2mm 大の赤色粒を極少量混入。しまりなし。柔らかい。
2 黒色土 15~20mm 大の今市軽石・5~8mm 大の赤色粒を均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。

- SK-227 土層説明
1 黒色土 5mm 大の赤色粒が散在的に極少量混入。しまりなし。柔らかい。
SK-228 土層説明
1 黒色土 5mm 大の赤色粒が散在的に極少量混入。しまりなし。柔らかい。
SK-232 土層説明
1 黒色土 七本板硝石微粒を極少量混入。柔らかい。
SK-233 土層説明
1 黒色土 20~30mm 大の今市軽石を少量混入。柔らかい。
SK-238 土層説明
1 黒色土 2~3mm 大の七本板硝石微粒を少量混入。柔らかい。
SK-256 土層説明
1 黒褐色土 30~40mm 大の今市軽石・10mm 大の今市軽石・今市軽石微粒を多量混入。50~150mm 大の白色粘土土塊を少量混入。
SK-265 土層説明
1 黒色土 50mm 大の七本板硝石・1~5mm 大の赤色粒を均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。
SK-266 土層説明
1 黒色土 ローム・ローム粒を均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。

第 217 図 星ノ宮遺跡北調査区 SK 実測図 (10)



SK-267 土層説明

1 黒色土 白色土粒・2mm 大の赤色粒を均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。

SK-300 土層説明

1 黒褐色土 今市軽石粒を少量混入。柔らかい。

SK-302 土層説明

1 黒色土 5~8mm 大の今市軽石粒を少量混入。しまりなし。柔らかい。

SK-304 土層説明

1 黒褐色土 今市軽石粒を少量混入。柔らかい。

SK-305 土層説明

1 黄褐色土 今市軽石塊・今市軽石粒を多量。七本松軽石粒を少量混入。柔らかい。理め返し。

SK-312 土層説明

1 黒褐色土 今市軽石塊・今市軽石粒を少量混入。やや柔らかい。柱頭。

2 黄褐色土 今市軽石塊・今市軽石粒多量混入。七本松軽石粒を少量混入。しまりあり。

SK-316 土層説明

1 黒褐色土 今市軽石粒を少量混入。しまりあり。

SK-317 土層説明

1 黒色土 1~2mm 大の赤色粒を極少量混入。しまりあり。固い。

2 黒色土 1~2mm 大の白色粒を極少量混入。しまりあり。固い。

SK-318 土層説明

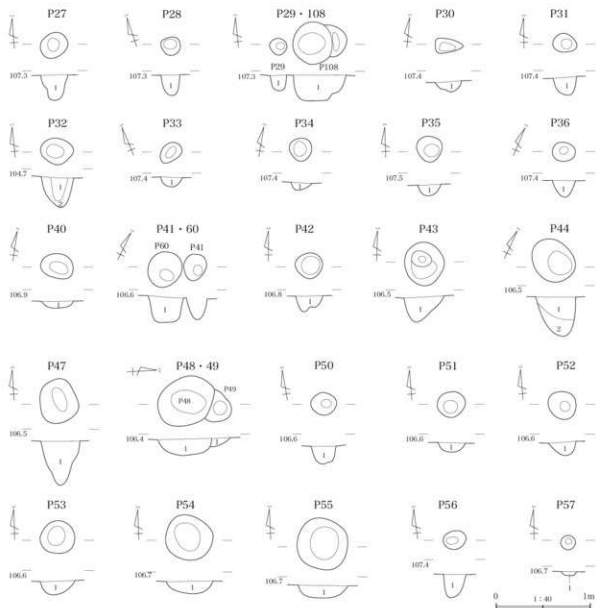
1 黒色土 20~40mm 大の黄褐色土塊・1~5mm 大の黄褐色色粒・2mm 大の白色粒を均一に多量混入。しまりあり。固い。

SK-381 土層説明

1 黒色土 1mm 大の白色粒・5mm 大の赤色粒を均一に多量混入。しまりなし。

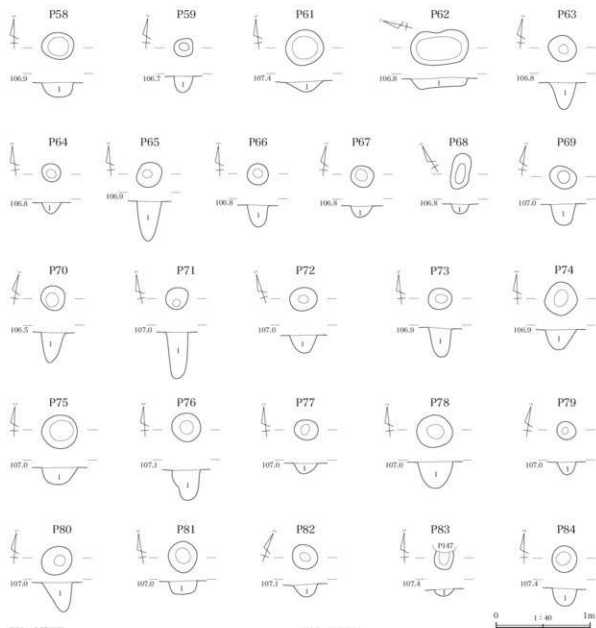
柔らかい。

第218図 星ノ宮遺跡北調査区 SK 実測図(11)



- P27 土層説明
1 黒色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P28 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。固い。
- P29 土層説明
1 灰黒褐色土 七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P108 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。今市軽石少量混入。固い。
- P30 土層説明
1 灰黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。
- P31 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。
- P32 土層説明
1 黒色土
2 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。しまりなし。
- P33 土層説明
1 灰黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。
- P34 土層説明
1 黒色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。しまりなし。
- P35 土層説明
1 黒色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。しまりなし。
- P36 土層説明
1 黒色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。しまりなし。
- P40 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。
- P41・P60 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。
- P42 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。
- P43 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P44 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P47 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。
- P48・P49 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P49 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P50 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P51 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P52 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P53 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。しまりなし。
- P54 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。しまりなし。
- P55 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。固い。
- P56 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。固い。
- P57 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。

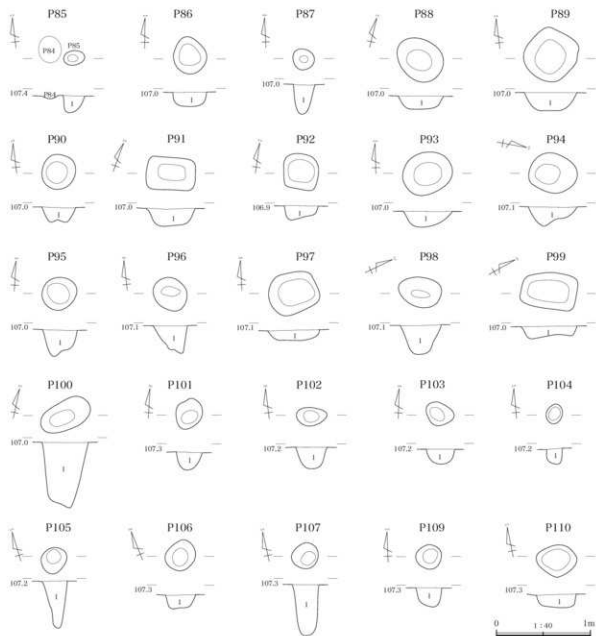
第220図 星ノ宮遺跡北調査区 Pit 実測図 (2)



P58 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微粒少量混入。固い。
P59 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
P61 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微粒少量混入。固い。
P62 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微粒少量混入。固い。
P63 土層説明
1 黒色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
P64 土層説明
1 黒色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
P65 土層説明
1 黒色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
P66 土層説明
1 黒色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
P67 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。固い。
P68 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。固い。
P69 土層説明
1 黒色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
P70 土層説明
1 黒色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
P71 土層説明
1 黒色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
P72 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微粒少量混入。固い。
P73 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微粒少量混入。固い。
P74 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微粒少量混入。固い。
P75 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微粒少量混入。固い。
P76 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微粒少量混入。固い。
P77 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微粒少量混入。固い。
P78 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微粒少量混入。固い。
P79 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微粒少量混入。固い。
P80 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微粒少量混入。固い。
P81 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微粒少量混入。固い。
P82 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微粒少量混入。固い。
P83 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微粒少量混入。固い。
P84 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微粒少量混入。固い。

P72 土層説明
1 黒褐色土 七本板軽石微粒少量混入。柔らかい。
P73 土層説明
1 黒褐色土 七本板軽石微粒少量混入。柔らかい。
P74 土層説明
1 黒褐色土 七本板軽石微粒少量混入。柔らかい。
P75 土層説明
1 明黒褐色土 七本板軽石微粒少量・今市軽石微粒少量混入。固い。
P76 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。やや固い。
P77 土層説明
1 黒褐色土 七本板軽石微粒少量・今市軽石微粒少量混入。固い。
P78 土層説明
1 黒褐色土 七本板軽石微粒少量・今市軽石微粒少量混入。固い。
P79 土層説明
1 黒褐色土 七本板軽石微粒少量混入。柔らかい。
P80 土層説明
1 黒褐色土 七本板軽石微粒少量混入。柔らかい。
P81 土層説明
1 黒褐色土 七本板軽石微粒少量混入。やや固い。
P82 土層説明
1 黒褐色土 七本板軽石微粒少量混入。固い。
P83 土層説明
1 黒褐色土 七本板軽石微粒少量混入。柔らかい。
P84 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。固い。

第21図 星ノ宮遺跡北調査区 Pit実測図(3)



P85 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量混入。固い。

P86 土層説明
1 黒色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P87 土層説明
1 黒色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P88 土層説明
1 黒褐色土 七本板軽石微量少量混入。やや柔らかい。

P89 土層説明
1 黒褐色土 七本板軽石微量少量混入。やや柔らかい。

P90 土層説明
1 黒褐色土 七本板軽石微量少量混入。柔らかい。

P91 土層説明
1 黒褐色土 七本板軽石微量少量混入。柔らかい。

P92 土層説明
1 黒褐色土 七本板軽石微量少量混入。柔らかい。

P93 土層説明
1 黒褐色土 七本板軽石微量少量混入。柔らかい。

P94 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P95 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P96 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P97 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P98 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P99 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P100 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P101 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P102 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P103 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P104 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P105 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P106 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P107 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P108 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P109 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P110 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P97 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P98 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。柔らかい。

P99 土層説明
1 黒褐色土 七本板軽石微量少量混入。固い。

P100 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・今市軽石微量少量混入。やや柔らかい。

P101 土層説明
1 黒褐色土 七本板軽石微量少量混入。やや固い。

P102 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。やや固い。

P103 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。やや固い。

P104 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。やや固い。

P105 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。柔らかい。

P106 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

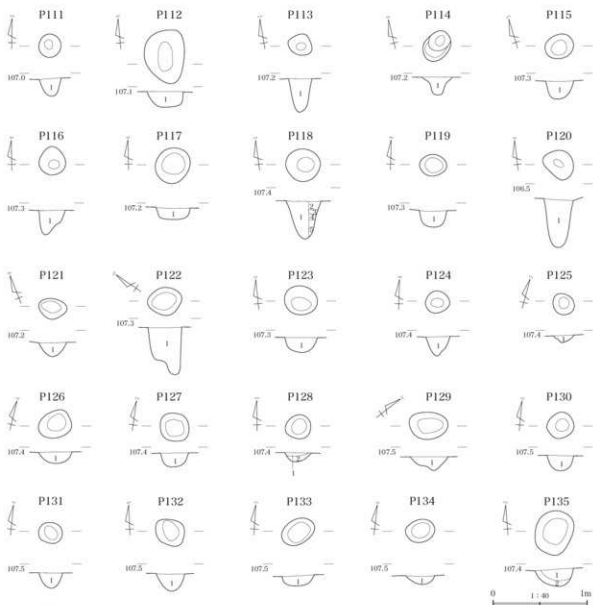
P107 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P108 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

P109 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

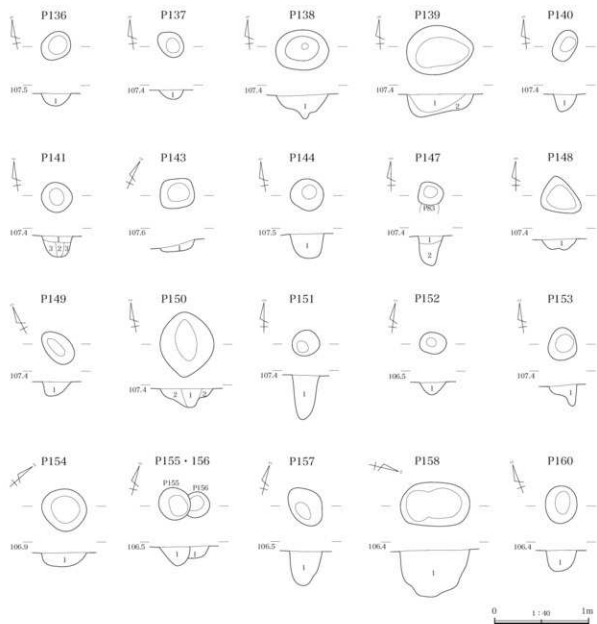
P110 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本板軽石微量少量混入。固い。

第222図 星ノ宮遺跡北調査区 Pit 実測図 (4)



- P111 土層説明
1 黒色土 七本桜軒石散粒少量混入。やや柔らかい。
- P112 土層説明
1 黒色土 七本桜軒石散粒少量混入。やや柔らかい。
- P113 土層説明
1 黒色土 七本桜軒石散粒少量混入。やや柔らかい。
- P114 土層説明
1 黒褐色土 七本桜軒石散粒少量混入。柔らかい。
- P115 土層説明
1 黒褐色土 今市軒石少量混入。柔らかい。
- P116 土層説明
1 黒褐色土 今市軒石・七本桜軒石散粒少量混入。柔らかい。
- P117 土層説明
1 黒褐色土 七本桜軒石散粒少量混入。固い。
- P118 土層説明
1 黒色土 今市軒石・七本桜軒石散粒微量混入。(柱取残りの跡土)
2 黒褐色土 今市軒石・七本桜軒石散粒微量混入。(柱取方埋土)
3 黒褐色土 今市軒石・七本桜軒石散粒微量混入。(柱取方埋土)
4 黒色土 今市軒石散粒少量混入。(柱取方埋土)
5 黒色土 今市軒石・七本桜軒石散粒微量混入。(柱取方埋土)
- P119 土層説明
1 黒褐色土 今市軒石・七本桜軒石散粒少量混入。今市軒石残少量混入。固い。
- P120 土層説明
1 黒褐色土 今市軒石散粒少量混入。やや柔らかい。
- P121 土層説明
1 黒褐色土 七本桜軒石散粒少量混入。柔らかい。
- P122 土層説明
1 黒色土 七本桜軒石散粒少量混入。柔らかい。
- P123 土層説明
1 黒褐色土 今市軒石少量。七本桜軒石散粒少量混入。固い。
- P124 土層説明
1 赤黒褐色土 今市軒石・七本桜軒石散粒少量混入。固い。
- P125 土層説明
1 黒褐色土 今市軒石・七本桜軒石散粒少量混入。固い。
- P126 土層説明
1 黒褐色土 今市軒石・七本桜軒石散粒少量混入。固い。
- P127 土層説明
1 黒褐色土 今市軒石・七本桜軒石散粒少量混入。固い。
- P128 土層説明
1 黒褐色土 今市軒石・七本桜軒石散粒少量混入。固い。
- P129 土層説明
1 黒褐色土 今市軒石・七本桜軒石散粒少量混入。固い。
- P130 土層説明
1 黒褐色土 今市軒石・七本桜軒石散粒少量混入。固い。
- P131 土層説明
1 黒褐色土 今市軒石少量。七本桜軒石散粒少量混入。固い。
- P132 土層説明
1 黒褐色土 今市軒石散粒・七本桜軒石散粒少量混入。固い。
- P133 土層説明
1 黒褐色土 今市軒石・七本桜軒石散粒少量混入。固い。
- P134 土層説明
1 黒褐色土 今市軒石・七本桜軒石散粒少量混入。固い。
- P135 土層説明
1 黒褐色土 今市軒石・七本桜軒石散粒少量混入。固い。

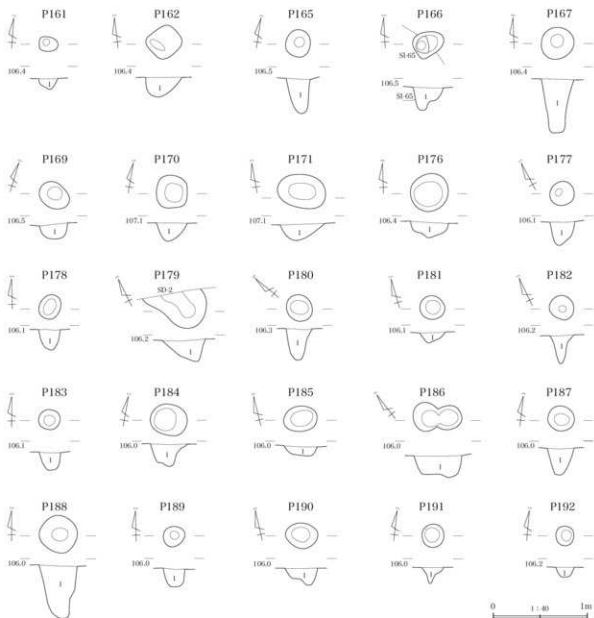
第 223 図 星ノ宮遺跡北調査区 Pit 実測図 (5)



- P136 土層説明
1 灰黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。因い。
P137 土層説明
1 灰黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。因い。
P138 土層説明
1 灰黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。因い。
P139 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。因い。
2 赤紫褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。因い。
P140 土層説明
1 灰黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。因い。
P141 土層説明
1 灰黒色土 七本桜軽石微粒少量混入。因い。
2 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。因い。(柱頭跡あり)
3 赤褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。(柱頭方埋土あり)
P143 土層説明
1 黄褐色土 今市軽石塊多量混入。やや柔らかい。
P144 土層説明
1 黒色土 今市軽石・七本桜軽石微粒微量混入。やや柔らかい。
P147 土層説明
1 灰黒色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
2 黒色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
P148 土層説明
1 灰黒色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。

- P149 土層説明
1 灰黒色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P150 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。因い。(柱頭跡あり)
2 黄褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。因い。(柱頭方埋土あり)
P151 土層説明
1 黒色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P152 土層説明
1 赤褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
P153 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。因い。
P154 土層説明
1 赤褐色土 七本桜軽石微粒少量混入。因い。
P155 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。因い。
P156 土層説明
1 赤褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。因い。
P157 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P158 土層説明
1 赤褐色土 今市軽石微粒。七本桜軽石微粒少量混入。やや柔らかい。
P158 土層説明
1 赤褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
P160 土層説明
1 黒色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。

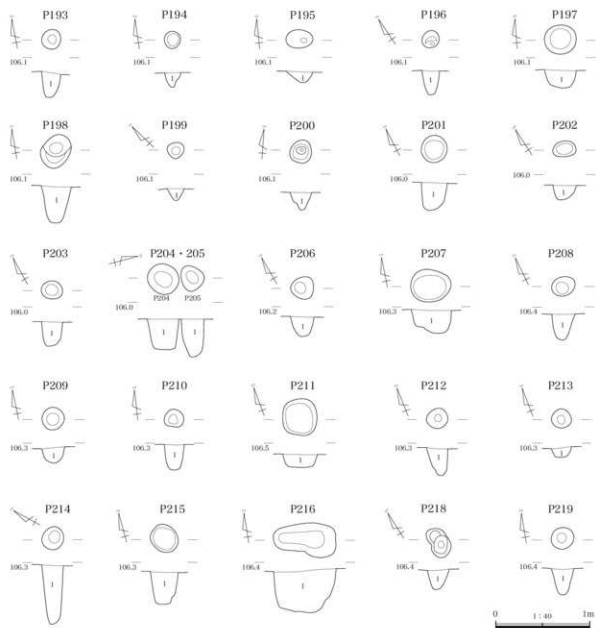
第224図 星ノ宮遺跡北調査区 Pit 実測図 (6)



P161 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
P162 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P165 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
P166 土層説明
1 灰黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
P167 土層説明
1 灰黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。やや柔らかい。
P169 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
P170 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。固い。
P171 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。固い。
P176 土層説明
1 黒褐色土 ローム状・今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P177 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P178 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
P179 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
P180 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P181 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P182 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P183 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P184 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P185 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
P186 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P187 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P188 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P189 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P190 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P191 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P192 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。

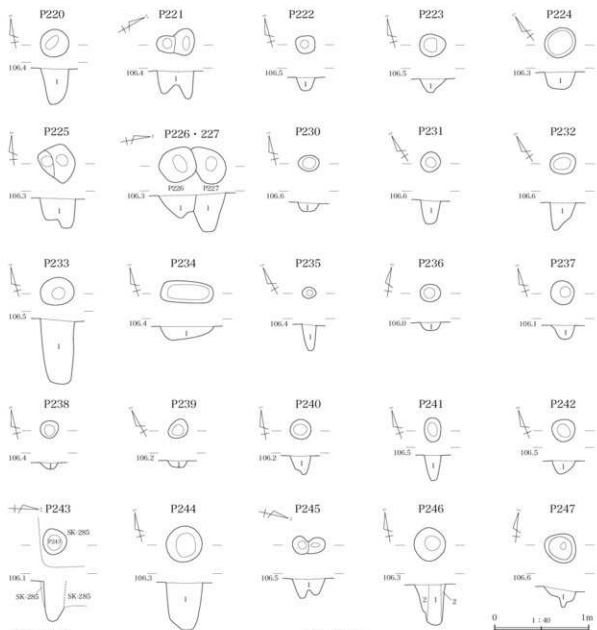
P181 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P182 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P183 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P184 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P185 土層説明
1 黒褐色土 七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P186 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
P187 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P188 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P189 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P190 土層説明
1 黒褐色土 七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P191 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。
P192 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本桜軽石微粒少量混入。柔らかい。

第225図 星ノ宮遺跡北調査区 Pit 実測図 (7)



- P193 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P194 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P195 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本板軽石粒少量混入。柔らかい。
- P196 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P197 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本板軽石粒少量混入。柔らかい。
- P198 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P199 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本板軽石粒少量混入。柔らかい。
- P200 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P201 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本板軽石粒少量混入。柔らかい。
- P202 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P203 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P204・205 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本板軽石粒少量混入。柔らかい。
- P206 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P207 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本板軽石粒少量混入。柔らかい。
- P208 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P209 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P210 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P211 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P212 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P213 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P214 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P215 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P216 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本板軽石粒少量混入。柔らかい。
- P218 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
- P219 土層説明
1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本板軽石粒少量混入。柔らかい。

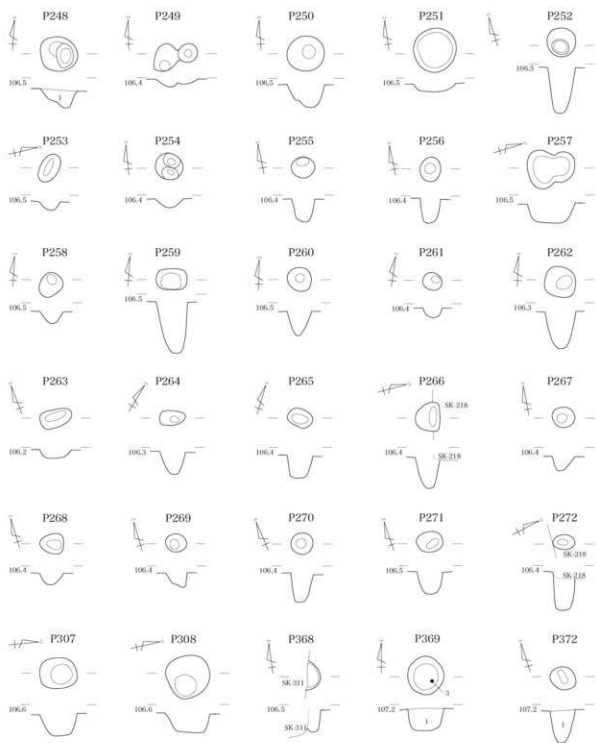
第226図 星ノ宮遺跡北調査区 Pit実測図(8)



P220 土層説明

- 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量、今市軽石・七本板軽石粒少量混入。柔らかい。
 P221 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本板軽石粒少量混入。柔らかい。
 P222 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
 P223 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
 P224 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
 P225 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量、今市軽石微粒少量混入。七本板軽石粒少量混入。柔らかい。
 P226 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
 P227 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒・七本板軽石粒少量混入。柔らかい。
 P230 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量。七本板軽石粒少量混入。固い。
 P231 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
 P232 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量。七本板軽石粒少量混入。柔らかい。
 P233 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量。七本板軽石粒少量混入。固い。
 P234 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
 P235 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
 P236 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
 P237 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量。七本板軽石粒少量混入。柔らかい。
 P238 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
 P239 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
 P240 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
 P241 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
 P242 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
 P243 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
 P244 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量。七本板軽石粒少量混入。柔らかい。
 P245 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量混入。柔らかい。
 P246 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量。七本板軽石粒少量混入。柔らかい。(柱頭跡あり)
 2 黄褐色土 今市軽石・七本板軽石粒少量混入。ややしまりあり。(柱頭方埋土あり)
 P247 土層説明
 1 黒褐色土 今市軽石微粒少量。七本板軽石微粒少量混入。柔らかい。

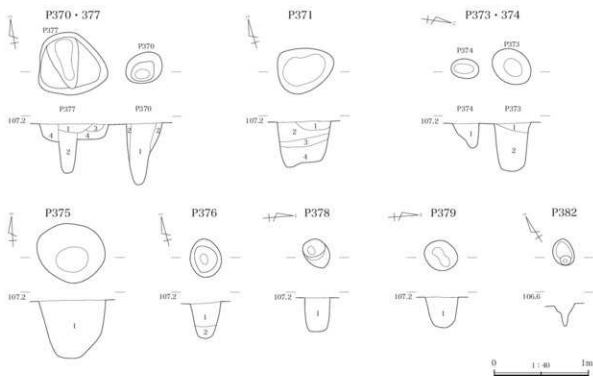
第 227 図 星ノ宮遺跡北調査区 Pit 実測図 (9)



P248 土層説明
1 黒褐色土。今山軽石断粒少量・七本松軽石断粒少量混入。柔らかい。

P369 土層説明
1 黒色土。2mm 大の赤色粒を均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。
P372 土層説明
1 黒色土。5~8mm 大の赤色粒を均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。

第 228 図 星ノ宮遺跡北調査区 Pit 実測図 (10)



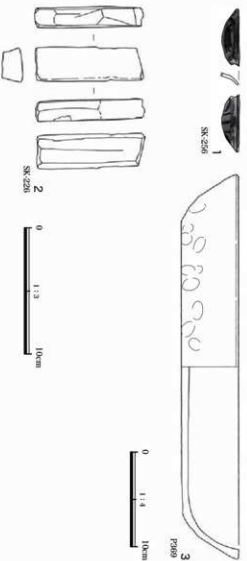
P370 土層説明

- 1 黒色土 (柱頭跡?)
 - 2 黒色土 1mm 大の白色粒を均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱頭跡?)
 - 3 黒色土 1mm 大の白色粒を均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱頭跡?)
 - 4 黒色土 1~2mm 大の赤色粒を均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。(柱頭跡?)
- P371 土層説明
- 1 赤褐色土 30mm 大の今市軽石塊を均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。
 - 2 黒色土 1mm 大の白色粒。2mm 大の赤色粒を散在的に少量混入。しまりあり。柔らかい。
 - 3 黒色土 2mm 大の白色粒。20mm 大の七本板塊を散在的に多量混入。しまりあり。柔らかい。
 - 4 赤褐色土 今市軽石に少量の黒色土を混入。しまりあり。柔らかい。

P373 土層説明

- 1 赤褐色土 1~5mm 大の赤色粒を均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。
 - 2 黒色土 純黒色土。しまりあり。柔らかい。
- P374 土層説明
- 1 赤褐色土 1~5mm 大の赤色粒を均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。
- P375 土層説明
- 1 黒色土 1~2mm 大の赤色粒・20mm 大の今市軽石塊を均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。
- P376 土層説明
- 1 黒色土 5mm 大の赤色粒を均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。
 - 2 黒色土 1~10mm 大の赤色粒を均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。
- P378 土層説明
- 1 黒色土 1~15mm 大の赤色粒を均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。
- P379 土層説明
- 1 黒色土 5~8mm 大の赤色粒を均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。

第 229 図 星ノ宮遺跡北調査区 Pit 実測図 (11)



第230図 星ノ宮遺跡北洞内区 SK・P1c出土遺物



第231図 星ノ宮遺跡北洞内区 SK-116出土鉄製品

第66表 星ノ宮遺跡北洞内区 SK・P1c出土遺物観察表

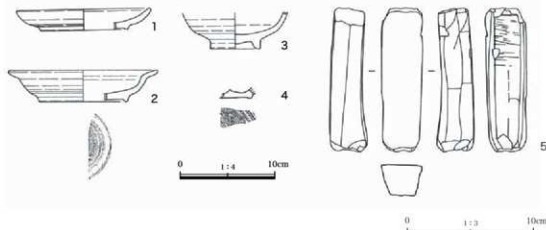
No	器種 器形	大きさ (cm)	素材	加工 (石材)	技法	色調・地肌	残存率	特徴	備考
1	磁器 鉢	口径: (10.0) 底径: — 深さ: (1.9)	釉薬	内: 口縁部ロクロノミ 外: 口縁部ロクロノミ	内: 黒内灰色 外: 黒内灰色 ・良	口縁部 1/6			SK-256 履上 13c-前半か
2	石製品 砥石	長軸: (8.5) 短軸: 2.7 厚さ: 1.5 重量: 65.9g	砂岩		外: 灰白～黒灰色	上下端 欠損	上下端を欠損する加群 形、1部の部分破損。		SK-226
3	焙烙	口径: (40.0) 底径: (31.0) 深さ: (6.0)	黒色砂・赤 砂多量、砂 類	内: 口縁～底部ノミ 外: 口縁部ノミ、底部用 類行類、底縁へノミ入り	内: 褐色 外: 赤～黒褐色	1/3			P269 799c 10-21

第67表 星ノ宮遺跡北洞内区 SK-116出土鉄製品観察表

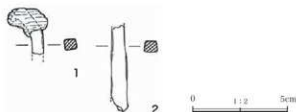
No	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	不明 鉄製品	長さ: 5.1 厚さ: 0.7 重量: 14.32g	逆三角形の鉄片、長辺のほぼ中央の4mm程度は長方形突出し、突出部中央に2mm強の孔を通過できる。縦横断面は長方形を呈調とするが、下半より上半のほうを幅が狭い。	完好か	

7. その他の出土遺物

遺構外の出土遺物について図示した。1は瀬戸美濃志野皿、2は瀬戸美濃志野鉄絵皿で底部内面に鉄絵を描く。16世紀末～17世紀前半であろう。3は瀬戸美濃丸碗、4は瀬戸美濃小壺底部である。



第232図 星ノ宮遺跡北調査区 表採・グリッド出土遺物



第233図 星ノ宮遺跡北調査区 表採・グリッド出土鉄製品

第68表 星ノ宮遺跡北調査区 表採・グリッド出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	瀬戸美濃 志野皿	口径: (14.0) 底径: (9.0) 器高: 2.2	黒色微粒	内: 口縁～底部ロクロナデ 外: 口縁～体部ロクロナ デ、後貼付高台接ナデ	内: 灰白色 外: 灰白色 ・良	1/8	内外面施軸。	表採 16c 末～ 17c 前半
2	瀬戸美濃 志野鉄絵 皿	口径: (15.4) 底径: (9.2) 器高: 3.3	緻密	内: 体～底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底部 回転ヘラケズリ、後貼付 高台接ナデ	内: 灰白色 外: 灰白色 ・良	1/5	内外面施軸。	グリッド 19-21 16c 末～ 17c 前半
3	瀬戸美濃 丸碗	口径: — 底径: 5.2 器高: (3.8)	緻密	内: 体～底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、後貼 付高台接ナデ	内: 黄褐色 外: 淡黄色 ・良	底部 1/2	内外面施軸。	グリッド 20-21
4	瀬戸美濃 小壺	口径: — 底径: (13.4) 器高: (1.1)	微砂粒	内: 底部ロクロナデ 外: 底部回転ヘラケズリ	内: 灰オリーブ色 外: 灰白色 ・良	底部破片	外面施軸。底部のみ。	グリッド 19-20 小片
5	石製品 砥石	長軸: 11.4 短軸: 3.2 厚さ: 2.4 重量: 158.35g	砂岩		外: 黄褐色	ほぼ完整	短冊形。砥面1面のみ。 背面に押痕。	グリッド 19-23

第69表 星ノ宮遺跡北調査区 表採・グリッド出土鉄製品観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	釘	長さ: (2.4) 厚さ: 0.6 重量: 4.16g	下半部を欠く。頭部は木質が遺存している。	下半部欠損	表採 No.3 グリッド 21-24
2	棒状鉄製 品	長さ: (4.4) 厚さ: 0.6 重量: 69.4g	短軸断面が台形状の棒状鉄製品。下端は一部遺存しており、上平より 幅を広くする。	上端部欠損	表採 No.4 グリッド 19-21

第Ⅶ章 自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

金井慎司・高橋 敦

はじめに

北ノ内遺跡・星ノ宮遺跡（栃木県芳賀郡市貝町に所在）は、小貝川左岸に位置し、北ノ内遺跡では奈良～平安時代の集落跡に伴う竪穴住居跡・掘立柱建物跡等の遺構が、星ノ宮遺跡では古墳時代の住居跡・中世～近世の掘立柱建物跡・井戸・方形竪穴遺構などが確認されている。

本報告では、星ノ宮遺跡の井戸から出土した木製品の年代を確認するための放射性炭素年代測定と木材利用検討のための樹種同定を実施する。また、北ノ内遺跡の掘立柱跡の柱痕から出土した貝類の種類を明らかにするための貝同定を実施する。

Ⅰ. 星ノ宮遺跡出土木製品の年代と樹種

1. 試料

試料は、SE-115 から出土した不明板材 1 点である。木取りは、板目～柾目であり、年輪の内側部分が破損が認められるが、年輪外側部分はあまり破損していない。年代測定および樹種同定試料は、破損部から採取した。破損部と残存する最外年輪との間には、約 30 年分の年輪が認められる。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後 HCl により炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOH により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HCl によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、1g の酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30 分）850℃（2 時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにて CO₂ を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製した CO₂ と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを 650℃で 10 時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径 1mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX・Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に 13C/12C の測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}C$ を算出する。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma:68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV.5.02（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、及び半減期の違い（14C の半減期 5730±40 年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来 10 年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正

ログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。

暦年較正は、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

(2) 樹種同定

資料の木取りを観察した上で、剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレバートとする。プレバートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やRichter 他(2006)を参考にする。

3. 結果

放射性炭素年代測定および樹種同定結果を表1に示す。折敷底板の同位体効果による補正を行った測定結果は、 $760 \pm 20BP$ を示す。また、測定誤差を σ として計算させた暦年較正結果は、calAD1,243-1,277である。この折敷底板は、針葉樹のモミ属に同定された。解剖学的特徴等を記す。

・モミ属 (Abies) マツ科

軸方向組織は仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。柔細胞壁は粗く、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で1分野に1-4個。放射組織は単列、1-20細胞高。

表1 放射性炭素年代測定および樹種同定結果

遺構 試料名	材質 種類	処理 方法	測定年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	補正年代 (暦年較正用) BP	暦年較正結果			Code No.	
						誤差	cal BC/AD	cal BP		相対比
SE-115 板材	生木 モミ属	AAA	750±20	-23.87±0.48	760±20 (764±21)	σ	cal AD 1,243 - cal AD 1,246 cal AD 1,252 - cal AD 1,277	cal BP 707 - 704 cal BP 698 - 673	0.035 0.965	IAAA-121639
						2σ	cal AD 1,224 - cal AD 1,278	cal BP 726 - 672	1.000	

1) 処理方法は、酸処理-アルカリ処理-酸処理 (AAA処理) である。

2) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用した。

3) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

4) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲) を年代値に換算した値。

5) 暦年の計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer) を使用した。

6) 暦年の計算には、補正年代() で暦年較正用年代として示した、一桁目を丸める前の値を使用している。

7) 年代値は、一桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、暦年較正用年代値は一桁目を丸めていない。

8) 統計的に真の値が入る確率は σ は68%、 2σ は95%である。

9) 相対比は、 σ 、 2σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

4. 考察

SE-115から出土した不明板材は、隅丸方形を呈し、木取りが板目→柾目となる。残存する中で、最も内側部分を採取して実施した年代測定結果(補正年代)は、 $760 \pm 20BP$ であり、暦年較正結果から13世紀代と考えられる。試料採取位置が観察できた中で最も内側であり、外側には約30年分の年輪が観察できる。試料に樹皮がなく、白太(辺材部)も観察できないことを考えれば、実際の伐採年は測定結果よりも50年は新しい可能性がある。

不明板材は、針葉樹のモミ属に同定された。モミ属は、木理が通直で割裂性が高く、加工は容易であるが、保存性は低いとされる。分割加工が容易なことが利用された背景と考えられる。栃木県内では、法界寺跡の鎌倉時代とされる折敷底板もモミ属に同定されており(伊東・山田,2012)、今回の結果とも調和的である。

II. 北ノ内遺跡出土貝類の種類

1. 試料

試料は、掘立柱建物跡SB-4の北東隅柱P1柱痕から検出された貝類を洗い出したものである。比較的大型で、個別にケースに入れられている破片20個と、一括採取された破片が多数入ったタッパー2個がある。個別の破片20個は、バラロイドB72などの樹脂によって硬化処理されている。これらの試料は、便宜的にNo.1～20の番号を付した。貝類同定は、個別試料20個について行い、一括採取されたタッパー試料については同定可能な破片について抽出・同定する。

2. 分析方法

試料を肉眼で観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。計測は、デジタルノギスを用いて測定する。

3. 結果および考察

貝同定結果を表IIに示す。個別試料は、全てカワシンジュガイ (*Margaritifera laevis*) である。保存状態は悪く、風化が進む。硬化処理された貝殻は、左殻8点、左殻の可能性のある破片1点、右殻9点、左右不明破片2点である。一括採取された破片は、左殻4点、右殻2点、左右不明破片(g)である。

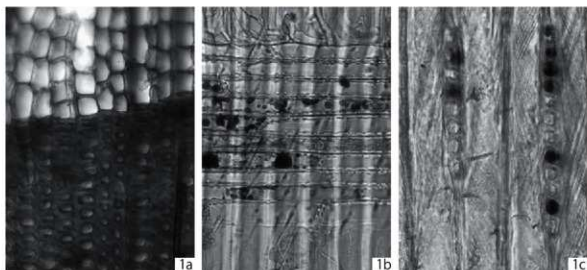
カワシンジュガイは、シベリア、千島列島、サハリン、北海道～九州に分布し、山間の清流の砂礫底に生息するとされている(奥谷ほか,2004)。栃木県内でも現在那珂川水系上流域に棲息することが知られている。当時は遺跡付近を流れる小貝川流域にも棲息していた可能性がある。周辺の食糧資源などとして利用されていた可能性もあるが、詳細不明である。ただし、掘立柱建物跡の柱痕に入っていたことを考慮すると、住居廃絶後に柱孔等を埋める際に廃棄された、あるいは周辺の土壌中のものが混入したなどが考えられる。

表 II 貝同定結果

遺構・位置	種 類	番号	左右	数量	殻長 (mm)	殻高 (mm)	
SB-4 P-1 柱痕	軟体動物門	Mollusca	1	左殻	1	39±	24.6
	二枚貝綱	Bivalvia	2	左殻	1	37±	22.9
	古真歯亜綱	Palaeoheterodonta	3	右殻	1	40±	
	イシガイ目	Unionoida	4	左殻	1	41±	
	カワシンジュガイ科	Margaritiferidae	5	左殻	1		21.9
	カワシンジュガイ	<i>Margaritifera laevis</i>	6	右殻	1		21.7
			7	右殻	1		19.8
			8	左殻?	1		
			9	右殻	1		19.2
			10	左殻	1		20.0
			11	右殻	1		18.5
			12	左殻	1		
			13	左殻	1		
			14	右殻	1		
			15	右殻	1		
			16	左殻	1		
			17	右殻	1		
			18	右殻	1		
			19	破片	1		
			20	破片	1		
一括			左殻	4			
			右殻	2			
			破片	34.36g			

引用文献

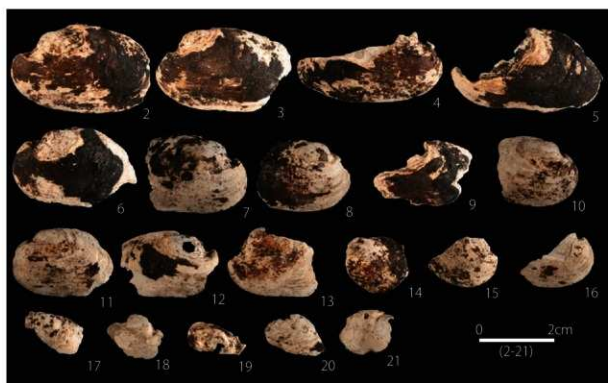
- 伊東 隆夫・山田 昌久(編),2012,木の考古学 出土木製品用材データベース,海青社,449p.
- 奥谷 香司編,2004,改訂新版世界文化生物大図鑑 貝類,株式会社世界文化社,399p.
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz L and Gasson P.E.(編),2006,針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト,伊東 隆夫・藤井 智之・佐野 雄三・安部 久・内海 泰弘(日本語版監修),海青社,70p. [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz L. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification] .
- 島地 謙・伊東 隆夫,1982,図説木材組織,地球社,176p.



1.モミ属(SE-115;折敷底板)

a:木口, b:柁目, c:板目

100 μ m:1a
100 μ m:1b,c



- 2.カワシンジュガイ左殻(SB-4;P-1柱痕) 3.カワシンジュガイ左殻(SB-4;P-1柱痕)
 4.カワシンジュガイ右殻(SB-4;P-1柱痕) 5.カワシンジュガイ左殻(SB-4;P-1柱痕)
 6.カワシンジュガイ左殻(SB-4;P-1柱痕) 7.カワシンジュガイ右殻(SB-4;P-1柱痕)
 8.カワシンジュガイ右殻(SB-4;P-1柱痕) 9.カワシンジュガイ左殻?(SB-4;P-1柱痕)
 10.カワシンジュガイ右殻(SB-4;P-1柱痕) 11.カワシンジュガイ左殻(SB-4;P-1柱痕)
 12.カワシンジュガイ右殻(SB-4;P-1柱痕) 13.カワシンジュガイ左殻(SB-4;P-1柱痕)
 14.カワシンジュガイ左殻(SB-4;P-1柱痕) 15.カワシンジュガイ右殻(SB-4;P-1柱痕)
 16.カワシンジュガイ右殻(SB-4;P-1柱痕) 17.カワシンジュガイ左殻(SB-4;P-1柱痕)
 18.カワシンジュガイ右殻(SB-4;P-1柱痕) 19.カワシンジュガイ右殻(SB-4;P-1柱痕)
 20.カワシンジュガイ破片(SB-4;P-1柱痕) 21.カワシンジュガイ破片(SB-4;P-1柱痕)

図版1 木材・貝

第Ⅷ章 総 括

第1節 出土遺物の変遷

第1項 北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡における古墳・奈良・平安時代の遺物の変遷

北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡における古墳・奈良・平安時代の出土遺物について1～14期に区分し、その変遷を示した。

古墳時代に関しては、土師器環、特に「須恵器環身模倣」形態の環を口縁部の形態・法量から分類し、既存の編年と照らし合わせて区分を行った。必要に応じてほかの器種についても検討し、遺構の切り合い関係も反映させている。

奈良・平安時代に関しては益子窯跡群産の須恵器環を基準として区分を行った。必要に応じてほかの器種も検討し、遺構の切り合い関係も反映させている。須恵器が消滅してからは出土遺物が少なく明確に時期差を見い出すことは難しいが、共存している灰軸陶器から前後に分けた。

参照した主な既存の土器編年は次のものである。「権現山遺跡南部・磯岡遺跡S G 9区出土土器の変遷」(内山2013)、「栃木県における6・7世紀の土器編年と地域的特徴」(津野1995)、「栃木県の須恵器編年」(津野1997)、「国分寺出土灰軸陶器と須恵器の共存関係」(栃木県1995)。

絶対年代は参照した各編年と須恵器・灰軸陶器の年代から与えている。以下に各期の様相を示し、最後に北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡における古墳・奈良・平安時代の各遺構の時期区分を一覧表に示す。

1期(古墳時代後期前葉～中葉、6世紀前葉～中葉)

土師器環は、須恵器環身模倣、蓋模倣、半球形、外反口縁のものがある。口径12.0cm前後、器高5.0～6.0cmの小型で深さのあるものから、口径15.0cm前後、器高4.0～5.0cmのものまでバラエティがある。調整は丁寧で、口縁部外面までヘラミガキするものが多くみられる。大型環は口径16.0cm前後、器高6.0～8.0cmで、通常の環と同様環身模倣、蓋模倣、半球形の口縁部をもつ。手捏ね環は小型のコップ型もしくは小鉢型の形態のものと同様の環形のものがある。環形のは口縁部をヨコナデするが体部に接合痕や指頭圧痕を残し、突出した底部をもつ。鉢は突出底部で手捏ね風のもの、口縁部が外反しヘラミガキを施すものがある。甌は小型と大型がみられ、大型のものは丁寧なヘラミガキが施される。甌はミガキ裏とハケ裏がみられ、胴部最大径は中位～下位にある。

内山編年5段階、津野編年Ⅰ～Ⅱ期に当たる。津野編年Ⅰ～Ⅱ期にみられる特徴は、当遺跡1期に属する竪穴建物跡出土遺物に混在してみられ、分離が難しいため一括した。6世紀前葉～中葉の年代が与えられる。

2期(古墳時代後期後葉、6世紀後葉)

土師器環は口径14.0～15.0cm、器高4.0～5.0cm程度に落ち着く。調整は丁寧で、口縁部外面までヘラミガキするものが多くみられる。手捏ね環は通常の環と同様環身模倣、蓋模倣、半球形の口縁部をもつ。甌は丁寧なヘラミガキを施す。

内山編年6段階、津野編年Ⅲ期に当たる。津野編年ではⅡ期に法量が最大化し以降小型化の傾向が示されているが、当遺跡では最大化する時期を1期に含め、2期で小型化を開始する。6世紀後葉の年代が与えられる。

3期（古墳時代後期～終末期、6世紀末～7世紀初頭）

土師器環は口径13.0～14.0cm、器高4.0～5.0cm程度で、若干小型化する。ただし身模倣と半球形のものでは小型化・調整の簡素化がみられるが、蓋模倣と外反口縁のものはあまり変化しない。手捏ねは環型のものがみられなくなる。短脚高環が当期にみられる。鉢はハケ調整のものがみられ、甔はヘラミガキの省略が行われる。ミガキ裏はヘラミガキの省略が進み、ケズリ裏は未だ胴部中位～下位の最大径をもつ。

内山編年7段階、津野編年Ⅳ期に当たる。6世紀末～7世紀初頭の年代が与えらる。

4期（古墳時代終末期、7世紀前葉）

土師器環は小型化が進み、口径12.0～13.0cm、器高4.0～4.5cm程度となる。調整は簡素化が進み口縁部や外面のヘラミガキがみられなくなる。手捏ねは柱状の高台をもつ小型の環もしくは血状のものがみられる。甔はヘラミガキが施されず、裏もケズリ裏のみとなる。ケズリ裏の胴部最大径は上部となる。

内山編年8段階、津野編年Ⅴ期に当たる。7世紀前葉の年代が与えらる。

5期（古墳時代終末期、7世紀中葉）

当期は立ち上がりのある須恵器環がみられる。小型化と立ち上がりの短小化および内傾が進み、同形態の須恵器環最終段階である。土師器環は口径10.0～11.0cm、器高3.0～4.0cm程度まで小型化する。ヘラミガキは体～底部内面にのみみられる。半球形のものには、口縁端部内面に沈線をもつものがある。また半球形および外反口縁のものに深さのあるものがみられる。手捏ねは小型の環もしくは血状である。甔は長胴化しヘラミガキはみられない。

内山編年8段階、津野編年Ⅵ期に当たる。TK-217形式、中村編年Ⅱ形式6段階に比定しうる小型化の進んだ立ち上がりのある須恵器環が伴うことから7世紀中葉の年代が与えらる。

6期（古墳時代終末期、7世紀後葉）

当期は返りのある須恵器環蓋がみられる。土師器環は身模倣のものがみられなくなる。外反口縁のものは口径、器高共に大型化へ転じる。手捏ねは小型の環状のものがみられる。

津野編年Ⅶ期に当たる。TK-217・46・48、中村編年Ⅲ形式に比定しうる返りのある須恵器環蓋が伴う。7世紀後葉の年代が与えらる。

7期（奈良時代前半、8世紀前半）

当期以降箱形の須恵器環が登場する。高台環と環蓋が定量を占め、益子原東4号窯段階、同じく1・3号窯段階である。土師器環は半球形および外反口縁のものが平底化する。KT-SI-22は7世紀中葉からみられるとされる内湾口縁環の平底化したもの。8世紀前半の年代が与えらる。

8期（奈良時代後半、8世紀第3四半期）

須恵器環は2次底面をもつ形態へ変化し、益子原東2号窯段階である。土師器環は須恵器環を模倣した箱形のロクコ成形へと変化し、丁寧なヘラミガキを施す。土師器裏に薄手の武蔵裏が加わる。また当期以降ケズリ裏のみとなる。8世紀第3四半期の年代が与えらる。

9期（奈良時代後半、8世紀第4四半期）

須恵器環は2次底面をもたず体部が直線化する益子谷津入窯段階である。土師器環は大型化し底部の突出した形態がみられる。8世紀第4四半期の年代が与えらる。

10期（平安時代前半、9世紀前葉）

須恵器環は体部が完全に直線化して器高が増す。益子古ヶ原入窯段階である。土師器裏に受け口状の口縁形態が登場する。9世紀前葉の年代が与えうる。

11期（平安時代前半、9世紀中葉）

須恵器環は底径の小型化、器高の増加がみられる。益子滝ノ入・倉見沢窯段階である。土師器環は須恵器を模倣した箱形のもの、体部のやや内湾するものがある。9世紀中葉の年代が与えうる。

12期（平安時代前半、9世紀後葉）

須恵器環は底径の小型化、器高の増加がさらに進む。益子胎屋1・2号窯段階である。また須恵器に高台付きの皿が登場する。土師器環は箱形のもの、体部の内湾するものがあるが小型化傾向にあり、口径・器高共に減少している。体部下端にヘラケズリを施すものが多数みられる。また当期に高台付きの環が登場する。環部は碗型を呈し、高台は短く直線的に外傾する。土師器に皿がみられるのも当期の特徴である。いずれも甕器模倣とみられ非常に丁寧で精巧な作りとなっている。高台は緑釉陶器の円盤状高台や灰軸陶器の三日月状高台を模している。KT-SI-34 24は底部条切りの小皿である。灰軸陶器は黒笹90号窯式の皿がみられる。9世紀後葉の年代が与えうる。

13期（平安時代後半、10世紀前半）

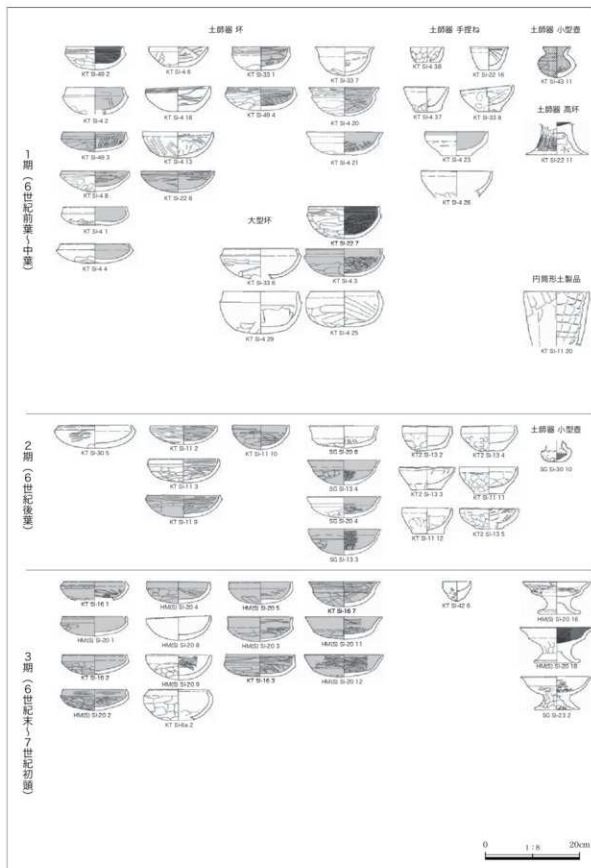
当期以降須恵器は確認されない。土師器環は体部の内湾するものがあるが、さらに小型化傾向にある。また薄手で丁寧な作りのものがみられるようになる。KT2-SI-22 1は回転条切りだが、当遺跡で回転条切りの土師器環はほとんどみられない。高台環は、環部が小型化し、高台は長く屈曲して外傾する。また環部が大きく外反するものが現れる。灰軸陶器は折戸53号窯式の碗がみられる。10世紀前半の年代が与えうる。

14期（平安時代後半、10世紀後半）

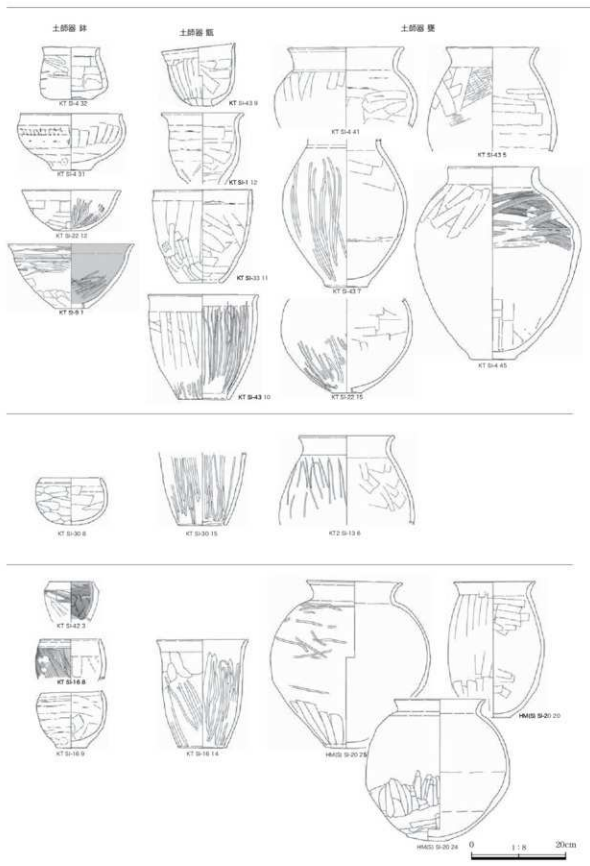
遺物量が少なく当期の様相は不明瞭である。土師器環は体部の内湾するものが継続するが口径・底径共に縮小し、器高が増すようである。高台環は高台がさらに長大化し、環部は皿に近い形状へと変化する。灰軸陶器は東山72号窯式の碗が出土している。10世紀後半の年代が与えうる。

参考文献

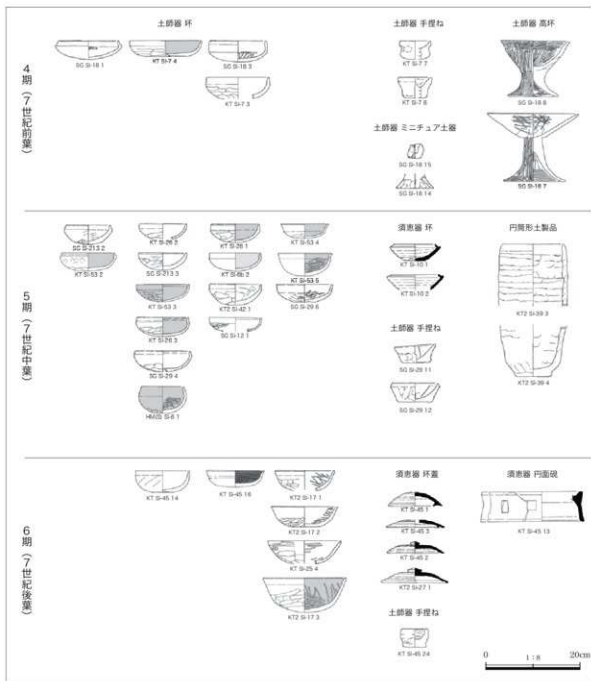
- 内山敏行 2013『権現山遺跡南部・磯岡遺跡 S G 9 区出土土器の変遷』
『東谷・中島地区遺跡群 14 権現山遺跡南部・磯岡遺跡』栃木県教育委員会・(財)とちぎ未来づくり財団
田辺昭三 1981『須恵器大成』角川書店
津野 仁 1995『栃木県における6・7世紀の土器編年と地域的特徴』『東国土器研究』第4号
津野 仁 1995『国分寺出土灰軸陶器と須恵器の共存関係』
『下野国分寺跡X I』栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
津野 仁 1997『栃木県の須恵器編年』『東国の須恵器』古代生産史研究会
中村 浩 2001『出土須恵器の型式編年』芙蓉書房出版
山下峰司 1995『灰軸陶器・山茶碗』概説 中世の土器・陶磁器 真陽社



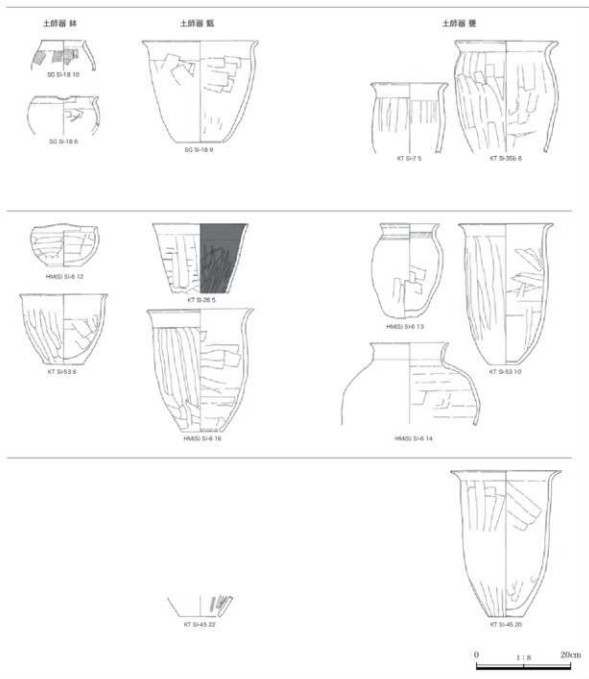
第234図 北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡における古墳・奈良・平安時代の遺物の変遷 (1)



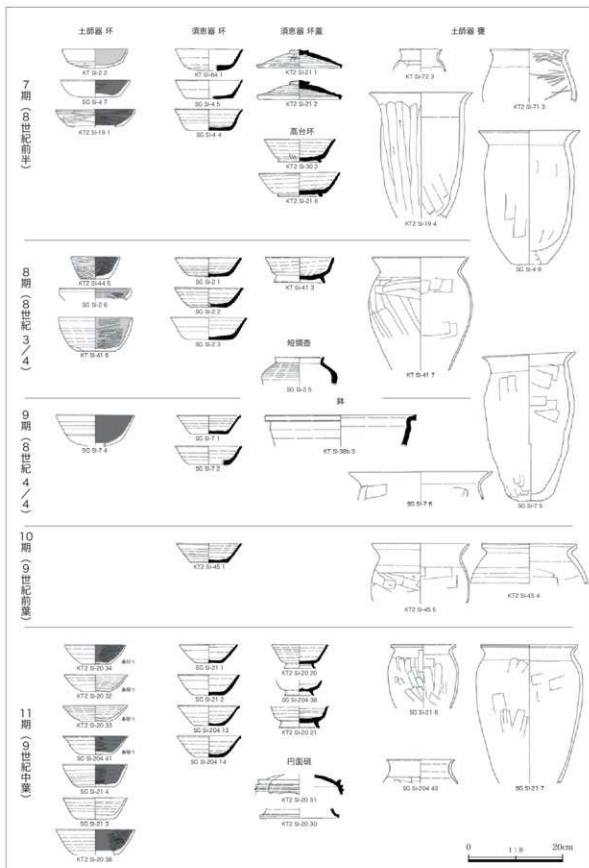
第 235 図 北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡における古墳・奈良・平安時代の遺物の変遷 (2)



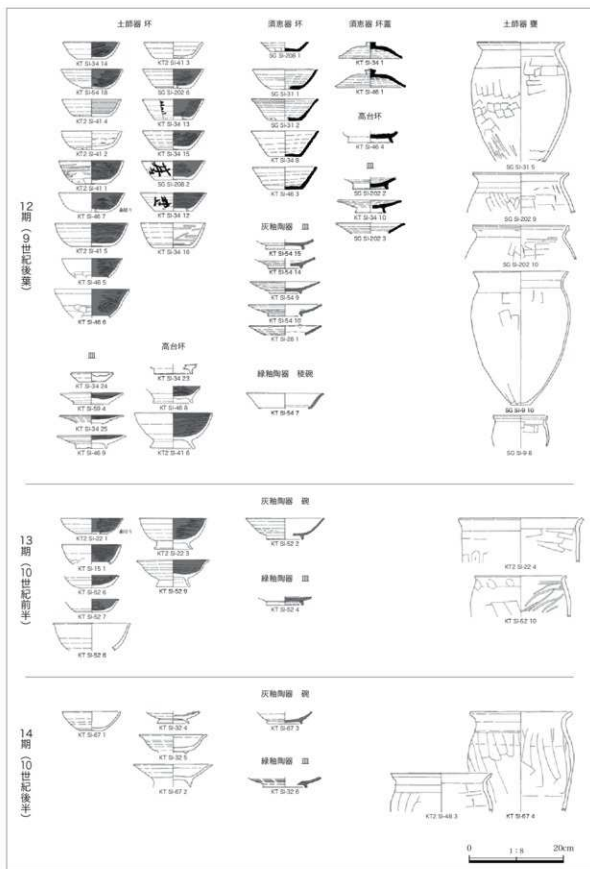
第 236 図 北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡における古墳・奈良・平安時代の遺物の変遷 (3)



第 237 図 北ノ内遺跡・助五部内遺跡・星ノ宮遺跡における古墳・奈良・平安時代の遺物の変遷 (4)



第238図 北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡における古墳・奈良・平安時代の遺物の変遷 (5)



第239図 北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡における古墳・奈良・平安時代の遺物の変遷 (6)

第70表 北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡における遺構の時期区分

	区分	北ノ内遺跡	北ノ内遺跡 (2次調査)	助五郎内遺跡	星ノ宮遺跡
古墳時代後期	1期 (6世紀前葉～中葉)	SI-1・4・9 ・22・33・43 ・49			SI-212 SB-35 (6世紀) SI-41 (6世紀中葉～後葉)
	2期 (6世紀後葉)	SI-11・20 ・30・35a	SI-18・40a (6世紀)	SI-37・40	SI-13・20 ・27・30・31
	3期 (6世紀末～7世紀初頭)	SI-6a・8・16 ・38a・42			SI-1・19・23 ・207
古墳時代終末期	4期 (7世紀前葉)	SI-7・35b			SI-18・211
	5期 (7世紀中葉)	SI-3・ 6b・10・ 26・40b・ 53	SI-13 (7世紀中葉～後葉)	SI-35	SI-39・42 (7世紀前葉～中葉) SI-27 (7世紀中葉～後葉)
	6期 (7世紀後葉)	SI-45・62		SI-17	SI-12・29 ・213
奈良時代	7期 (8世紀前半)	SI-2・64		SI-21・30 (8世紀第2 四半期)	SI-17 SI-4・214 (8世紀第2 四半期)
	8期 (8世紀3/4)	SI-41	SI-58 (8世紀第2 ～3四半期) SI-38b (8世紀後半)	SI-18・38 ・44	SI-19・71 (8世紀第2 ～3四半期)
	9期 (8世紀4/4)	SI-72 SB-65			SI-2 SI-7・205
平安時代	10期 (9世紀前葉)	SI-115	SI-21・73 SB-75 (9世紀) SI-23・61 ・66 (9世紀中葉～後葉) SI-28 (9世紀後半)	SI-45 SB-13・50	
	11期 (9世紀中葉)	SI-39		SI-20・34 SB-1・12・ 14・15・ 16・55	SI-15・16・ 209 SB-5 (9世紀) SI-206 (9世紀前葉～中葉) SI-9 (9世紀中葉～後葉)
	12期 (9世紀後葉)	SI-24・31 ・34・37・46 ・47・50・54 ・59・68		SI-25・26 ・28・41・69 ・70 SB-2・7・8・ 9・10・11	SI-21・25・ 204 SI-31・ 202・208・ 210
	13期 (10世紀前半)	SI-15・52	SI-19・27 ・29・57 ・111 SB-317 (10世紀)	SI-22・32 SB-3・4・5 ・6	SI-40
	14期 (10世紀後半)	SI-32・67		SI-23 (9世紀後葉～10世紀前葉) SI-48	
不明		SI-5・12・14・25・36・48 SB-70		SI-24・29・31・33・36・68	SI-11・14・22・24・26・32 ・33・34・200・201

第2項 星ノ宮遺跡における中世・近世の遺物の変遷

星ノ宮遺跡から出土した中世および近世の遺物のうち主要なものについてその変遷を示した。遺物の種類ごとに既存の編年から時期を決定し表にしている。参照した主な編年は参考文献に示した。以下に若干の所見を述べる。

古瀬戸入子

北調査区 SB-401 P11 から古瀬戸入子が出土した。口縁部は片口形状で完形品である。入子は古瀬戸のなかでも出土数の少ない器種で、口縁部の形態には直縁、片口、輪花があり、片口形状のものは古瀬戸前期（12世紀末～13世紀）に限られる。栃木県内では、下野市下古館遺跡で古瀬戸前中期～中二期の直縁口縁のものが出土している。

山茶碗

南調査区 SE-29 から山茶碗が1点出土している。内面には自然軸が付着し、丸みをもって立ち上がる体部、高台形状から13世紀代の所産であろう。県内では下古館遺跡で同時期のものが出土している。

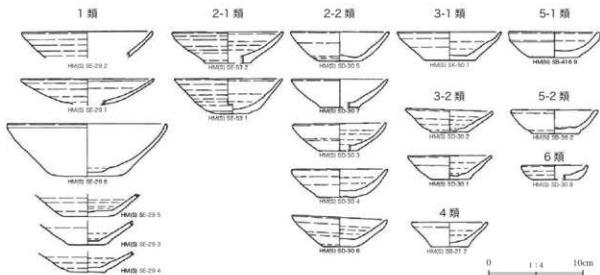
土師質土器皿

星ノ宮遺跡出土の土師質土器皿はすべてロクロ成形である。これを法量、底径比（底径/口径）、器高比（器高/口径）によって分類し既存の編年と対比して所属時期を決定した。

1類：口径13.0cm以上、やや薄手で直線的に体部が開く。底部外面は回転糸切りで、ヘラケズリするものとしがないものがある。底部内面は強くナデて凹みがみられる。今平分類（今平2003）B-1aまたはB-1b類で、南調査区 SE-29 では深い内耳土鍋が共存していることから15世紀代と考えられる。

2-1類：口径11.0～12.0cm、底径比0.4前後、器高比0.3前後、やや厚みがあり、体部下端は僅かに高台状を呈する。底部外面はヘラケズリする。今平分類B-1bのうち、口径の大ききから編年5期15世紀中葉～後葉と考えられる。南調査区 SE-53 からは内耳土鍋が出土している。

2-2類：口径10.0cm前後、底径比0.4前後、器高比0.3前後、やや厚みがあり、体部下端は僅かに高台状を呈する。底部外面はヘラケズリする。2-1類を小口径にしたようなもの。今平分類B-1a類で、編年5期15



第240図 土師質土器皿 分類図

世紀中葉～後葉と考えられる。

3-1類：口径11.0cm弱、底径比0.45前後、器高比0.3弱、直線的に体部が開く。体部下端は僅かに高台状を呈する。底部外面は回転糸切りである。今平分類B-1b、小山祇園城編年ではⅣ期16世紀前半である。15世紀中葉～16世紀前半と考えられる。

3-2類：口径9.0cm弱、底径比0.45～0.5、器高比0.3弱、直線的に体部が開く。体部下端は僅かに高台状を呈する。底部外面は回転糸切り無調整である。底部内面は強くナデで凹みが見られる。今平分類B-1b類である。SD-30はB-1aとB-1bが共存しており15世紀中葉～後葉と考えられる。

4類：口径8.0cm前後、底径比0.5弱、器高比0.3強、体部は外反して立ち上がる。底部外面はヘラケズりする。今平分類ではB-1aである。同様の形態は足利榑崎寺Ⅳ2期（14世紀末～15世紀）→小山祇園城Ⅴ期（16世紀後半）と法量が増加しているとみられる。これらの法量の比較から当4類は15世紀後半頃と考えられる。

5-1類：口径10.0cm弱、底径比0.55前後、器高比0.3弱、体部下端は僅かに高台状を呈する。底部外面は回転糸切りである。今平分類B-1b、足利榑崎寺Ⅴ期（16世紀）に該当することから、15世紀末～16世紀前半か。

5-2類：口径9.0cm弱、底径比0.55前後、器高比0.3弱、下端は僅かに高台状を呈する。底部外面は回転糸切りである。今平分類B-1b、足利榑崎寺Ⅴ期（16世紀）に該当するが、法量は小型化しており後出するものか。北調査区SB-36 P4では土師質土器播鉢が出土しており、当5-2類も16世紀後半を中心とする16世紀代と考えられる。

6類：口径7.0cm弱、底径比0.7前後、器高比0.2強、小型の皿状を呈する。底部外面は回転糸切りである。今平分類B-2b、編年4～5期か。15世紀代であろう。

内耳土鍋

内耳土鍋は南調査区SE-29、SE-53、SD-30で出土した。いずれも十分な深さがあり、15世紀代の年代が与えらる。形態は①体部が直線的に上方へと伸び口縁部が開くもの、②体部が丸みをもって立ち上がり口縁部が開くもの、③体部から口縁部までハの字状に大きく直線的に開くものがある。①形態の内耳土鍋は上野から北武蔵を中心に、③形態の内耳土鍋は常陸から下総を中心に分布し、下野域では両者が共存することが知られている。早ノ宮遺跡では南調査区SE-29、SD-30で両者が共存している。また内耳は確認できたものは全て一対二の3内耳である。

器高が低くなった培格は北調査区SE-235、P369で出土している。SE-235 12は器高/口径が1/6で、土鍋から培格への過渡期の所産である。体部下端に僅かに段を有し、指頭圧痕がみられる。17世紀前葉に位置づけられる。P369 3は器高/口径が1/6未満で体部過半に指頭圧痕がみられる。17世紀中葉頃か。

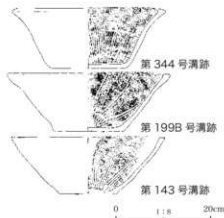
在地系土師質土器

広域に流通しないいわゆる在地産の土師質土器が出土している。播鉢〔HM(N)SE-261 14、HM(N)SB-36 3〕と鉢〔HM(S)SE-3 7〕がある。

播鉢は内湾気味に立ち上がる体部に外反する口縁部をもち、体部内面に卸目を有する。卸目は6条と9条で、胎土に多量の砂粒・金雲母を含み、灰色を呈する。同様な土師質土器播鉢は茨城県つくば市上野古原敷遺跡をはじめとする近隣の遺跡で出土例があり、16世紀後半を中心とする16世紀代の所産と考えられている。片口が付き、口縁部が外反するものと内湾するもの、口縁端部を内側に肥厚させるものと平坦に収めるもの、卸目には1・3・4・5条のものがあり分類できる可能性がある。

鉢は体部が斜め上方に開き口縁が内湾する深鉢型のもので、高台が付く。胎土に小礫と金雲母を含み褐色を呈する。類例をみなが、共存している瀬戸美濃柳茶碗の18世紀後葉～19世紀初頭を前後する時期であろう。播鉢・鉢ともにその胎土に金雲母を含むこと、出土類例から常陸産であることが想定される。内耳土鍋同様に地系土師質土器も、栃木県域では常陸型と上野型が共存するといわれ、星ノ宮遺跡でも常陸産の播鉢と鉢の出土が確認された。

最後に星ノ宮遺跡で確認された中世および近世の遺構について、主要な遺構の時期を一覧表に示す。



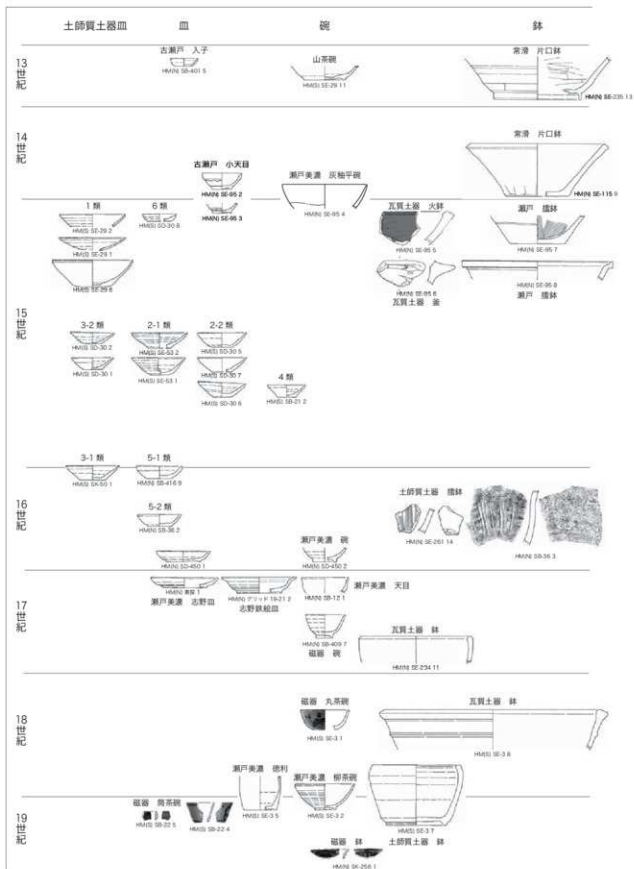
第241図 つくば市上野古屋敷遺跡出土土師質土器播鉢（一部改造して変倍）

第71表 星ノ宮遺跡 遺構時期一覧

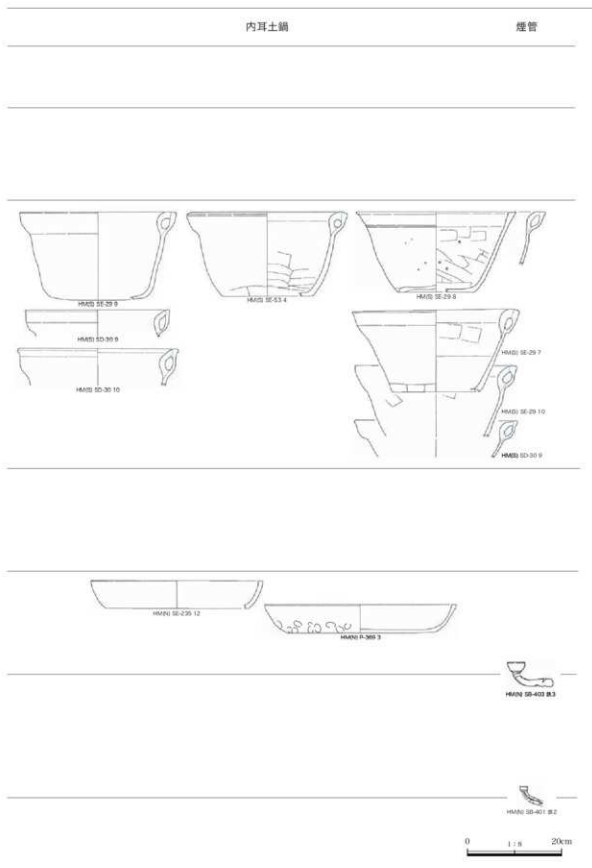
	南調査区	北調査区
14世紀後半～15世紀前半		SB-400・404・405
		SE-80・82・83・95・114・115
15世紀中葉～後葉	SB-5・16・17・21・22・23・24	
	SD-30、SE-29・47・49・52・53	
15世紀末～16世紀前半		SB-416・419 SA-413
16世紀後半		SB-9・11・13・36・412・414・415・418 SD-2、SE-261
16世紀末～17世紀初頭		SB-10・12・14・37・402・406・407・409・417・420・421・422・423・425・426・427 SD-450、SA-410・424、SE-234
18世紀後半～19世紀初頭	SB-25	SB-401・403・411
	SE-2・3・4	SA-30・408

参考文献

- 愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史別編 窯業2 中世・近世 瀬戸系』
 浅野晴樹 1982「東国における中世在地系土器について」『国立歴史民俗博物館研究報告』31
 茨城県教育財団 2007『上野古屋敷遺跡1』
 足利市教育委員会 1995『法界寺跡発掘調査概要』
 小山市教育委員会 2001『小山氏城跡範囲確認調査報告書1』
 今平利幸 2003「下野における中世土師器皿について」『とちぎの考古学』
 栃木県教育委員会・栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995『下古館遺跡』
 藤澤良祐 2002「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯
 藤澤良祐 2003「古瀬戸陶器 入り再考」『季刊考古学』85
 藤澤良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
 平凡社 1988『別冊太陽 古伊万里』
 両角まり 1996「内耳鍋から焙烙へ—近世江戸在地系焙烙の成立—」『考古学研究』



第242図 星ノ宮遺跡における中世・近世の遺物の変遷 (1)



第243図 星ノ宮遺跡における中世・近世の遺物の変遷(2)

第2節 遺構の変遷

北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡における古墳・奈良・平安時代の出土遺物については本章第1節で変遷を述べた。本節ではそれに基づいて各遺跡の遺構の変遷を示し、集落の動向について述べる。

第1項 北ノ内遺跡における遺構の変遷

1～5期（6世紀前葉～7世紀中葉）

1期7軒、2期4軒、3期5軒、4期2軒、5期6軒、6世紀代2軒が確認された。6世紀代は2軒～7軒の竪穴建物跡が安定して経営され、小貝川に近い西側に多くみられる。近隣の古墳時代後期の集落は南方約1.0 kmに古墳時代～奈良・平安時代の集落遺跡である仁王地遺跡がある。仁王地遺跡は古墳時代前期の竪穴建物跡2軒、古墳時代後期の竪穴建物跡73軒が検出された中心的な集落遺跡で、東方の丘陵上に前方後円墳1基と円墳3基から成る諏訪古墳群、同じく丘陵上に円墳12基から成る頼朝塚古墳群、小貝川対岸に円墳2基から成る我免木古墳群が存在する。古墳時代後期に至って一帯の小貝川沿岸低地の開発が進み、その首長層による諏訪古墳群をはじめとする古墳群が形成されるものと考えられる。北ノ内遺跡の古墳時代後期建物跡もこの一員を成す者と考えられる。

6～9期（7世紀前葉～8世紀前半）

6期3軒、7期2軒、8期2軒、9期1棟2軒が確認されている。2～3軒が継続しているだけで集落の停滞期と言える。周辺の古墳時代終末期の遺跡は、小貝川の谷を那珂川方面に上った羽仏・塩田に、塩田横穴墓・長峰横穴墓群・上立横穴墓群・八重沢横穴墓群・羽仏横穴墓群・星川横穴墓群横穴墓がみられる。これらの横穴墓は那珂川流域にみられる横穴墓群の南端に位置し、小貝川上流域と那珂川・那須地方とが、この時期強いつながりをもったことが想起される。

10～11期（8世紀後半～9世紀中葉）

10期1軒、11期1軒が確認された。ごく僅かな建物跡が存続する寒村期である。仁王地遺跡でもやや停滞している時期であるが、対照的に市頃の寺平遺跡は、8世紀末～9世紀前半に、四面廂建物を中心にコの字型配置をみせる掘立柱建物跡群や大型竪穴建物跡など官衙的 성격の集落の様相を呈する。律令制社会における新たな人口の集中や開発、機能の付加が進められている。

第72表 北ノ内遺跡 遺構時期一覧

	区分	遺構
古墳時代後期	1期（6世紀前葉～中葉）	SI-1・4・9・22・33・43・49
	2期（6世紀後葉）	SI-11・20・30・35a
	3期（6世紀末～7世紀初頭）	SI-6a・8・16・38a・42
古墳時代終末期	4期（7世紀前葉）	SI-7・35b
	5期（7世紀中葉）	SI-3・6b・10・26・40b・53
	6期（7世紀後葉）	SI-45・62
奈良時代	7期（8世紀前半）	SI-2・64
	8期（8世紀3/4）	SI-41
	9期（8世紀4/4）	SI-72 SB-65
平安時代	10期（9世紀前葉）	SI-115
	11期（9世紀中葉）	SI-39
	12期（9世紀後葉）	SI-24・31・34・37・46・47・50・54・59・68
	13期（10世紀前半）	SI-15・52
不明		SI-21・73 SB-75 (9世紀) SI-23・61 ・66 (9世紀中葉～後葉) SI-28 (9世紀後半)
		SI-19・27・29・57・111 SB-317 (10世紀)
	SI-5・12・14・25・36・48 SB-70	

12～14期（9世紀後葉～10世紀）

12期14軒、13期2軒、14期2軒、9世紀代1棟2軒、10世紀代1棟5軒が確認された。建物跡が急増する再開発の時期である。竪穴建物跡は以前より台地の縁辺に寄って集中する。墨書土器も多数みられる。平安時代に入り、小貝川上流域において再開発が進んだことが推測される。また、寺平遺跡は既に短期間で機能を停止しており、開発が小貝川のより上流へと伸びた結果中心的集落も移動しているとも考

えられる。北ノ内遺跡の2次調査区で四面廂建物を中心とする掘立柱建物跡群がこの時期に形成されるのは、開発と経営に係わる機能が、この時期に北ノ内遺跡に付加されるためであろう。

以上のように、古墳・奈良・平安時代の北ノ内遺跡は大きく4つの段階を経て10世紀後半に終焉する事がわかった。9世紀後葉からの再開発を受けて10世紀代も集落が継続することは、本報告IV章で扱う北ノ内遺跡の2次調査で確認された四面廂建物跡を中心とする掘立柱建物跡群と考え合わせると、当地における開発と経営に北ノ内遺跡が強く関与していたことが想像される。

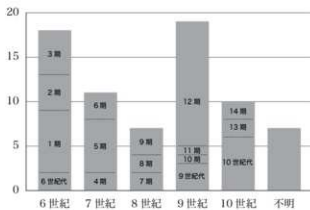
参考文献

市貝町 1995『市貝町史 第1巻 自然・原始古代・中世資料編』

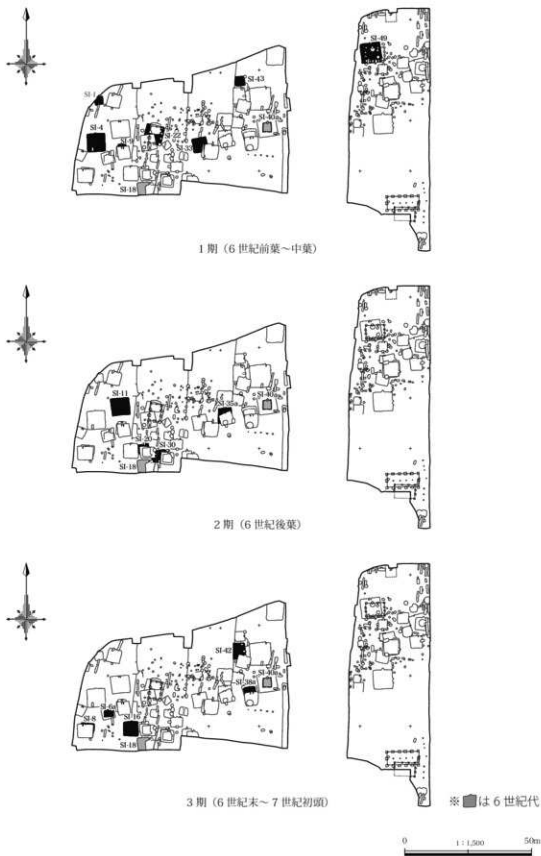
1990『市貝町史 第4巻 通史編』

市貝町教育委員会 2009『仁王地遺跡発掘調査報告書』

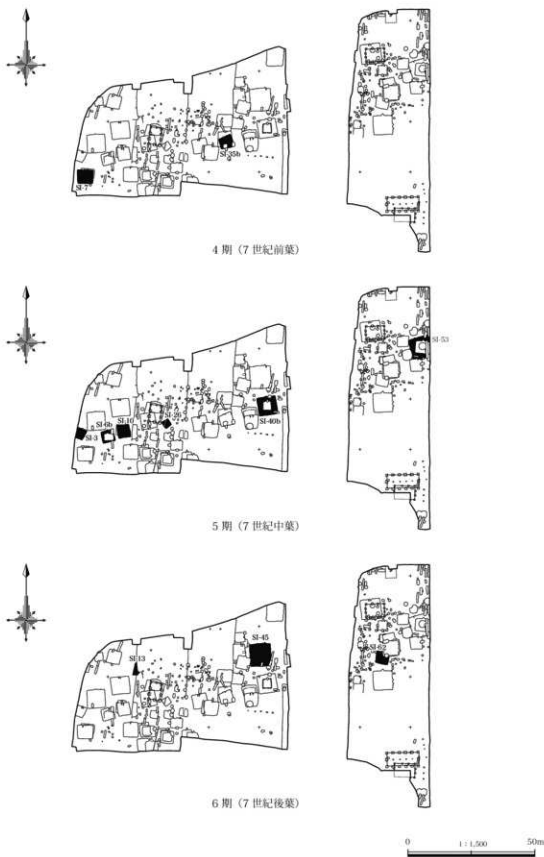
中村信博 2005「市貝町寺平遺跡」『月刊考古学ジャーナル』529



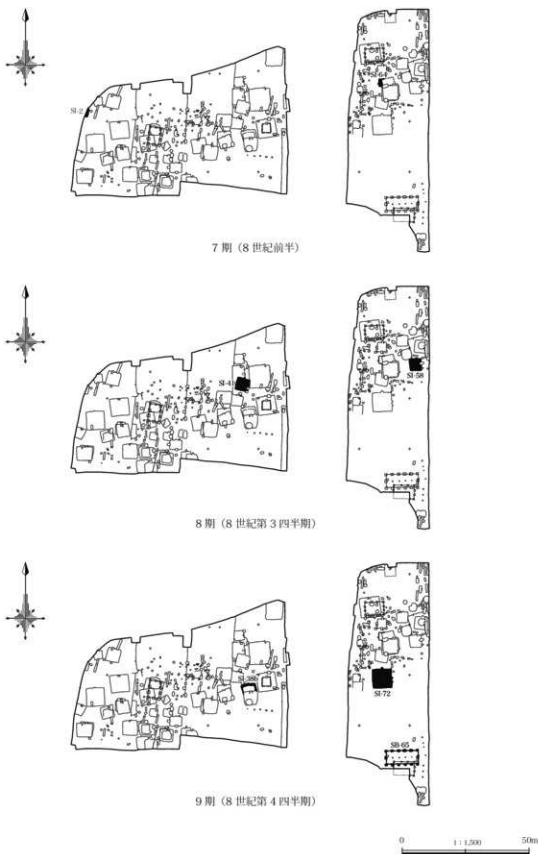
第244図 北ノ内遺跡時期別遺構数



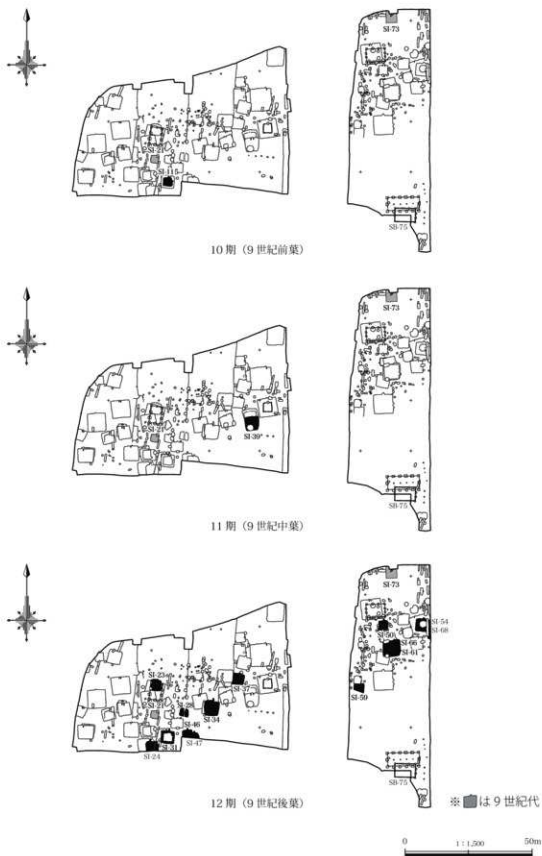
第245図 北ノ内遺跡における遺構の変遷（古墳時代後期）



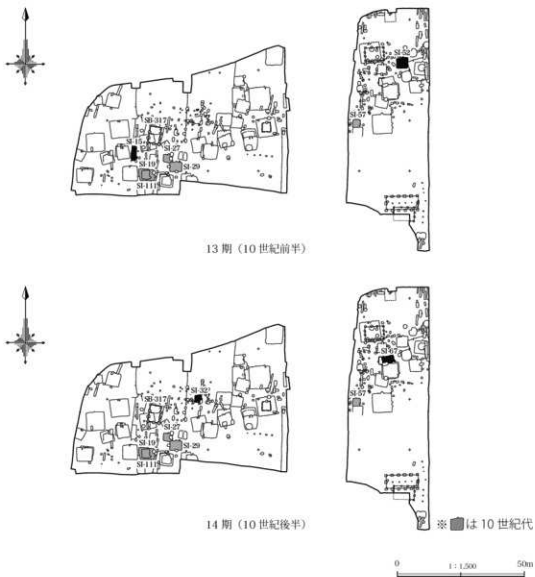
第246図 北ノ内遺跡における遺構の変遷 (古墳時代終末期)



第247図 北ノ内遺跡における遺構の変遷（奈良時代）



第248図 北ノ内通跡における遺構の変遷(平安時代 1)



第249回 北ノ内遺跡における遺構の変遷 (平安時代 2)

第2項 北ノ内遺跡（2次調査）における遺構の変遷

まず 18 棟が確認された掘立柱建物跡について、出土遺物と切り合い関係、建物の軸方位から時期と新旧関係を検討し、次に竪穴建物跡を含む遺構の変遷と集落の動向を述べる。

掘立柱建物跡の時期と変遷

SB-1・2・3は重複し、新旧関係はSB-1 < SB-2 < SB-3である。SB-1からは土師器环底部が出土し9世紀中葉、SB-2からは須恵器高环底部、土師器环が出土し9世紀後葉の時期が与えうる。このためSB-1を9世紀中葉、SB-2・3を9世紀後葉とする。SB-1は軸方位を東に傾け、SB-2・3は西に傾ける。

SB-4・5は重複して新旧関係はSB-4 < SB-5である。出土遺物はなく、10世紀前半のSI-22を掘り込むことから2棟は10世紀前半頃としておく。2棟とも軸方位は西に傾ける。

SB-6は土師器高台環が出土し、10世紀前半である。軸方位は東へ傾ける。

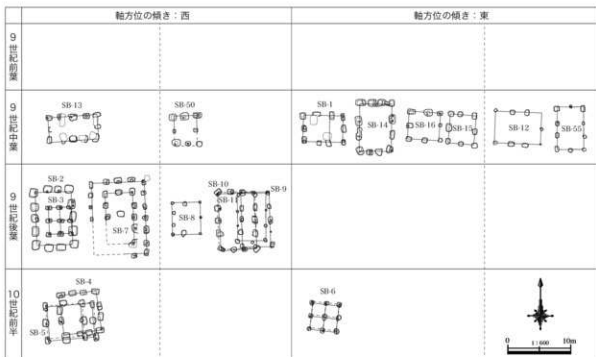
SB-7は9世紀後葉の須恵器環が出土し、また9世紀後葉のSI-41を掘り込むことから9世紀後葉頃である。

SB-9・10・11は重複して新旧関係はSB-9 < SB-10 < SB-11である。出土遺物はSB-10で9世紀代の須恵器環蓋が出土している。SB-9・10の軸方位は西に傾け特にSB-9はSB-8と柱筋を揃えており、SB-7・8と同時期と考えられる。

SB-13・14は重複して新旧関係はSB-13 < SB-14である。SB-13からは須恵器環蓋、SB-14からは須恵器高台環が出土しどちらも9世紀前葉～中葉の時期と考えられる。軸方位はSB-13が西に傾け、SB-14が東に傾ける。

SB-15・16は柱筋を揃えて並ぶ2棟で、軸方位は東に傾ける。SB-15P8とSB-16P7で出土した須恵器環が遺構間接合しており、同時期に存在した建物と考えられる。須恵器環の時期は9世紀中葉である。

これらの建物跡は9世紀中葉に軸方位を東に傾ける一群が、9世紀後葉～10世紀前半に軸方位を西に傾



第250図 北ノ内遺跡（2次調査）掘立柱建物跡の変遷

ける一群があることがわかる。そこで出土遺物がなく切り合い関係もない建物跡を軸方位から検討すると、SB-8はSB-7と軸方位を揃えることからSB-7と同時期の9世紀後葉頃、SB-12・SB-55は軸方位を東に傾ける一群と同様な9世紀中葉頃と考えられる。またSB-50は9世紀前葉のSI-45を掘り込み、かつSB-13と柱筋を揃えることから、SI-45埋没後にSI-13とともに存在したものであろう。

四面廂建物SB-7と「目」墨書土器を出土したSI-20の関係は時期差がある。SI-20は9世紀中葉で、幅をもたせるならば9世紀中葉～後葉と考えることもできる。SB-7が掘り込むSI-41の出土遺物は9世紀後葉であるが、遺物の比較からはSI-41が新しく、SB-7とSI-20は時期差があると言える。

遺構の変遷

2～4期（6世紀後葉～7世紀前葉）

2期2軒のみが確認された。集落と言えるほどのまとまりをもたない黎明期である。第Ⅲ章で述べた北ノ内遺跡の1次調査区では古墳時代から安定的な集落を形成していたが、谷を挟んだ調査区までは広がりをもたなかったようである。

5～10期（7世紀中葉～9世紀前葉）

5期3軒、6期2軒、7期2軒、8期5軒、10期1軒が確認されている。2～5軒の小規模な集落が継続するが、8世紀第4四半期には1軒も確認されず寒村化する。

11～13期（9世紀中葉～10世紀前半）

11期8棟2軒、12期7棟6軒、13期3棟3軒が確認された。建物跡が急増する再開発の時期である。孤立柱建物跡群が形成され、11期（9世紀中葉）と12期（9世紀後葉）に中心がある。11期はSB-14・15・16とSI-20がL字型に配され、北部にはSB-1・12・55が位置する。SI-20は「目」墨書を含む環類、特に須恵器環を多く出土し電屋と考えられる。12期は四面廂建物SB-7を中心に南北棟建物が並ぶ。SB-2・10は当遺跡で2、3番目に規模の大きな建物跡で、当期は遺構数・遺構規模において集落が最も拡大した時期である。13期は重複するSB-4・5と、総柱建物跡のSB-6がある。SB-7を引き継ぐ中心的建物は調査区内にはみられない。

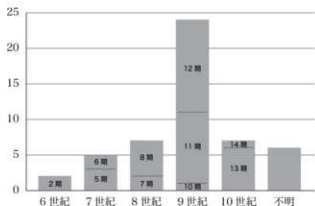
第73表 北ノ内遺跡（2次調査）遺構時期一覧

	区分	遺構
古墳時代後期	1期（6世紀前葉～中葉）	
	2期（6世紀後葉）	SI-37・40
	3期（6世紀末～7世紀初葉）	
古墳時代終末期	4期（7世紀前葉）	
	5期（7世紀中葉）	SI-35
	6期（7世紀後葉）	SI-17
奈良時代	7期（8世紀前半）	SI-21・30（8世紀第2四半期）
	8期（8世紀3/4）	SI-18・38・44
	9期（8世紀4/4）	
平安時代	10期（9世紀前葉）	SI-45
	11期（9世紀中葉）	SI-20・34 SB-1・12・13・14・15・16・50・55
	12期（9世紀後葉）	SI-25・26・28・41・69・70 SB-2・3・7・8・9・10・11
	13期（10世紀前半）	SI-22・32 SB-4・5・6
	14期（10世紀後半）	SI-48
不明		SI-24・29・31・33・36・68

14期（10世紀後半）

14期は集落規模は急激に縮小し竪穴建物跡1軒が確認されるのみで、当期を最後に北ノ内遺跡2次調査区の古代集落は終焉する。

以上のように、古墳・奈良・平安時代の北ノ内遺跡の2次調査区は大きく4つの段階を経て10世紀後半に終焉する事がわかった。9世紀中葉～後葉には四面廂建物跡を中心とする掘立柱建物跡群を形成して小貝川上流域における開発と経営に強く関与した集落遺跡であると考えられる。



第251図 北ノ内遺跡（2次調査）時期別遺構数

9世紀後半の建物跡群

前項で出土遺物から建物跡の時期を求め遺構の変遷を示したが、掘立柱建物跡は出土遺物が少なく時期の決定が困難である。先に示した11～12期（9世紀中葉～後葉）は掘立柱建物跡群が形成され北ノ内遺跡2次調査区において集落が最も充実した時期であるが、これを合わせて9世紀後半としたものを別図として示す。重複する建物跡が9世紀後半に変遷するとしたほうが、実際の建物配置に近いとも考えられるためである。

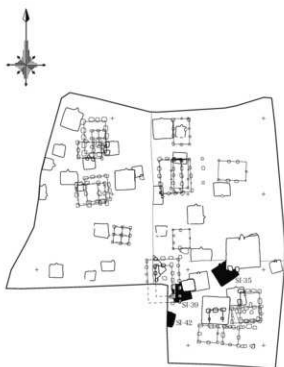
9世紀後半の建物配置は、南北棟である四面廂建物跡SB-7を中心にL字もしくはコの字型に配置され、背後にもSB-1・2・3のほか竪穴建物跡がみられる。建物群の正面は東側と考えられ、前面の空閑地には竈屋と考えられるSI-20が位置する。同様の配置は福島県正直C遺跡（9世紀前半）、栃木県多功南原遺跡（9世紀第1四半期）のほか、市貝町寺平遺跡（8世紀末～9世紀初頭）でもみられ、居宅とされる遺跡がとる建物配置である。

参考文献

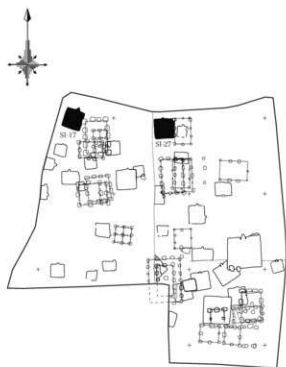
- 菅原祥夫 1998『陸奥国南部における富豪層居宅の倉庫群』『古代の糧倉と村落・郷里の支配』奈良国立文化財研究所
 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団 1999『多功南原遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告書第222集
 中村信博 2005『市貝町寺平遺跡』『月刊考古学ジャーナル』529
 福島県教育委員会 1995『母畑地区遺跡発掘調査報告36 正直C遺跡』福島県文化財調査報告第305集
 山中敏史 1997『地方豪族居宅の建築構造と空間的構成』
 『古代豪族居宅の構造と機能』独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所



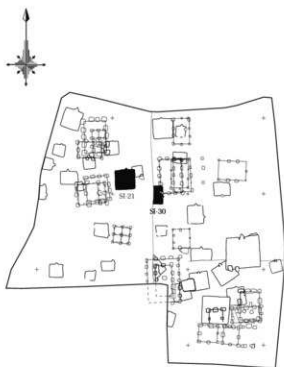
2期 (6世紀後葉)



5期 (7世紀中葉)



6期 (7世紀後葉)



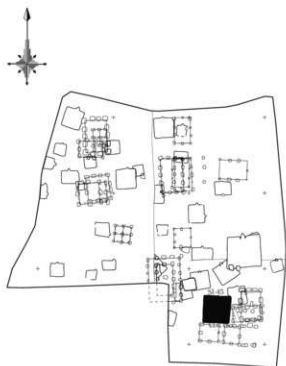
7期 (8世紀前半)

0 1:1,000 50m

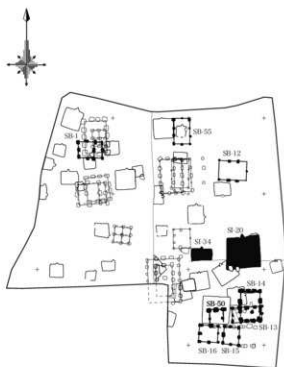
第252図 北ノ内遺跡 (2次調査) における遺構の変遷 (古墳時代～奈良時代)



8期 (8世紀第3四半期)



10期 (9世紀前葉)



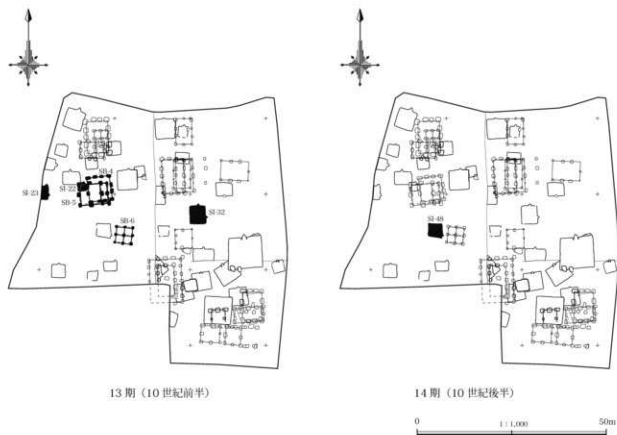
11期 (9世紀中葉)



12期 (9世紀後葉)

0 1:1,000 50m

第253図 北ノ内遺跡(2次調査)における遺構の変遷(奈良時代～平安時代)



第 254 図 北ノ内遺跡 (2次調査) における遺構の変遷 (平安時代)



第 255 図 北ノ内遺跡 (2次調査) における遺構の変遷 (9世紀後半)

第3項 助五郎内遺跡における遺構の変遷

2～5期（6世紀後葉～7世紀中葉）

2期6軒、3期4軒、4期3軒、5期4軒、6世紀代1棟1軒、7世紀代2棟が確認された。助五郎内遺跡の古墳時代集落は6世紀後葉にはじまり、7世紀中葉まで安定的に経営される。建物跡は東調査区に集中し、孤立柱建物跡も6世紀代、7世紀代にそれぞれ確認できる。近隣の古墳時代後期の集落は本報告第Ⅲ章で扱った北ノ内遺跡のほか南方約1.4 kmに古墳時代～奈良・平安時代の集落遺跡である仁王地遺跡がある。仁王地遺跡は古墳時代前期の竪穴建物跡2軒、古墳時代後期の竪穴建物跡73軒が検出された中心的な集落遺跡で、東方の丘陵上に前方後円墳1基と円墳3基から成る諏訪古墳群、同じく丘陵上に円墳12基から成る頼朝塚古墳群、小貝川対岸に円墳2基から成る我免木古墳群が存在する。古墳時代後期に至って一帯の小貝川沿岸低地の開発が進み、その首長層による諏訪古墳群をはじめとする古墳群が形成されるものと考えられる。助五郎内遺跡の古墳時代後期建物跡もこの一員を成す者と考えられる。

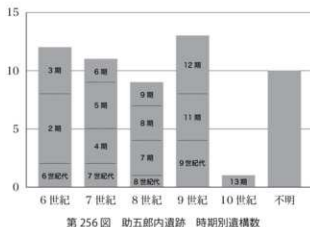
6～8期（7世紀後葉～8世紀後半）

6期2軒、7期3軒、8期3軒、8世紀代1軒が確認されている。2～3軒が継続している集落の停滞期と言える。周辺の古墳時代終末期の遺跡は、小貝川の谷を那珂川方面に上った羽仏・塩田に、塩田横穴墓・長峰横穴墓群・上立横穴墓群・八重沢横穴墓群・羽仏横穴墓群・星川横穴墓群横穴墓がみられる。これらの横穴墓は那珂川流域にみられる横穴墓群の南端に位置し、小貝川上流域と那珂川・那須地方とが、この時期強いつながりをもったことが想起される。

9～10期（8世紀後半～9世紀前葉）

9期2軒のみが確認された寒村期である。北ノ内遺跡でも8世紀後半～9世紀中葉に寒村期を迎えている。

対照的に市場の寺平遺跡は、8世紀末～9世紀前半に、四面廂建物を中心にコの字型配置をみ



第74表 助五郎内遺跡 遺構時期一覧

	区分	遺構
古墳時代後期	1期 (6世紀前葉～中葉)	SI-212
	2期 (6世紀後葉)	SI-13・20・27・30・31
	3期 (6世紀末～7世紀初頭)	SI-1・19・23・207
古墳時代終末期	4期 (7世紀前葉)	SI-18・211
	5期 (7世紀中葉)	SI-12・29・213
	6期 (7世紀後葉)	SB-36・38 (7世紀) SI-28 (6世紀後葉～7世紀前葉) SI-50 (7世紀前葉～中葉) SI-3・205 (7世紀中葉～後葉)
奈良時代	7期 (8世紀前半)	SI-17 SI-4・214 (8世紀第2・4半期)
	8期 (8世紀3/4)	SI-2
	9期 (8世紀4/4)	SI-7・205
平安時代	10期 (9世紀前葉)	SI-15・16・209 SB-5 (9世紀)
	11期 (9世紀中葉)	SI-206 (9世紀前葉～中葉) SI-9 (9世紀中葉～後葉)
	12期 (9世紀後葉)	SI-31・202・208・210
	13期 (10世紀前半)	SI-40
	14期 (10世紀後半)	
不明		SI-11・14・22・24・26・32・33・34・200・201

せる掘立柱建物跡群や大型竪穴建物跡等官衙的性格の集落の様相を呈する。律令制社会における新たな人口の集中や開発、機能の付加が進められている。

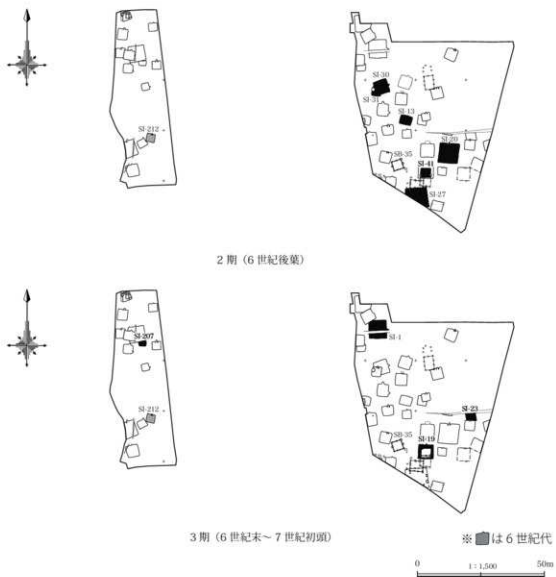
11～13期（9世紀中葉～10世紀前半）

11期4軒、12期5軒、13期1軒、9世紀代1棟3軒が確認された。建物跡が増加する再開発の時期であるがその伸び幅は僅かである。竪穴建物跡は以前より台地の縁辺に近い西調査区にも多数みられる。北ノ内遺跡では9世紀後葉から集落が急激に拡大し、2次調査区において10世紀代に四面廂建物を中心とする掘立柱建物跡群が形成されるが、助五郎内遺跡では10世紀前半で集落は終焉を迎える。

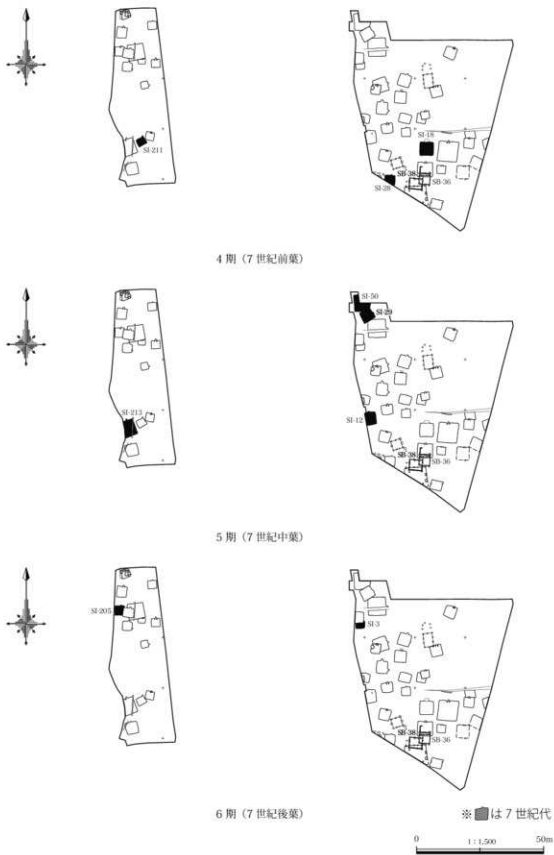
以上のように、古墳・奈良・平安時代の助五郎内遺跡は大きく4つの段階を経て10世紀前半に終焉する事がわかった。古墳時代は北ノ内遺跡と共に後期を中心に安定的に集落が経営されるが、再開発の伸び幅は小さく、10世紀前葉で終焉することがわかった。

参考文献

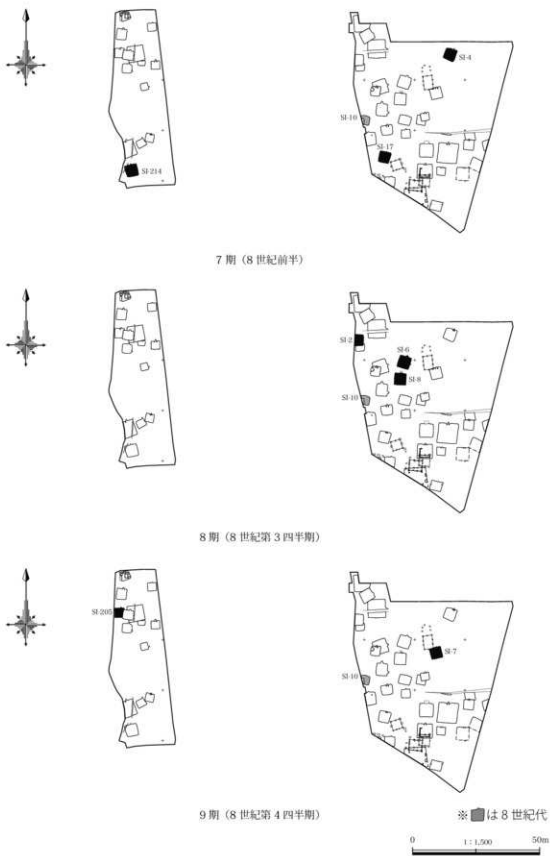
- 市貝町 1995『市貝町史 第1巻 自然・原始古代・中世資料編』
1990『市貝町史 第4巻 通史編』
市貝町教育委員会 2009『仁王地遺跡発掘調査報告書』
中村信博 2005「市貝町寺平遺跡」『月刊考古学ジャーナル』529



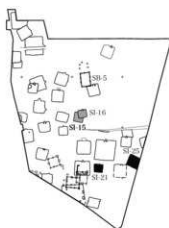
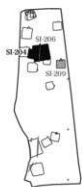
第257図 助五郎内遺跡における遺構の変遷（古墳時代後期）



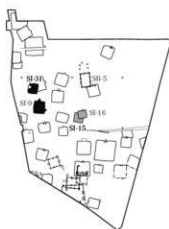
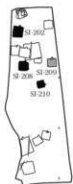
第 258 図 助五郎内遺跡における遺構の変遷（古墳時代終末期）



第259図 助五郎内遺跡における遺構の変遷（奈良時代）



11期 (9世紀中葉)



12期 (9世紀後半)



13期 (10世紀前半)

■ は9世紀代

0 1:1,500 50m

第260図 助五郎内遺跡における遺構の変遷(平安時代)

第4項 星ノ宮遺跡における遺構の変遷

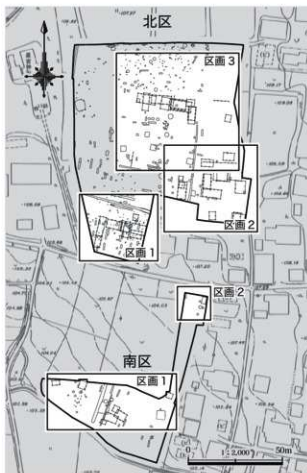
星ノ宮遺跡における中世・近世の主な遺構である掘立柱建物跡は、複数棟がセットになっていけば屋敷を形成している。また同一地点で複数回建て替えを行っている。これらの建物跡を屋敷地=区画ごとにセット関係を検討し、新旧関係、時期、遺構の変遷を示す。なお、出土遺物については第Ⅷ章第1節に所見を述べる。

南調査区は、調査区南半を区画1、調査区北東部を区画2とする。区画1はSD-30の両岸に掘立柱建物跡と井戸跡が位置する区画である。区画2は掘立柱建物跡1棟と井戸跡が確認されている。

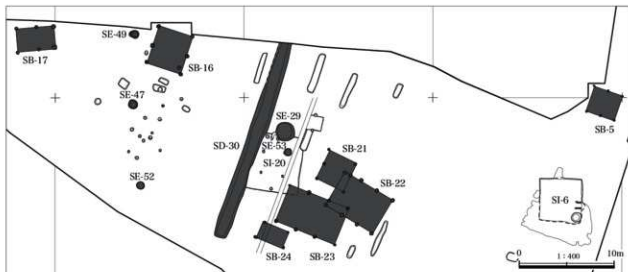
北調査区区画1は、調査区南西部のSD-2南側に掘立柱建物跡群が集中する一帯である。区画2は調査区南東部の掘立柱建物跡群とSD-450、井戸跡が位置する。区画3は調査区中央から北部にかけての掘立柱建物跡群と井戸跡が位置する部分である。

南調査区 区画1

SD-30は直線的に伸びる断面逆台形の区画溝で、埋土上層より土師質土器皿、内耳土鍋が出土しており15世紀代の中葉～後葉を中心とした時期が与えうる。近接する井戸跡SE-29・53からも同様な時期の土師質土器皿、内耳土鍋が出土している。掘立柱建物跡SB-16・23・24はこれら



第261図 星ノ宮遺跡 区画位置図

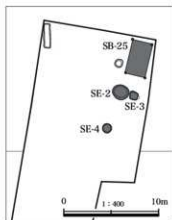


第262図 星ノ宮遺跡南調査区 区画1

の溝と井戸跡に近接し、溝と軸方位を同じくすることから同時期の建物跡と考える。やや離れるがSB-5も同様である。SB-17・21・22は軸方位を異にするが建て替えが行われたものと考えられる。区画1の建物跡群は15世紀中葉～後葉を中心とした15世紀の時期が与えられる。

南調査区 区画2

掘立柱建物跡SB-25が位置する。近接する井戸跡SE-3からは18世紀後半～19世紀初頭の磁器碗、瀬戸美濃陶器碗等が出土している。近接するSE-2・4も前後する時期のものであろう。このことからSB-25は18世紀後半～19世紀初頭の建物跡と考えられる。



第263図 星ノ宮遺跡南調査区 区画2

北調査区 区画1

8棟の掘立柱建物跡が密集する。このうち軸方位を同じくするSB-9・11・13・36が同一時期、同様にSB-10・12・14・37が同一時期の建物跡と考えられる。

SB-9・11・13・36のグループのうちSB-9・36は南側柱列を一直線に揃え、SB-11・13は軸方位を90°振った南北棟である。もっとも規模の大きいのはSB-36である。このグループは企画性が強く、SB-13の桁行が長大であることも特徴である。SB-36 P8・P4からそれぞれ土師質土器皿、土師質土器鉢跡が出土しており、16世紀後半の時期が与えられる。なおSD-2は軸方位からこのグループと同時期を中心に機能したものと考えられる。

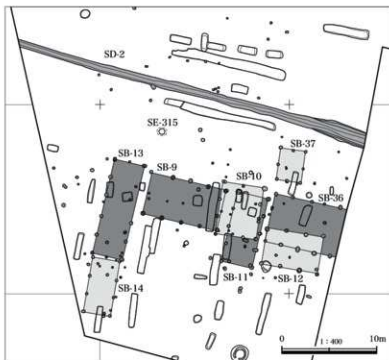
SB-10・12・14・37のグループは前者ほど企画性が強くなく、桁行が短く、梁行の大きな建物群である。SB-12 P5からは瀬戸美濃天目茶碗が出土し、16世紀末～17世紀初頭の時期が与えられる。

以上のことから区画1のうちSB-9・11・13・36の建物跡群が16世紀後半、建て替えられたSB-10・12・14・37が16世紀末～17世紀初頭と考えられる。

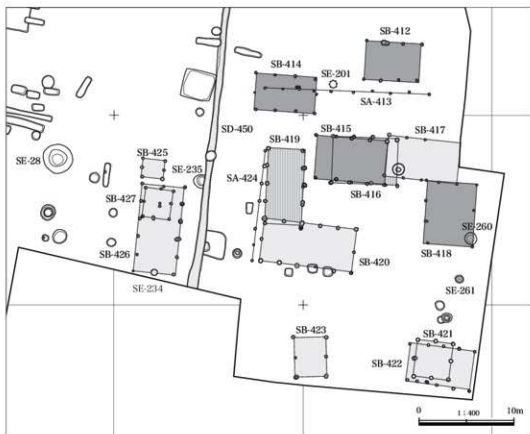
北調査区 区画2

掘立柱建物跡14棟、掘立柱塀跡2列、区画溝SD-450と井戸跡がある。これらは区画溝SD-450と軸方位を同じくするグループと、それに先行する2グループに分けることができる。

SB-416・419は主軸を90°進める近接した2棟で、北側背後にSA-413が控える。SB-416 P9から土師質土器皿が出土しており、



第264図 星ノ宮遺跡北調査区 区画1



第265図 星ノ宮遺跡北調査区 区画2

15世紀末～16世紀前半の時期が与えうる。

後続するのはSB-412・414・415・418のグループで不規則な配置をとる。SE-261から出土した土師質土器遺跡の年代16世紀後半をこのグループの時期としておく。

次に区画溝SD-450と軸方位を同じくするSB-417・420・421・422・423・425・426・427のグループがある。SD-450・SA-424との位置からみて、中心となるのはSB-417・420であろう。小型の付属屋が多く、その建て替えも多い。SD-450からは瀬戸美濃志野皿が出土しており、16世紀末～17世紀初頭の時期が与えうる。

以上のことから区画2のうちSB-416・419の建物跡群が15世紀末～16世紀前半、SB-412・414・415・418が16世紀後半、SB-417・420・421・422・423・425・426・427の建物跡群が16世紀末～17世紀初頭と考えられる。

北調査区 区画3

10棟の掘立柱建物跡、3列の掘立柱崩跡、区画溝SD-450と井戸跡がある。これらは区画溝SD-450と軸方位を同じくするグループと、それに先行する2グループに分けることができる。

SB-400・404・405は軸方位を同じくし、グループを形成する。廂をもつSB-404と建て替えと思われるSB-405は新旧関係は不明だが、規模が大きく中心的建物であろう。近接するSE-95・115で常滑片口鉢・瀬戸遺跡が出土し14世紀後半から15世紀前半の年代が与えうる。SB-400・404・405に伴う井戸跡としておく。付近にはSE-95・115と同形態の井戸跡SE-80・82・83・114があり、遺物はないが同時期と考えられる。調査区外に同時期の建物跡が存在する可能性を指摘できる。

SB-402・406・407・409はSD-450と軸方位を同じくするグループである。SD-450は16世紀末～17世紀初頭、SB-409から17世紀代の磁器碗が出土している。SB-402が規模が大きく中心的建物であろう。SB-406等は付属屋とみられ、区画2の同時期のグループと同様に建て替えがみられる。

SB-401・403・411はSA-408と南面の空閑地にSA-30がある。SB-401 P11から18世紀後半～19世紀前半の煙管が、SB-403 P7からは17世紀後半～18世紀前半の同じく煙管が出土している。新しい方をとってこのグループの時期は18世紀後半～19世紀前半とする。

以上のことから区画3のうちSB-400・404・405の建物跡群が14世紀後半から15世紀前半、SB-402・406・407・409の建物跡群が16世紀末～17世紀初頭、SB-401・403・411の建物跡群が18世紀後半～19世紀前半と考えられる。



第266図 星ノ宮遺跡北調査区 区画3

遺構の変遷

以上の検討の結果を遺構変遷図と一覧に示す。星ノ宮遺跡の中世・近世の遺構は、6期に分けられる。

1期は14世紀後半～15世紀前半で、北調査区区画3に3棟の掘立柱建物跡がみられる。出土遺物は少ないものの井戸跡が多数存在し、調査区外にも同期の建物跡が存在する可能性が指摘できる。また当期より古い時期の遺物が出土している点に注意したい。北調査区SB-401 P11から古瀬戸入子(12世紀末～13世紀)、南調査区SE-29から山茶碗(13世紀)、北調査区SE-235から常滑片口鉢(13世紀)、北調査区SE-115からは不明板材(13世紀末～14世紀初頭)が出土している。いずれも出土状況からは混入と判断せざるを得ないが、古瀬戸入子などは通常の集落での出土は考えにくく、周囲に13世紀に遡りかつ有力者に関係する遺跡、流通の拠点等の遺跡が存在する可能性がある。

2期は15世紀中葉～後葉で、南調査区区画1に建物跡群・区画溝・井戸跡がみられる。掘立柱建物跡には建て替えがみられ、溝跡・井戸跡からの出土遺物が豊富である。

3期は15世紀末～16世紀前半で、北調査区区画2に建物跡群と塀跡がみられる。

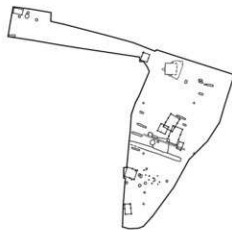
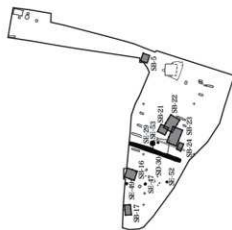
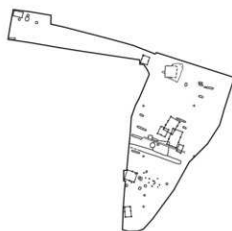
4期は16世紀後半で、北調査区区画1・2で建物跡群がみられる。建物跡が増加し、集落の拡大期といえる。区画1では大型の建物跡が整然と並び、区画溝を伴う。

5期は16世紀末～17世紀初頭で、当遺跡において最も建物跡が多い時期である。北調査区区画2～3にかけて伸びる区画溝SD-450と軸方位を同じくする建物跡群が北調査区の区画1・2・3にみられ、多数の建物跡で構成されること、付属屋の建て替えが多く行われていることが特徴である。

6期は18世紀後半～19世紀初頭で、南調査区区画2、北調査区区画3に建物跡群がみられる。北調査区区画3では建物跡と同じ軸方位の塀跡が南側空地にみられ、空地の利用が進められている。

第75表 星ノ宮遺跡 遺構時期一覧

	南調査区		北調査区		
	区画1	区画2	区画1	区画2	区画3
1期 (14世紀後半～ 15世紀前半)					SB-400・404・ 405 SE-80・82・83・ 95・114・115
2期 (15世紀中葉～ 後葉)	SB-5・16・17・ 21・22・23・24 SD-30、SE-29・ 47・49・52・53				
3期 (15世紀末～ 16世紀前半)				SB-416・419 SA-413	
4期 (16世紀後半)			SB-9・11・13・ 36 SD-2	SB-412・414・ 415・418 SE-261	
5期 (16世紀末～ 17世紀初頭)			SB-10・12・14・ 37 SD-450、SA-424、 SE-234	SB-417・420・ 421・422・423・ 425・426・427	SB-402・406・ 407・409 SD-450、SA-410
6期 (18世紀後半～ 19世紀初頭)		SB-25 SE-2・3・4			SB-401・403・ 411 SA-30・408



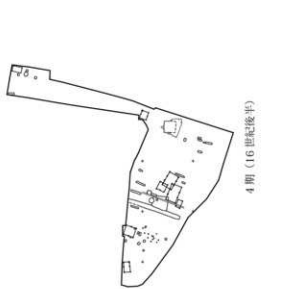
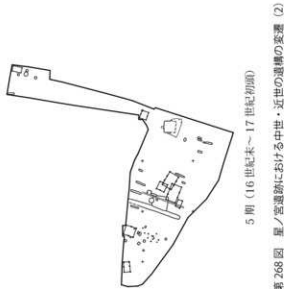
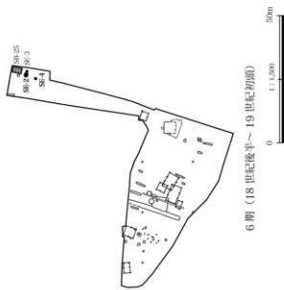
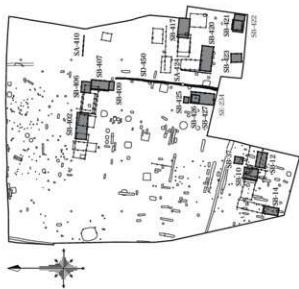
3期 (15世紀末～16世紀前半)

2期 (15世紀中葉～後葉)

1期 (14世紀後半～15世紀前半)

第267図 皇ノ宮遺跡における中世・近世の遺構の変遷(1)





6期 (18世紀後半～19世紀初頭)

5期 (16世紀末～17世紀初頭)

4期 (16世紀後半)

第268回 星ノ宮遺跡における中世・近世の遺構の変遷 (2)



史料にみる星ノ宮遺跡

星ノ宮遺跡の北東約4.0kmの丘陵上に千本城跡（茂木町）が位置する。千本城は小貝川と那珂川水系を分ける分水嶺上に位置し、建久8年（1197）那須氏系の千本十郎為隆の築城とされる。以来那須氏の当地域における拠点として機能し、天正13年（1585）廃城となる。そのほか市貝町周辺では大谷津城跡・続谷城跡・田野辺城跡・杉山城跡・山根城跡・芦原城跡が那須氏系の城郭として知られるほか、益子氏系の村上城跡・市花輪館跡・御城跡、宇都宮市系の祖母井城跡・平石城跡・文谷城跡・多田羅館跡・石下城跡・稲毛田城跡があり、中世を通じて市貝町域が那須氏・茂木氏・佐竹氏・宇都宮市氏による勢力境界であることがわかる。

文亀3年（1503）に営まれた那須政資の法要の際に香料を届けた人物を記した「那須政資法要香銭注文写」には、「五貫 千本殿」をはじめ「九百文 杉山殿」・「三百文 田邊殿」・「三百 つゞきや殿」・「三百 かりうた殿」がみえ、文谷近隣の杉山・続谷・刈生田といった地域を那須氏系の諸族が領有していたことがわかる。また年未詳「佐竹義重契状写」（秋田藩家蔵文書）に「千本之儀一途城走廻、手二入付而者、千本一跡同一城・文谷迄無別条可渡進候」とみえ、那須氏一族千本氏の拠点千本城を奪った場合には「千本から市塙、文屋まで」を与える、と大山因幡守・佐竹孫次郎に約束している。義重（1547-1612）の時期には当地は那須氏の支配下にあったこと、那須氏と佐竹氏の勢力境界付近に位置したことがわかる。これらのことから、星ノ宮遺跡周辺の地域は戦国期を通じて那須氏・茂木氏・佐竹氏・宇都宮市氏による係争地となっていることがわかる。

中世前半については不詳であるが、このような状況を考慮して星ノ宮遺跡をみたときに注目される遺物に古瀬戸入子がある。古瀬戸入子は古瀬戸のなかでも出土数の少ない遺物で、一般の集落遺跡からは出土せず、鎌倉、特に武家屋敷地等の格の高い遺跡で出土する傾向がある。今回の調査区内では星ノ宮遺跡においては古瀬戸入子と同時期の遺構は確認されていないが、付近に概期の遺構が存在する可能性は高く、その性格は当地を領有した有力者に関係するものと考えられる。

参考文献

- 市貝町 1990『市貝町史 第1巻 自然・原始古代・中世資料編』
 1995『市貝町史 第4巻 通史編』
 角川書店 1984『角川日本地名大辞典 9 栃木県』
 栃木県 1975『栃木県史 史料編 中世之』
 栃木県教育委員会 1982『栃木県の中世城館跡』
 平凡社 1988『日本歴史地名大系 第9巻 栃木県の地名』

第3節 北ノ内遺跡の建物群

第1項 掘立柱建物群

北ノ内遺跡の2次調査区では18棟の掘立柱建物跡が確認されている。2～3回の建て替えがみられ、出土遺物からは9世紀中葉～10世紀前葉の範囲で推移すると考えられるが、中心となる時期は概ね9世紀後半とすることができる。建物配置は南北棟である四面廂建物跡SB-7を中心としてL字もしくはコの字型に配置され、西側には総柱建物跡を含む建物群が南北に並び倉庫と考えられる。建物群の正面は東側と考えられ、前面の空閑地には大型の竪穴建物跡で竪穴と見られるSI-20が位置する。通常サイズの竪穴建物跡は調査区西側にみられる。

建物群の性格

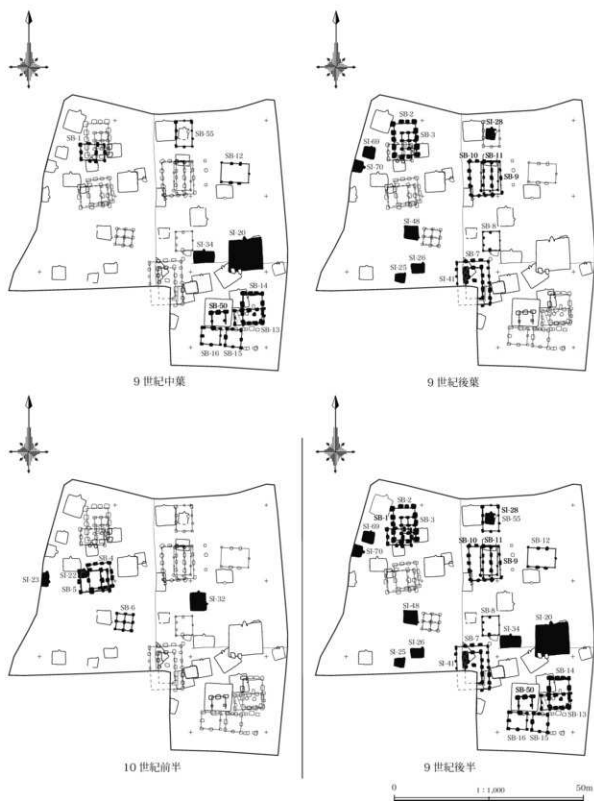
この建物跡群は地方富豪層の住居である豪族居宅といえる。豪族居宅については多くの研究があり、田中広明氏によれば「地域に根付き、地域開発の先導となった豪族にかかわる居宅」であり「地域支配の拠点として一定の宅地を占有し、私富を倉に蓄え、様々な建物を建て手工業生産にかかわり、再生産のために蓆や食器などを大量に準備し、また国司館同様の奢侈的な物品を消費した」場所とされる。また居宅を構成する要素として一般の集落から一線を画すための「区画施設」と「大型建物群」を重視した遺跡の分類を行った(田中2003)。田中分類では北ノ内遺跡はⅡ-C(区画施設を伴わず、大型住居とこれを取り囲む数棟の屋と数棟の倉で構成される)に該当する。

一方菅原祥夫氏は、東北地方南部の居宅遺跡を分析し、居宅の構成要素として倉庫群、主屋、仏堂、宗教儀礼空間、竪穴、工房、酒造施設を挙げ、その複合機能を重視した。菅原分類では北ノ内遺跡(第2次調査)はD7類(掘立柱建物主体、竪穴建物従属の「コ」字・「ロ」字型配置、区画をもたない)に該当し、太平洋側において最も代表的な豪族居宅の形態を示すものの一つといえる。

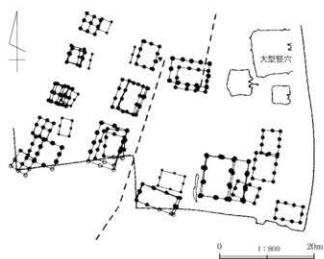
第270図は、菅原D7類の最も代表的な類型とされる福島県正直C遺跡、東山田遺跡である。これと比較すると、同じD7類に該当する北ノ内遺跡であるが四面廂建物SB-7の平面形式の大きさと倉庫群の貧弱さが相違点としてみえてくる。居宅遺跡においては必ずしも主屋が目立つわけではなく、大型の主屋は富豪層の経済力や遺跡の機能とも関係があるのであろう。SB-7に関しては第2項で検討する。倉庫は総柱建物は2棟のみで、顕倉としての側柱建物を含めても少数である。

建物規模による比較

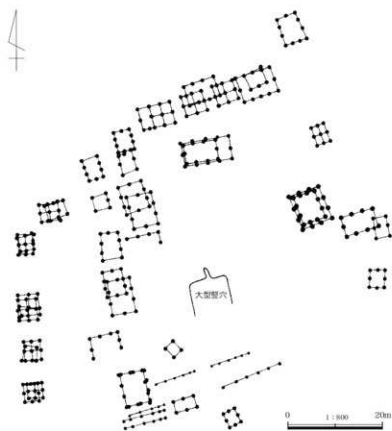
次に北ノ内遺跡の掘立柱建物規模と郡衙・居宅・集落遺跡における掘立柱建物規模統計データ(山中2007)を第76・77表に示す。北ノ内遺跡における屋舎の建物面積平均36.75㎡は居宅の建物面積平均値33.58㎡を上まわり、屋舎の柱掘方規模平均0.86㎡は郡衙の柱掘方規模平均値0.83㎡に達している。また倉の建物面積平均16.38㎡は居宅における倉の建物面積平均値15.60㎡を上まわり、倉の柱掘方規模平均0.67㎡は同様に居宅における倉の柱掘方規模平均値0.65㎡と同等を示している。よって北ノ内遺跡における掘立柱建物は、規模の面からも居宅並といえ、屋舎の柱掘方規模に関しては郡衙に匹敵する規模をもつといえる。



第269図 北ノ内遺跡(2次調査)における遺構の変遷(平安時代)



正直C遺跡



東山田遺跡

第270図 菅原D7類の代表的な居宅遺跡（菅原1998を一部改変して変倍）

第76表 北ノ内遺跡掘立柱建物跡の規模

		桁行間数	梁行間数	桁行総長 (m)	梁行総長 (m)	建物面積	建物平面 指数	掘方規模 (m)	掘方深さ (m)
SB-1	屋舎	3	2	6.3	4.2	26.46	66.66	0.98	0.62
SB-2	屋舎	4	3	8.4	5.7	47.88	67.85	1.28	0.85
SB-4	屋舎	3	3	6.3	6.0	37.80	95.23	1.00	0.73
SB-5	屋舎	3	2	7.2	5.4	38.88	75.00	1.02	0.79
SB-7	屋舎	6	4	11.38	8.48	96.50	74.51	0.85	0.56
SB-8	屋舎	3	2	5.1	4.5	22.95	88.23	0.46	0.21
SB-9	屋舎	4	2	8.7	4.5	39.15	51.72	0.69	0.40
SB-10	屋舎	4	3	9.0	5.68	51.12	63.11	0.91	0.64
SB-11	屋舎	3	2	7.5	4.5	33.75	60.00	0.41	0.18
SB-12	屋舎	3	2	7.2	5.1	36.72	70.83	0.66	0.23
SB-13	屋舎	4	2	7.8	3.9	30.42	50.00	0.88	0.70
SB-14	屋舎	3	3	7.5	5.1	38.25	68.00	1.14	0.85
SB-15	屋舎	2	2	4.5	4.2	18.90	93.33	0.86	0.67
SB-16	屋舎	2	2	5.1	4.5	22.95	88.23	0.77	0.60
SB-50	屋舎	2	2	(4.8)	(3.6)	(17.28)	(75.00)	1.14	0.81
SB-55	屋舎	3	2	6.9	4.2	28.98	60.86	0.65	0.29
屋舎平均		3.25	2.38	7.11	4.97	36.75	71.79	0.86	0.57
SB-3	倉	2	2	4.2	3.6	15.12	85.71	0.61	0.61
SB-6	倉	2	2	4.2	4.2	17.64	100.00	0.72	0.61
倉平均		2	2	4.2	3.9	16.38	92.86	0.67	0.61

第77表 郡衙・居宅・集落遺跡における掘立柱建物跡の規模（山中2007より作成）

官舎・屋舎の規模平均値（廟含む）（山中2007表6～8より作成）

	桁行間数	梁行間数	桁行総長(m)	梁行総長(m)	建物面積	建物平面指数
郡衙遺跡	4.29	2.25	9.93	4.9	53.10	59
居宅	3.33	2.22	6.83	4.53	33.58	70.72
集落	2.71	1.95	5.35	3.83	21.58	74.98

身舎柱掘方規模の平均値（山中2007表3～5より作成）

	掘方規模(m)	掘方深さ(m)
郡衙遺跡	0.83	0.55
居宅	0.69	0.44
集落	0.61	0.37

倉の規模平均値（山中2007表15より作成）

	桁行柱間	梁行柱間	桁行総長(m)	梁行総長(m)	建物面積	桁行柱間 寸法(m)	梁行柱間 寸法(m)	建物平面 指数
郡衙遺跡	3.35	2.74	7.54	5.53	44.63	2.23	2.03	78.05
居宅	2.3	2.05	4.2	3.64	15.60	1.86	1.79	88.06
集落	2.38	2.1	3.84	3.56	14.01	1.63	1.71	93.25

倉の柱掘方規模の平均値（山中2007表14より作成）

	掘方規模(m)	掘方深さ(m)
郡衙遺跡	1.04	0.68
居宅	0.65	0.49
集落	0.65	0.39

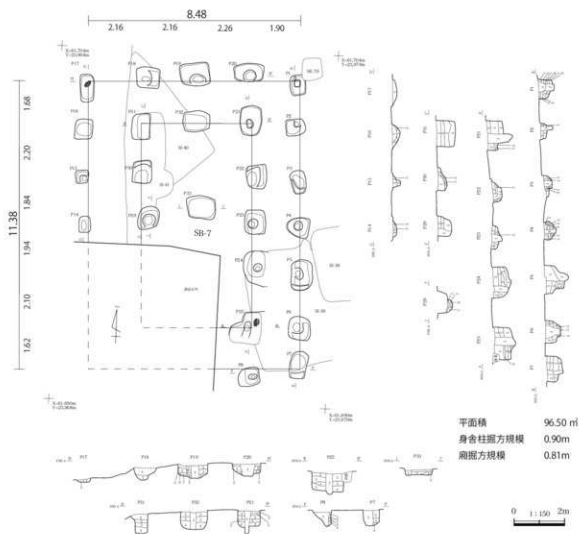
第2項 四面廂建物 SB-7

東日本における四面廂建物との比較

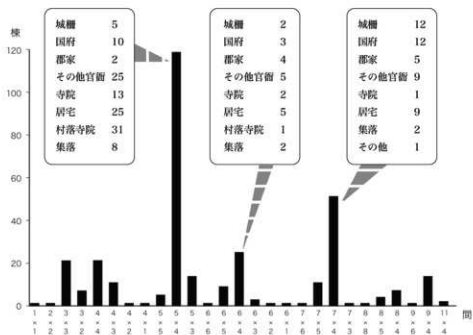
豪族居宅である北ノ内遺跡において、格の高さ、建物規模ともに群を抜いて高い四面廂建物 SB-7 について、東日本における四面廂建物の統計データ（江口 2012）と比較検討する。

北ノ内遺跡 SB-7 は、平面形式 6×4 間、建物面積 96.50 m²、柱掘方形状は身舎・廂ともに方形、廂柱筋は身舎と通す柱筋型、廂の柱掘方規模は身舎よりやや小さく、桁行総長 11.38m、梁行総長 8.48m である。

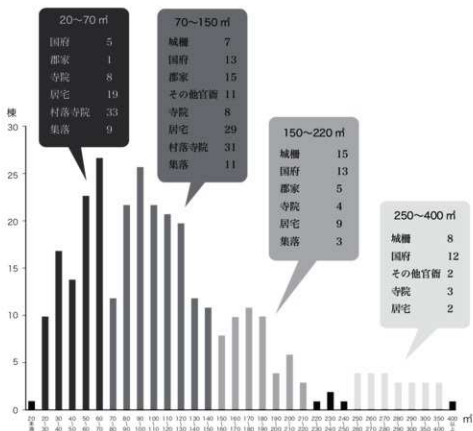
統計データと比較すると、建物平面形式、建物平面積をはじめ、いずれの要素も居宅以上といえるが、方形の柱掘方形状に関しては郡家やその他官衙関連遺跡に近いといえる。



第 271 図 北ノ内遺跡（2次調査）SB-7 実測図



第 272 図 四面廂建物跡平面形式別棟数割合（江口 2012 図 1 に同図 8 を数値化して追加）



第 273 図 四面廂建物跡平面面積比較（江口 2012 図 2 に同図 6 から遺跡種別を集計して追加）

第78表 東日本における四面廂建物（江口2012より転載）

柱振方形の棟数と割合

	富宮		城柵		国府		郡家		その他 官衙関連		寺院		居宅		集落 (村落寺院)		集落		その他				
	棟数	%	棟数	%	棟数	%	棟数	%	棟数	%	棟数	%	棟数	%	棟数	%	棟数	%	棟数	%			
方形（直隅丸方形）			22	73	13	27	7	25	5	45	1	4	1	2			3	5			2	5	
丸形（直隅丸方形）					29	59	14	45	3	27	13	52	17	26	17	27	1	5	4	11			
隅丸方形（一部円形）	1	25																					
身舎:隅丸方形+廂:円形					1	2			1	9			5	8								2	5
円形	3	75	6	20	6	12	10	32	2	18	4	16	12	65	43	67	20	95	30	79			
円形（一部隅丸形）															1	2							
楕円			2	7								7	28										
合計	4	100	30	100	49	100	31	100	11	100	25	100	65	100	64	100	21	100	38	100			

廂柱距比較表

	富宮		城柵		国府		郡家		その他 官衙関連		寺院		居宅		集落 (村落寺院)		集落		その他			
	棟数	%	棟数	%	棟数	%	棟数	%	棟数	%	棟数	%	棟数	%	棟数	%	棟数	%	棟数	%		
柱距型	5	100	27	77	41	85	12	48	16	94	22	85	44	66	43	62	16	53	27	63		
井筒・柱脚中央型			1	3									3	4	2	3					1	2
柱間中央型			4	11	1	2					1	4	4	6	2	3	2	7	2	5		
角柱型			1	3	2	4	8	32			3	12	10	13	13	19	7	23	5	12		
その他			2	6	4	8	5	20	1	6			6	9	9	13	5	17	8	19		
合計	5	100	35	100	48	100	25	100	17	100	26	100	67	100	68	100	30	100	43	100		

身舎と廂の柱間規模比較表

	富宮		城柵		国府		郡家		その他 官衙関連		寺院		居宅		集落 (村落寺院)		集落		その他			
	棟数	%	棟数	%	棟数	%	棟数	%	棟数	%	棟数	%	棟数	%	棟数	%	棟数	%	棟数	%		
身舎と同規模	1	25	8	29	16	43	4	19	3	27	6	33	12	20	30	48	10	45	15	43		
身舎よりやや小規模	3	75	16	57	19	51	11	52	4	36	12	67	42	71	27	44	11	50	11	31		
身舎の1/2以下			2	7	1	3	3	14	4	36			5	8	4	6	1	5	9	26		
その他			2	7	1	3	3	14							1	2						
合計	4	100	28	100	37	100	24	100	14	100	18	100	59	100	62	100	22	100	35	100		

桁行・梁行の総長と平均値

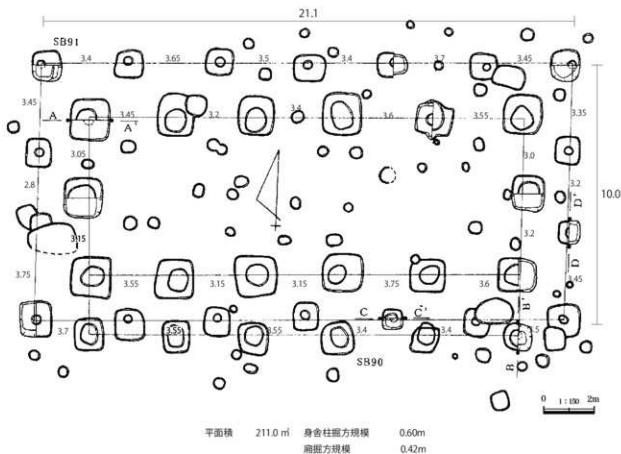
項目	単位 (m)					
	桁行最大値	桁行最小値	平均値	梁行最大値	梁行最小値	平均値
富宮	14.90	10.75	11.93	8.60	7.80	8.40
城柵	22.80	11.52	16.88	13.66	8.62	10.08
国府	26.60	6.85	11.50	15.75	6.50	9.40
郡家	10.60	18.10	13.21	12.10	7.60	9.16
その他官衙関連	21.20	9.49	11.76	10.52	7.58	8.22
寺院	28.50	4.90	13.63	18.40	4.90	9.44
居宅	21.40	4.20	11.56	14.30	4.10	8.37
集落(村落寺院)	14.10	4.80	9.27	10.50	4.50	7.66
集落	16.95	4.48	10.48	12.00	4.00	7.87
その他	18.97	4.40	9.89	12.10	4.40	7.15

栃木県における四面廂建物との比較

次に栃木県内で確認されている四面廂建物跡を第274～279図に示す。上神主・茂原官衙遺跡は河内郡衙に比定されており、政庁と正倉、関連建物群、区画溝、八脚門が確認されている。政庁正殿である四面廂建物SB-91は身舎5×2間、廂は6×3間の柱中間型、桁行総長21.1m、梁行総長10.0m、建物面積211.0㎡、柱掘方形状はすべて方形で身舎柱掘方規模0.60m、廂柱掘方規模0.42mである。廂柱配置が柱中間型であるため平面形式は6×3間と小さいが、建物面積は政庁正殿に相応しい規模である。柱掘方形状はすべて方形で規格性の高さが表れている。

長者ヶ平遺跡は芳賀郡衙別院と考えられ、政庁と倉庫群が確認されている。SB-5は政庁脇殿の北側にある施設である。身舎3×2間、廂は5×4間の柱筋型、桁行総長11.8m、梁行総長9.3m、建物面積109.7㎡、柱掘方形状は身舎が方形、廂は円形、身舎柱掘方規模1.02m、廂柱掘方規模0.56mである。建物規模は北ノ内遺跡SB-7に近似するが、柱掘方の規格性の高さは北ノ内遺跡SB-7が勝る。

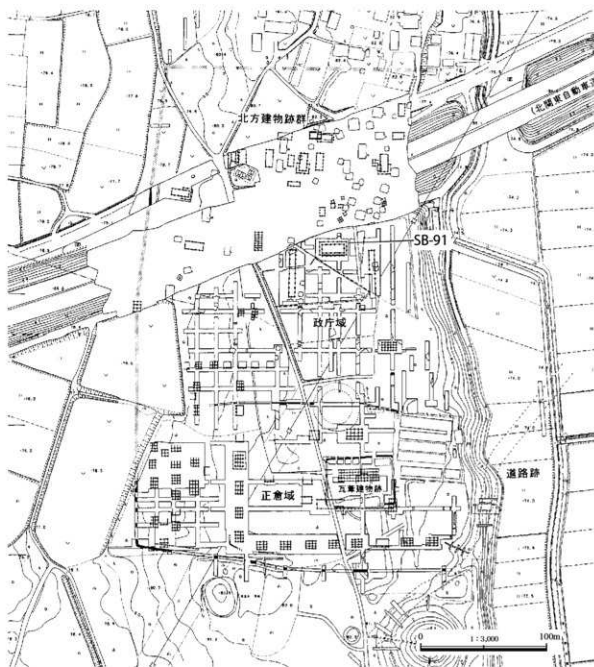
堀越遺跡は大型の掘立柱建物跡、越州窯水注などの輸入磁器、「成生庄 上」墨書土器の出土から荘園荘家遺跡と考えられている。遺跡が位置する塩谷郡では東大寺封戸50戸が同部片岡郷に充てられており、中央寺院との関係も考えられている。第100号掘立柱建物跡は10世紀前葉の中心的建物である。身舎5×2間、廂7×4間の柱筋型、桁行総長17.4m、梁行総長10.3m、建物面積179.22㎡、柱掘方形状は全て円形、身舎柱掘方規模1.01m、廂柱掘方規模0.62mである。建物規模が北ノ内遺跡SB-7を優に超える点はもちろんだが、柱平面形状が全て円形である事が相違点として認められる。



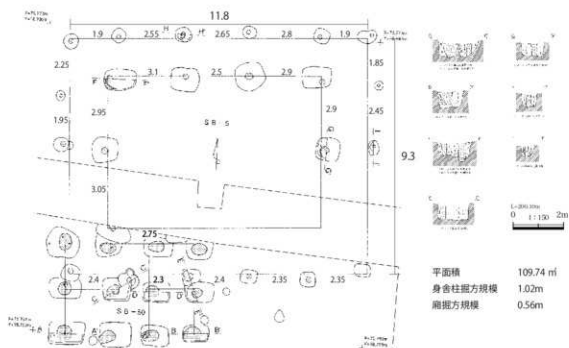
第274図 上神主・茂原官衙遺跡 SB-91 実測図

以上の比較から、北ノ内遺跡 SB-7 は郡衙別院政庁の付属施設と同等の規模をもつといえる。ただし柱掘方の規格性の高さで勝っており、上神主・茂原官衙遺跡 SB-91 に近い。この点が北ノ内遺跡 SB-7 の特徴といえる。なお、本章第4節で述べるとおり北ノ内遺跡は地域の開発と経営に係わる遺跡と考えられるが、荘園開発というよく似た機能を有する堀越遺跡と建物規模に大きな差が認められるのは、背景にある資本の差によるものであろう。また堀越遺跡第100号掘立柱建物跡が柱掘方形状に円形を採用する点も官衙との相違点として指摘できる。

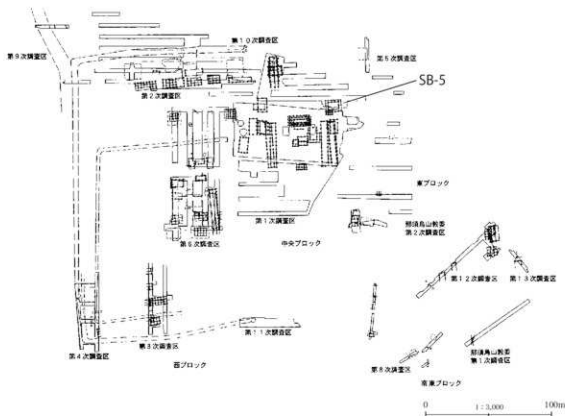
以上のように、北ノ内遺跡の四面廂建物跡 SB-7 は、官衙関連遺跡や居宅にみられる四面廂建物と同等で、柱掘方の形状や規模の点ではやや高い規格性を備えているといえる。



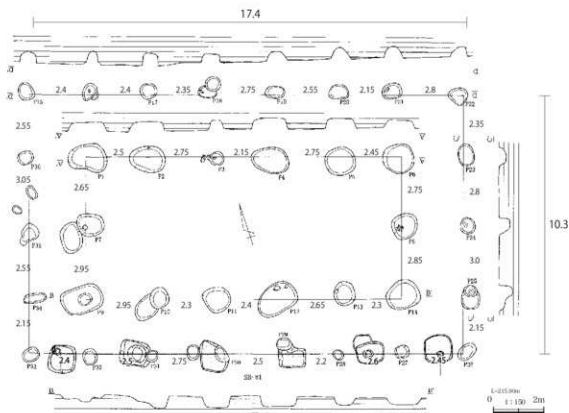
第275図 上神主・茂原官衙遺跡遺構配置図 (S=1/3,000)



第 276 図 長者ヶ平遺跡 SB-5 実測図

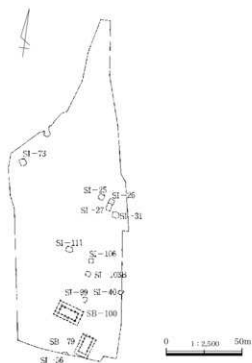


第 277 図 長者ヶ平遺跡 全体図 (S=1/3,000)



平面積 179.22㎡ 身舎柱掘方規模 1.01m
 附置方規模 0.62m

第278図 堀越遺跡 第100号掘立柱建物跡実測図



第279図 堀越遺跡 (10世紀前葉) 全体図 (S=1/2,500)

第3項 竈屋 SI-20

SI-20は平面南北8.92×東西8.24mの竪穴建物跡で、柱穴は3時期あり長期間にわたって使用された建物跡である。カマドは煙道部まで赤化しており、よく使用されたカマドである。出土遺物は総量16,204gが出土し、須恵器環が多量で重量比で約30.2%（241点）を占める。土師器環も同じく7.0%（60点）、土師器甕32.0%（291点）、須恵器甕17.0%（40点）が出土し、灰釉陶器3点、須恵器円面甕2点も出土している。9世紀中葉の年代が与えられる。供膳具が多量に出土する大型竪穴建物跡は福島県正直C遺跡や栃木県多功南原遺跡で確認され、調理と供膳、食器管理を担う竈屋と考えられている。SI-20は須恵器環の多量出土から、北ノ内遺跡構成員に対して食事の供給を行った竈屋としての性格が考えられる。またSI-20出土遺物の中に、「目」墨書のみられる土器が4点出土している。2点が須恵器環の体部外面、2点が土師器環の底部外面である。SI-20の南壁を切る土坑SK-65から出土した完形の土師器環底部外面にも「目」墨書がみられる。このことから竈屋SI-20の給食対象に国司たる目が含まれることがわかる。

参考文献

宇野隆夫 2001『荘園の考古学』青木書店

江口 桂 2012「東日本における古代四面廂建物の構造と特質」『四面廂建物を考える 報告編』奈良文化財研究所

上三川町教育委員会・宇都宮市教育委員会 2003『上神主・茂原宮衛遺跡』

菅原祥夫 1998「陸奥国南部における富豪層住宅の倉庫群」『古代の稲倉と村落・郷里の支配』奈良国立文化財研究所

田中広明 2003『地方の豪族と古代の官人』柏書房

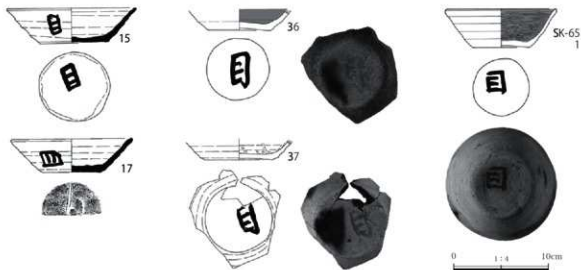
栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団 2005『堀越遺跡』

栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団 2007『長者ヶ平遺跡』

栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団 1999『多功南原遺跡』

山中敏史・石毛彩子 1998「豪族居宅と倉」『古代の稲倉と村落・郷里の支配』奈良国立文化財研究所

山中敏史 2007「地方豪族居宅の建物構造と空間的構成」『古代豪族居宅の構造と機能』奈良文化財研究所



第280図 北ノ内遺跡（2次調査）SI-20・SK-65出土遺物

第4節 小貝川上流域における集落の動向と平安時代の開発

第1項 小貝川上流域における集落の動向

小貝川上流域における古墳時代～平安時代の遺跡を検討し、集落の動向と平安時代の開発について考える。その中で北ノ内遺跡の機能や役割について明らかにする。

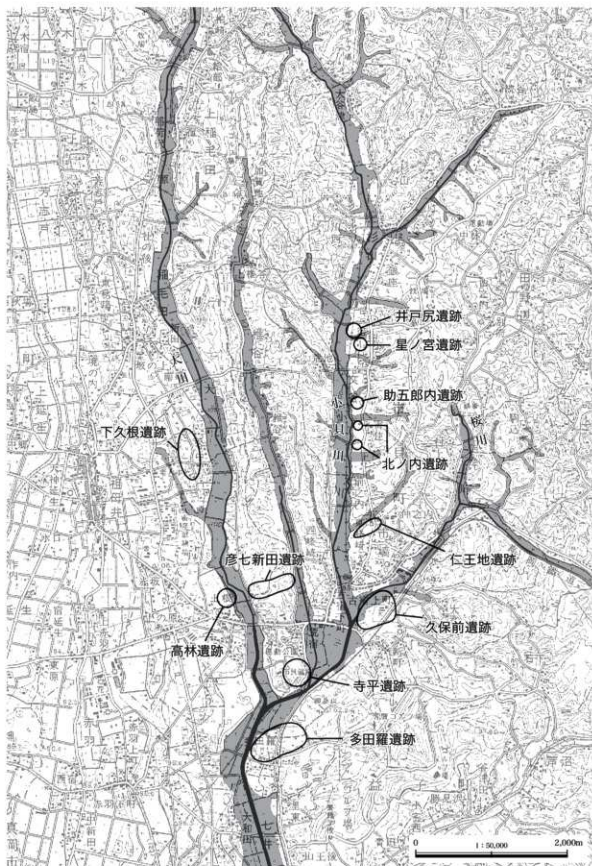
小貝川とその支流桜川との合流地点においては北東から南西にやや大きな谷地形が形成され、ここからそれぞれの河川が北に向かって谷を伸ばしており、その流域には狭小な低地が形成されている。この流域において古墳時代の遺構が最初に確認されるのは仁王地遺跡で、古墳時代前期の竪穴建物跡が2軒確認される。古墳時代後期以降、寺平遺跡・仁王地遺跡・彦七新田遺跡・高林遺跡・北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡で集落が形成され、仁王地遺跡後背の丘陵上に諏訪古墳群・頼朝塚古墳群が形成される。集落の規模、古墳群との関係から仁王地遺跡がこの時期の中心的集落といえる。古墳時代後期以降、小貝川沿岸の狭小な谷において開発が進められていることがわかる。この一帯は流路と直行する方向に小枝谷が数多く形成され、小貝川と枝谷によって囲まれた丘陵上に集落が形成されている。

奈良時代になると支流との合流部に人口を集中させ、大規模な開発が行われたと考えられる。久保前遺跡は低位丘陵上に形成された広範囲な広がりをもつ集落遺跡で、8～9世紀の建物が50軒確認されている。小貝川と大川の合流部に突出した丘陵上に位置する寺平遺跡は、掘立柱建物跡42棟、竪穴建物跡24軒が確認され、四面廂建物を含む掘立柱建物群はコの字型に配置される。時期は8世紀末～9世紀前半とされ、豪族居宅あるいは官衙的性格のある集落遺跡で、合流部一帯を統括する中心的集落といえる。

平安時代にはそれぞれの谷部に再開発の手が進み、停滞していた集落でも建物数の増加がみられる。彦七新田遺跡は丘陵を横断するように調査されたが、谷に面する丘陵の両端を中心に集落が形成され9世紀にピークを迎える。大川沿岸では高井遺跡・下久根遺跡が平安時代の散布地とされる。小貝川沿岸の谷部では、仁王地遺跡・北ノ内遺跡・助五郎内遺跡がそれぞれ9世紀に集落のピークを迎え、北ノ内遺跡で四面廂建物を中心とする掘立柱建物群が形成される。また井戸尻遺跡が平安時代の散布地とされる。

第79表 小貝川沿岸における平安時代遺跡の建物数

	古墳時代(6～7世紀)	奈良時代(8世紀)	平安時代(9世紀)	平安時代(10世紀)
井戸尻遺跡		← 散 布 →		
星ノ宮遺跡	竪穴建物跡 3軒			
助五郎内遺跡	竪穴建物跡 20軒 掘立柱建物跡 3棟	竪穴建物跡 9軒	竪穴建物跡 12軒 掘立柱建物跡 1棟	竪穴建物跡 1軒
北ノ内遺跡	竪穴建物跡 36軒	竪穴建物跡 13軒 掘立柱建物跡 1棟	竪穴建物跡 27軒 掘立柱建物跡 20棟	竪穴建物跡 13軒 掘立柱建物跡 4棟
仁王地遺跡	竪穴建物跡 73軒	竪穴建物跡 27軒	竪穴建物跡 44軒	竪穴建物跡 1軒
久保前遺跡		← 竪 穴 建 物 跡 50 軒 →		
寺平遺跡		← 竪 穴 建 物 跡 24 軒 掘 立 柱 建 物 跡 42 棟 →		
多田羅遺跡				竪穴建物跡 8軒
下久根遺跡		← 散 布 →		
彦七新田遺跡	竪穴建物跡 7軒	竪穴建物跡 26軒 掘立柱建物跡 1棟	竪穴建物跡 65軒 掘立柱建物跡 4棟	竪穴建物跡 4軒
高林遺跡	竪穴建物跡 37軒 掘立柱建物跡 1棟	竪穴建物跡 7軒	竪穴建物跡 6軒	竪穴建物跡 4軒



第 281 図 小貝川上流域における平安時代の遺跡

10世紀はいずれの遺跡も縮小するが、北ノ内遺跡の他、大川との合流部の多田羅遺跡で建物跡が確認されており集落が拡散していることがわかる。

以上のように小貝川上流域における遺跡の動向をみると、小貝川沿岸の集落遺跡は、平安時代の再開発によって9世紀後半を中心に集落を拡大させたといえる。そして北ノ内遺跡はそれを主導した豪族の居宅と位置づけられる。

第2項 北ノ内遺跡と国司入部

覆屋SI-20から「目」墨書土器が出土している。「目」は国司四等官第4等の目と考えられる。「目」墨書土器出土例は全国で16遺跡、木簡出土例が1遺跡あるが、その多くは城柵・国府で、国府付近に設置された国司館に伴うものである。集落遺跡からの出土はほとんどなく、国府から遠く離れた地方富豪層の居宅で「目」墨書土器が出土する意味を検討する。

国司とその支配地域との関係性でまず考え得るのは、国司による部内巡行である。8世紀の国司巡行については薩摩国正税帳等により研究が進んでいる。9世紀については詳細な記録はないが、類聚三代格に以下の記録がみられることから引き続き行われているといえる。

○承和6年(839)10月1日太政官符〔類聚三代格〕卷14)

(前略)任中官物未進多_レ数。黙爾欲_レ居。後貞難_レ避。入部欲_レ勘。前司無_レ力。望請。賜_レ官符。与_レ当时吏_レ相共入部依_レ件勘納。謹請_レ官裁_レ者。被_レ右大臣宣_レ稱。雖_レ踰_レ年_レ不_レ究怠在国司。而到_レ備_レ官物_レ不_レ可_レ不_レ聽。宜_レ与_レ收納国司_レ共入部勘納。不_レ得_レ因_レ此令_レ妨_レ滞当年事。

国司入部の主な用務は出挙と収納の檢校であり、用務地は都衙周辺に設置された正倉、郡内に設置された正倉別院である。北ノ内遺跡は豪族居宅で、倉は2棟しか確認されておらず、預倉としての側建物を含めても少数で規模も小さい。居宅の倉を郡の倉として借倉することがあるとしても、国司が檢校に訪れる施設としてはあまりにも貧弱であり考えがたい。

このほかの可能性としては北ノ内遺跡を、国司が入部する際に宿泊や厨として用いた館とする考え方、国司の経済活動の拠点として国府の外に置かれた宅とする考え方(鬼頭1986)もできる。しかしこれらの施設は都衙未満、集落以上の様々な様相でみられ、遺構から確定することは難しい。ここでは北ノ内遺跡を居宅であると同時に小貝川上流域における開発経営拠点とし、国司が勸農政策の一環として地域の開発経営拠点を訪れたと考えたい。国司入部の際には接待する場として四面廂建物という格の高い建物が必要とされたのではないだろうか。

第3項 北ノ内遺跡の性格

第1項で小貝川沿岸の谷部では、9世紀後半を中心とする平安時代に再開発が進み、北ノ内遺跡はこれを主導した豪族の居宅であると共に開発経営拠点であるとした。また第2項で「目」墨書土器の出土から、国司が勸農政策の一環としてこの経営拠点を訪れていると考えた。更に加えるならば、この経営拠点は四面廂建物という中心的建物の大きさが突出しており、豪族居宅遺跡の特徴の一つである倉庫が貧弱であることである。収納施設は別に、より物流拠点として便利な支流との合流部付近に設置されたのではないだろうか。北ノ内遺跡は狭小な谷部の経営拠点として特化していると考えられる。

ここで考え合わせなければならないのが、南西約3.5kmに位置する寺平遺跡の性格である。寺平遺跡は合流部の開発と経営を主導した豪族居宅遺跡である。北ノ内遺跡との比較では建物の棟数、配置、倉庫群の存在といった点で寺平遺跡が勝るが、9世紀前半という北ノ内遺跡の前身となる時期、四面廂建物の存在など小

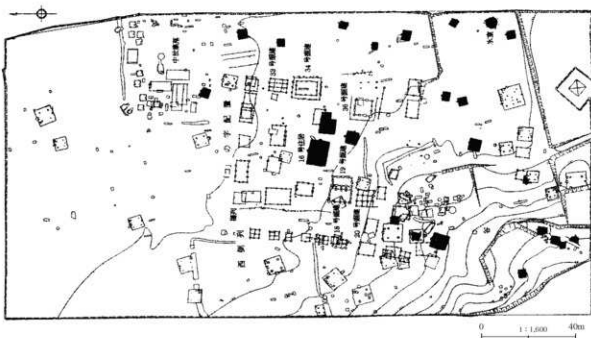
貝川上流域の開発を担ってきた遺跡群において北ノ内遺跡と無関係ではない。開発が谷の奥へと伸びるのに合わせて、寺平遺跡の機能の一部が北ノ内遺跡へと移った可能性が考えられる。寺平遺跡の性格付けによって国司が関与したと考えられる北ノ内遺跡の性格も明らかにできるものと考えられる。

第4項 芳賀郡における北ノ内遺跡の位置

芳賀郡における北ノ内遺跡の位置を確認する。第283図に平安時代における芳賀郡の範囲と官衙遺跡を示す。芳賀郡の範囲は現在の芳賀郡と『和名類聚抄』で郡のうちとされる氏家まで、すなわち旧高根沢町・氏家町を含む。芳賀郡は西部を五行川・小貝川・鬼怒川による低地によって、東部を八満山地によって占められる。五行川低地は南北に長く、その南部は小貝川低地と合わさる。鬼怒川低地は郡城西部を占める。小貝川上流部は、東部丘陵地の北半分に狭小な低地を形成している。五行川低地の中心部に芳賀郡衙である堂法田遺跡、北端に郡衙別院と考えられる長者ヶ平遺跡、鬼怒川低地に郡衙正倉別院と考えられる中村遺跡が位置する。郡内の生産域、交通の要所に各遺跡が立地することがわかる。

東部丘陵地帯を流れる主な河川は小貝川、大羽川、逆川がある。逆川は現在の茂木町域を北東流する那珂川水系の河川である。大羽川は現在の益子町を流れ、七井付近で合流する小貝川支流である。合流部には星の宮ヶカチ遺跡があり、9世紀を中心とした竪穴建物跡24軒、掘立柱建物跡8棟等が確認されている。掘立柱建物は最大6×2間で方形の柱掘方をもち、竪穴建物からは佐波理の甍が出土している。合流部に位置を占める有力な集落と言える。小貝川が丘陵部から五行川低地へと出る部分には、古墳時代前期の前方後墳山崎古墳群1号墳があり、時代は違うが河川交通の要所として重視されていたことがうかがえる。

小貝川上流部ではその入り口に寺平遺跡が位置するが、ここは小貝川上流部の入り口であるだけではなく、東部丘陵地帯の入り口であるといえる。北ノ内遺跡は支流板川との合流部から更に小貝川の谷を遡った位置にあり、芳賀郡において最も奥まった位置にある開発地の一つといえる。



第282図 寺平遺跡 全体図 (S=1/1,600)



第283図 芳賀郡における北ノ内遺跡の位置

参考文献

- 市貝町 1995『市貝町史 第4巻 通史編』
- 市貝町教育委員会 1993『町出口、高林遺跡』
- 市貝町教育委員会 2009『仁王地遺跡発掘調査報告書』
- 鬼頭清明 1986「国司館について」『国立歴史民俗博物館研究報告』第10集 国立歴史民俗博物館
- 条里制・古代都市研究会 2009『日本古代の都衛遺跡』 雄山閣
- 坂内三彦 2006「取納使の成立」『上智史学』51
- 高垣義実 1988「天平期における地方支配の一断面」『古代史論集 中』 塙書房
- 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団 2005『彦七新田遺跡』
- 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団 2006『高林遺跡Ⅱ』
- 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団 1991『多田羅遺跡』
- 中村信博 2005「市貝町寺平遺跡」『考古学ジャーナル』529 ニューサイエンス社
- 藤井一二 1998「大伴家持の国内巡行と出挙」『情報と物流の日本史』 雄山閣
- 益子町教育委員会 1978『星の宮ヶカネ遺跡』
- 森田喜久男 2001『「万葉集」から見た国司巡行の実態』『古代交通研究』第11号 古代交通史研究会
- 『新訂増補 国史大系(普及版) 類聚三代格後編』吉川弘文館 1972

第5節 北ノ内遺跡出土の須恵器にみられる獣足跡

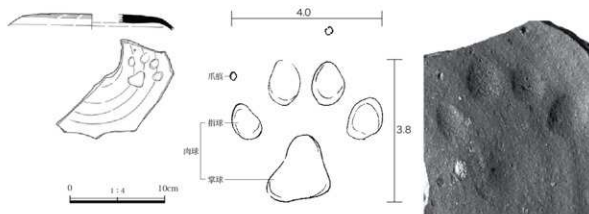
足跡の概要

北ノ内遺跡（2次調査）SI-21から出土した須恵器環蓋の内面に獣の足跡が確認された。須恵器環蓋は破片であるが、共存している須恵器高台環、環蓋は益子原東1・3号窯段階で、8世紀中頃と考えられる。

足跡は肉球の痕跡で、掌球と4つの指球からなり指行性（4本の指を地面につけて歩き、足跡には指球と掌球部分がつく）の哺乳類のものである。大きさは長さ3.8cm、幅4.0cmである。一番左の指球と右から2番目の指球の先0.6cmのところから爪跡らしき刺突痕がみられ、これを含めると長さ4.8cmとなる。須恵器の焼成による収縮率を82%とすると（岩本2010）、実際の足の大きさは長さ4.6cm、幅4.8cmとなり、爪先まで含むと5.9cmとなる。須恵器焼成前の乾燥時に付いたものであろう。

指行性の哺乳類は食肉目イヌ科およびネコ科が該当する。イヌ科は爪を出したまま歩くため足跡に爪痕がつく。一方ネコ科は必要のないときは爪を収納して足跡に爪痕が付かないため、2者は容易に識別できる。北ノ内遺跡獣足跡は、爪痕の存在からイヌ科の足跡と考えられる。日本国内に生息したイヌ科の動物はイヌ・オオカミ・キツネ・タヌキがあるが、このうち前三者の足跡は縦長となり、イヌは走ることに特化するため指球の間隔が詰まる。一方タヌキの足跡は指球の間隔が開き、丸みを帯びることが知られている。以上の点から北ノ内遺跡獣足跡はタヌキのものである可能性が高い。

右の指球の先に爪痕がみられないのは、体重の掛かり方が弱いためであろう。体重は足の外側に強く掛かるため左足、後肢はやや指球の間隔が狭くなることから左前肢の可能性が高い。肉球の輪郭がはっきりと付き毛の痕跡がみられないのは、夏毛のためと考えられる。



実測図 (S=1/4)

足跡拡大 (原寸)

第284図 北ノ内遺跡出土の須恵器にみられる獣足跡



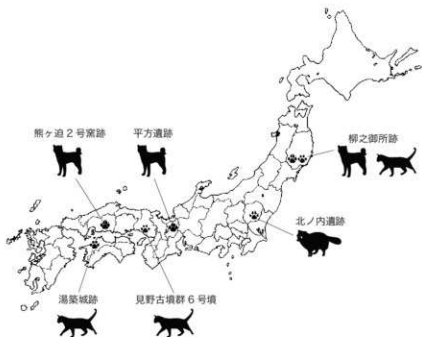
第285図 獣足模式図（イヌ・タヌキ・ネコは熊谷2008、キツネは子安1993より転載）

土器に付いた足跡の類例

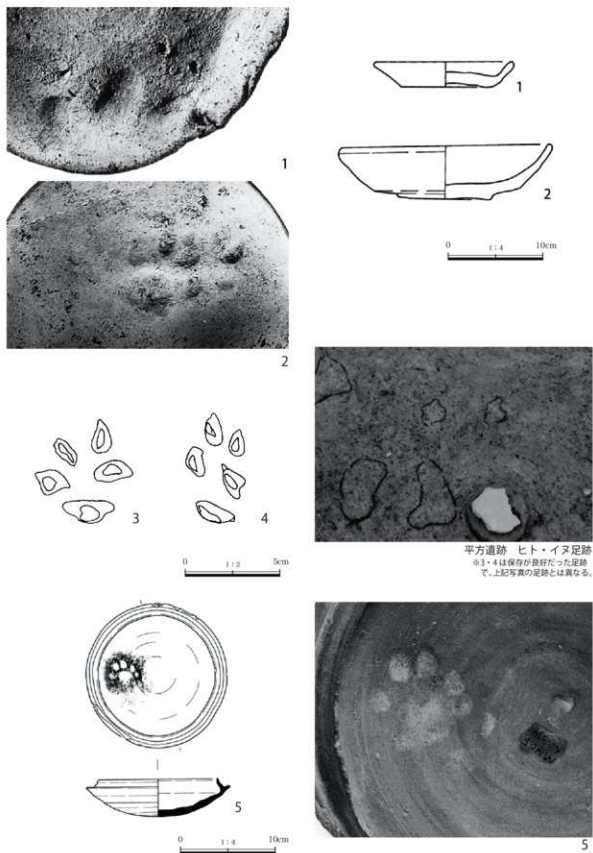
出土した土器に付いた獣足跡の類例を示し、北ノ内遺跡獣足跡と比較検討する。1は柳之御所遺跡出土の中世土師質土器皿の内面に付いたイヌの足跡である。報告書ではネコとあるが爪痕が明瞭にみられること、中央の指球が縦長でかつ左右の指球より突出しないことからイヌと考えられる。土器の時期は12世紀後半である。2は柳之御所遺跡出土の中世土師質土器皿の内面に付いたネコの足跡である。爪痕がないことからネコと判断できる。また2つの足跡が重なっているのは、ネコが慎重に歩くときにみせる、前肢のあった場所に後肢を添えるように置く歩行パターンのためである。その後肢はやや内側に入るので、この足跡の場合右前肢と右後肢の足跡である。土器の時期は12世紀後半である。3・4は平方遺跡で確認された縄文時代後期の竪穴建物跡の床面に付いたイヌともと考えられる足跡である。不明瞭であるが爪痕がみられる。5は見野古墳群6号墳石室内出土須恵器環の内面に付いたネコの足跡である。爪痕がなく、3同様に2つの足跡が重なっていることからネコの足跡とできる。この場合は左前肢と左後肢であろう。須恵器環の時期は6世紀末～7世紀初頭である。6は熊ヶ追2号窯跡から出土した須恵器環蓋内面に付いたイヌの足跡である。明瞭に付いた爪痕、縦長であることからイヌの足跡と判断できる。須恵器の時期は8世紀後半～9世紀初めである。7は湯築城跡出土の土師質土器皿の内面に付いたネコの足跡である。爪痕がなくネコと判断できる。土器の時期は15～16世紀である。

以上の類例の比較からいくつかの点について検討してみたい。爪を収納して歩くネコも軟弱な場所を歩くときには爪痕が付くとされるが、2・5の例を見る限り、生乾きの土器をネコが踏んでも爪痕は付かないことがわかる。足跡の大きさはイヌが長さ5.0～5.4cm、幅3.2～4.8cm、6はやや小型で長さ3.5cm、幅3.2cmである。日本に生息するイヌは、縄文時代～中世まで、柴犬ほどの小型犬が主で、弥生時代以降中型犬が入ってくるとされ、3・4は中型犬以上、6は小型犬のものであろう。ネコは長さ2.6～3.0cm、幅2.5～3.0cmである。北ノ内遺跡の獣足跡は長さ3.8cm、幅4.0cmで中型犬と小型犬・ネコの間である。

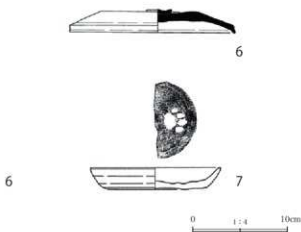
また実際の足の大きさは須恵器の焼成による収縮率を82%とすると、イヌは長さ4.3～6.6cm、幅3.9～5.9cm、ネコは長さ3.1～3.6cm、幅3.0～3.6cmとなる。北ノ内遺跡例は長さ4.6cm、幅4.8cmである。現生のものの足跡の大きさは、イヌは中型犬4.5cm前後、小型犬3.5cm前後、タヌキ4.0cm前後、ネコ3.0cm前後とされる。しかしこれは個体差が大きく、また焼成による収縮率も一律ではないだろうから土器に付いた足跡と必ずしも一致しないと考えられる。以上の比較からも北ノ内遺跡獣足跡はタヌキの可能性が高い。



第286図 獣足跡の確認された遺跡



第287図 獣足跡の類例(1)



第 288 図 獣足跡の類例 (2)

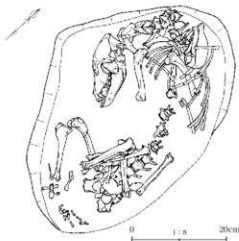
第 80 表 獣足跡の類例一覧表

No	遺跡名	位置	出土遺構	種別	時期	跡のつれた場所	獣の種類	足跡の大きさ	備考	文献
	北ノ内遺跡 (2次調査)	栃木県芳賀郡市貝町	SI-21	須恵器 环蓋	8世紀 中葉	内面	タヌキ	長：3.8 幅：4.0		
1	柳之御所跡	岩手県西磐井郡平泉町	堀内部地区	土師質 土器皿	中世 (12世紀後半)	内面	イヌ		裏底面にスノコ痕あり。 縦文でありネコとするが、爪痕が明確にみられることからイヌの足跡と考えられる。	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第 288 集『柳之御所跡 一宮遊水池事業・平泉ハイパス建設関連第 21・23・28・31・36・41 次発掘調査報告』
2	柳之御所跡	岩手県西磐井郡平泉町	堀内部地区	土師質 土器皿	中世 (12世紀後半)	内面	ネコ		前後および前後の2カ所。 裏底面にスノコ痕あり。	1と同じ。
3	平方遺跡	滋賀県長浜市	竪穴住居		縄文時代後期	住居跡 床面	イヌ	長：5.0 幅：4.8	爪痕らしきものが前部にみられる。	岡村高明「長浜市内の平方遺跡からの食肉類足印・ほか」長浜市教育委員会 2000 長浜市埋蔵文化財調査資料 第 38 集『松ノ木塚古墳 四ツ塚古墳 福満寺遺跡 平方遺跡』
4	平方遺跡	滋賀県長浜市	竪穴住居		縄文時代後期	住居跡 床面	イヌ	長：5.4 幅：3.2	やや細長く変型している。 爪痕らしきものがみられる。	3と同じ。
5	見野古墳群 6号墳	兵庫県姫路市	東石室	須恵器 环	6世紀末～ 7世紀初頭	内面	ネコ	長：3.0 幅：3.0	前後および前後の2カ所。	丸山直史・馬場 基・松井 章「須恵器に残された動物の足跡」2011 姫路市見野古墳群発掘調査報告『立命館大学文学部学芸員課程研究報告 第 13 冊』
6	熊ヶ追2号遺跡	広島県三原市	竪	須恵器 环蓋	8世紀後半～ 9世紀初め	内面	イヌ	長：3.5 幅：3.2	爪痕あり。	財団法人広島県埋蔵文化財調査センター 1996 広島県埋蔵文化財センター調査報告書 第 139 集『熊ヶ追第 1～3号遺跡 熊谷かんがが・排水事業 (三河地区) に係る発掘調査』
7	湯築城跡	愛媛県松山市	表土下焼土層	土師質 土器皿	中世 (15世紀～ 16世紀)	内面	ネコ	長：2.6 幅：2.5		財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター 2002 埋蔵文化財発掘調査報告書 第 100 集『湯築城跡 道後公園埋蔵文化財調査報告書 第 5 分冊』

タヌキの生態

タヌキはイヌ科に属し、イヌ・オオカミ・キツネの仲間である。インドシナ半島の北部から中国、朝鮮半島を経てウスリー・アムール川流域の東アジアに分布している。地域によって亜種が知られ、北海道にエゾタヌキ、本州・四国・九州にホンドタヌキが生息している。イヌ科でありながら、体は丸みを帯びて走ることは得意としない。歯は肉食に適応した発達をせず、雑食である。このためタヌキは原始的な動物だとされている。森林の林縁部を中心に生活するため、人との接触は多い。雑食性と子育てのための特別な巣穴を必要としないこと等から都市化にも強い。

タヌキは特定のメンバーと餌場やタメ糞を共有して生活し、日没前後と日の出前後に活発に活動する。繁殖期は3月頃で5月頃に子が生まれる。夏には子も親と変わらない大きさとなり、連れだって餌を探ようになる。この頃が最も活動的な季節で、須恵器の足跡の主も夏毛であることから、この時期に連れだって里近くを餌を探して歩き回っていたのかもしれない。



第289図 埋葬されたイヌ
縄文時代後期（宮城県田橋貝塚）

歴史上のイヌ・ネコ・タヌキ

イヌは縄文時代早期から存在が確認され、埋葬された例も多いことから、早い段階から家畜化されていたと考えられている。ネコは縄文時代中期からヤマネコが確認され、野生のものが存在した。イエネコは奈良時代に大陸から渡来したとされ、平安時代には貴族の愛玩動物として日記や物語、絵画資料に登場する。室町時代には庶民の間でもネコを飼うことが広まり、これが山野に逃れてノラネコが増えた。イエネコはヤマネコより体格が小さく、見野古墳群6号墳はイエネコのもと考えられる。奈良時代以前からイエネコが渡来していた可能性が高い。

一方タヌキは縄文時代早期から確認される。遺跡出土獣骨の統計では、圧倒的に多く利用されているシカ・イノシシに比べて極少量で、ウサギやアナグマに近い出土量を示す。人口の増加によってシカ・イノシシが枯渇したとされる縄文時代前期の三内丸山遺跡では、替わってウサギが多量に消費されるがタヌキは消費されない（新美2010）。食糧資源としては重視されないことがわかる。現在でもタヌキは臭みが強く食用に適さないとされる。

イヌやネコが文献記録に頻繁に登場するのと違い、タヌキはほとんど登場しない。『和名類聚抄』では「狸」「多奴木、鳥を良く捕る者」とし、「貉」「無之奈、狐に似て善く睡る」とする。「狸」はネコのことであり、「貉」はタヌキを指すと考えられる。「狸」がタヌキを指すのは中世以降とされ、『和漢三才図会』（1712）では「狸（たぬぎ）=野猫=タヌキとする。

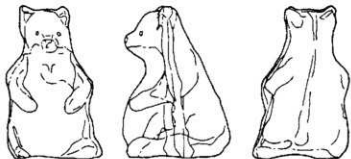
タヌキに関する考古遺物は非常に少ない。近世の泥人形に僅か



第290図 絵画に描かれたネコ
平安時代（『鳥獣戯画』甲巻）



第 291 図 『和漢三才図会』のタヌキ



第 292 図 狸形の泥人形（東京大学構内遺跡工学部 14 号館地点）S=1/1

に類例が見いだせる。第 292 図は東京大学構内遺跡工学部 14 号館地点から出土した狸形の泥人形で、高さ 8.1cm、幅 5.1cm、厚さ 5.9cm である。前後 2 枚の型を使用した型押し成形で、中空である。素焼色、赤褐色を呈し、大きな腹部が狸らしさを出している。1800～1860 年の製作と考えられる。千代田区神田須田町に現存する柳森神社はおためき様と呼ばれ、親子狸の人形をお守りとして授与している。報告書ではこの親子狸である可能性を指摘している。また今戸人形にも狸型の人形があるとされ、タヌキが近世になって民衆から愛される存在となったことがうかがえる。このほか信楽焼の狸は、戦後に考案され広まったものである。古代・中世にほとんど記録に登場しないタヌキが、近世になって強く認識されるようになったのは、人の活動領域拡大と自然への干渉と無縁ではないだろう。同様に、須恵器についたタヌキの足跡は、古代の人々の生産活動と自然環境の関わり合いを物語るように思う。

須恵器製作と獣足跡

地方窯での須恵器生産は食料生産との兼業で、作業は農閑期に行われたと考えられている（中村 1980）。しかし北ノ内遺跡獣足跡は先に述べたとおり夏期に付けられたものの可能性がある。肉球が生乾きの須恵器に押しつけられ引き剥がされたいわば接着痕跡がはっきりとみて取れるが、毛の痕跡は全くみられず、夏毛の可能性が指摘できるためである。ただし、夏毛と冬毛で足跡にどの程度差が生じるのか、須恵器の堅さによって付き方に差が生じるのかといった点は疑問があり、現生種からサンプルをとって比較するといった検証が必要であることを断っておく。

参考文献

- 池田 啓 1985 「狸」と「タヌキ」『月刊文化財』267 号
 岩本佳子 2010 「須恵器の胎の用途についての一考察」『愛知県陶磁資料館研究紀要』15
 熊谷さとし 2008 『動物の足跡学入門』技術評論社
 熊谷さとし・安田 守 2011 『哺乳類のフィールドサイン観察ガイド』文一総合出版
 小松茂美編 1987 『日本の絵巻 6 鳥獣人物戯画』中央公論社
 子安和宏 1993 『フィールドガイド足跡図鑑』日経サイエンス社
 小宮輝之 2013 『哺乳類の足型・足跡ハンドブック』文一総合出版
 寺島良安編 1970 『和漢三才圖会【上】』東京美術
 東京大学埋蔵文化財調査室 2006 『東京大学本郷構内の遺跡 工学部 14 号館地点』
 中村 浩 1980 『須恵器』ニューサイエンス社
 新美倫子 2010 「高麗類相の変遷」『縄文時代の考古学 4』同成社
 松井 章 2008 『動物考古学』東京大学出版会
 宮城県教育委員会・建設省東北地方建設局 1986 『田柄貝塚 I 遺構・土器編』

写 真 图 版



遺跡遠景（南から）



遺跡全景（南から）



西区全景



東区全景



SI-1・29 完掘 (北西から)



SI-1 完掘 (西から)



SI-1 カマド完掘 (西から)



SI-1 P2 周辺遺物出土状況 (南西から)



SI-1 カマド周辺遺物出土状況 (西から)



SI-1 P5 完掘 (南西から)



SI-12 完掘 (南から)



SI-12 カマド完掘 (南東から)



SI-12 遺物出土状況 (東から)



SI-13 完掘 (南から)



SI-18 完掘 (南から)



SI-18 P3 周辺遺物出土状況 (南西から)



SI-19 完掘 (南から)



SI-19 カマド完掘 (南から)



SI-41 完掘 (南から)



SI-20 完掘 (南から)



SI-20 カマド完掘 (南から)



SI-20 P5 周辺遺物出土状況 (東から)



SI-23 完掘 (南から)



SI-23 遺物出土状況 (南から)



SI-27 完掘（北西から）



SI-27 カマド完掘（南西から）



SI-28 完掘（南東から）



SI-28 カマド完掘（南から）



SI-28 遺物出土状況（南西から）



SI-29 完掘（南から）



SI-30・31 完掘（西から）



SI-30 完掘（南西から）



SI-30 カマド完掘 (南西から)



SI-207 完掘 (南から)



SI-207 カマド完掘 (南から)



SI-207 遺物出土状況 (南西から)



SI-211 完掘 (南東から)



SI-211 カマド完掘 (南から)



SI-211 P1 白色粘土出土状況 (南から)



SI-212 完掘 (南から)



SI-212 カマド周辺遺物出土状況 (南西から)



SI-213 完掘 (南東から)



SI-213 カマド完掘 (南から)



SI-213 炭化材出土状況 (南から)



SI-2・3 完掘 (南から)



SI-4 完掘 (南西から)



SI-4 カマド完掘 (南西から)



SI-4 炭化材出土状況 (南西から)



SI-6 完掘（西から）



SI-6 北カマド完掘（南から）



SI-6 東カマド完掘（西から）



SI-7 完掘（南から）



SI-7 カマド完掘（南から）



SI-7 南壁遺物出土状況（北東から）



SI-8 完掘（南から）



SI-8 カマド完掘（南から）



SI-9 完掘 (南西から)



SI-9 北カマド完掘 (南から)



SI-9 東カマド完掘 (西から)



SI-10・40 完掘 (東から)



SI-11 完掘 (南から)



SI-11 カマド完掘 (南から)



SI-14 完掘 (南から)



SI-14 カマド完掘 (南から)



SI-14 遺物出土状況（北から）



SI-15 炭化材出土状況（南から）



SI-16 完掘（南から）



SI-16 カマド完掘（南から）



SI-16 炭化材出土状況（南から）



SI-17 完掘（南から）



SI-17 拡張前床面検出状況（南から）



SI-17 南壁遺物出土状況（西から）



SI-21 完掘 (南から)



SI-21 カマド完掘 (南から)



SI-21 P1 周辺遺物出土状況 (南から)



SI-22・23 完掘 (南から)



SI-22 完掘 (南から)



SI-22 カマド完掘 (南から)



SI-24 完掘 (南から)



SI-25 検出状況 (南西から)



SI-26 検出状況 (南から)



SI-31 完掘 (南から)



SI-31 拡張前床面検出状況 (南から)



SI-31 カマド完掘 (南から)



SI-32 検出状況 (南から)



SI-33 完掘 (北西から)



SI-34 完掘 (北から)



SI-200 完掘 (南から)



SI-200 カマド検出状況 (南から)



SI-201 検出状況 (南から)



SI-202 完掘 (南から)



SI-202 カマド完掘 (南から)



SI-202 カマド周辺遺物出土状況 (南東から)



SI-204～206 完掘 (南東から)



SI-204 完掘 (南から)



SI-204 カマド完掘 (南から)



SI-204 北東隅周辺遺物出土状況(南西から)



SI-204 紡錘車形土製品出土状況(北から)



SI-205 完掘(南から)



SI-205 カマド完掘(南から)



SI-206 完掘(南から)



SI-208 完掘(西から)



SI-208 北カマド完掘(南から)



SI-208 東カマド完掘(西から)



SI-209 完掘 (南から)



SI-209 カマド完掘 (南から)



SI-210 完掘 (西から)



SI-210 カマド完掘 (西から)



SI-214 完掘 (南から)



SI-214 カマド周辺遺物出土状況 (南西から)



SB-5 完掘 (南から)



検出面以下の基本層序 グリッド 19-65 付近 (北から)





SI-133



SI-134



SI-135



SI-183



SI-186



SI-187



SI-189



SI-1816



SI-1816



SI-191



SI-192



SI-208



SI-272



SI-272



SI-2911



SI-2913



SI-2910



SI-2912



SI-2913



SI-2910





SI-213 2



SI-213 3



SI-213 10



SI-213 4



SI-213 5



SI-2 1



SI-2 4



SI-2 5



SI-4 4



SI-4 6



SI-4 9



SI-4 7



SI-4 6 底部刺突



SI-4 10



SI-7 5



SI-6 土師器裏外面にみられる粉状圧痕



SI-9 鉄1



SI-8 4



SI-8 5



SI-9 2



SI-10-40 3



SI-10-40 3



SI-9 3



SI-17 鉄1



SI-17 鉄1



SI-177



SI-177



SI-175



SI-216



SI-214



SI-204 1



SI-204 14



SI-31 鉄1



SI-208 2



SI-208 2 墨書



SI-31 鉄1



SI-210 1



SI-210 2



SI-204 45 紡錘車形土製品



SI-204 45 紡錘車形土製品





遺跡遠景（南西から）



遺跡近景（北東から）



遺跡周辺の景観（南西を望む）



遺跡周辺の景観（西を望む）



遺跡周辺の景観（東を望む）



遺跡周辺の景観（北東を望む）



SI-6 完掘 (西から)



SI-6 カマド遺物出土状況 (北西から)



SI-6 貯蔵穴遺物出土状況 (北西から)



SI-20 完掘 (南から)



SI-20 遺物出土状況 (北から)



SI-20 遺物出土状況 (西から)



SB-5 完掘 (東から)



SB-17 完掘 (西から)



SB-21～24 完掘（東から）



SB-22 完掘（東から）



SE-29 遺物出土状況（南から）



SE-29 遺物出土状況（北から）



SE-29 セクション（南から）



SE-53 完掘（南から）



SD-30 遺物出土状況（南西から）



SK-18 完掘（西から）



SI-65 完掘 (東から)



SB-9・10・12・36 完掘 (東から)



SB-13・14 完掘 (西から)



SB-13・14 完掘 (南から)



SB-36 P4 遺物出土状況 (北から)



SB-36 P8 遺物出土状況 (南から)



SB-401 P11 古瀬戸入子出土状況 (南から)



SB-404・405、SA-408 完掘 (東から)



SB-400～405 など 完掘（南東から）



SB-409 P4 遺物出土状況（東から）



SB-411 完掘（北から）



SB-412・414～423、SA-413 完掘（北から）



SB-412・414～417、SA-413 完掘（北西から）



SB-414 完掘 (北から)



SB-416 P4 遺物出土状況 (南から)



SB-418 完掘 (東から)



SB-421・422 完掘 (北から)



SB-423 完掘 (東から)



SB-425 ~ 427 完掘 (北から)



SE-28 完掘 (西から)



SE-80 完掘 (南から)



SE-82 完掘 (南から)



SE-83 完掘 (南から)



SE-90 完掘 (南から)



SE-95 完掘 (南から)



SE-98、SK-97 完掘 (東から)



SE-115 セクション (南から)



SE-177 完掘 (南から)



SE-201 完掘 (南から)



SE-234 遺物出土状況（北東から）



SE-260 完掘（南から）



SK-21 完掘（東から）



SK-22 完掘（西から）



SK-23・170・171 完掘（南から）



SK-60 完掘（南から）



SK-116・117 完掘（東から）



SK-154 完掘（南から）



SK-158 完掘 (南から)



SK-164・166・167 完掘 (南東から)



SK-226～228 完掘 (西から)



SK-256 完掘 (東から)



SK-266・267 完掘 (南から)



SK-285 完掘 (南から)



SK-305 完掘 (東から)



SK-382 完掘 (南から)



SI-6 2



SI-6 3



SI-6 4



SI-6 5



SI-6 6



SI-6 4



SI-6 16



SI-6 7



SI-6 10



SI-6 12



SI-6 14



SI-6 16



SI-20 1



SI-20 2



SI-20 3



SI-20 4



SI-20 5



SI-20 6



SI-20 7



SI-20 8



SI-20 建物中央出土土器





SI-20 24



SI-20 25



SB-21 2



SB-21 2



SB-22 4



SB-22 4



SE-3 1



SB-24 5



SB-24 5



SE-3 2



SE-3 3



SE-3 6



SE-3 6



SE-3 5



SE-3 8



SE-3 8



SE-3 7

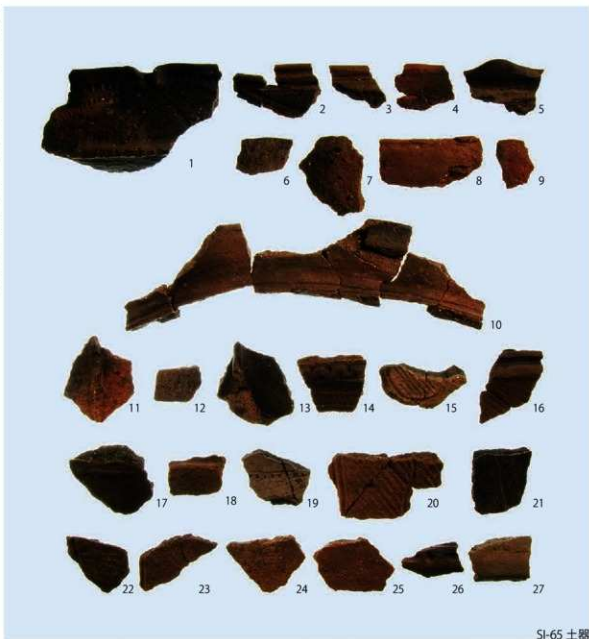


SE-29 3



SE-29 4





SI-65 土器







図版四一 星ノ宮遺跡 北調査区の遺物 鉄製品





星ノ宮遺跡出土土師質土器皿



星ノ宮遺跡出土陶磁器

報告書抄録

ふりがな	きたのうちいせき・すけごろうちいせき・ほしのみやいせき
書名	北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡
副書名	農地整備事業（経営体育成型）小貝川沿岸2期地区における埋蔵文化財発掘調査
巻次	第2分冊
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第369集
編著者名	永井三郎
編集機関	公益財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒329-0418 栃木県下野市紫474番地 TEL 0285-44-8441
発行機関	栃木県教育委員会 公益財団法人とちぎ未来づくり財団
発行年月日	西暦 2014年3月26日（平成26年3月26日）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
助五郎内遺跡	市貝町文谷地内			36° 55' 83"	140° 10' 20"	20100430～ 20110330	4,700	農地整備事業（経営体育成型）
星ノ宮遺跡				36° 56' 61"	140° 10' 24"	20100430～ 20110330 20110701～ 20120330	11,100	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
助五郎内遺跡	集落	古墳時代 奈良時代 平安時代	掘立柱建物跡 4棟 竪穴建物跡 52軒 土坑 27基	土師器、須恵器、鉄製品、土製品	竪穴建物跡から大型の紡錘車型土製品が出土。
星ノ宮遺跡	集落	縄文時代 古墳時代 奈良時代 平安時代 中世 近世	掘立柱建物跡 40棟 竪穴建物跡 3軒 掘立柱柵跡 5列 方形竪穴 10基 井戸 24基 溝跡 4条 土坑 462基	縄文式土器、土師器、須恵器、陶磁器、瓦質土器、鉄製品、石製品	古墳時代後期の竪穴建物跡は焼失住居と考えられる。古瀬戸入子が出土。鎌倉期の遺構の存在が推測される。

要約	助五郎内遺跡	助五郎内遺跡は小貝川左岸の丘陵上に位置する古墳～平安時代の集落遺跡である。古墳時代は6世紀後葉～7世紀中葉まで安定的に経営され、停滞期を挟んで平安時代の9世紀中葉に急激に拡大した。9世紀後葉も集落のピークは続き、10世紀前半に終焉を迎える。9世紀中葉の竪穴建物跡から大型の紡錘車型土製品が出土している。
	星ノ宮遺跡	星ノ宮遺跡は小貝川左岸の丘陵上に位置する古墳時代、室町時代、江戸時代の集落遺跡である。古墳時代の竪穴建物跡は3軒が確認された。SI-20は焼失家屋と考えられ、祭祀用と思われる土器が出土した。室町～江戸時代の掘立柱建物は6期の変遷がみられるが、出土遺物から鎌倉時代に遡る遺構の存在が推測される。特に古瀬戸入子は全国的に見ても出土遺跡が限られており、当遺跡が中世小貝川流域において一定の役割を果たしたことが考えられる。
	自然科学分析	星ノ宮遺跡出土の板材と北ノ内遺跡出土の貝類について分析した。板材は樹種同定の結果モミ属、放射性炭素年代測定の結果は13世紀末～14世紀初頭である。貝類はカワシンジガイと同定された。
	総括	北ノ内遺跡・北ノ内遺跡（2次調査）・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡について総括した。第1節で遺物の変遷、第2節で遺構の変遷を示した。第3節「北ノ内遺跡の建物群」では、北ノ内遺跡の2次調査で確認された掘立柱建物群と四面廂建物について検討し、遺跡の性格を豪族居宅と位置付けた。第4節「小貝川上流域における集落の動向と平安時代の開発」では、小貝川上流域における古墳～平安時代の集落遺跡を検討した。奈良時代に小貝川と支流の合流部で開発が行われ、平安時代に入ると小貝川沿岸の狭小な谷部にも開発の手が進められた。北ノ内遺跡はそれを主導した有力者の居宅であり、開発経営拠点と位置付けた。また「目」墨書土器が示す国司との関係は、国司が動農政策の一環として地域の開発経営拠点を訪れたものと考えた。第5節「北ノ内遺跡出土の須恵器にみられる軌足跡」では須恵器について軌足跡について検討し、タヌキのものである可能性が高いと判断した。

栃木県埋蔵文化財調査報告第 369 集

北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡

—農地整備事業（緑営体育成型）小貝川沿岸2期地区における埋蔵文化財発掘調査—

第 2 分冊

発 行 栃木県教育委員会

宇都宮市壺田 1-1-20

T E L 028 (623) 3425

公益財団法人とちぎ未来づくり財団

宇都宮市本町 1-8

T E L 028 (643) 1011

編 集 公益財団法人とちぎ未来づくり財団

埋蔵文化財センター

下野市紫 474 番地

T E L 0285 (44) 8441

発行日 平成 26 年 3 月 26 日発行

印 刷 株式会社 松井ビ・テ・オ・印刷
